

柏北部中央地区 埋蔵文化財調査報告書 10

— 柏市翁原遺跡(西側旧石器時代) —

令和6年3月

千葉県教育委員会

柏北部中央地区 埋蔵文化財調査報告書 10

かしわ おきなほら いせき
— 柏市翁原遺跡（西側旧石器時代） —



序 文

いにしえより温暖な気候に恵まれた千葉県には、先人たちの生活の痕跡などが埋蔵文化財包蔵地（遺跡）として数多く残されています。これらの埋蔵文化財は県民共有の財産として、地域の歴史や文化の解明に欠かすことのできない貴重なものです。

千葉県教育委員会では、埋蔵文化財の保護と各種開発事業との調整、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の普及などを目的とした諸活動に加え、千葉県が行う開発事業に係る埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査や調査成果の整理、報告書の刊行について実施しております。

本書は、千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第53集として、柏北部中央地区土地区画整理事業に伴って実施した柏市翁原遺跡の発掘調査報告書です。今回の調査では、旧石器時代のナイフ形石器、尖頭器などの石器製作跡をはじめ、長期間にわたる様々な人々の営みの跡が検出されました。既に調査報告第46集として報告した柏市内山遺跡などの周辺遺跡の調査成果と合わせ、当地域における各時代の様相や変遷などを知る上での貴重な資料を得ることができました。

刊行に当たり、本書が学術資料としてだけでなく、郷土の歴史に対する理解を深めるための資料として多くの方々に広く活用されることを期待しております。

最後に、発掘調査から整理作業を通じ、地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係諸機関には多大なご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

令和6年3月

千葉県教育庁教育振興部
文化財課長 稲村 弥

凡 例

- 1 本書は、千葉県県土整備部市街地整備課による柏北部中央地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書は、下記遺跡における西側旧石器時代の調査成果を収録したものである。
翁原遺跡 柏市十余二字翁原348-50ほか（遺跡コード217-036）
なお、第1章第1節でも記しているが、第1次からの各調査地点の表記は、第1次は（1）のように略号で記し、遺構番号の前に各調査地点の略号を付している。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県県土整備部の委託を受け、平成24年度まで公益財団法人千葉県教育振興財団が実施し、平成25年度からは千葉県教育庁教育振興部文化財課が実施した。
- 4 調査組織及び発掘調査と整理作業の期間・担当者等は、第1章第1節に記載したとおりである。
- 5 本書の執筆・編集は、主任上席文化財主事 田島 新が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県県土整備部市街地整備課、同柏区画整理事務所、柏市教育委員会ほか諸機関及び多くの方々から御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地図の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標で、図面の方位はすべて座標北である。
- 8 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
第1図 柏市都市計画課発行 1/2,500 都市計画地図「11・17」平成5年3月修正測量を編集
第2図 千葉県県土整備部発行 1/1,000を編集
第3図 国土地理院発行 1/25,000 地形図「流山」平成22年8月発行を編集
第4図 地図史料編纂会編 明治前期 関東平野地誌図集成 1/25,000「流山」を編集
- 9 図版1の航空写真は、国土地理院空中写真 CKT792-C9-49（昭和54年10月撮影）を使用した。
- 10 挿図・表に使用した記号の用例は、次のとおりである。
石材：黒曜石（OB）、メノウ（CC）、頁岩（SH）、黒色頁岩（BS）、粘板岩（SL）、蛇灰岩（OC）、水晶（CY）、ガラス質黒色安山岩（GA）、トロトロ石（TO）、流紋岩（RH）、チャート（CH）、ホルンフェルス（HO）、凝灰岩（TU）、安山岩（AN）、砂岩（SA）
礫石材：チャート（CHR）、ホルンフェルス（HOR）、流紋岩（RHR）、砂岩（SAR）
- 11 図版のみの掲載の遺物については、図版中の個々の番号に対応しており、たとえば図版10-5のように表記している。
- 12 巻末に添付したCD-ROMには石器属性表が収録されている。CD-ROMのフォーマットはWindows,Macに対応する。ファイル形式はXLSおよびPDFである。

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査の概要	1
1	調査に至る経緯と経過	1
2	調査の方法と概要	1
第2節	遺跡の位置と環境	9
1	遺跡の位置と地形	9
2	周辺の遺跡	9
第2章	調査の成果	23
第1節	遺跡の概要	23
第2節	旧石器時代の遺構と遺物	23
1	第1文化層	27
2	第2文化層	27
3	第3文化層	106
4	第4文化層	125
5	第5文化層	144
6	第6文化層	172
7	時期不明	178
第3章	総括	192

報告書抄録

挿図目次

第1図	柏北部中央地区遺跡位置図	7	第2文化層		
第2図	確認グリッド配置・本調査範囲	8	第11図	63Z-Aブロック出土遺物分布(1)	31
第3図	翁原遺跡と周辺の遺跡	10	第12図	63Z-Aブロック出土遺物分布(2)	32
第4図	翁原遺跡と周辺の遺跡(迅速測図)	11	第13図	63Z-Aブロック出土遺物	32
第5図	基本層序	24	第14図	62CC-Aブロック出土遺物分布(1)	34
第6図	翁原遺跡(西側)遺物分布	25	第15図	62CC-Aブロック出土遺物分布(2)	35
第7図	翁原遺跡(西側)文化層別ブロック分布	25	第16図	62CC-Aブロック出土遺物(1)	36
第1文化層			第17図	62CC-Aブロック出土遺物(2)	37
第8図	65FF-Aブロック出土遺物分布(1)	28	第18図	62CC-Aブロック出土遺物(3)	38
第9図	65FF-Aブロック出土遺物分布(2)	29	第19図	63CC-Aブロック出土遺物分布(1)	39
第10図	65FF-Aブロック出土遺物	30	第20図	63CC-Aブロック出土遺物分布(2)	40
			第21図	63CC-Aブロック出土遺物	41

第22図	64CC-Aブロック出土遺物分布	42	第59図	65Y-Aブロック出土遺物(10)	80
第23図	64CC-Aブロック出土遺物	42	第60図	65Y-Aブロック出土遺物(11)	81
第24図	63V-Aブロック出土遺物分布(1)	43	第61図	65Y-Bブロック出土遺物分布(1)	83
第25図	63V-Aブロック出土遺物分布(2)	44	第62図	65Y-Bブロック出土遺物分布(2)	84
第26図	63V-Aブロック出土遺物	45	第63図	65Y-Bブロック出土遺物(1)	85
第27図	64W-Aブロック出土遺物分布	46	第64図	65Y-Bブロック出土遺物(2)	86
第28図	64W-Aブロック出土遺物	46	第65図	65Y-Bブロック出土遺物(3)	87
第29図	64CC-Bブロック出土遺物分布	47	第66図	65Y-Bブロック出土遺物(4)	88
第30図	64CC-Bブロック出土遺物(1)	48	第67図	65Y-Bブロック出土遺物(5)	89
第31図	64CC-Bブロック出土遺物(2)	49	第68図	65Y-Bブロック出土遺物(6)	90
第32図	64CC-Cブロック出土遺物分布	51	第69図	65Y-Bブロック出土遺物(7)	91
第33図	64CC-Cブロック出土遺物	52	第70図	66Y-Aブロック出土遺物分布(1)	93
第34図	65CC-Aブロック出土遺物分布(1)	54	第71図	66Y-Aブロック出土遺物分布(2)	94
第35図	65CC-Aブロック出土遺物分布(2)	55	第72図	66Y-Aブロック出土遺物(1)	95
第36図	65CC-Aブロック出土遺物(1)	56	第73図	66Y-Aブロック出土遺物(2)	96
第37図	65CC-Aブロック出土遺物(2)	57	第74図	66Y-Aブロック出土遺物(3)	97
第38図	65CC-Aブロック出土遺物(3)	58	第75図	66Y-Aブロック出土遺物(4)	98
第39図	65CC-Bブロック出土遺物分布(1)	59	第76図	66X-Aブロック出土遺物分布	100
第40図	65CC-Bブロック出土遺物分布(2)	60	第77図	66X-Aブロック出土遺物	101
第41図	65CC-Bブロック出土遺物(1)	61	第78図	67BB-Aブロック出土遺物分布	102
第42図	65CC-Bブロック出土遺物(2)	62	第79図	67BB-Aブロック出土遺物	102
第43図	65CC-Bブロック出土遺物(3)	63	第80図	67BB-Bブロック出土遺物分布	103
第44図	66CC-Aブロック出土遺物分布	64	第81図	67BB-Bブロック出土遺物	104
第45図	66CC-Aブロック出土遺物	65	第82図	66GG-Aブロック出土遺物分布	105
第46図	66CC-Bブロック出土遺物分布	66	第83図	66GG-Aブロック出土遺物	105
第47図	66CC-Bブロック出土遺物	67	第3文化層		
第48図	65Y-Aブロック出土遺物分布(1)	69	第84図	67Z-Aブロック出土遺物分布	107
第49図	65Y-Aブロック出土遺物分布(2)	70	第85図	67Z-Aブロック出土遺物(1)	108
第50図	65Y-Aブロック出土遺物(1)	71	第86図	67Z-Aブロック出土遺物(2)	109
第51図	65Y-Aブロック出土遺物(2)	72	第87図	67Z-Bブロック出土遺物分布	110
第52図	65Y-Aブロック出土遺物(3)	73	第88図	67Z-Bブロック出土遺物	111
第53図	65Y-Aブロック出土遺物(4)	74	第89図	68AA-Aブロック出土遺物分布	112
第54図	65Y-Aブロック出土遺物(5)	75	第90図	68AA-Aブロック出土遺物	112
第55図	65Y-Aブロック出土遺物(6)	76	第91図	68AA-Bブロック出土遺物分布	113
第56図	65Y-Aブロック出土遺物(7)	77	第92図	68AA-Bブロック出土遺物(1)	114
第57図	65Y-Aブロック出土遺物(8)	78	第93図	68AA-Bブロック出土遺物(2)	115
第58図	65Y-Aブロック出土遺物(9)	79	第94図	67BB-Cブロック出土遺物分布	116

第95図	67BB-Cブロック出土遺物(1) ……117	第130図	63Z-Bブロック出土遺物分布(7) ……153
第96図	67BB-Cブロック出土遺物(2) ……118	第131図	63Z-Bブロック出土遺物分布(8) ……154
第97図	68BB-Aブロック出土遺物分布 ……119	第132図	63Z-Bブロック出土遺物分布(9) ……155
第98図	68BB-Aブロック出土遺物 ……119	第133図	63Z-Bブロック出土遺物分布(10) ……156
第99図	68BB-Bブロック出土遺物分布 ……120	第134図	63Z-Bブロック出土遺物分布(11) ……157
第100図	68BB-Bブロック出土遺物(1) ……121	第135図	63Z-Bブロック出土遺物分布(12) ……157
第101図	68BB-Bブロック出土遺物(2) ……122	第136図	63Z-Bブロック出土遺物(1) ……158
第102図	68BB-Cブロック出土遺物(1) ……123	第137図	63Z-Bブロック出土遺物(2) ……159
第103図	68BB-Cブロック出土遺物(2) ……124	第138図	63Z-Bブロック出土遺物(3) ……160
第104図	68BB-Cブロック出土遺物分布 ……124	第139図	63Z-Bブロック出土遺物(4) ……161
第4文化層		第140図	63Z-Bブロック出土遺物(5) ……162
第105図	64X-Aブロック出土遺物 ……125	第141図	63Z-Bブロック出土遺物(6) ……163
第106図	64X-Aブロック出土遺物分布 ……126	第142図	63Z-Bブロック出土遺物(7) ……164
第107図	64X-Bブロック出土遺物 ……127	第143図	63Z-Bブロック出土遺物(8) ……165
第108図	65X-Aブロック出土遺物 ……127	第144図	63Z-Bブロック出土遺物(9) ……166
第109図	64X-Bブロック出土遺物分布 ……128	第145図	63Z-Bブロック出土遺物(10) ……167
第110図	65X-Aブロック出土遺物分布 ……129	第146図	63Z-Bブロック出土遺物(11) ……168
第111図	66Y-Bブロック出土遺物分布(1) ……131	第147図	63Z-Bブロック出土遺物(12) ……169
第112図	66Y-Bブロック出土遺物分布(2) ……132	第148図	63Z-Bブロック出土遺物(13) ……170
第113図	66Y-Bブロック出土遺物(1) ……133	第149図	63Z-Bブロック出土遺物(14) ……171
第114図	66Y-Bブロック出土遺物(2) ……134	第6文化層	
第115図	66Y-Bブロック出土遺物(3) ……135	第150図	67Z-Cブロック出土遺物分布 ……173
第116図	66Y-Bブロック出土遺物(4) ……136	第151図	67Z-Cブロック出土遺物 ……174
第117図	67DD-Aブロック出土遺物分布 ……137	第152図	67BB-Dブロック出土遺物分布(1) 175
第118図	67DD-Aブロック出土遺物 ……138	第153図	67BB-Dブロック出土遺物分布(2) 176
第119図	66CC-Cブロック出土遺物分布(1) ……139	第154図	67BB-Dブロック出土遺物 ……177
第120図	66CC-Cブロック出土遺物分布(2) ……140	時期不明	
第121図	66CC-Cブロック出土遺物 ……141	第155図	67HH-Aブロック出土遺物分布 ……179
第122図	68Z-Aブロック出土遺物 ……142	第156図	67HH-Aブロック出土遺物分布(1) 180
第123図	68Z-Aブロック出土遺物分布 ……143	第157図	67HH-Aブロック出土遺物分布(2) 181
第5文化層		第158図	67HH-Aブロック出土遺物分布(3) 182
第124図	63Z-Bブロック出土遺物分布(1) ……147	第159図	67HH-Bブロック出土遺物分布 ……183
第125図	63Z-Bブロック出土遺物分布(2) ……148	第160図	67HH-Bブロック出土遺物 ……184
第126図	63Z-Bブロック出土遺物分布(3) ……149	第161図	63Y-Aブロック出土遺物分布 ……185
第127図	63Z-Bブロック出土遺物分布(4) ……150	第162図	63Y-Aブロック出土遺物 ……186
第128図	63Z-Bブロック出土遺物分布(5) ……151	第163図	64V-Bブロック出土遺物分布 ……187
第129図	63Z-Bブロック出土遺物分布(6) ……152	第164図	64V-Bブロック出土遺物 ……188

第165図	64V-Aブロック出土遺物分布	189	第167図	68EE-Aブロック出土遺物分布	190
第166図	64V-Aブロック出土遺物	190	第168図	単独出土遺物	191

表目次

第1表	翁原遺跡(1)～(72)調査一覧	2	第26表	68AA-Aブロック石器組成	111
第2表	周辺の遺跡概要一覧	18	第27表	68AA-Bブロック石器組成	113
第1文化層					
第3表	65FF-Aブロック石器組成	27	第28表	67BB-Cブロック石器組成	115
第2文化層					
第4表	63Z-Aブロック石器組成	31	第29表	68BB-Aブロック石器組成	118
第5表	62CC-Aブロック石器組成	33	第30表	68BB-Aブロック礫組成	118
第6表	63CC-Aブロック石器組成	37	第31表	68BB-Bブロック石器組成	120
第7表	64CC-Aブロック石器組成	38	第32表	68BB-Cブロック石器組成	124
第8表	63V-Aブロック石器組成	41	第4文化層		
第9表	64W-Aブロック石器組成	44	第33表	64X-Aブロック石器組成	125
第10表	64CC-Bブロック石器組成	50	第34表	64X-Bブロック石器組成	127
第11表	64CC-Cブロック石器組成	50	第35表	65X-Aブロック石器組成	127
第12表	65CC-Aブロック石器組成	53	第36表	66Y-Bブロック石器組成	134
第13表	65CC-Bブロック石器組成	58	第37表	67DD-Aブロック石器組成	138
第14表	66CC-Aブロック石器組成	61	第38表	66CC-Cブロック石器組成	139
第15表	66CC-Bブロック石器組成	63	第39表	68Z-Aブロック石器組成	142
第16表	65Y-Aブロック石器組成	81	第5文化層		
第17表	65Y-Bブロック石器組成	92	第40表	63Z-Bブロック石器組成	146
第18表	66Y-Aブロック石器組成	92	第41表	63Z-Bブロック礫組成	147
第19表	66X-Aブロック石器組成	99	第6文化層		
第20表	67BB-Aブロック石器組成	100	第42表	67Z-Cブロック石器組成	172
第21表	67BB-Bブロック石器組成	104	第43表	67BB-Dブロック石器組成	174
第22表	67BB-Bブロック礫組成	104	時期不明		
第23表	66GG-Aブロック石器組成	105	第44表	67HH-Aブロック石器組成	178
第3文化層					
第24表	67Z-Aブロック石器組成	106	第45表	67HH-Bブロック石器組成	181
第25表	67Z-Bブロック石器組成	110	第46表	63Y-Aブロック石器組成	184
			第47表	64V-Bブロック石器組成	186
			第48表	64V-Aブロック石器組成	189
			第49表	68EE-Aブロック礫組成	190

図版目次

- 図版1 翁原遺跡周辺航空写真
- 図版2 土層断面、第1文化層遺物出土状況、
第2文化層遺物出土状況(1)
- 図版3 第2文化層遺物出土状況(2)
- 図版4 第2文化層遺物出土状況(3)、
第3文化層遺物出土状況(1)
- 図版5 第3文化層遺物出土状況(2)、
第4文化層遺物出土状況(1)
- 図版6 第4文化層遺物出土状況(2)、
第5文化層遺物出土状況(1)
- 図版7 第6文化層遺物出土状況、時期不明
- 図版8 第1文化層出土遺物、
第2文化層出土遺物(1)
- 図版9 第2文化層出土遺物(2)
- 図版10 第2文化層出土遺物(3)
- 図版11 第2文化層出土遺物(4)
- 図版12 第2文化層出土遺物(5)
- 図版13 第2文化層出土遺物(6)
- 図版14 第2文化層出土遺物(7)
- 図版15 第2文化層出土遺物(8)
- 図版16 第2文化層出土遺物(9)
- 図版17 第2文化層出土遺物(10)
- 図版18 第2文化層出土遺物(11)
- 図版19 第2文化層出土遺物(12)
- 図版20 第2文化層出土遺物(13)
- 図版21 第2文化層出土遺物(14)
- 図版22 第2文化層出土遺物(15)
- 図版23 第2文化層出土遺物(16)
- 図版24 第2文化層出土遺物(17)
- 図版25 第2文化層出土遺物(18)
- 図版26 第2文化層出土遺物(19)
- 図版27 第2文化層出土遺物(20)
- 図版28 第2文化層出土遺物(21)
- 図版29 第2文化層出土遺物(22)
- 図版30 第2文化層出土遺物(23)
- 図版31 第3文化層出土遺物(1)
- 図版32 第3文化層出土遺物(2)
- 図版33 第3文化層出土遺物(3)
- 図版34 第3文化層出土遺物(4)
- 図版35 第3文化層出土遺物(5)
- 図版36 第3文化層出土遺物(6)
- 図版37 第3文化層出土遺物(7)
- 図版38 第4文化層出土遺物(1)
- 図版39 第4文化層出土遺物(2)
- 図版40 第4文化層出土遺物(3)
- 図版41 第4文化層出土遺物(4)
- 図版42 第4文化層出土遺物(5)、
第5文化層出土遺物(1)
- 図版43 第5文化層出土遺物(2)
- 図版44 第5文化層出土遺物(3)
- 図版45 第5文化層出土遺物(4)
- 図版46 第5文化層出土遺物(5)
- 図版47 第5文化層出土遺物(6)
- 図版48 第5文化層出土遺物(7)
- 図版49 第5文化層出土遺物(8)
- 図版50 第5文化層出土遺物(9)
- 図版51 第6文化層出土遺物
時期不明出土遺物(1)
- 図版52 時期不明出土遺物(2)
- 図版53 時期不明出土遺物(3)
- 図版54 時期不明出土遺物(4)、単独ブロック

【CD】

旧石器属性表

第1章 はじめに

第1節 調査の概要(第1～3図、第1表)

1 調査に至る経緯と経過

千葉県企業庁は、つくばエクスプレス(旧・常磐新線)の建設に関連して柏北部中央地区一体型土地区画整理事業を計画した。この計画の実施に先立って、平成7年5月に当事業地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会に提出された。千葉県教育委員会では現地踏査等の結果を踏まえ、平成9年3月に事業地内には埋蔵文化財の包蔵地12か所(面積483,480㎡)が存在する旨の回答を行った。この回答に基づき、埋蔵文化財の取扱いについて千葉県企業庁、千葉県教育委員会、柏市教育委員会の関係諸機関による協議を行った結果、可能な限り緑地として現状保存を図る一方、事業の性格上、現状保存及び計画変更が困難な地点については、やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなった。発掘調査は千葉県企業庁(平成18年度からは千葉県県土整備部)の委託を受け財団法人千葉県文化財センター(現・公益財団法人千葉県教育振興財団)が実施することとなった。なお、平成25年度からは県事業に係る発掘調査について県教育委員会が実施することとなった。

翁原遺跡(第1図、図版1)については、平成14年度から発掘調査を実施し、令和4年度末で第72次調査地点、223,524.8㎡が終了している。今回報告する内容は、西側で、(5)・(6)、(9)、(17)～(19)、(21)～(23)、(27)・(28)、(34)・(35)、(37)、(39)～(42)、(44)、(47)・(48)、(62)、(64)、(68)を対象としている。基礎整理である水洗注記作業は発掘調査と並行して実施し、平成28年度から本格的な整理作業を実施することとなり、令和5年度に発掘調査報告書を刊行する運びとなった。

各年度の調査範囲は第2図、調査組織及び担当者・期間・内容は第1表のとおりである。

2 調査の方法と概要

発掘調査にあたっては、公共座標系(平面直角座標系Ⅹ系)に基づくグリッド設定を行った。柏北部中央地区事業地全体を網羅するように40m×40mの大グリッドを設定し、名称は北から南へ1、2、3…、西から東へA、B、C…とし、Z以降はAA、BB、CC…と表記することとした。大グリッドは更に4m×4mの小グリッドに100分割し、北西隅を00、南東隅を99とした。これらを組み合わせて、翁原遺跡では66Y-33や63AA-50のように表記した。大グリッド起点の01A-00は、旧日本測地系座標(Tokyo Datum 9系 EPSG:30169)でX=-10,500m、Y=10,000m、世界測地系(JGD2011 EPSG:6677)でX=-10,145.2955m、Y=9706.8197mである。世界測地系への座標変換はWeb版 TKY 2 JGD ver.1.3.80を使用した。なお既に刊行されている柏北部中央地区事業の報告書は、座標を全て旧日本測地系座標で表記しているため、本報告書についても全て旧日本測地系座標で表記する。

上層の確認調査は重機を使用し、調査対象面積の10%を目安に、調査区の形状や地形に合わせて2m幅の確認トレンチを設定した。ただし、調査対象面積が1,000㎡以下の場合は、100%確認調査を実施した。確認調査の結果、遺構が複数検出され、遺構の広がりや想定される地点について本調査範囲を決定し本調査を実施した。ただし、遺構が単独で検出された場合や遺構の分布が散漫な場合は、その周辺を拡張し確認調査で終了した。本調査は重機で表土を除去し、包含層・遺構検出、精査、記録作成、写真撮影、遺物

第1表 翁原遺跡(1)～(72)調査一覧

【発掘調査】

次数	年度	事業名	調査期間	調査体制			担当者	対象面積	確認調査面積		本調査面積			
									上層 / 割合		下層 / 割合		上層	下層
									面積	割合	面積	割合		
(1)	平成14	柏北部中央地区 埋蔵文化財 調査委託(その4)	2003.2.17 ～ 2003.2.20	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 齋木 勝 所長 田坂 浩	上席研究員 久高将勝	590.84	60 / 10.2%	12 / 2.0%	0	0		
(2)	平成18	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2006.3.1 ～ 2006.3.22	財団法人千葉県 文化財センター	西部調査 事務所	調査部長 矢戸三男 所長 田坂 浩	上席研究員 土屋潤一郎	3,730	242 / 6.5%	125 / 3.4%	0	133		
(2)	平成19	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2007.4.6 ～ 2007.4.12	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査部長 矢戸三男 所長 及川淳一	主席研究員 池田大助	-	-	-	-	99		
(3)	平成19	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2007.8.20 ～ 2007.11.16	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査部長 矢戸三男 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 川島利道 主席研究員 川勝里文	8,054	920 / 11.4%	384 / 4.8%	0	1,275		
(4)	平成19	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2007.8.20 ～ 2007.10.4	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査部長 矢戸三男 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 柴田龍司 稲生一夫	7,229	723 / 10.0%	290 / 4.0%	0	0		
(5)	平成19	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2008.1.7 ～ 2008.3.28	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査部長 矢戸三男 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 兼副所長 池田大助 主席研究員 川島利道 主席研究員 柴田龍司	19,743	1,903 / 9.6%	680 / 3.4%	0	2,197		
(6)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その1)	2008.4.7 ～ 2008.5.20	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 川島利道	5,394	412 / 7.6%	228 / 4.2%	0	809		
(7)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.5.21 ～ 2008.7.4	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 川島利道	7,475	789 / 10.6%	392 / 5.2%	276	956		
(8)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.5.28 ～ 2008.6.30	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 沖松信隆	3,967	397 / 10.0%	112 / 2.8%	0	404		
(9)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.6.2 ～ 2008.7.30	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 石倉亮治	12,211	1,221 / 10.0%	388 / 3.2%	310	0		
(10)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託(埋蔵文化 財調査 その2)	2008.7.7 ～ 2008.7.11	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 川島利道	1,946	184 / 9.5%	40 / 2.1%	0	0		
(11)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.7.14 ～ 2008.7.30	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 川島利道	2,105	248 / 11.8%	164 / 7.8%	0	133		
(12)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.8.1 ～ 2008.8.22	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 石倉亮治	1,575	1,575 / 100.0%	32 / 2.0%	160	0		
(13)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.9.1 ～ 2008.9.17	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 川島利道	2,974	264 / 8.9%	88 / 3.0%	0	0		
(14)	平成20	公共つくばエクスプレ ス沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.9.18 ～ 2008.10.30	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 川島利道	1,870	863 / 46.1%	118 / 6.3%	0	154		
(15)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託(埋蔵文化 財調査その2)	2008.11.4 ～ 2008.12.9	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 川島利道	1,011	125 / 12.4%	68 / 6.7%	0	390		
(16)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.12.10 ～ 2008.12.25	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 川島利道	2,471	230 / 9.3%	32 / 1.3%	0	0		
(17)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2008.12.11 ～ 2009.1.7	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 石倉亮治	1,318	838 / 63.6%	28 / 2.1%	0	0		
(18)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2009.1.8 ～ 2009.2.6	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 石倉亮治	3,336	340 / 10.2%	136 / 4.1%	0	0		

次数	年度	事業名	調査期間	調査体制			担当者	対象面積	確認調査面積		本調査面積	
									上層 / 割合	下層 / 割合	上層	下層
(19)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2009.2.9 ～ 2009.3.27	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	主席研究員 石倉亮治	3,195	324 / 10.1%	128 / 4.0%	548	324
(20)	平成20	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その3)	2009.3.2 ～ 2009.3.23	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 大原正義 主席研究員兼所長 及川淳一	上席研究員 田井知二	2,379	216 / 9.1%	72 / 3.0%	0	0
(19)-2	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2009.4.6 ～ 2009.4.15	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	主席研究員 石倉亮治	-	-	-	-	467
(21)	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2009.4.6 ～ 2009.6.29	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	主席研究員 川島利道 上席研究員 沖松信隆	5,477.7	548 / 10.0%	228 / 4.2%	0	1,561
(22)	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2009.4.16 ～ 2009.5.22	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	主席研究員 石倉亮治	2,985.3	312 / 10.5%	108 / 3.6%	0	0
(22)-2	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2009.7.1 ～ 2009.8.28	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	主席研究員 川島利道	-	-	-	-	1,376
(23)	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2009.8.3 ～ 2009.8.6	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	上席研究員 猪鼻慎二	468	46 / 9.8%	20 / 4.3%	0	0
(24)	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2009.8.17 ～ 2009.8.28	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	上席研究員 猪鼻慎二	3,000	304 / 10.1%	102 / 3.4%	0	0
(25)	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2009.9.1 ～ 2009.9.29	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	主席研究員 川島利道	2,909	302 / 10.4%	140 / 4.8%	0	0
(26)	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2009.9.1 ～ 2009.9.29	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	上席研究員 柴田龍司	2,986	300 / 10.0%	206 / 6.9%	0	0
(27)	平成21	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2009.10.1 ～ 2009.11.4	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	主席研究員 川島利道	3,936	426 / 10.8%	160 / 4.1%	0	209
(28)	平成22	県単つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2010.4.6 ～ 2010.4.30	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	主席研究員 川島利道	2,091	209 / 10.0%	44 / 2.1%	0	0
(29)	平成22	県単つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2010.5.6 ～ 2010.6.9	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	主席研究員 川島利道	1,324	132 / 10.0%	89 / 6.7%	0	443
(30)	平成22	県単つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2010.6.10 ～ 2010.6.10	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	主席研究員 川島利道	1,580	70 / 4.4%	0 / 0.0%	0	0
(31)	平成22	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2010.8.25 ～ 2010.9.10	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	主席研究員 川島利道	330	330 / 100.0%	30 / 9.1%	0	0
(32)	平成22	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2011.2.1 ～ 2011.2.8	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	主席研究員 川島利道	3,290	329 / 10.0%	24 / 0.7%	0	0
(33)	平成22	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2011.3.3 ～ 2011.3.28	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	主席研究員 川島利道	4,176	432 / 10.3%	160 / 3.8%	0	754
(34)	平成23	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2011.4.7 ～ 2011.5.12	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	主席研究員 川島利道	1,099	106 / 9.6%	100 / 9.1%	0	566
(35)	平成23	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2011.7.26 ～ 2011.8.11	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	主席研究員 川島利道	440	440 / 100.0%	49 / 11.1%	0	0
(36)	平成23	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2011.12.1 ～ 2011.12.2	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	上席研究員 岸本雅人	285	28 / 9.8%	8 / 2.8%	0	0
(37)	平成23	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2012.2.1 ～ 2012.3.2	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	上席研究員 岸本雅人	2,729	264 / 9.7%	80 / 2.9%	0	225

次 数	年 度	事 業 名	調査期間	調 査 体 制			担 当 者	対 象 面 積	確 認 調 査 面 積		本 調 査 面 積	
									上 層 / 割 合	下 層 / 割 合	上 層	下 層
(38)	平成23	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2012.3.5 ～ 2012.3.12	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	上席研究員 岸本雅人	1,646	174 / 10.6%	40 / 2.4%	0	0
(39)	平成23	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2012.3.13 ～ 2012.3.23	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 及川淳一 主席研究員兼所長 橋本勝雄	上席研究員 岸本雅人	2,232	260 / 11.6%	56 / 2.5%	0	0
(40)	平成24	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査その2)	2012.10.11 ～ 2012.11.20	財団法人千葉県 教育振興財団	西部調査 事務所	調査研究部長 関口達彦 課長 橋本勝雄	主任上席 文化財主事 田井知二	570	570 / 100.0%	23 / 4.0%	0	80
(41)	平成25	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2013.6.24 ～ 2013.8.31	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 湯浅京子 班長 蜂屋孝之	主任上席 文化財主事 田井知二	6,240	552 / 8.8%	164 / 2.6%	0	0
(42)	平成25	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2013.10.1 ～ 2013.11.29	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 湯浅京子 班長 蜂屋孝之	主任上席 文化財主事 香取正彦 田井知二	8,702	802 / 9.2%	268 / 3.1%	0	0
(42)-2	平成25	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2014.2.3 ～ 2014.3.7	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 湯浅京子 班長 蜂屋孝之	主任上席 文化財主事 田井知二	-	-	-	460	324
(43)	平成25	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2013.12.2 ～ 2014.3.25	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 湯浅京子 班長 蜂屋孝之	主任上席 文化財主事 香取正彦 田井知二	10,658	1,082 / 10.2%	426 / 4.0%	0	300
(44)	平成25	公共つくばエクスプレス 沿線整備委託 (埋蔵文化財調査)	2014.2.24 ～ 2014.2.28	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 湯浅京子 班長 蜂屋孝之	主任上席 文化財主事 田井知二	264	142 / 53.8%	8 / 3.0%	0	0
(41)-2	平成26	柏北部中央地区 土地画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2014.7.14 ～ 2014.9.29	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 永沼律朗 班長 蜂屋孝之	主任上席 文化財主事 田島 新	-	-	-	-	700
(43)-2	平成26	柏北部中央地区 土地画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2014.6.2 ～ 2014.6.13	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 永沼律朗 班長 蜂屋孝之	主任上席 文化財主事 鳴田浩司	-	-	-	-	130
(45)	平成27	柏北部中央地区 土地画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2015.9.1 ～ 2015.10.2	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 永沼律朗 班長 蜂屋孝之	主任上席 文化財主事 安井健一	1,750	180 / 10.3%	40 / 2.3%	190	0
(46)	平成27	柏北部中央地区 土地画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2015.9.18 ～ 2015.10.7	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 永沼律朗 班長 蜂屋孝之	主任上席 文化財主事 田井知二	310	310 / 100.0%	18 / 5.8%	0	81
(47)	平成29	柏北部中央地区 土地画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2017.10.2 ～ 2017.11.29	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 萩原恭一 班長 山田貴久	文化財主事 川田航平	3,500	350 / 10.0%	152 / 4.3%	0	268
(48)	平成29	柏北部中央地区 土地画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2018.2.20 ～ 2018.2.22	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 萩原恭一 班長 山田貴久	文化財主事 垣中健志	936	-	-	-	-
(49)	平成29	柏北部中央地区 土地画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2018.2.1 ～ 2018.3.9	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 萩原恭一 班長 山田貴久	文化財主事 川田航平 垣中健志	705	705 / 100.0%	64 / 9.1%	168	445
(50)	平成28	柏北部中央地区 土地画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2017.10.17 ～ 2018.1.13	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 永沼律朗 班長 田井知二	文化財主事 牧 武尊	3,528	353 / 10.0%	208 / 5.9%	0	966
(51)	平成30	柏北部中央地区 土地画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2018.5.10 ～ 2018.5.30	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 古泉弘志 班長 山田貴久	文化財主事 垣中健志	1,800	180 / 10.0%	92 / 5.1%	0	0
(52)	平成29	柏北部中央地区 土地画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2017.6.1 ～ 2017.6.20	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 萩原恭一 班長 山田貴久	上席文化財 主事 土屋潤一郎	1,200	158 / 13.2%	48 / 4.0%	41	36
(53)	平成30	柏北部中央地区 土地画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2018.6.4 ～ 2018.7.13	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 古泉弘志 班長 山田貴久	文化財主事 垣中健志	3,139	314 / 10.0%	144 / 4.6%	0	64
(54)	平成30	柏北部中央地区 土地画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2018.8.9 ～ 2018.9.18	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 古泉弘志 班長 山田貴久	文化財主事 川田航平 垣中健志	2,948	300 / 10.2%	150 / 5.1%	0	0
(55)	平成30	柏北部中央地区 土地画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2018.9.25 ～ 2018.10.17	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 古泉弘志 班長 山田貴久	文化財主事 川田航平	773	773 / 100.0%	32 / 4.1%	0	0

次数	年度	事業名	調査期間	調査体制			担当者	対象面積	確認調査面積		本調査面積	
									上層 / 割合	下層 / 割合	上層	下層
(56)	平成30	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2018.10.18 ～ 2018.11.29	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 古泉弘志 班長 山田貴久	文化財主事 川田航平	1,067	106 / 9.9%	156 / 14.6%	0	267
(57)	平成30	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2019.1.7 ～ 2019.1.18	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 古泉弘志 班長 山田貴久	文化財主事 垣中健志	894	90 / 10.1%	12 / 1.3%	0	0
(58)	平成30	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2019.1.21 ～ 2019.2.14	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 古泉弘志 班長 山田貴久	文化財主事 垣中健志	2,306	230 / 10.0%	92 / 4.0%	0	0
(59)	平成31	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2019.5.7 ～ 2019.7.2	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 大森けい子 班長 大内千年	主任上席 文化財主事 安井健一 上席文化財 主事 田井知二 文化財主事 渡邊 玲	1,874	200 / 0	72 / 3.8%	30	0
(60)	令和元	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2019.7.3 ～ 2019.9.30	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 大森けい子 班長 大内千年	上席文化財 主事 田井知二	4,601	460 / 10.0%	292 / 6.3%	45	308
(61)	令和元	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2020.1.7 ～ 2020.1.31	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 大森けい子 班長 大内千年	文化財主事 平原信崇	1,976	200 / 10.1%	124 / 6.3%	0	112
(62)	令和元	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2019.12.2 ～ 2019.12.25	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 大森けい子 班長 大内千年	主任上席 文化財主事 蜂屋孝之	4,245	468 / 11.0%	140 / 3.3%	135	0
(62)-2	令和元	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2020.2.3 ～ 2020.2.20	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 大森けい子 班長 大内千年	文化財主事 平原信崇	-	-	-	-	406
(63)	令和2	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2020.6.16 ～ 2020.6.26	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 田中文昭 班長 大内千年	上席文化財 主事 田井知二	1,707	112 / 6.6%	24 / 1.4%	0	0
(64)	令和2	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2020.12.1 ～ 2020.12.23	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 田中文昭 班長 大内千年	文化財主事 小澤政彦	905	104 / 11.5%	36 / 4.0%	0	0
(65)	令和2	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2021.1.5 ～ 2021.2.16	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 田中文昭 班長 大内千年	文化財主事 菅澤由希	2,145	174 / 8.1%	76 / 3.5%	0	70
(66)	令和3	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2021.5.10 ～ 2021.7.9	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 田中文昭 班長 吉野健一	主任上席 文化財主事 落合章雄 文化財主事 村松裕南	1,793	364 / 20.3%	194 / 10.8%	0	0
(67)	令和3	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2021.7.12 ～ 2021.10.28	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 田中文昭 班長 吉野健一	主任上席 文化財主事 落合章雄 主任上席	7,446	2,023 / 27.2%	200 / 2.7%	331	0
(68)	令和3	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2021.11.1 ～ 2021.12.24	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 田中文昭 班長 吉野健一	文化財主事 落合章雄 文化財主事 久我谷漢太	1,676	162 / 9.7%	64 / 3.8%	0	0
(69)	令和3	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2022.1.6 ～ 2022.1.14	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 田中文昭 班長 吉野健一	文化財主事 久我谷漢太	177	-	8 / 4.5%	-	0
(70)	令和3	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2022.1.17 ～ 2022.2.21	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 田中文昭 班長 吉野健一	文化財主事 久我谷漢太	1,035	104 / 10.0%	40 / 3.9%	0	140
(71)	令和4	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2022.5.16 ～ 2022.7.14	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 金井一喜 班長 黒沢 崇	文化財主事 久我谷漢太 川部菜理	5,211	548 / 10.5%	208 / 4.0%	0	0
(72)	令和4	柏北部中央地区 土地区画整理事業 (埋蔵文化財調査)	2022.10.3 ～ 2022.11.18	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	発掘調査班	課長 金井一喜 班長 黒沢 崇	文化財主事 久我谷漢太	1,886	186 / 9.9%	66 / 3.5%	0	0
合 計								223,524.8	29,188	8,802	2,694	17,172

【整理作業】

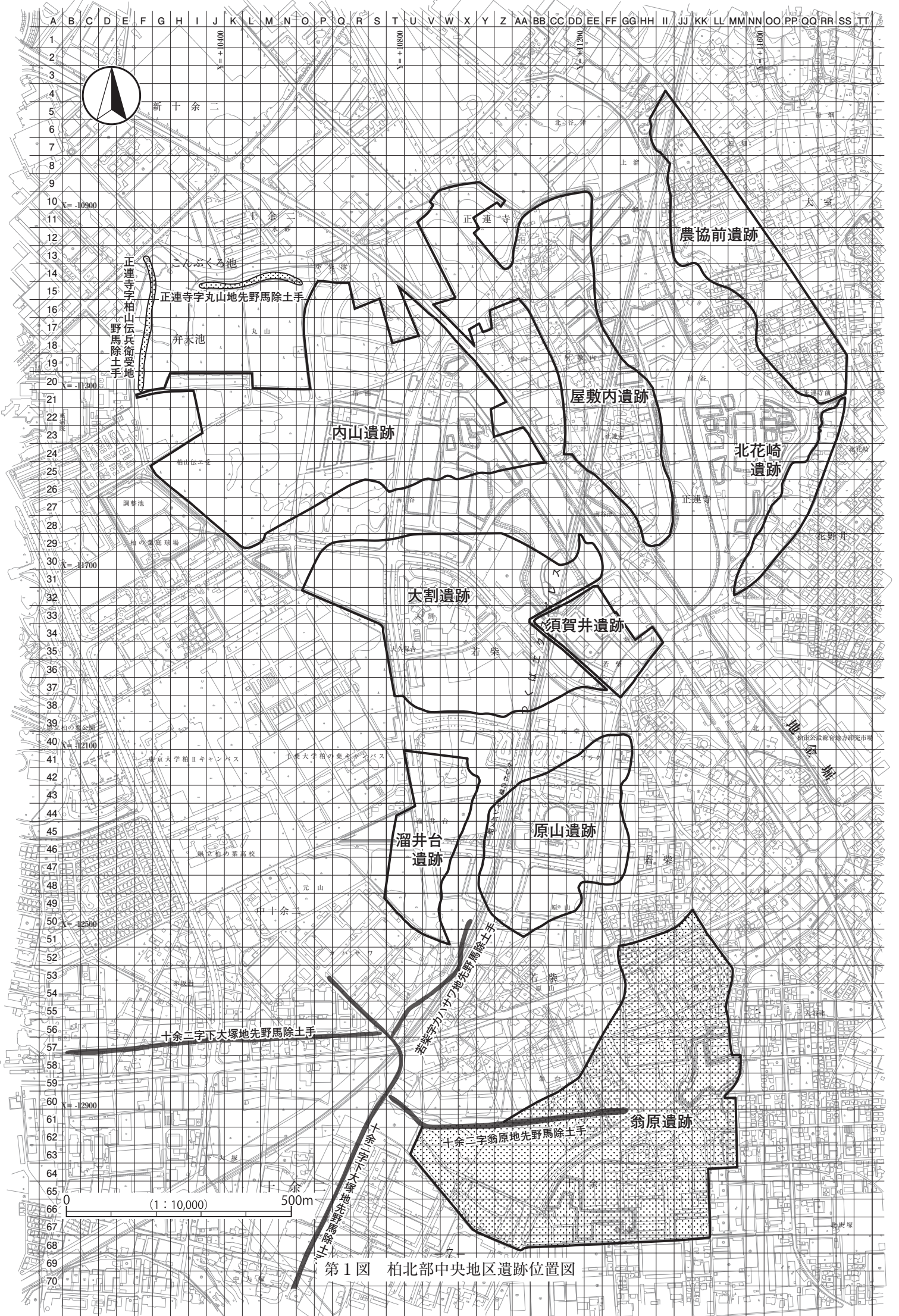
調査地点	年度	事業名	調査期間	調査体制			担当者	内容
(1)～(40)	平成14～24	柏北部中央地区埋蔵文化財調査委託ほか	-	財団法人千葉県文化財センター ほか	西部調査事務所 ほか	調査部長 齋木 勝 所長 田坂 浩 ほか	-	水洗・注記
(1)～(72)	平成28	柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2016.4.1～2017.3.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 永沼律朗 班長 田井知二	主任上席文化財主事 田島 新	水洗・注記の一部
	平成29	柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2017.4.1～2018.3.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 萩原恭一 班長 山田貴久	上席文化財主事 黒沢 崇 文化財主事 小澤政彦	水洗・注記の一部
	令和元	柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2019.4.1～2020.3.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 大森けい子 班長 大内千年	主任上席文化財主事 落合章雄 主任上席文化財主事 金丸 誠 文化財主事 渡邊 玲	(1)～(33) 記録整理の一部～分類接合の一部まで
	令和2	柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2020.4.1～2021.3.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 田中文昭 班長 大内千年	主任上席文化財主事 落合章雄 主任上席文化財主事 金丸 誠 文化財主事 渡邊 玲 文化財主事 横田真名望	(1)～(33) 記録整理の一部～実測の一部まで
	令和3	柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2021.4.1～2022.3.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 田中文昭 班長 吉野健一	文化財主事 小澤政彦 文化財主事 渡邊 玲 文化財主事 鈴木彩葉 文化財主事 横田真名望 文化財主事 倉橋裕真 文化財主事 久我谷漢太	(西側) 実測の一部～挿図作成の一部まで (東側) 実測の一部～挿図作成の一部まで
	令和4	柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2022.4.1～2023.3.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 金井一喜 班長 黒沢 崇	主任上席文化財主事 蜂屋孝之 主任上席文化財主事 田島 新	(西側) 実測の一部～挿図作成の一部まで (東側) 実測の一部 (66)～(70) 水洗・注記
	令和5	柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2023.4.1～2024.3.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 稲村 弥 班長 黒沢 崇	主任上席文化財主事 田島 新	(西側) 挿図作成の一部～報告書刊行まで (東側) 実測の一部～トレースの一部まで (71)・(72) 水洗・注記

取上げなどの作業を行った。

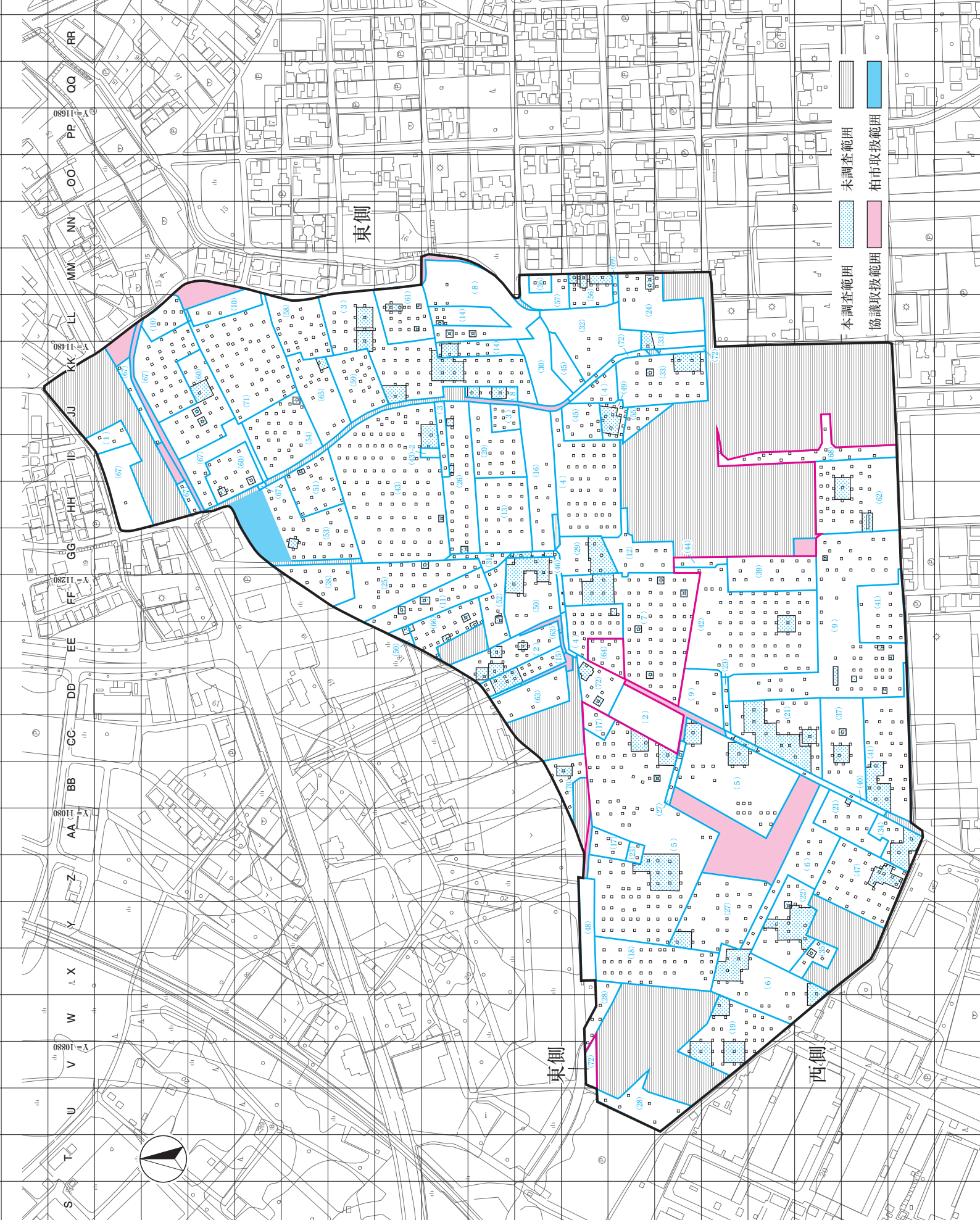
下層の確認調査は、調査対象面積の2%を目安に2m×2mの確認グリッドを設定した。石器が出土した場合は、出土地点の周辺に確認グリッドを追加し、または確認グリッドを拡張し石器の広がりを捉えて本調査範囲を決定した。ただし、上層確認調査と同様に石器の分布の広がりが認められなかった場合は、確認調査で終了した。本調査は重機で表土から石器が出土した層位に影響を及ぼさない深さまでローム層を除去し、石器集中地点の精査、記録作成、写真撮影、遺物取上げなどの作業を行った。なお、第69次調査では、ローム層まで削平されており、上層確認調査を実施することはできなかった。

発掘調査の記録作成は平板測量で行ったが、平成24年度に実施した第40次調査に際しては、遺構実測支援システム「遺構くん」を使用して行った。写真撮影はフィルムカメラ(35mmモノクロ、120mmモノクロ、35mmカラーリバーサル)を使用したが、平成24年度の第40次調査地点の調査からフィルムカメラ(120mmモノクロ、35mmカラーリバーサル)及びデジタルカメラ(RAW+JPEG)により実施した。下層調査に当たって、旧石器時代の遺物や帰属遺構が不明確なものについては、小グリッド単位で取り上げた。

報告書作成に当たって、旧石器時代の遺物については、63Z-67, 63のように小グリッド番号の後ろに取り上げ番号を付けて表記した。小グリッド単位で取り上げられていない遺物についても、整理作業段階で出土位置のXY座標に基づいて遺物番号を振り直した。

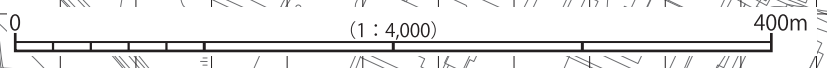


第1図 柏北部中央地区遺跡位置図



- 本調査範囲
- 協議取扱範囲
- 未調査範囲
- 柏市取扱範囲

R 第2図 確認グリッド配置・本調査範囲



第2節 遺跡の位置と環境(第3・4図、第2表、図版1)

1 遺跡の位置と地形

柏市は千葉県の北西部に位置し、北西は野田市、北東は利根川を挟んで茨城県、東は我孫子市と印西市、南に鎌ヶ谷市と白井市、西に松戸市と流山市に接し、面積約115km²、人口約42万人の県内2番目の中核市である。鉄道はJR常磐線及びつくばエクスプレス、東武アーバンパークラインが通り、公共交通による通勤・通学のアクセスが良好で、特に、つくばエクスプレスが開業した平成17年度以降は駅周辺に高層住宅や大規模商業施設などが建設され、良質な居住地域として注目を集め、人口の増加が顕著である。道路は常磐自動車道をはじめ国道6号や国道16号などの幹線道路が交差する交通の要衝であり、これらの幹線道路沿いにはいくつもの工業団地が立地し製造・物流の拠点となっている。

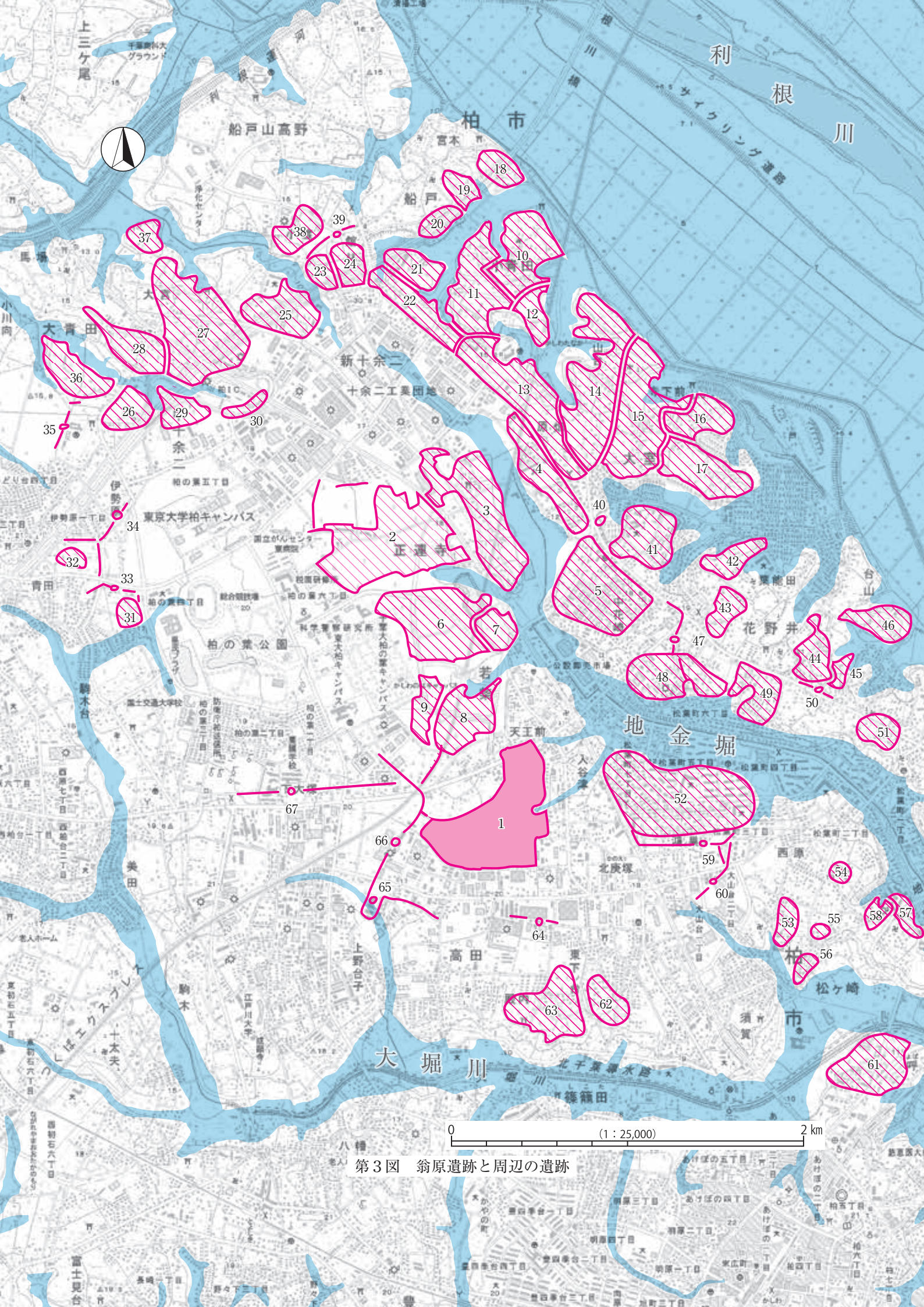
柏市周辺の地形は、下総台地の北西端にあたる利根川と江戸川に挟まれた、標高18m～29mの台地であり、利根川・手賀沼水系の大堀川・大津川と江戸川水系の坂川及び東京湾に注ぐ国分川・大柏川の分水界となっている。市内にはいずれも手賀沼水系で、北から地金堀、大堀川、大津川、「染井入り落とし」と呼ばれる河谷、「金山入り落とし」と呼ばれる河谷が流れ、更にそれらの支流などにより樹枝状に開析されている。柏北部中央地区が所在する柏市十余二、正連寺は、市北部の大堀川と地金堀に三方を囲まれた、標高が18m前後と比較的低く平坦な台地である。

翁原遺跡は事業地区の南寄りに位置し、南北側と東側は「こんぶくろ池」や「弁天池」を水源とする地金堀及び大堀川の支流により開析され、標高は高い所で22mほどで低地と5m前後の標高差がある。

2 周辺の遺跡

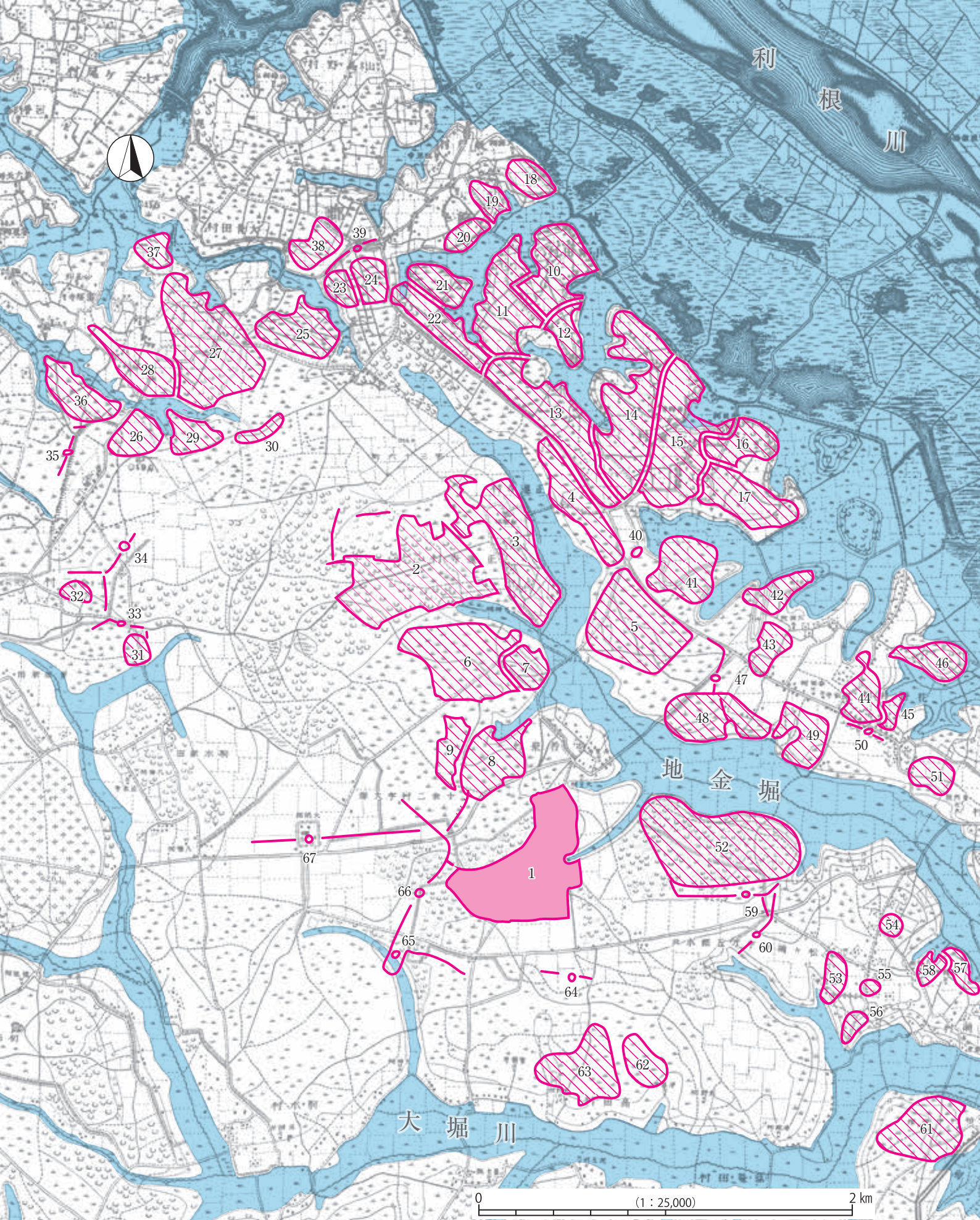
本遺跡<1>の周辺では、常磐自動車道路建設事業をはじめとして、現在進行中のつくばエクスプレス関連事業などに伴う大規模な発掘調査が行われ、その調査成果についても既に数多くの報告書が刊行されている。本遺跡を中心とした周辺遺跡の状況については、柏北部中央地区及び柏北部東地区に係る発掘調査報告書に詳細が記載されているので、ここでは時代ごとに特徴的な遺跡について記述することにし、周辺の遺跡の概要については第2表の一覧に記載した。なお、第3・4図の低湿地範囲は、明治前期の低湿地データ(国土地理院技術資料D1-No.633)を用いて明治前期の迅速測地形図(守谷・流山)をGISで幾何補正した後に、改めて低湿地範囲をトレースし作成した。遺跡範囲は、ふさの国文化財ナビゲーション(千葉県教育委員会2015)を基に、柏北部中央地区及び柏北部東地区に係る発掘調査報告書並びに柏市教育委員会による柏市市内遺跡発掘調査報告書などを参考に、迅速測地形図の地形に合わせて位置や形状を調整して作成した。

第3・4図の範囲は、概ね利根川・手賀沼水系の大堀川北岸および地金堀兩岸の台地にあたる。周辺の遺跡の分布は、本遺跡が立地する手賀沼水系の地金堀西岸の台地、地金堀を北上した大青田谷津周辺の台地、東に向かって利根川に面する地金堀東岸の台地に分かれる。また図の範囲外であるが大堀川を越えた南西の江戸川水系・坂川流域の台地にも遺跡が分布する。これらの遺跡の分布域は、それぞれ柏北部中央地区、常磐自動車道路、柏北部東部地区、流山新市街地地区及び流山運動公園周辺地区に相当する。これらの台地全域を覆うような大規模な開発事業に伴う発掘調査により、本地域の台地上の面的な遺跡の分布が明らかになっている。



第3図 翁原遺跡と周辺の遺跡

0 (1 : 25,000) 2 km



第4図 翁原遺跡と周辺の遺跡 (迅速測図)

旧石器時代 学史上著名な中山新田Ⅰ遺跡をはじめ、多くの石器群が検出されている。

立川ローム最下層であるⅩ層の石器群については、下総台地北西地域では類例が乏しい。地金堀東岸の富士見遺跡<11>第Ⅰ文化層は、出土層位はⅨc層下部であるが古相を示す石器群としてあげられる。基部にわずかな加工を施したナイフ形石器と局部磨製石斧に特徴づけられ、単独搬入された多様な珪質石材を用いる。

暗色帯最下部のⅩ層上部～Ⅸ層下部の石器群については、台形様石器と局部磨製石斧、周縁型による石刃生産とナイフ形石器、環状ブロックを特徴とする石器群が確認されている。地金堀西岸では、内山遺跡に連続する大割遺跡<6>第Ⅰ文化層、原山遺跡<8>第Ⅰ・Ⅱa文化層、また本遺跡でもⅨc層からまとまった資料が検出されている。大青田谷津周辺の中山新田Ⅰ遺跡<26>・聖人塚遺跡<29>などは指標的な石器群である。地金堀東岸では富士見町遺跡<11>第Ⅱ文化層・原畑遺跡<13>第Ⅰ文化層などがあげられる。石刃素材として高原山基盤岩などを多用する一方、信州産黒曜石などの遠隔地石材を利用するなど多様な石材が用いられる。

第二暗色帯中部のⅨ層上部～Ⅷ層の石器群については、台形様石器、小型の石刃生産とブランディング加工のナイフ形石器などを特徴とする石器群が確認されている。また、本遺跡では、Ⅸ層から信州産黒曜石を用いた石刃生産を示す良好な接合資料が出土している。地金堀西岸では原山遺跡第Ⅱb文化層、地金堀東岸では大松遺跡<12>第Ⅰ文化層・小山台遺跡第Ⅱ文化層<14>・矢船Ⅱ遺跡<22>第Ⅰ文化層などがあげられる。高原山産や黒産曜石や伊豆柏峠産などの黒曜石が用いられ、遺跡内で消費される。

第二暗色帯最上部のⅧ層～Ⅵ層の石器群については、ブランディング加工のナイフ形石器と「下総型石刃再生技法」と特徴とする石器群が確認されている。地金堀西岸では屋敷内遺跡<3>Ⅷ層文化層、原山遺跡第Ⅲ文化層、大青田谷津周辺では聖人塚遺跡<29>第Ⅲ文化層、地金堀東岸では駒形遺跡<10>第Ⅰ文化層・富士見遺跡第Ⅲ文化層・原畑遺跡第Ⅱ文化層・小山台遺跡第Ⅲ文化層・矢船Ⅰ遺跡<21>第Ⅰ文化層・矢船Ⅱ遺跡第Ⅱ文化層・館林Ⅱ遺跡<24>第Ⅲ文化層などがあげられる。聖人塚遺跡第Ⅲ文化層、富士見遺跡第Ⅲ文化層などの頁岩類の中～大型の石刃を用いる一群は古相を示し、館林(Ⅱ)遺跡第Ⅲ文化層や小山台遺跡第Ⅲ文化層などの黒曜石製の小型ナイフ形石器や搔器を伴う一群は後出的な様相を示す。

AT上位のハードローム層下部のⅤ層～Ⅳ層下部の石器群については、角錐状石器や甲高な切出形ナイフ形石器を特徴とする石器群が確認されている。礫・礫群を伴う石器群が増加する。地金堀西岸では屋敷内遺跡Ⅳ～Ⅴ層文化層・原山遺跡第Ⅳ文化層・溜井台遺跡<9>第Ⅲ文化層、大青田谷津周辺では元割遺跡<30>No.2地点・聖人塚遺跡第Ⅱ文化層、地金堀東岸では駒形遺跡第Ⅱ文化層・富士見遺跡第Ⅳ文化層・原畑遺跡第Ⅲ文化層・小山台遺跡第Ⅳ文化層・矢船Ⅱ遺跡第Ⅲ文化層などがあげられる。高原山産黒曜石・黒色安山岩・頁岩などを多用する。

AT上位のハードローム上部以上の石器群については、ソフト化が進んでソフトロームに取り込まれるⅣ層からⅢ層中にかけて、「砂川期」およびナイフ形石器終末期に相当する石器群、有樋尖頭器石器群、細石刃石器群が確認されている。「砂川期」およびナイフ形石器終末期に相当する石器群は、全周加工の尖頭器や斜軸の柳葉形のナイフ形石器と礫群に特徴づけられる、地金堀東岸の小山台遺跡第Ⅴ文化層、上ゲ屋型彫器を特徴とする大松遺跡第Ⅱ文化層、有樋尖頭器石器群は、本遺跡の大量の礫群を伴う第Ⅴ文化層、内山遺跡<2>の第Ⅳ、第Ⅴ文化層で良好な接合資料を含む石器群がある。地金堀西岸の屋敷内遺跡Ⅲ～Ⅳ層文化層、地金堀東岸の駒形遺跡第Ⅲ文化層・原畑遺跡第Ⅳ文化層・矢船Ⅱ遺跡第Ⅳ文化層・館林Ⅱ遺

跡第5文化層がある。細石刃石器群については、屋敷内遺跡Ⅱ層～Ⅲ層上部文化層、小山台遺跡第6文化層・矢船Ⅱ遺跡第5文化層がある。

終末期石器群については、矢船Ⅱ遺跡第6文化層で神子柴・長者久保石器群が確認されている。

縄文時代 早期の遺構としては、炉穴や陥穴といったものが中心となるが、鵜ガ島台式期の駒形遺跡、鵜ガ島台式期～茅山下層式期の富士見遺跡、田戸下層式期～野島式期の小山台遺跡などはこの時期の数少ない集落跡として重要な存在である。これらの遺跡は、地金堀東岸の台地上にあり、集落跡は利根川から延びる小支谷を挟んで対峙するような位置関係にある。炉穴や陥穴などについては、調査面積の大小にも関係するが、地金堀西岸の大割遺跡<6>、大青田谷津の中山新田(Ⅰ)遺跡、聖人塚遺跡からまとまった数が検出されている。

前期は竪穴住居跡を中心とした遺構数が急増する。地金堀東岸では関山式期～黒浜式期の駒形遺跡、花積下層式期～黒浜式期の富士見遺跡、花積下層式期～黒浜式期の大松遺跡から大規模な集落が検出されている。3遺跡は利根川から延びる小支谷により樹枝状に開析された同一台地上に位置しており、特に、花積下層式期の竪穴住居跡は3遺跡で一つの集落を形成するよう見え、黒浜式期には竪穴住居跡が台地全体に拡大していくことから、この地域における拠点集落として存在していたものと思われる。この3遺跡以外では、地金堀西岸では黒浜式期の屋敷内遺跡・原山遺跡、地金堀東岸では黒浜式期の原畑遺跡・田中小遺跡<41>・上前留遺跡<48>、黒浜式期～浮島式期の小山台遺跡・花前(Ⅰ)遺跡<18>、黒浜式期～興津式期の矢船(Ⅰ)遺跡、黒浜式期～諸磯式期の鴻ノ巣遺跡<52>で竪穴住居跡が検出されている。竪穴住居跡は検出されていないが、地金堀東岸の原遺跡<44>から黒浜式期～諸磯式期の土坑群が検出されている。これらは集落としての規模は小さく、先に述べた拠点集落の周縁に存在する短期的な小集落と考えられる。

中期は、地金堀東岸の大松遺跡<12>で五領ヶ台式期～加曾利E式期の竪穴住居跡が多数検出され、前期から引き続いて集落を形成している。小支谷を挟んで対峙する小山台遺跡でも阿玉台式期～加曾利E式期の竪穴住居跡が多数検出され、2か所の環状集落が存在していたことが明らかになり、大松遺跡とともに当該時期の拠点集落を形成していたものと思われる。小規模な集落としては、地金堀東岸では阿玉台式期の寺下前遺跡<15>・田中小遺跡、阿玉台式期～中峠式期の原畑遺跡、加曾利E式期の原遺跡、大青田谷津周辺では阿玉台式期の中山新田(Ⅱ)遺跡、阿玉台式期～中峠式期の水砂遺跡<25>・聖人塚遺跡、阿玉台式期～加曾利E式期の中山新田(Ⅰ)遺跡などがあげられる。田中小遺跡の放射状に並ぶ掘立柱建物跡と柱穴列の存在が注目される。これらの遺跡は、前期と同様に拠点集落の周縁に存在する短期的な小集落と考えられる。

後期になると遺跡の数は激減し、拠点集落もなくなり、駒形遺跡・富士見遺跡・花前(Ⅰ)遺跡・花前(Ⅱ)遺跡・中山新田(Ⅰ)遺跡で堀之内式期を中心とした竪穴住居跡が1～2軒検出されるにとどまっている。

晩期については、遺物は出土しているものの、遺構の存在は明らかではない。

弥生時代 周辺地域では前期・中期に属する遺構が検出された遺跡はなく、後期も極めて少ない。地金堀東岸で田中小遺跡、香取神社遺跡<49>、鴻ノ巣遺跡、大堀川を隔てて南の呼塚遺跡<61>などから竪穴住居跡が数軒検出されているだけである。これらの竪穴住居跡はいずれも北関東系の影響を受け、長岡式期や臼井南式期に属するものである。常磐自動車道路や柏北部中央地区・柏北部東地区といった広い範

囲を面的に発掘調査しているにも関わらず、これらの地区では明確な弥生時代遺構は検出されていない。

古墳時代 前期で注目されるのは、手賀沼に注ぐ大堀川下流の南岸の台地上にある呼塚遺跡から大規模な集落と規模150m×110mと推定される方形環濠が検出されたことである。呼塚遺跡は陸上・水上交通の要衝地にあり、方形環濠とそれに伴う布堀、大型竪穴住居、環濠内に東海系・畿内系・北陸系などの儀礼用の土器が多量に廃棄されていたことなどから、この地域における重要な拠点集落(首長居館)であった可能性が指摘されている。そのほかは地金堀東岸の田中小遺跡から小規模な集落、駒形遺跡・富士見遺跡・原遺跡・宿連寺遺跡<51>、地金堀西岸下流の八幡遺跡<54>から2～3軒の竪穴住居跡が検出されているだけである。

中期では呼塚遺跡で前期から引き続き拠点集落が存在していたものと思われる。この時期は竪穴住居跡が検出される遺跡が増加する傾向にあるが、後期に続かない遺跡が大部分である。地金堀東岸では駒形遺跡・富士見遺跡、矢船(Ⅱ)遺跡、田中小遺跡、大堀川北岸では殿内遺跡<63>などで小規模な集落が検出されている。

後期になると遺構が検出された遺跡は減少し、呼塚遺跡においても典型的な後期の土器を伴う竪穴住居跡は検出されていない。大青田谷津周辺の水砂遺跡<25>、地金堀東岸の尾井戸遺跡<42>から小規模な集落が検出されている。第3・4図の範囲外となるが、呼塚遺跡とは大堀川を挟んで東側に対峙する中馬場遺跡では古墳時代後期から集落が形成され、平安時代に最も規模が大きくなることが知られており、この時期に呼塚遺跡から中馬場遺跡へ拠点集落が移っていったものと思われる。

古墳は地金堀東岸の利根川を望む台地上に分布している。尾井戸遺跡<42>には墳丘は失われているが、土坑を埋葬主体とする6世紀前半の円墳がある。原遺跡には下総型円筒埴輪をもち、帆立貝式前方後円墳の可能性のある6世紀後半の「変則的古墳」がある。さらに東に行くと塚原古墳群<46>がある。

奈良・平安時代 奈良時代は、大青田谷津周辺で多くの遺跡が検出されている。花前(Ⅰ)遺跡<18>～花前(Ⅲ)遺跡<20>・館林(Ⅰ)遺跡・水砂遺跡・中山新田(Ⅰ)遺跡～中山新田(Ⅲ)遺跡から複数の竪穴住居跡が検出されており、水砂遺跡では掘立柱建物跡と小鍛冶跡も検出されている。また大堀川南岸の呼塚遺跡でも少数の竪穴住居跡が検出されている。

平安時代は、花前(Ⅰ)遺跡～花前(Ⅲ)遺跡からは、奈良時代に引き続いて10軒以上の竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが検出され、その中で、花前(Ⅱ)遺跡<19>では製錬炉・精錬炉が複数存在していることから、これらの3遺跡は製鉄と鉄製品の管理・供給地としての拠点集落であったと考えられている。また、地金堀西岸下流の鴻ノ巣遺跡では竪穴住居跡から鉄滓と馬形土製品が出土し、大堀川北岸の松ヶ崎泉遺跡<55>からは小鍛冶跡と思われる鍛冶炉をもつ竪穴住居跡が検出されるなど、この地域には製鉄関連遺構をもつ遺跡が多い。古墳時代の概要でも述べた中馬場遺跡は、160軒を超える竪穴住居跡が検出されており、古代東海道における下総国の駅路沿いの拠点集落であったと考えられる。

中・近世 中世は、地金堀西岸の須賀井遺跡<7>から台地整形区画や掘立柱建物跡などが検出されている。遺構の時期は14世紀～15世紀前半としている。また、掘立柱建物跡の規模などから屋敷跡ではなく「土坑墓・火葬墓を含む墓域や小屋・井戸などを伴う作業空間であった。」としている。屋敷内遺跡からは掘立柱建物跡や多数の溝からなる小規模な屋敷跡が検出されている。遺構の時期は15世紀後半～16世紀後半としている。利根川に面する地金堀東岸では中世の屋敷跡と考えられる堀込区画(台地整形区画)や竪穴状遺構などが検出された遺跡がいくつか存在している。富士見遺跡は遺構の時期としては15世紀前半

としている。また、その性格は「掘り込みを伴う『屋敷地』2か所と隣接する墓所からなる一単位の生活空間」であったとしている。小山台遺跡・寺下前遺跡・寺前遺跡でも台地整形区画や竪穴状遺構などが検出されている。これらの遺構は出土遺物は少ないが、古瀬戸後期様式(15世紀代)の期間に機能していたとされている。遺構の性格としては平行もしくは直交する堀や溝で区画された墓域、それに関係する非日常的な建物群、仮小屋や倉庫的な小屋などを想定している。なお、中馬場遺跡では土塁と堀・溝に区画された中に地下式坑や土坑などを伴う掘立柱建物群が複数検出され、前時代に引き続き古代東海道沿いの拠点集落であったと思われる。

近世は、地金堀西岸の屋敷内遺跡で中世末から継続する小規模な屋敷跡が検出されている。(27)SD-001は内山遺跡の(1)～(3)SD-001につながる溝と考えられる。須賀井遺跡でも小規模な屋敷跡が検出されている。地金堀東岸では、富士見遺跡で18世紀後半～19世紀前半を主体とする掘立柱建物跡や区画溝が、小山台遺跡から掘立柱建物跡や土坑墓などが検出されている。駒形遺跡・大松遺跡でも地下式坑などがわずかに検出されているが、調査面積に比べて希薄である。花前(Ⅲ)遺跡からは建物跡が検出され、17世紀後半～18世紀前半の肥前系唐津産陶器や18世紀代～19世紀代の肥前系染など多種多様な陶磁器、在地産の土器、キセル・包丁・刀子等の金属製品など多くの遺物が出土している。遺構の規模や出土遺物の内容などから、富裕農民層の屋敷跡と推定される。花前(Ⅰ)遺跡から17世紀中葉以降の屋敷跡が検出されている。寺前遺跡では18世紀代の掘立柱建物跡や井戸、区画溝が検出されている。近世の牧については、柏市周辺には上野牧と高田台牧が広がっており、本遺跡を含む柏北部中央地区の全ての遺跡が高田台牧の範囲内にある。

参考文献

- 文1 1997 『千葉県埋蔵文化財分布地図(1)－東葛飾・印旛地区(改訂版)－』千葉県教育委員会 財団法人千葉県文化財センター
- 文2 2003 『千葉県文化財センター年報No.27－平成13年度－』
- 文3 2007 『柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書1－柏市溜井台遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第585集
- 文4 2009 『柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書2－柏市原山遺跡－旧石器時代編』千葉県教育振興財団調査報告第631集
- 文5 2011 『柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書3－柏市農協前遺跡－旧石器時代編』千葉県教育振興財団調査報告第657集
- 文6 2012 『柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書4－柏市大割遺跡・須賀井遺跡－旧石器時代編』千葉県教育振興財団調査報告第692集
- 文7 2013 『柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書5－柏市原山遺跡－縄文時代以降編』千葉県教育振興財団調査報告第699集
- 文8 2016 『柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書6－柏市大割遺跡・農協前遺跡－縄文時代以降編』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第6集
- 文8 2016 『柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書6－柏市大割遺跡・農協前遺跡－縄文時代以降編』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第6集
- 文9 2017 『柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書7－柏市須賀井遺跡－縄文時代以降編』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第18集
- 文10 2008 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書1－柏市大松遺跡－旧石器時代編』千葉県教育振興財団調査報告第589集
- 文11 2009 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書2－柏市駒形遺跡－(縄文時代以降編1)』千葉県教育振興財団調査報告第616集
- 文12 2011 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書3－柏市原畑遺跡－(縄文時代以降編1)』千葉県教育振興財団調査報告

- 告第660集
- 文13 2011 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書4-柏市大松遺跡- 縄文時代以降編1』千葉県教育振興財団調査報告第666集
- 文14 2013 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書5-柏市駒形遺跡-(縄文時代以降編2)』千葉県教育振興財団調査報告第691集
- 文15 2014 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書6-柏市富士見遺跡- 縄文時代以降編1』千葉県教育振興財団調査報告第728集
- 文16 2015 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書7-柏市富士見遺跡- 縄文時代以降編2』千葉県教育振興財団調査報告第736集
- 文17 2017 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書8-柏市富士見遺跡・原畑遺跡・駒形遺跡- 旧石器時代編』千葉県教育振興財団調査報告第737集
- 文18 2016 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書9-柏市大松遺跡- 縄文時代以降編2』千葉県教育振興財団調査報告第754集
- 文19 2017 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書10-柏市小山台遺跡- 旧石器時代編』千葉県教育振興財団調査報告第763集
- 文20 2017 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書11-柏市花前Ⅱ遺跡・花前Ⅲ遺跡・矢船Ⅰ遺跡・矢船Ⅱ遺跡・館林Ⅱ遺跡・寺下前遺跡・八反目台遺跡-縄文時代以降編』千葉県教育振興財団調査報告第764集
- 文21 2017 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書12-柏市小山台遺跡A区-縄文時代以降編』千葉県教育振興財団調査報告第770集
- 文22 2018 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書13-柏市矢船Ⅰ遺跡・矢船Ⅱ遺跡・駒形遺跡・富士見遺跡・原畑遺跡・花前遺跡・花前Ⅲ遺跡・寺下前遺跡・大松遺跡・小山台遺跡・八反目台遺跡・館林Ⅱ遺跡-旧石器時代編』千葉県教育振興財団調査報告第771集
- 文23 2018 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書14-柏市花前Ⅰ遺跡・駒形遺跡・富士見遺跡・原畑遺跡・寺下前遺跡-縄文時代以降編』千葉県教育振興財団調査報告第774集
- 文24 2019 『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書15-柏市小山台遺跡B区-縄文時代以降編』千葉県教育振興財団調査報告第775集
- 文25 1982 『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅰ-館林、水砂、花前Ⅱ-1-』財団法人千葉県文化財センター
- 文26 1984 『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅱ-花前Ⅰ・中山新田Ⅱ・中山新田Ⅲ-』財団法人千葉県文化財センター
- 文27 1985 『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅲ-花前Ⅱ-1・花前Ⅱ-2・矢船-』財団法人千葉県文化財センター
- 文28 1986 『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅳ-元割・聖人塚・中山新田Ⅰ-』財団法人千葉県文化財センター
- 文29 1973 『北柏遺跡-発掘調査概報-』北柏遺跡発掘調査団 旧北柏遺跡C地区
- 文30 1974 『柏市鴻ノ巣遺跡』財団法人千葉県都市公社
- 文31 1980 『柏市埋蔵文化財調査報告書』柏市教育委員会
- 文32 1980 『千葉県柏市尾井戸遺跡』尾井戸遺跡調査団
- 文33 1981 『殿内遺跡発掘調査報告書』(財)柏市都市開発公社 殿内遺跡調査団
- 文34 1983 『松ヶ崎(Ⅱ)遺跡発掘調査報告書』松ヶ崎(Ⅱ)遺跡発掘調査会 山武考古学研究所
- 文35 1986 『柏市埋蔵文化財調査報告書12』柏市教育委員会
- 文36 1988 『昭和62年度市内遺跡群発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文37 1989 『昭和63年度市内遺跡群発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文38 1990 『平成元年度市内遺跡群発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文39 1990 『平成2年度市内遺跡群発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文40 1990 『柏市埋蔵文化財調査報告書16-田中小遺跡-』柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文41 1992 『平成3年度市内遺跡群発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文42 1992 『柏市埋蔵文化財調査報告書20』柏市教育委員会
- 文43 1992 『柏市埋蔵文化財調査報告書22 殿台遺跡 寺前遺跡』柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文44 1995 『柏市埋蔵文化財調査報告書29 呼塚遺跡』柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文45 1996 『柏市埋蔵文化財調査報告書31』柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文46 1997 『平成7年度市内遺跡群発掘調査報告書』柏市教育委員会

- 文47 1997 『柏市埋蔵文化財調査報告書33 水砂遺跡(Ⅱ)』柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文43 1992 『柏市埋蔵文化財調査報告書22 殿台遺跡 寺前遺跡』柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文44 1995 『柏市埋蔵文化財調査報告書29 呼塚遺跡』柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文45 1996 『柏市埋蔵文化財調査報告書31』柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文46 1997 『平成7年度市内遺跡発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文47 1997 『柏市埋蔵文化財調査報告書33 水砂遺跡(Ⅱ)』柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文48 1998 『平成8年度市内遺跡発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文49 1999 『平成9年度市内遺跡発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文50 2001 『柏市埋蔵文化財調査報告書44』柏市教育委員会
- 文51 2002 『平成12年度柏市市内遺跡発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文52 2002 『柏市埋蔵文化財調査報告書48 寺前遺跡』柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文53 2003 『平成13年度柏市市内遺跡発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文54 2003 『柏市埋蔵文化財調査報告書50 呼塚遺跡』柏市教育委員会
- 文55 2005 『平成15年度柏市市内遺跡発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文56 2006 『平成16年度柏市市内遺跡発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文57 2006 『柏市埋蔵文化財調査報告書54』柏市教育委員会
- 文58 2007 『平成17年度柏市市内遺跡発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文59 2007 『柏市埋蔵文化財調査報告書61 寺前遺跡第9次調査』柏市教育委員会 加藤建設株式会社
- 文60 2008 『平成18年度柏市市内遺跡発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文61 2008 『柏市埋蔵文化財調査報告書62 平成20年度柏市呼塚遺跡8次調査報告書』柏市教育委員会 有限会社勾玉工房Mogi
- 文62 2008 『柏市埋蔵文化財調査報告書63 平成20年度柏市呼塚遺跡第10次調査報告書』有限会社勾玉工房Mogi
- 文63 2009 『平成19年度柏市市内遺跡発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文64 2010 『原遺跡(第1次・2次)』柏市埋蔵文化財調査報告書67
- 文65 2011 『平成21年度柏市市内遺跡発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文66 2011 『柏市埋蔵文化財調査報告書68』柏市教育委員会
- 文67 2012 『平成23年度柏市市内遺跡発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文68 2012 『柏市埋蔵文化財調査報告書71 柏市呼塚遺跡(第15次)』株式会社地域文化財研究所
- 文69 2013 『柏市埋蔵文化財調査報告書75 原畑遺跡(第26次)』柏市教育委員会 有限会社勾玉工房Mogi
- 文71 2013 『原遺跡(第3～6次)』柏市埋蔵文化財調査報告書74
- 文71 2014 『平成24年度柏市市内遺跡発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文72 2014 『柏市埋蔵文化財調査報告書79 千葉県柏市呼塚遺跡(第17次)』株式会社地域文化財研究所
- 文73 2015 『平成25年度柏市市内遺跡発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文74 2016 『平成26年度柏市市内遺跡発掘調査報告書』柏市教育委員会
- 文75 2016 『柏市埋蔵文化財調査報告書82』柏市教育委員会
- 文76 2016 『柏市埋蔵文化財調査報告書83 千葉県柏市呼塚遺跡(第22次)』有限会社勾玉工房Mogi
- 文77 2021 『柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書8-柏市屋敷内遺跡』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第36集
- 文78 2022 『柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書9-柏市内山遺跡』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第46集

その他参考文献

- 2005 『千葉県の歴史 通史編 古代2』千葉県
- 1964 『柏市根戸中馬場住居址調査報告書』柏市教育委員会
- 1972 『中馬場・妻小原調査報告書』日本国有鉄道常磐線複々線工事関係遺跡調査団
- 1976 『中馬場遺跡 第三次調査報告書』中馬場遺跡第三次調査団
- 1999 『柏市埋蔵文化財調査報告書38 中馬場遺跡(第4次)』柏市教育委員会 柏市遺跡調査会

第2表 周辺の遺跡概要一覧

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中・近世	調査面積	文献
1	爺原遺跡	Ⅲ層～Ⅴ層167プロック Ⅲ層～Ⅴ層28プロック Ⅳ層～Ⅴ層40プロック Ⅲ層～Ⅴ層28プロック Ⅳ層～Ⅴ層41点(ナイフ形石器・剥片・石核、黒色安山岩主体) 第2文化層(Ⅳ～Ⅴ層)3プロック41点(ナイフ形石器・剥片・石核、黒曜石・頁岩・黒色安山岩主体) 第3文化層(Ⅳ層)10プロック352点(角錐状石器・ナイフ形石器・剥片・石核、黒曜石・頁岩主体) 第4文化層(Ⅴ層)20プロック186点(砂川期、ナイフ形石器・石刃・剥片・石核、頁岩・マンウ、黒色安山岩主体) 第5文化層(Ⅴ層)10プロック1051点(終末期、黒燧石・ナイフ形石器・石刃・剥片・石核、黒曜石・マンウ・頁岩主体) 第6文化層6プロック334点(細石刃・細石刃石核・剥片・石核、黒曜石・頁岩主体)	堅穴1軒、小堅穴2基、土坑10基、陥穴11基、包含層1		中期堅穴9軒	堅穴1軒	溝6条・野馬土手3条・野馬堀3条	(1)～(50) 167,580㎡	本報告書
2	内山遺跡	第1文化層(Ⅳ層)5プロック1071点(ナイフ形石器、彫刻刀形石器・調整ある剥片、頁岩・珪質頁岩・黒色安山岩・ホルンフェルス) 第2文化層(Ⅳ層)3プロック18点(ナイフ形石器・調整ある剥片、黒曜石・黒色頁岩・玉髄) 第3文化層(Ⅴ層)4プロック216点(ナイフ形石器・角錐状石器、頁岩・黒色安山岩・ホルンフェルス) 第4文化層(Ⅳ層)9プロック876点(筒先形尖頭器・ナイフ形石器・削片・彫刻刀形石器・掻器、黒曜石・頁岩・黒色安山岩・黒色頁岩) 第5文化層(Ⅳ層)11プロック455点(ナイフ形石器・調整ある剥片・使用痕ある剥片、黒曜石・頁岩・黒色安山岩・流紋岩・玉髄) 第6文化層(Ⅳ層)3プロック46点(細石刃・ナイフ形石器、黒曜石・黒色安山岩) 第7文化層4点(筒先形尖頭器、ホルンフェルス、頁岩、チャート)	堅穴2軒、土坑1基、陥穴21基・礫群1基・包含層1か所		中期堅穴6軒	平安堅穴8軒	近世：地下式坑1基・井戸1基 土坑5基・溝6条	(1)～(20) 192,247.7㎡	文78
3	屋敷内遺跡	第1文化層(Ⅳ層)12プロック(環状)919点(台形線石器・ナイフ形石器・石斧・剥片・石核、安山岩・頁岩主体) 第2文化層(Ⅳ層)5プロック303点(ナイフ形石器・掻器・剥片・石核、安山岩主体)	前期堅穴8軒・土坑3基、陥穴3基、堅穴1基・土坑8基、陥穴1基	前期堅穴1軒・土坑1基、溝1条			掘立5棟・柱穴列2基・地下式坑4基・井戸20基・火葬遺構7基 土坑93基・ヒツト1基・溝43条	102,269.2㎡	文77
4	農協前遺跡	①第1文化層(Ⅳ層)12プロック(環状)919点(台形線石器・ナイフ形石器・石斧・剥片・石核、安山岩・頁岩主体) 第2文化層(Ⅳ層)5プロック303点(ナイフ形石器・掻器・剥片・石核、安山岩主体)	②前期(黒浜式期)堅穴1軒					①② 6,730㎡	①文5 ②文8
5	北花崎遺跡	①層位不明14点(筒先形尖頭器・剥片)	②前期土坑1基					①1,335㎡ ②1,566㎡	①文2 ②文58
6	大朝遺跡	①第1文化層(Ⅳ層)14プロック421点(ナイフ形石器・石刃・椀形石器・剥片・石核、安山岩・頁岩主体) 第2文化層(Ⅳ層～Ⅴ層)2プロック96点(ナイフ形石器・椀形石器・剥片・石核、チャート) 黒曜石主体) 凹礫・礫群41点 第3文化層(Ⅳ層～Ⅴ層)34プロック2,404点(ナイフ形石器・角錐状石器・掻器・削器・剥片・石核、黒曜石・頁岩、安山岩)	②早期炉穴1基、陥穴8基・土坑1基、前期(黒浜式期)堅穴1軒					①②(1)～(15) 178,200㎡ (調査終了)	①文6 ②文8
7	須賀井遺跡	①第1文化層(Ⅳ層)3プロック51点(椀形石器・剥片・石核、チャート・ホルンフェルス、頁岩) 第2文化層(Ⅳ層～Ⅴ層)6プロック331点(ナイフ形石器・角錐状石器・削器・形器・剥片・石核、頁岩、安山岩、黒曜石・チャート) 第3文化層(Ⅳ層)14点(椀形石器・剥片、石核)	②前期(黒浜式期)堅穴1軒、ピット・ピット群2か所、陥穴7基				②中世(14世紀～15世紀前半)： 台地整形区画3か所・掘立5棟・地下式坑2基・井戸9基・火葬施設7基・土坑194基以上、溝17条 近世：掘立1棟・井戸1基、土坑2基・溝1条	①②(1)～(10) 30,563㎡ (調査終了)	①文6 ②文9
8	原山遺跡	第1文化層(Ⅳ層)下部～Ⅴ層上部)5プロック77点(台形線石器・ナイフ形石器・剥片・石核、安山岩主体) 第Ⅱ文化層(Ⅳ層)中部～Ⅴ層下部)25プロック(第Ⅱ文化層は環状)プロック1,449点(ナイフ形石器、台形線石器・石刃・剥片・石核、黒曜石主体) 第Ⅲ文化層(Ⅳ層)2プロック20点(ナイフ形石器主体、剥片、安山岩、黒曜石、頁岩) 第Ⅳ文化層(Ⅳ層～Ⅴ層)187プロック657点(ナイフ形石器・角錐状石器・石鏃、剥片・石核、ホルンフェルス、頁岩) 第Ⅴ文化層(Ⅳ層)2プロック31点(削器、剥片、石核、安山岩・黒曜石)	前期(黒浜式期)堅穴6軒、礫群3か所、土坑8基、陥穴8基					(1)～(11) 99,391㎡ (調査終了)	文4・文7
9	溜井台遺跡	第1文化層(Ⅳ層～Ⅴ層)1プロック49点(ナイフ形石器・剥片・石核、安山岩主体) 第2文化層(Ⅳ層)1プロック21点(剥片・石核、安山岩主体) 第3文化層(Ⅳ層～Ⅴ層)4プロック90点(ナイフ形石器主体、剥片、石核、安山岩・流紋岩・頁岩) 第4文化層(Ⅳ層～Ⅴ層)6プロック761点(ナイフ形石器・削器・掻器・剥片、石核、ホルンフェルス・安山岩) 礫群4か所 第5文化層(Ⅳ層)1プロック19点(ナイフ形石器・剥片、石核、安山岩、頁岩)	土坑1基、陥穴4基					(1)・(2) 51,000㎡ (調査終了)	文3

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中・近世	調査面積	文献
10	胸形遺跡	①第1文化層(VI層下部)1ブロック27点(剥片、頁岩主体) 第2文化層(V層下部)4ブロック228点(ナイフ形石器・磨石・剥片、石核、黒曜石主体、チャート) 第3文化層(III層中部)1ブロック81点(尖頭器・楔形石器・剥片、石核、黒曜石主体) ④第1文化層(III層下部)2ブロック31点(ナイフ形石器・剥片、黒曜石、珪質頁岩) 第3文化層(III層下部)2ブロック259点(尖頭器・磨石・剥片、石核、黒曜石・ホルンフェルス・砂岩)	②③堅穴17軒(早期彌高台式期27・前期岡山式期～黒浜式期89・後期堀之内1式期1)・土坑77基(早期7・前期38・中期1・後期5・不明26) 陥穴51基・炬穴37基(早期32・前期5)・陥穴35基(早期34・中期1)・早期集石土坑1基・前期貝層1カ所 ④前期(黒浜式期)堅穴1軒・炬8基・土坑4基・ピット14基	②③堅穴63軒(前期2・中期1) ②③平安堅穴2軒・土坑1基	③地下式坑8基・土坑5基・シシ穴1基・溝31条	①(1)～(19) 49,154㎡ ②③(1)～(40) 94,768㎡ ④(20)～(42) 46,222㎡ ⑤(41)～(42) 6,088㎡	①文17 ②文11 ③文14 ④文22 ⑤文23		
11	富士見遺跡	①第1文化層(IXc層下部)2ブロック39点(ナイフ形石器・楔形石器・剥片、局部磨製石斧、頁岩主体・黒曜石・安山岩) 第2文化層(IXa層下部)3ブロック597点(ナイフ形石器・磨石・剥片、石刃、石核、頁岩主体・珪質頁岩) 第3文化層(IXb層下部)6ブロック428点(ナイフ形石器・楔形石器・剥片、石刃、石核、頁岩・安山岩・砂岩) ④第1文化層(IX層下部)7ブロック86点(ナイフ形石器・磨石・剥片、石核、頁岩・安山岩・砂岩) ④第2文化層(IXc層上部)1ブロック28点(剥片、砥石・剥片、チャート・砂岩) 第3文化層(IXa層上部)1ブロック5点(ナイフ形石器・磨石・剥片、安山岩・頁岩) 第4文化層(V層下部)4ブロック201点(ナイフ形石器・角錐状石器・磨石・剥片、磨石・珪質頁岩・安山岩・黒曜石)	②③堅穴124軒(早期彌高台式期～茅山下層式期9・前期花積下層式期～黒浜式期110・中期加賀利E式期1・後期稱名寺式期2・不明2)・土坑19基(早期16・前期34・中期4・後期3・不明137)・早期陥穴15基・炬穴9基、礫群1基 ⑤前期(黒浜式期)堅穴9軒・土坑9基・道1条	②③堅穴9軒(前期2・中期7)・円墳(円形区画墓)1基	③近世:掘込区画3カ所・堅穴状9基・地下式坑19基・井戸1基・土坑109基・土坑墓2基・溝2条 近世:掘立2棟・土坑10基・区画溝群3群(71条) 4,587㎡	①(1)～(26) 86,820㎡ ②③(1)～(50) 126,950㎡ ④(27)～(59) 40,667㎡ ⑤(51)～(59) 4,587㎡	①文17 ②文15 ③文16 ④文22 ⑤文23		
12	大松遺跡	①第1文化層(IX層)20ブロック(環状)2,449点(ナイフ形石器・剥片、石核、黒曜石主体) 第2文化層(III層下部)1ブロック28点(ナイフ形石器・剥片、チャート・安山岩) ④IX層1ブロック4点(楔形石器・剥片、チャート・黒曜石) IX層1ブロック32点(槍先形尖頭器・ナイフ形石器・楔形石器・剥片、黒曜石・珪質頁岩)	②③前期(花積下層式期～黒浜式期)堅穴86軒・土坑59基、陥穴5基・貝層15カ所・炬穴2群、中期(五領ヶ台式期～加賀利E式期)堅穴28軒・土坑242基、後期土坑1基、時期不明堅穴5軒・土坑27基	③後期堅穴1軒	③近世:土坑12基・溝6条・ピット群1カ所	①(1)～(7) 19,035㎡ ②③(1)～(18) 34,792㎡ ④(8)～(18) 15,757㎡	①文10 ②文13 ③文18 ④文22		
13	原畑遺跡	①第1文化層(IXa層下部)7ブロック119点(ナイフ形石器・局部磨製石斧・楔形石器・剥片、黒曜石・礫灰岩・安山岩) 局部磨製石斧の再生加工 第2文化層(V層下部)2ブロック147点(ナイフ形石器・剥片、石核、黒曜石・頁岩主体) 第3文化層(IV層下部)18ブロック182点(ナイフ形石器・角錐状石器・磨石・磨石・磨石・磨石、黒曜石・安山岩主体) 礫群 ⑥第3文化層(IV層下部)2ブロック109点(ナイフ形石器) ④第4文化層(III層下部)7ブロック304点(ナイフ形石器・尖頭器・磨石、石核、黒色安山岩・ホルンフェルス・珪質頁岩・黒曜石)	②前期(黒浜式期)堅穴19軒・土坑5基・遺体内貝層6カ所、早期陥穴3基 ③中期(加賀利E式期)堅穴3軒・土坑6基・ピット8基 ④中期(阿玉台式期～中時式期)堅穴3軒・堅穴状2基・土坑68基・ピット140基 ⑤中期土坑74基・ピット159基 ⑥前期(黒浜式期)堅穴2軒・土坑2基	②中期堅穴2軒	⑦野馬土手2条、野馬堀3条、溝4条、道1条	①(1)～(21) 71,517㎡ ②(1)～(23) 74,989㎡ ③～⑥ 3,800㎡ ⑥(22)～(29) 8,568㎡ ⑦(24)～(29) 5,096㎡	①文17 ②文12 ③文67 ④文69 ⑤文71 ⑥文22 ⑦文23		
14	小山西遺跡	③第1文化層(IXc層下部)2ブロック19点(ナイフ・削器・石刃、石核、黒曜石) 第3文化層(V層上部)2ブロック45点(ナイフ・石錐・楔形石器・石刃、黒曜石、珪質頁岩) 第4文化層(IV層下部)3ブロック107点(角錐状石器・ナイフ・石核、黒色頁岩・礫灰岩) 第5文化層(III層下部)3ブロック41点(ナイフ・磨石・磨石、安山岩) 第6文化層(III層上部)3ブロック21点(剥片・礫、石英礫石)	①堅穴41軒(早期野島式期1・前期黒浜式期～野島式期30・中期阿玉台式期～加賀利E式期302・後期稱名寺式期～堀之内1・2式期17・不明91)・土坑1,419基(前期2・中期824・後期43・不明550)・陥穴23基(中期3・不明20)・炬穴61基(早期61) ②堅穴状4基(早期1・中期3)・土坑40基(早期～中期)・ピット41基(早期～中期) ③堅穴28軒(早期赤真式期～田戸下層式期2・前期岡山式期～野島式期25・後期堀之内1式期1)・土坑78基(早期25・後期堀之内1式期2・不明42)・陥穴2基(早期)・炬穴27基(早期)・母口式期～孝山下層式期26・前期黒浜式期1)・トンネル状遺構3基(前期野島・諸磯式期)	⑤前期堅穴1軒		①102,341㎡ ②480㎡ ③(51)～(98) 37,127㎡ ④(1)～(50) 92,103㎡ ⑤23,536㎡	①文24 ②文65 ③文22 ④文19 ⑤文21		

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中・近世	調査面積	文献
15	寺下前遺跡	①第1文化層(Ⅱ層)1フロック52点(剥片・礫、黒色安山岩・ホルンフェルス) 第2文化層(Ⅲ層)1フロック3点(ナイフ形石器・石刃、黒色安山岩・玉髄)	②堅穴5軒(前期黒浜式期1・中期阿玉台式期4)・土坑2基、陥穴2基、炬穴7基 ④中期(阿玉台式期)堅穴2軒・陥穴1基	②中期(阿玉台式期)堅穴1軒	②中期堅穴2軒		②土坑5基 ③中世:地下式坑3基・土坑3基・古地彫形区画1か所 近世:溝1条 ④道路1条	①(1)~(3) 1,942㎡ ②(1)(2) 1,515㎡ ③(3)427㎡ ④2,035㎡	①文22 ②文20 ③文23 ④文72
16	宮前遺跡	③Ⅲ層~Ⅱ層1フロック101点(尖頭器・掻器・楔形石器・石核、黒色安山岩・玉髄)	後期土器		前期土器	平安時代土器		①③(1)1841㎡ ②1,130㎡	文1 ①文20 ②文74 ③文22
17	八反目台遺跡		②中期(阿玉台式期)堅穴1軒		①後期堅穴1軒		①溝1条		
18	花前(Ⅰ)遺跡		①堅穴13軒(前期黒浜式期~浮島式期)11・後期風之内式期2)・遺構内貝層 ②前期(黒浜式期~浮島式期)堅穴7軒				①近世(17世紀中~):土坑2基・地下式坑4基・溝1条 ②近世:鍛冶工房1基・土坑1基・竈跡7基・欄別1条・ピツト22基・溝1条	①4,500㎡ ②(1)~(3) 4,373㎡	①文26 ②文23
19	花前(Ⅱ)遺跡		①早期炬穴1基、前期諸磯式期堅穴1軒・土坑2基 堅穴状3基、後期堀之内式期堅穴1軒・土坑2基		①後期堅穴1軒		①灰窯9基	①8,400㎡ ②(1)~(2) 4,077㎡	①文27 ②文20
20	花前(Ⅲ)遺跡	①Ⅲ層(4フロック)635点(ナイフ形石器・石刃・石核・剥片、安山岩・頁岩) ③第1文化層(Ⅱ層下部~Ⅴ層)1フロック29点(ナイフ形石器・原石・礫片、黒色安山岩・安山岩・砂岩)	①早期炬穴1基、前期(諸磯式期)堅穴1軒 ④陥穴1基		②堅穴4軒(中期3・後期1) ④中期堅穴1軒・土坑1基		①近世:建物跡2基・井戸2基・土坑4基・流し溜3基・溝9基 ④土坑6基・溝2条	①②14,500㎡ ③④(1)~(3) 4,670㎡	①文22 ②文20
21	矢船(Ⅰ)遺跡	①第2文化層(Ⅲ層)1フロック41点(削器・剥片・石核、安山岩・頁岩) 第3文化層(Ⅳ層下部)8フロック231点(ナイフ形石器・削器・掻器・剥片、黒曜石主体) 第4文化層(Ⅴ層)2フロック9点(ナイフ形石器・剥片・磨石、安山岩・頁岩) ②第1文化層(Ⅱ層下部)6フロック266点(ナイフ形石器・楔形石器・石刃・石核、剥片、安山岩)	③堅穴24軒(前期黒浜式期~興津式期)16・不明8)・土坑13基、陥穴3基		①中期堅穴2軒・土坑1基 ③中期堅穴1軒	③堅穴1軒(不明)		①3,400㎡ ②③(1)~(4) 17,560㎡	①文27 ②文22 ③文20
22	矢船(Ⅱ)遺跡	①第1文化層(Ⅱ層上部)16フロック790点(ナイフ形石器・楔形石器・局部磨製石斧・削器、チャート・安山岩・頁岩) 第2文化層(Ⅲ層下部)5フロック145点(ナイフ形石器・削器・削器、頁岩、黒曜石) 第3文化層(Ⅳ層下部~Ⅴ層)3フロック132点(ナイフ形石器・削器、楔形石器、流紋岩、チャート) 第4文化層(Ⅴ層中部~Ⅲ層下部)11フロック739点(ナイフ形石器・尖頭器・削器、掻器、黒曜石・安山岩) 第5文化層(Ⅵ層上部)1フロック3点(細石刃石核、燧灰岩・玉髄) 第6文化層(Ⅶ層下部~Ⅲ層上部)1フロック199点(尖頭器・礫、珪質頁岩・安山岩)	②堅穴3軒(前期黒浜式期2・中期加曾利E式期1)・土坑8基(中期1・不明7)・陥穴22基、早期炬穴4基		②中期堅穴12軒・方墳(方形区画敷)1基		近世:土坑3基・遺物集中地点1か所・道路3基・シシ穴列2条	①②(1)~(36) 59,405㎡	①文22 ②文20
23	館林(Ⅰ)遺跡	Ⅲ層(2フロック)185点(石刃・剥片、黒曜石・頁岩・チャート) ①第1文化層(Ⅱ層)4フロック152点(ナイフ形石器・礫石、チャート・玉髄、黒色安山岩) 第2文化層(Ⅲ層)1フロック63点(ナイフ形石器・楔形石器・石核、チャート・黒色安山岩) 第3文化層(Ⅳ層)3フロック245点(ナイフ形石器・掻器、黒曜石、珪質頁岩) 第4文化層(Ⅴ層~Ⅳ層)4フロック205点(角錐状石器・ナイフ形石器、黒曜石・チャート) 第5文化層(Ⅵ層)1フロック31点(石核・剥片、チャート・玉髄、黒曜石)	早期炬穴1基			奈良堅穴8軒	野馬土手1条	4,500㎡	文25
24	館林(Ⅱ)遺跡		②土坑2基、陥穴4基 ③前期陥穴1基				②土坑1基	①②(1)~(6) 6,426㎡ ③960㎡	①文22 ②文20
25	水砂遺跡		①早期炬穴2基、中期阿玉台式期~中峠式期堅穴5軒・土坑2基 ②早期土坑2基 ③早期陥穴状土坑1基 ④中期阿玉台式期堅穴2軒、時期不明土坑46基		①後期堅穴4軒・小堅穴1基 ④中期堅穴1軒・溝1条 ⑤堅穴3軒	①奈良堅穴12軒・掘立3基・小竈跡1基		①15,800㎡ ②4,292㎡ ③2,924㎡ ④2,450㎡ ⑤13,900㎡	①文25 ②文36 ③文38 ④文47 ⑤文51
26	中山新田(Ⅰ)遺跡	①Ⅱ層9地点27フロック(第9地点は環状フロック)2156点(ナイフ形石器・石刃・石核・削器・局部磨製石斧・石核・剥片、頁岩・玄武岩、黒曜石、流紋岩)	①早期炬穴22基、中期(阿玉台式期~加曾利E式期)堅穴7軒・堅穴状4基・土坑6基、後期(堀之内式期)堅穴1軒・堅穴状1基、時期不明堅穴2軒・堅穴状2基・土坑8基 ②中期(前半)土坑3基		①奈良堅穴1軒			①23,500㎡ ②1,277㎡	①文28 ②文37

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中・近世	調査面積	文献
27	中山新田(Ⅱ)遺跡	Ⅲ層3ユニット231点(ナイフ形石器・削器・刺片・黒曜石・頁岩)Ⅳ層3ユニット237点(ナイフ形石器・削器・刺片・黒曜石・頁岩)Ⅴ層3ユニット222点(ナイフ形石器・削器・刺片・黒曜石・頁岩)Ⅵ層3ユニット198点(ナイフ形石器・削器・刺片・黒曜石・頁岩)Ⅶ層9ユニット252点(ナイフ形石器・削器・刺片・黒曜石・頁岩)Ⅷ層1ユニット101点(石核・刺片、安山岩)	中期(阿玉台式期)竪穴1基・竪穴状1基・土坑10基・竪穴9基			竪穴6軒(奈良3・平安1・不明2)	野馬堀1条	35,950㎡	文26
28	中山新田(Ⅲ)遺跡	第1文化層(Ⅲ層)8プロット449点(ナイフ形石器・尖頭器・削器・彫器・角錐状石器・黒曜石・頁岩・玉髓・チャート)第2文化層(Ⅳ層)6プロット566点(ナイフ形石器・角錐状石器・削器・彫器・黒曜石・チャート・玄武岩・頁岩)第3文化層(Ⅴ層)下部(Ⅲ層)2プロット18点(ナイフ形石器・尖頭器・削器・粘板岩・チャート・黒曜石)第4文化層(Ⅵ層)5プロット300点(ナイフ形石器・削器・石斧・石核・刺片・頁岩・黒曜石・玉髓)第5文化層(Ⅶ層)1プロット12点(ナイフ形石器・石核・刺片・黒曜石・頁岩・粘板岩)	早期竪穴1基、前期土坑1基			竪穴3軒(奈良1・不明2)・溝1条		2,500㎡	文26
29	聖人塚遺跡	第1文化層(Ⅲ層)下部1地点2プロット61点(尖頭器・削器・粘板岩・頁岩・チャート)第2文化層(Ⅳ層)2地点6プロット1,096点(ナイフ形石器・削器・石核・石斧・刺片、玄武岩・チャート)隣接3基、第3文化層(Ⅴ層)Ⅶ層2地点3プロット58点(ナイフ形石器・削器・粘板岩・黒曜石)	早期竪穴23基、前期(黒浜式期)竪穴状1基、中期(阿玉台式期)竪穴状2基・土坑1基・埋溝1基、中期(藤坂式期～中嶋式期)竪穴14軒、竪穴状3基・土坑2基・埋溝土坑1基、時期不明竪穴1軒・竪穴状2基・土坑20基			竪穴4軒(平安2・不明2)		43,600㎡	文28
30	元朝遺跡						野馬上手1条	11,300㎡	文28
31	胸水新田遺跡					土師器			文1
32	青田第Ⅲ遺跡					土師器			文1
33	十倉二子元山489-33地先野馬除上手						野馬上手1条・野馬堀1条		文46
34	十倉二子伊勢原574-16地先野馬除上手						野馬堀1条		文51
35	大青田字稲荷山279-20一帯地先野馬除上手						野馬上手2条・野馬堀3条		文53
36	出山遺跡			土器					文1
37	川津台遺跡			中期土器					文1
38	大山遺跡			中期土器		平安時代土師器			文1
39	大青田字小渡1616-14地先野馬除上手						野馬堀1条		文1
40	大室字大木戸1152-5地先野馬除上手						野馬堀1条		文46
41	田中小遺跡	②前期(黒浜式期)竪穴1軒、時期不明土坑4基 ③竪穴7軒(前期黒浜式期3・中期阿玉台式期4)・中期(阿玉台式期)掘立柱建物跡8棟・柱穴列4列、土坑39基(前期11・中期14・不明14)・竪穴1基 ④早期竪穴1基 ⑤前期(黒浜式期)竪穴1軒・土坑4基 ⑥前期(黒浜式期)竪穴5軒・土坑8基	①竪穴2軒(前期・中期)、土坑7基、ピット5基 ③竪穴16軒(前期12特殊器台、東海系竪内系タタキ目黒、受け口状口縁甕・中期3・後期1) ④後期(長穴式期)竪穴1軒、土坑2基 ⑤後期竪穴1軒 ⑥中期竪穴1軒 ⑦前期竪穴1軒 ⑧前期竪穴1軒			①X36・文66(第3次)②文37③X39・文66(第8次)④文65⑤X48⑥文40⑦不明⑧X53		①2,540㎡ ②1,783㎡ ③3,860㎡ ④499㎡ ⑤2,549㎡ ⑥4,992㎡ ⑦不明 ⑧2,616㎡	①X36・文66(第3次)②文37③X39・文66(第8次)④文65⑤X48⑥文40⑦不明⑧X53
42	尾井戸遺跡					平安竪穴2軒		6,124㎡	文32
43	寺前遺跡						②中世(15世紀代)：台地整形区画1か所・掘立3棟・竪穴状7基・火葬施設4基・地下式坑1基・灰窯1基・堀1条・溝7条・土坑80基 ③近世(18世紀代)：掘立4棟・土坑13基・井戸2基・溝11条	①457㎡ ②8,221㎡ ③2,596㎡	①文43②文52③文59
44	原遺跡							①250㎡ ②3,446㎡	①文64②文70
45	三畝朝遺跡								文1

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中・近世	調査面積	文献
46	塚原古墳群				花野井大塚古墳1・2号(中期・白墳) 花野井やまもと古墳(竪穴式石室) 花野井庄衛門稲荷古墳(後期・方墳)				文50
47	花野井字神前留626-16地先野馬除上手						野馬堀1条		文65
48	上留遺跡							①4,195㎡ ②4,185㎡ ③10,220㎡	①文41 ②文45 ③文57
49	香取神社遺跡				①前期(黒浜式期)竪穴1軒 ②前期(黒浜式期)竪穴1軒 ③前期(黒浜式期)竪穴2軒			①約10,000㎡ ②9,145㎡	①文29・文30 ②文36 文38
50	花野井字丸山1041-1地先野馬除上手				①前期(黒浜式期)竪穴1軒		野馬堀1条		①文49 ②文74
51	宿連寺遺跡				①前期竪穴2軒・竪穴状2基		②近世道路1条	①1,988㎡ ②1,147㎡	
52	磯ノ東遺跡	Ⅲ層～Ⅳ層1ブロック42点(彫器・銅片、黒曜石、玄武岩・チャート)・磁群 Ⅲ層～Ⅴ層1ブロック56点(尖頭器・彫器・細石刃・石核、凝灰岩・チャート)	前期竪穴21軒(黒浜式期)20・諸磯式期1)	後期竪穴2軒	平安竪穴2軒(馬形土製品)			約33,500㎡	文29・文30
53	南原遺跡		前期土器		土師器				文1
54	八幡遺跡				前期竪穴2軒	平安竪穴2軒(内小鍛冶跡1)・土坑1基		1,928㎡	文31
55	松ヶ崎泉遺跡					②溝2条		2,400㎡	文58
56	松ヶ崎見崎遺跡				①中期竪穴2軒・土坑1基 ②土坑1基		②溝3条	①2,300㎡ ②1,839㎡	①文42
57	松ヶ崎(Ⅰ)遺跡		前期(黒浜式期)竪穴1軒					15,700㎡	文1
58	松ヶ崎(Ⅱ)遺跡		土器						文34
59	十余二字湾ノ東287-280地先ほか野馬除上手						①野馬土手1条・野馬堀3条 ②野馬土手1条・野馬堀3条 ③野馬土手2条・野馬堀2条・溝2条 ④野馬堀2条		①文46 ②文55 ③文60
60	十余二字庚塚276-90地先ほか野馬除上手						①野馬土手1条・野馬堀2条 ②野馬土手1条・野馬堀1条		①文51 ②文63
61	呼塚遺跡		③縮穴状土坑2基 ④縮穴状土坑1基 ⑥早期戸穴1基、縮穴状土坑3基、土坑2基 ⑨縮穴1基、土坑1基	③後期竪穴2軒 ⑥後期竪穴1軒	①前期竪穴1軒、中期竪穴23軒・竪穴状2基・土坑9基 ②前期竪穴4軒 ③中期竪穴13軒 ④前期竪穴35軒・土坑1基 ⑤前期竪穴22軒・方形環濠1基・溝1条 ⑥中期竪穴14軒・土坑5基、土坑1基、礎土跡1基 ⑦前期方形環濠1基・溝1条、土坑1基 ⑧前期竪穴4軒 ⑨前期竪穴10軒、竪穴状2基、土坑1基、溝1条	③竪穴3軒(奈良1・平安2)・平安土坑1基 ⑥平安竪穴1軒	④孤立1棟・区画溝1条・溝2条	①3,059㎡ ②2,290㎡ ③4,380㎡ ④1,875㎡ ⑤3,800㎡ ⑥4,024㎡ ⑦202㎡ ⑧59㎡ ⑨4,644㎡	①文14 ②文54 ③文61 ④文62 ⑤文68 ⑥文72 ⑦文73 ⑧文75 ⑨文76
62	谷中上遺跡		早期・後期土器						文1
63	殿内遺跡		①縮穴2基		①中期竪穴7軒・土坑4基		②野馬土手2条・野馬堀1条・溝4条・井戸1基	①4,242㎡ ②430㎡	①文33 ②文71
64	十余二字南原249-27地先野馬除上手						野馬堀1条		文38
65	高田三勢遺跡						野馬土手2条・野馬堀2条		文35
66	十余二字下大塚380-153地先野馬除上手						野馬土手1条		文38
67	十余二字赤坂台418-38地先野馬除上手						野馬堀1条		文58

第2章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

翁原遺跡の調査成果としては、旧石器時代、縄文時代、奈良・平安時代、中・近世などの遺構・遺物が検出されており、第2節において詳述するが、ここでは旧石器時代の概要を記す。

旧石器時代 中央に埋没谷が走るほぼ南北の台地に分かれ、今回の西側の地点はその南側の南西部にあたり、多数のブロックが分布している。各文化層の概要は以下のとおりである。

第1文化層 X層を主体として、X層～Ⅶ層から出土している。局部磨製石斧が出土しているが、他に特徴的な石器は出土していない。総計14点が出土している。

第2文化層 IX層を中心に出土しており、石刃や横長剥片あるいは不定形な剥片を素材としたナイフ形石器、台形様石器、局部磨製や打製の石斧を特徴とする石器群である。信州産の黒曜石による石刃生産を示す良好な接合資料がある。総計827点が出土し、本遺跡では最も多い19か所の集中地点で構成される。

第3文化層 Ⅶ層を中心に出土した石器群である。総計282点が出土し、8か所の集中地点で構成される。

第4文化層 V層～Ⅲ層下部から出土しており、角錐状石器などを特徴とする、いわゆるIV層下部の石器群である。総計316点が出土し、7か所の集中地点で構成される。

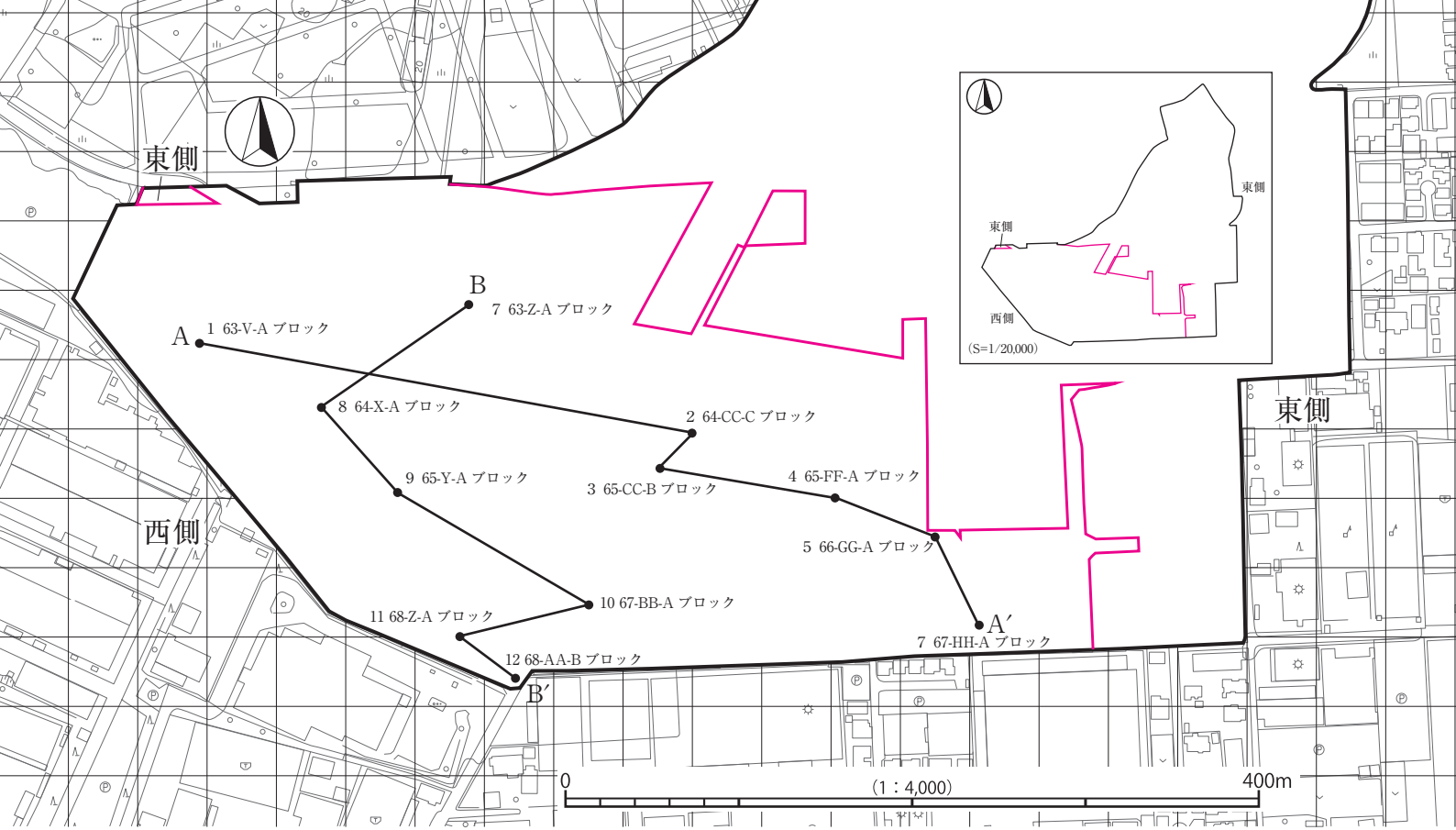
第5文化層 Ⅲ層から出土しており、東内野型の有樋尖頭器と大規模な礫群を特徴とする。総計4,653点が出土し、集中地点は1か所である。

第6文化層 Ⅲ層上部から出土しており、尖頭器を特徴とする旧石器時代終末期の石器群である。総計125点が出土し、2か所の集中地点で構成される。

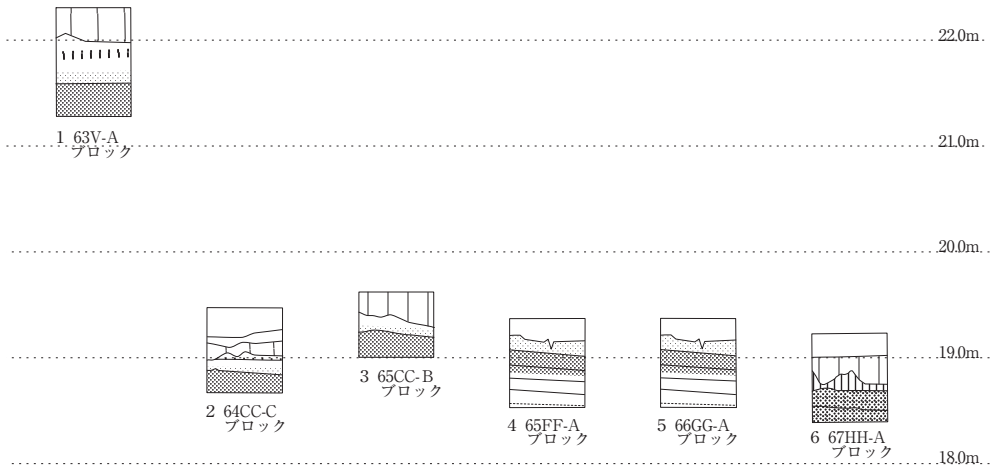
第2節 旧石器時代の遺構と遺物

旧地形 翁原遺跡は地金堀の西岸、地金堀と大堀川に開析された標高17m～22m付近の舌状台地に位置する。現在、大堀川は北千葉導水路、地金堀はコンクリートで整備された水路として市街地を流れている。翁原遺跡の北に位置する屋敷内遺跡・農協前遺跡間のボーリング調査の成果によると、両遺跡間の谷部では、常総粘土層直下の更新世水成層が深さ2～3m、幅300mに渡り侵食されており、かつての地金堀が水量が豊富だが流域幅が広く、浅く緩やかに手賀沼に向かって流下していたことがわかる。また、舌状台地の縁辺にあたる屋敷内遺跡東側の緩斜面では、対岸の農協前遺跡が立地する地金堀東岸の台地に比べて常総粘土層の堆積が薄いことから、本遺跡が立地する舌状台地がMIS5c(約10万年前)以降の比較的遅い時期に離水したことが分かる。よって常総粘土層の上に関東ローム層が堆積した頃、この舌状台地の縁辺では、地金堀の低地との高低差が今よりもさらに緩やかであったと推定される。今まで記述したことから、最終氷期における翁原遺跡の周辺では、北側と南側については現在の「こんぶくろ池」や「弁天池」周辺に広がる低地が地金堀の広大な流域と一体化しひとつの氾濫原を形成し、東側については低地に張り出した舌状台地が次第に緩斜面となりそのまま地金堀に接続していたと推定される。遺跡が立地する舌状台地、低地に続く緩やかな斜面、眼下に流れる広大な地金堀、それを囲む湿地帯という、水辺へのアクセスに富む景観が復元されよう。

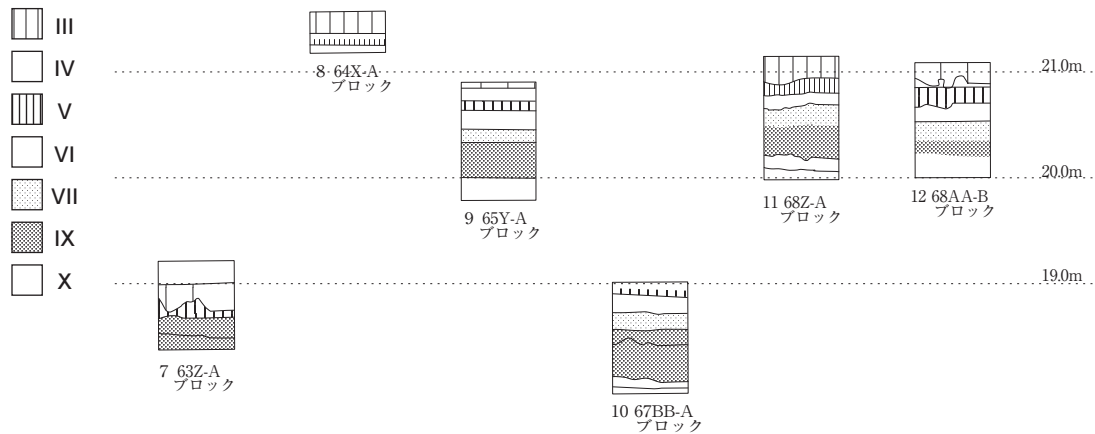
基本層序 本遺跡の立川ローム層序は第5図のとおりである。



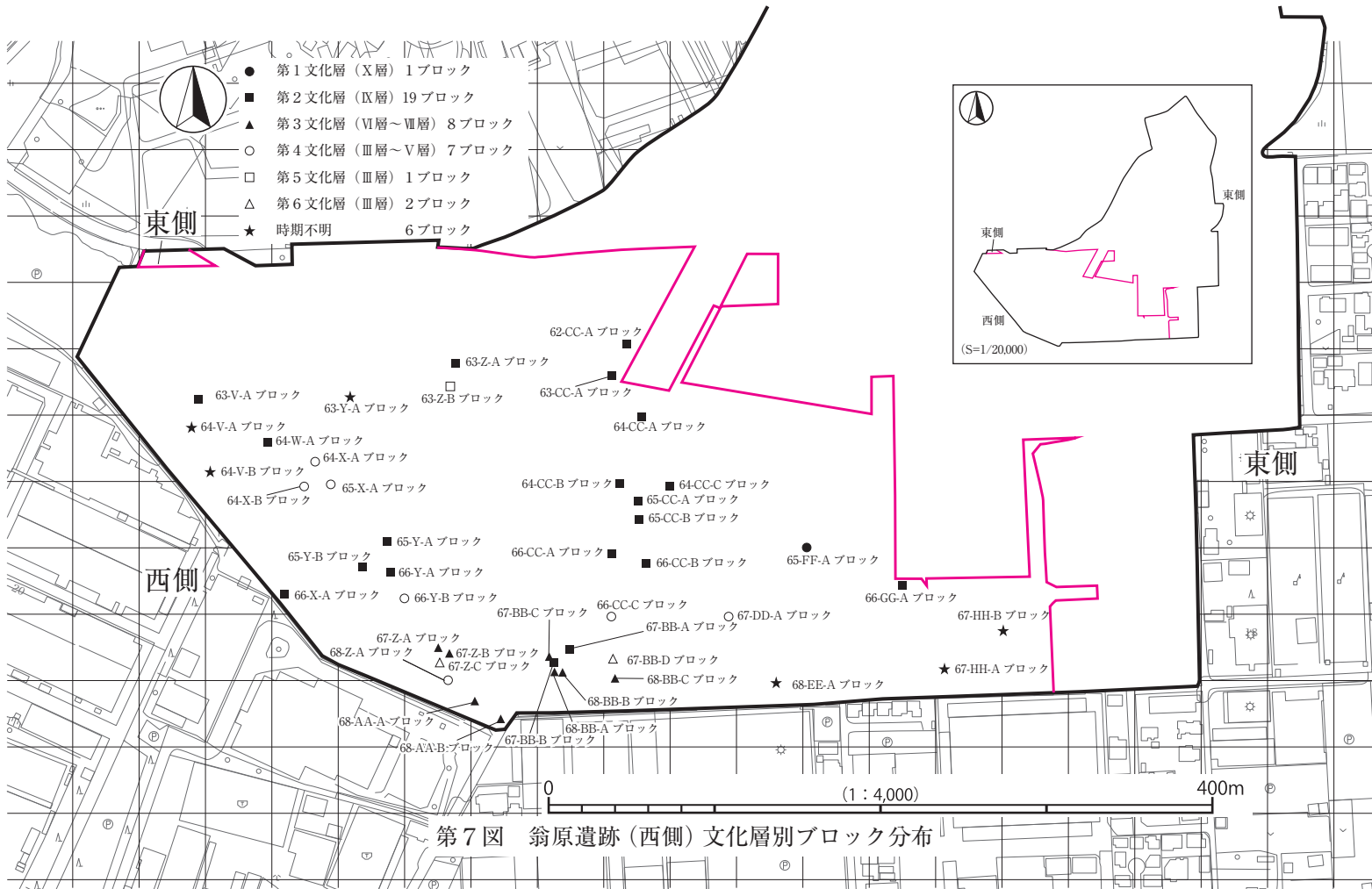
A 23.0m A'



B 22.0m B'



第5図 基本層序



Ⅲ層 明黄褐色ローム土。ソフトローム層。ソフト化したハードロームを含む。

Ⅳ～Ⅴ層 黄褐色ローム土。大部分は第1暗色帯に相当する。Ⅳ層はソフト化しているところが多い。

Ⅵ層 明褐色ローム土。硬質。AT（始良丹沢火山灰）がブロック上に含まれる。ソフト化が進みⅢ層のクラックがⅥ層まで到達するところがある。

Ⅶ層 暗黄褐色ローム土。硬質。第2暗色帯上部に相当する。湧水の影響によりⅨ層と分層できないところがある。

Ⅷ層 暗黄褐色ローム土。硬質。第2暗色帯下部に相当する。赤色スコリアを含む。

Ⅹ層 黄褐色ローム土。硬質。Ⅸ層より軟化する。

文化層概要 石器群は、西側地区のほぼ全体に分布しているが、特に中央部では大量の石器や礫群を伴うブロックが多く検出されている。

出土層位と石器群の様相から6枚の文化層を設定した。第1～3文化層はA T下位の後期旧石器時代前半期石器群、第4～6文化層はA T上位の後半期石器群である。このうちA T上位の後半期石器群は、概ね立川ロームⅢ層を中心にⅤ層からⅢ層にかけて包含されている。しかしながら本地域ではこれらを出土層位で区分することが難しく、本遺跡においても石器群の出土層位に明らかな差は認められなかったが、石器群の様相からは時期差が認められたことから、文化層を設定した。

6枚の文化層の概要は以下のとおりである。

第1文化層 Ⅹ層を主体として、Ⅹ層～Ⅶ層から出土している。局部磨製石斧が出土しているが、他に特徴的な石器は出土していない。しかし、数は少ないが、下総台地の下層（Ⅹ層～Ⅷ層）の遺跡に散見されるいわゆる海沢産の特徴を持つチャートが出土している。総計14点が出土し、そのうち1点離れて出土した遺物があるが、それ以外は1か所の集中地点で構成される。西側地区の東側に分布している。

第2文化層 Ⅷ層を中心に出土しており、石刃や横長剥片あるいは不定形な剥片を素材としたナイフ形石器、台形様石器、局部磨製や打製の石斧を特徴とする石器群である。石器群の内容から、さらに2枚の文化層に細分される可能性もあるが、今回は1枚の文化層にまとめた。信州産の黒曜石による石刃生産を示す良好な接合資料がある。総計827点が出土し、本遺跡では最も多い19か所の集中地点で構成される。ほぼ西側地区全体に分布している。時期細分される可能性がある。

第3文化層 Ⅶ層～Ⅵ層から出土した石器群である。総計282点が出土し、8か所の集中地点で構成される。西側地区の中央南側にまとまっているが、一部は第2文化層の石器群の可能性もある。

第4文化層 Ⅴ層～Ⅲ層下部から出土しており、角錐状石器などを特徴とする、いわゆるⅣ層下部の石器群である。総計316点が出土し、7か所の集中地点で構成される。西側地区の中央から西側に分布している。

第5文化層 Ⅲ層から出土しており、東内野型の有樋尖頭器と大規模な礫群を特徴とする。ホルンフェルスの横長剥片を生産する特徴的な接合資料がある。総計4,653点が出土し、集中地点は1か所である。西側地区の中央北側に分布している。

第6文化層 Ⅲ層上部から出土しており、尖頭器を特徴とする旧石器時代終末期の石器群である。総計125点が出土し、2か所の集中地点で構成される。西側地区の中央南側に分布している。

時期不明 出土層位が明確でないこと、明確に時期を決定できる資料が発見されていないこと、あるいは複数の文化層の可能性などから帰属時期を決定できなかった石器群で、総計75点が出土し、6か所の集中地点で構成される。

1 第1文化層

第1文化層の石器群は、14点の石器が出土し、石器集中は1か所である。X層の石器群と推定される。西側地区の東側に分布している。垂直分布はおおむねX層付近にまとまる。本遺跡では最古の文化層である。

第1文化層のブ石器石材は、ガラス質黒色安山岩・チャート・ホルンフェルス・砂岩の4種類で、局部磨製石斧が1点出土している。

1 65FF-A ブロック (第8～10図、第3表、図版2・8)

西側地区の東側、65FF-53・80・90・91、66EE-09・19グリッドに分布する。8.5 m×5.7 mの範囲に13点、19.1m離れて1点の石器が出土した。出土層位はX層～VII層で、0.79 mの高低差をもってX層を中心に包含される。

石器器種は、剥片・碎片・局部磨製石斧で構成され、剥片・碎片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・チャート・ホルンフェルス・砂岩で構成され、ガラス質黒色安山岩以外は均等である。なお、チャートの一部に、いわゆる海沢産のチャートの特徴を持つものがある。

1はガラス質黒色安山岩の縦長剥片である。右側面は、剥離時の加撃により縦に同時割れしたものとされる。打面は自然面である。2は砂岩の局部磨製石斧である。刃部側を除いて大半を欠損していることから全体形状等は不明である。裏面側に大きく自然面、正面側には1枚の剥離面を残していることから、比較的大型の剥片を素材として、両側縁に調整を行い、正面の剥離面側を研磨して刃部を作出している。正面側の両側縁の稜線は、装着によるものか多少磨耗している。遺存部の形状を見ると、両側縁は平行するが、刃部は斜刃となる。また、正面末端の大きな剥離痕は、使用によるものと思われる。図版8-3は2と同一母岩とは判断しなかったが、質感等が酷似している比較的大型の不定形な剥片である。剥離時の加撃により縦に同時割れし、打面も欠損している。

第3表 65FF-Aブロック石器組成

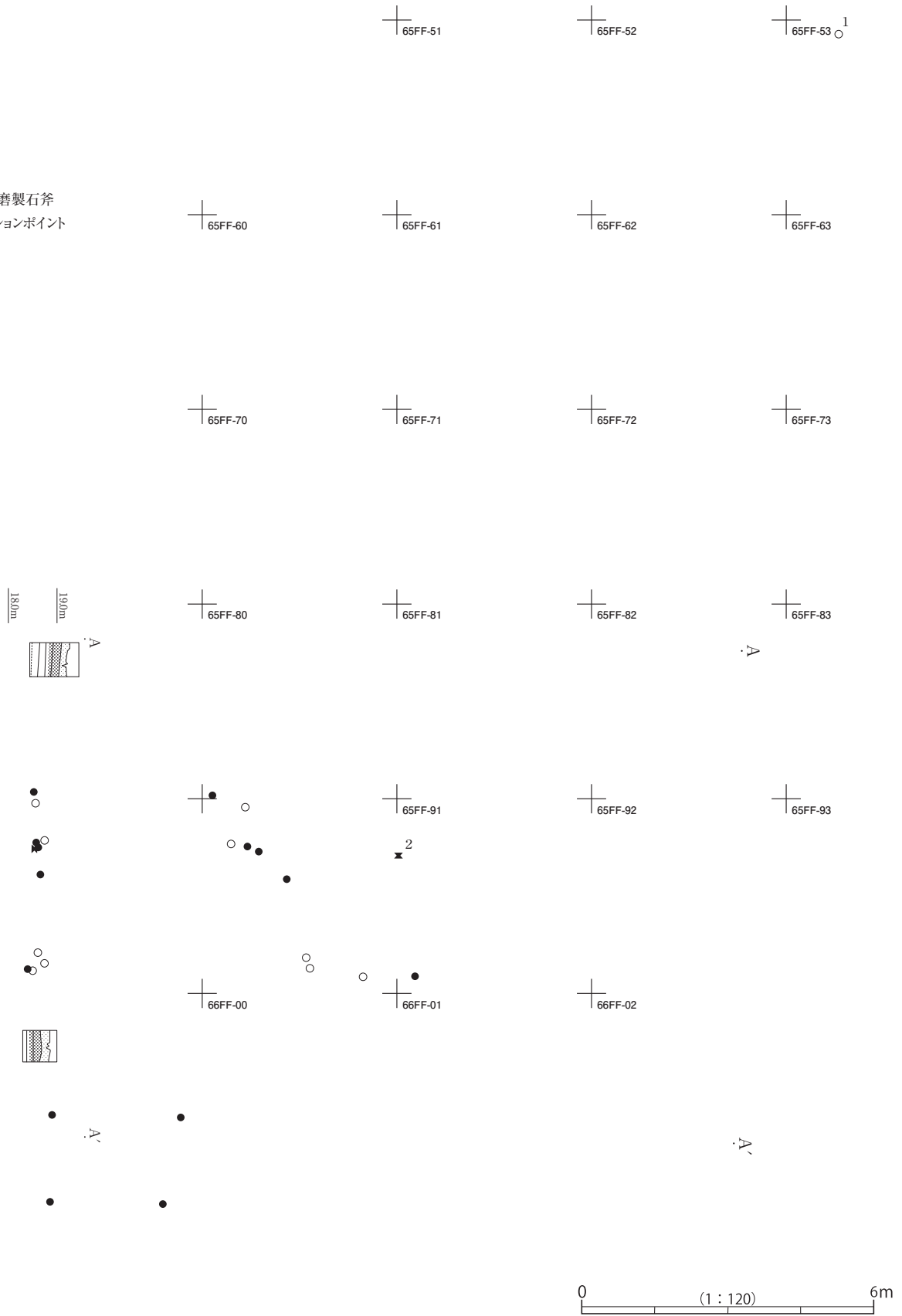
石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)			
GA													1	1								2	14.3%	7.36	6.9%
CH													2	2								4	28.6%	4.1	3.8%
HO														4								4	28.6%	1.3	1.2%
SA													3			1						4	28.6%	94.25	88.1%
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	7	0	1	0	0	0	0	14	100.0%	107.01	100.0%	

2 第2文化層

第2文化層の石器群は、794点の石器と34点の礫が出土し、19か所の石器集中で構成される。ほぼ西側地区全体に分布する。IX層の石器群と推定される。上下の文化層に対して、出土層位と石器群の様相が一樣ではないことから、65CC-A・Bブロック及び65Y-Bと65Y-Bブロックにブロック間接合がある。第3文化層のVIII層～VI層にかけての石器群の一部に本文化層の一群があるかもしれない。



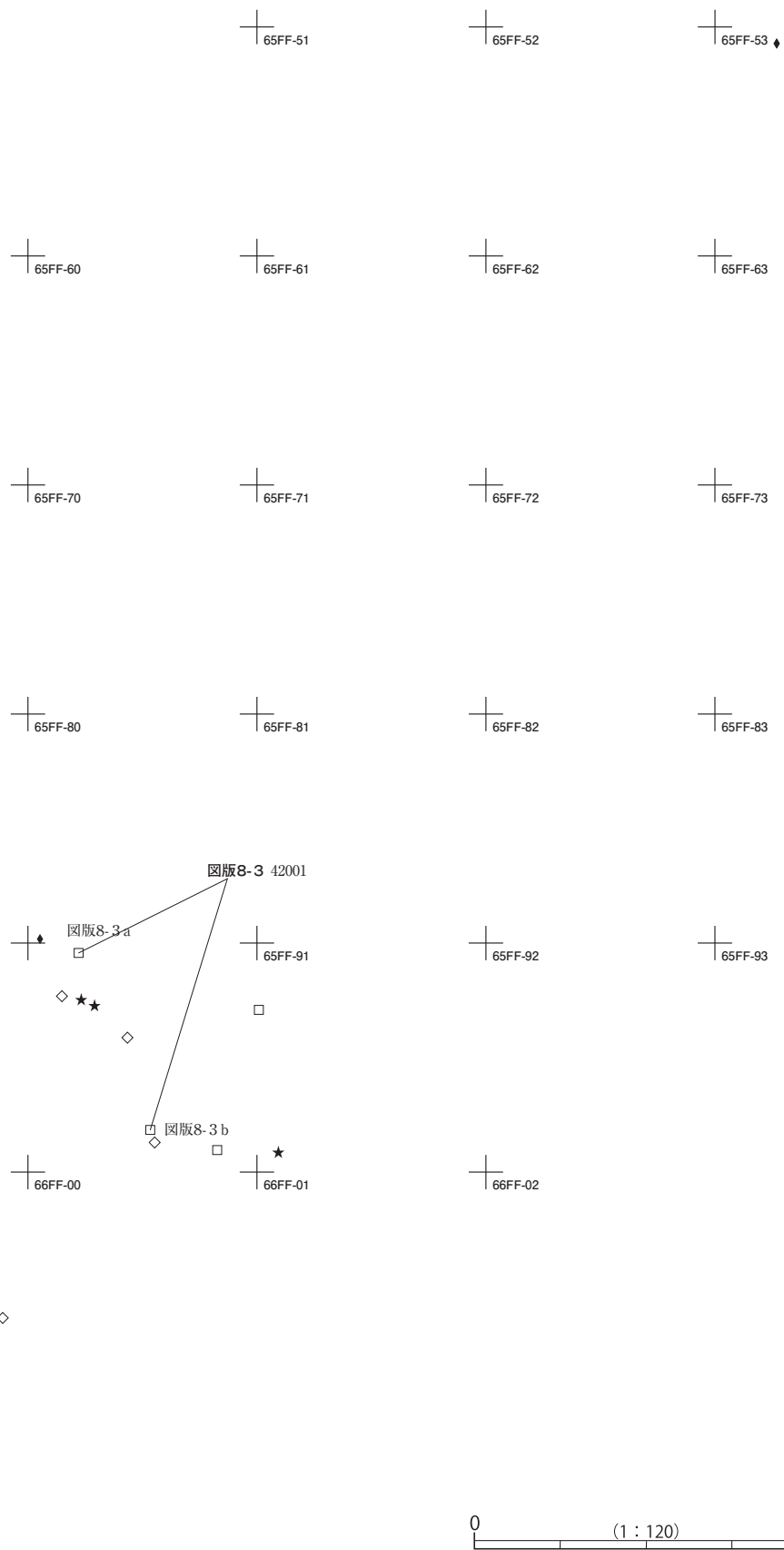
- 剥片
- 碎片
- ✕ 局部磨製石斧
- ・ セクションポイント



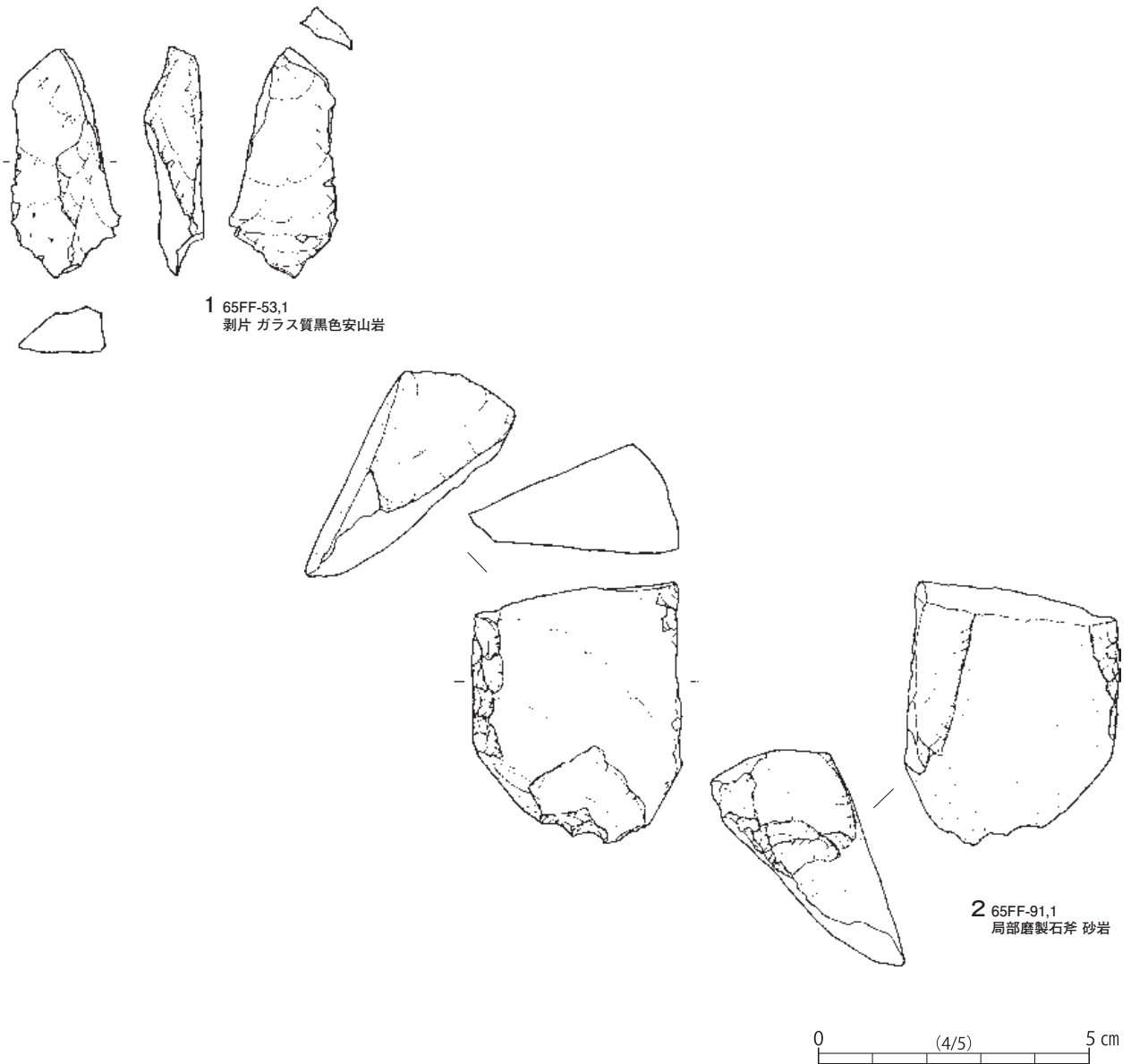
第8図 65FF-Aブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -



- ◆ ガラス質黒色安山岩
- 砂岩
- ◇ チャート
- ★ ホルンフェルス



第9図 65FF-Aブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -



第10図 65FF-Aブロック出土遺物

1 63Z-Aブロック (第11～13図、第4表、図版2・8)

西側地区のほぼ中央、63Z-08・15・16・18・24～26・37グリッドに分布する。8.6 m × 20.7 mの範囲から24点の石器が出土した。出土層位は、IX c層～VII層で、0.74mの高低差をもってIX c層～IX a層を中心に包含される。

石器器種は、楔形石器・剥片・碎片で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・トトロ石・頁岩・玉髓・蛇灰岩で構成され、ガラス質黒色安山岩・頁岩が主体である。

1は比較的珪化度の高い緑色の頁岩あるいは緑色凝灰岩の楔形石器である。表面末端の細かい剥離痕と表裏上部の剥離痕が対向し、上部右側の稜線には潰痕状の剥離痕が残る。また、両側縁にも対向する槌状の切断面が見られる。最終的には、ほぼ90度転回した方向からの剥離により、裏面の器体中央に残るような大きな剥離があり、本個体は廃棄されている。また、今回掲載していないが、蛇灰岩（蛇紋岩）の石器は、石材から石斧関係の調整剥片などの可能性が考えられる。



- ▽ 楔形石器
- 剥片
- 碎片
- * 磨製石斧調整剥片



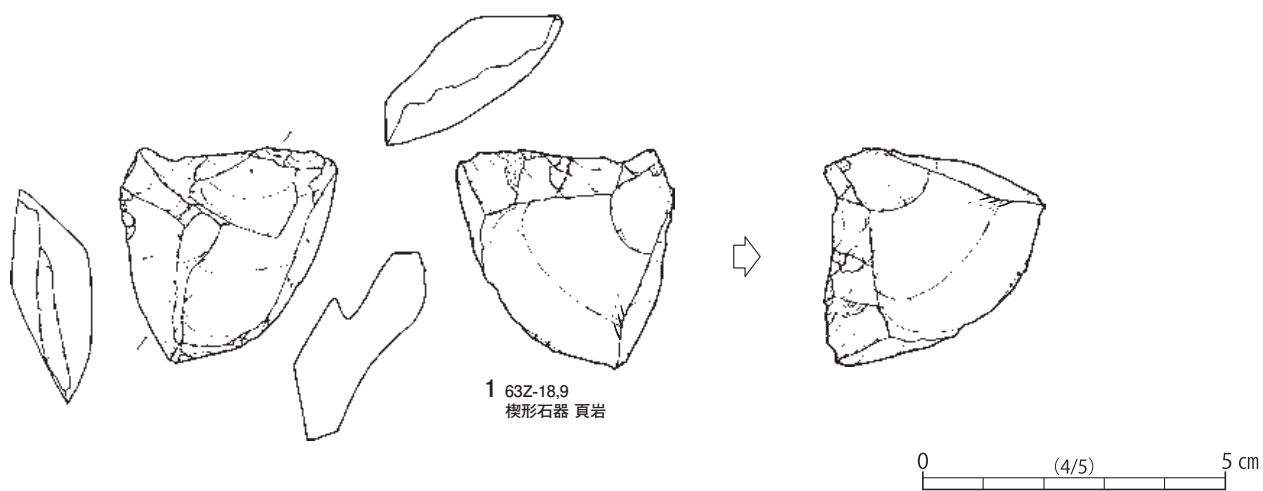
第11図 63Z-Aブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -

第4表 63Z-Aブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA													8								8	33.3%	97.25	56.9%
TO													1								1	4.2%	1.38	0.8%
SH							1						8	2							11	45.8%	43.91	25.7%
CC													2								2	8.3%	2.9	1.7%
OC													1	1							2	8.3%	25.46	14.9%
合計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	20	3	0	0	0	0	0	24	100.0%	170.9	100.0%	



第12図 63Z-Aブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -



第13図 63Z-Aブロック出土遺物

2 62CC- Aブロック (第14～18図、第5表、図版2・8・9)

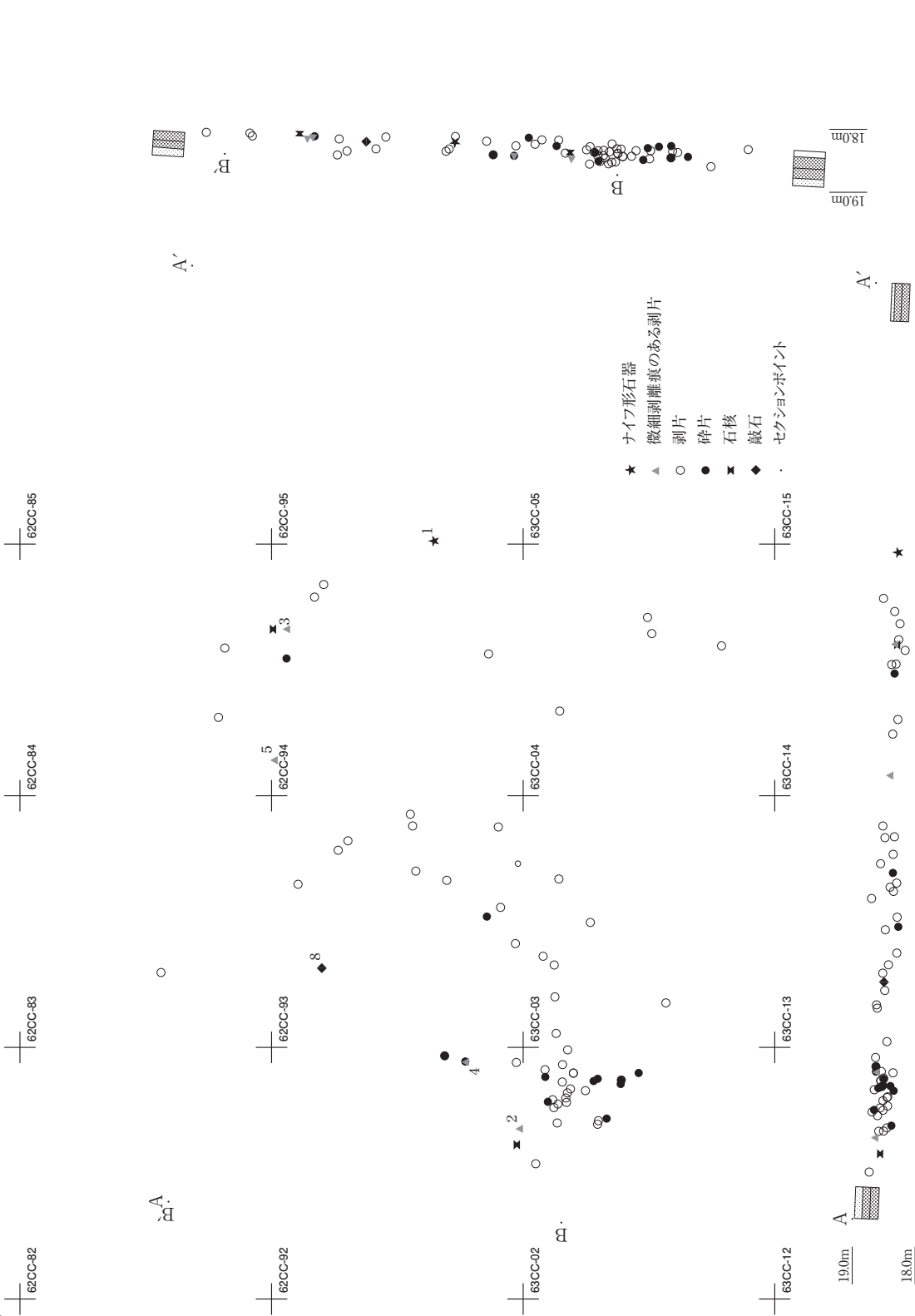
西側地区の中央北側、62CC-83・84・92～95、63CC-02～04グリッドに分布する。8.2 m×10.1 mの範囲から69点の石器が出土した。出土層位はⅨc層～Ⅸa層で、0.43 mの高低差をもってⅨc層を中心に包含される

石器器種は、ナイフ形石器・微細剥離痕のある剥片・剥片・碎片・石核・敲石で構成される。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・安山岩・トロトロ石・流紋岩・チャート・頁岩・玉髓・黒曜石で構成される。黒曜石のナイフ形石器・微細剥離痕のある石器・剥片などが主体である。

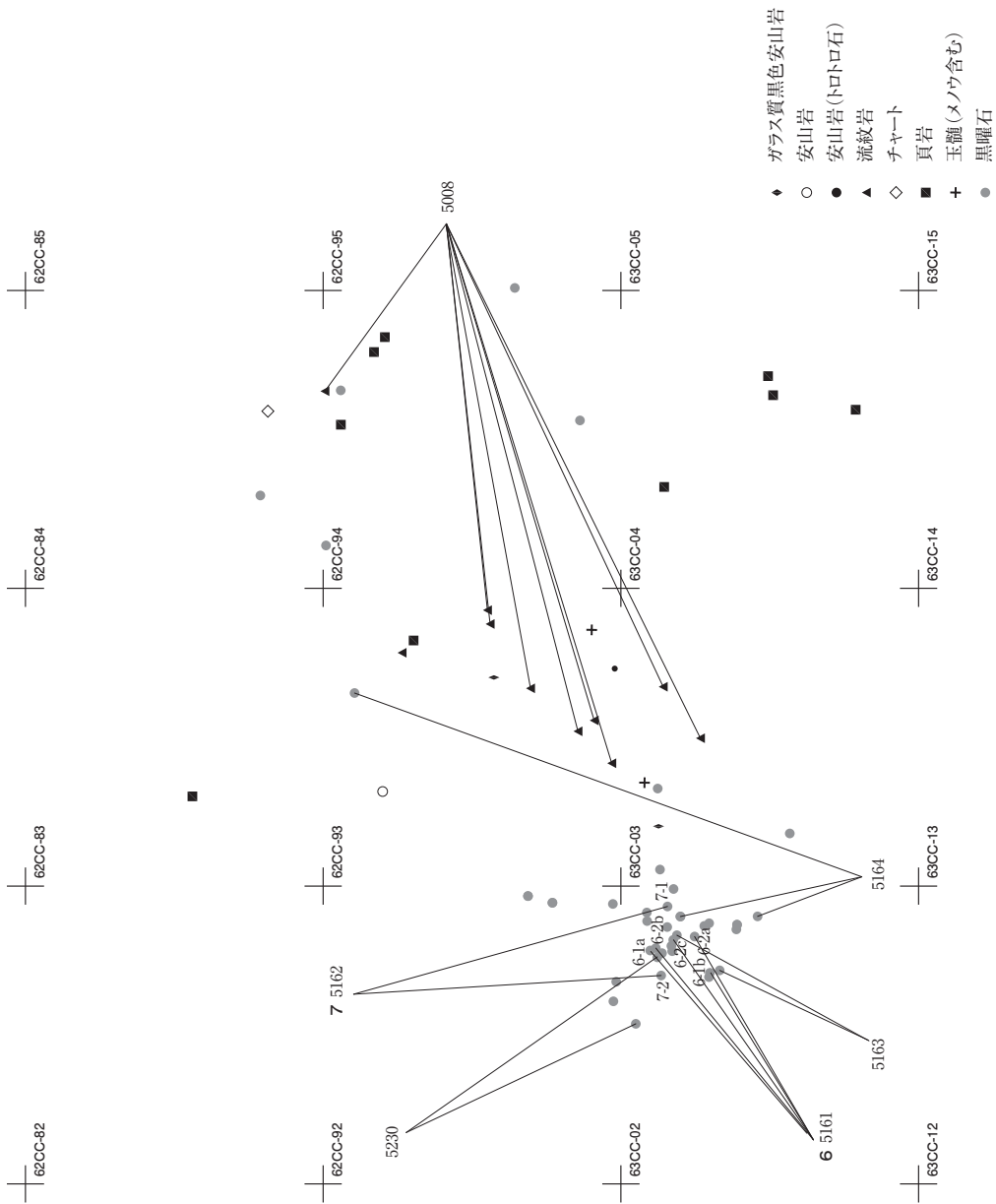
1は信州産と考えられる透明度のない良質な黒曜石のナイフ形石器である。石刃と考えられる縦長剥片を素材とし、打面側を基部としている。下部が欠損しているが、左側縁は全体に急角度の調整が施され、右側縁は基部側の一部に急角度の調整が施されていることから、2側縁加工のナイフと思われる。2～5は信州産と考えられる透明度の高い良質な黒曜石の微細剥離痕のある剥片で、すべて石刃を素材としている。2は表面と右側面の上部の剥離痕を除きほぼ全面に自然面が残っていることから、角礫状の原石から剥離されたものと思われる。なお、右側面の下部の細長い2面は剥離痕の可能性が高い。表面左側縁と裏面右側縁に微細な剥離痕が見られ、末端が欠損する。3は表面の下部に左方向からの、同じく左下半部に末端からの剥離面を除いて加撃方向と同一の剥離面が複数見られる。また、表面右側下部には自然面が残っている。表面左側縁上半と裏面右側縁の上部と下部に微細な剥離痕が見られる。4・5は表面に素材と同方向の剥離痕が見られる。4は正面左側縁と右側縁の一部、裏面左側縁に微細な剥離痕が見られる。なお、末端は調整か折れか判断できないが、細かい剥離痕が見られる。ノッチの部分を使用した可能性が高い。5は両面の左側縁と右側縁の上部に微細な剥離痕が見られる。末端は欠損する。6(接合資料05161)は灰褐色の不純物を多少含む透明度のある黒曜石の石刃と考えられる縦長剥片5点(2個体)の接合資料である。6-1は2点、6-2は3点が接合してそれぞれ1個体となる。6-1の背面には同剥片の剥離方向に直交する剥離面が見られることから作業面を作出する剥片と思われる。6-2の背面には末端からの剥離痕が残っていることから、両設打面の石核から剥離され、打面の転回が6-1の剥離後、数枚の剥片を剥離した後に行われている。7(接合資料05162)は信州産と考えられる透明度の高い良質な黒曜石の石刃と考えられる縦長剥片2点の接合資料である。7-2の末端は欠損しており、また、両者とも打面側が新規欠損している。8は安山岩の敲石である。上下両端に比較的顕著な敲打痕が見られる。

第5表 62CC-Aブロック石器組成

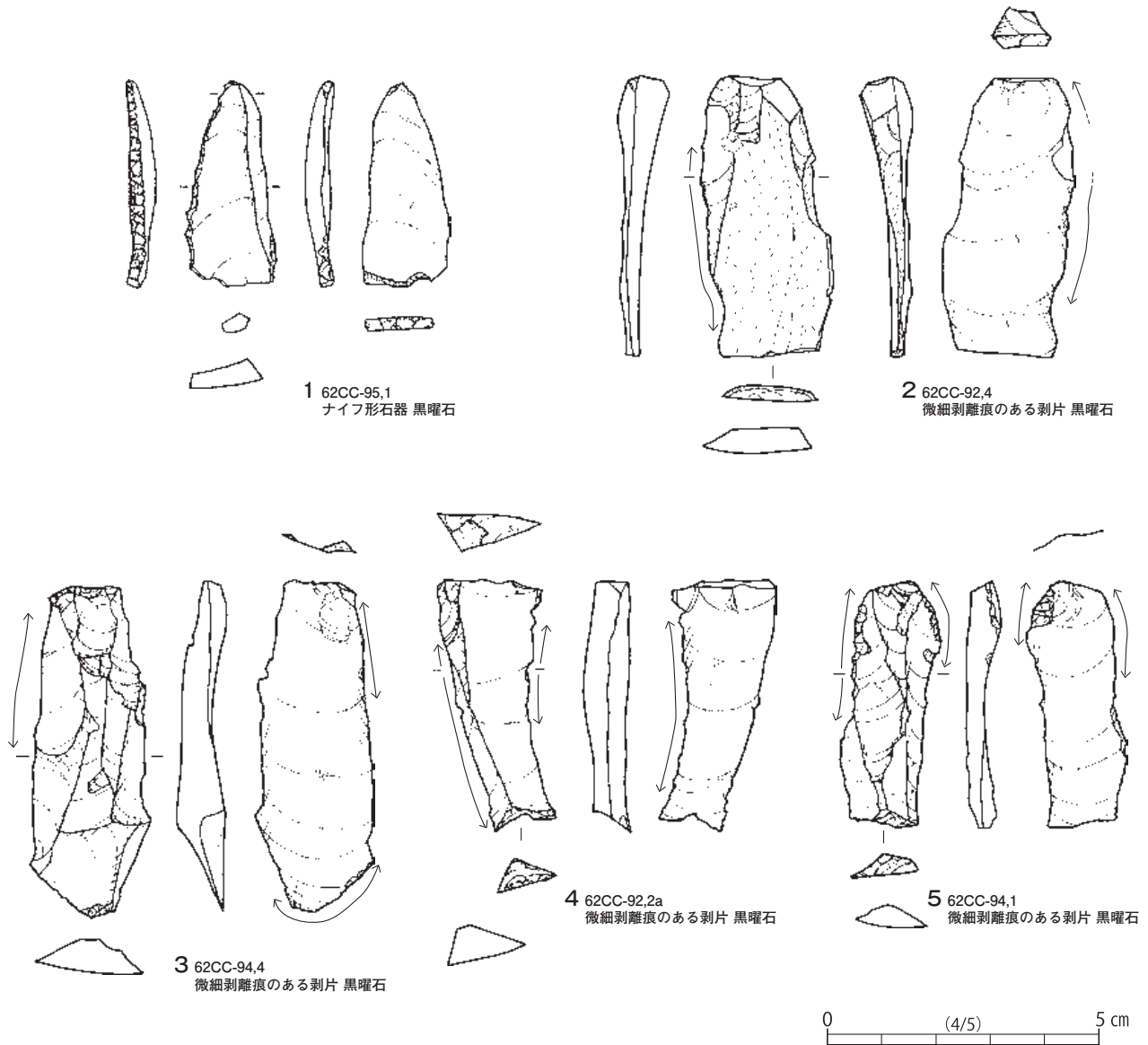
石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形錐石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計		重量合計 (g)	
																					点数	割合	重量	割合
GA													2								2	2.9%	4.9	1.1%
AN																	1				1	1.4%	142.95	33.1%
TO														1							1	1.4%	0.06	0.0%
RH													8	1	1						10	14.5%	103.27	23.9%
CH													1								1	1.4%	0.6	0.1%
SH													8	1							9	13.0%	55.39	12.8%
CC													2								2	2.9%	13.56	3.1%
OB			1						4				27	10	1						43	62.3%	111.3	25.8%
合計	0	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	48	13	2	0	1	0	0	0	69	100.0%	432.03	100.0%



第14図 62CC-Aブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -



第15図 62CC-Aブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -



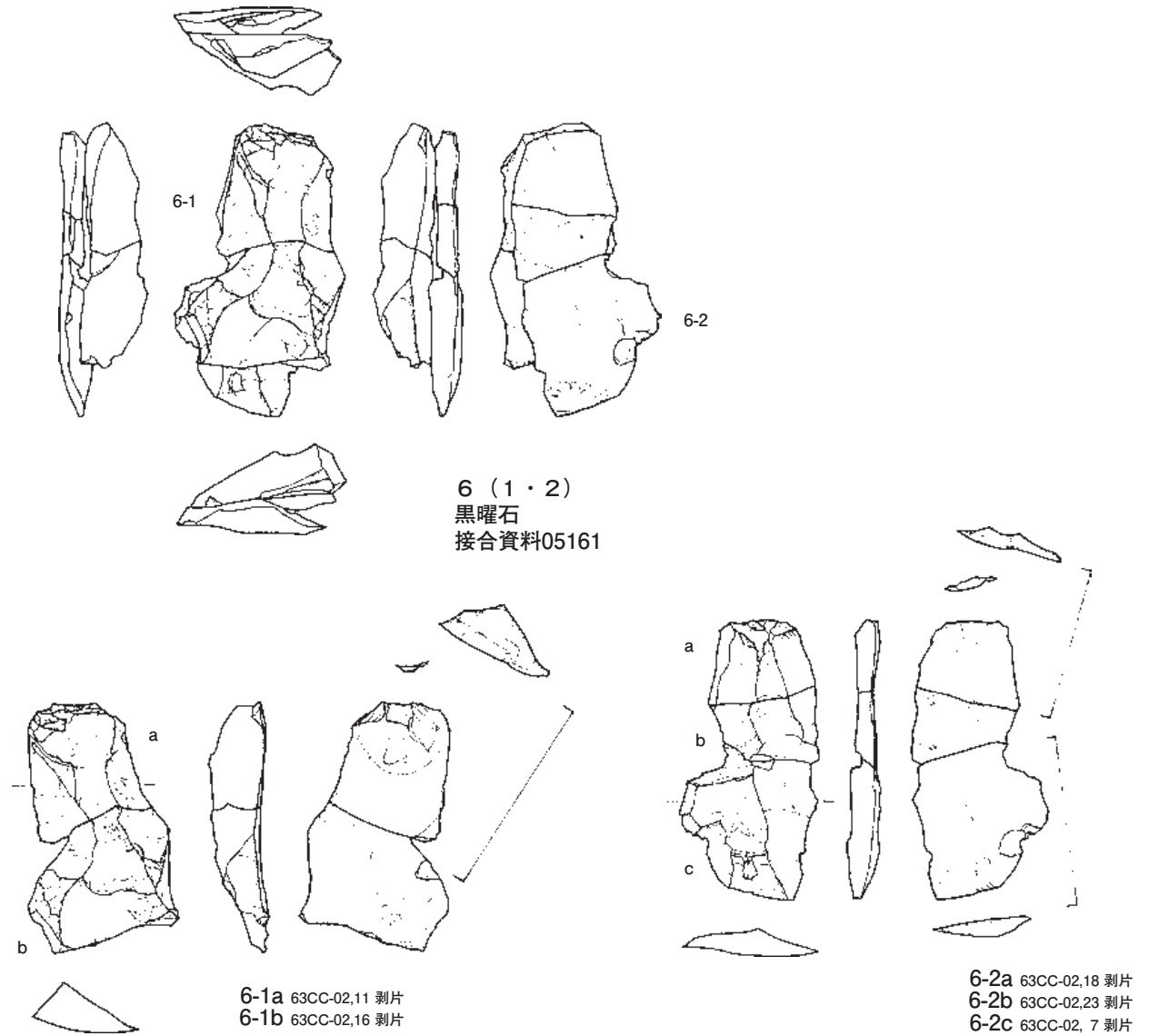
第16図 62CC-Aブロック出土遺物(1)

3 63CC- Aブロック (第19～21図、第6表、図版2・10)

西側地区の中央北側、63CC-23・33・40～42・51・52グリッドに分布する。8.5 m×13.2 mの範囲から17点の石器と1点の礫が出土した。なお、本ブロックは7mほど離れて8.5m×3.8mと2.0m×0.7mの2か所に分布する。出土層位はIX c層～VII層で、0.46 mの高低差をもってIX c層～IX a層を中心に包含される。

石器器種は、微細剥離痕のある剥片・剥片・碎片・石核と礫・礫片で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・チャート・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成され、ガラス質黒色安山岩・頁岩が主体である。礫石材は、流紋岩のみである。

1は黒色頁岩の二次加工のある剥片、2は頁岩の微細剥離痕のある剥片で、すべて石刃を素材としている。1は表面左側縁の一部にブランディング状の細かい調整加工が行われている。末端は欠損している。なお、打面側を基部とする部分加工のナイフ形石器の可能性はある。2は表面左側縁下部と裏面右側縁の

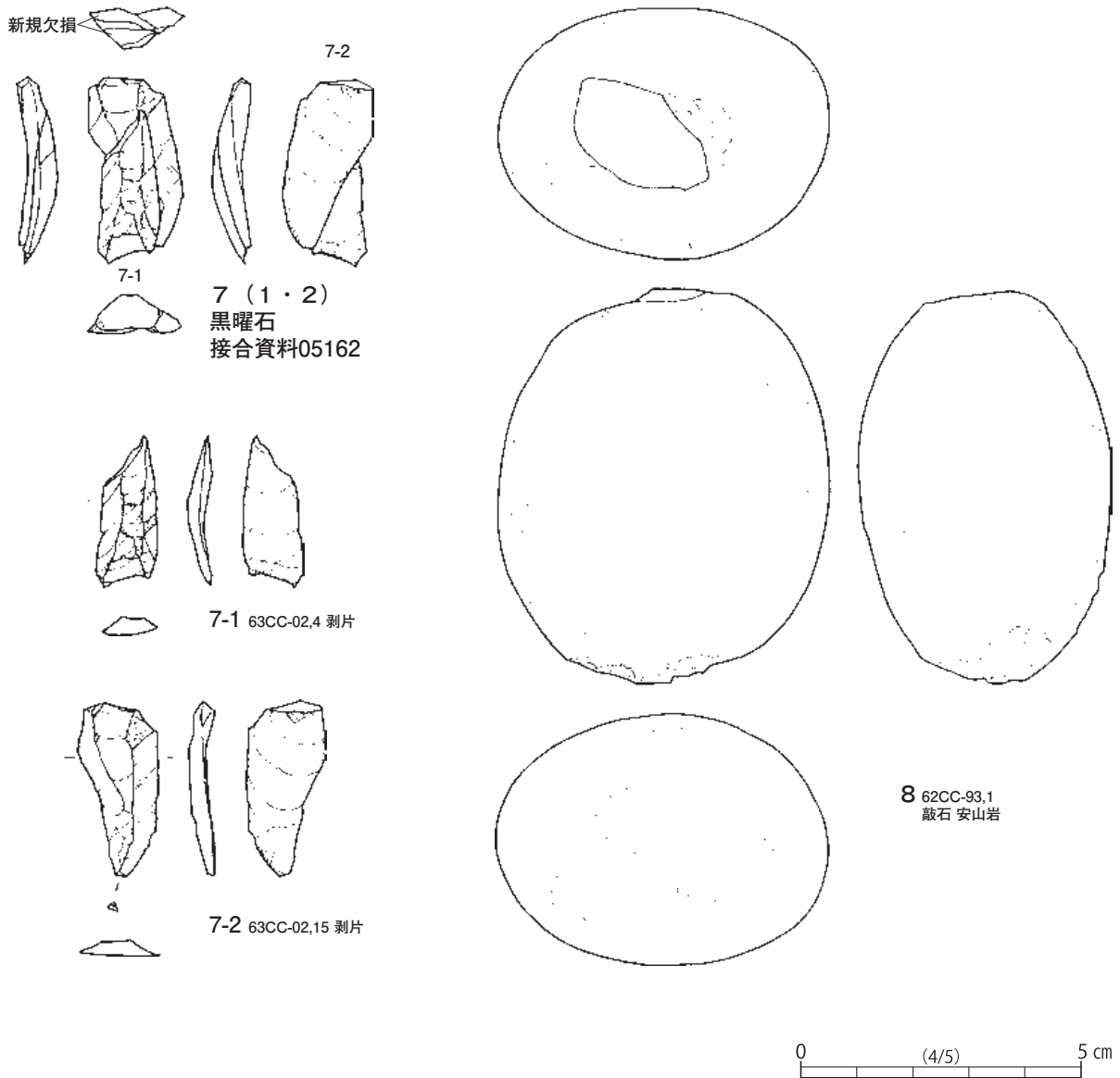


第17図 62CC-Aブロック出土遺物(2) 0 (4/5) 5 cm

下半部に微細な剥離痕が見られ、打面側を欠損する。なお、末端はヒンジである。図版 10-3 は、ガラス質黒色安山岩の石核である。求心的な剥離により小型で不定形な剥片を剥離している。

第6表 63CC-Aブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形椀形石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA													5	2	1						8	44.4%	56.64	40.6%
CH													2								2	11.1%	2.05	1.5%
SH									1												1	5.6%	41.55	29.8%
BS								1													1	5.6%	8.83	6.3%
OB													5								5	27.8%	29.19	20.9%
RHR																				1	1	5.6%	1.09	0.8%
合計	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	12	2	1	0	0	0	0	1	18	100.0%	139.35	100.0%



第18図 62CC-Aブロック出土遺物(3)

4 64CC- Aブロック (第22・23図、第7表、図版2・10)

西側地区の中央北側、64CC-05・06・15・16グリッドに分布する。4.2 m × 2.6 mの範囲から7点の石器が出土した。出土層位はⅨ層～Ⅶ層で、0.23 mの高低差をもってⅨ層を中心に包含される。

石器器種は、剥片・碎片と礫・礫片で構成される。石器石材は、黒曜石のみ、礫石材は、流紋岩のみである。

1は灰白色の不純物を含む透明度のない黒曜石の不定形な剥片である。打面側と左側面側を欠損する。掲載しなかったが、信州産と考えられる透明度の高い良質な黒曜石の剥片が1点ある。

第7表 64CC-Aブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫礫片	点数合計	重量合計 (g)		
OB													4	3							7	87.5%	11.45	94.8%
RHR																				1	1	12.5%	0.63	5.2%
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	0	0	0	0	0	1	8	100.0%	12.08	100.0%



63CC-30

63CC-31

63CC-32

63CC-33

- ▲ 二次加工のある剥片
- ▲ 微細剥離痕のある剥片
- 剥片
- 砕片
- ✕ 石核
- 人 礫片
- ・ セクションポイント

63CC-41

63CC-42

63CC-43

■ 図版10-3

○

○

○

▲1

○

63CC-50

63CC-51

63CC-52

63CC-53

▲2

●

○

○

○

○

A
19.0m

A
18.0m

63CC-60

63CC-61

63CC-62

63CC-63

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

●

○

○

○

○

○

○

○

▲

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

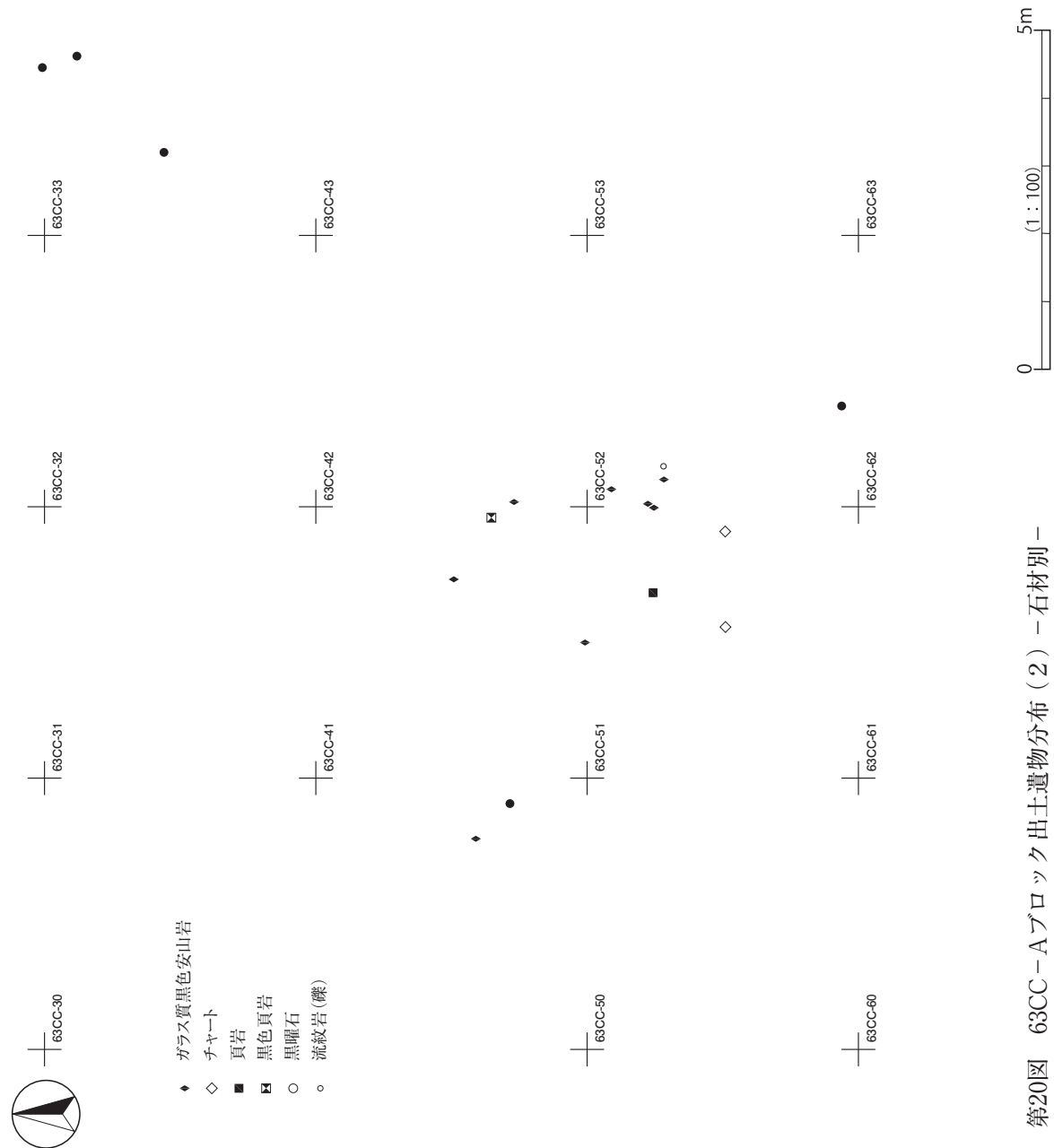
18.0m

19.0m

5m

(1:100)

第19図 63CC-Aブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -



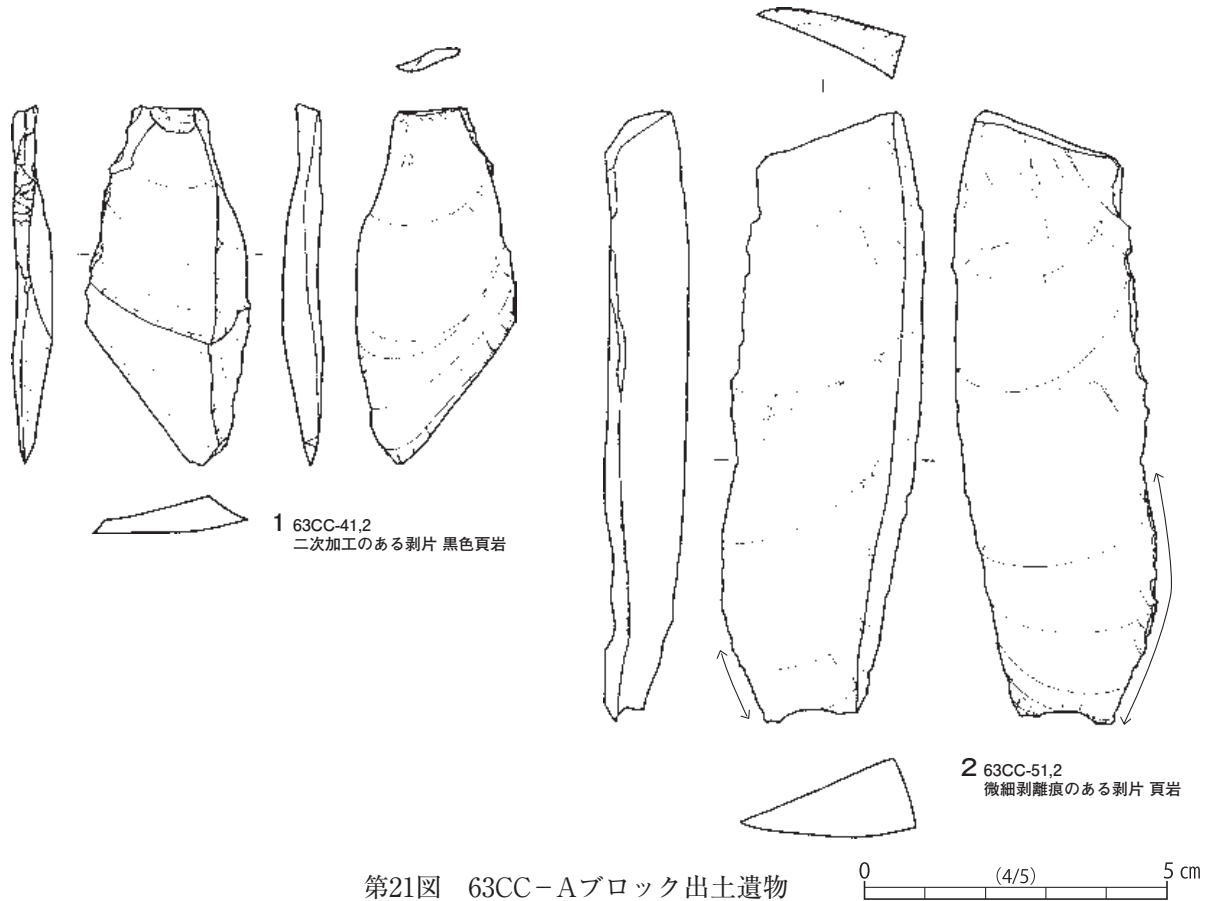
第20図 63CC-Aブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -

5 63V- Aブロック (第22～26図、第8表、図版2・11)

西側地区の西側、63V-99、64V-07～09・18・19グリッドに分布する。11.4 m×7.0 mの範囲から25点の石器が出土した。出土層位はⅨ層で、0.78 mの高低差をもって包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・剥片・碎片・石核と礫・礫片で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・流紋岩・チャート・ホルンフェルス・頁岩・粘板岩で構成される。礫石材は、流紋岩・砂岩・チャートで構成される。ナイフ形石器はチャート・頁岩で、剥片もこの2種が主体である。

1は灰褐色で頁岩に似たチャートの二側縁加工のナイフ形石器である。打面側を基部としている。正面の器体左半分は節理である。左側縁の基部と先端部、右側縁の基部に細かい調整が行われており、右側縁に微細な剥離痕が見られる。2は1に比べ若干珪化度のある暗灰色のチャートの縦長剥片あるいは石刃である。3(接合資料19001)は灰褐色で珪化度の高い頁岩の剥片2点(1個体)の接合資料である。本来

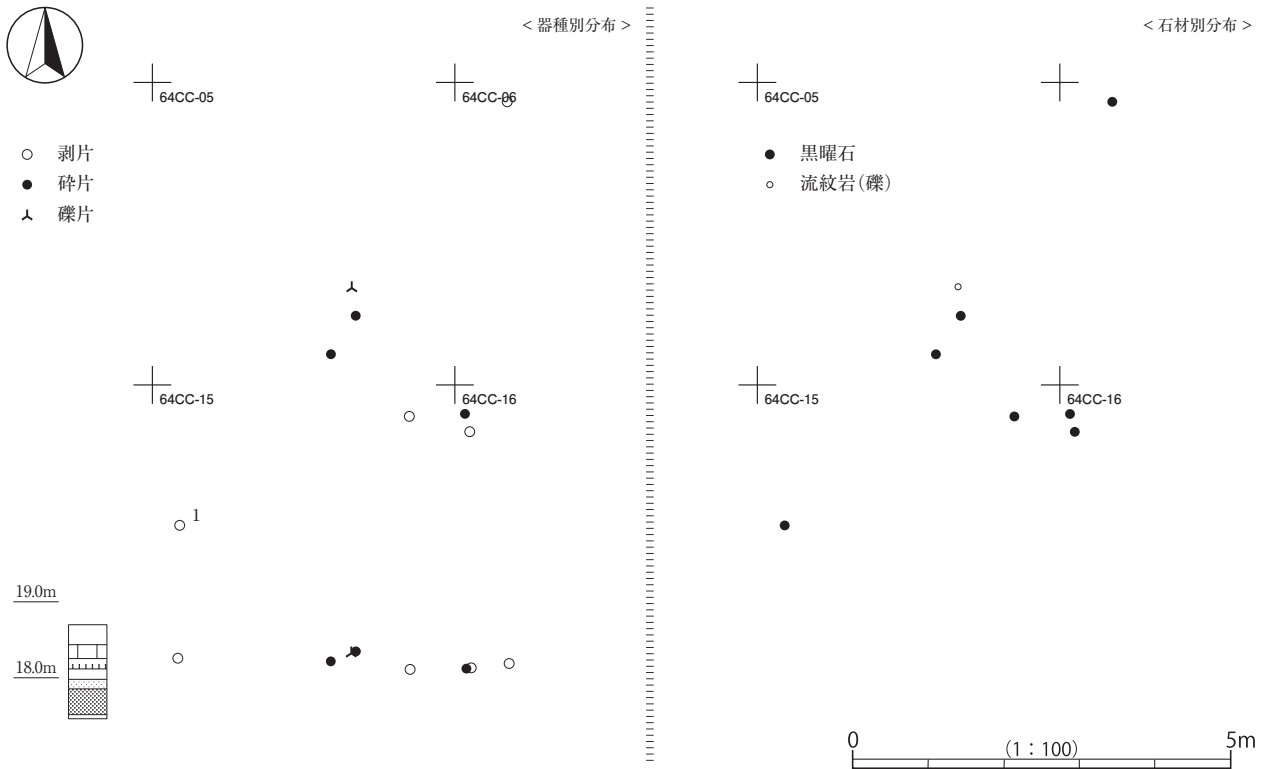


第21図 63CC-Aブロック出土遺物

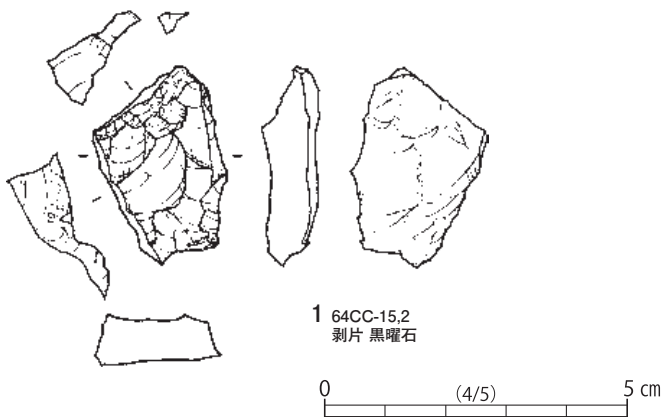
であれば、2個体であるが、接合資料の末端では主要剥離面のリングが連続することからほぼ同時に剥離したものとした。図版 11-4 はガラス質黒色安山岩の石核である。比較的小型の扁平な礫の表面の上下からの加撃により小型で不定形な剥片を剥離している。上部の稜線が多少潰れ気味であることから両極石核の可能性ある。図版 11-5 は基部加工のナイフ形石器である。石材は緑灰色で緑色凝灰岩に類似した細粒の頁岩としたが、新鮮な面が黒色であることから、黒色頁岩の可能性ある。打面側を基部として、両側縁の基部に細かい調整が行われている。図版 11-6 ~ 10 は各種石材による石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。

第8表 63V-Aブロック石器組成

石材 / 器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形礫石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計		重量合計 (g)	
GA													2		1						3	11.1%	15.02	179.0%
RH													1								1	3.7%	15.02	7.0%
CH			1										8	4							13	48.1%	26.78	12.5%
HO													1								1	3.7%	4.04	1.9%
SH			1										5								6	22.2%	24.48	11.4%
SL													1								1	3.7%	9.23	4.3%
SAR																				1	1	3.7%	111.03	51.9%
CHR																				1	1	3.7%	8.39	3.9%
合計	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	4	1	0	0	0	0	3	28	100.0%	214.25	100.0%



第22図 64CC-Aブロック出土遺物分布－器種別・石材別－



第23図 64CC-Aブロック出土遺物

6 64W- Aブロック (第27・28図、第9表、図版3・11)

西側地区の西側、64W-67～69・76・77グリッドに分布する。11.4 m × 1.7 mの範囲から11点の石器が出土した。出土層位はⅨ層～Ⅵ層で、0.78 mの高低差をもってⅨ層を中心に包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・剥片と礫・礫片で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・ホルンフェルス・黒曜石で構成される。礫石材は、流紋岩のみである。ナイフ形石器は黒曜石で、剥片はガラス質黒色安山岩が主体である。

1は灰白色の不純物を含む透明度のない高原山産と考えられる黒曜石のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用いている。調整は両側縁に施されているが、左側縁は上半部を中心に微細な調整が施され、右

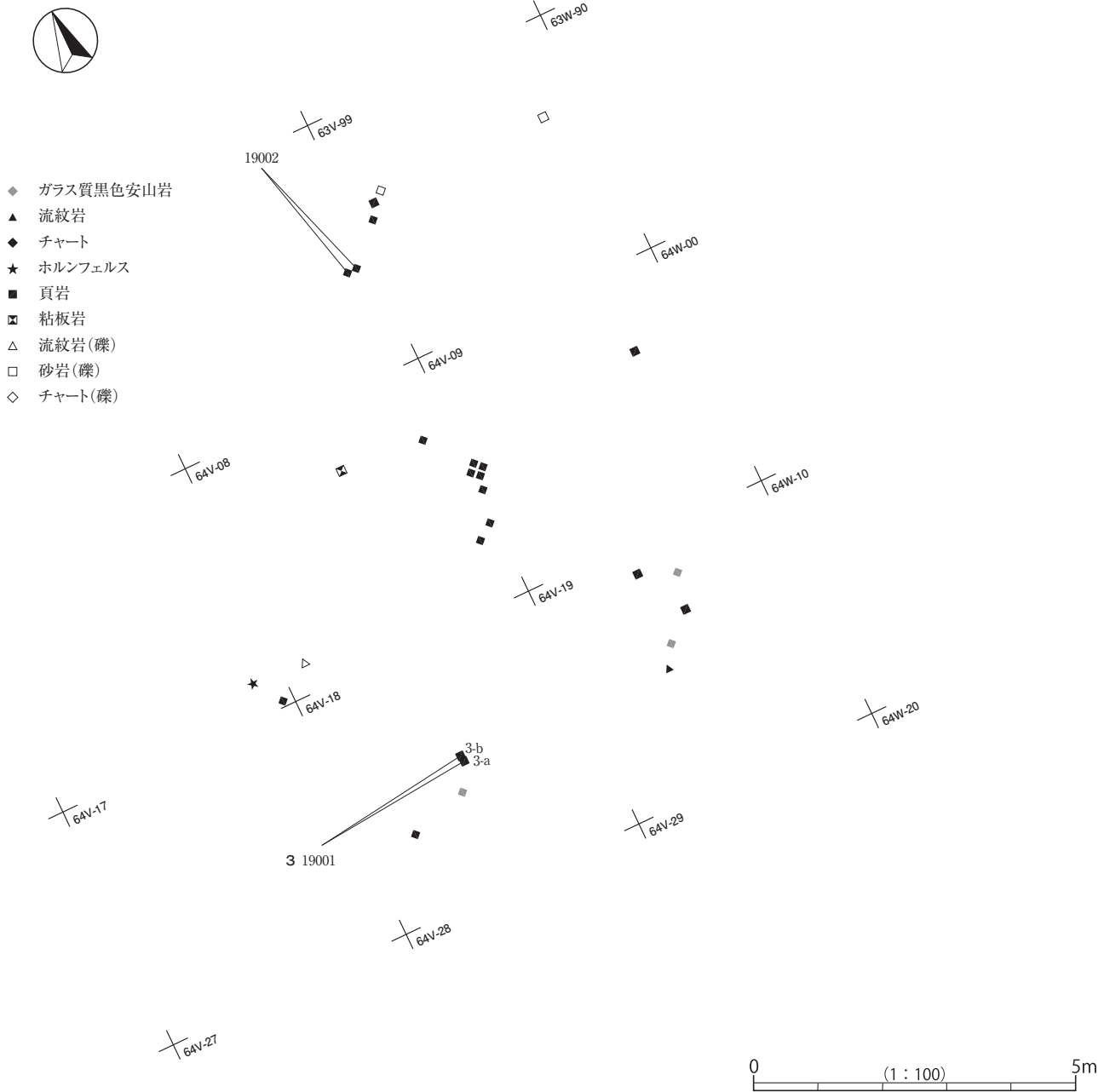


第24図 63V-Aブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -

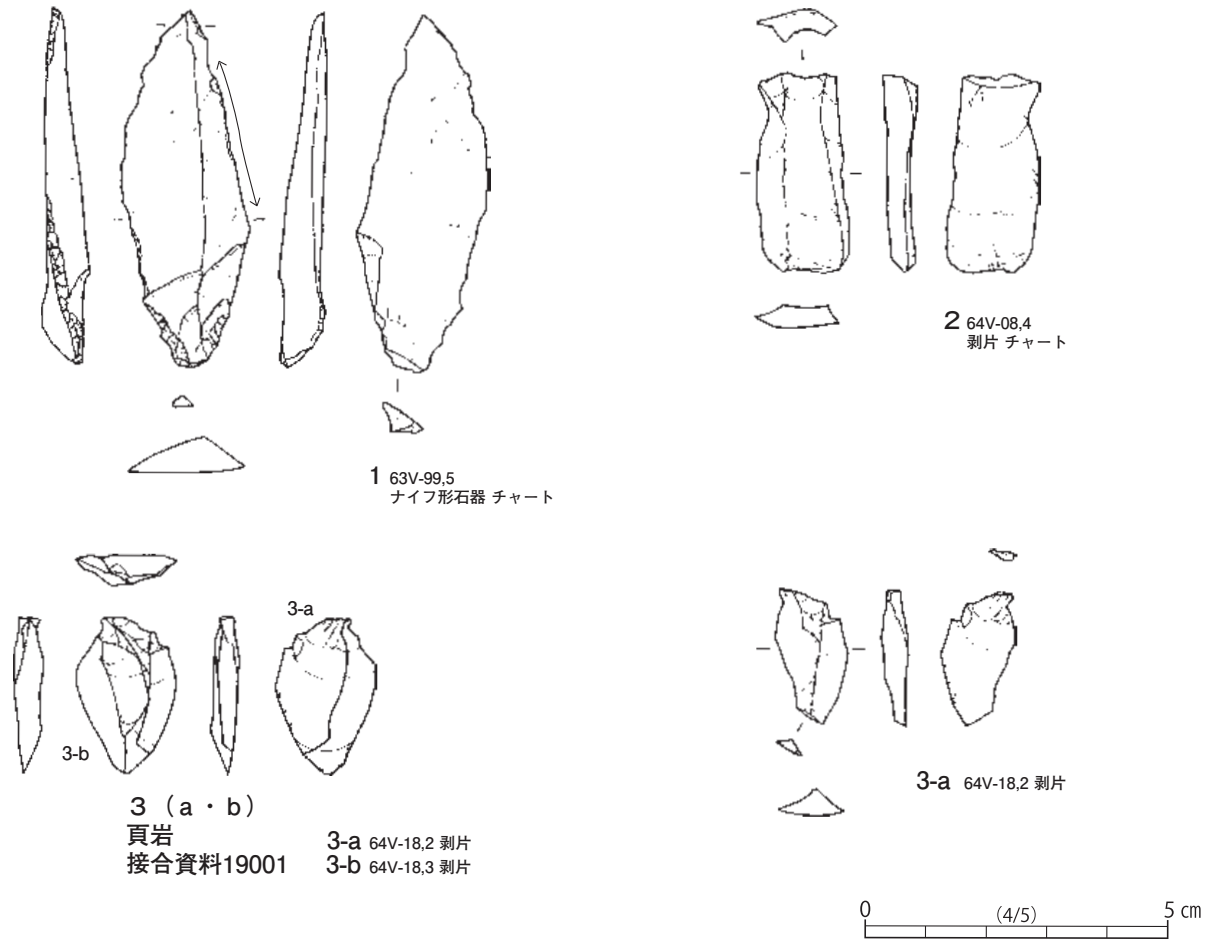
側縁は全体に急角度の調整が入念に施されている。裏面先端の右側に衝撃による可能性のある剥離痕が見られる。なお、裏面右側縁の下半部は剥離時の欠損の可能性もあるが、不純物により上部の調整と下部の欠損の新旧関係は不明である。仮に使用時の欠損と考えると表面左側縁の調整は全体に施されていることになる。図版 11-2 はガラス質黒色安山岩の石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。図版 11-3 はホルンフェルスの剥片である。下半部を欠損することから、断定はできないが、打面部に多少潰痕状の剥離痕が両面に見られることや線状であることなどから、両極剥片の可能性はある。

第9表 64W-Aブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計		重量合計 (g)	
GA													9								9	64.3%	54.25	38.6%
HO													1								1	7.1%	33.96	24.1%
OB			1																		1	7.1%	3.82	2.7%
RHR																				3	3	21.4%	48.65	34.6%
合計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	3	14	100.0%	140.68	100.0%



第25図 63V-Aブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -



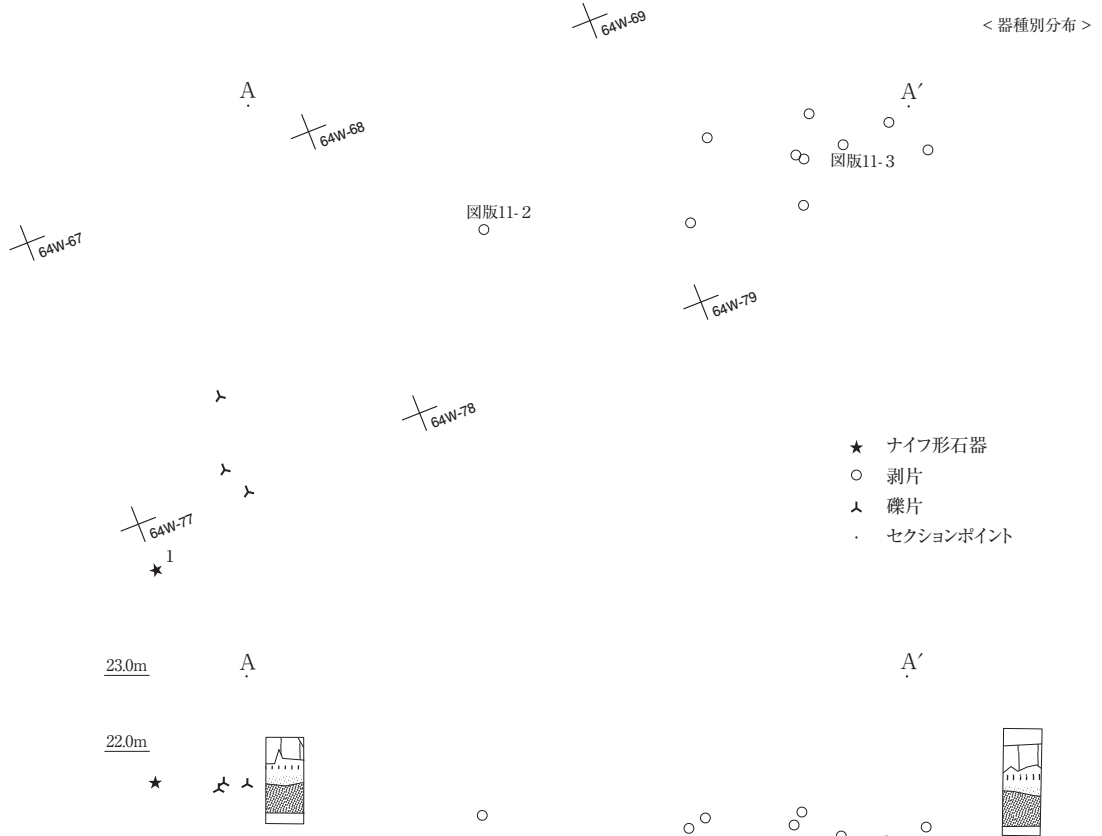
第26図 63V-Aブロック出土遺物

7 64CC- Bブロック (第29～31図、第10表、図版3・12・13)

西側地区のほぼ中央、64CC-80・91～94、65CC-00・01～04・10・11・13～15グリッドに分布する。19.2 m × 14.3 mの範囲から55点の石器と5点の礫が出土した。出土層位はⅢ層～Ⅹ層で、1.44 mの高低差をもってⅨ層を中心に包含される。

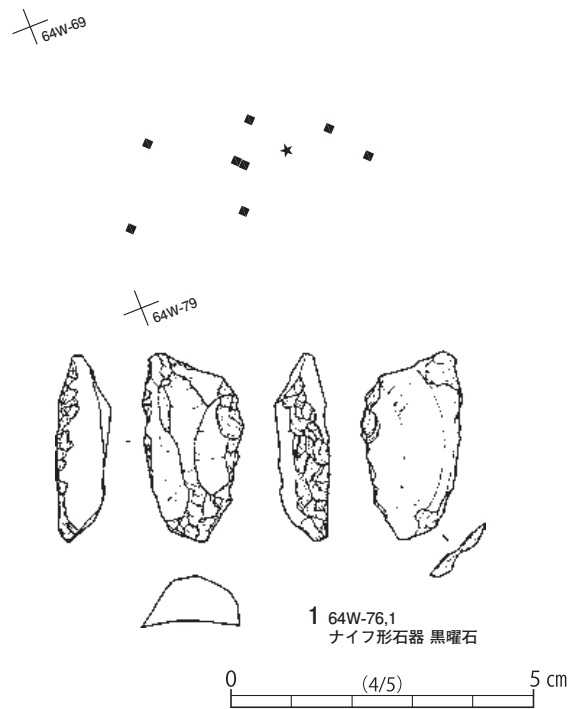
石器器種は、ナイフ形石器・台形様石器・剥片・碎片・石核と礫・礫片で構成され、剥片・碎片が主体である。石器石材は、チャート・ホルンフェルス・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成される。礫石材は、流紋岩・砂岩で構成される。ナイフ形石器は頁岩・黒曜石で、剥片・碎片はチャートが主体である。

1は透明度のない黒灰色の黒曜石のナイフ形石器である。打面側を先端部としている。左側縁の全体と右側縁の基部に細かい調整が行われており、右側縁上半に調整と異なる微細な剥離痕が見られる。なお、左側縁先端に残る折断面の下の剥離痕は、周辺とは多少光沢が異なることからガジリの可能性が考えられるが、実体顕微鏡での剥離面の観察では風化に差がないことから、調整加工とした。2は珪化度の高い灰褐色の頁岩のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用いている。調整は両側縁に施されているが、左側縁は中間部に急角度の調整が施され、右側縁は全体に急角度の調整が施されている。先端部は欠損している。3は灰白色の地に黒色の線が入るチャートの台形様石器あるいはナイフ形石器である。横長剥片を横位に用いている。急角度で対向する調整が両側縁に施されているが、先端部と右側縁の上部は欠損している。欠損部位を考えるとナイフ形石器の可能性が高い。4は黄粉をまぶしたような泥質のホルンフェルス

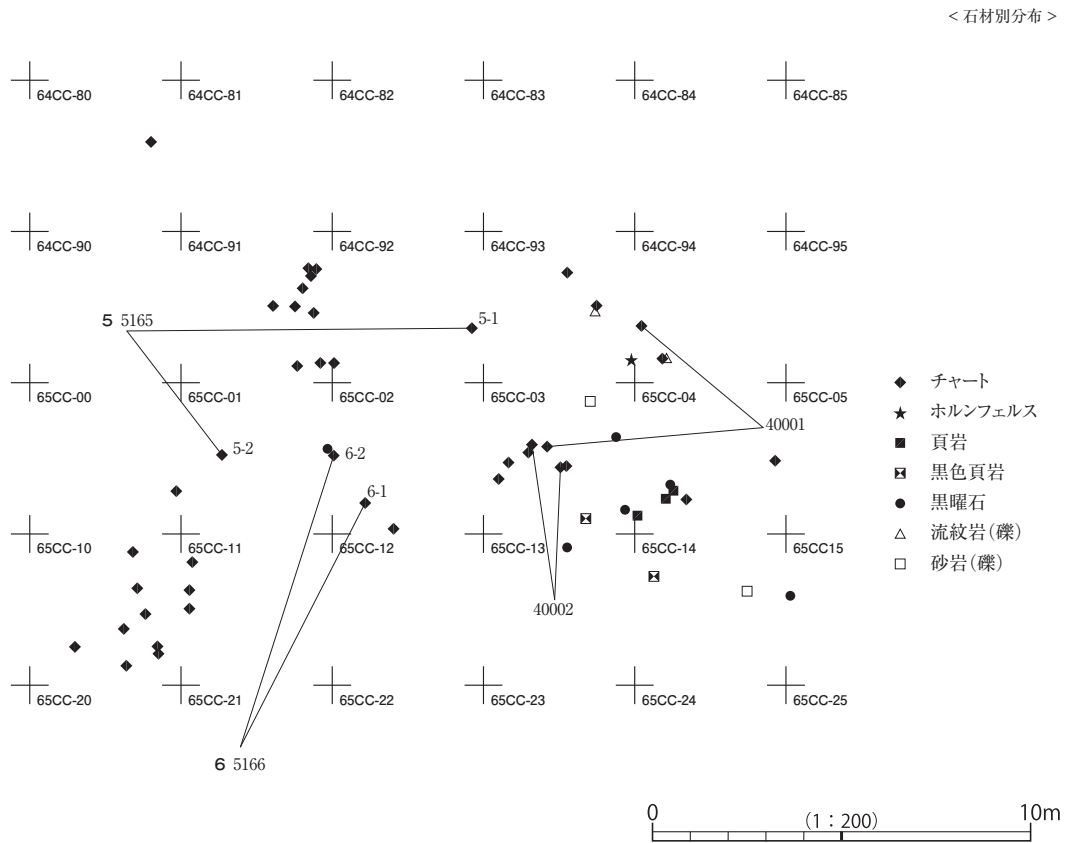
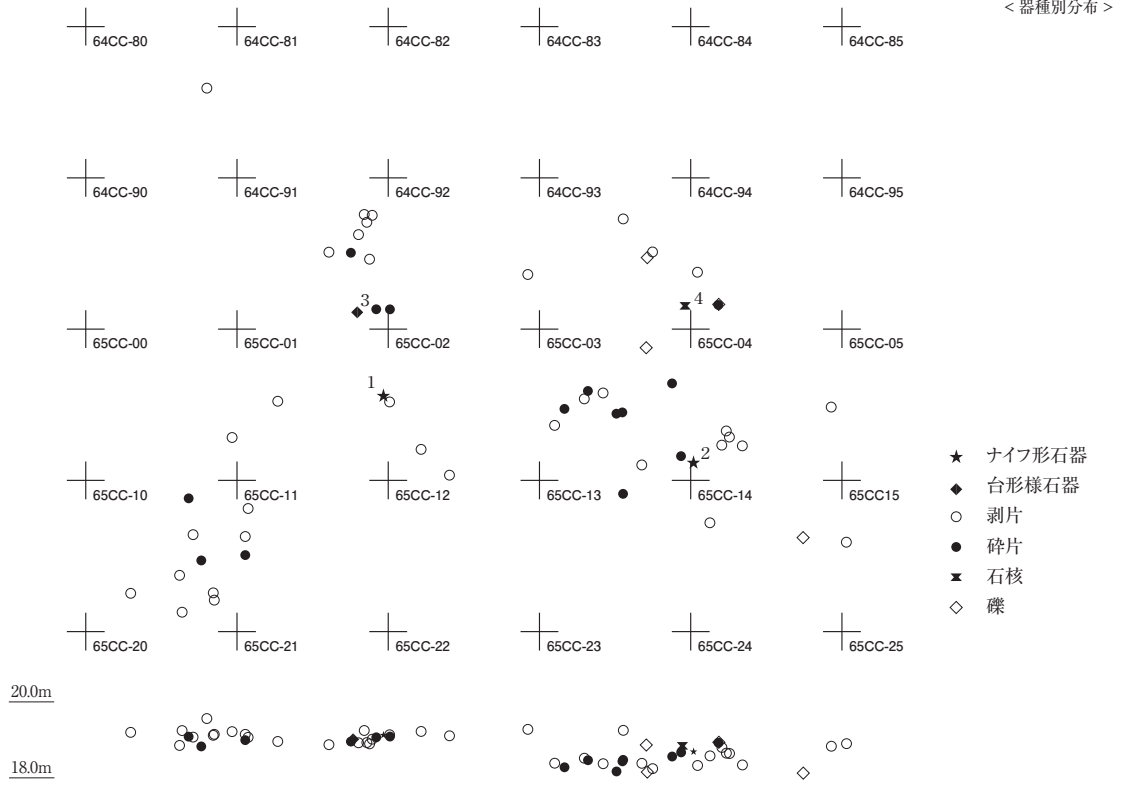


0 (1:100) 5m

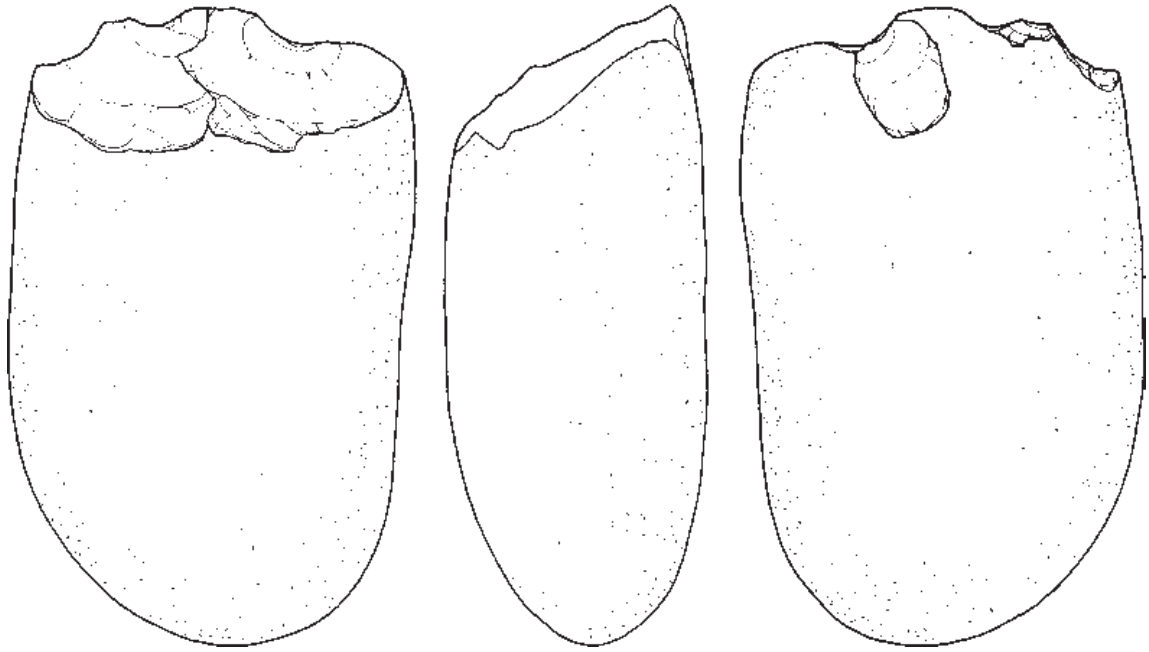
第27図 64W-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-



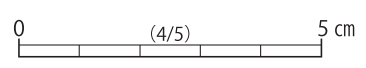
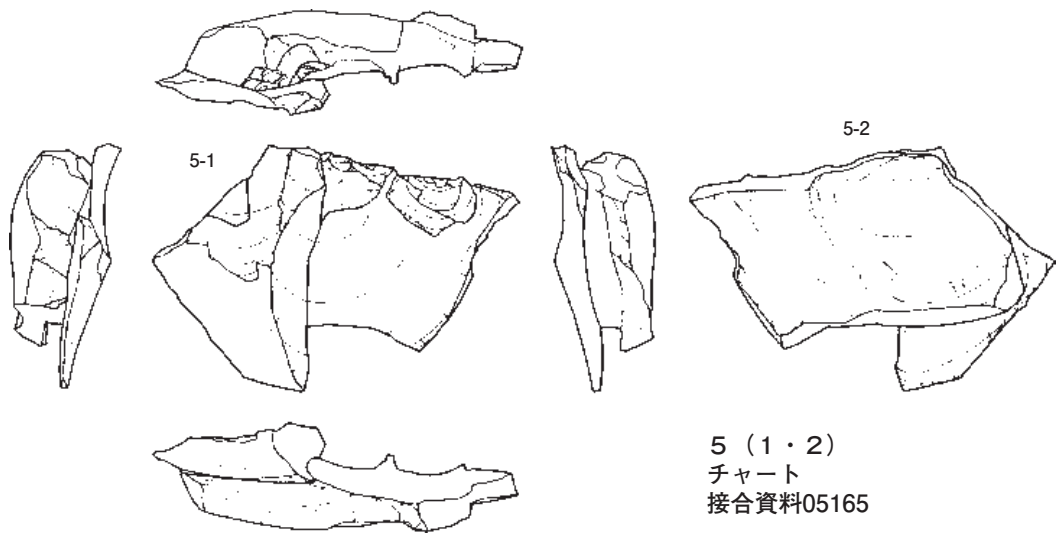
第28図 64W-Aブロック出土遺物



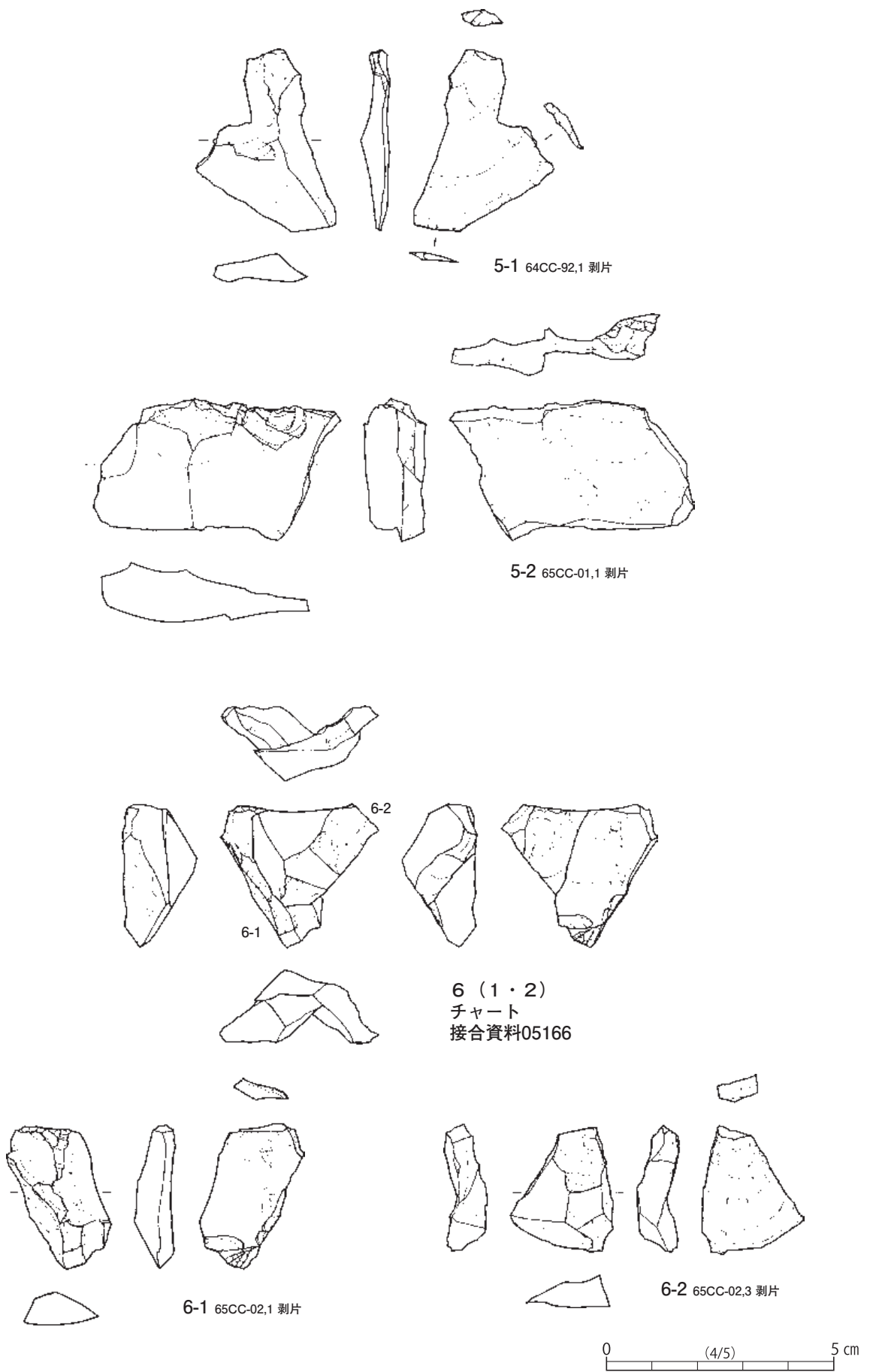
第29図 64CC-Bブロック出土遺物分布-器種別・石材別-



4 64CC-93.2
石核 ホルンフェルス



第30図 64CC-Bブロック出土遺物(1)



第31図 64CC-Bブロック出土遺物(2)

の石核である。細長い扁平な礫を素材として、表面を主体として小型で横長の剥片を剥離している。5（接合資料 05165）は灰褐色の地に黒色の縞や線が入るチャートの剥片 2 点の接合資料である。縦長で不定形な 5-1 を剥離後、打面調整を行いながら、小型で不定形な剥片を剥離し、横長の 5-2 を剥離している。6（接合資料 05166）は灰白色の地に黒灰色の線が入るチャートの剥片 2 点の接合資料である。不定形な 6-2 を剥離後、打面を 90 度転回して縦長の 5-2 を剥離している。6-1 の背面を見ると頻繁に打面を転移していることが分かる。

第10表 64CC-Bブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫礫片	点数合計	重量合計 (g)		
CH				1									29	12							42	70.0%	228.13	15.1%
HO															1						1	1.7%	443	29.3%
SH			1										2								3	5.0%	3.3	0.2%
BS													2								2	3.3%	28.79	1.9%
OB			1										2	4							7	11.7%	31.01	2.0%
RHR																				3	3	5.0%	614.92	40.6%
SAR																				2	2	3.3%	164.98	10.9%
合計	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	35	16	1	0	0	0	0	5	60	100.0%	1514.13	100.0%

8 64CC-Cブロック（第32・33図、第11表、図版3・13）

西側地区のほぼ中央、64CC-88・98、65CC-08・18・19・29、65D-01 グリッドに分布する。14.3 m × 14.1 m の範囲から 16 点の石器が出土した。出土層位はⅨ層で、0.41 m の高低差をもって包含される。

石器器種は、剥片・碎片と礫・礫片で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成され、頁岩・黒曜石が主体である。礫石材は、流紋岩のみである。

1（接合資料 21007）は黄灰色の不純物を含む透明度のない黒灰色の黒曜石の剥片 3 点（2 個体）の接合資料である。両個体とも自然面を大きく残し、灰褐色で紙やすり状である。同一打面から剥離されているが、1-1 は線状に近い小さな打面であることに比べ、1-2 の打面は広い。1-2 は上下に欠損する。2（接合資料 21001）は珪化度の高い灰褐色の頁岩の剥片 3 点（2 個体）の接合資料である。不定形な 2-1a・2-1b は剥離時の同時欠損と考えられるが、剥離後、打面を 90 度転回して 2-2 を剥離している。上部と右側を大きく欠損している。掲載しなかった資料に、良質なチョコレート頁岩の石刃状の縦長剥片が 1 点あり、背面の一部に稜上調整の剥離痕が見られることから、稜付石刃の可能性が高い。残りは 1・2 同様の不定形な剥片である。

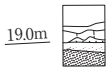
第11表 64CC-Cブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA													1								1	5.3%	16	12.9%
SH													7	1							8	42.1%	35.87	29.0%
BS													1								1	5.3%	2.16	1.7%
OB													6								6	31.6%	22.85	18.5%
HOR																				3	3	15.8%	46.85	37.9%
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	1	0	0	0	0	0	3	19	100.0%	123.73	100.0%



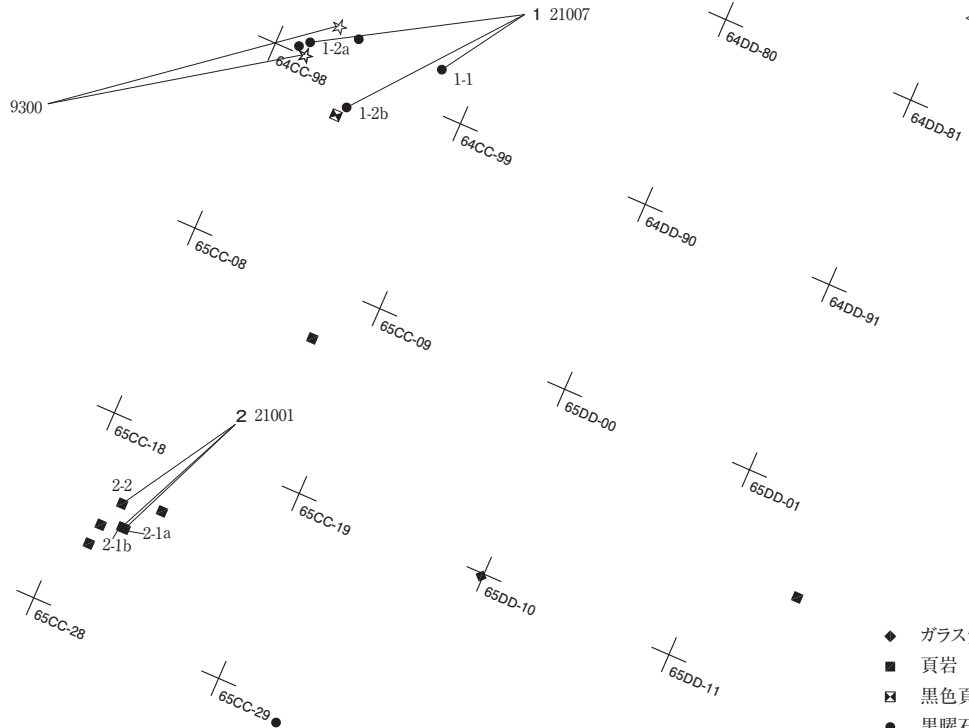
- 剥片
- 碎片
- 人 礫片

< 器種別分布 >



18.0m

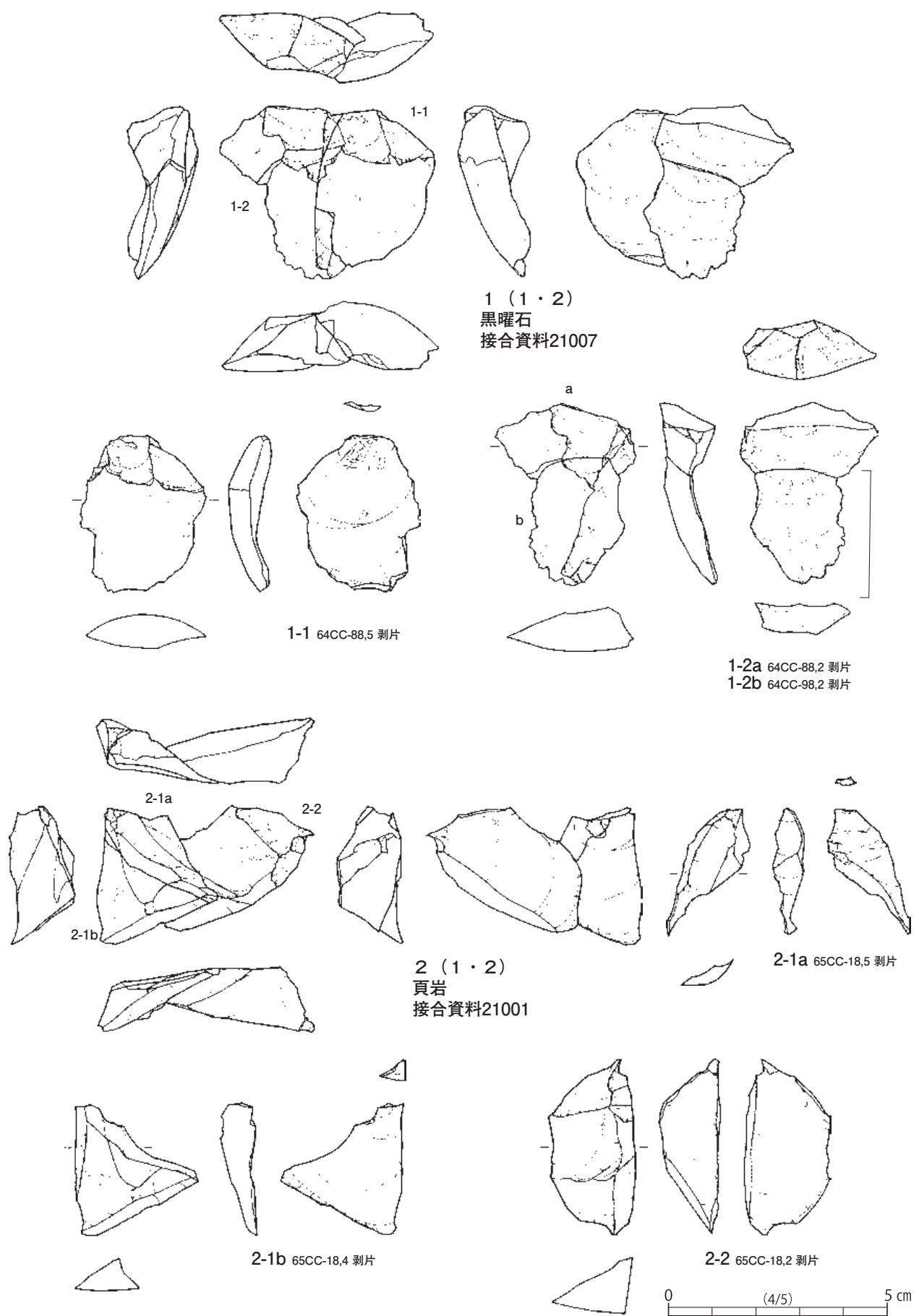
< 石材別分布 >



- ◆ ガラス質黒色安山岩
- 頁岩
- ⊠ 黒色頁岩
- 黒曜石
- ☆ ホルンフェルス(礫)

0 (1:150) 6m

第32図 64CC-Cブロック出土遺物分布-器種別・石材別-



第33図 64CC-Cブロック出土遺物

9 65CC- Aブロック (第34～38図、第12表、図版3・14・15)

西側地区のほぼ中央、65CC-25・26・34・36・36・45・46・54・63・73・83・84グリッドに分布する。10.0 m×18.2 mの範囲から21点の石器が出土した。出土層位はⅨ層で、1.43 mの高低差をもって包含される。65CC-Bブロックとブロック間接合がある。

石器器種は、ナイフ形石器・剥片・石核で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・安山岩・流紋岩・チャート・ホルンフェルス・頁岩で構成される。ナイフ形石器は頁岩で、剥片を含み頁岩が主体で、ガラス質黒色安山岩がこれに次ぐ。

1は灰褐色と黒灰色の縞や線が入る珪化度の高い頁岩の部分加工のナイフ形石器である。石刃状の縦長剥片を素材とし、打面側を基部としている。左側縁基部に細かい調整、右側縁上部に急角度の調整を施している。器体の下半部には自然面、同上部には稜上調整が見られる。2は良質なチョコレート頁岩の二側縁加工のナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし、打面側を基部としている。左側縁基部と右側縁全体に急角度で細かい対向調整を施している。背面には素材の剥離軸とは異なる右方向からの剥離痕が見られる。3は灰褐色のチャートの石核である。打面と作業面を90度入れ替えながら、不定形な剥片を剥離している。4(接合資料21012)はガラス質黒色安山岩の石核2点の接合資料である。65CC-Bブロックの42の裏面に残るポジティブと思われる剥離面から、大型の剥片を素材としたと考えた。4から小型で不定形な剥片を90度転回して数枚剥離後、41・42に欠損し、その後もそれぞれを石核として小型で不定形な剥片を剥離している。図版15-5は灰褐色の珪化度の高い頁岩の石刃状の縦長剥片である。剥離時に右側縁を槌状に欠損しているが、欠損面に微細な剥離痕は見られない。図版15-6は良質なチョコレート頁岩の剥片である。明らかに作業面と見られる剥離面はないが、全体形状や下面に残る剥離面、左側に見られる打面調整と思われる剥離痕から打面再生剥片の可能性はある。

第12表 65CC-Aブロック石器組成

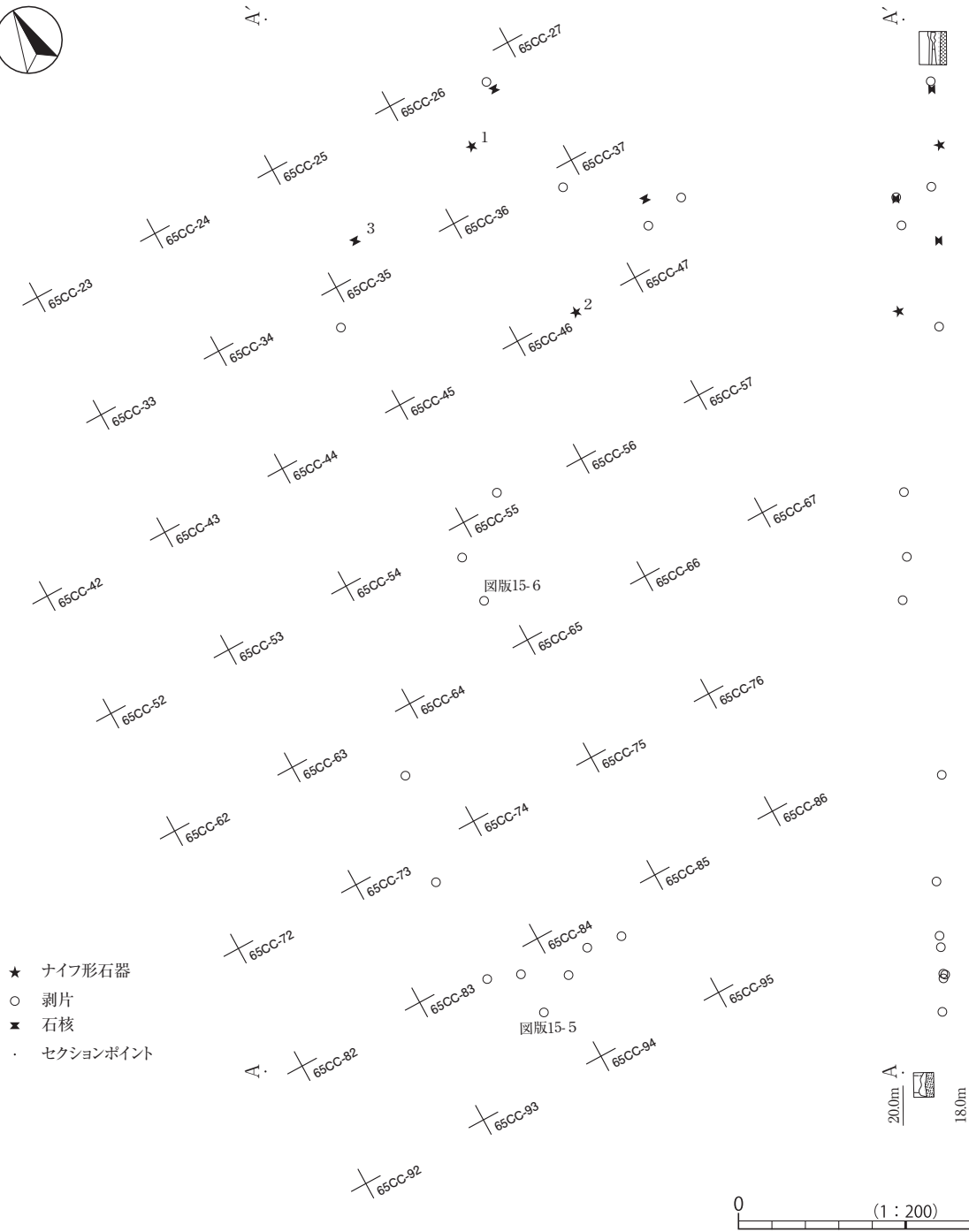
石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形錐石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA													4		2						6	28.6%	155.08	37.0%
AN													1								1	4.8%	2.65	0.6%
RH													1								1	4.8%	30.65	7.3%
CH															1						1	4.8%	38.26	9.1%
HO													3								3	14.3%	96.87	23.1%
SH			2										7								9	42.9%	95.85	22.9%
合計	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	3	0	0	0	0	0	21	100.0%	419.36	100.0%

10 65CC- Bブロック (第39～43図、第13表、図版3・15・16)

西側地区のほぼ中央、65CC-86・87・96～98、66CC-06～08・17グリッドに分布する。7.7 m×11.9 mの範囲から49点の石器が出土した。出土層位はⅨ層～Ⅵ層で、0.39 mの高低差をもってⅨ層を中心に包含される。65CC-Aブロックとブロック間接合がある。

石器器種は、楔形石器・二次加工のある剥片・剥片・碎片・石核で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・流紋岩・ホルンフェルス・頁岩・黒色頁岩・玉髓で構成される。ガラス質黒色安山岩が主体で、頁岩がこれに次ぐ。

1は珪化度の高い灰褐色の頁岩の楔形石器である。裏面に対向する細かい剥離痕が見られることから両

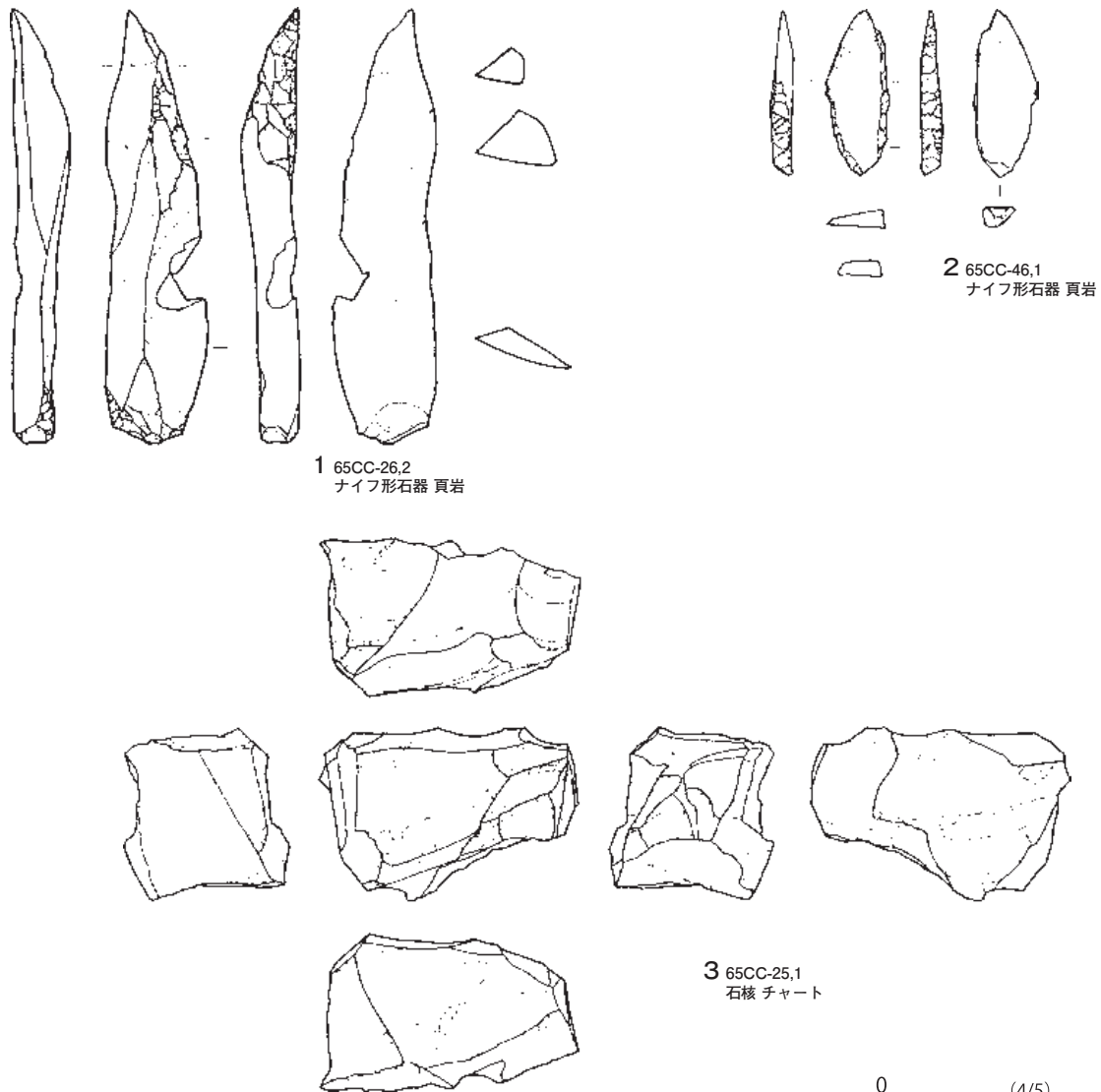


第34図 65CC-Aブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -



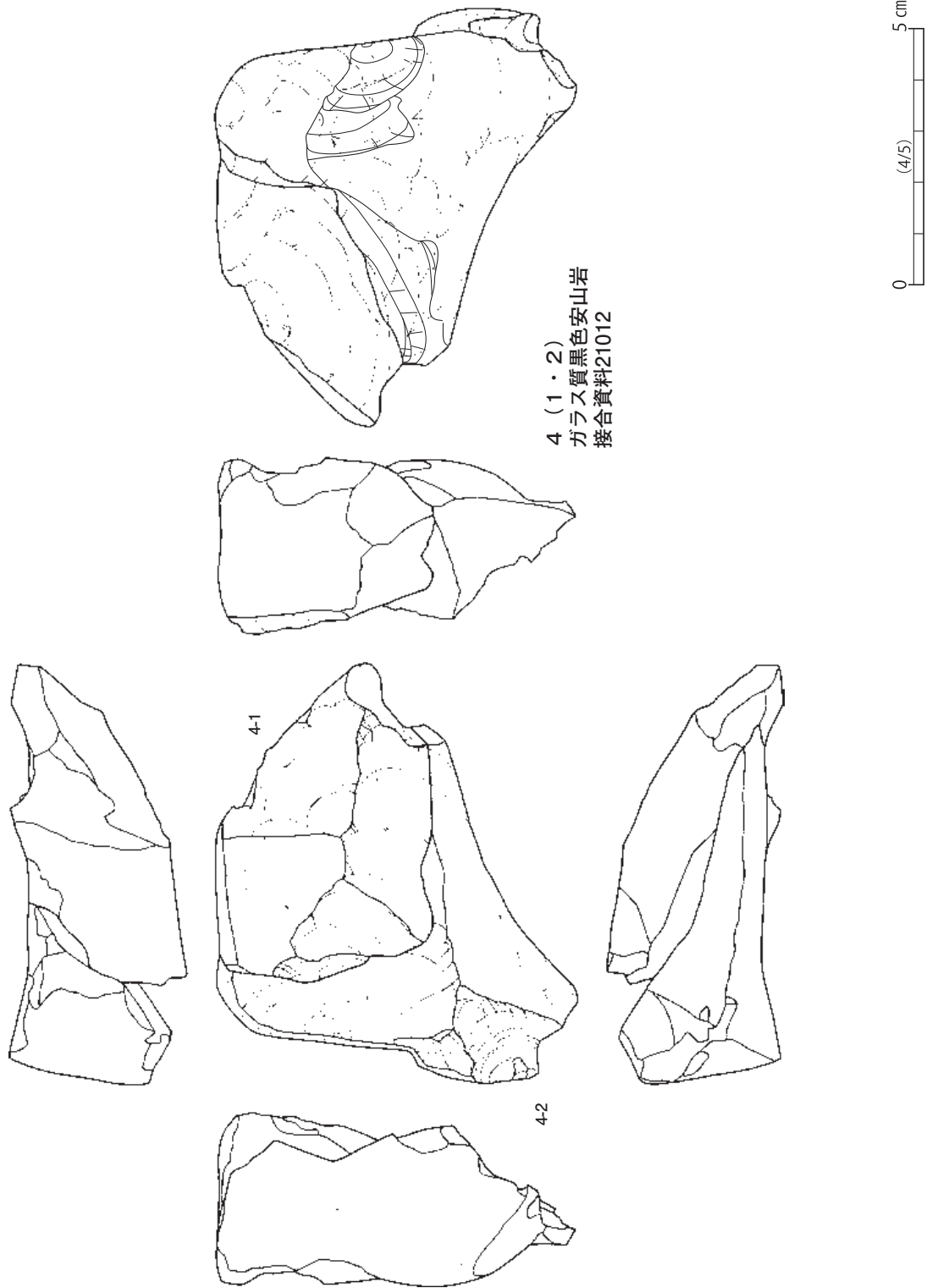
第35図 65CC-Aブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -

極石核の可能性が高い。2は黄粉をまぶしたような泥質のホルンフェルスの二次加工のある剥片である。表面に自然面の残る縦長剥片の左側縁に急角度の調整を施している。打面側を基部とするナイフ形石器の可能性はある。3はガラス質黒色安山岩の石核である。大型の楕円礫を素材として、不定形な剥片を剥離している。4（接合資料 21005）は黒灰色の頁岩の石核1点・剥片3点の接合資料である。大型の石核から4-1～4-3を剥離し、数枚の小型の剥片を剥離した後、4-4が剥離されている。4-1～4-3は剥離した際、4-1・4-2と4-3の2つに欠損したが、前者は上下の節理・自然面を打面として、4-3のような小型で不定形な剥片を剥離している。図版 16-5は灰褐色・灰白色・灰黒色が混じる比較的珪化度の高い頁岩の石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。表面に自然面を残し、背面に残る剥離面の方向は加撃軸と同一である。火撥ねによる剥離痕に類似する痕跡が見られることから、色調の変化は被熱による可能性がある。図版 16-6・7は灰白色のトロトロ石の石器である。図版 16-6は表面に自然面を残す石刃状の縦長剥片、図版 16-7は表面の右半分に自然面を残す縦長剥片を素材とした石核である。素材は全面が自然面の剥片であったと思われる。左側に裏面から加撃して小型で不定形な剥片を剥離している。図版 16-8・9はガラス質黒

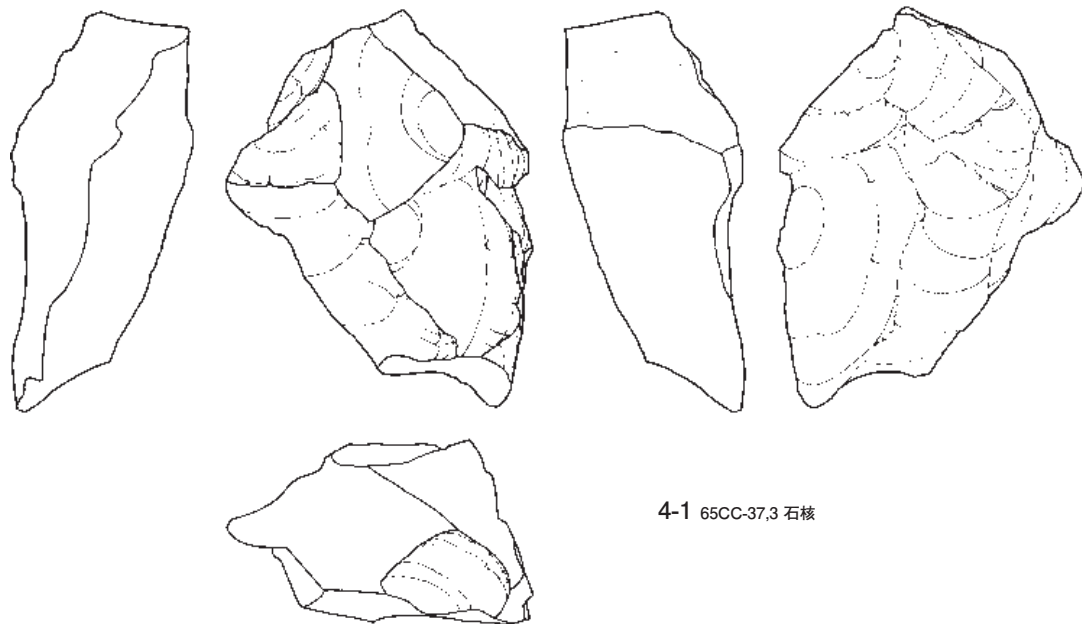


第36図 65CC-Aブロック出土遺物(1)

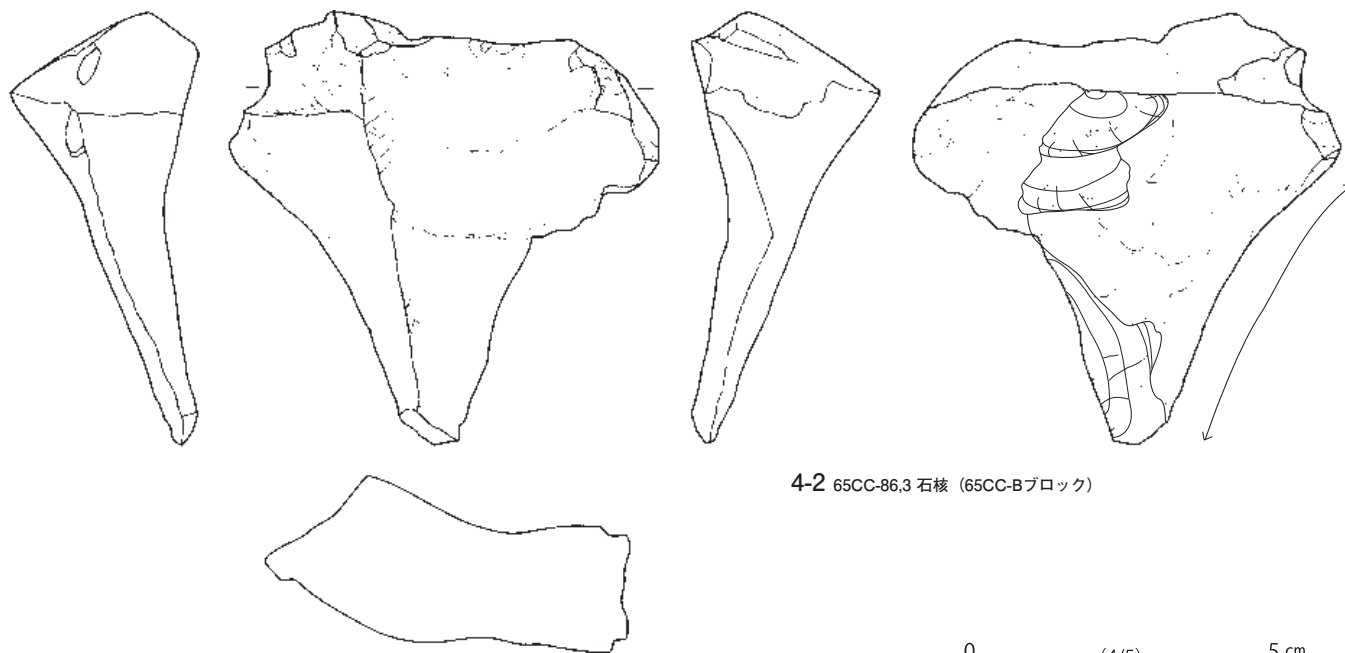
色安山岩の石核である。図版 16-8 は小型の角礫を素材とし、打面と作業面を入れ替えながら、小型で不定形な剥片を剥離している。図版 16-9 は表面の左半分に自然面を残す縦長剥片を素材とした石核である。図版 16-7 とは逆に、表面から加撃して小型で不定形な剥片を剥離している。



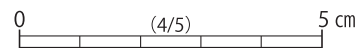
第37図 65CC-Aブロック出土遺物(2)



4-1 65CC-37.3 石核



4-2 65CC-86.3 石核 (65CC-Bブロック)



第38図 65CC-Aブロック出土遺物(3)

第13表 65CC-Bブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状 石器	ナイフ 形石器	台形様 石器	彫器	搔器	楔形 石器	二次 加工	微細 剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫 片	点数合計	重量合計 (g)		
GA													18	4	4						26	53.1%	1339.4	80.2%
TO													2	1	1						4	8.2%	80.38	4.8%
RH													2								2	4.1%	35.21	2.1%
HO								1					1								2	4.1%	15.19	0.9%
SH							1						10		1						12	24.5%	182.42	10.9%
BS													1	1							2	4.1%	4.91	0.3%
CC													1								1	2.0%	12.27	0.7%
合計	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	35	6	5	0	0	0	0	0	49	100.0%	1669.78	100.0%



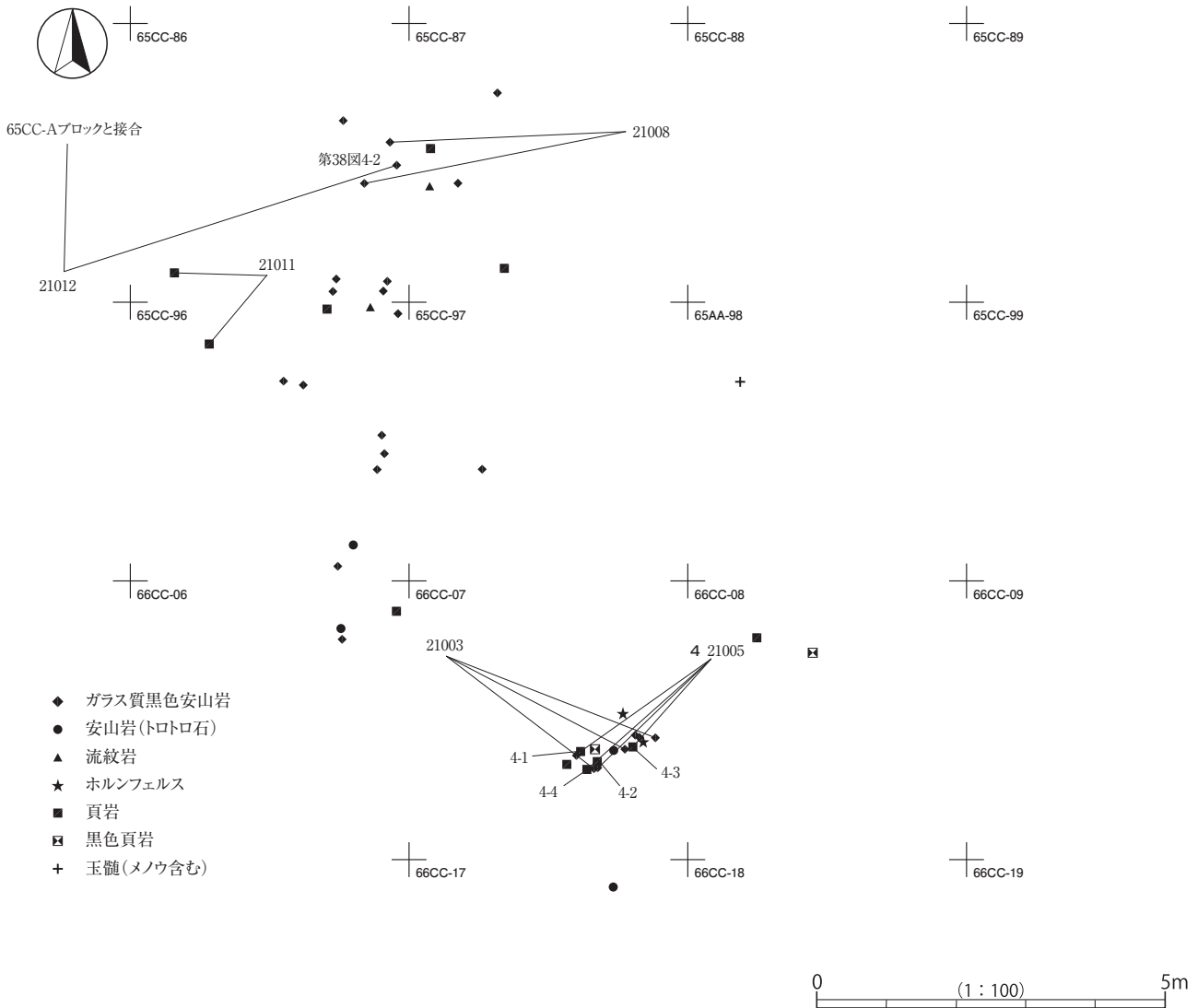
第39図 65CC-Bブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -

11 66CC-A ブロック (第4・44・45 図、第14 表、図版3・17)

西側地区のほぼ中央、66CC-00・01・10～12 グリッドに分布する。2.2 m×6.0 mの範囲から8点の石器が出土した。出土層位はⅨ層～Ⅶ層で、0.49 mの高低差をもってⅨ層を中心に包含される。

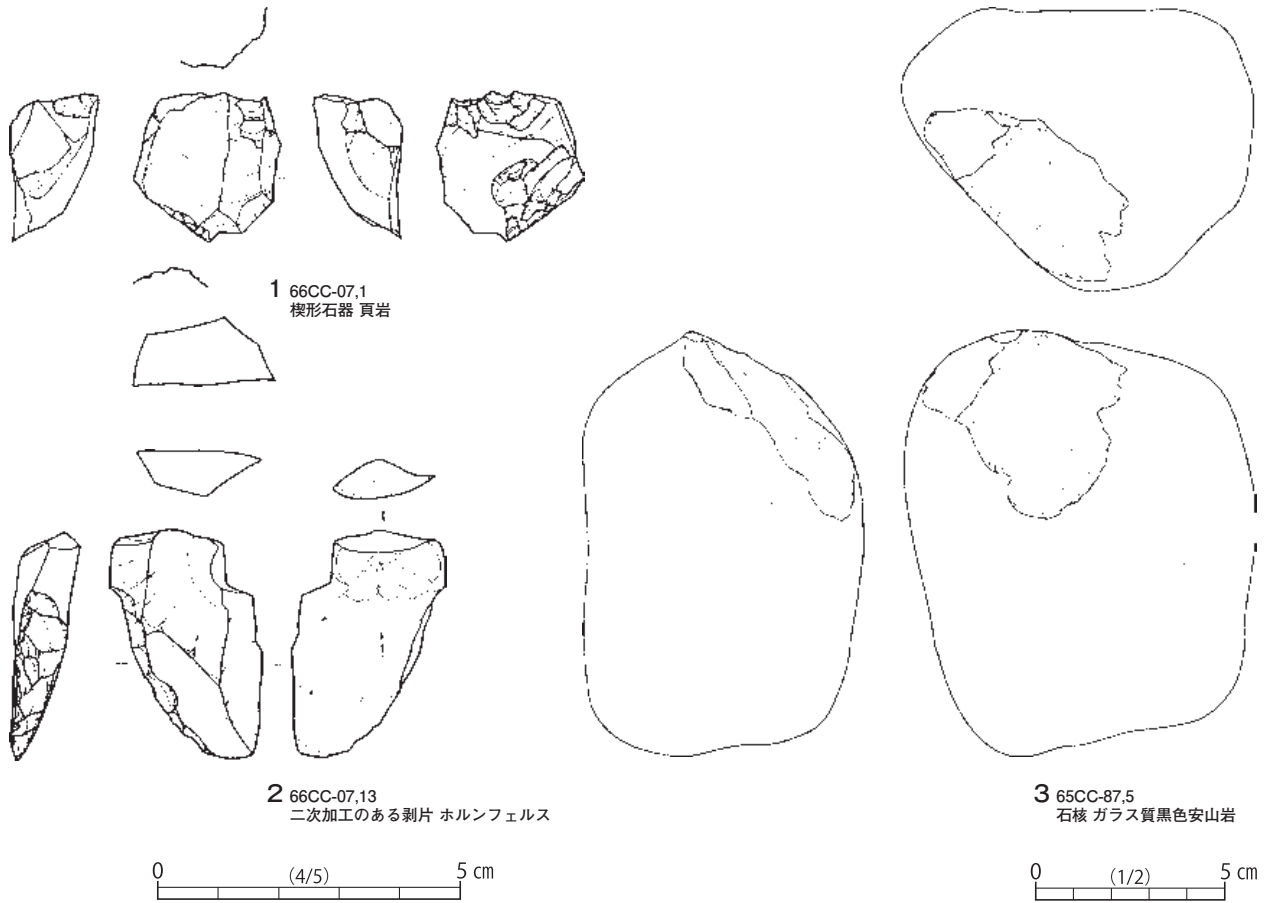
石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・石核で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成される。ナイフ形石器・石核の黒色頁岩が主体である。

1は黒色頁岩のナイフ形石器である。剥片を横位に用いている。調整は両側縁に施されているが、左側縁は全体に急角度の調整が行われており、特に打面部と想定される中間部は対向調整が施されている。右側縁は基部に急角度の対向調整が施されている。2は自然面が黄土色、内部が黄土色の地に黄灰色が混じ



第40図 65CC-Bブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -

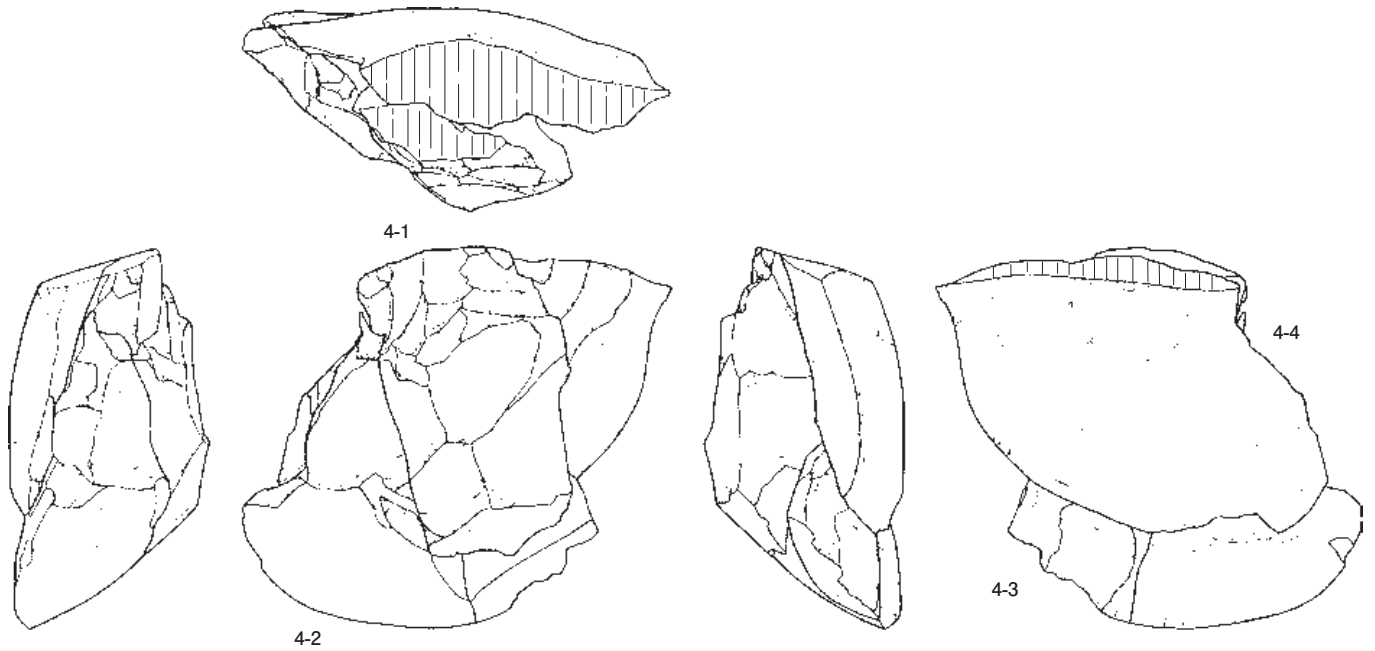
る嶺岡産と考えられる頁岩の二次加工のある剥片である。上部を欠損した縦長剥片の左側縁に調整加工を施している。なお、図では、調整加工と表現したが、左側縁の自然面の部位は稜線が磨耗しているように見えることから剥離前の剥離痕(自然面)の可能性が高い。また、右側縁の自然面より上の部位についても、全体的に磨耗しているように見えることから節理(自然面)の可能性が高い。3(接合資料21009)は黒色頁岩の石核1点・剥片1点の接合資料である。3の表面の左右に残るような大型の剥片、さらに3-1などの不定形な剥片を剥離した後、3-2が節理で分割されている。3-2はその後も小型で不定形な剥片を剥離している。図版17-4は灰白色の不純物を含み黒色と黒灰色が交互に混じる透明度のない黒曜石の剥片である。



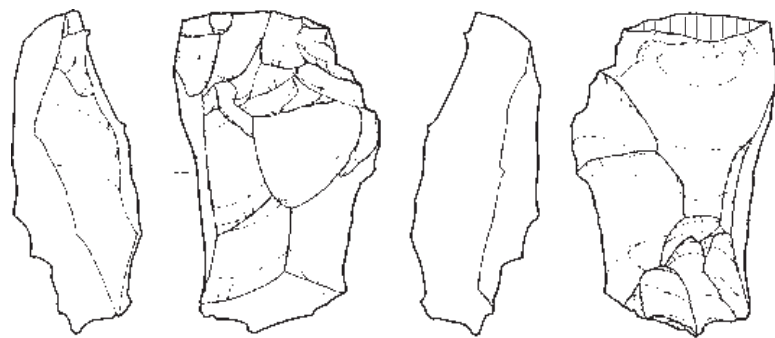
第41図 65CC-Bブロック出土遺物(1)

第14表 66CC-Aブロック石器組成

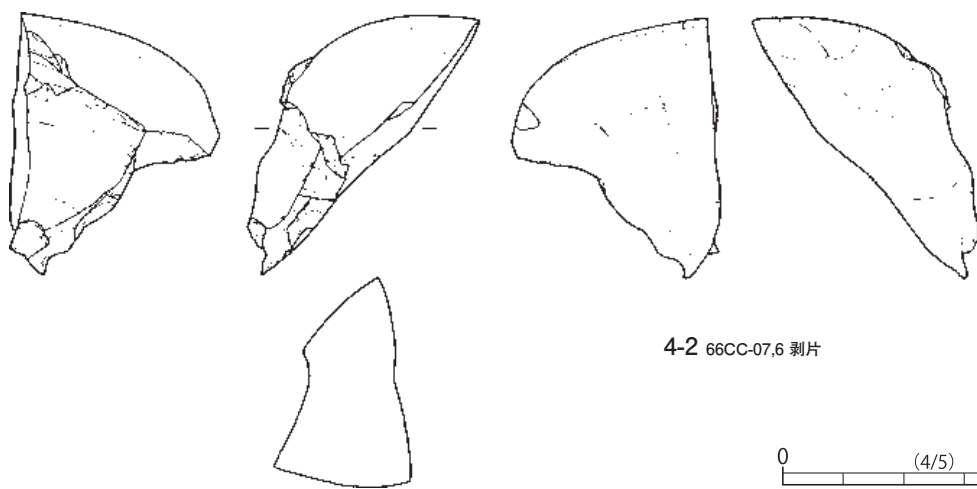
石材/器種	尖頭器	角錐状 石器	ナイフ 形石器	台形様 石器	彫器	掻器	楔形 石器	二次 加工	微細 剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫 片	点数合計	重量合計 (g)		
GA													2								2	25.0%	7.81	18.1%
SH								1													1	12.5%	3.65	8.5%
BS			1										2		1						4	50.0%	22.09	51.2%
OB													1								1	12.5%	9.56	22.2%
合計	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	8	100.0%	43.11	100.0%



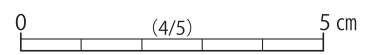
4 (1~4)
頁岩
接合資料21005



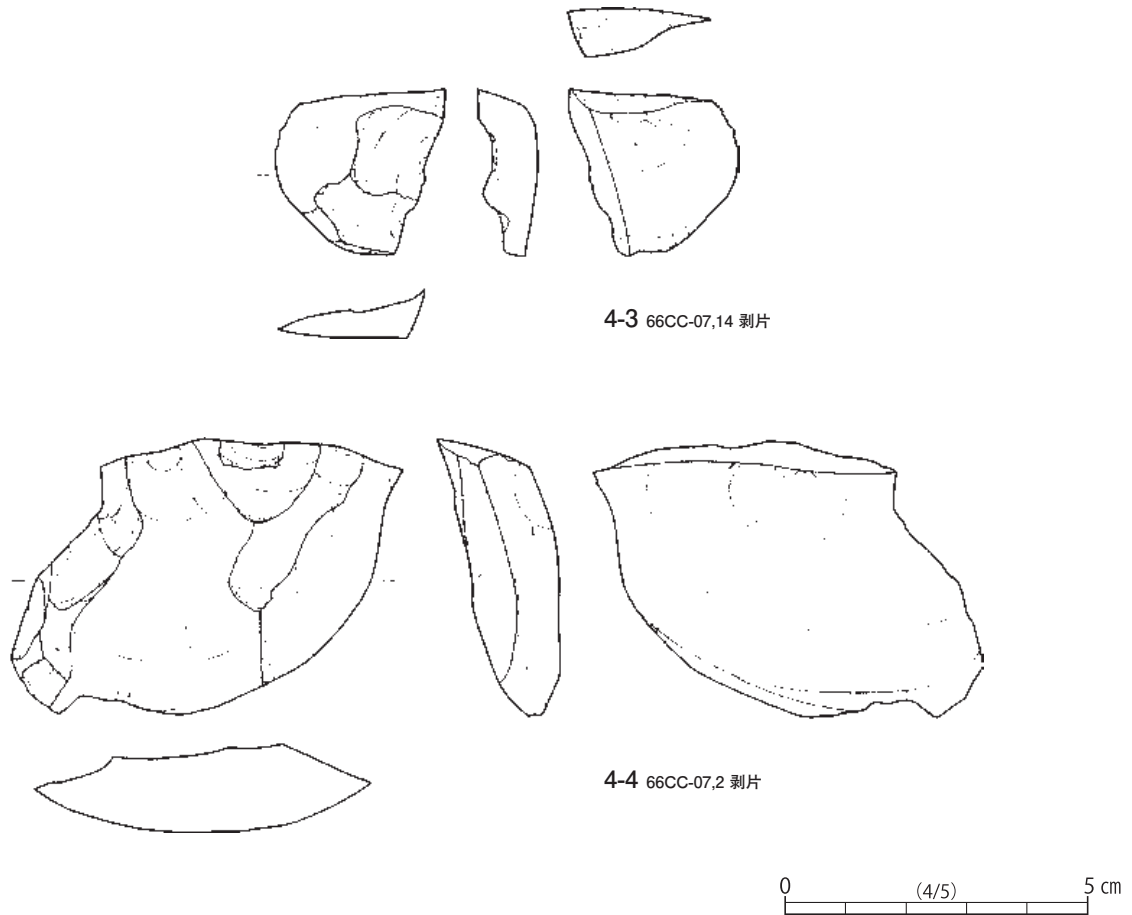
4-1 66CC-07.4 石核



4-2 66CC-07.6 剥片



第42図 65CC-Bブロック出土遺物(2)



第43図 65CC-Bブロック出土遺物(3)

12 66CC- Bブロック (第46・47図、第15表、図版3・17)

西側地区のほぼ中央、66CC-16・25・25・26・46グリッドに分布する。11.4 m × 2.2 mの範囲から10点の石器が出土した。出土層位はⅧ層～Ⅸ層で、0.11 mの高低差をもってⅨ層を中心に包含される。

石器器種は、二次加工のある剥片・剥片で構成される。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・流紋岩・頁岩で構成される。二次加工のある剥片は流紋岩・頁岩で、流紋岩はこの石器のみである。

1 (接合資料21004)は珪化度の高い緑灰色の流紋岩あるいは流紋岩質凝灰岩の二次加工のある剥片2点の接合資料である。表面全体が自然面の大型の剥片を素材とし、打面側を基部とする石斧の未成品の可能性が高い。急角度の粗い調整が両側縁と末端に施されており、製作途中で欠損したものと思われる。上部も欠損している。なお、2点に分割後も1-2の左側縁の中間部(1-1との折断面の上)に急角度の細かい調整を行っているが、途中で放棄している。図版17-2は緑灰色の地に灰白色の帯が混じる珪化度の高い

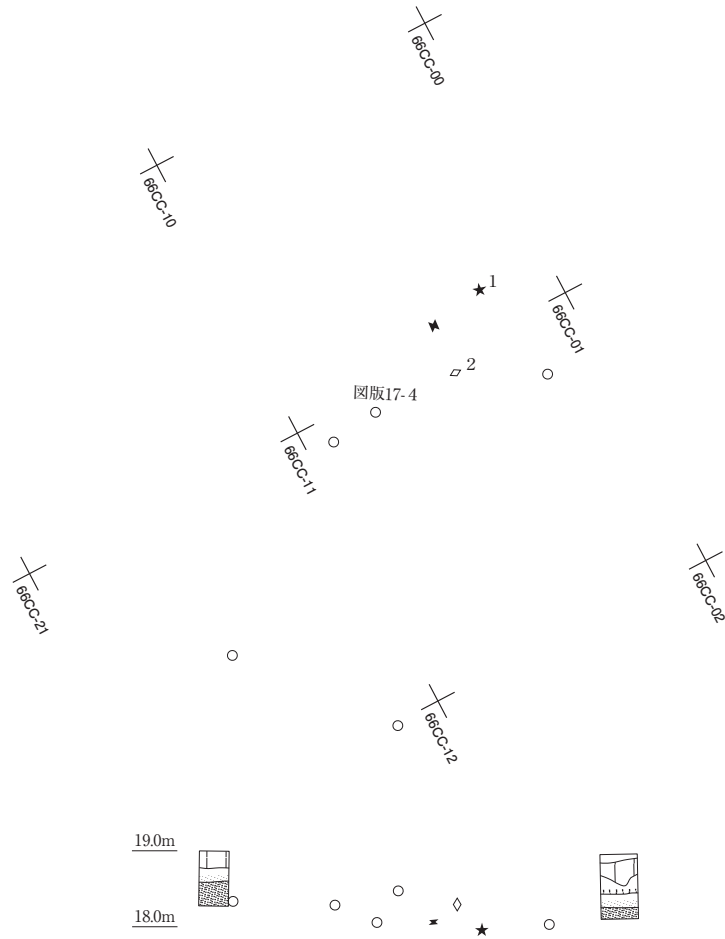
第15表 66CC-Bブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形縁石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	砕片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA													3								3	30.0%	68.45	30.2%
RH								2													2	20.0%	75.72	33.4%
SH								1					4								5	50.0%	82.48	36.4%
合計	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	10	100.0%	226.65	100.0%



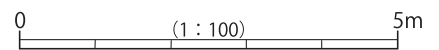
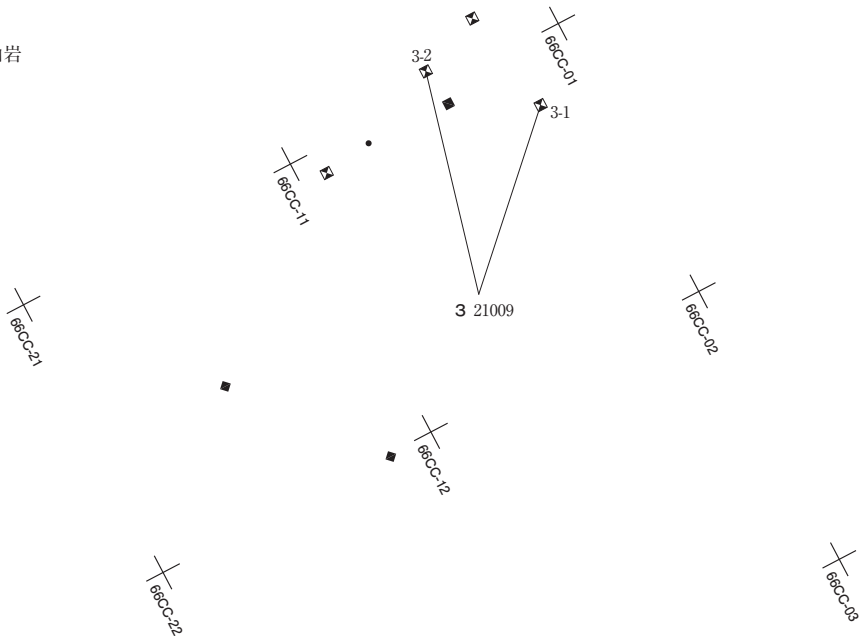
< 器種別分布 >

- ★ ナイフ形石器
- ◇ 二次加工のある剥片
- 剥片
- ✖ 石核

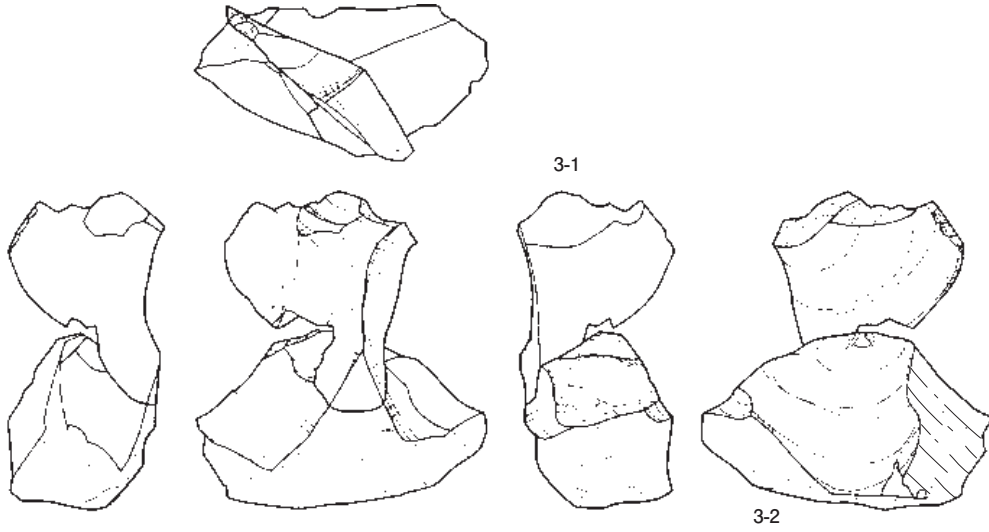
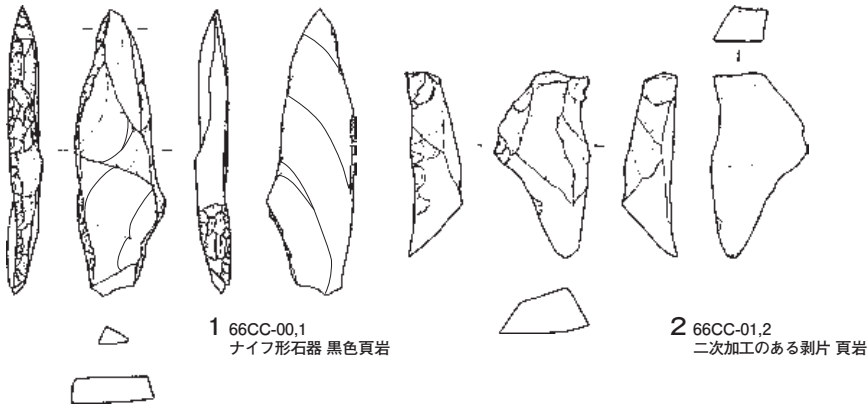


< 石材別分布 >

- ◆ ガラス質黒色安山岩
- 頁岩
- ▣ 黒色頁岩
- 黒曜石



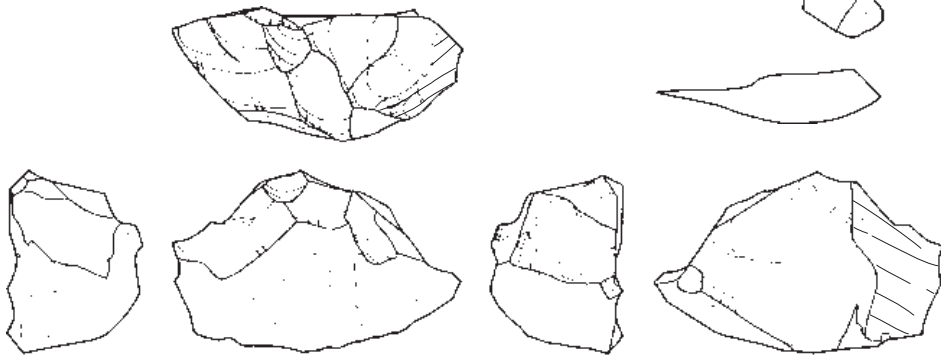
第44図 66CC-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-



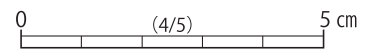
3 (1・2)
黒色頁岩
接合資料21009



3-1 66CC-01.1 剥片



3-2 66CC-00.2 石核



第45図 66CC-Aブロック出土遺物

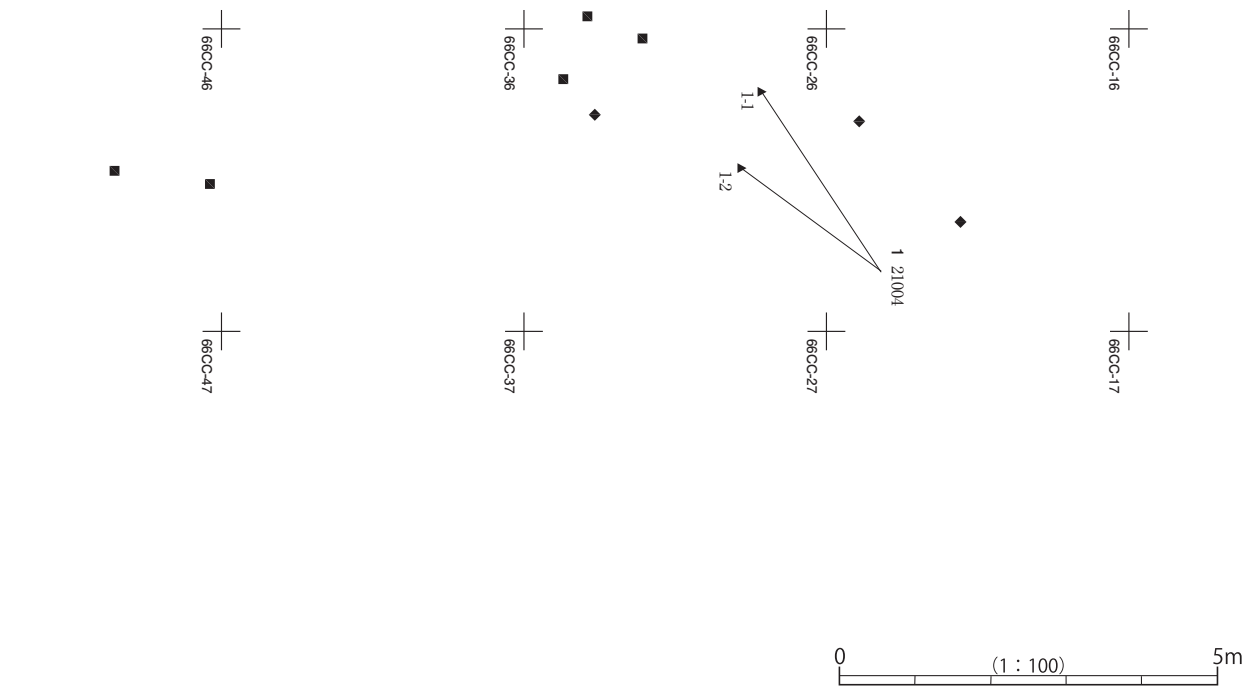
- ◇ 二次加工のある剥片
- 剥片
- ・ セクションポイント

< 器種別分布 >

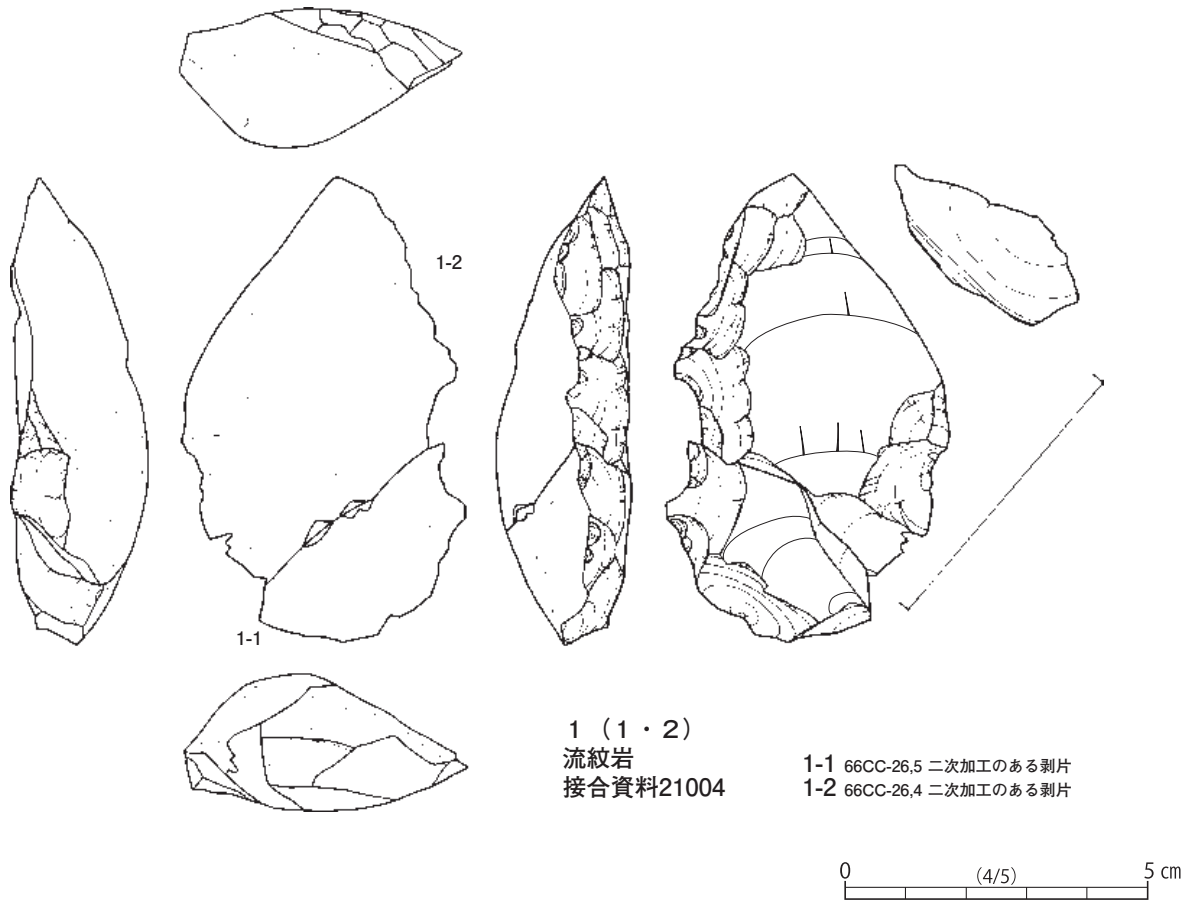


< 石材別分布 >

- ◆ ガラス質黒色安山岩
- ▲ 流紋岩
- 頁岩



第46図 66CC-Bブロック出土遺物分布 - 器種別・石材別 -



第47図 66CC-Bブロック出土遺物

頁岩の二次加工のある剥片である。縦長剥片の裏面の左側縁下部と右側縁上部に細かい調整加工を施している。上部は欠損している。いわゆる台形様石器などの未成品の可能性はあるが、詳細は不明である。図版 17-3 は自然面が灰褐色の比較的珪化度の高いチョコレート頁岩の石刃状の縦長剥片である。上部を欠損する。図版 17-4 はガラス質黒色安山岩で、自然面を打面とする縦長剥片である。図版 17-5 は自然面が黄土色・灰白色、内部は赤灰褐色が混じる比較的珪化度の高いチョコレート頁岩の縦長剥片である。表面全体がほぼ自然面であることから、大型の礫から剥離されたものと思われる。

13 65Y- Aブロック (第 48 ～ 60 図、第 16 表、図版 3 ・ 4 ・ 18 ～ 23)

西側地区の西側、65Y-76・77・85～87・97・98、66Y-06・07・16 グリッドに分布する。12.8 m × 17.6 m の範囲から 126 点の石器が出土した。出土層位はⅨ層～Ⅵ層で、1.22 m の高低差をもってⅨ層を中心に包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・搔器・二次加工のある剥片・微細な剥離痕のある剥片・剥片・碎片・石核で構成される。剥片が主体であるが、ナイフ形石器や搔器などの利器も顕著である。石器石材は、頁岩・黒曜石で構成されるが、黒曜石が主体である。ナイフ形石器は黒曜石・頁岩で、これも前者が主体である。

1～8 は信州産と考えられる透明度の高い良質な黒曜石のナイフ形石器で、上部を欠損する 7 を除いて石刃あるいは石刃状の縦長剥片を素材としており、1 を除いて打面側を基部としている。1～6 は二側縁

加工で、1・3・4は左刃、2・5・6は右刃である。7は基部のみの遺存で全体形状は不明である。8は左側縁全体に急角度の調整加工を施した一側縁加工のナイフ形石器である。9は上部が灰白色、下部がチョコレート色の珪化度の高い頁岩のナイフ形石器である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片を素材としており、打面側を基部としている。左側縁全体に急角度の調整加工を施した一側縁加工のナイフ形石器である。右側縁下部は三日月状の折れで、先端部もごく一部欠損している。

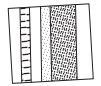
10は灰白色の不純物を含む若干白濁した半透明の信州産と考えられる良質な黒曜石の彫器である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片を素材として、表面左側縁全体に比較的急角度の調整加工、表面右側縁上部と裏面左側縁上部に浅く薄い調整加工を行っている。また、背面に残る2つの稜の内、左側上部の稜は潰れている。彫刻刀面作出のための調整は器体中央の稜から斜め左方向に2回行われている。始めに左側縁上部に残る剥離痕に似た比較的大きな調整①を行い、続いて槌状の調整②を行っている。

11は透明な地に黒灰色の霞が混じる透明度の高い良質な黒曜石の微細剥離痕のある剥片である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片を素材として、表面右側縁の一部、裏面右側縁中間部に微細な剥離痕が見られる。

12(接合資料22005)は珪化度の高いチョコレート頁岩の二次加工のある剥片1点・剥片1点の接合資料である。12-1は石刃あるいは石刃状の縦長剥片の右側縁下部にブランディング状の細かい調整加工を施している。12-2は12-1と同一打面の石核から剥離された石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。両者とも頭部調整が顕著である。

13(接合資料22025)は表面全体が白濁した不透明で良質な黒曜石の石刃あるいは石刃状の縦長剥片3点(2個体)の接合資料である。13-1は上下に欠損している。13-2は13-1と同一打面の石核から剥離された石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。末端は欠損している。両者の下部には稜上調整の可能性のある細かい剥離痕が見られる。

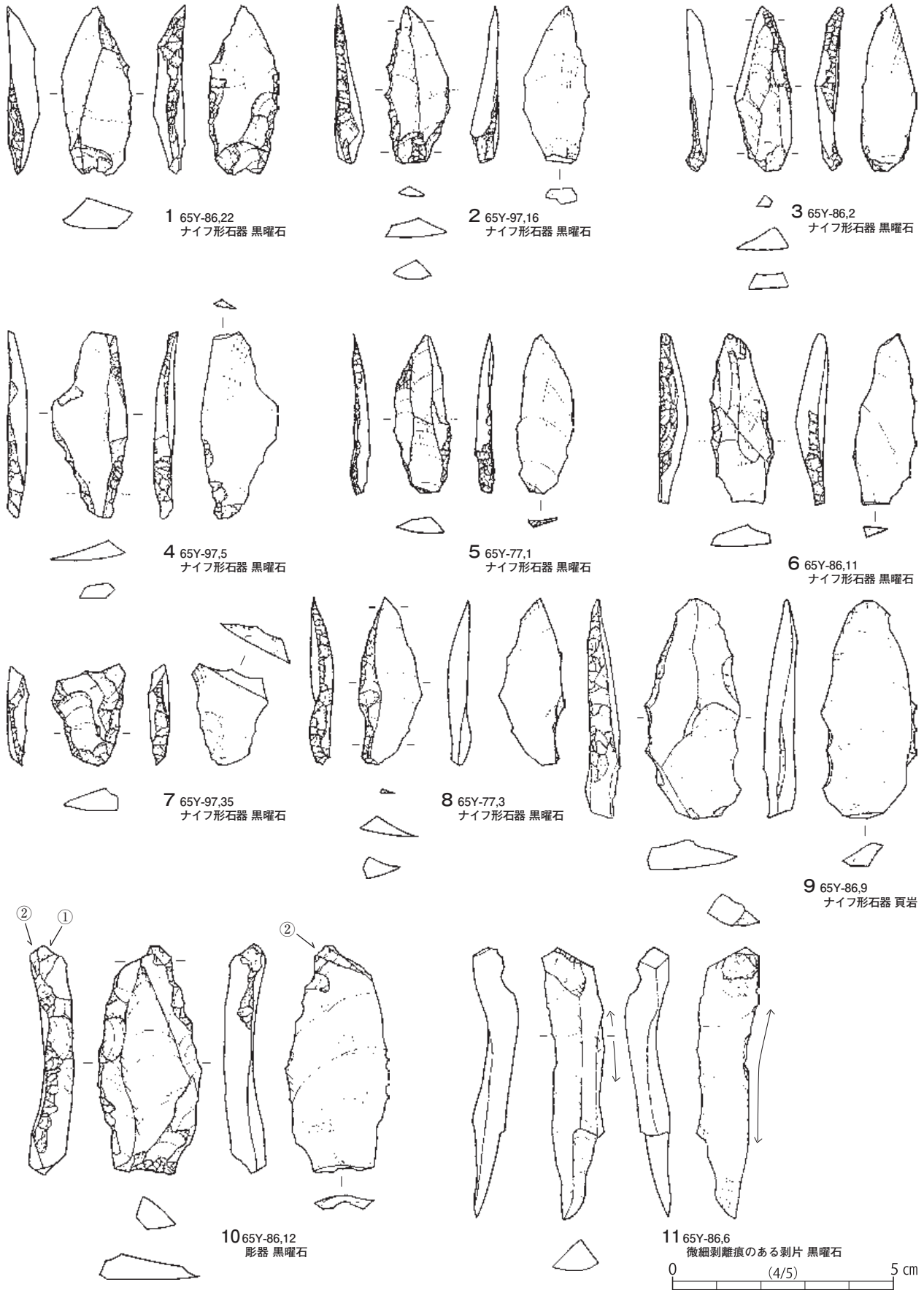
14(接合資料22036)は表面全体が白濁しているが信州産と考えられる不透明で良質な黒曜石の石核4点・剥片32点(25個体)の接合資料で、14Aは石核1点・剥片6点(3個体)、14Bは石核1点・剥片9点、14Cは石核2点・剥片17点(13個体)である。14A・14B・14Cのそれぞれに石核を含むことから3つの工程に分けたが、大きく14A・Bと14Cに2分される。比較的大型で縦長の楕円礫を素材として、14A-1を剥離し、14A-2～14A-4を剥離した後、この縦長剥片を素材として、14A-2を剥離して打面を作出し、14A-3などの縦長剥片を剥離している。14Aの剥離後も14Bを剥離し、14Cの打面を作出している。14B-1～14B-3・14B-5の一部に同一のポジティブな剥離面が見られる。比較的厚みのある大型の剥片である14Bを素材として、14B-1～14B-9の石刃状の縦長剥片や不定形な剥片を剥離している。なお、本ブロックには、接合しなかったが、わずかにポジティブな剥離面を残す同一母岩の可能性のある剥片が数点ある。しかし、それらを含めたとしても1/3ほどは空白となり、サンプリングエラーがなければ、他のブロックに持ち出されていると考えられる。14Cは大きく①(14C-1～14C-3)、②-1(14C-4～14C-7)・②-2(14C-8～14C-11:石核1点含む)、③(14C-12～14C-15:石核1点含む)の3つの工程に分けられる。まず、14Bの剥離により作出された打面に大きく平坦な打面調整を行い、14C-1～14C-3の不定形な剥片を剥離している。14C-3には大きくポジティブな剥離面が残っており、この段階で①と②・③に分割されたことが分かる。次に②-1(14C-4～14C-7)の縦長剥片が剥離され、その後、14C-8により打面を作出し、②-2(14C-8～14C-11)の個体で縦長剥片などが剥離されている。また、③(14C-12～14C-15)の個体



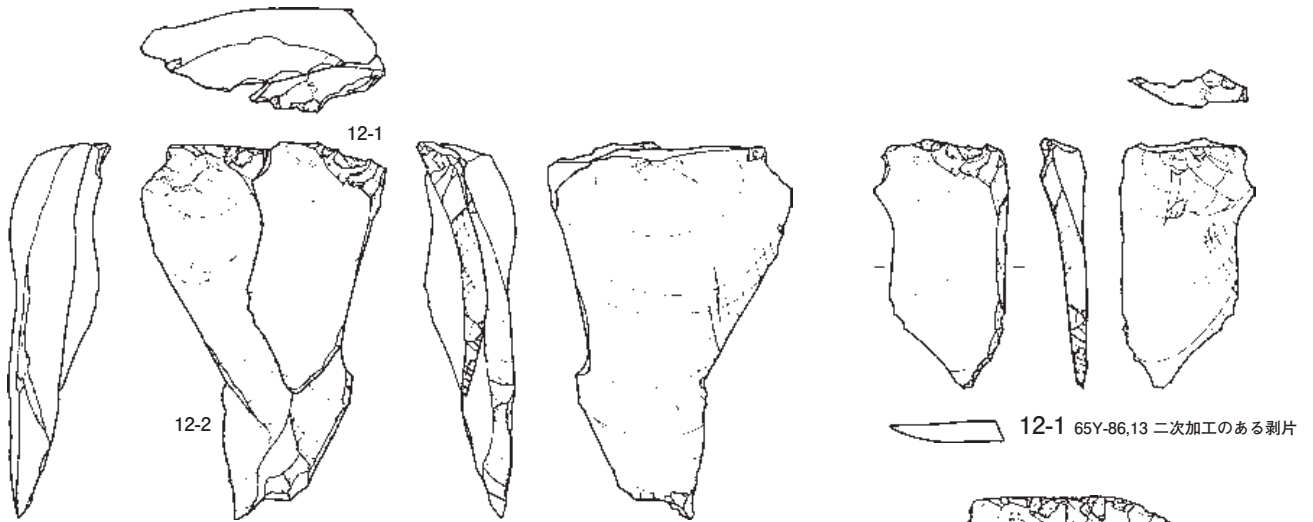
- ★ ナイフ形石器
- 彫器
- ◇ 二次加工のある剥片
- 微細剥離痕のある剥片
- 剥片
- 碎片
- ✕ 石核



第48図 65Y-Aブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -



第50図 65Y-Aブロック出土遺物(1)

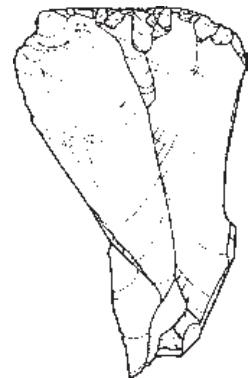


12-1

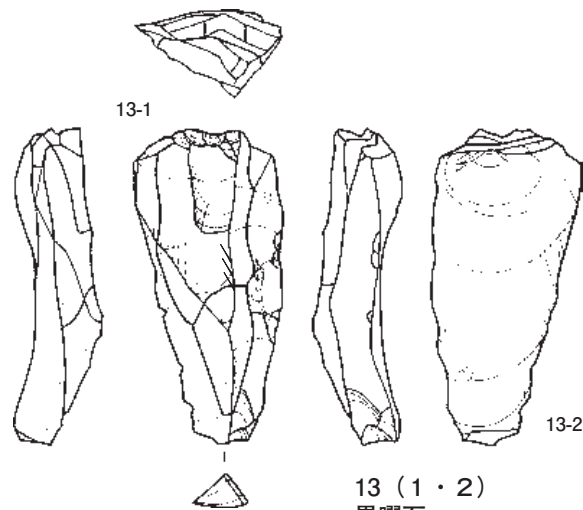
12-2

12-1 65Y-86,13 二次加工のある剥片

12 (1・2)
頁岩
接合資料22005



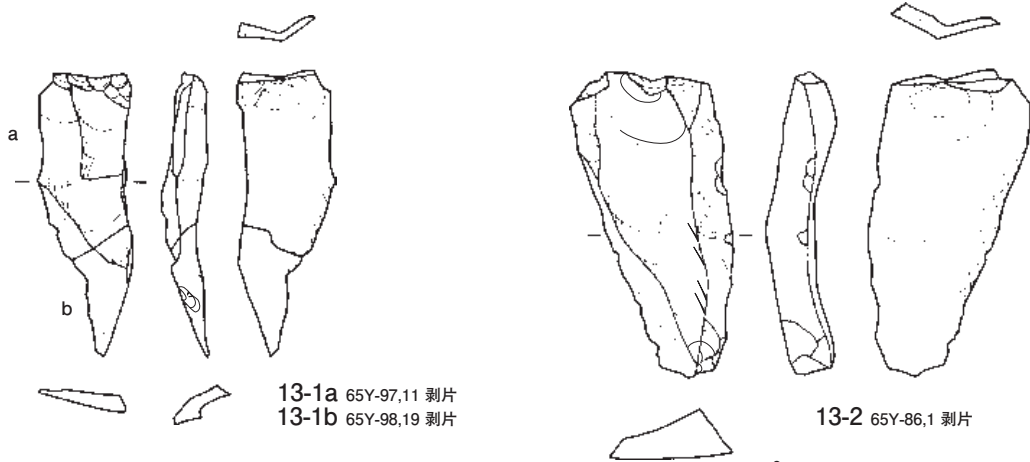
12-2 65Y-97,7 剥片



13-1

13-2

13 (1・2)
黒曜石
接合資料22025



a

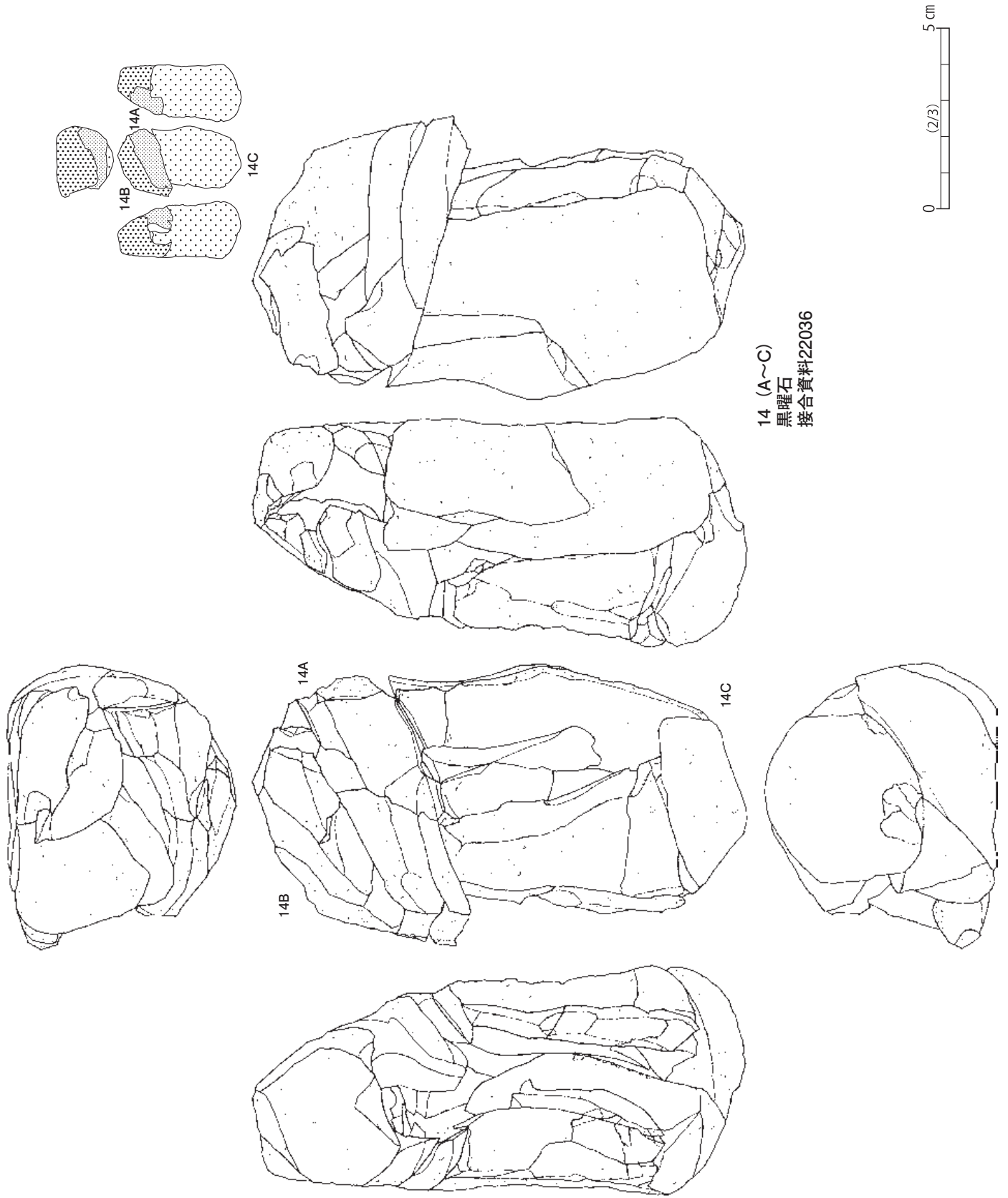
b

13-1a 65Y-97,11 剥片
13-1b 65Y-98,19 剥片

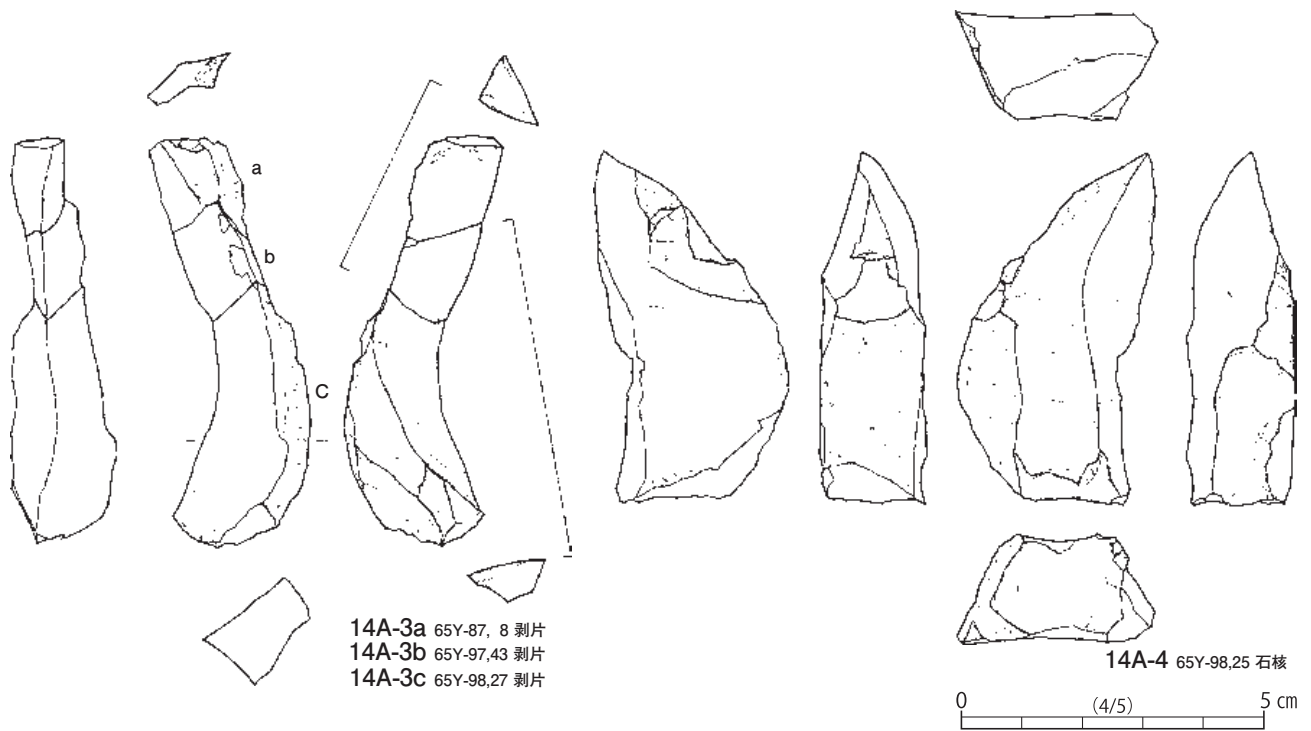
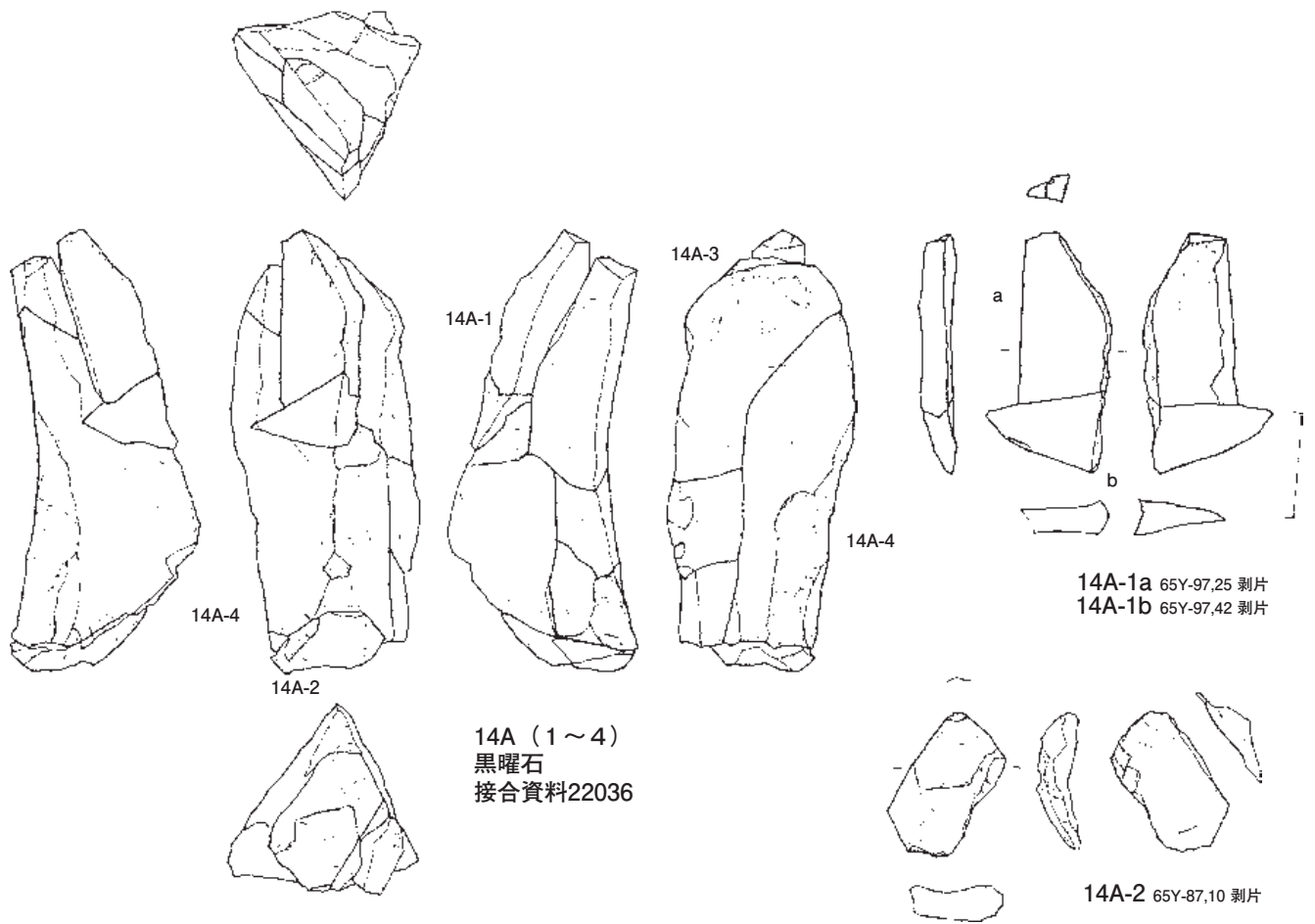
13-2 65Y-86,1 剥片

0 (4/5) 5 cm

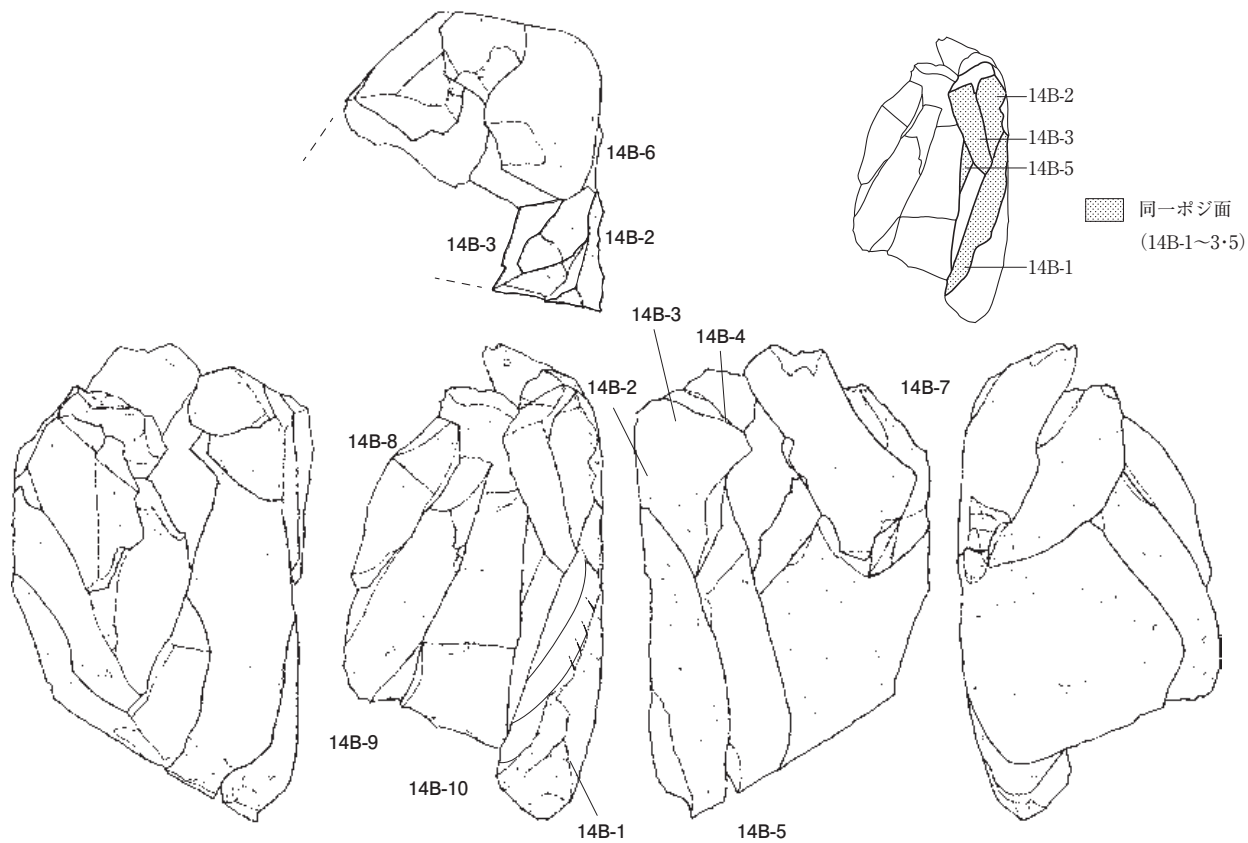
第51図 65Y-Aブロック出土遺物(2)



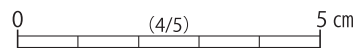
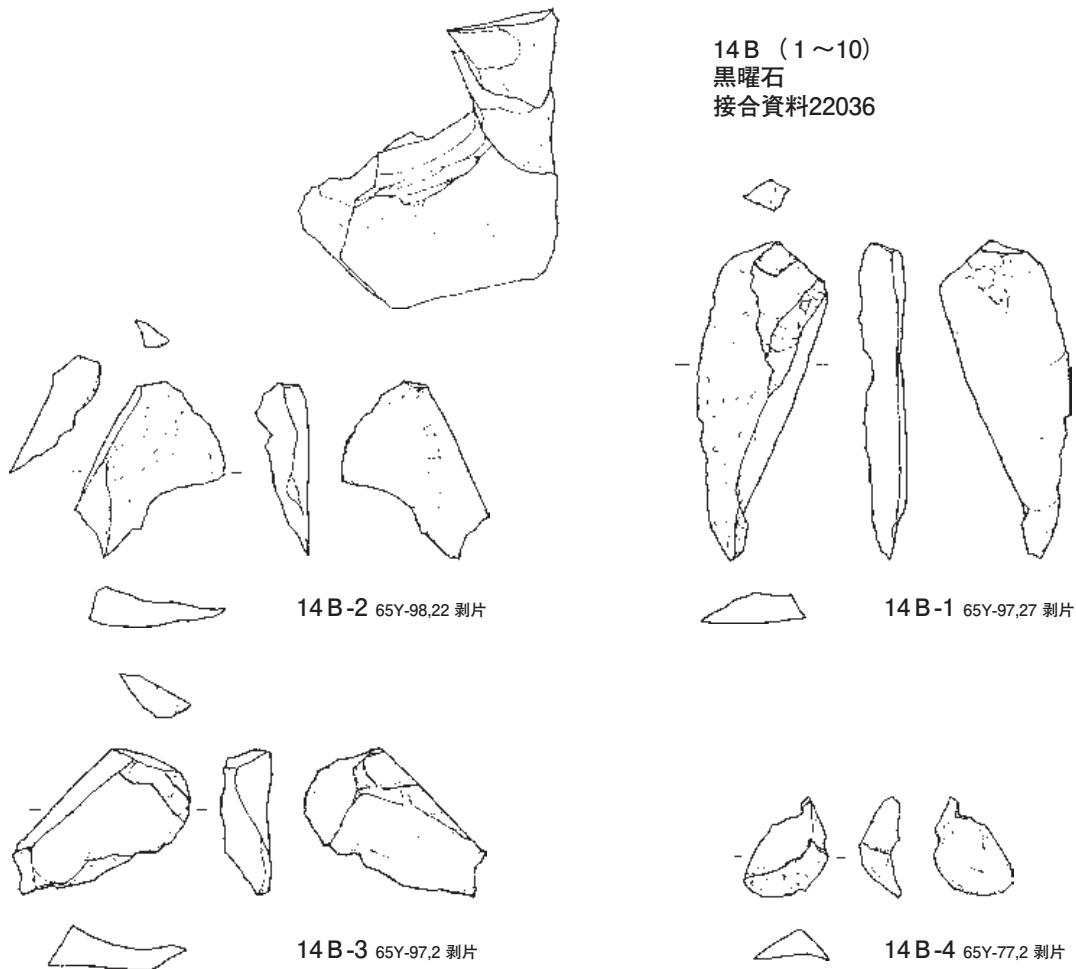
第52図 65Y-Aブロック出土遺物(3)



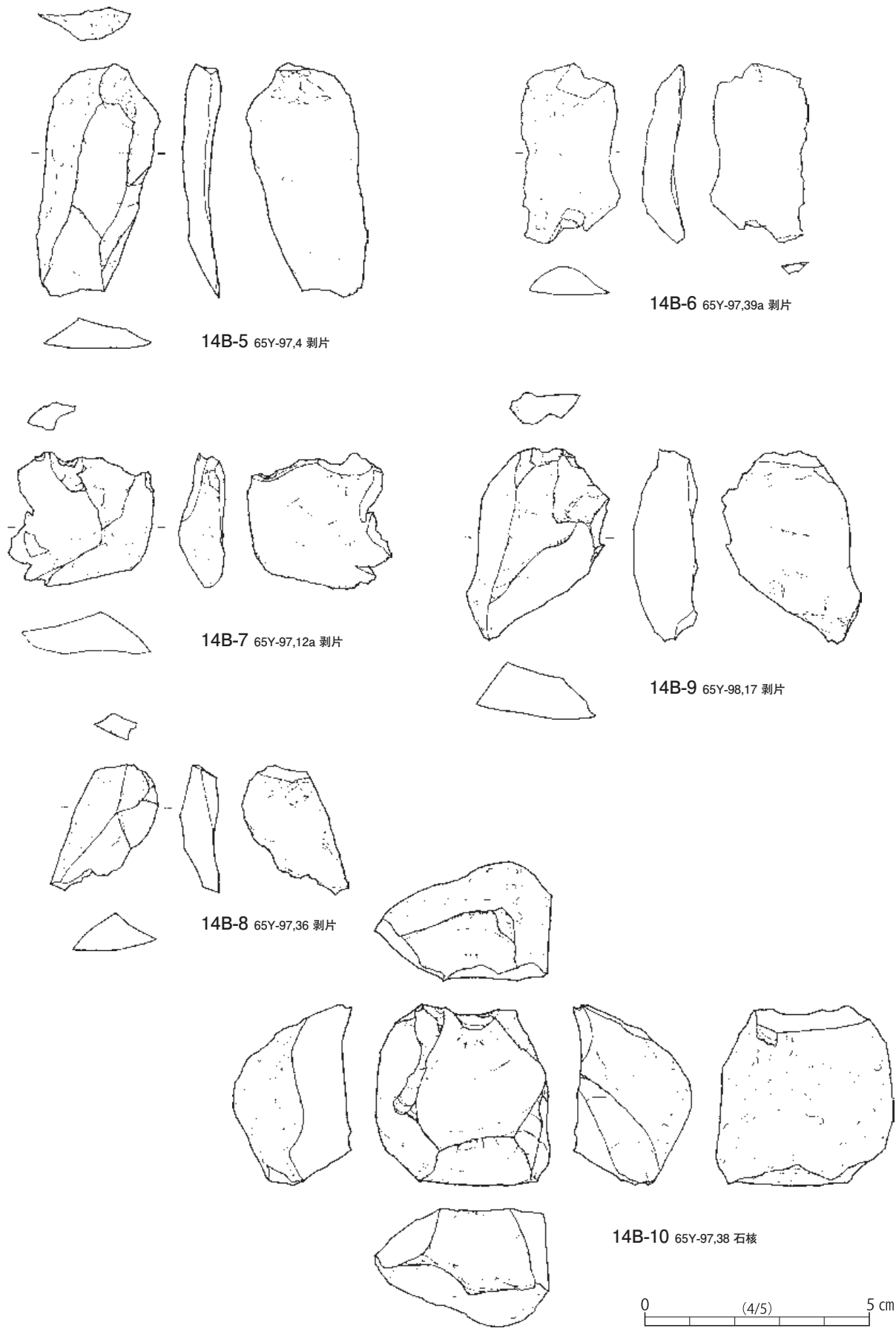
第53図 65Y-Aブロック出土遺物(4)



14B (1~10)
黒曜石
接合資料22036



第54図 65Y-Aブロック出土遺物(5)



14B-5 65Y-97.4 剥片

14B-6 65Y-97.39a 剥片

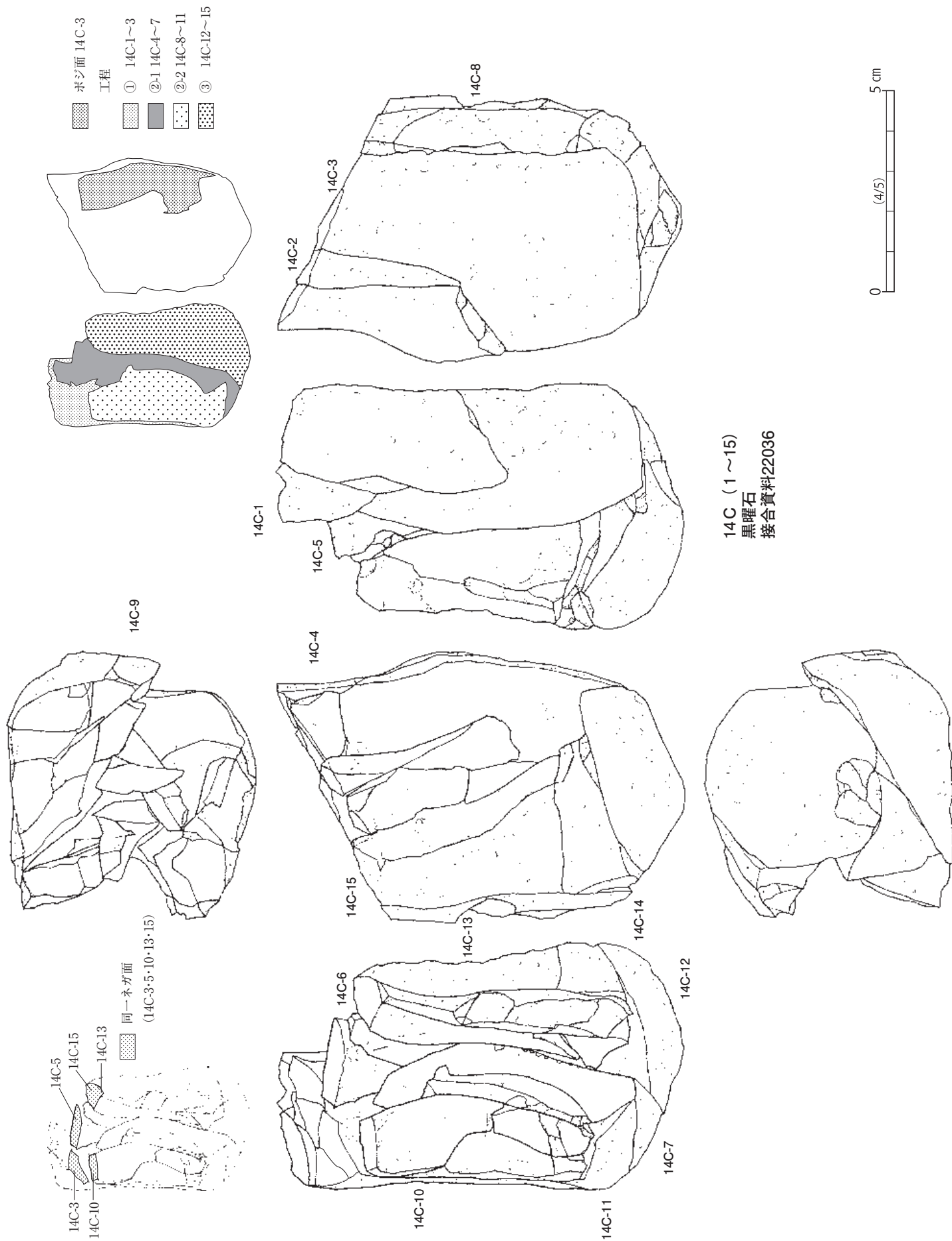
14B-7 65Y-97.12a 剥片

14B-9 65Y-98.17 剥片

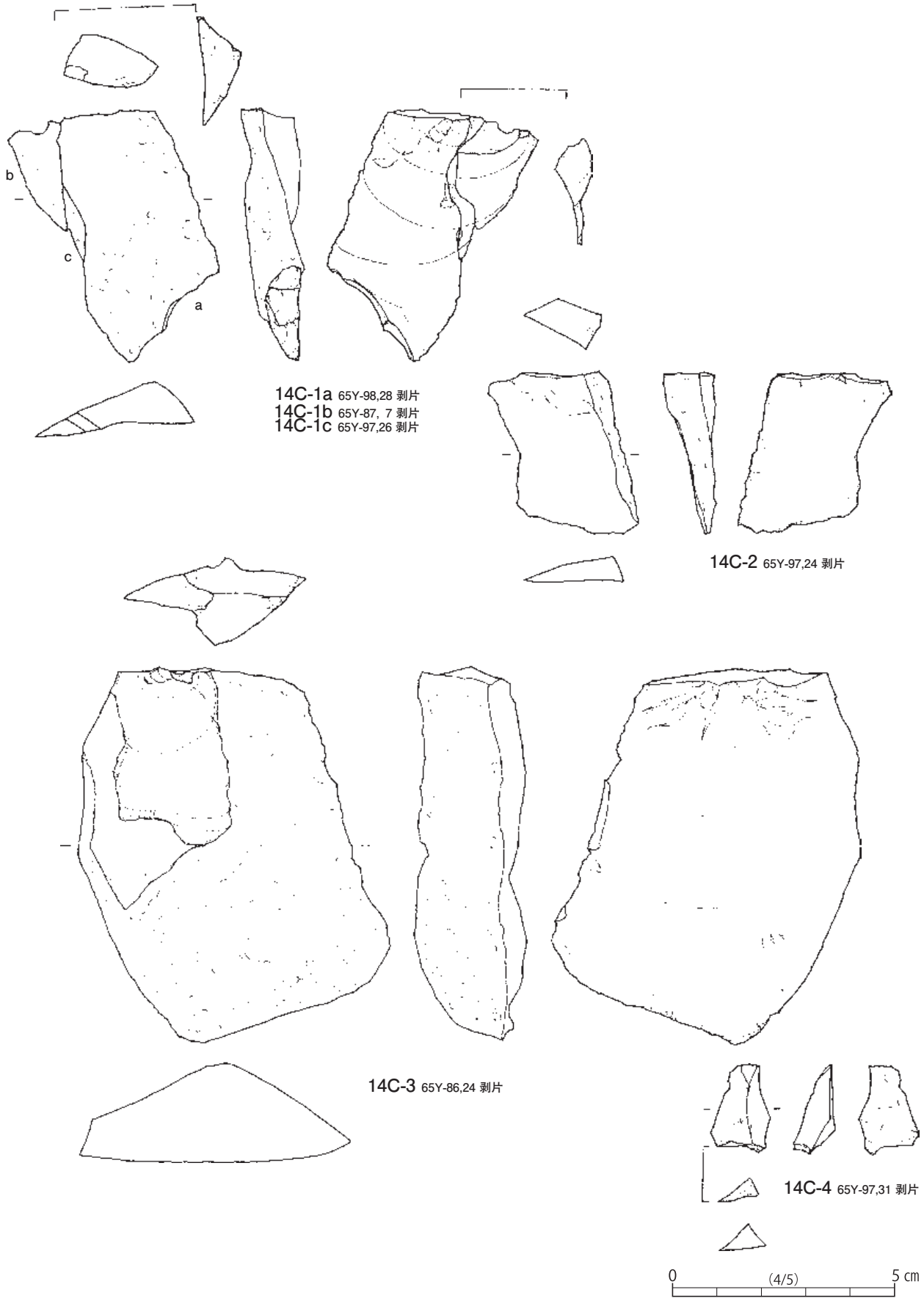
14B-8 65Y-97.36 剥片

14B-10 65Y-97.38 石核

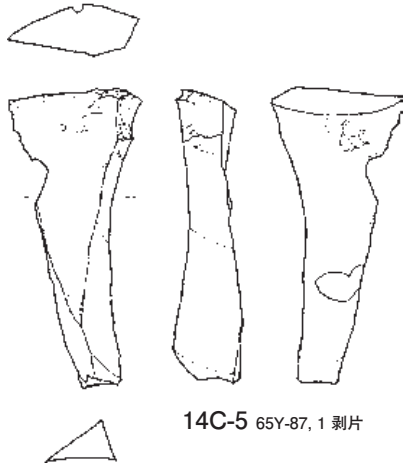
第55図 65Y-Aブロック出土遺物(6)



第56図 65Y-Aブロック出土遺物(7)



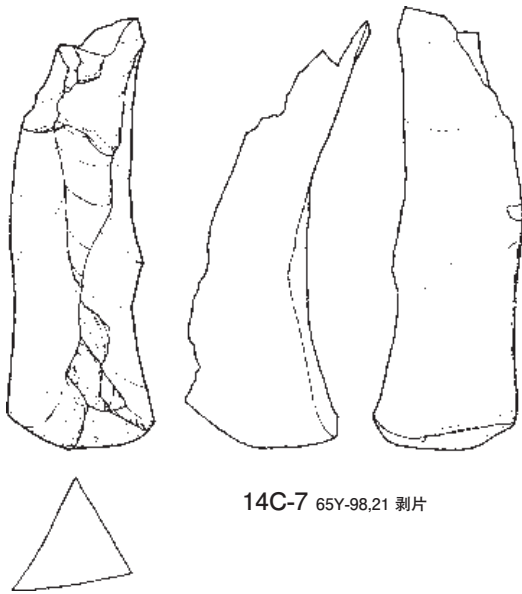
第57図 65Y-Aブロック出土遺物(8)



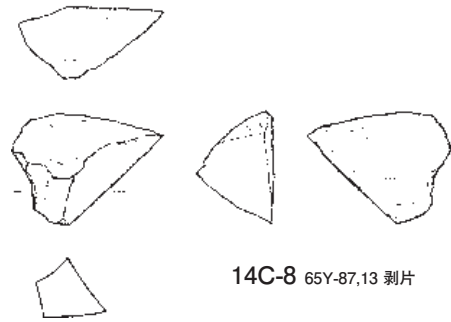
14C-5 65Y-87, 1 剥片



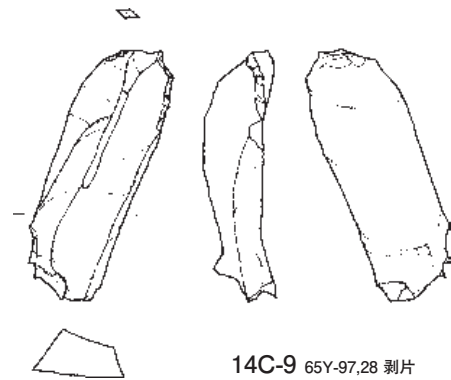
14C-6 65Y-97,32 剥片



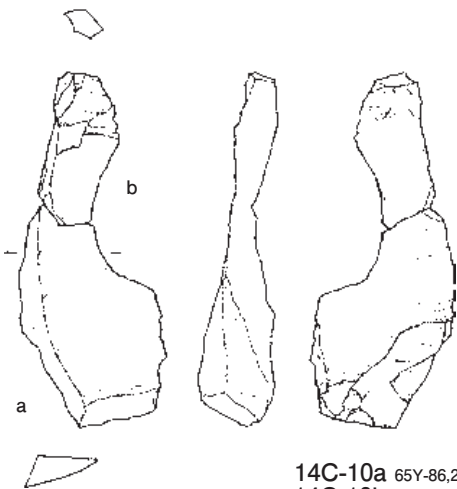
14C-7 65Y-98,21 剥片



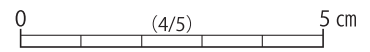
14C-8 65Y-87,13 剥片



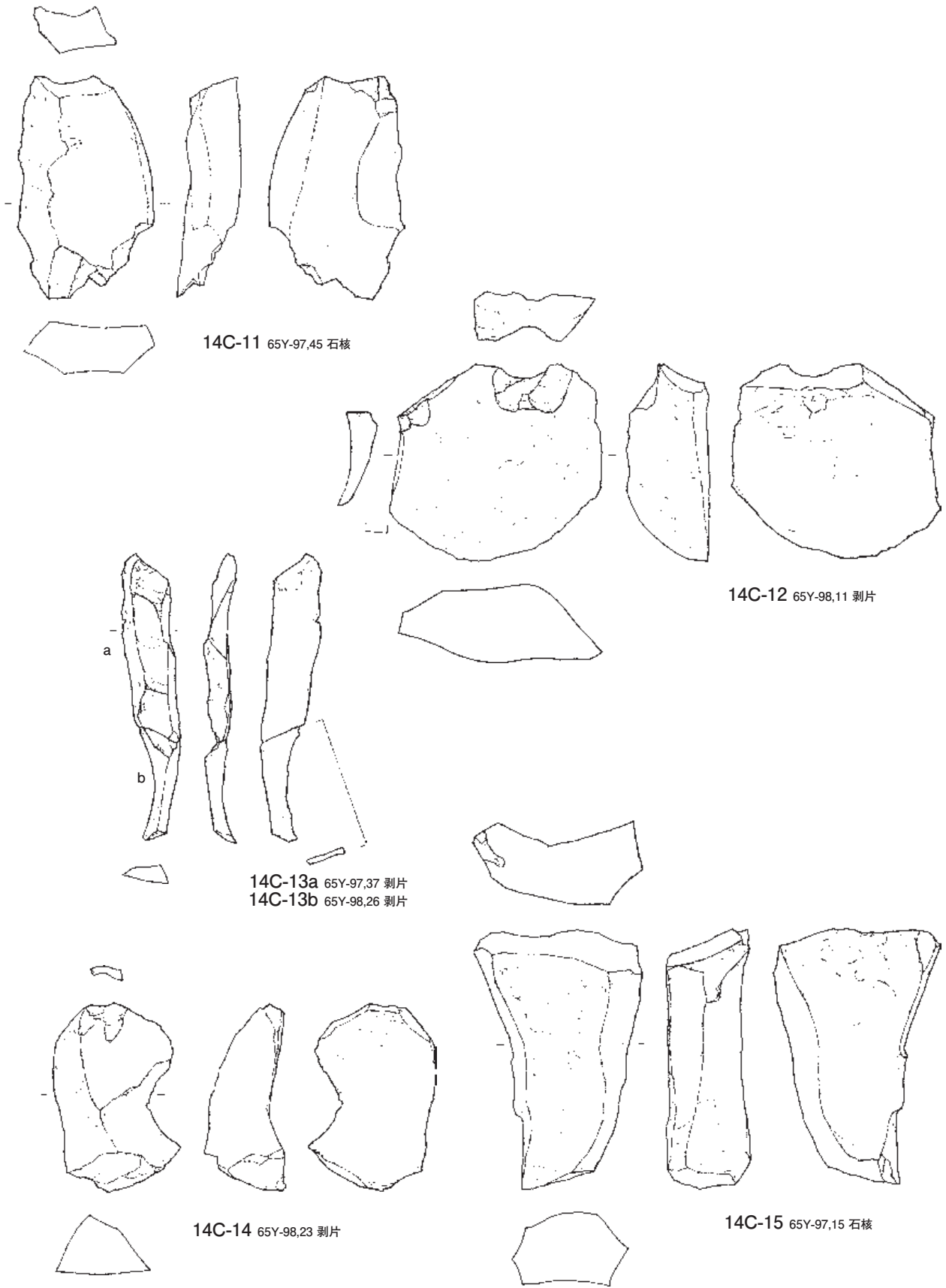
14C-9 65Y-97,28 剥片



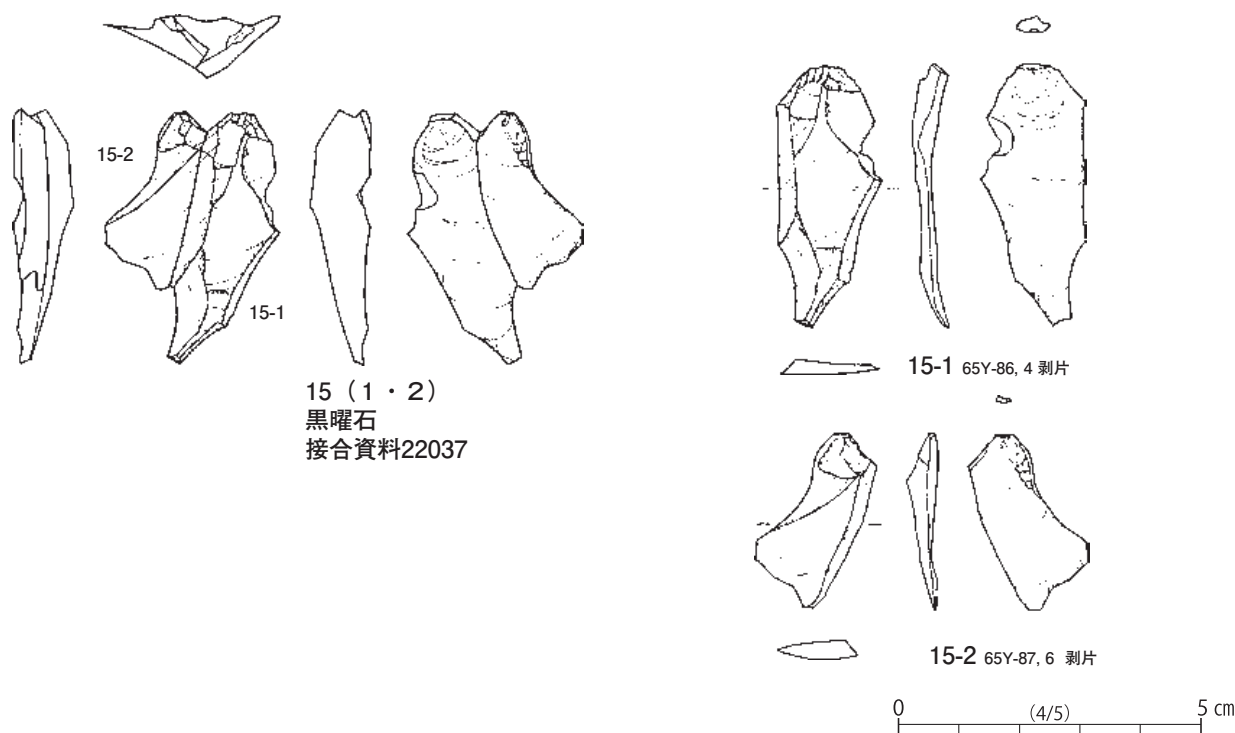
14C-10a 65Y-86,23 剥片
14C-10b 65Y-97, 3 剥片



第58図 65Y-Aブロック出土遺物(9)



第59図 65Y-Aブロック出土遺物 (10)



第60図 65Y-Aブロック出土遺物 (11)

では、14C-12 で打面を作出して 14C-13 を剥離し、14C-14 で打面再生した後、さらに縦長剥片を剥離している。

15 (接合資料 22037) は信州産と考えられる透明度の高い良質な黒曜石の石刃状の縦長剥片 2 点の接合資料である。

図版 22-16 は二次加工のある剥片、図版 22・23-17 ~ 22 は石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。図版 22-17 は上半部がチョコレート色、中間部が灰白色、下半部が黄灰色の珪化度の高い良質な頁岩で、それ以外は信州産と考えられる透明度のある良質な黒曜石である。図版 22-16 は、頭部に 2 回小さな剥離を行った後、細かい調整剥離を行っている。図版 22-17 は中央稜下部に稜上調整が見られることから稜付石刃の可能性が高く、図版 22-18 も稜付石刃と考えられる。図版 23-23・24 は信州産と考えられる透明度のある良質な黒曜石の石核である。図版 23-23 は器体右半分の 1/3、図版 23-24 は A 面が素材の主要剥離面である。なお、図版 23-24 の A 面と B 面に直接切り合い関係がないことから断定はできないが、いずれにしても B 面は図版 23-24 を剥離前の初期の段階で剥離されたものと思われる。また、両者とも素材の平坦な剥離面あるいは折面を打面としており、表面全体が自然面であること、図版 23-24 の B 面が図版 23-24 の剥離前のものだとすれば、それほど厚みがない同様な剥片を素材としていることなどが共通する。

第16表 65Y-Aブロック石器組成

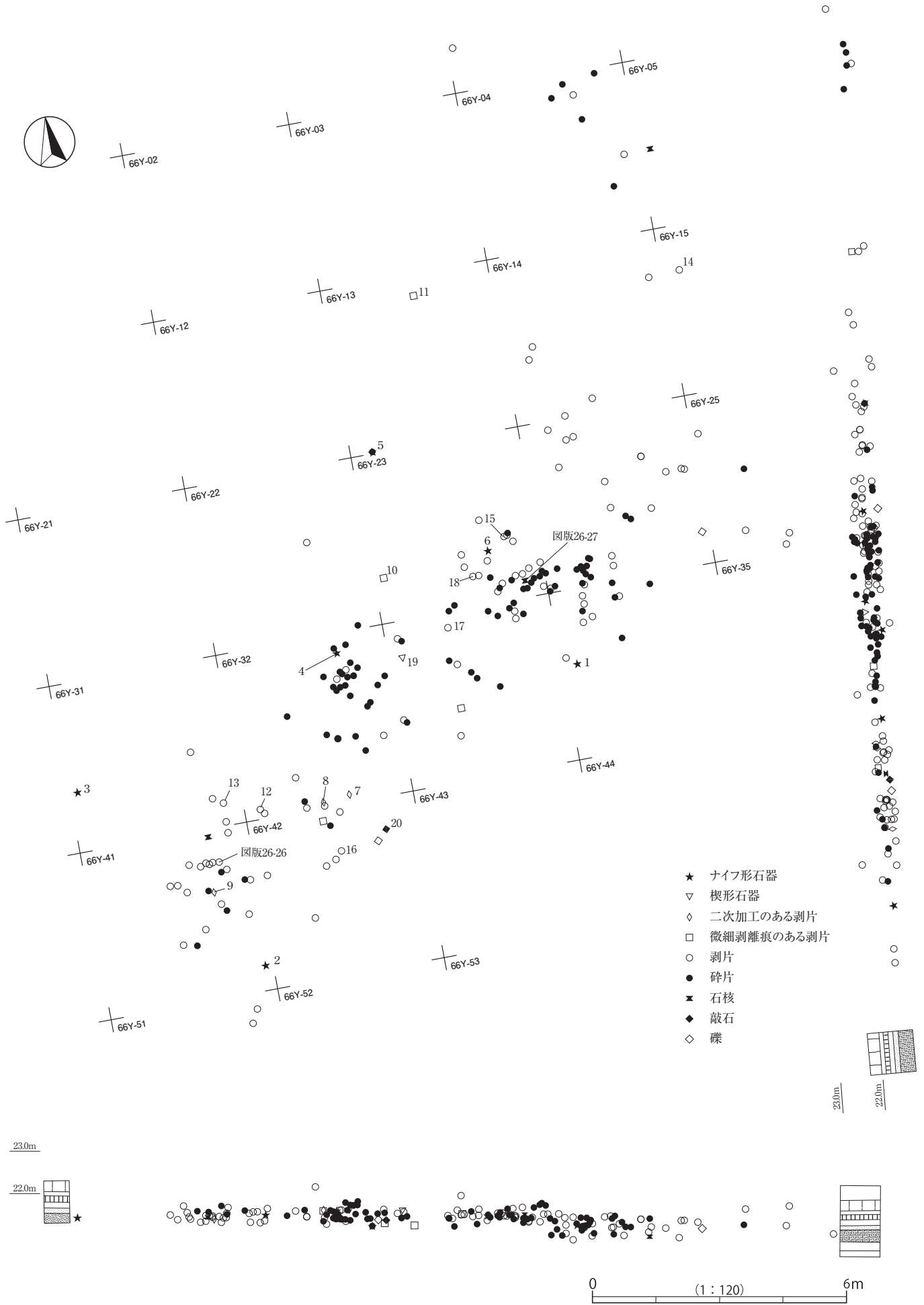
石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形棒石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
SH			1					1					4								6	4.8%	58.55	7.0%
OB			8		1			1	1				78	25	6						120	95.2%	780.92	93.0%
合計	0	0	9	0	1	0	0	2	1	0	0	0	82	25	6	0	0	0	0	0	126	100.0%	839.47	100.0%

14 65Y- Bブロック (第 61 ~ 69 図、第 17 表、図版 3・4・23 ~ 26)

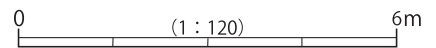
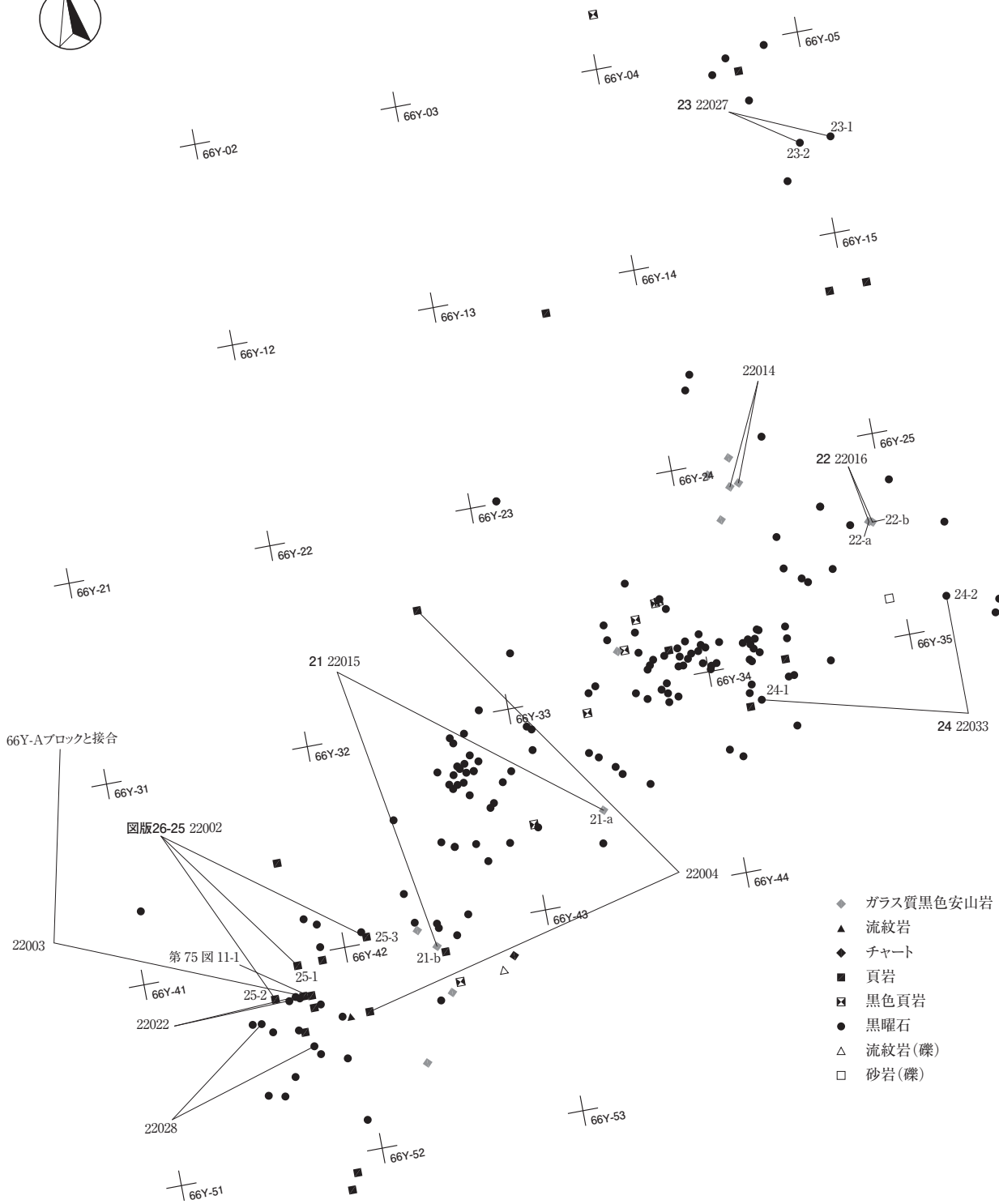
西側地区の西側、65Y-94、66Y-04・05・13 ~ 15・22 ~ 25・31・32 ~ 34・41・42・51 グリッドに分布する。23.4 m × 9.8 m の範囲から 197 点の石器と 2 点の礫が出土した。出土層位はⅨ層 ~ Ⅲ層で、1.24 m の高低差をもってⅨ層を中心に包含される。66Y-A ブロックとブロック間接合がある。

石器器種は、ナイフ形石器・楔形石器・二次加工のある剥片・微細な剥離痕のある剥片・剥片・碎片・石核・敲石と礫・礫片で構成される。65 Y - A ブロック同様、剥片が主体であるが、ナイフ形石器などの利器も顕著である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・流紋岩・チャート・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成される。礫石材は、流紋岩・砂岩で構成される。石器の器種組成は 65 Y - A ブロックと同様であるが、石材組成については、黒曜石が主体であることは変わらないが、65 Y - A ブロックと異なり、他の石材が客体的に伴っている。

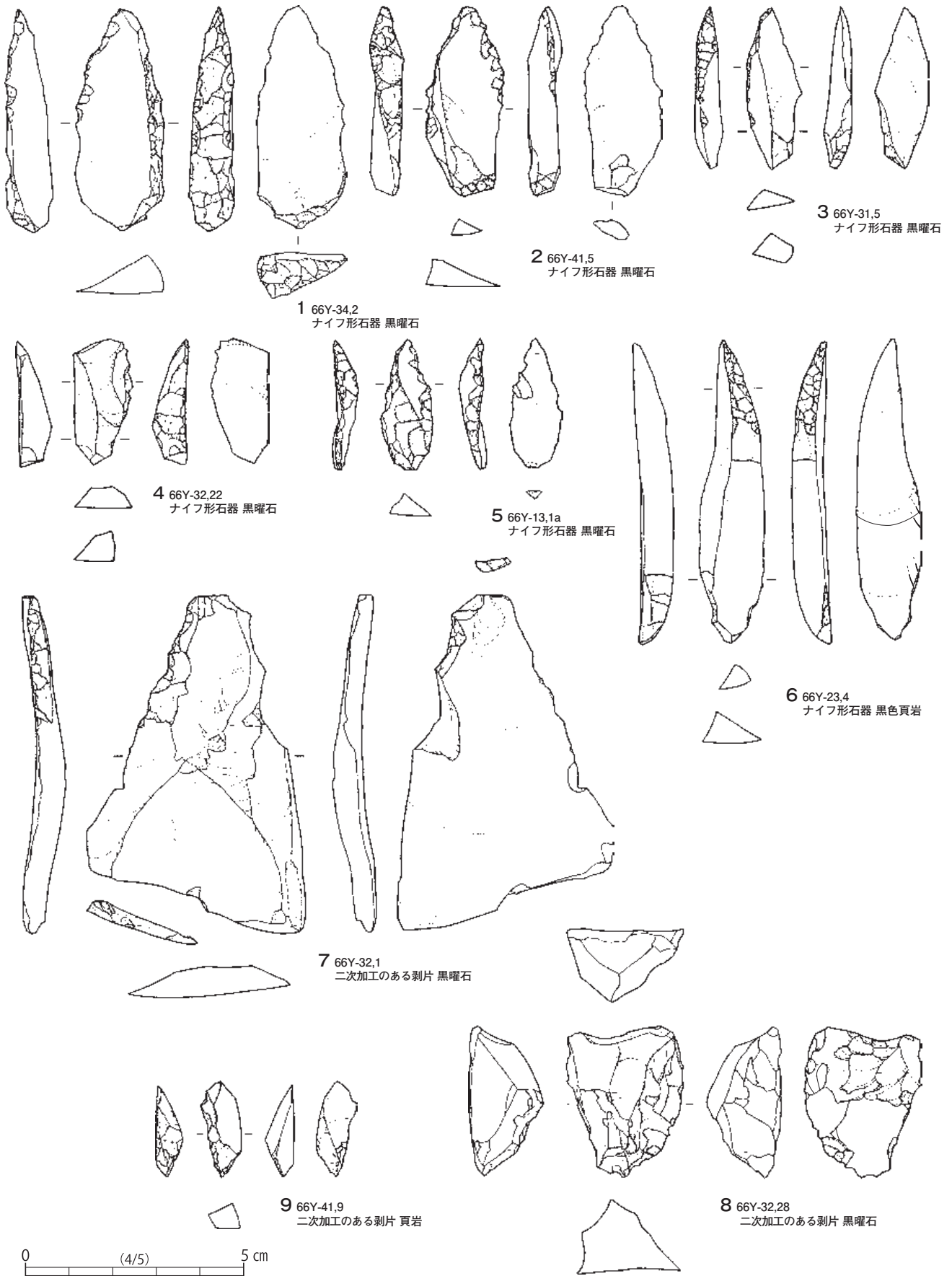
1・2・4 は信州産と考えられる透明な地に黒灰色のモヤが入る良質な黒曜石、3・5 は信州産と考えられる透明度の高い良質な黒曜石のナイフ形石器である。石刃状の縦長剥片を素材としている。1 を除いて打面側を基部としており、2・5 は打面を残している。1・2・4 は一側縁加工、3 は左側縁上半が裏面、右側縁下半が表面からの錯向剥離による部分加工、5 は左側縁全体と右側縁下部に細かい調整を施した二側縁加工のナイフ形石器である。5 の右側縁上部については、細かい剥離痕が見られ、この加工により先端部が対称になることから調整の可能性もあるが、多少ノッチ状であること、裏面側に伴うことが多い縦溝状の剥離痕が見られることから使用による剥離と考えた。それから、1 の左側縁全体、4・5 の一部に対向剥離が見られる。6 は黒灰色の黒色頁岩の部分加工のナイフ形石器である。打面側を先端部としている。右側縁上部は対向剥離、左側縁下部は稜上から調整が施されている。7・8 は信州産と考えられる透明な地に黒灰色のモヤが入る透明度のある良質な黒曜石の二次加工のある剥片である。7 は表面左側縁上部と裏面右側縁上部に細かい調整が施されており、表面左側縁下半部には微細な剥離痕が見られる。また、裏面右側縁中央の大きな剥離痕は製作時の欠損と考えられる。8 は裏面側の上部を中心に比較的大きな調整が施されている。石核あるいは楔形石器の可能性もある。9 は珪化度の高い良質なチョコレート頁岩の二次加工のある剥片である。二側縁あるいは左側縁の一側縁加工のナイフ形石器の可能性もある。10・11 は微細剥離痕のある剥片である。10 は信州産と考えられる透明な地に黒灰色のモヤが入る透明度のある黒曜石で、稜付石刃状の縦長剥片の両面両側に微細な剥離痕が見られる。11 は黄灰色で珪化度の高い良質な頁岩で、両面ともポジティブな不定形な剥片の末端に微細な剥離痕が見られる。12 ~ 18 は石刃あるいは石刃状の剥片である。12・13 は信州産と考えられる透明度のある良質な黒曜石で、12 は透明な地に黒灰色の縞が入り、13 は薄墨を流したような石材である。14 はチョコレート色を主体とし、下部が黄灰色の珪化度の高い良質な頁岩である。15 ~ 17 は黒色頁岩で、16 の背面の剥離方向は打撃方向とは逆である。18 はガラス質黒色安山岩で、稜上調整が見られることや自然面が残っていることから、初期の段階で剥離された稜付石刃の可能性もある。19 は信州産と考えられる透明な地に黒灰色のモヤが全体を占める透明度のある良質な黒曜石の楔形石器である。裏面側の両端に対向する剥離痕が見られる。20 は黄黒色のチャートの敲石としたが、下部の打撃痕は自然面の可能性があり、何らかの原石かもしれない。21・22 はガラス質黒色安山岩の石器である。21 (接合資料 22015) は微細剥離痕のある剥片 2 点 (1 個体) の接合資料である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片の両面の左側縁の下部と裏面右側縁上部に細かい剥離痕が見られる。下端部は石核の底面である。22 (接合資料 22016) は石刃あるいは石刃状の縦長剥片 2 点 (1



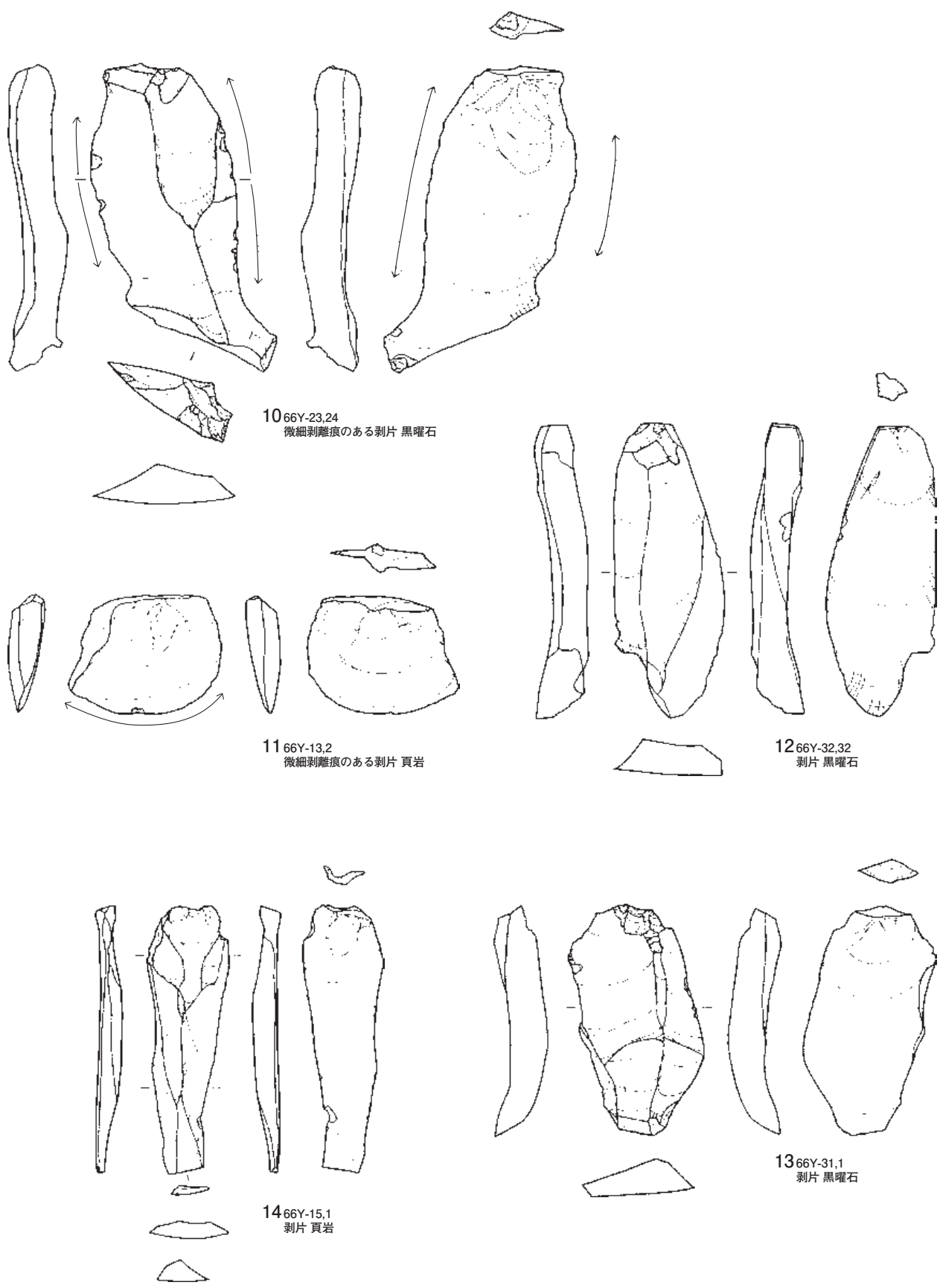
第61図 65Y-Bブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -



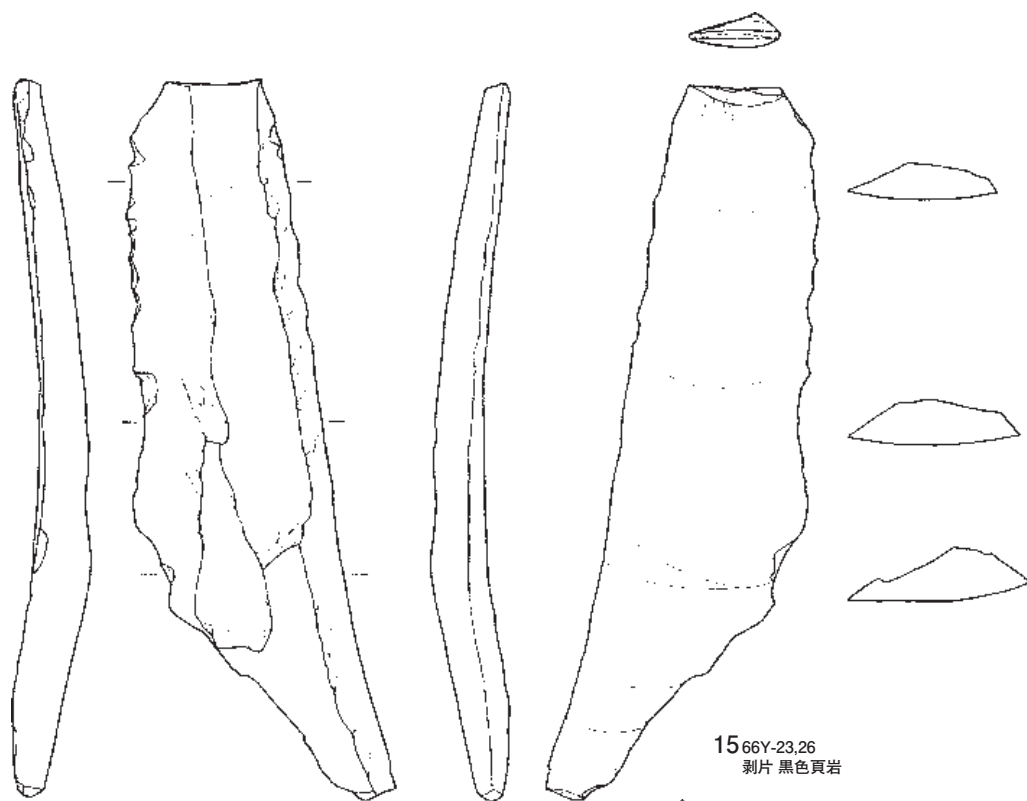
第62図 65Y-Bブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -



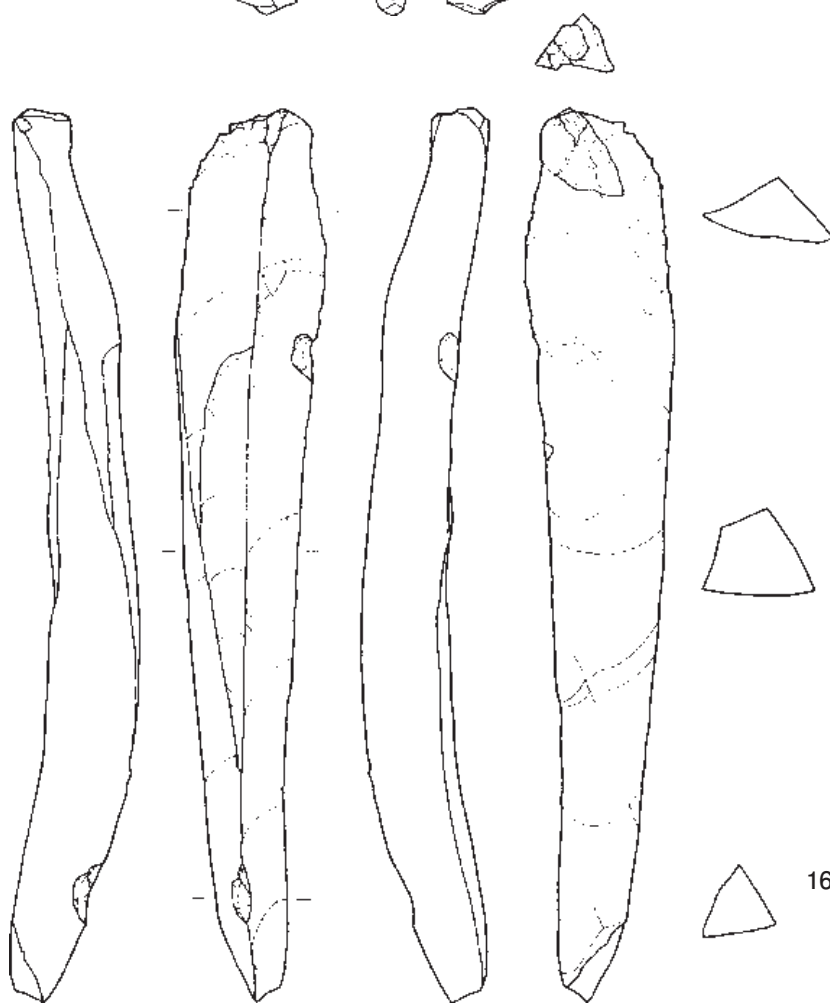
第63図 65Y-Bブロック出土遺物(1)



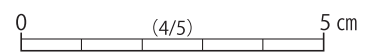
第64図 65Y-Bブロック出土遺物(2)



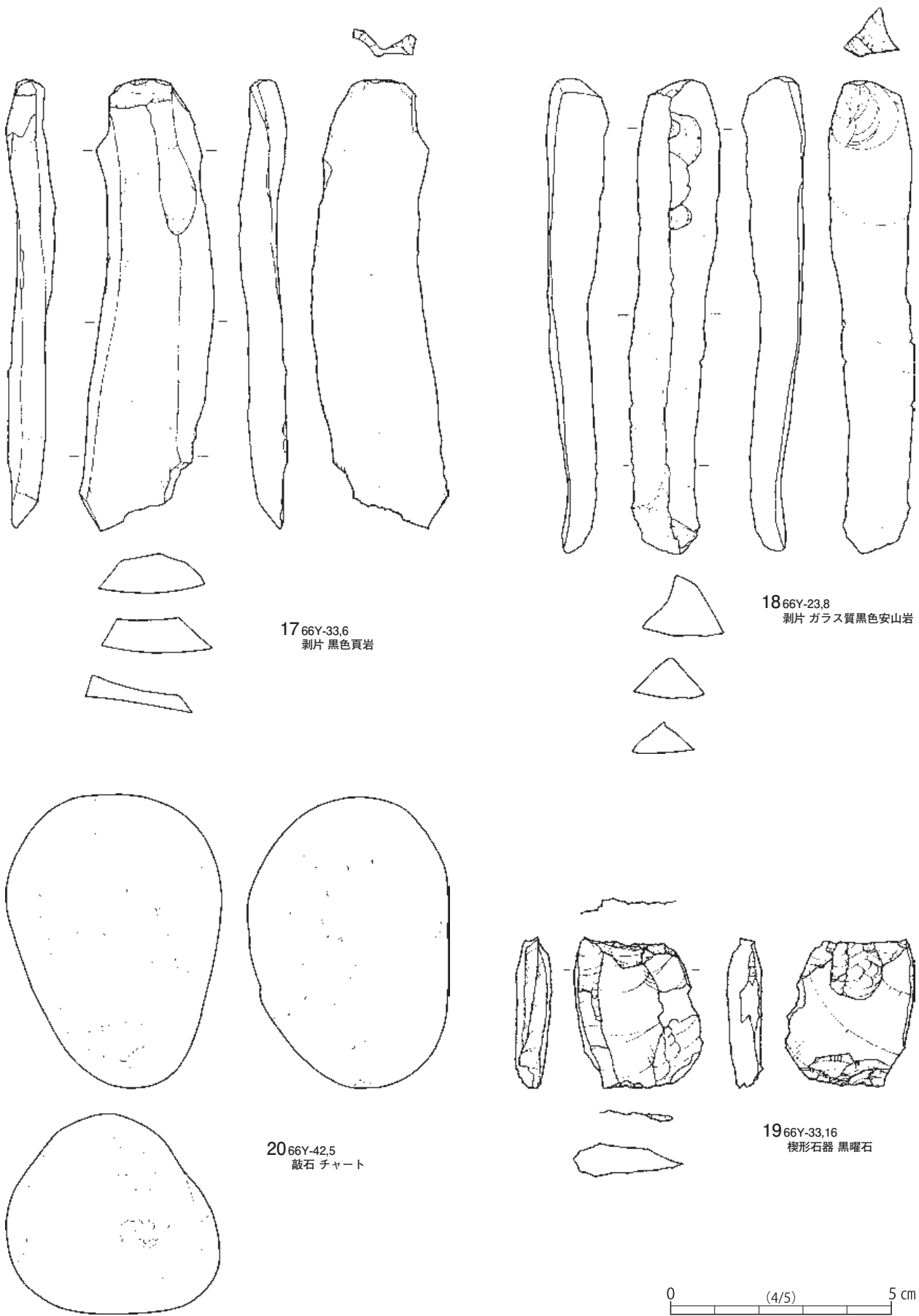
1566Y-23.26
剥片 黑色頁岩



1666Y-42.9
剥片 黑色頁岩



第65図 65Y-Bブロック出土遺物(3)



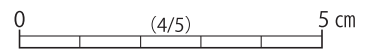
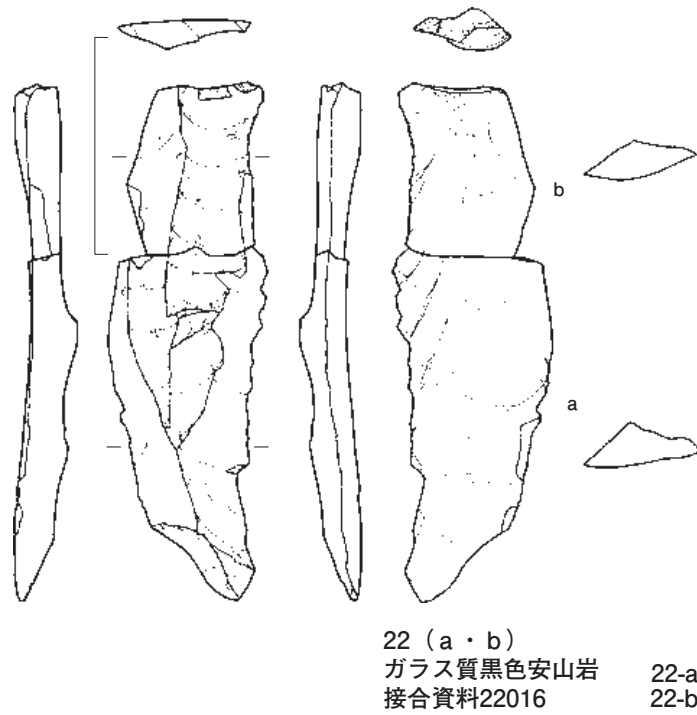
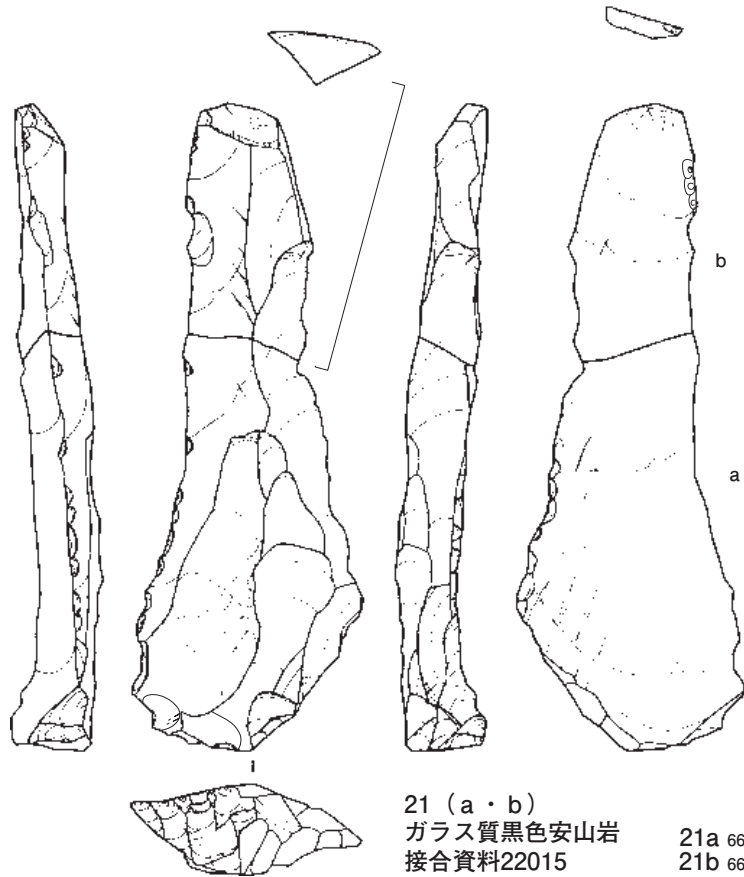
17^{66Y-33.6}
剥片 黒色頁岩

18^{66Y-23.8}
剥片 ガラス質黒色安山岩

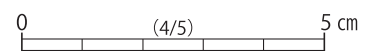
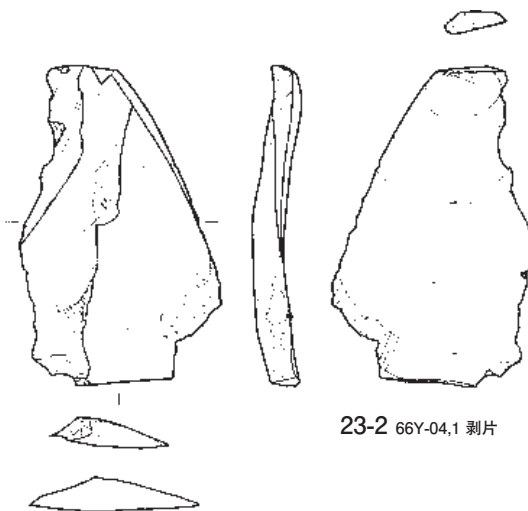
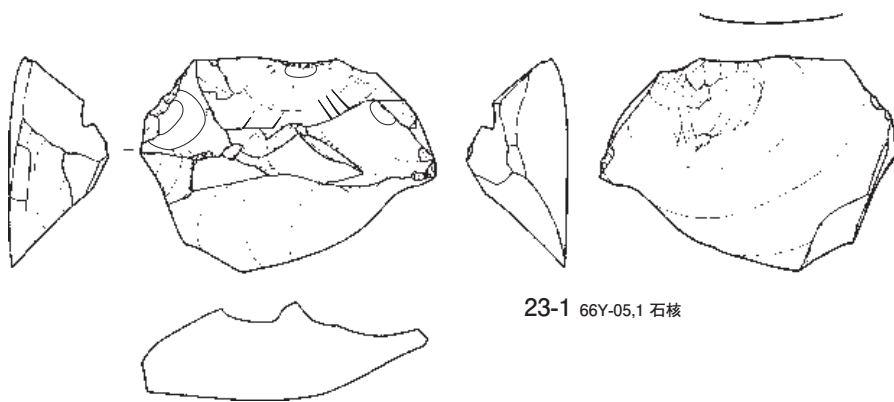
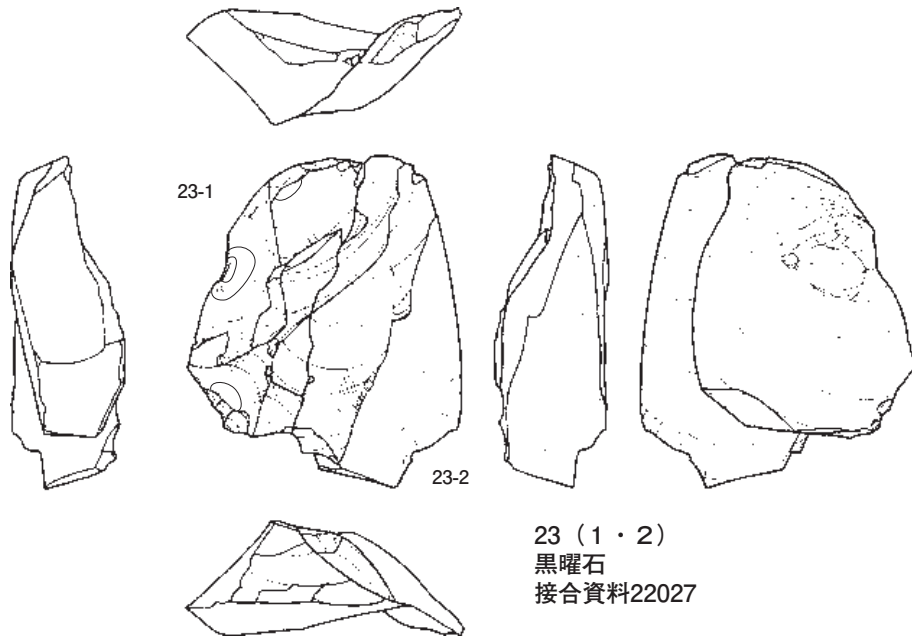
20^{66Y-42.5}
敲石 チャート

19^{66Y-33.16}
楔形石器 黒曜石

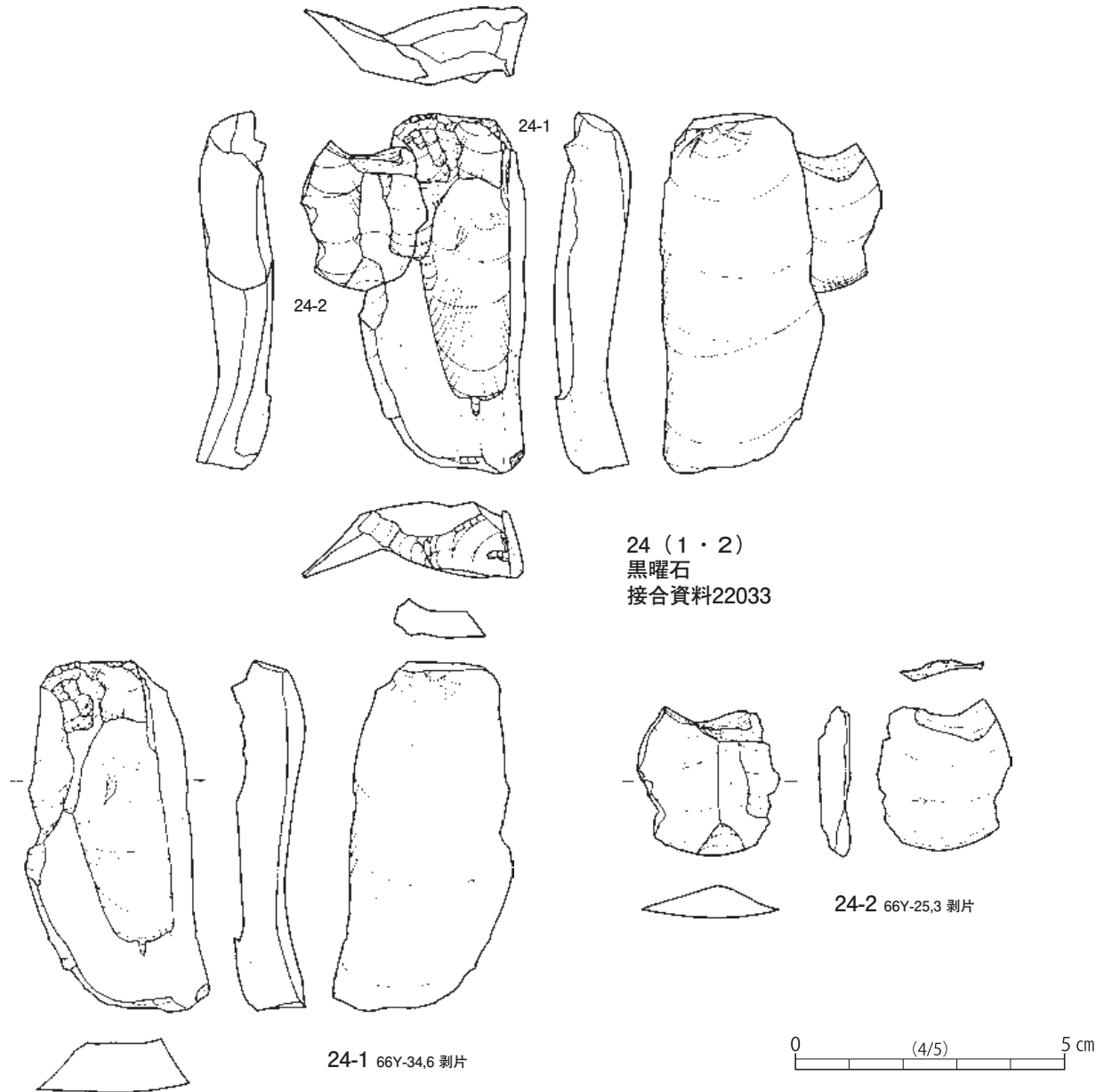
第66図 65Y-Bブロック出土遺物(4)



第67図 65Y-Bブロック出土遺物(5)



第68図 65Y-Bブロック出土遺物(6)



第69図 65Y-Bブロック出土遺物(7)

個体)の接合資料である。23・24は信州産と考えられる透明な地に黒灰色のモヤあるいは縞が入る透明度のある良質な黒曜石の接合資料である。23(接合資料22027)は石核1点・剥片1点の接合資料である。23-1は素材の主要剥離面を打面として、不定形な剥片を2点ほど剥離している。24(接合資料22033)は剥片2点の接合資料である。24-1は石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。図版26-25(接合資料22002)は珪化度の高い良質なチョコレート頁岩の石核1点・剥片2点の接合資料である。比較的大型の剥片を素材として、不定形な剥片を剥離した後、図版26-25-2の剥離で打面を再生して不定形な剥片を剥離し、さらに打面を調整している。なお、図版26-25-3は素材の主要剥離面を打面として剥離されており、図版26-25-1に残る作業面の主要な打撃方向とは異なる。図版26-26は珪化度の高い良質なチョコレート頁岩の不定形な剥片である。図版26-27は信州産と考えられる不透明な黒曜石の石核で、それほど大きくない縦長の角礫を素材として、打面調整や頭部調整を行いながら縦長剥片を剥離している。

第17表 65Y-Bブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA									2				11								13	6.5%	123.55	8.0%
RH													1								1	0.5%	5.68	0.4%
CH																	1				1	0.5%	198.79	12.8%
SH							1	1					15	3	1						21	10.6%	138.73	8.9%
BS			1										7								8	4.0%	163.79	10.6%
OB			5			1	2	1					63	79	2						153	76.9%	374.02	24.1%
RHR																				1	1	0.5%	335	21.6%
SAR																				1	1	0.5%	210.88	13.6%
合計	0	0	6	0	0	0	1	3	4	0	0	0	97	82	3	0	1	0	0	2	199	100.0%	1550.44	100.0%

15 66Y-Aブロック (第70～75図、第18表、図版3・4・27～29)

西側地区の西側、66Y-18・19・27～29・36～39・46～48・58、66Z-02・10・20・31グリッドに分布する。23.8 m×16.1 mの範囲から110点の石器と2点の礫が出土した。出土層位はⅨ層～Ⅲ層で、1.18 mの高差をもってⅨ層を中心に包含される。65Y-Bブロックとブロック間接合がある。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・削片・碎片・石核・敲石と礫・礫片で構成される。本ブロックも65Y-A・Bブロック同様、剥片が主体であるが、ナイフ形石器などの利器も顕著である。石器石材は、トロトロ石・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成される。礫石材は、砂岩・チャートである。石器の器種組成は65Y-Aブロックと同様であるが、石材組成については、65Y-Bブロックに近く、黒曜石が主体であることは変わらないが、他の石材が客体的に伴っている。礫・礫片が伴うことも共通する。

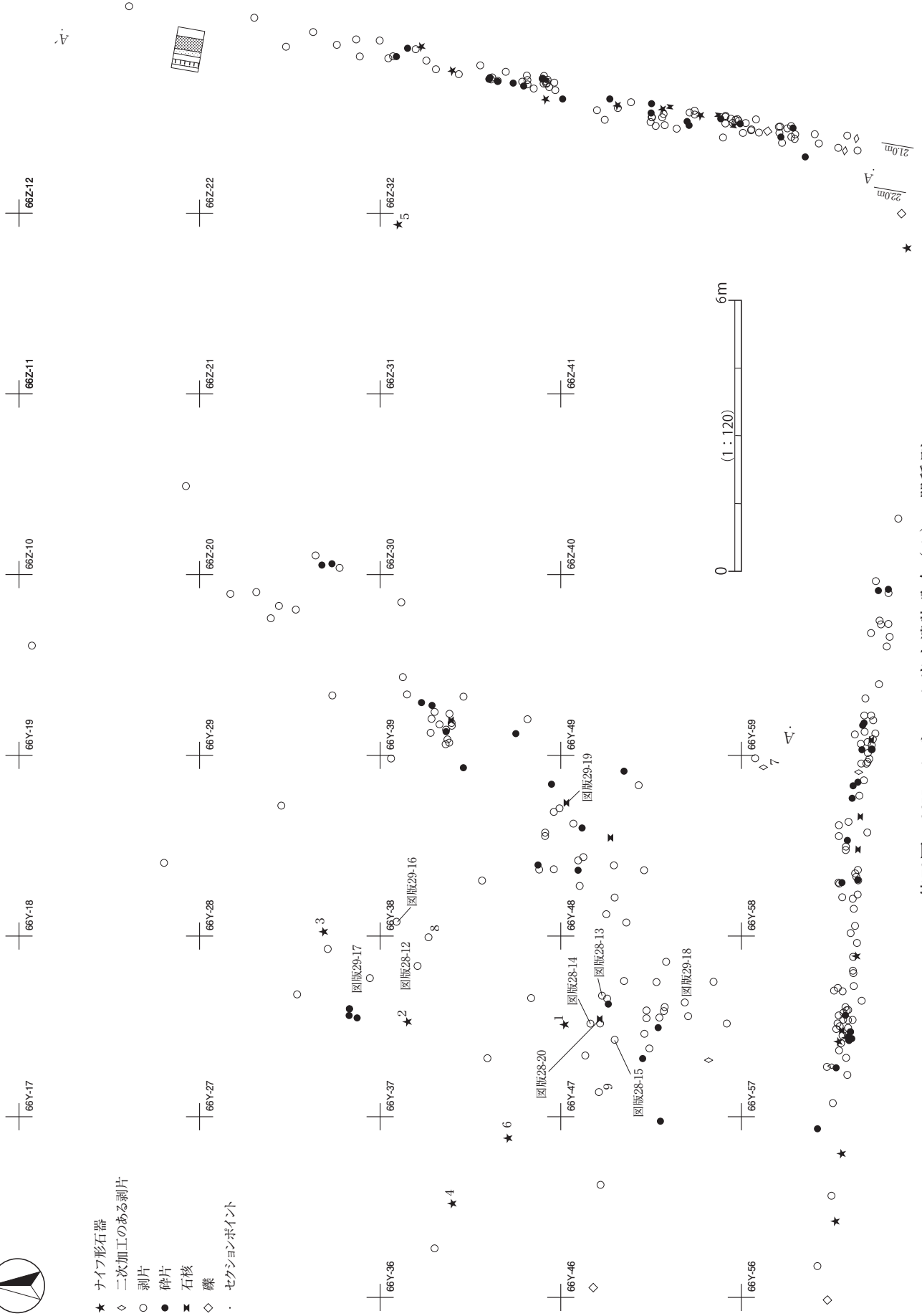
1～3・6は信州産と考えられる透明度のある良質な黒曜石で、1・3は透明な地に黒灰色のモヤが入り、2・6は透明な地に黒灰色の縞が入るナイフ形石器である。すべて、打面側が基部で石刃状の縦長剥片を素材としている。1は左側縁と右側縁下部に調整を施した二側縁加工で、さらに裏面基部加工が施されている。2は左側縁の上半の調整加工と下半の自然面、右側縁下部に調整を施した二側縁加工で、裏面右側縁の一部にも調整加工が見られる。3は両側縁の下部と裏面左側縁の下部にも調整加工が見られる基部加工で、両側縁の上・下半に微細な剥離痕が見られる。6は先端部だけの遺存で、左側縁に細かい調整加工を行っている。4はトロトロ石、5は黒色頁岩のナイフ形石器である。両者とも打面側が基部で、石刃状の縦長剥片を素材としている。4は左側縁と右側縁下部に調整を施した二側縁加工、5は上半を欠損しており、右側縁下部に細かい調整加工を行っている。7は信州産と考えられる透明な地に黒灰色の縞が入る良質な黒曜石の二次加工のある剥片である。縦長の折断剥片の折面を打面として大きめの調整加工を行っているが、小型で不定形な剥片を剥離した石核の可能性が高い。右側縁に細かい剥離痕、左側縁に微細な

第18表 66Y-Aブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
TO			1																		1	0.9%	2.05	0.3%
SH							1						27	3	1						32	28.6%	182.93	27.9%
BS			1																		1	0.9%	2.95	0.4%
OB			4				1						52	16	3						76	67.9%	305.23	46.6%
SAR																				1	1	0.9%	20.15	3.1%
CHR																				1	1	0.9%	142.25	21.7%
合計	0	0	6	0	0	0	0	2	0	0	0	0	79	19	4	0	0	0	0	2	112	100.0%	655.56	100.0%



- ★ ナイフ形石器
- ◇ 二次加工のある剥片
- 剥片
- 砕片
- ✕ 石核
- ◇ 礫
- ・ セグションポイント

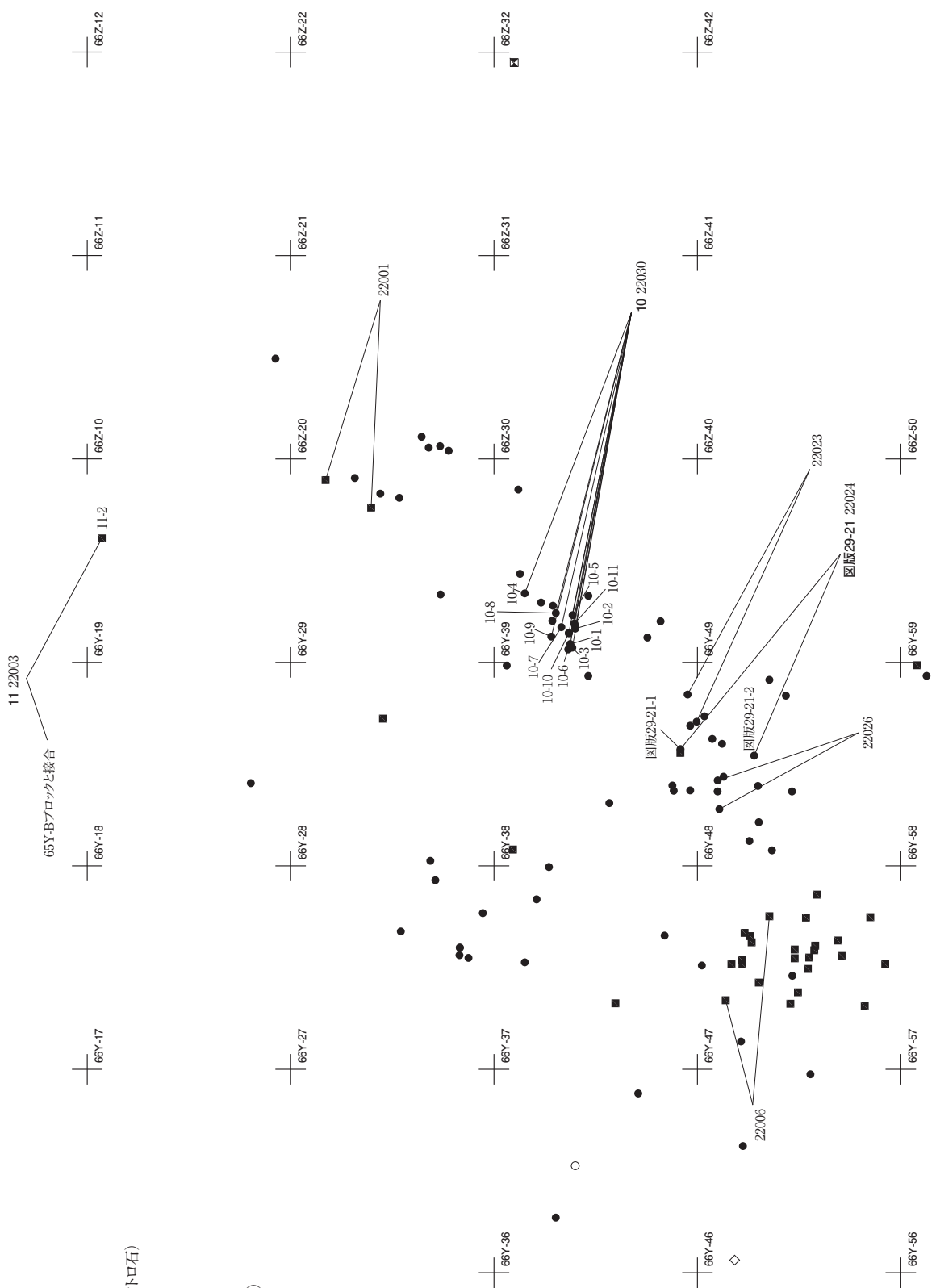


第70図 66Y-Aブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -

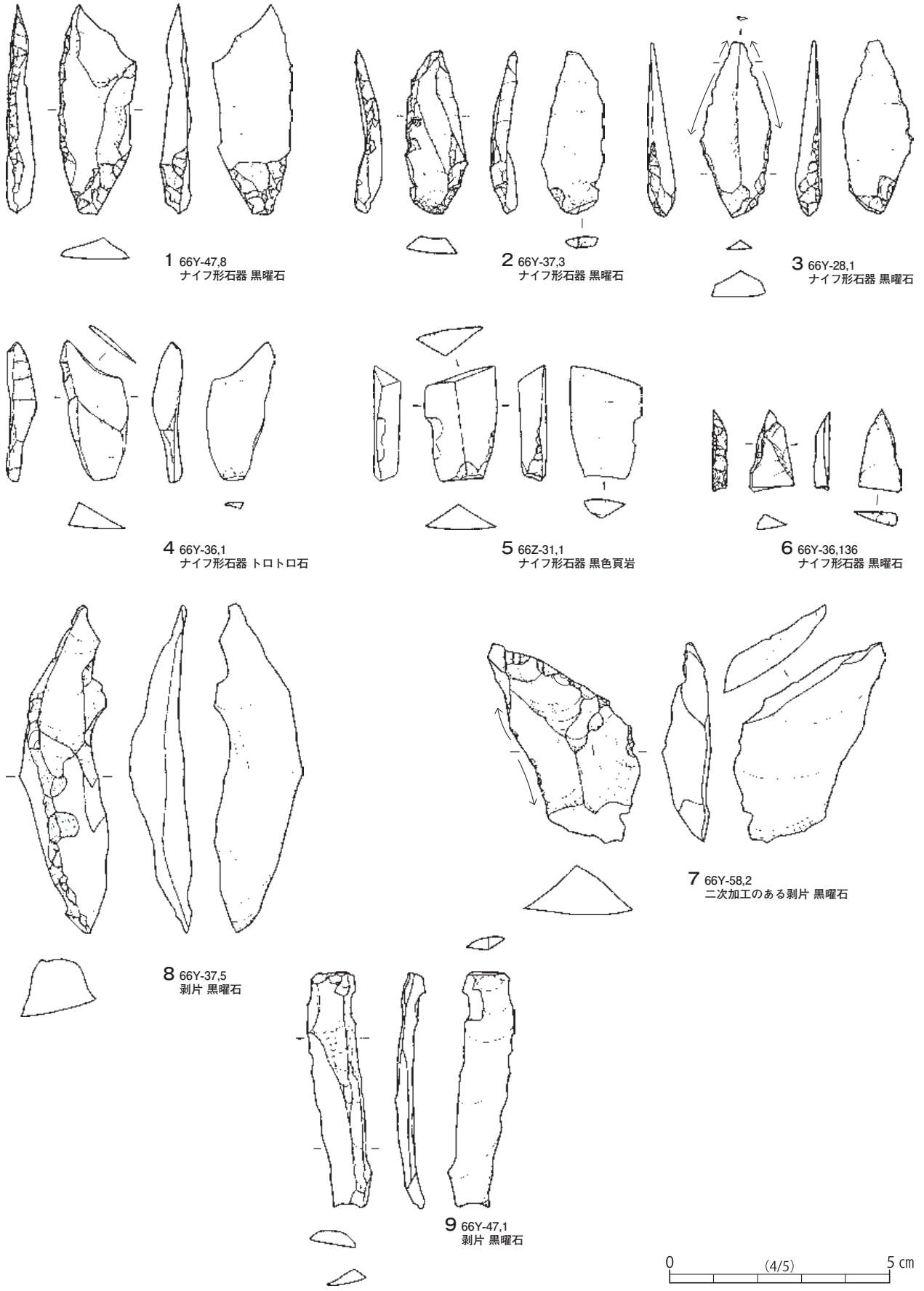
□



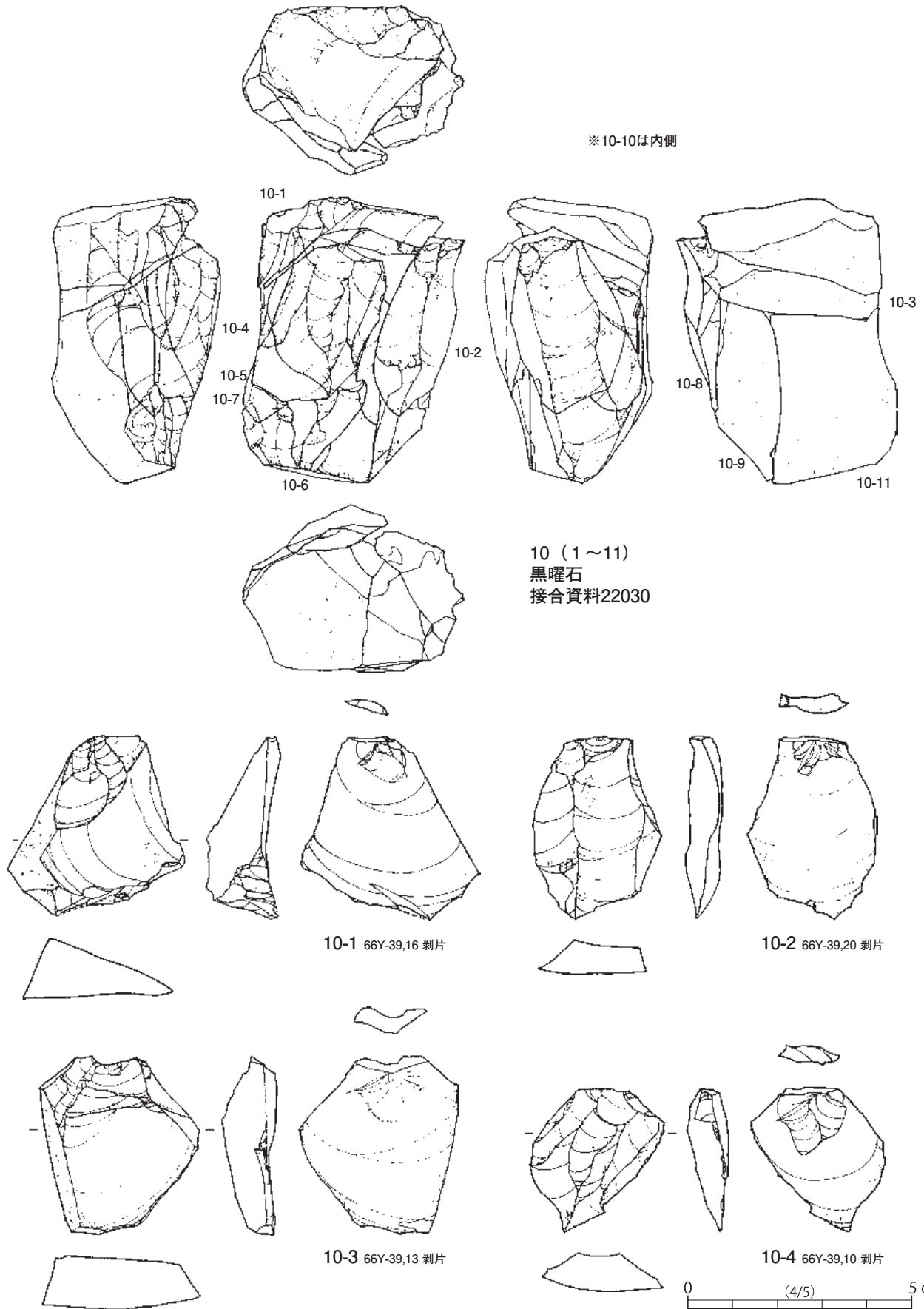
- 安山岩(トロトロ石)
- 頁岩
- ▣ 黒色頁岩
- 黒曜石
- 砂岩(礫)
- ◇ チャート(礫)



第71図 66Y-Aブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -



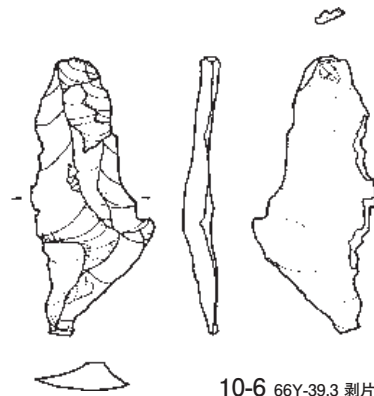
第72図 66Y-Aブロック出土遺物(1)



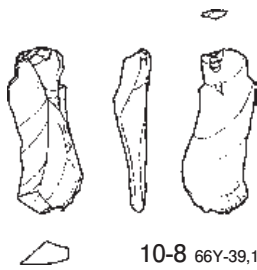
第73図 66Y-Aブロック出土遺物(2)



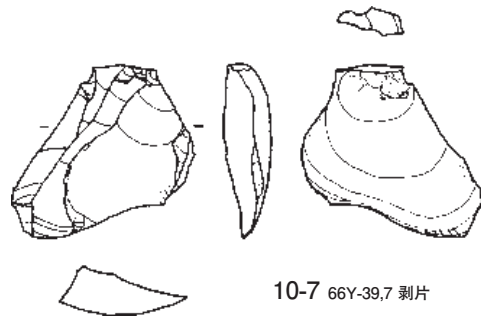
10-5 66Y-39,19 剥片



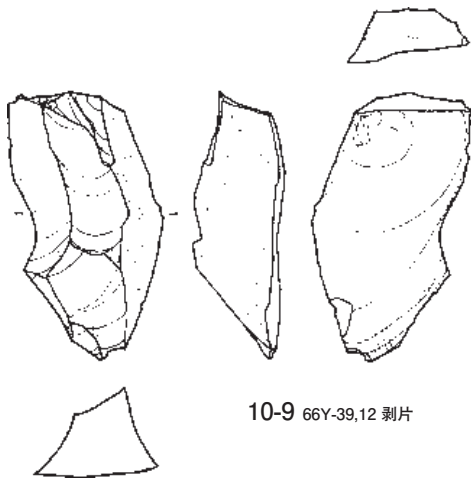
10-6 66Y-39,3 剥片



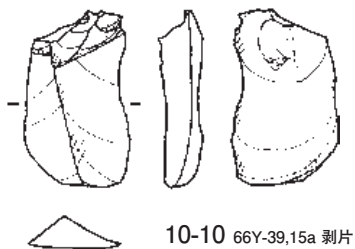
10-8 66Y-39,14 剥片



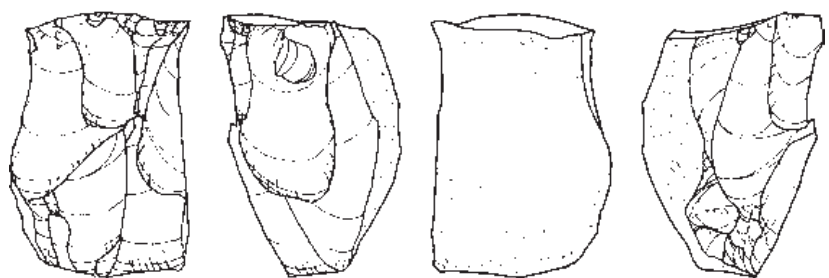
10-7 66Y-39,7 剥片



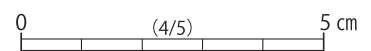
10-9 66Y-39,12 剥片



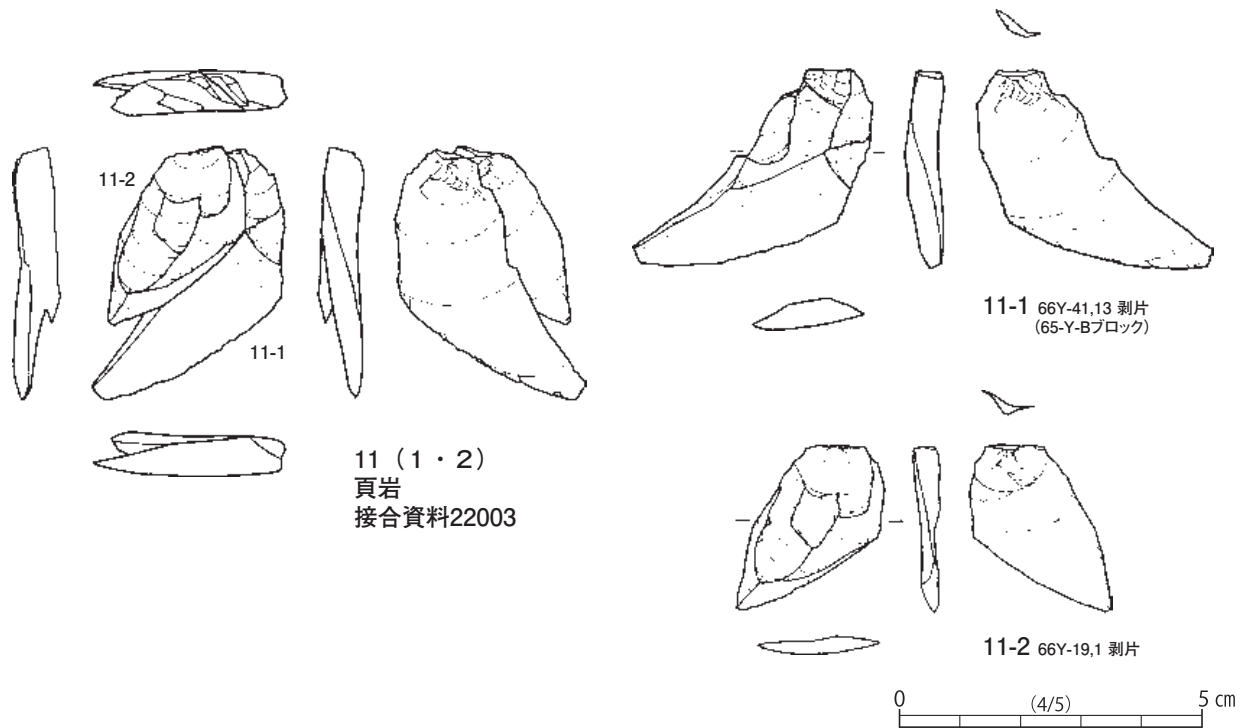
10-10 66Y-39,15a 剥片



10-11 66Y-39,18 石核



第74図 66Y-Aブロック出土遺物(3)



第75図 66Y-Aブロック出土遺物(4)

剥離痕が見られる。8・9は信州産と考えられる透明度のある良質な黒曜石の剥片で、8は薄墨を流したような稜付石刃である。9は灰色と黒灰色の縞が入る石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。10（接合資料 22030）は信州産と考えられる薄墨を流したような透明な地に黒灰色の縞が入る良質な黒曜石の石核1点・剥片10点の接合資料である。10-1を剥離して打面を再生し、打面調整を行いながら、10-2など数枚の剥片を剥離後、再び10-3を剥離して打面を再生している。その後は10-3の剥離によって作成された平坦な剥離面を打面として、10-4→10-5→10-6→10-7を剥離後、10-8→10-9や10-10を剥離している。本個体では、打面を複数回再生しながら、単設打面の石核10-11からやや縦長の不定形な剥片を剥離している。11（接合資料 22003）は珪化度の高い良質なチョコレート頁岩の剥片2点の接合資料で、両者とも軸のずれた不定形な剥片である。65Y-Bブロックの11-1と本ブロックの11-2がブロック間接合である。図版 28-12、29-17・19・21は信州産と考えられる良質な黒曜石で、図版 28-12は濃赤褐色、図版 29-19は漆黒、図版 29-17は薄墨を流したような透明な地に黒灰色の縞が入り、図版 29-21は薄墨を流したような黒曜石である。図版 28-13～16・18、図版 29-20は珪化度の高い良質な頁岩で、図版 28-13、図版 29-16はチョコレート色、図版 28-14・15・20は灰白色、図版 18は緑灰色・灰褐色である。図版 28-12～14は石刃あるいは石刃状の縦長剥片、図版 28-15は不定形、図版 29-16は横長剥片、図版 29-17・18は縦長剥片、図版 29-19は不明である。図版 29-17の打面は線状で打撃時の衝撃により、裏面側は大きく剥離（落）している。図版 29-18の末端は石核の底面と思われる。図版 29-20は打面と作業面を轉移しながら、小型で不定形な剥片を剥離している。被熱によると考えられる剥落の痕跡が見られる。図版 29-21（接合資料 22030）は石核1点・剥片1点の接合資料である。比較的大型の縦長剥片を素材として、素材の末端の折面と思われる平坦な面を打面として図版 29-21-1などの小型で不定形な剥片を数枚剥離した後、素材の打面側を調整して、新たに打面を作出して小型で不定形な剥片を剥離した後、図版 29-21-2の石核が廃棄されている。

16 66X- Aブロック (第76図、第19表、図版4・29)

西側地区の西側、66X-61・62・70・71・81 グリッドに分布する。3.7 m × 7.9 mの範囲から11点の石器が出土した。出土層位はⅨc層で、0.22 mの高低差をもって包含される。

石器器種は、台形様石器・剥片・碎片・石核・打製石斧で構成される。台形様石器・打製石斧が伴うことが特徴で、剥片等も少数である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・チャート・ホルンフェルス・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成される。石材組成については、黒曜石の台形様石器、ホルンフェルスの打製石斧も含め、頁岩以外は単独石材である。

1は信州産と考えられる透明な地に黒色のモヤが入る良質な黒曜石の台形様石器である。横長剥片を横位に用い、表面の両側縁に細かい調整加工、裏面の左側縁全体と右側縁下半部に細かい調整加工、同下半部に器体中央を超えるような大きな平坦な調整加工を施している。先端部の中央には衝撃剥離によく見られる発生部が折り曲げで浅い縦溝状剥離を複合する剥離痕、先端部の両面には微細な剥離痕が見られる。2は比較的硬質で泥質のホルンフェルスの打製石斧である。裏面に自然面を全面に残す比較的薄手の縦長剥片を素材として、表面の左側縁の一部と右側縁の中央部に細かい調整、裏面の刃部を除く全周に比較的大きく平坦な調整、刃部には裏面と同様の細かい調整を行っている。

図版29-3は黒色頁岩の石核である。裏面に素材の主要剥離面を残している。打面と作業面を転移しながら様々な方向から小型で不定形な剥片を剥離している。

第19表 66X-Aブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA													1								1	9.1%	7.56	3.4%
CH													1								1	9.1%	15.34	6.9%
HO																1					1	9.1%	100.92	45.4%
SH													5	1							6	54.5%	62.06	27.9%
BS															1						1	9.1%	25.38	11.4%
OB				1																	1	9.1%	10.87	4.9%
合計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	1	1	0	0	0	0	11	100.0%	222.13	100.0%

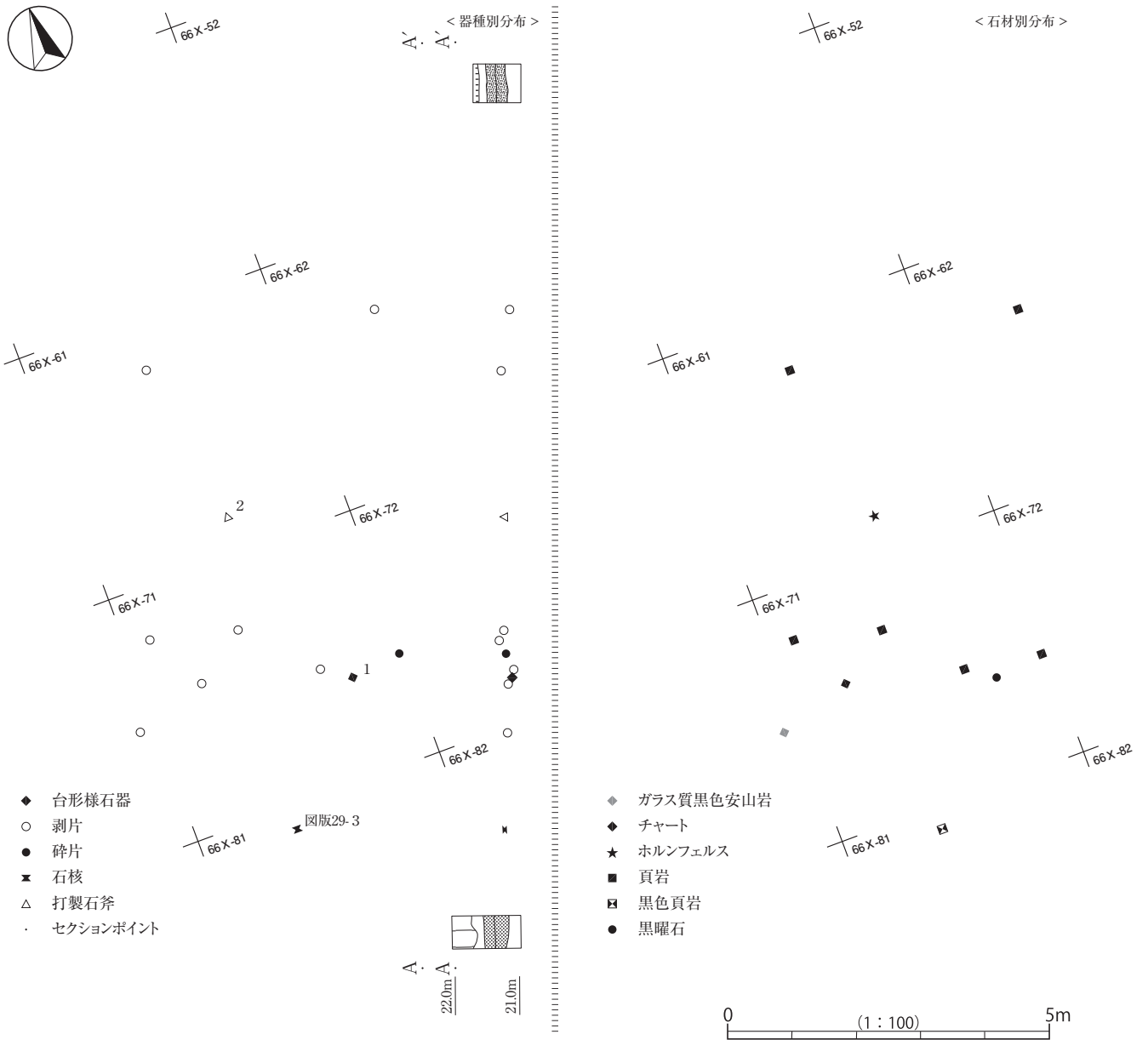
17 67BB- Aブロック (第78・79図、第26表、図版4・30)

西側地区の中央南側、67BB-74・84・85 グリッドに分布する。1.6 m × 3.9 mの範囲から15点の石器が出土した。出土層位はⅨ中層～Ⅵ層である。0.74 mの高低差をもってⅨ中層～Ⅸ上層を中心に包含される。

石器器種は、剥片・碎片と礫・礫片で構成される。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・ホルンフェルス・黒色頁岩・玉髓・黒曜石で構成される。礫石材は、流紋岩・チャートで構成される。石材組成については、ホルンフェルスが多いが、他の石材の数量もそれほど変わらない。

1はガラス質黒色安山岩の横長剥片である。2はトロトロ石の石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。

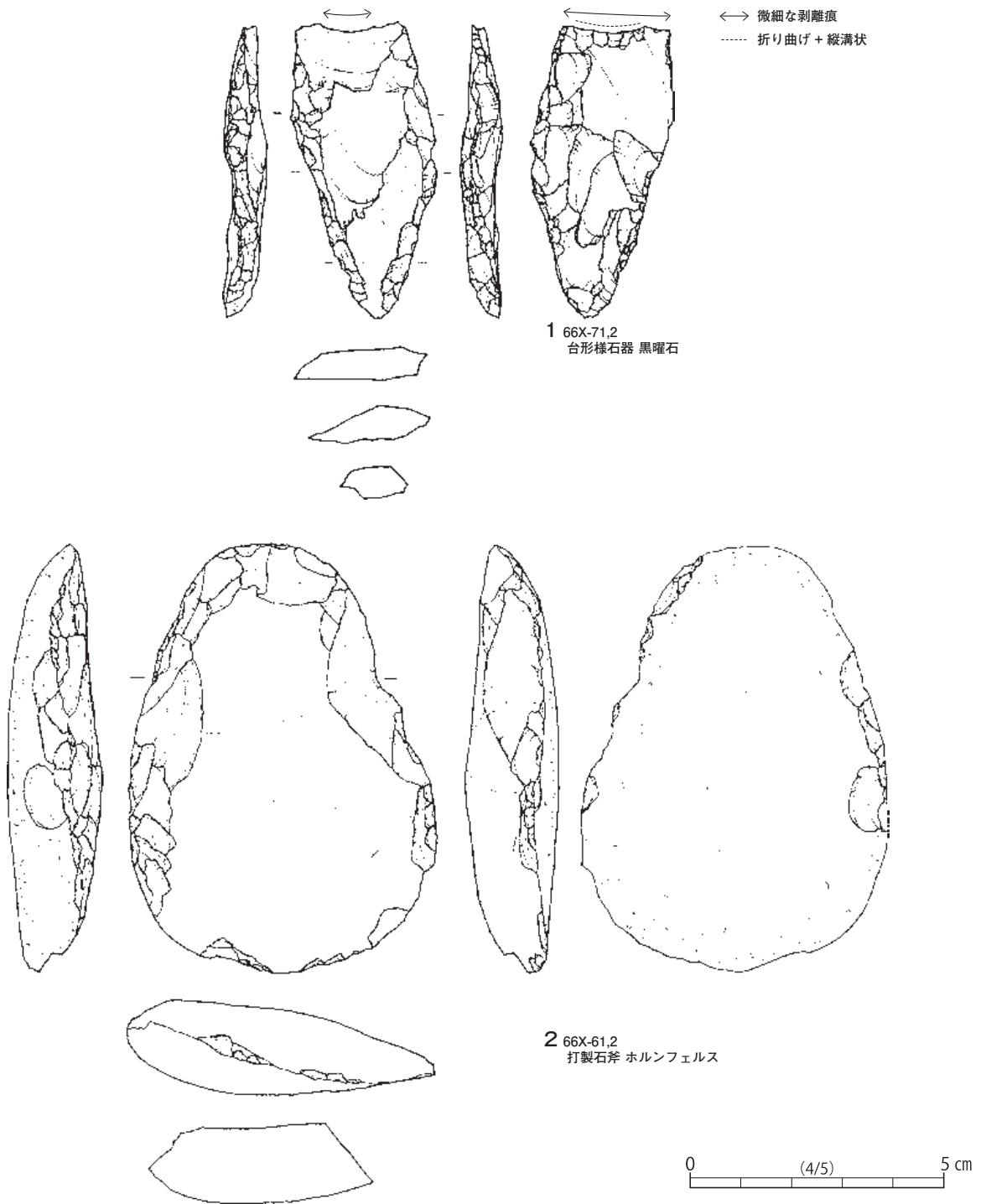
図版30-3はトロトロ石の不定形な剥片である。図版30-4は塊状に剥離したと考えメノウの縦長剥片としたが、石核の可能性はある。



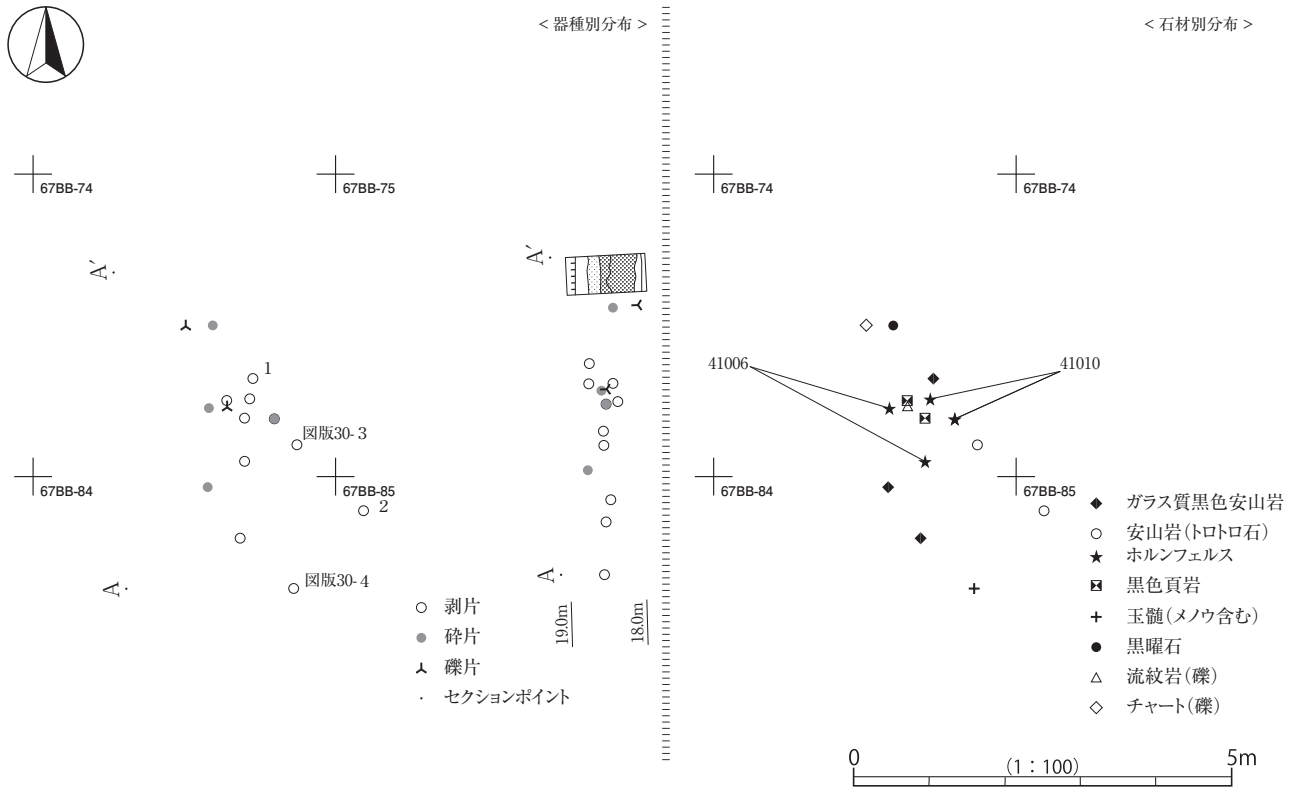
第76図 66X-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-

第20表 67BB-Aブロック石器組成

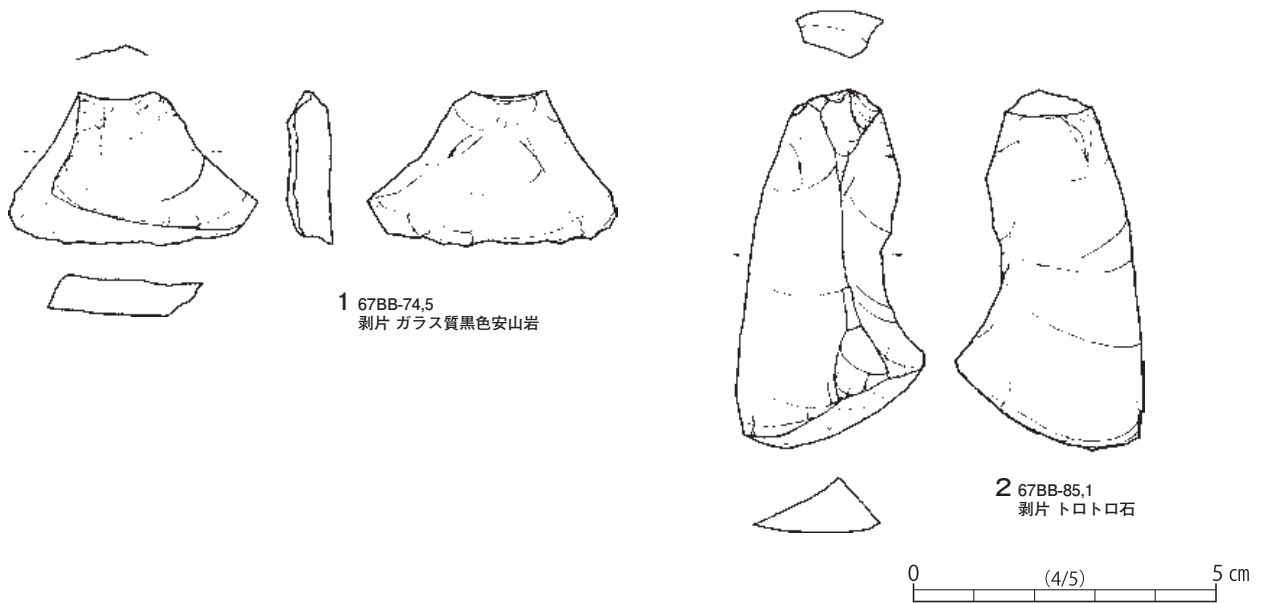
石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA													2	1							3	17.6%	16.87	21.9%
TO													2								2	11.8%	25.44	33.0%
HO													4	2							6	35.3%	14.56	18.9%
BS													2								2	11.8%	3.77	4.9%
CC													1								1	5.9%	15.51	20.1%
OB														1							1	5.9%	0.04	0.1%
RHR																				1	1	5.9%	0.43	0.6%
CHR																				1	1	5.9%	0.4	0.5%
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	4	0	0	0	0	0	2	17	100.0%	77.02	100.0%



第77図 66X-Aブロック出土遺物



第78図 67BB-Aブロック出土遺物分布－器種別・石材別－



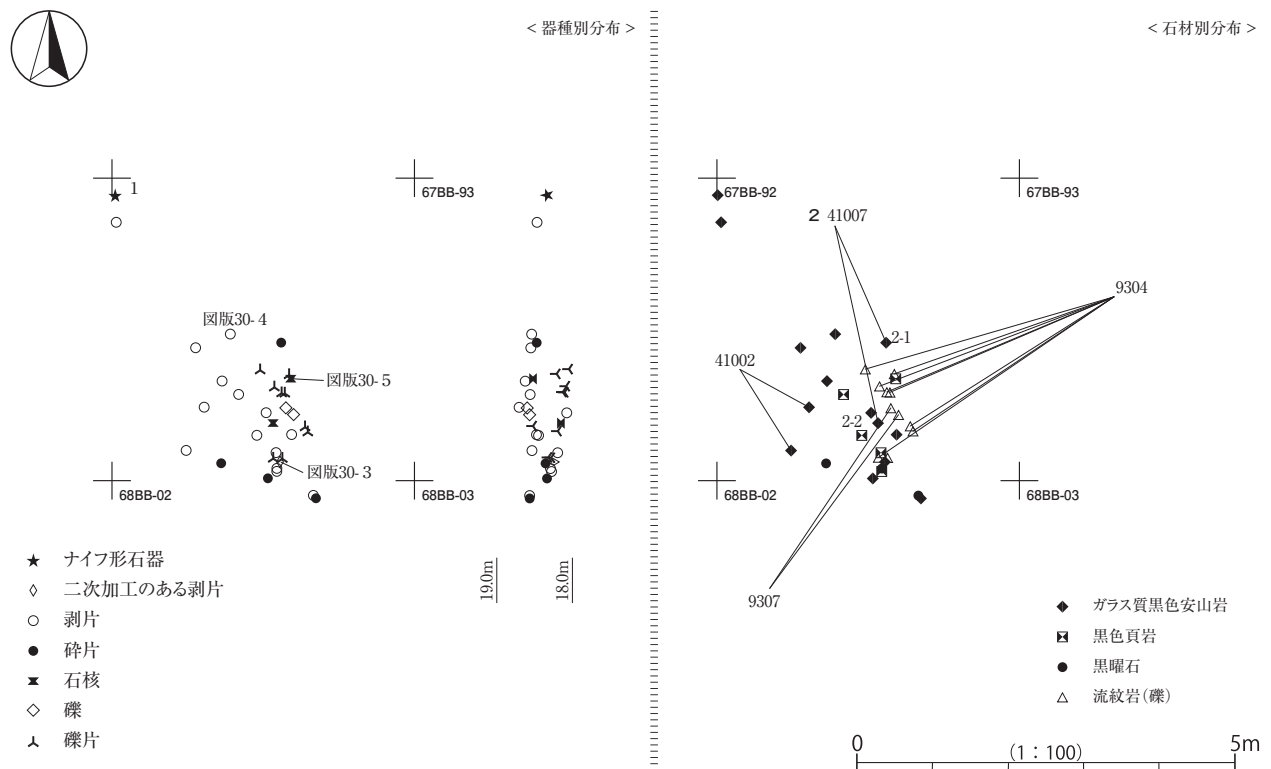
第79図 67BB-Aブロック出土遺物

18 67BB-Bブロック (第80・81図、第21・22表、図版4・30)

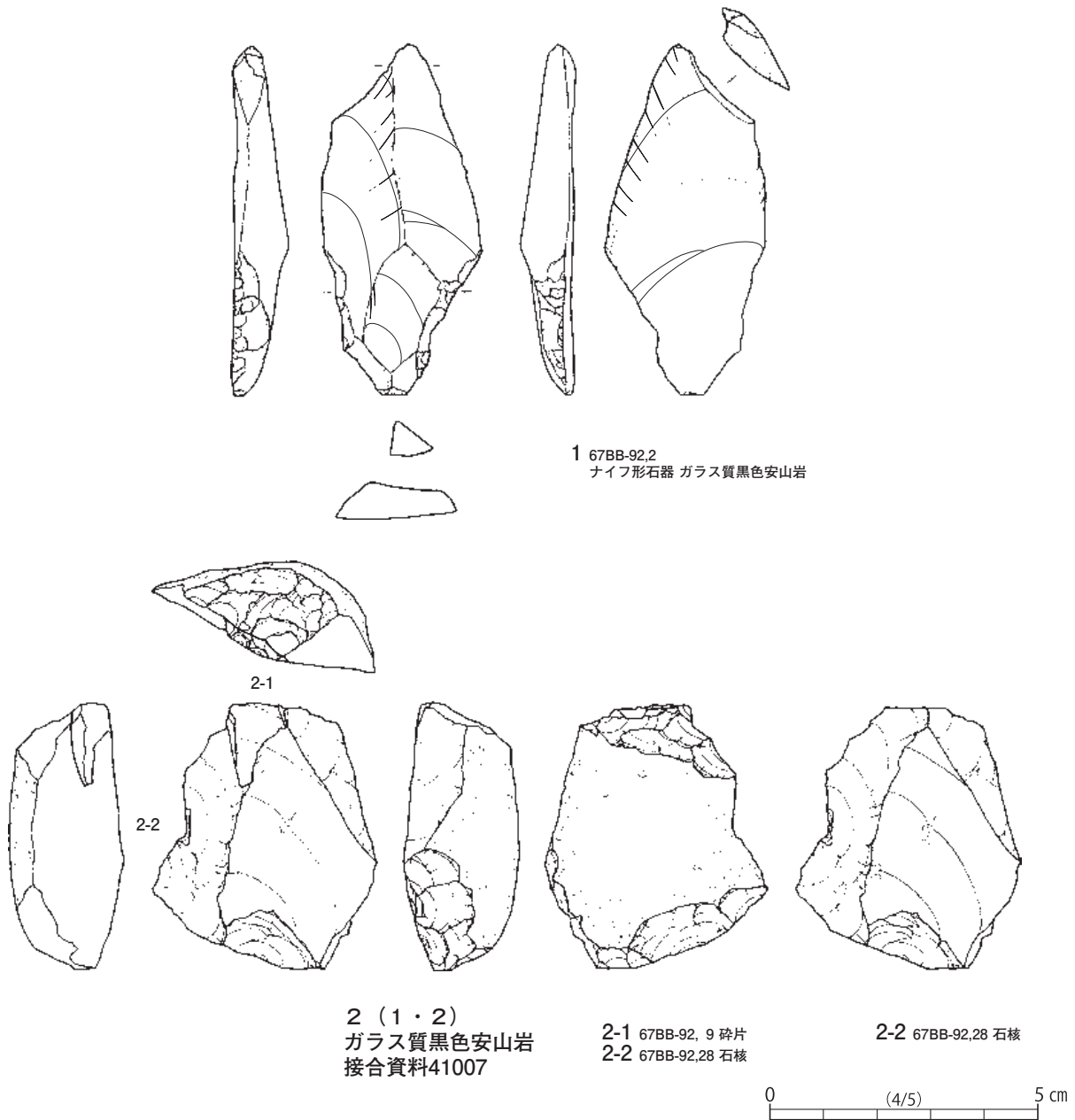
西側地区の中央南側、67BB-92、68BB-02 グリッドに分布する。1.9 m × 5.0 m の範囲から 22 点の石器と 35 点の礫が出土した。出土層位はⅨ上層～Ⅲ下層である。0.63 m の高低差をもってⅦ層を中心に包含される。本ブロックは第3あるいは第4文化層の可能性がある。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・碎片・石核と礫・礫片で構成される。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・黒色頁岩・黒曜石で構成される。礫石材は、流紋岩のみである。本ブロックはほかの同文化層のブロックに比べると礫・礫片を多く伴うことが特徴である。

1 はガラス質黒色安山岩の基部調整のナイフ形石器である。縦長剥片を素材として打面側を基部としている。基部からほぼ中央まで比較的大きな調整加工を施している。2 (接合資料 41007) はガラス質黒色安山岩の石核 1 点・碎片 1 点の接合資料である。表面全体が自然面の剥片を素材として、腹面から右側面下部に搔器の刃部作出のような小型の縦長剥片、同じく腹面から周縁を巡るように小型の横長剥片を剥離した後、表面から 2-1 を含む中型あるいは小型の横長剥片を剥離している。さらに、素材の末端から搔器の刃部作出のような小型の縦長剥片を剥離している。2-2 は石核としたが、搔器など石器の調整加工のような剥離痕が見られることから、石核以外に何らかの石器の機能を持たせようとした複合石器かもしれない。図版 30-3・4 はガラス質黒色安山岩の石器で、図版 30-3 は横長剥片の末端に粗い調整加工を施した二次加工のある剥片であるが、ナイフ形石器などの未成品の可能性がある。図版 30-4 は幅広の石刃状の縦長剥片である。図版 30-5 は黒色頁岩の石核である。比較的厚みのある横長剥片を素材として表面から横長剥片を剥離している。また、左側の先端に搔器の刃部作出のような小型の剥片を剥離した剥離痕が見られる。



第80図 67BB-Bブロック出土遺物分布 - 器種別・石材別 -



第81図 67BB-Bブロック出土遺物

第21表 67BB-Bブロック石器組成

石材 / 器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA			1					1					8	3	1						14	45.9%	149.97	53.2%
BS													4		1						5	16.4%	53.34	18.9%
OB													2	1							3	9.8%	1.4	0.5%
合計	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	14	4	2	0	0	0	0	22	100.0%	281.73	100.0%	

第22表 67BB-Bブロック礫組成

石材 / 器種	礫片	点数合計	重量合計 (g)	
RHR	11	11	100.0%	1380.1
合計	11	11	100.0%	1380.1

19 66GG- Aブロック (第 82・83 図、第 23 表、図版 4・30)

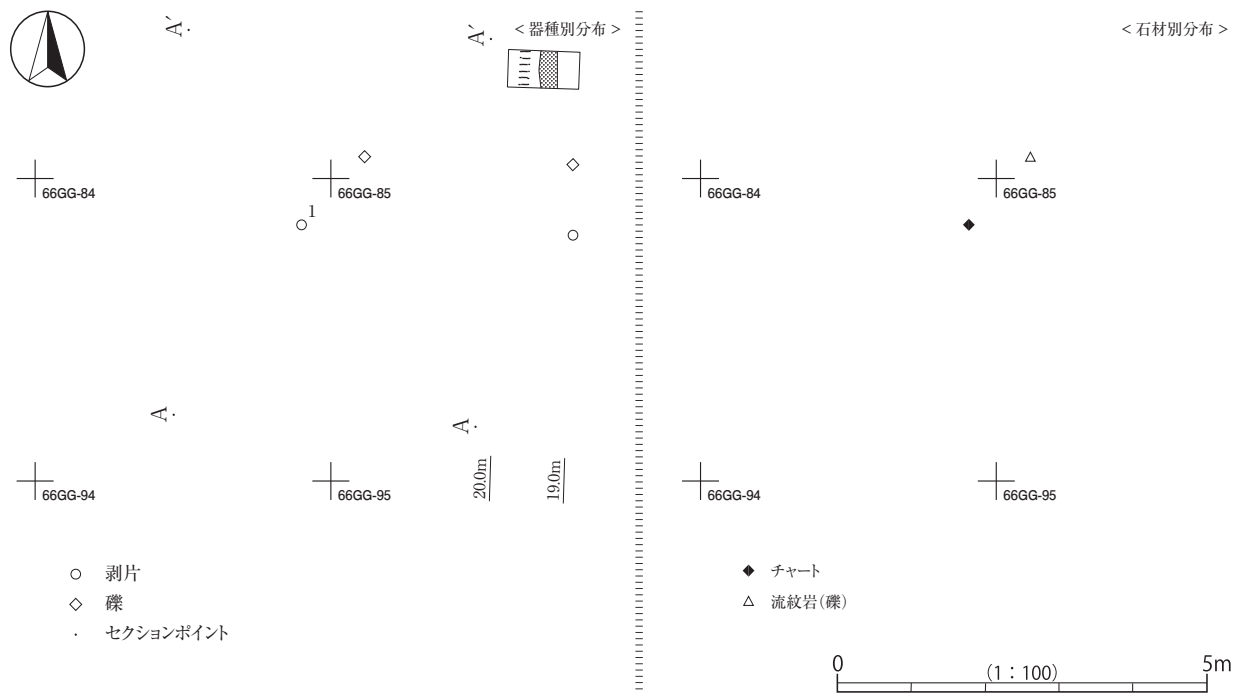
西側地区の東側、66GG-75・84 グリッドに分布する。1.4 m× 0.2 mの範囲から 1 点の石器と 1 点の礫が出土した。出土層位はⅨ層である。0.06 mの高低差をもって包含される。

石器器種は、剥片と礫・礫片で構成される。石器石材は、チャートのみ、礫石材は、流紋岩のみである。それぞれ 1 点のみの小規模なブロックである。

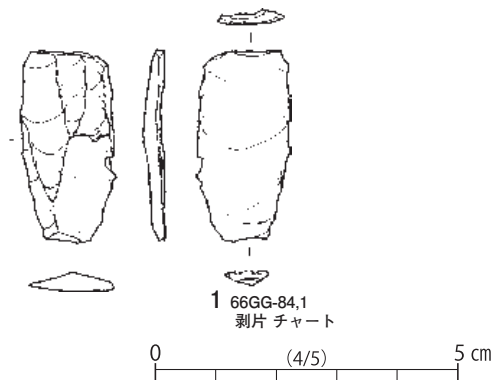
1 は黒灰褐色のチャートの石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。打面側と末端は欠損している。

第23表 66GG-Aブロック石器組成

石材 / 器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫 礫片	点数合計	重量合計 (g)		
CH													1								1	50.0%	1.64	28.7%
RHR																					1	50.0%	4.08	71.3%
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	100.0%	5.72	100.0%



第82図 66GG-Aブロック出土遺物分布 - 器種別・石材別 -



第83図 66GG-Aブロック出土遺物

3 第3文化層

第3文化層の石器群は、257点の石器と25点の礫が出土し、8か所の石器集中で構成される。Ⅵ層～Ⅶ層の石器群と推定される。西側地区の南側中央にまとまっている。石器については、67Z-A・Bブロック、礫については、64X-A・Bブロックにブロック間接合がある。

1 67Z-Aブロック（第84・86図、第24表、図版4・31）

西側地区の中央南側、67Z-74～76・85グリッドに分布する。7.5 m × 2.8 mの範囲から48点の石器が出土した。出土層位はⅨ層～Ⅲ層である。0.56 mの高低差をもってⅦ層～Ⅵ層を中心に包含される。67Z-Bブロックとブロック間接合がある。

石器器種は、ナイフ形石器・微細な剥離痕のある剥片・剥片・碎片・石核で構成される。剥片が主体であるが、ナイフ形石器などの利器も見られる。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・チャート・ホルンフェルス・黒曜石で構成される。剥片が主体であるが、ナイフ形石器などの利器も見られる。石材組成については、黒曜石が主体で、チャートがこれに次ぐ。

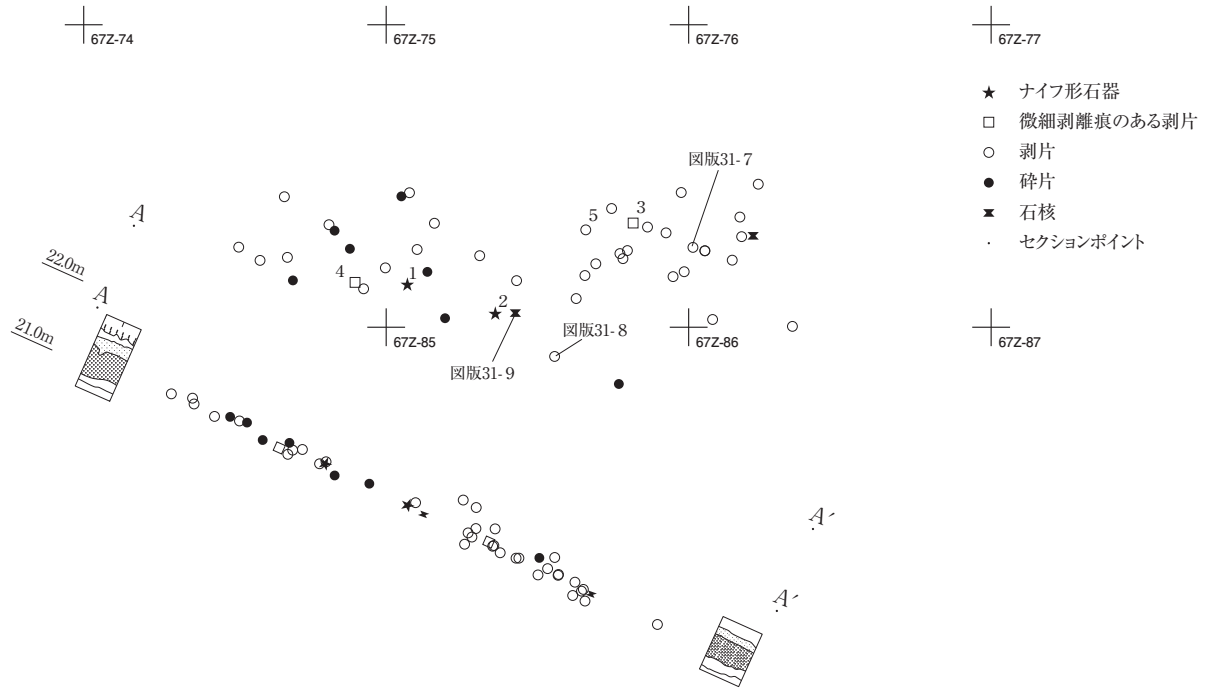
1はガラス質黒色安山岩の二側縁加工のナイフ形石器である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片を素材とし、打面側を基部としている。左側縁下半部と右側縁に調整加工を施している。2は信州産と考えられる透明度の高い良質な黒曜石の一側縁加工のナイフ形石器である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片を素材とし、打面側を基部としている。左側縁に調整加工を施している。器体中央下半の剥離面はポジティブな面である可能性が高い。3・4は信州産と考えられる透明な地に黒灰色のモヤが入る良質な黒曜石の微細な剥離痕のある剥片である。両者とも縦長剥片を素材として、3は左側縁と末端、4は左側縁に微細な剥離痕が見られる。5は青灰色のチャートの石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。発掘時に2点に欠損している。6（接合資料47005）は青緑灰色のチャートの石刃あるいは石刃状の縦長剥片2点の接合資料である。6-1は上部の大半を欠損しているが、完形であれば6-2同様の形状の剥片と思われる。図版31-7は泥質のホルンフェルス、図版31-8はガラス質黒色安山岩の縦長剥片である。図版31-9は信州産と考えられる漆黒で良質な黒曜石の石核である。不定形な剥片を素材として、小型で不定形な剥片を剥離している。図版31-10（接合資料47003）は濃灰色のチャートの石核1点・剥片3点（2個体）の接合資料である。剥片の両端で小型三角形の剥片を剥離している。

第24表 67Z-Aブロック石器組成

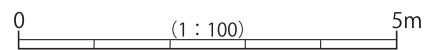
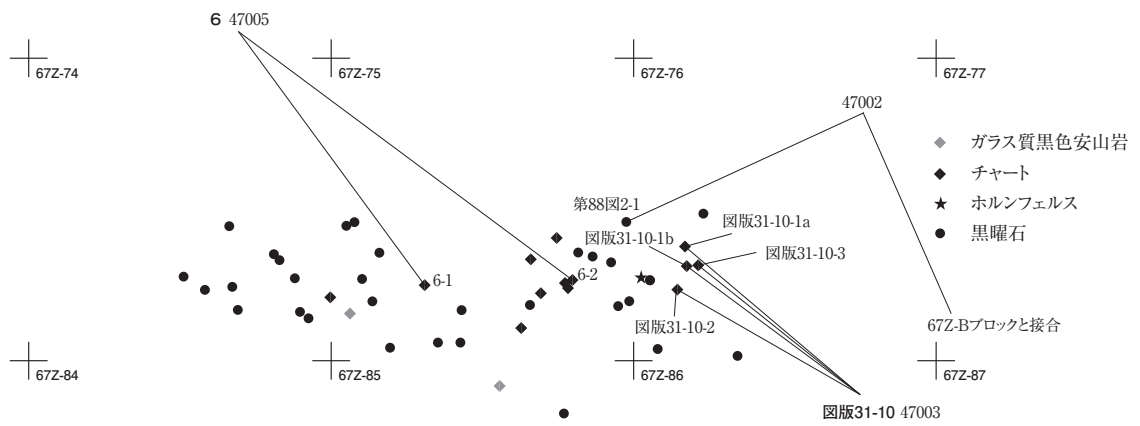
石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形錐石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫 礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA			1										1								2	4.2%	12.77	6.6%
CH													12		1						13	27.1%	89.83	46.5%
HO													1								1	2.1%	17.71	9.2%
OB			1						2				21	7	1						32	66.7%	73.01	37.8%
合計	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	35	7	2	0	0	0	0	0	48	100.0%	193.32	100.0%



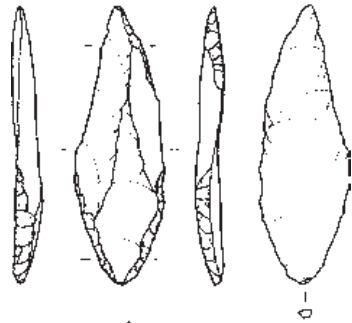
< 器種別分布 >



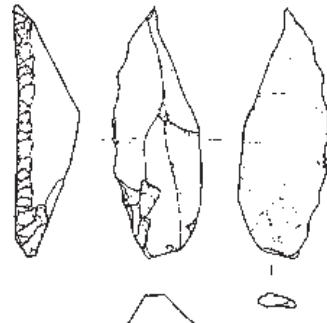
< 石材別分布 >



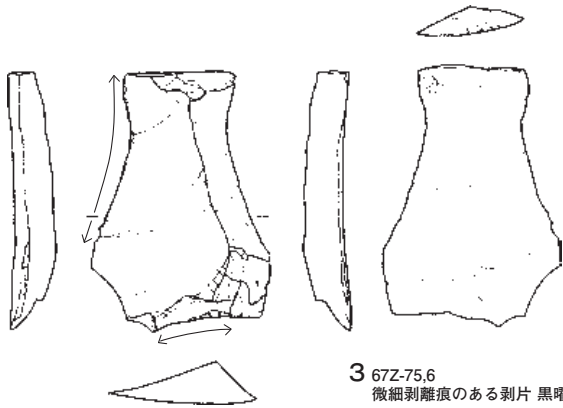
第84図 67Z-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-



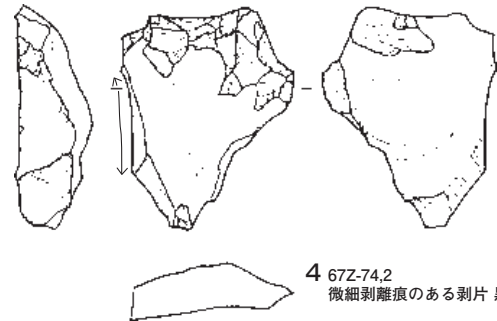
1 67Z-75.20
ナイフ形石器 ガラス質黒色安山岩



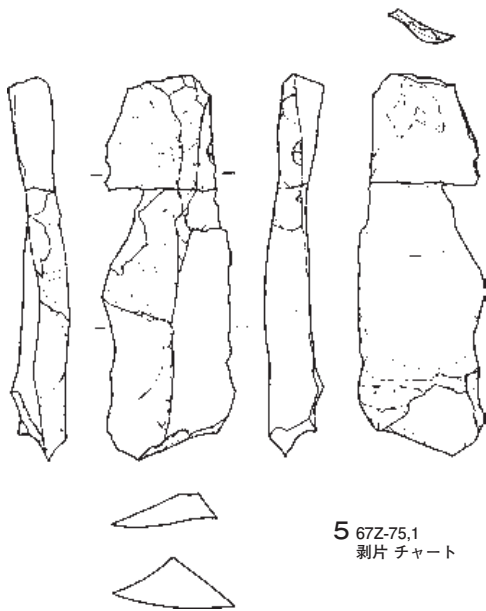
2 67Z-75.21
ナイフ形石器 黒曜石



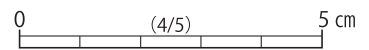
3 67Z-75.6
微細剥離痕のある剥片 黒曜石



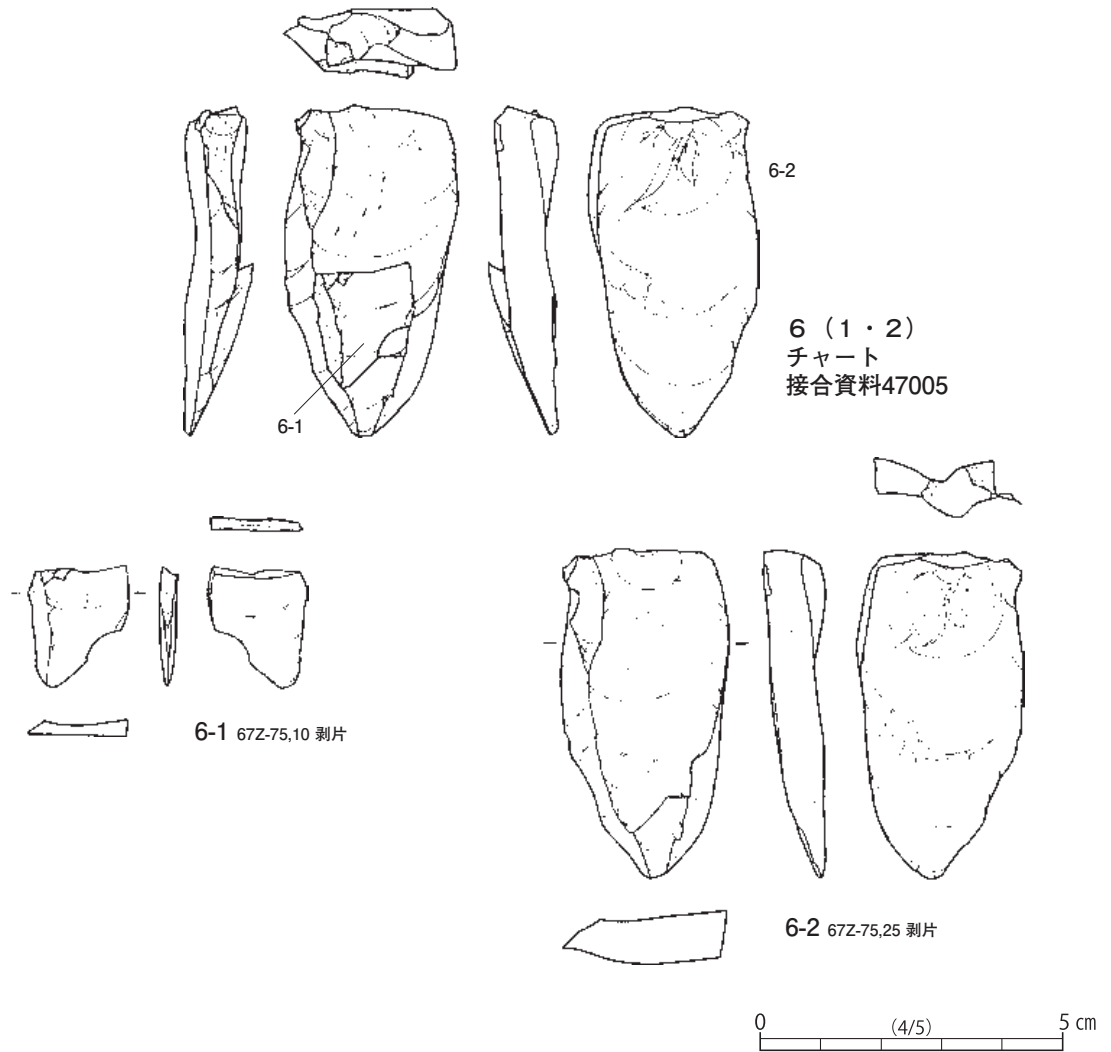
4 67Z-74.2
微細剥離痕のある剥片 黒曜石



5 67Z-75.1
剥片 チャート



第85図 67Z-Aブロック出土遺物(1)



第86図 67Z-Aブロック出土遺物(2)

2 67Z- Bブロック (第87・88図、第25表、図版4・32)

西側地区の中央南側、67Z-76・86・87グリッドに分布する。3.0 m×2.6 mの範囲から31点の石器が出土した。出土層位はⅢ層～Ⅸ層である。0.46 mの高低差をもってⅨ層～Ⅵ層を中心に包含される。67Z-Aブロックとブロック間接合がある。

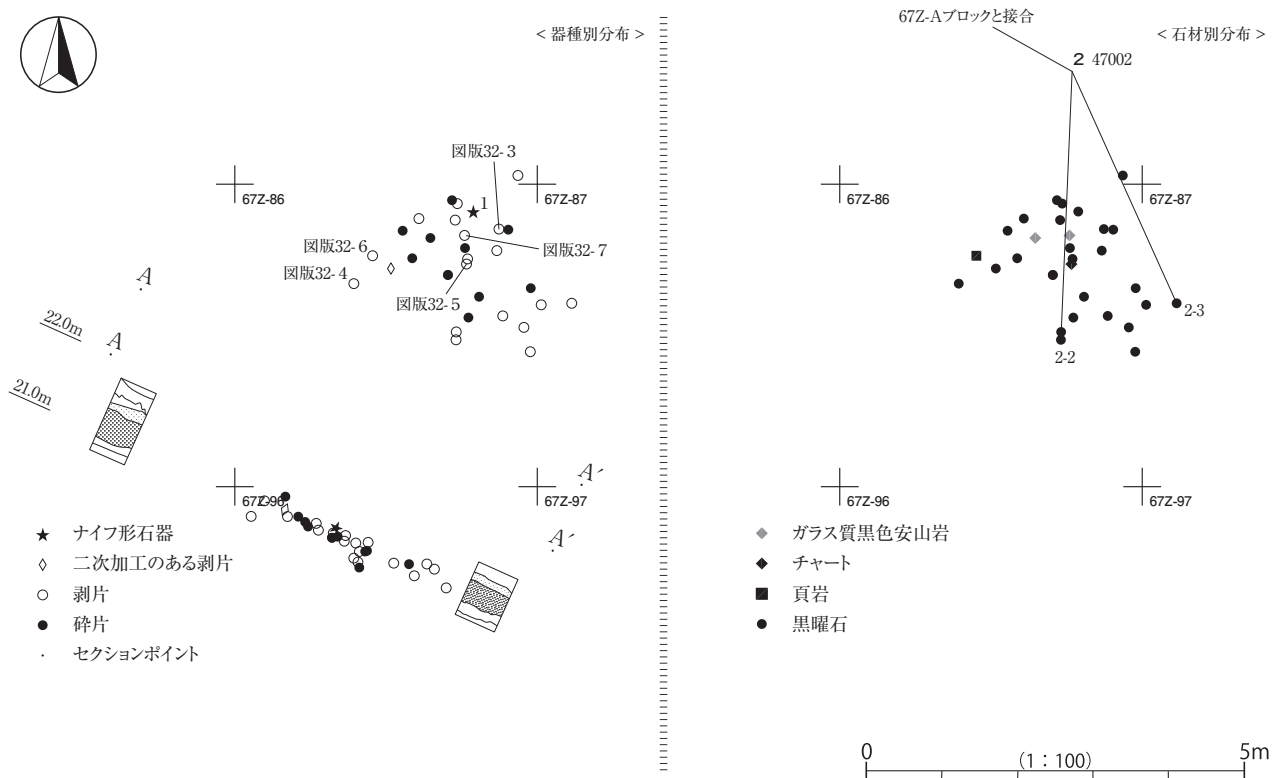
石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・碎片で構成される。67Z- Aブロック同様、剥片が主体で、ほぼ同様の器種組成であるが、石核が伴わない。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・チャート・頁岩・黒曜石で構成され、黒曜石が主体で、67Z- Aブロックと異なり、他の石材はほぼ単独である。

1は信州産と考えられる透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る良質な黒曜石の側縁加工のナイフ形石器である。石刃状の縦長剥片を素材とし、打面側を基部としている。左側縁の上半は腹面、同下半は背面に細かい調整加工を施している。打面は線状でそのまま残置している。2(接合資料47002)は信州産と考えられる透明な地に黒灰色の縞が入る良質な黒曜石の剥片3点の接合資料である。67Z-Aブロックの2-1と本ブロックの2-2・2-3がブロック間接合である。同一の打面から小型で不定形な剥片を剥離している。図版32-3・4は信州産と考えられる透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る良質な黒曜石の石刃状の縦長剥片で、図版32-3は稜上調整が見られることから稜付石刃、図版32-4の末端は石核の底面の可能性が高い。

図版 32-5 は灰褐色のチャート、図版 32-6 は珪化度高い灰褐色の良質な頁岩の石刃状の縦長剥片である。図版 32-5 は左側縁と末端にかけて自然面が残っている。図版 32-6 の末端は多少肥厚している。図版 32-7 はガラス質黒色安山岩の剥片である。下半部を欠損しているため詳細は不明だが、石刃状の縦長剥片の可能性はある。

第25表 67Z-Bブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形棒石器	彫器	掻器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA													1	1							2	6.5%	10.69	19.9%
CH													1								1	3.2%	7.87	14.7%
SH													1								1	3.2%	6.24	11.6%
OB			1					1					15	10							27	87.1%	28.85	53.8%
合計	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	18	11	0	0	0	0	0	31	100.0%	53.65	100.0%	



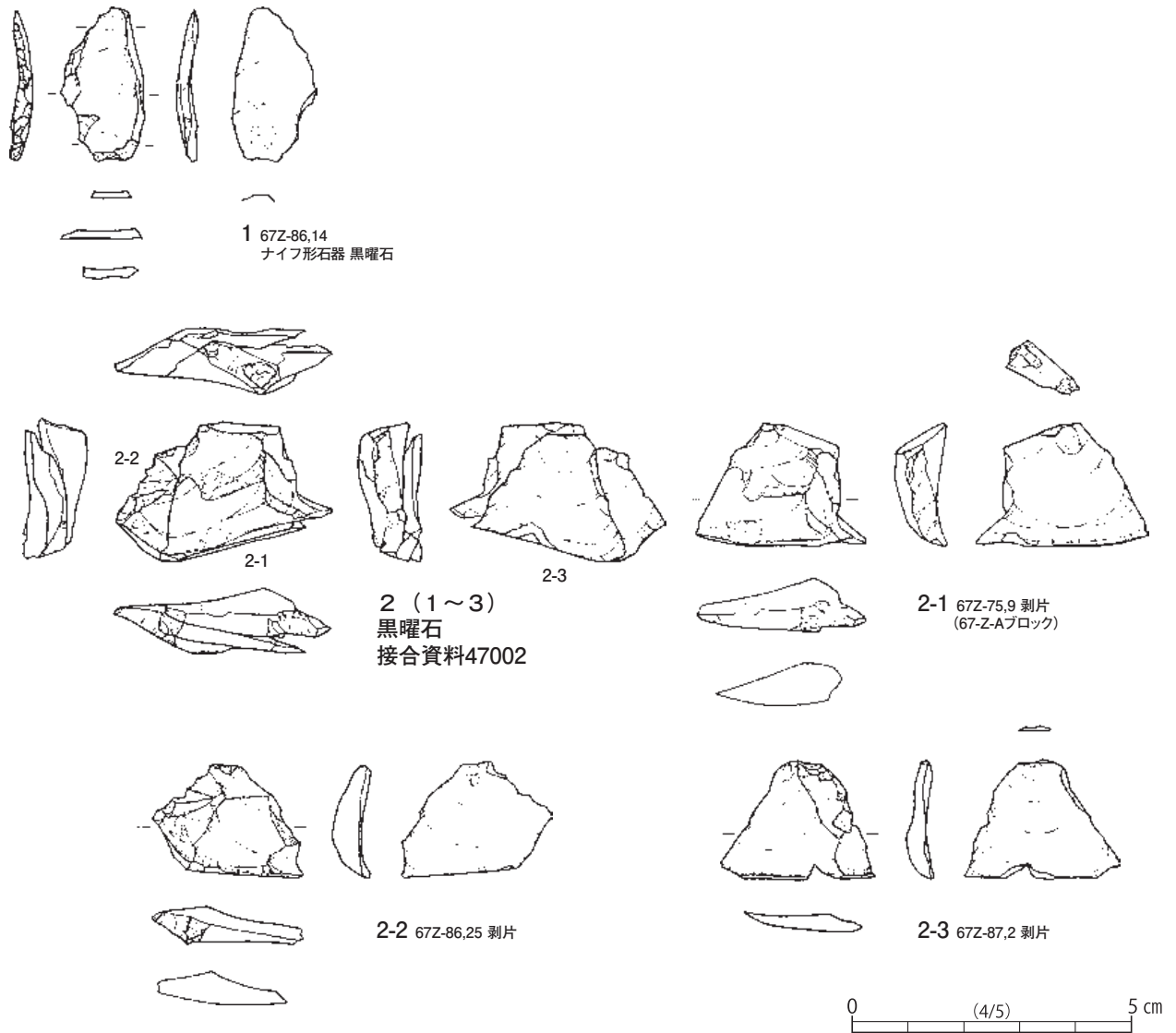
第87図 67Z-Bブロック出土遺物分布-器種別・石材別-

3 68AA-Aブロック (第89・90図、第26表、図版5・32)

西側地区の中央南側、68AA-30・31グリッドに分布する。1.8m×2.9mの範囲から5点の石器が出土した。出土層位はⅨ層～Ⅵ層である。0.23mの高低差をもって包含される。

石器器種は、剥片・碎片で構成される。石器石材は、チャート・黒曜石で構成される。黒曜石の剥片を主体とする小規模なブロックである。

1は高原山産の可能性のある黄灰色の不純物を含む透明度のある黒色の黒曜石の石刃状の縦長剥片であ

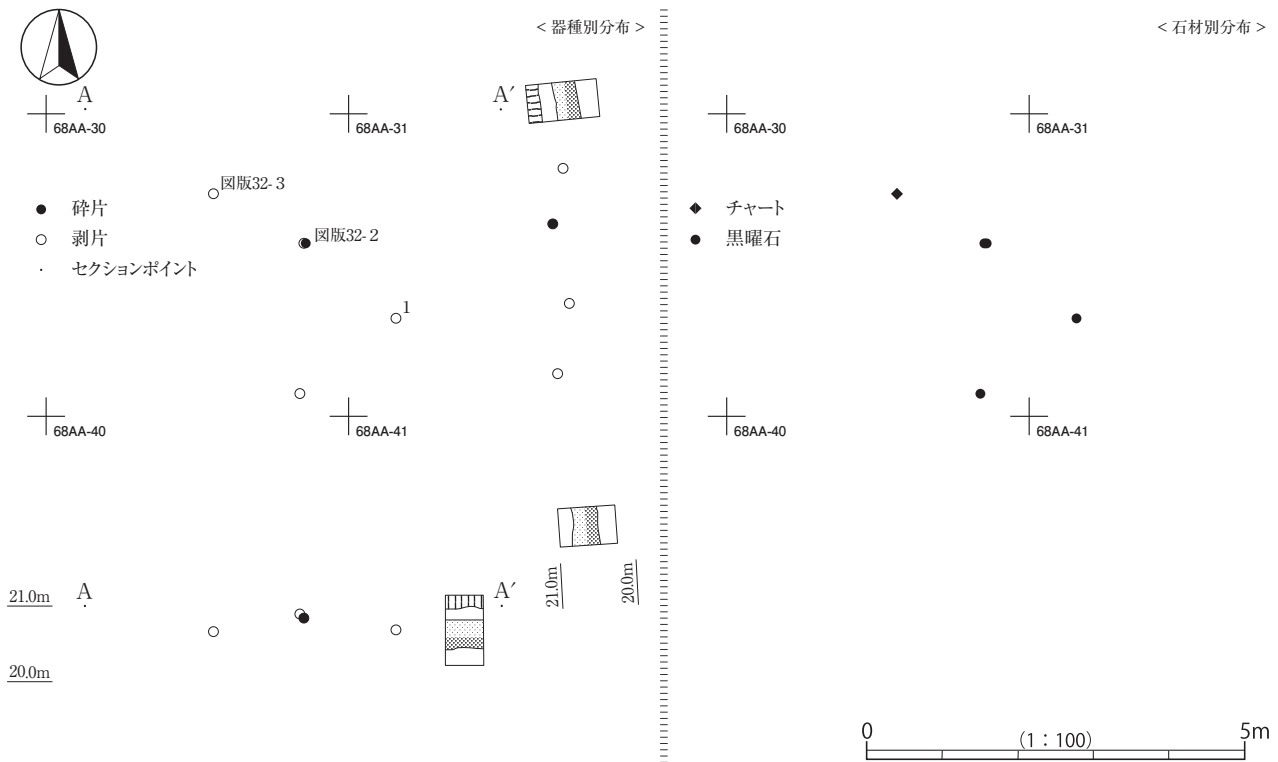


第88図 67Z-Bブロック出土遺物

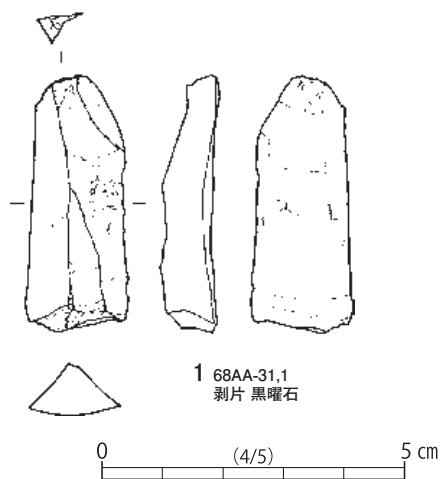
る。末端は折面としたが、折断面に裏面からの細かい剥離痕が見られることから、二次加工のある剥片の可能性はある。図版 32-2 は高原山産の可能性のある黄灰褐色の不純物を含む透明度のある黒灰色の黒曜石の剥片である。図版 32-3 は灰色・緑灰色のチャートの剥片である。玉髄質の部分が縞状に入ることなど、海沢産のチャートに多少類似している。

第26表 68AA-Aブロック石器組成

石材 / 器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	砕片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
CH													1								1	20.0%	4.91	32.5%
OB													3	1							4	80.0%	10.22	67.5%
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	5	100.0%	15.13	100.0%



第89図 68AA-Aブロック出土遺物分布－器種別・石材別－



第90図 68AA-Aブロック出土遺物

4 68AA-Bブロック (第91～93図、第27表、図版5・32・33)

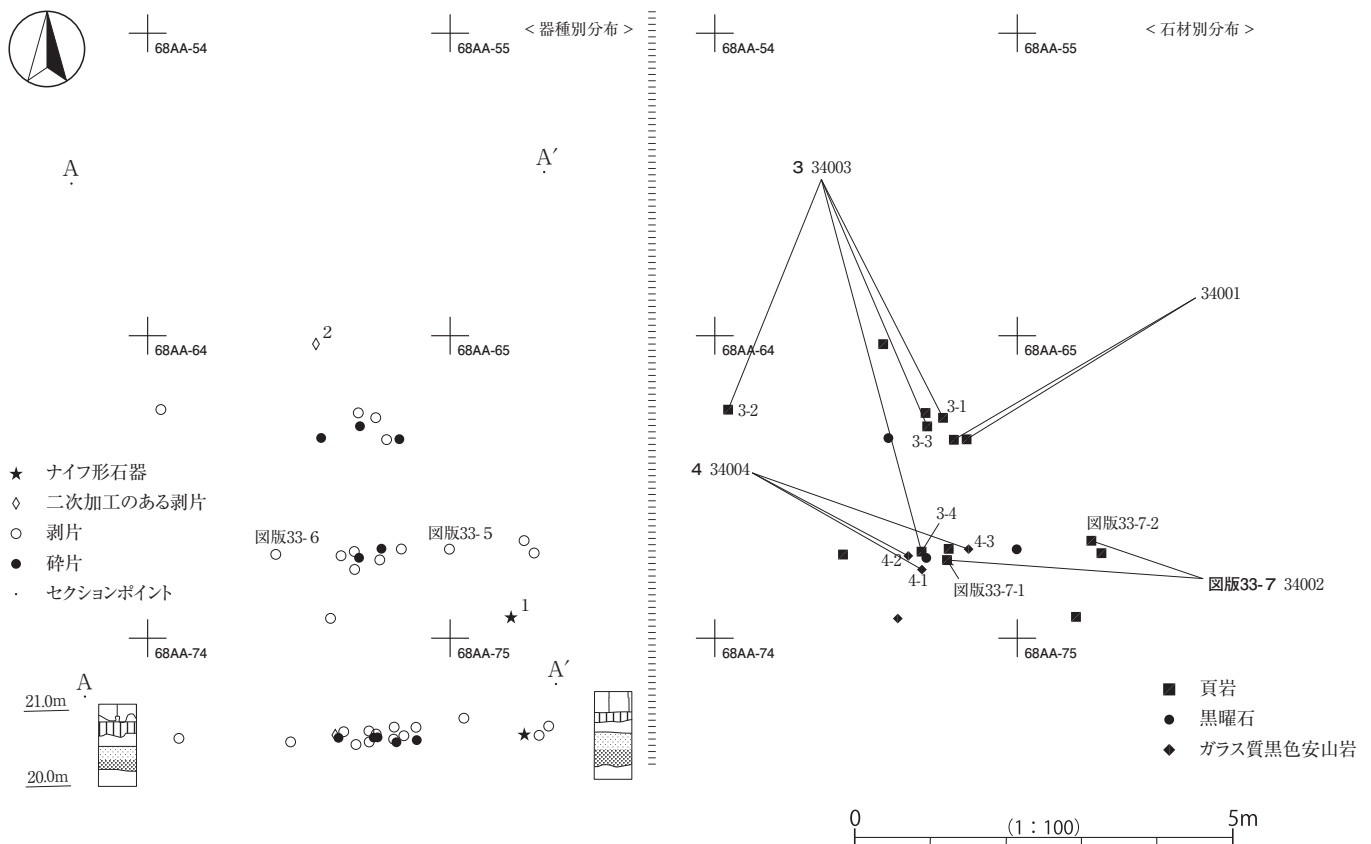
西側地区の中央南側、68AA-64・65グリッドに分布する。3.0 m × 5.5 mの範囲から21点の石器が出土した。出土層位はV層～Ⅲ層である。0.31 mの高低差をもって包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・碎片で構成される。剥片が主体であるが、ナイフ形石器・二次加工のある剥片などの利器を伴う。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・頁岩・黒曜石で構成され、頁岩が主体である。

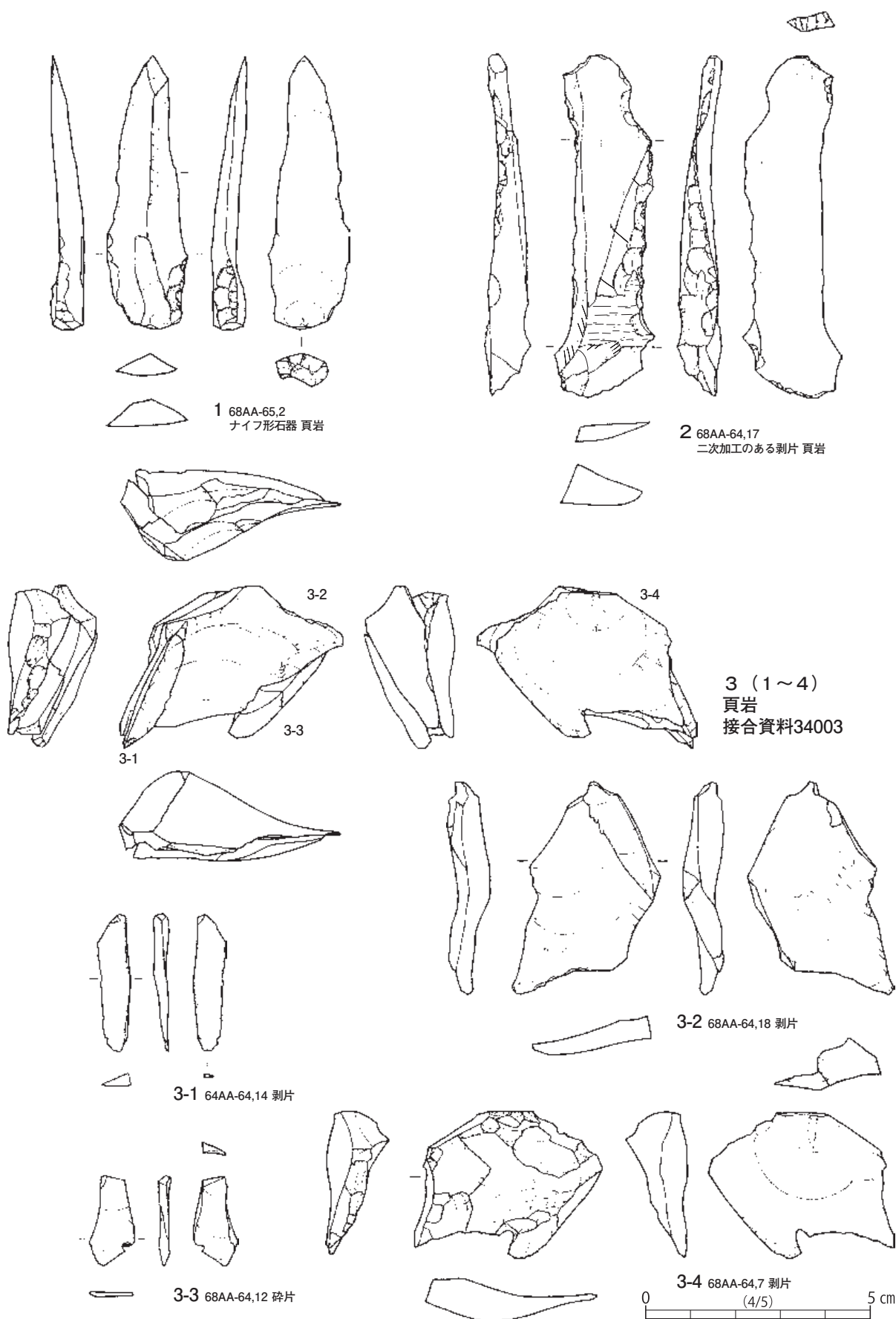
1・2は珪化度の高い良質なチョコレート頁岩の石器である。1は石刃あるいは石刃状の縦長剥片を素材とし、打面側を基部とした基部加工のナイフ形石器である。両側縁の基部に細かい調整加工を行っている。2は二次加工のある剥片で、石刃あるいは石刃状の縦長剥片の表面左側縁上半部と右側縁、裏面左側縁下部と右側縁上部に調整加工を行っている。右側縁の加工は比較的大型で削器の可能性もある。3（接合資料 34003）は珪化度の高い良質なチョコレート頁岩の剥片3点・碎片1点の接合資料である。左下から3-1→3-2あるいは3-1・3-2の同時剥離→3-3を剥離し、打面を90度転回して3-4を剥離している。3-4の左側面を石核の作業面とすれば、本接合資料は打面調整あるいは打面再生に関係する可能性がある。4（接合資料 34004）はガラス質黒色安山岩の剥片3点の接合資料である。同一の打面から4-1→4-2→4-3の順で不定形な剥片を剥離している。図版 33-5は信州産と考えられる透明な地に黒灰色のモヤが入る良質な黒曜石の剥片である。図版 33-6は珪化度の高い良質なチョコレート頁岩の剥片である。図版 33-7（接合資料 34004）は頁岩の剥片2点の接合資料である。同一の打面から不定形な剥片を剥離している。表面はほとんど自然面と思われる。

第27表 68AA-Bブロック石器組成

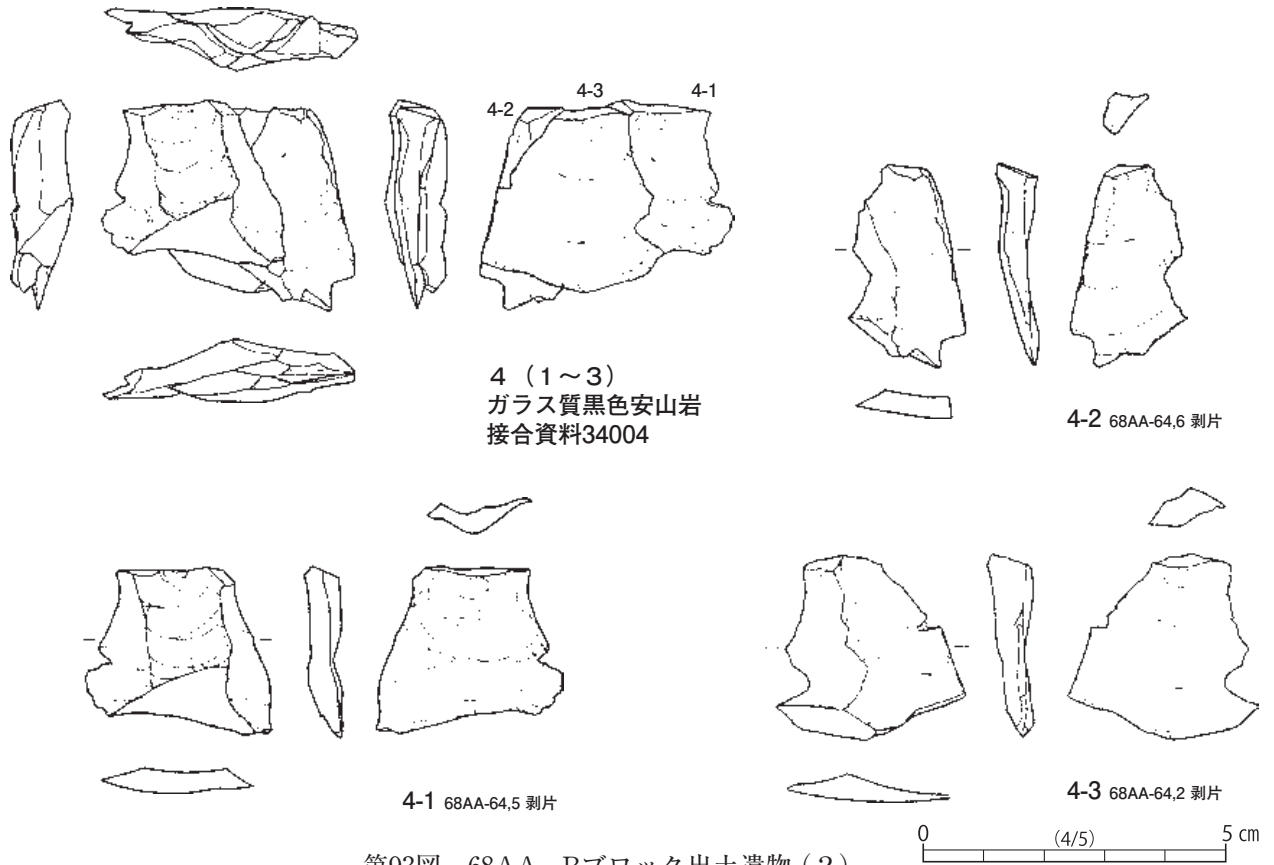
石材 / 器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA													4								4	19.0%	12.83	14.8%
SH			1					1					9	3							14	66.7%	69.55	80.5%
OB													1	2							3	14.3%	4.02	4.7%
合計	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	14	5	0	0	0	0	0	0	21	100.0%	86.4	100.0%



第91図 68AA-Bブロック出土遺物分布 - 器種別・石材別 -



第92図 68AA-Bブロック出土遺物(1)



第93図 68AA-Bブロック出土遺物(2)

5 67BB-C ブロック (第94～96図、第28表、図版5・34)

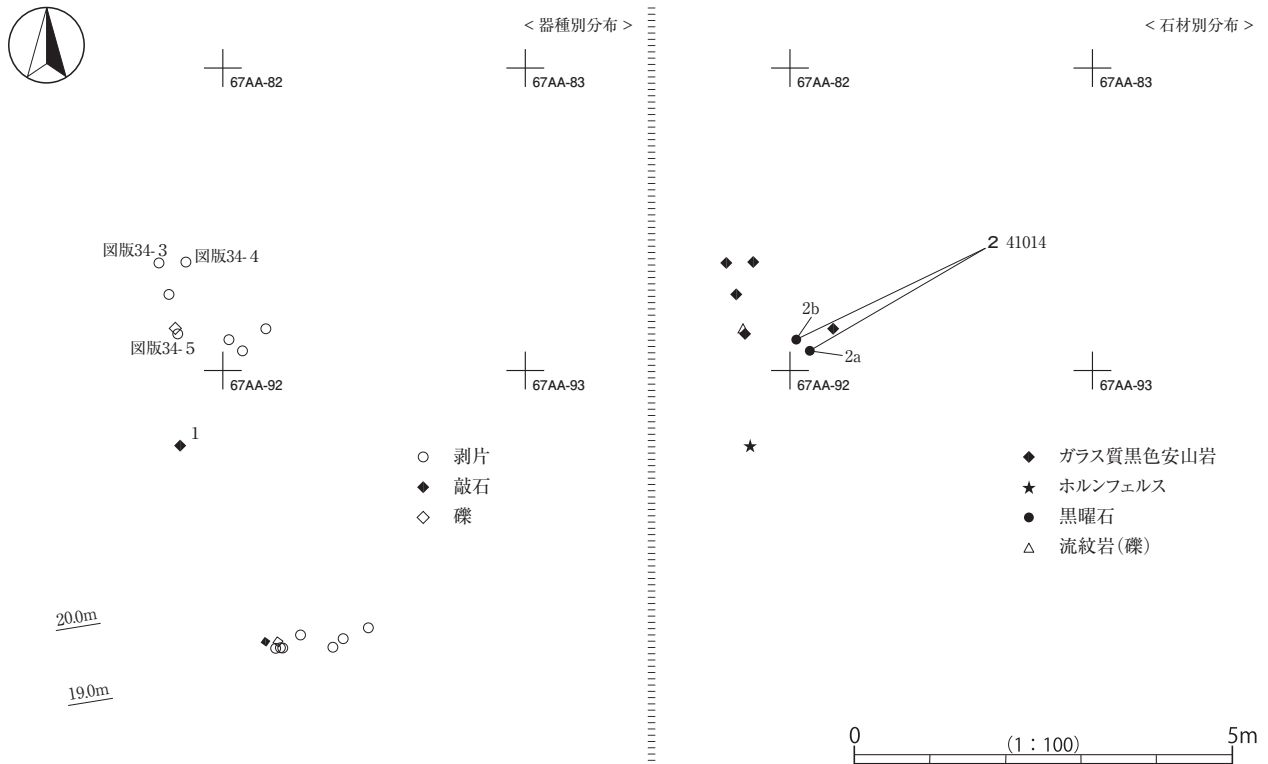
西側地区の中央南側、67BB-81・82・91 グリッドに分布する。2.6 m × 1.5 m の範囲から 8 点の石器が出土した。出土層位はⅨ上層～Ⅶ層である。0.22 m の高低差をもって包含される。

石器器種は、剥片・敲石と礫・礫片で構成される。剥片が主体であるが、敲石が伴う。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・ホルンフェルス・黒曜石で構成される。礫石材は、流紋岩のみである。ガラス質黒色安山岩や黒曜石の剥片を主体とする小規模なブロックである。

1 は灰色で砂質のホルンフェルスの敲石である。両端部と両側面の上半部に顕著な敲打痕、両側面の下半部に浅い敲打痕が見られる。また、上端に剥離痕が見られることから、石核に転用している可能性がある。2 (接合資料 41014) は高原山産の可能性がある黄灰色の不純物を含む透明度のある黒色の黒曜石の不定形な剥片 2 点 (1 個体) の接合資料である。図版 343～5 はガラス質黒色安山岩の剥片である。図版 343 の色調は図版 344・5 とは異なり、後者は同一母岩の可能性がある。図版 343・4 は縦長、図版 345 は横長である。

第28表 67BB-Cブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形礫石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	砕片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA													5								5	55.6%	58.3	4.7%
HO																	1				1	11.1%	747	60.7%
OB													2								2	22.2%	28.8	2.3%
RHR																				1	1	11.1%	397	32.2%
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	1	0	0	1	9	100.0%	1231.1	100.0%



第94図 67BB-Cブロック出土遺物分布－器種別・石材別－

6 68BB- Aブロック (第97・98図、第29・30表、図版5・35)

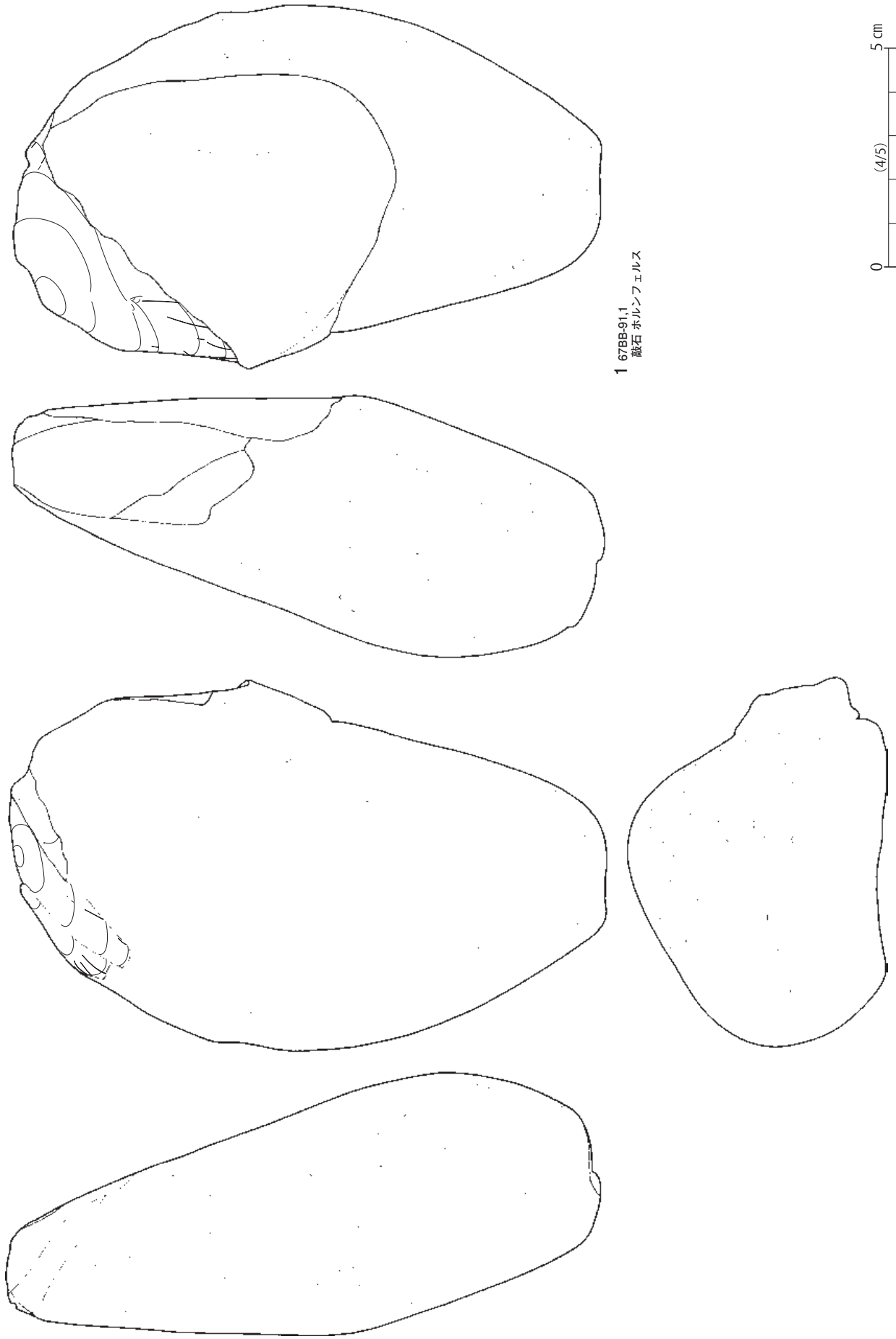
西側地区の中央南側、67BB-81・82・91 グリッドに分布する。3.6 m × 3.5 mの範囲から77点の石器が出土した。出土層位はⅦ層～Ⅲ中層である。0.91 mの高低差をもってⅦ層を中心に包含される。

石器器種は、二次加工のある剥片・剥片・碎片・石核と礫・礫片で構成され、剥片・碎片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・黒色頁岩・黒曜石で構成され、ガラス質黒色安山岩・黒色頁岩が主体である。礫石材は、流紋岩・チャートで構成され、流紋岩が主体である。本ブロックは剥片・碎片が主体であるが、礫群が伴うことが特徴である。

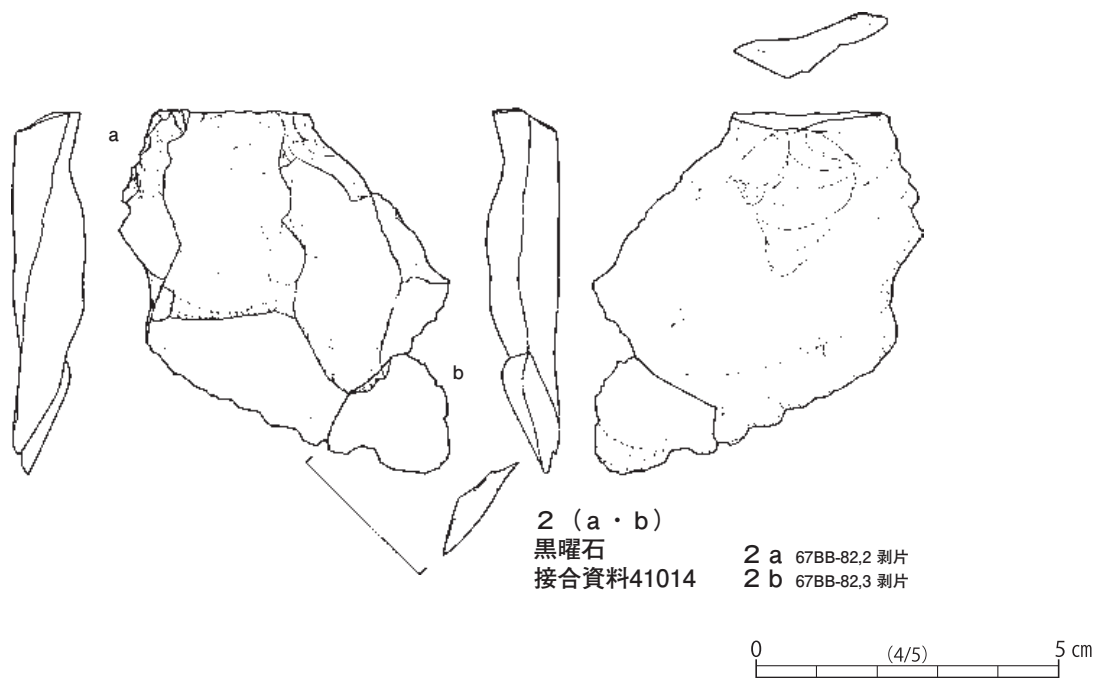
1は黒色頁岩の石核である。縦長剥片の左側面下半部から末端にかけて一部被熱による剥落が見られることから、不明な部分も多少あるが、主要剥離面を打面として、左側面下半部で小型で不定形な剥片を2枚ほど剥離している。また、裏面左側縁の一部にも剥離痕が見られるが、人為的な剥離か不明である。

2(接合資料41004)は黒色頁岩の二次加工のある剥片2点(1個体)の接合資料である。横長剥片の裏面右側縁に小型の剥離痕が見られ、石核の可能性もある。この個体にも被熱による剥落が見られ、本個体自身も被熱による欠損の可能性が高い。なお、表面側の器体中央上部に顕著なポジティブなバルブを持つ剥離面があり、この面は被熱の影響で、当個体の剥離時に生じたものと考え、複数の剥離面が見られることも勘案して、当該面を表面としたが、同じく被熱の影響で、複数の剥離面が主要剥離面側で生じたとの考えも可能である。

図版35-3～5は黒色頁岩の石核で、厚手の剥片の主要剥離面などを打面として、小型で不定形な剥片を剥離している。図版35-6はガラス質黒色安山岩の石核で、厚手の剥片を素材として、打面と作業面を入れ替えながら小型で不定形な剥片を剥離している。



第95図 67BB-Cブロック出土遺物(1)



第96図 67BB-Cブロック出土遺物(2)

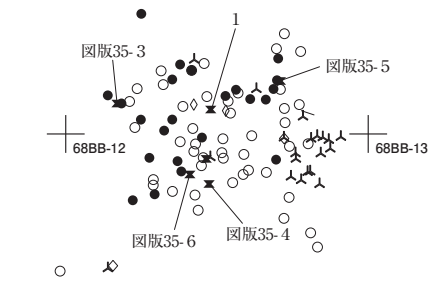
図版 35-7 (接合資料 41009) はガラス質黒色安山岩の石核 1 点・剥片 4 点の接合資料である。比較的大型の剥片を素材として、打面と作業面を入れ替えながら小型で不定形な剥片を剥離している。図版 35-7-5 は以前に剥離された平坦な剥離面を打面として小型で不定形な剥片を剥離している。

第29表 68BB-Aブロック石器組成

石材 / 器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	砕片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫礫片	点数合計	重量合計 (g)			
GA													31	11	2						-	44	57.1%	230.96	51.6%
BS								2					13	11	4						-	30	39.0%	214.06	47.8%
OB													2	1							-	3	3.9%	2.81	0.6%
合計	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	46	23	6	0	0	0	0	-	77	100.0%	447.83	100.0%	

第30表 68BB-Aブロック礫組成

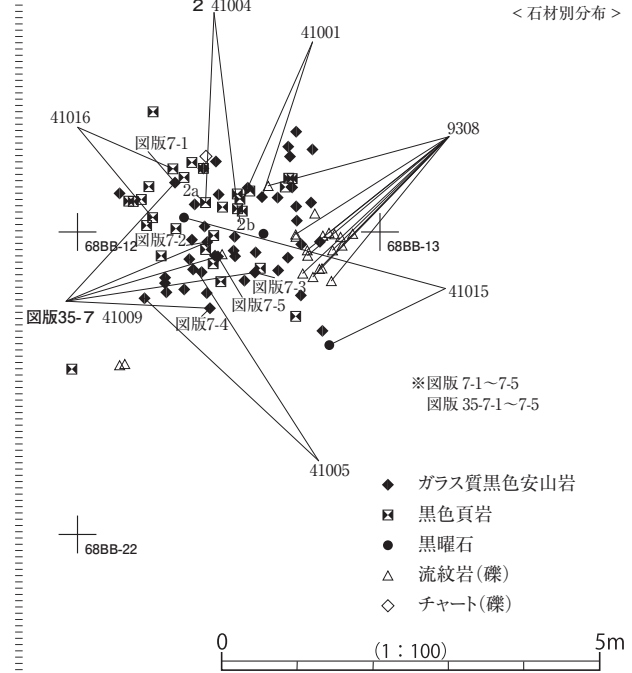
石材 / 器種	礫礫片		点数合計	重量合計 (g)	
RHR	21	21	95.5%	640.07	100.0%
CHR	1	1	4.5%	0.23	0.0%
合計	22	22	100.0%	640.3	100.0%



< 器種別分布 >



< 石材別分布 >

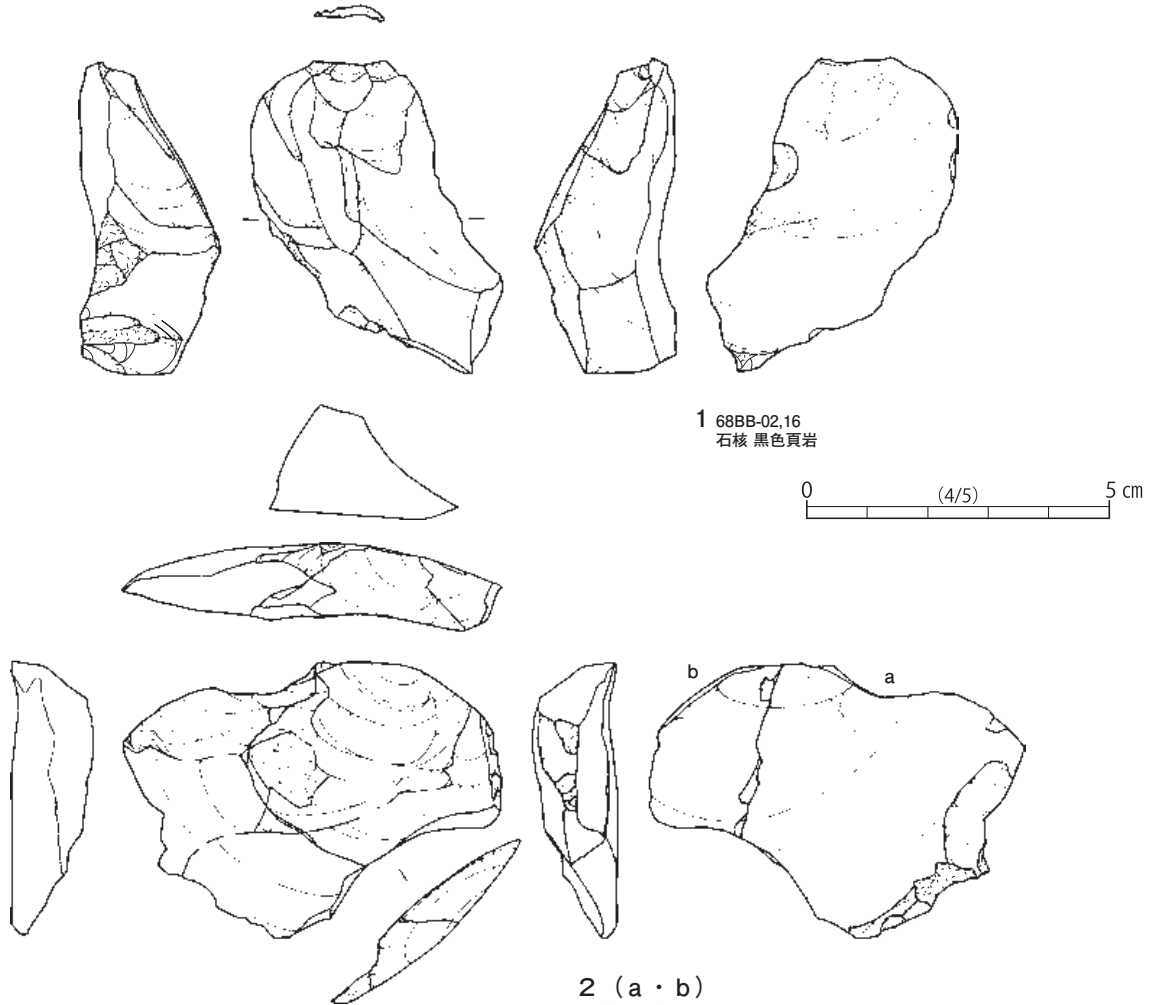


- ◇ 二次加工のある剥片
- 剥片
- 碎片
- 石核
- ◇ 礫
- △ 礫片

- ◆ ガラス質黒色安山岩
- 黒色頁岩
- 黒曜石
- △ 流紋岩(礫)
- ◇ チャート(礫)

※ 図版 7-1~7-5
図版 35-7-1~7-5

第97図 68BB-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-



1 68BB-02,16
石核 黒色頁岩

0 (4/5) 5 cm

2 (a・b)
黒色頁岩
接合資料41004

2a 68BB-02,14 二次加工のある剥片
2b 68BB-02,25 二次加工のある剥片

第98図 68BB-Aブロック出土遺物

7 68BB- Bブロック (第99～101図、第31表、図版5・36)

西側地区の中央南側、68BB-13・14グリッドに分布する。5.3 m × 2.3 mの範囲から31点の石器が出土した。出土層位はⅧ層～Ⅳ層である。0.41 mの高低差をもってⅧ層を中心に包含される。

石器器種は、二次加工のある剥片・剥片・碎片で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・ホルンフェルス・黒色頁岩・黒曜石で構成され、ガラス質黒色安山岩が主体である。

1 (接合資料 41003) はガラス質黒色安山岩の二次加工のある剥片 1 点・剥片 2 点の接合資料である。大型の横長剥片を素材として、1-1・1-2などの小型で不定形な剥片を剥離している。1-3は左側縁に大型の剥離痕、末端に小型の剥離痕が見られ、石核あるいは石核を転用した二次加工のある剥片の可能性はある。2 (接合資料 41008) は神津島産あるいは伊豆半島産の可能性のある黒色・黒灰色の比較的良質な黒曜石の剥片 2 点の接合資料である。図版 36-3 は硬質な黒色頁岩の剥片で稜上調整が見られることから稜付石刃と思われる。図版 36-4・5 はガラス質黒色安山岩の剥片である。図版 36-4 は縦長剥片、図版 36-5 は厚みのある不定形な剥片である。

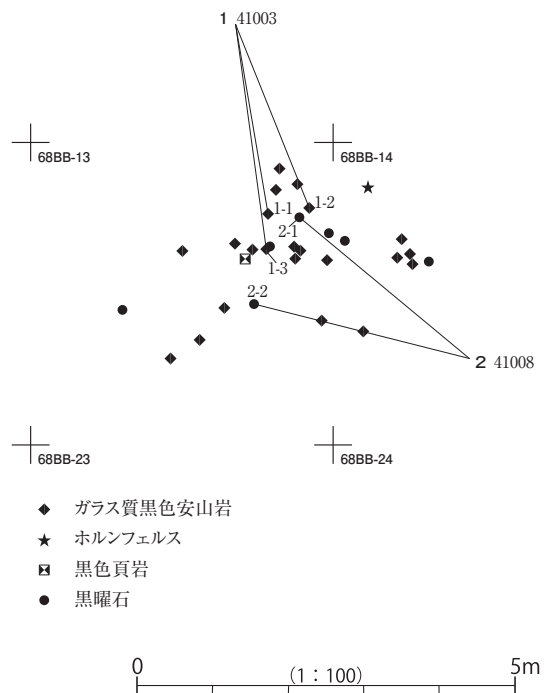
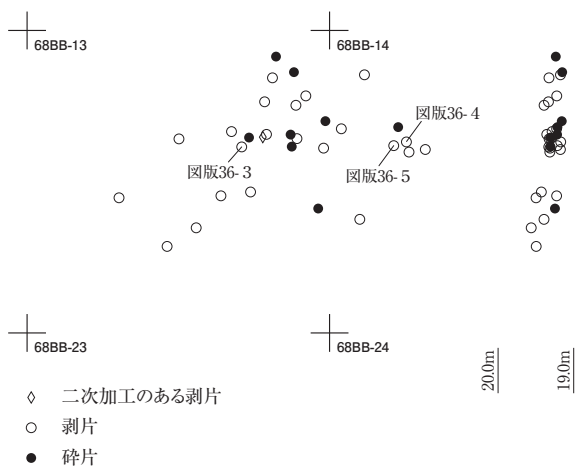
第31表 68BB-Bブロック石器組成

石材 / 器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形棒石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA								1					14	7							22	71.0%	130.79	83.8%
HO													1								1	3.2%	1.51	1.0%
B S													1								1	3.2%	10.83	6.9%
OB													6	1							7	22.6%	12.95	8.3%
合計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	22	8	0	0	0	0	0	0	31	100.0%	156.08	100.0%

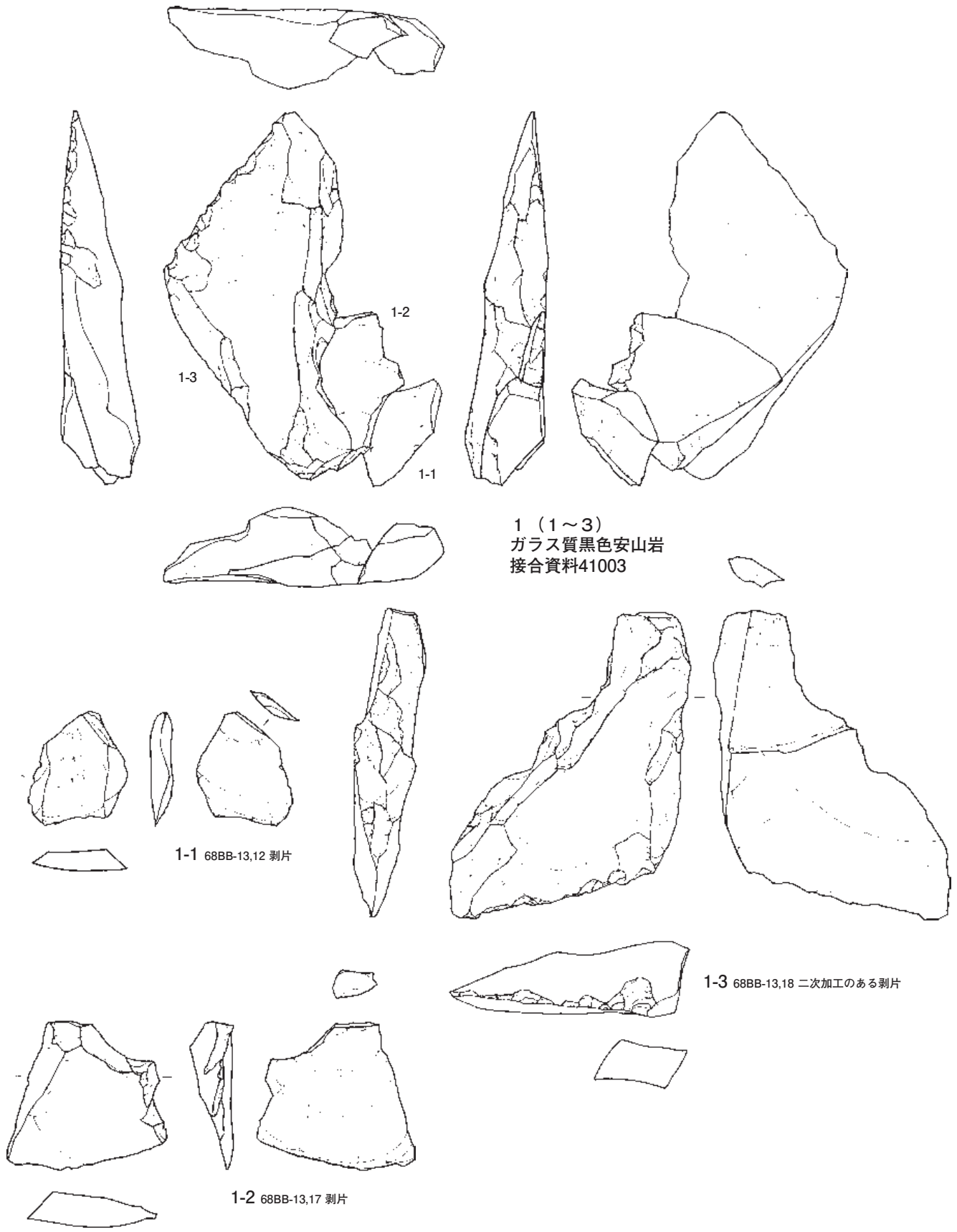


< 器種別分布 >

< 石材別分布 >



第99図 68BB-Bブロック出土遺物分布 - 器種別・石材別 -



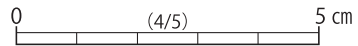
1 (1~3)
 ガラス質黒色安山岩
 接合資料41003

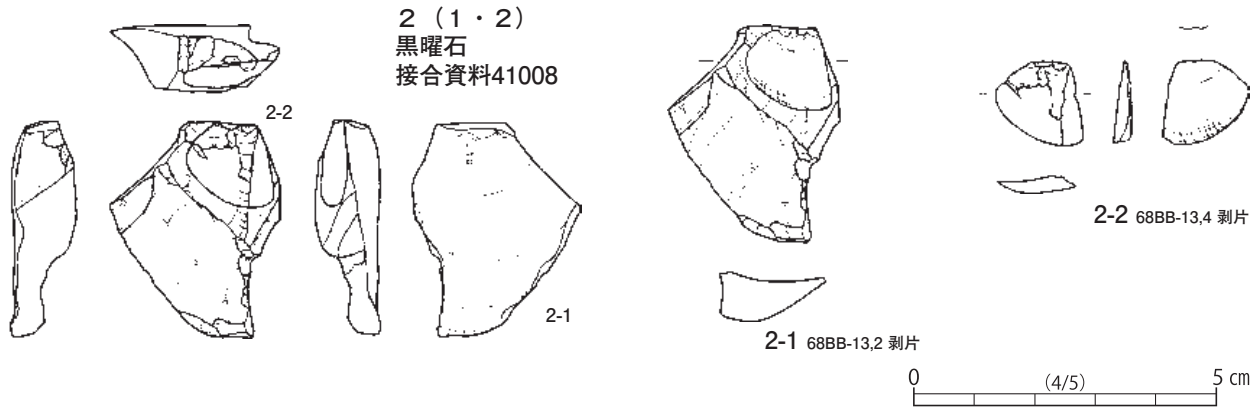
1-1 68BB-13,12 剥片

1-3 68BB-13,18 二次加工のある剥片

1-2 68BB-13,17 剥片

第100図 68BB-Bブロック出土遺物(1)





第101図 68BB-Bブロック出土遺物(2)

8 68BB-Cブロック(第102～104図、第32表、図版5・37)

西側地区の中央南側、68BB-14・15・25グリッドに分布する。3.0 m × 3.2 mの範囲から36点の石器と2点の礫が出土した。出土層位はⅦ層～Ⅳ層である。0.29 mの高低差をもってⅦ層を中心に包含される。

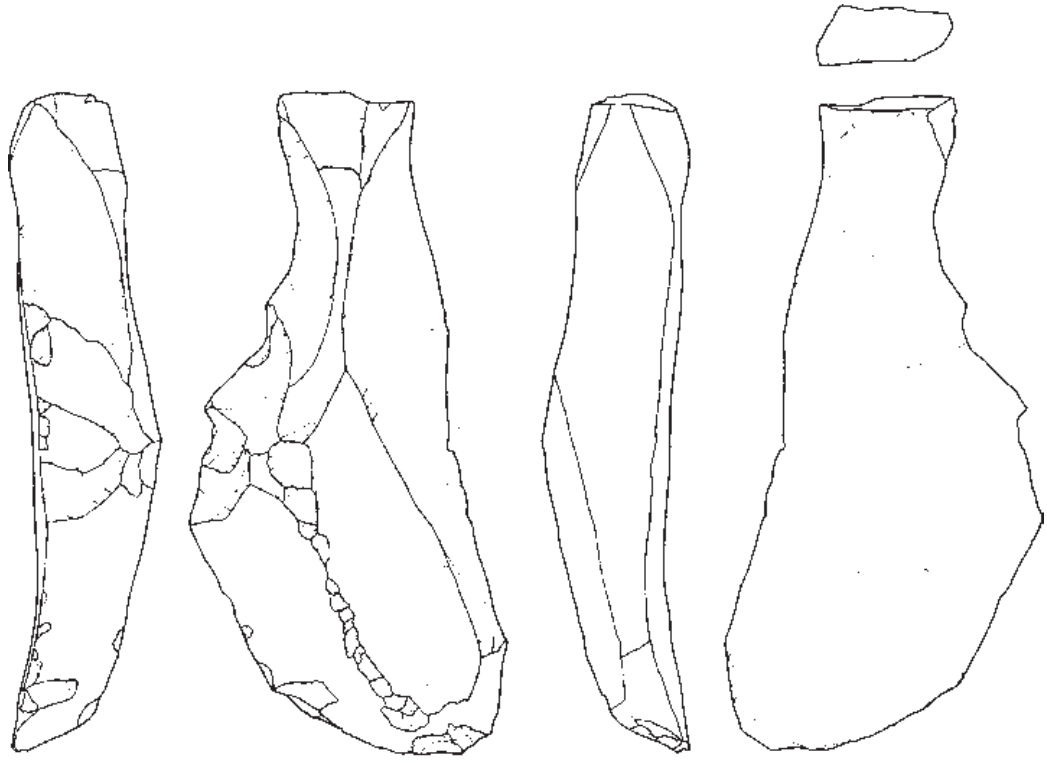
石器器種は、二次加工のある剥片・剥片・碎片・石核と礫・礫片で構成され、剥片・碎片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・ホルンフェルス・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成される。礫石材、は流紋岩・砂岩で構成される。

1・3は黒色頁岩の二次加工のある剥片である。1は大型の石刃あるいは石刃状の縦長剥片の左側縁上半に大型の剥離痕、同下半に小型の剥離痕が見られ、石核あるいは石核を転用した二次加工のある石器の可能性はある。器体中央下半の細かい稜上調整は多少稜が磨耗していることから自然面の可能性はある。3は不定形な剥片の左側縁に剥離痕が見られる。末端は石核の底面と思われる。石核の可能性はある。2はトロトロ石の二次加工のある剥片である。右側縁上半は打面と作業面を入れ替えながら調整を行っており、石核の可能性はある。

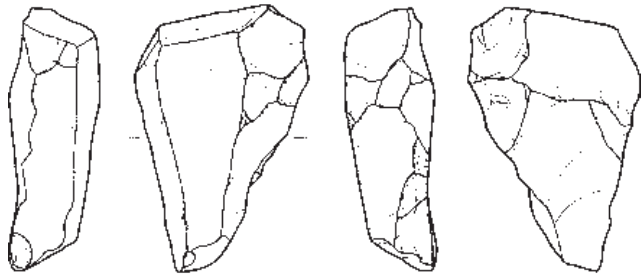
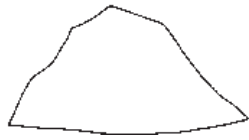
4は珪化度の高い灰褐色の頁岩の石核である。素材の形状は不明だが、上面に残る平坦な剥離面から大型の剥片を素材として、打面と作業面を入れ替えながら小型で不定形な剥片を剥離している。

5は黒色頁岩の両面にポジティブな剥離面を残す縦長で不定形な剥片である。

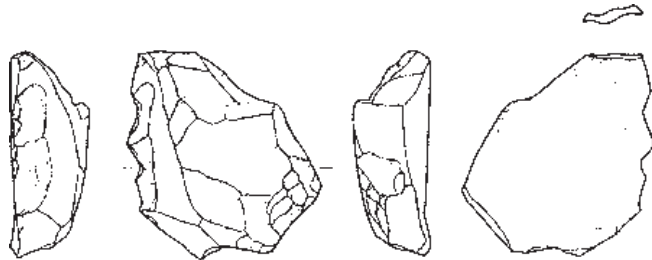
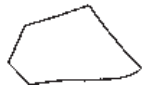
図版 37-6・7はガラス質黒色安山岩の二次加工のある剥片で、図版 37-6は左側縁下部、図版 37-7は右側縁に調整加工が施されている。図版 37-8はガラス質黒色安山岩の石核で、自然面を残す厚い不定形な剥片を素材として、打面と作業面を入れ替えながら小型で不定形な剥片を剥離している。図版 37-9は黒色頁岩の石核で、比較的厚い不定形な剥片の主要剥離面を打面として、小型で不定形な剥片を剥離している。図版 37-10(接合資料 41011)はホルンフェルスの石核1点・剥片2点の接合資料である。不定形な剥片を素材とし、平坦な自然面を打面として図版 37-10-1・2などの小型で不定形な剥片を剥離している。



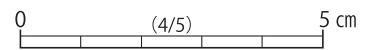
1 68BB-15,14
二次加工のある剥片 黒色頁岩



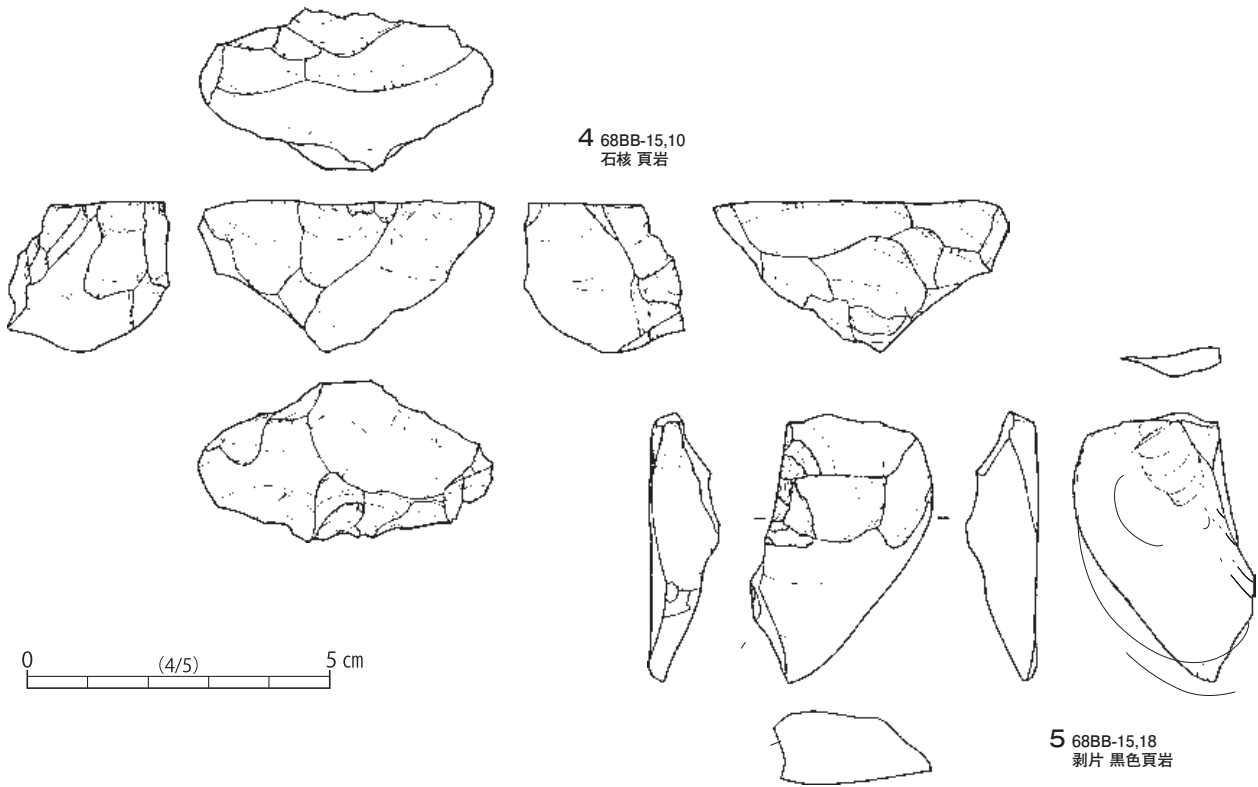
2 68BB-15,24
二次加工のある剥片 トロトロ石



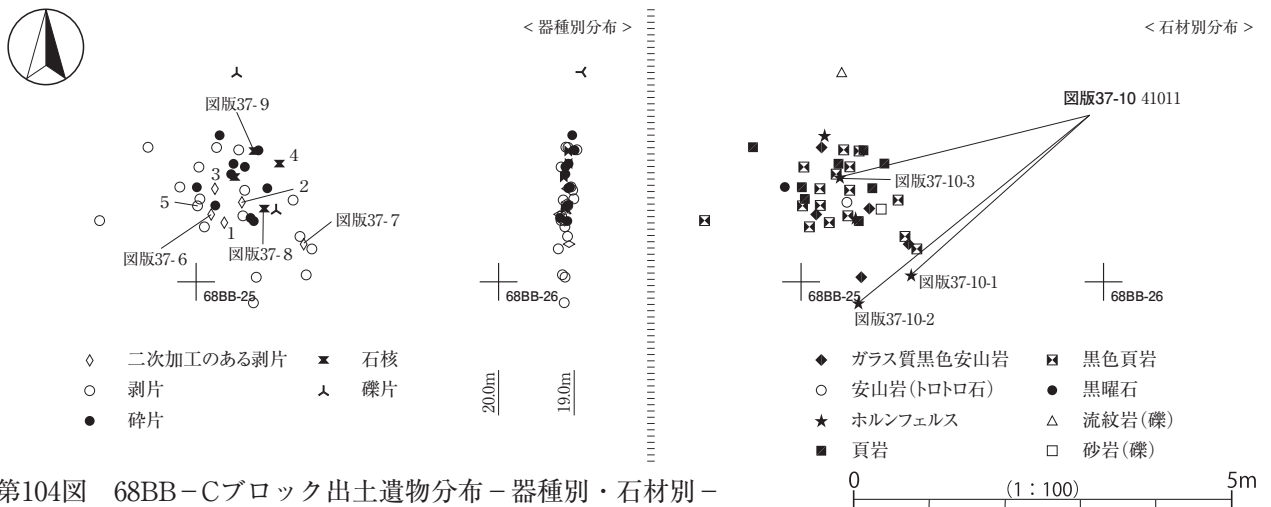
3 68BB-15,21
二次加工のある剥片 黒色頁岩



第102図 68BB-Cブロック出土遺物(1)



第103図 68BB-Cブロック出土遺物(2)



第104図 68BB-Cブロック出土遺物分布-器種別・石材別-

第32表 68BB-Cブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA								2					2		1						5	13.2%	99.19	25.8%
TO								1													1	2.6%	18.08	4.7%
HO													2	2	1						5	13.2%	27.37	7.1%
SH													2	5	1						8	21.1%	27.56	7.2%
BS								2					10	3	1						16	42.1%	187.42	48.8%
OB													1								1	2.6%	1.37	0.4%
RHR																			1	1	2	2.6%	0.65	0.2%
SAR																			1	1	2	2.6%	22.25	5.8%
合計	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	17	10	4	0	0	0	0	2	38	100.0%	383.89	100.0%

4 第4文化層

第4文化層の石器群は、256点の石器と59点の礫が出土し、7か所の石器集中で構成される。IV層下部の石器群と推定される。西側地区の中央から西側に分布する。礫について64X-A・Bブロックにブロック間接合がある。

1 64X-Aブロック (第105・106図、第33表、図版5・38)

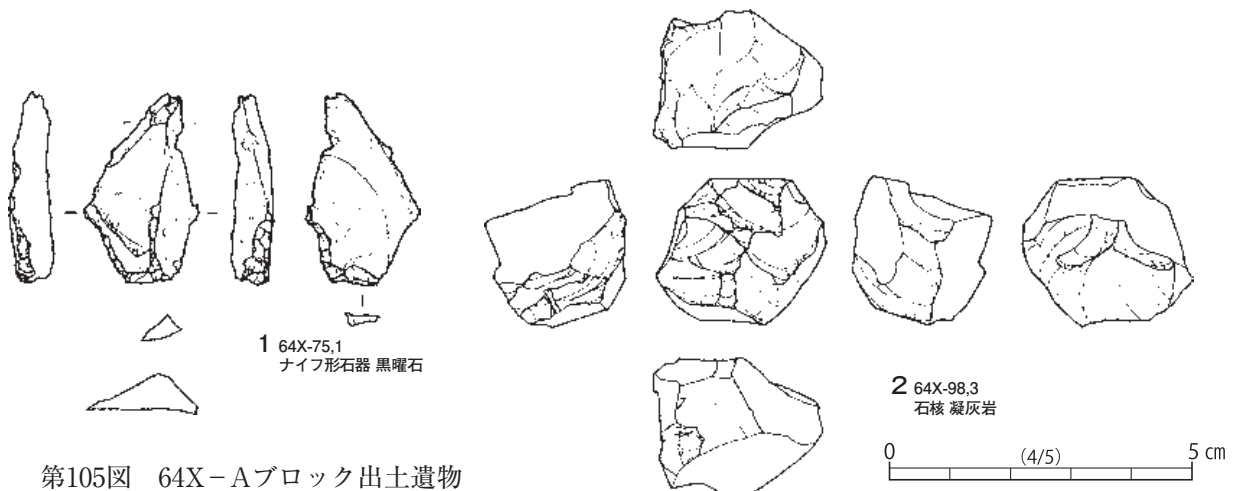
西側地区の西側、64X-75・76・86・96～98グリッドに分布する。14.1 m × 5.1 mの範囲から10点の石器が出土した。出土層位はV層～Ⅲ層である。0.49 mの高低差をもってⅢ層を中心に包含される。礫について64X-Bブロックとブロック間接合がある。

石器器種は、ナイフ形石器・剥片・碎片・石核と礫・礫片で構成され、碎片が主体であることが特徴である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・頁岩・黒曜石・凝灰岩で構成され、ナイフ形石器を含む黒曜石が主体で、ガラス質黒色安山岩がこれに次ぐ。礫石材は、流紋岩・砂岩で構成され、流紋岩が主体である。

1は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を含む黒色の黒曜石の基部加工のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用い、表裏両面左側縁下部に調整加工を施している。2は細粒の緑色の凝灰岩の石核である。後述するようにポジティブな面と考えられる剥離面が見られることから、おそらく剥片を素材としたと思われる。打面と作業面を頻繁に入れ替えながら小型で不定形な剥片を剥離している。なお、裏面の大きな剥離痕が素材の主要剥離面と考えたが、右側面の剥離面もポジティブな面の可能性がある。図版38-3は珪化度の低い黒灰色・黄灰色の頁岩の石核である。表面に平坦な剥離面を残す不定形な剥片を素材とし、主要剥離面あるいは背面か表面の平坦面を打面として、小型で不定形な剥片を剥離している。

第33表 64X-Aブロック石器組成

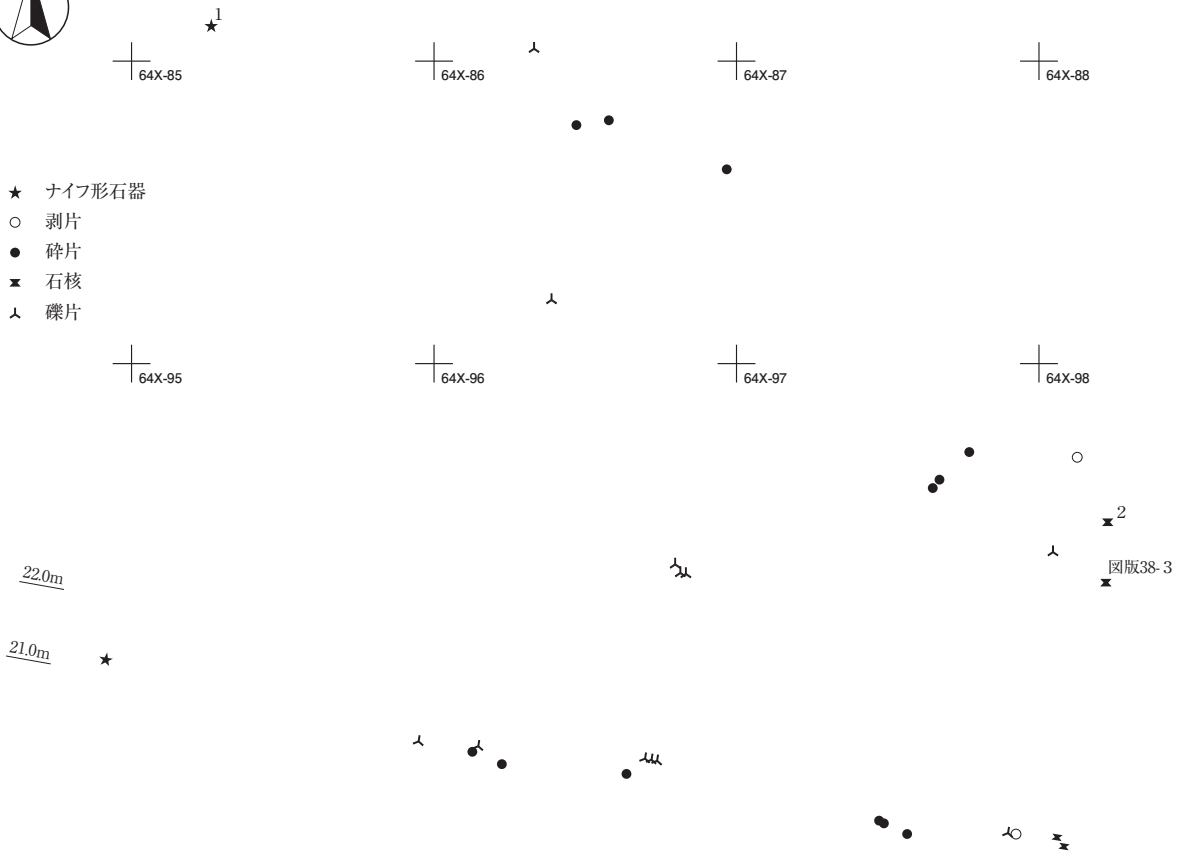
石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形棒石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫 礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA														3							3	18.8%	0.86	0.3%
SH															1						1	6.3%	19.77	5.8%
OB			1										1	3							5	31.3%	6	1.8%
TU															1						1	6.3%	14.77	4.3%
RHR																				5	5	31.3%	267.68	78.6%
SAR																				1	1	6.3%	31.5	9.2%
合計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	2	0	0	0	0	6	16	100.0%	340.58	100.0%



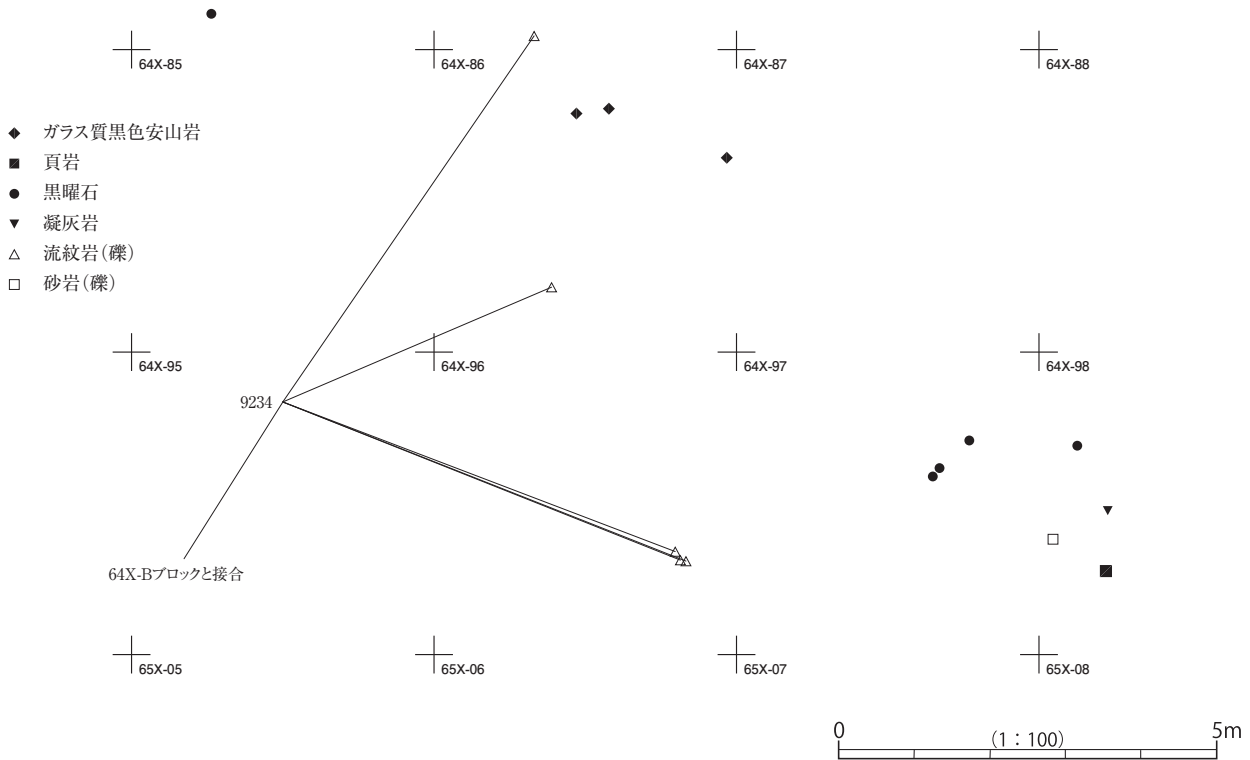
第105図 64X-Aブロック出土遺物



< 器種別分布 >



< 石材別分布 >



第106図 64X-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-

2 64X- Bブロック (第 107・109 図、第 34 表、図版 5・6・38)

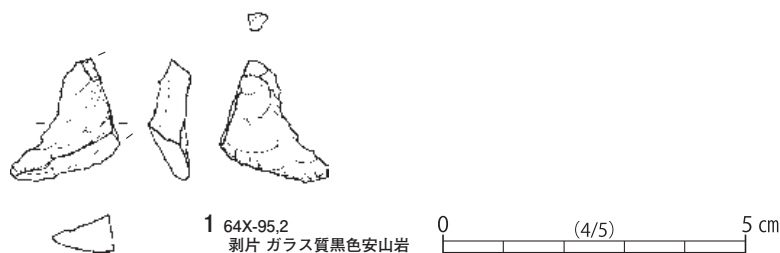
西側地区の西側、64X-95、65X-04・05・14・15 グリッドに分布する。9.0m × 4.6m の範囲から 35 点の石器が出土した。出土層位はⅤ層～Ⅲ層である。0.69 m の高低差をもってⅢ層を中心に包含される。礫について 64X- A ブロックとブロック間接合がある。

石器器種は、剥片と礫・礫片で構成され、礫・礫片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩のみで、礫石材は、流紋岩のみである。

1 はガラス質黒色安山岩の不定形な剥片である。右側面を欠損する。

第34表 64X-Bブロック石器組成

石材 / 器種	剥片	礫 礫片	点数合計		重量合計 (g)	
			点数	割合	重量	割合
GA	1		1	2.9%	1.3	0.1%
RHR		34	34	97.1%	1432.29	99.9%
合計	1	34	35	100.0%	1433.59	100.0%



第107図 64X-Bブロック出土遺物

3 65X- Aブロック (第 108・110 図、第 35 表、図版 5・6・38)

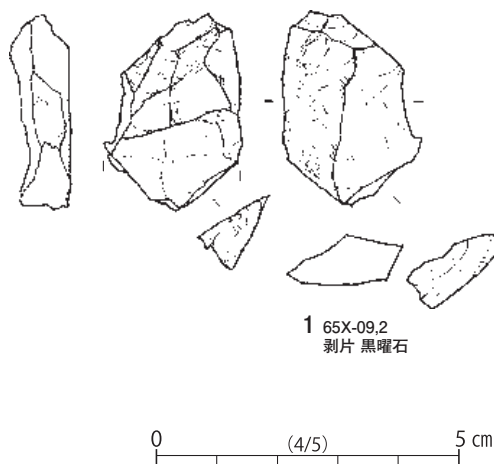
西側地区の西側、65X-08・09・19 グリッドに分布する。9.7 m × 5.6 m の範囲から 2 点の石器と 11 点の礫が出土した。出土層位はⅢ層である。0.37 m の高低差をもって包含される。

石器器種は、剥片と礫・礫片で構成され、本ブロックも 64X- B ブロック同様、礫・礫片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・黒曜石で構成され、それぞれ 1 点のみである。礫石材は、流紋岩・砂岩で構成され、流紋岩が主体である。

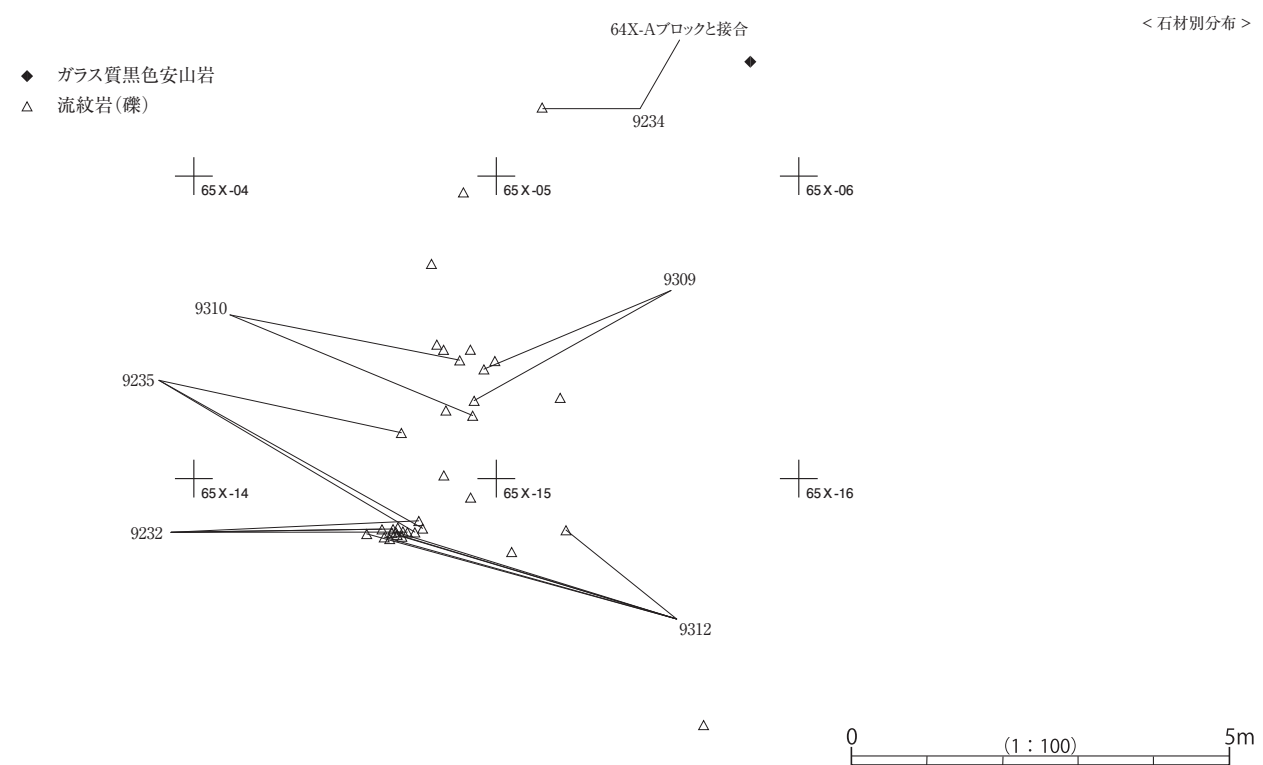
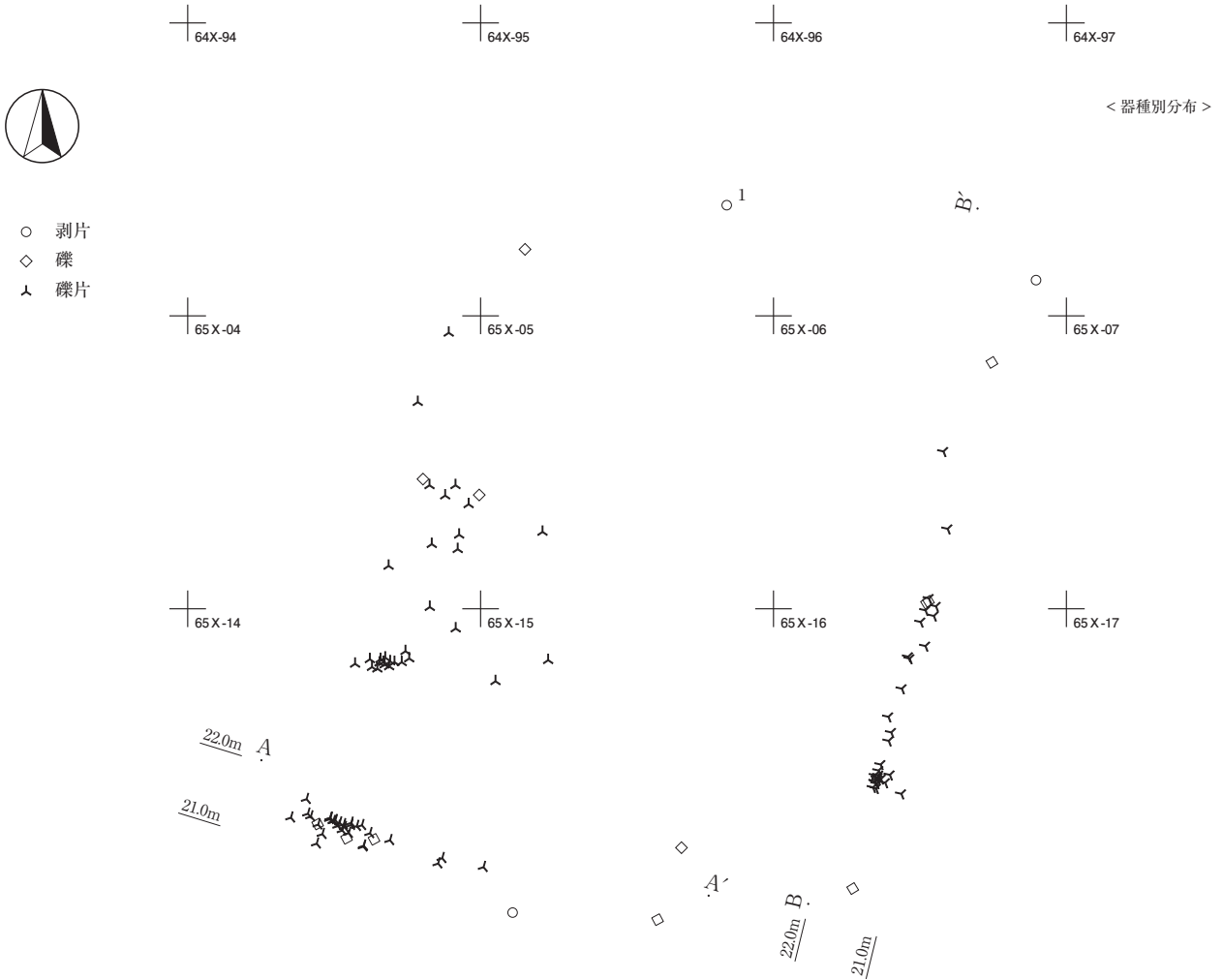
1 は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石の剥片である。下部を欠損し、裏面左半分も本資料の剥離時に同時に剥離したものであると思われる。打点部はダブルコーンで割れ円錐が顕著である。

第35表 65X-Aブロック石器組成

石材 / 器種	剥片	礫 礫片	点数合計		重量合計 (g)	
			点数	割合	重量	割合
GA	1		1	7.7%	1.06	0.2%
OB	1		1	7.7%	6.42	0.9%
RHR		10	10	76.9%	663.89	96.3%
SAR		1	1	7.7%	18.27	2.6%
合計	2	11	13	100.0%	689.64	100.0%



第108図 65X-Aブロック出土遺物

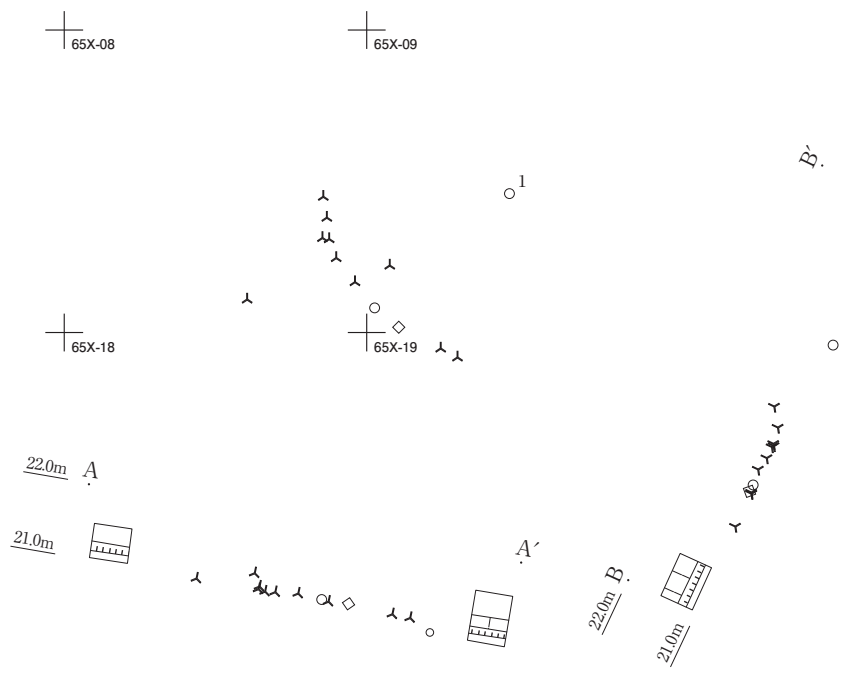


第109図 64X-Bブロック出土遺物分布 - 器種別・石材別 -



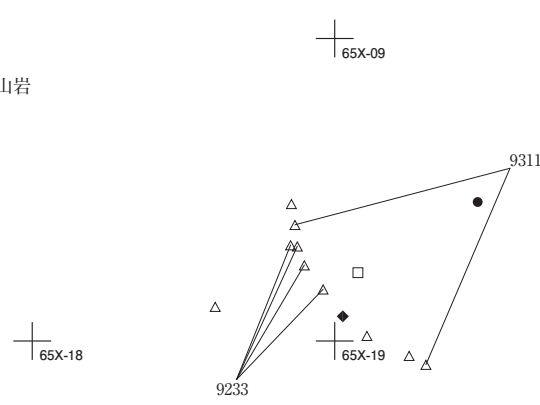
< 器種別分布 >

- 剥片
- ◇ 礫
- 人 礫片



< 石材別分布 >

- ◆ ガラス質黒色安山岩
- 黒曜石
- △ 流紋岩(礫)
- 砂岩(礫)



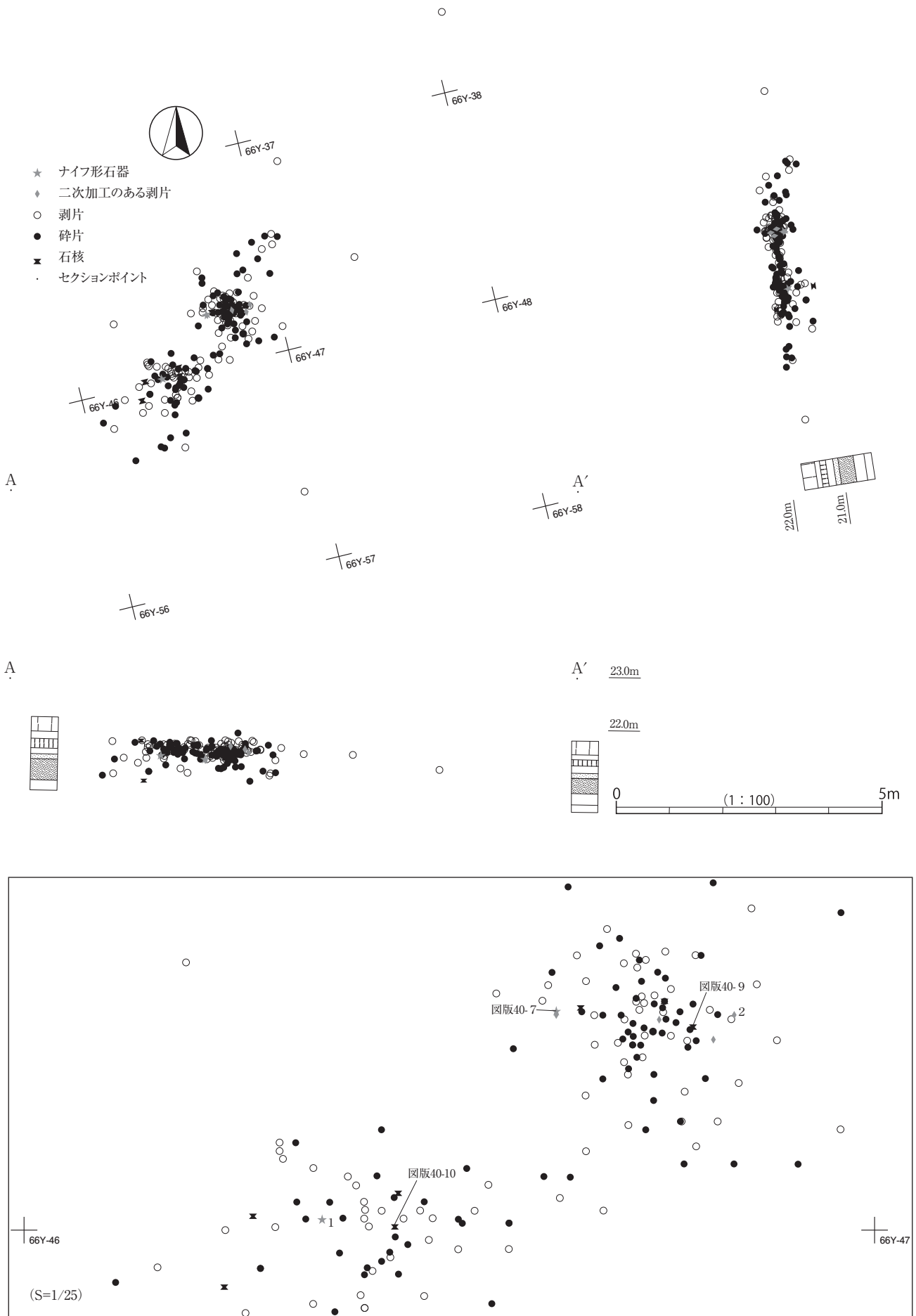
第110図 65X-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-

4 66Y- Bブロック (第 111 ~ 116 図、第 36 表、図版 3・38 ~ 40)

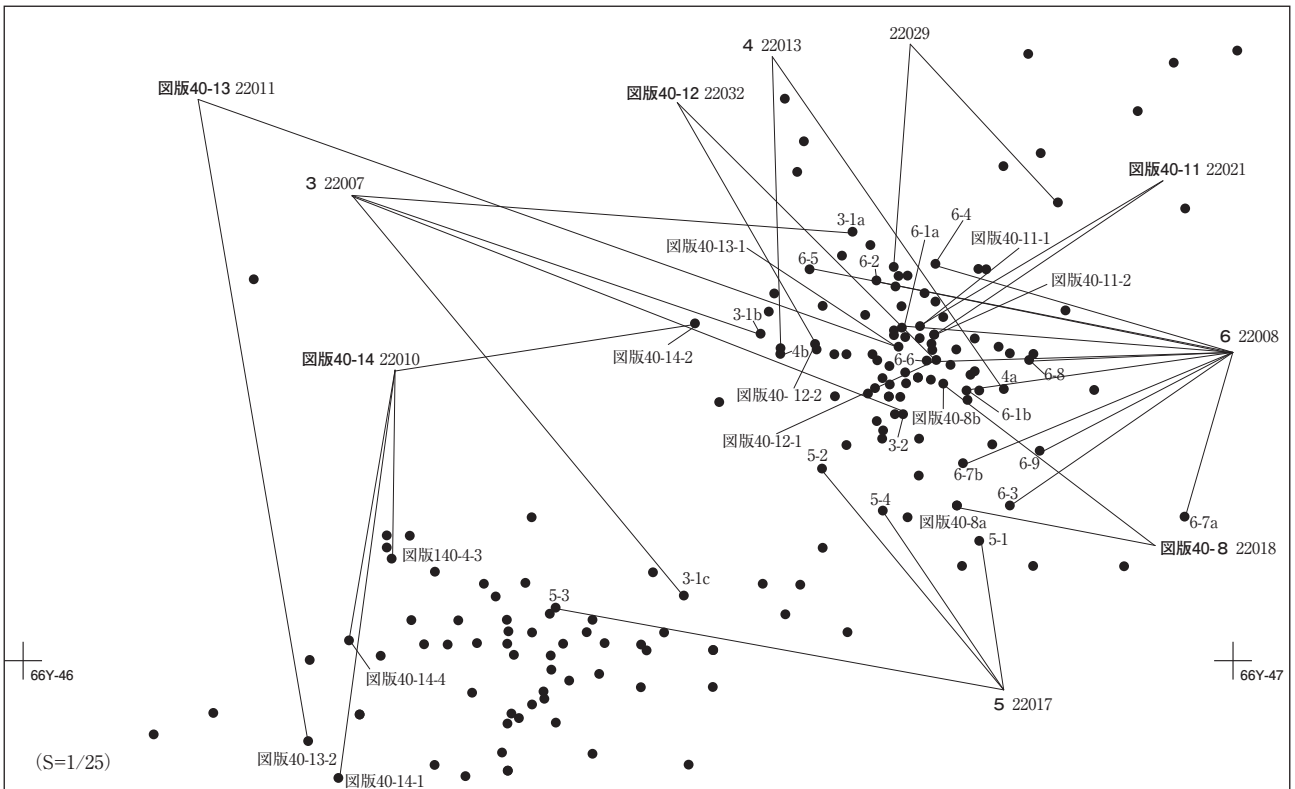
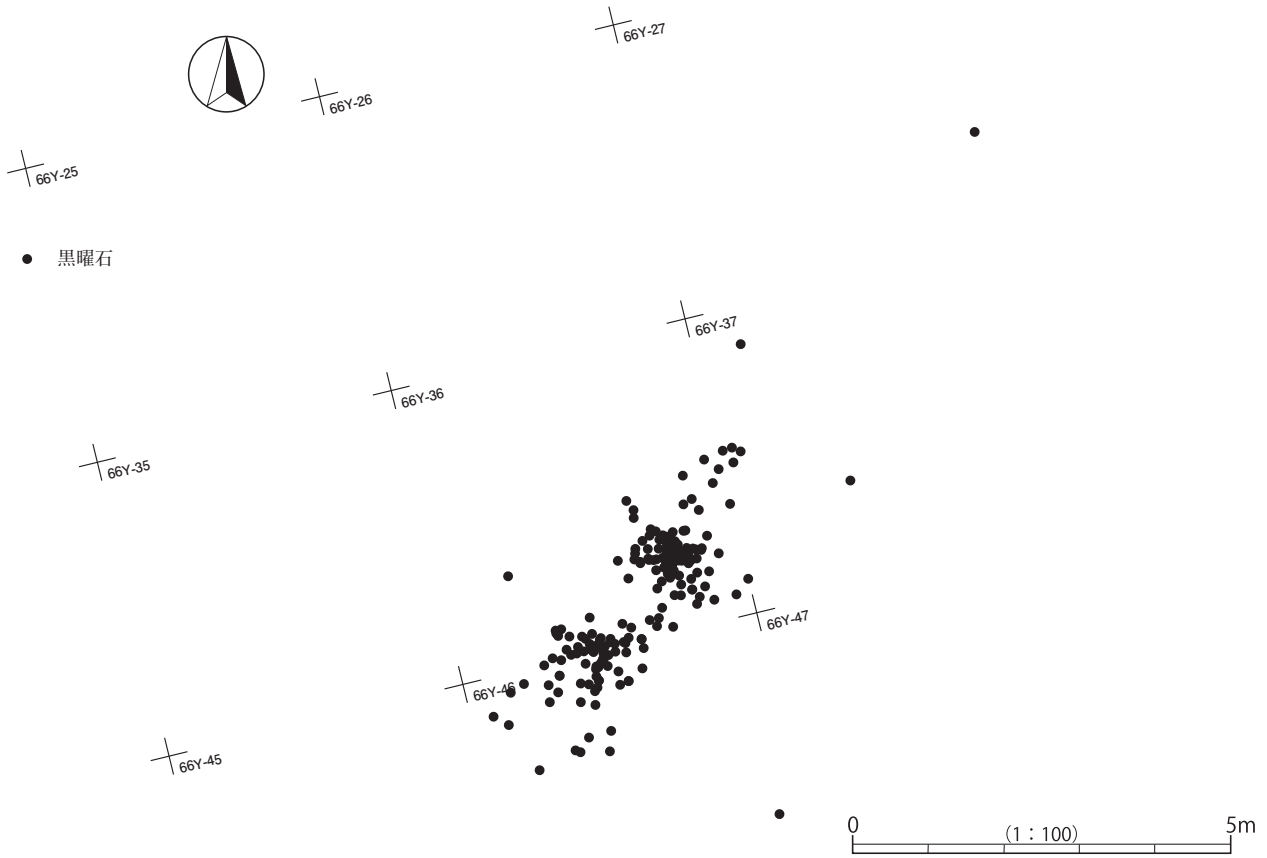
西側地区の中央南側、66Y-28・36・37・46 グリッドに分布する。9.6 m × 4.4 m の範囲から 119 点の石器が出土した。出土層位はⅨ層～Ⅲ層である。0.90 m の高低差をもってⅣ層～Ⅲ層を中心に包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・碎片・石核で構成され、剥片・碎片が主体で特に碎片が多く、他にナイフ形石器・二次加工のある剥片などの利器を伴う。石器石材は、黒曜石のみである。

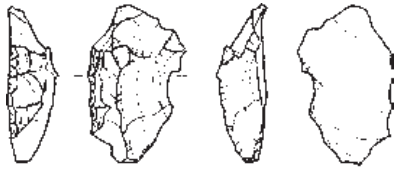
1・2 は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石の石器である。1 は二側縁加工あるいは部分加工のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用い、左側縁の中央部に細かい調整加工、右側縁下部に微細な調整加工を施している。2 は二次加工のある剥片で右側を半分以上欠いた剥片の左側縁上部に縦溝状の調整加工を施している。3～6 は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石の接合資料である。3 (接合資料 22007) は剥片 4 点 (2 個体) の資料である。角礫の石核から 3 枚ほど縦長剥片を剥離した後、3-1、3-2 が剥離されている。3-1・2 は石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。なお、3-1 の表面には 3 枚ほどの剥離痕以外に多数の剥離痕が見られるが、全体が磨耗していること剥離方向もランダムであることなどから自然面と判断した。4 (接合資料 22013) は二次加工のある剥片 2 点 (1 個体) の資料である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片の右側縁下部に細かいあるいは微細な調整加工を施している。なお、本資料の器体中央半分にも 3 同様の光沢の異なる剥離痕が見られ、多少磨耗していることなどから自然面と判断した。3 は自然の営為により剥離された可能性があるが、4 は原産地で人為的に剥離された資料が放置されて若干風化後、遺跡に持ち込まれた可能性はある。5 (接合資料 22017) は石核 1 点・剥片 3 点の資料で、5-4 は同一母岩の非接合資料である。5-3 の表面に自然面、裏面左側にポジティブな面が残っていることから、それほど厚みのない剥片を素材として、不定形な剥片を数枚剥離し、5-1 の剥離で打面を作出して、5-2 などの縦長剥片を剥離している。6 (接合資料 22008) は剥片 11 点 (9 個体) の資料である。原石は幅と厚さの 4 面に自然面を残していることから、それぞれ約 5 cm、長さは 5 cm 以上の長方体 (子供の拳大) の角礫と考えられる。角礫に上面に打面を作出し、左側面側で上方向から 6-1 などを剥離し、180 度打面を転回して、右側面側から裏面側にかけて 6-5 など数枚剥離した後、再び 180 度打面を転回して、6-2 → 6-3 → 6-4 を剥離している。その後、表面側で裏面斜め方向から 6-6 → 右方向から 6-7 → 手前方向から 6-8 → 右方向から 6-9 など打面を入れ替えながら不定形な剥片を剥離し、石核は持ち出されている。図版 40-7 ~ 14 は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石の石器である。図版 40-7 は不定形な剥片の打面側を先端とし、両側縁の基部に非常に粗い鋸歯状の調整加工を施した切出形のナイフ形石器である。図版 40-8 (接合資料 22018) は剥片 2 点 (1 個体) の資料である。稜上調整が見られることから、稜付石刃の可能性が高い。図版 40-9・10 は石核である。図版 40-9 は欠損時の剥離痕の可能性はあるが、主要剥離面側から、図版 40-10 は表面側から主要剥離面を切るように小型で不定形な剥片を剥離している。図版 40-11 ~ 13 (接合資料 22021・22032・22011) はそれぞれ石核 1 点・剥片 1 点の資料で、厚めの剥片を素材として小型で不定形な剥片を剥離している。図版 40-14 (接合資料 22010) は石核 1 点・剥片 3 点の資料で、上方向から図版 40-14-1 → 14-2 → 手前方向から図版 40-14-3 など不定形な縦長剥片を剥離し、その後も図版 14-4 から小型で不定形な剥片を剥離している。



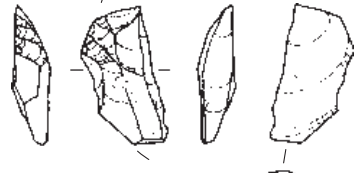
第111図 66Y-Bブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -



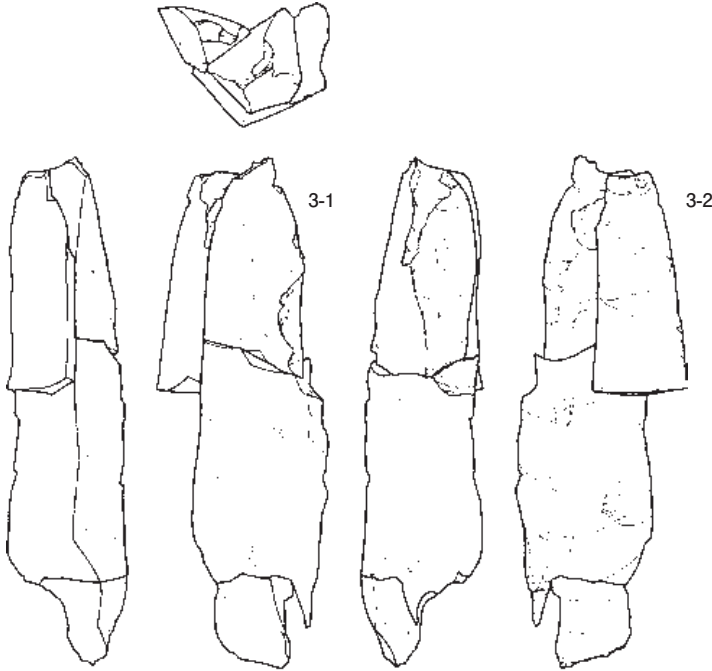
第112図 66Y-Bブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -



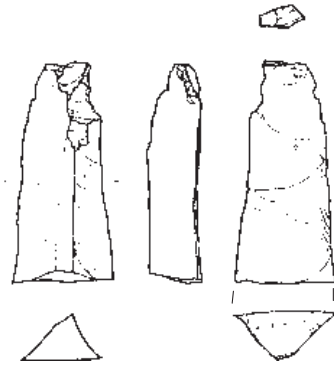
1 66Y-36,137
ナイフ形石器 黒曜石



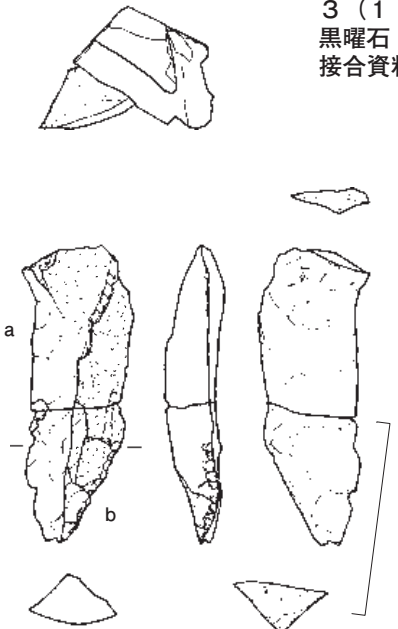
2 66Y-36,95
二次加工のある剥片 黒曜石



3 (1・2)
黒曜石
接合資料22007

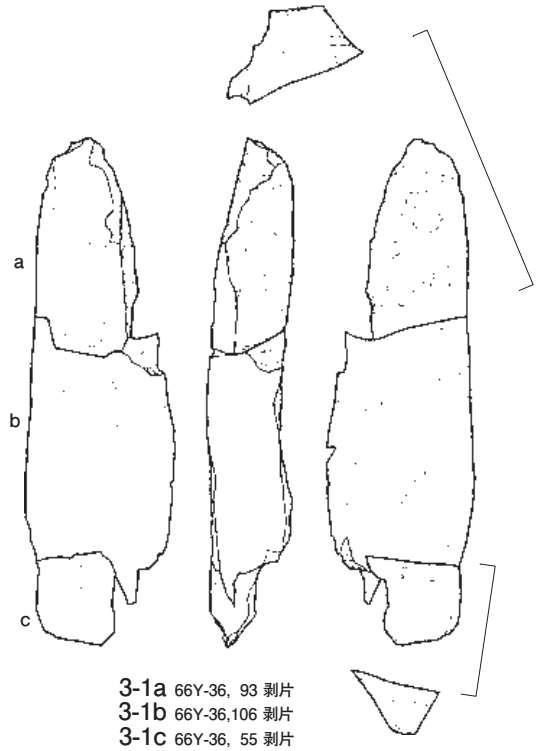


3-2 66Y-36,130 剥片

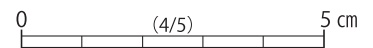


4 (a・b)
黒曜石
接合資料22013

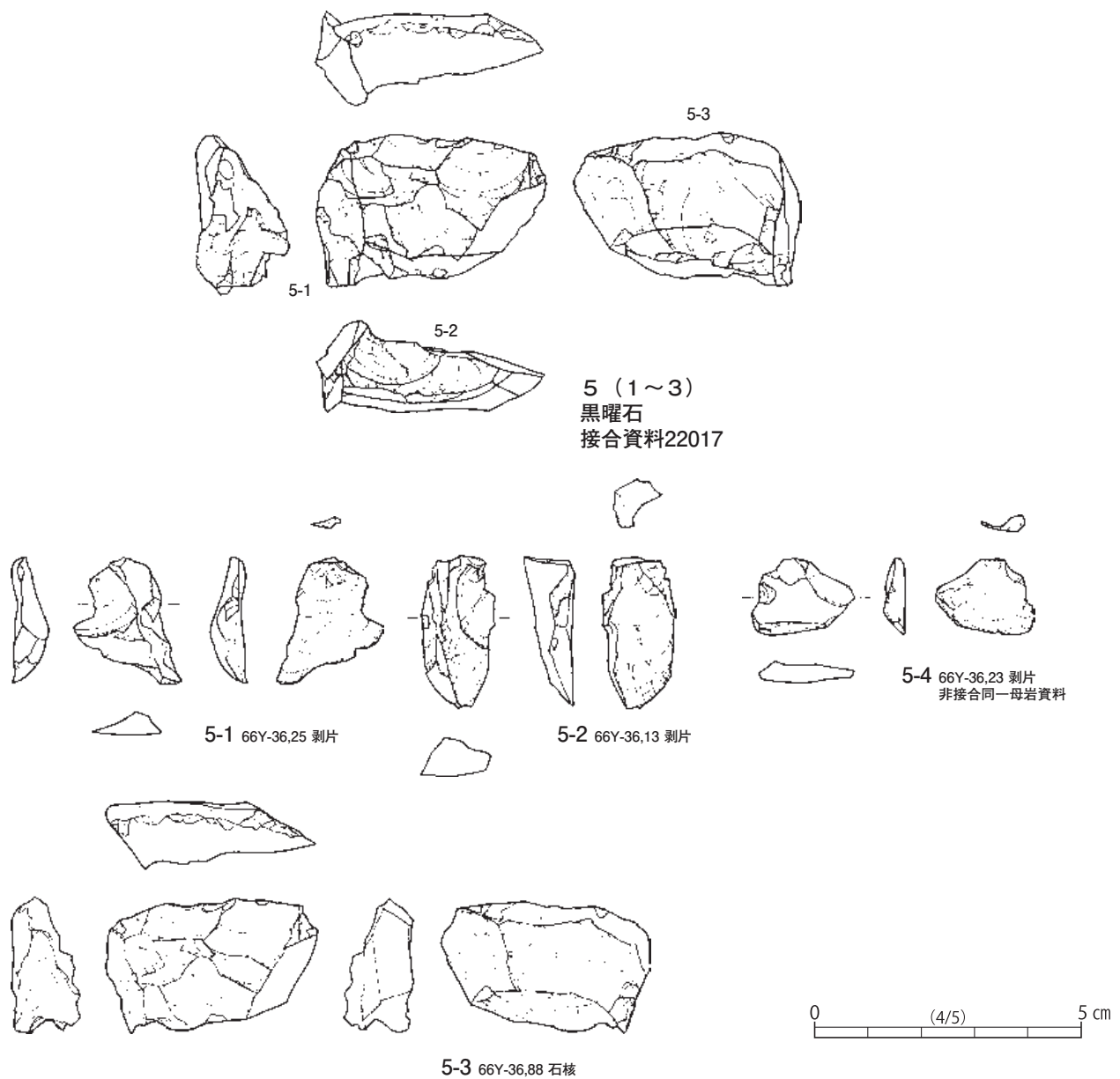
4a 66Y-36, 91 二次加工のある剥片
4b 66Y-36,124 二次加工のある剥片



3-1a 66Y-36, 93 剥片
3-1b 66Y-36,106 剥片
3-1c 66Y-36, 55 剥片



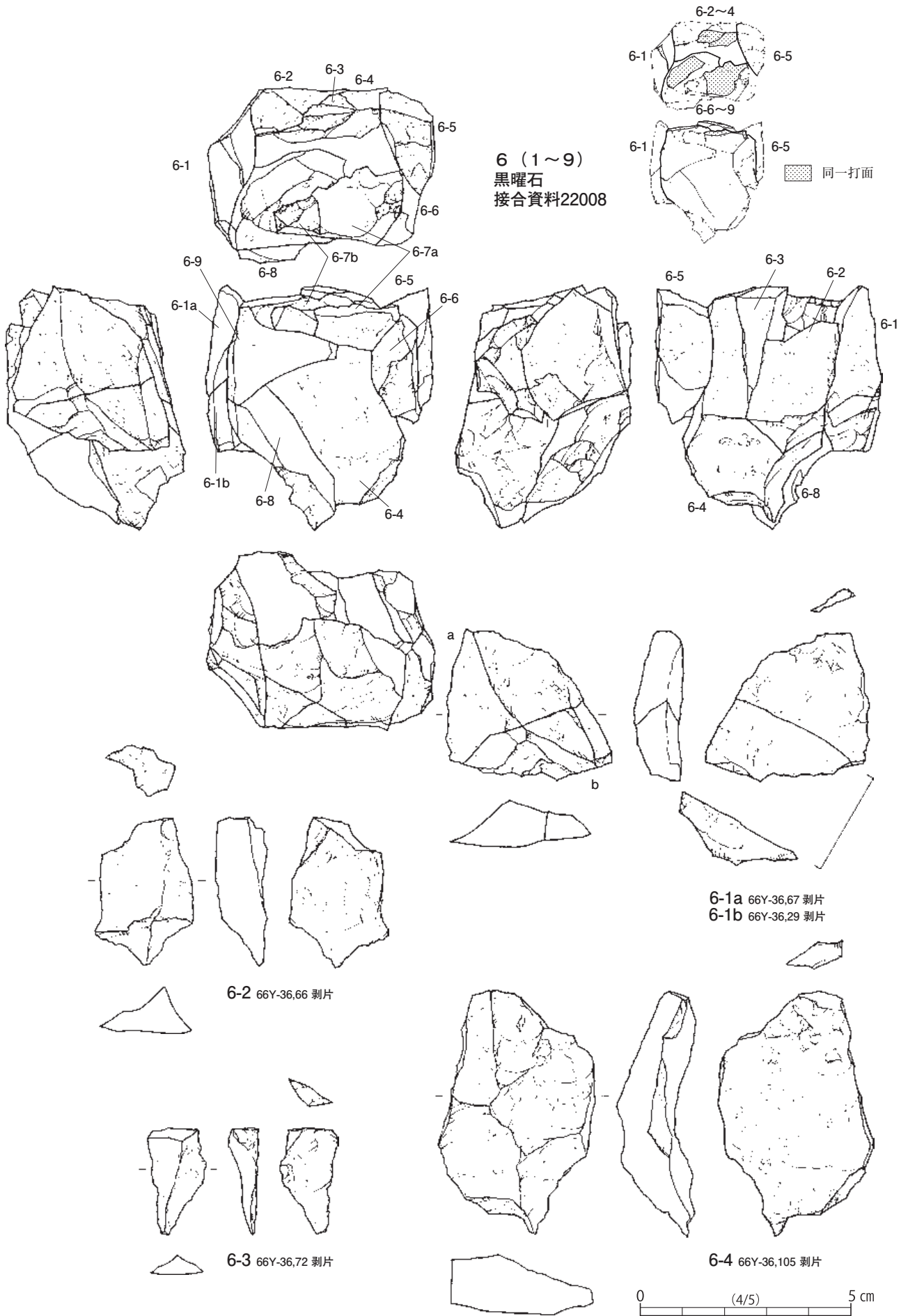
第113図 66Y-Bブロック出土遺物(1)



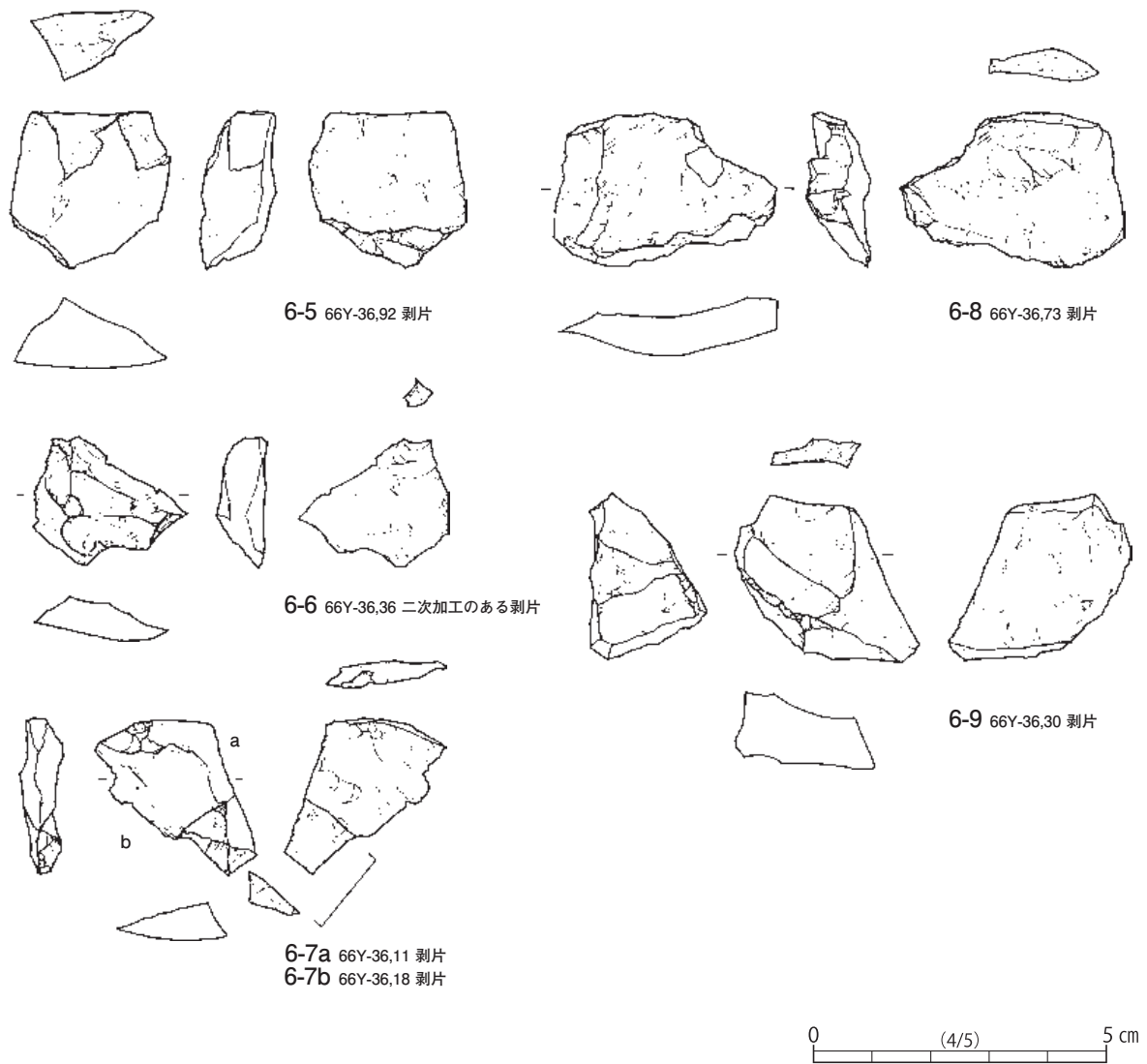
第114図 66Y-Bブロック出土遺物(2)

第36表 66Y-Bブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状 石器	ナイフ 形石器	台形様 石器	彫器	掻器	楔形 石器	二次 加工	微細 剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫 礫片	点数合計	重量合計 (g)			
OB			2					4					91	95	7							199	100.0%	492.57	100.0%
合計	0	0	2	0	0	0	0	4	0	0	0	0	91	95	7	0	0	0	0	0	199	100.0%	492.57	100.0%	



第115図 66Y-Bブロック出土遺物(3)



第116図 66Y-Bブロック出土遺物(4)

5 67DD- Aブロック (第117・118図、第37表、図版6・40)

西側地区の中央南側、67DD-08・09グリッドに分布する。9.1 m × 0.2 mの範囲から3点の石器が出土した。出土層位はⅢ層である。0.09 mの高低差をもって包含される。

石器器種は、ナイフ形石器のみである。石器石材は、頁岩・黒曜石で構成される。ナイフ形石器のみの小規模なブロックである。

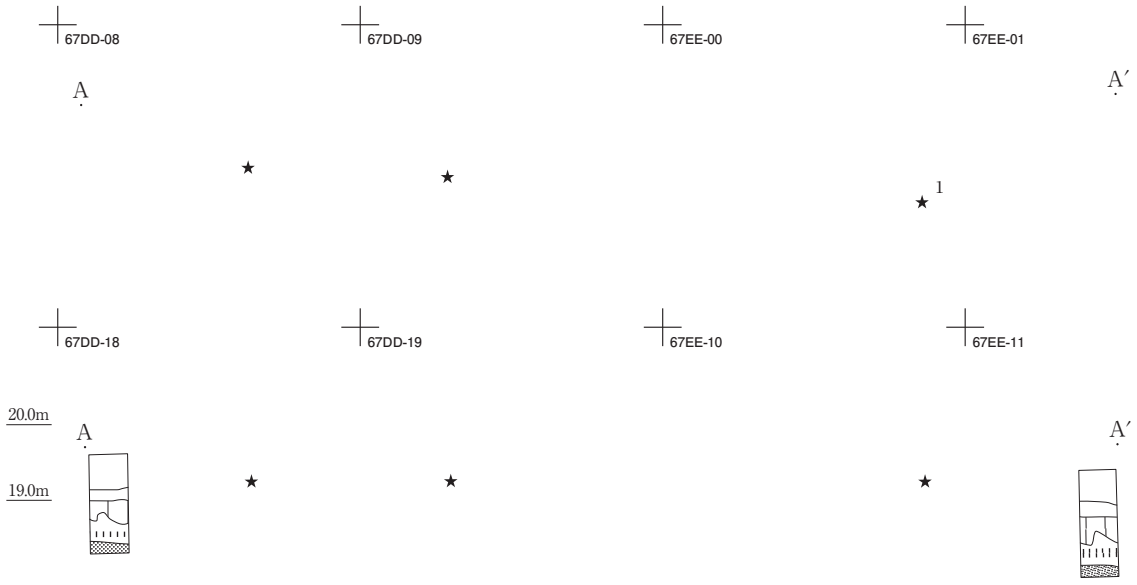
1は珪化度の高い灰褐色の頁岩の一側縁あるいは部分加工のナイフ形石器である。不定形な剥片の打面側を基部とし、①左側縁上部は裏面から粗い鋸歯状の加工、②器体中央部は左側へ稜上から粗い調整加工、右側縁下部の一部に細かい調整加工を行っている。①と②の剥離面の新旧関係から調整の順番は①→②である。先端は欠損している。

2(接合資料09001)は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石で、二側縁加工のナイフ形石器2点(1個体)の接合資料である。横長剥片を横位に用い、右側縁と左側縁下部に粗い調整加工を行っている。器体中央で欠損している。



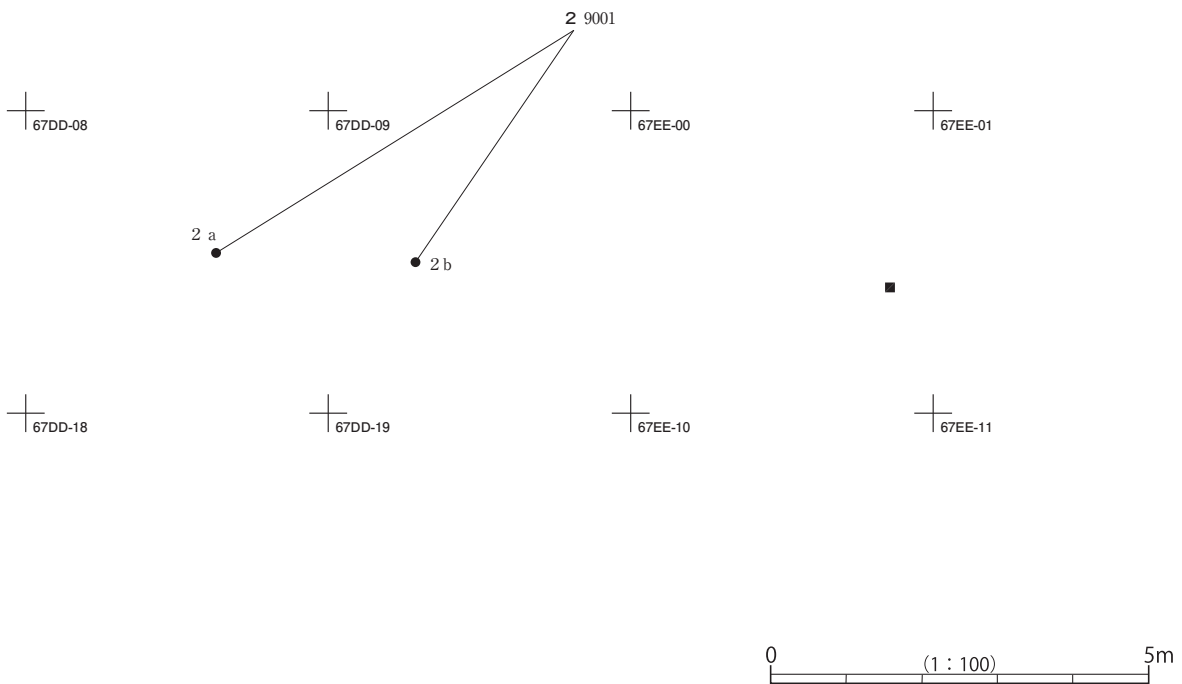
- ★ ナイフ形石器
- ・ セクションポイント

< 器種別分布 >



< 石材別分布 >

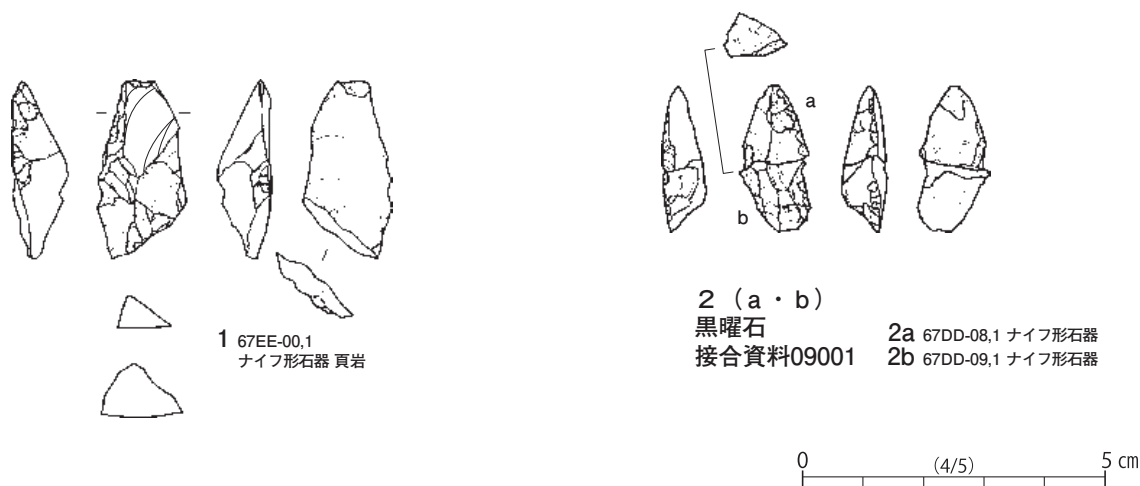
- 頁岩
- 黒曜石



第117図 67DD-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-

第37表 67DD-Aブロック石器組成

石材/器種	ナイフ	点数	点数合計 (%)	重量	重量合計 (g)
SH	1	1	33.3%	2.85	63.2%
OB	2	2	66.7%	1.66	36.8%
合計	3	3	100.0%	4.51	100.0%



第118図 67DD-Aブロック出土遺物

6 66CC- Cブロック (第119・120図、第38表、図版6・41)

西側地区の中央南側、67CC-02・03・11・12グリッドに分布する。7.0 m × 7.4 mの範囲から30点の石器と4点の礫が出土した。出土層位はV層～IV層である。0.44 mの高低差をもってIV層を中心に包含される。

石器器種は、角錐状石器・微細剥離痕のある剥片・剥片・碎片・石核・敲石と礫・礫片で構成され、剥片が主体であるが、角錐状石器などが伴う。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・チャート・ホルンフェルス・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成され、黒曜石が主体であるが、角錐状石器を含むガラス質黒色安山岩がこれに次ぐ。礫石材は、流紋岩のみである。

1 (接合資料37002) はガラス質黒色安山岩2点(1個体)の角錐状石器である。横長剥片を横位に用い、右側縁全体と左側縁中央部の半分に粗い鋸歯状の調整加工を行っている。器体ほぼ中央で欠損している。

2 (接合資料37001) は黒色頁岩の不定形な剥片2点の接合資料である。

図版41-3は珪化度の高いチョコレート頁岩の微細剥離痕のある剥片で、右側縁に剥離痕がみられる。図版41-4は黄土色のチャートの縦長剥片である。図版41-5～7は黒灰色で緻密なガラス質黒色安山岩の剥片である。図版41-8は灰色の泥質のホルンフェルスの剥片である。図版41-9・10(接合資料37005・37004)は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石の接合資料である。図版41-9は剥片2点の資料で、上方向から図版41-9-1→右方向から図版41-9-2を剥離している。図版41-10は石核2点・剥片1点の資料である。上方向から図版41-10-1→図版41-10-2を剥離し、図版41-10-2と図版41-10-3は石核として、小型で不定形な剥片を剥離している。図版41-11(接合資料37003)は灰褐色の珪化した頁岩の石核1点・剥片2点の接合資料である。角礫の平坦な自然面を打面として、打面を90度転回しながら、図版41-11-1や図版41-11-2などの不定形な剥片を剥離している。



- ☆ 角錐状石器
- 微細剥離痕のある剥片
- 剥片
- 碎片
- ✕ 石核
- ◇ 礫
- 人 礫片



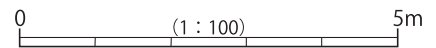
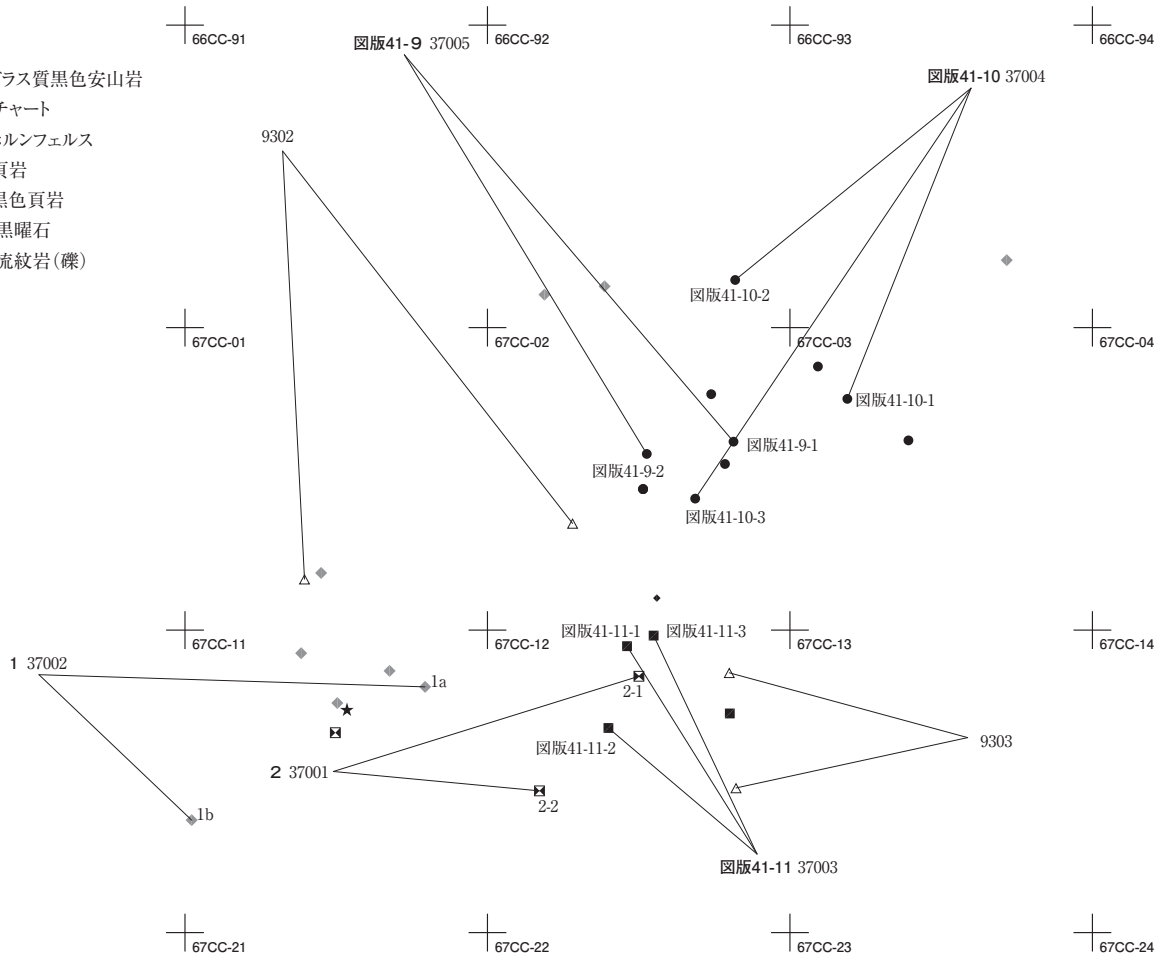
第119図 66CC-Cブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -

第38表 66CC-Cブロック石器組成

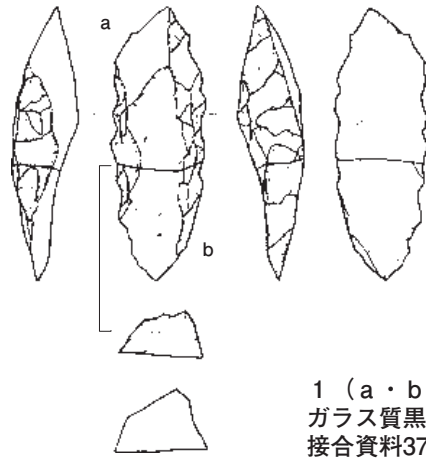
石材 / 器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形棒石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA		2											4	3							9	26.5%	87.95	10.1%
CH													1								1	2.9%	9.54	1.1%
HO													1								1	2.9%	31.57	3.6%
SH									1				2		1						4	11.8%	56.83	6.5%
BS													3								3	8.8%	19.38	2.2%
OB													8	2	2						12	35.3%	56.77	6.5%
RHR																				4	4	11.8%	612.02	70.0%
合計	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	19	5	3	0	0	0	0	4	34	100.0%	874.06	100.0%



- ◆ ガラス質黒色安山岩
- ◆ チャート
- ★ ホルンフェルス
- 頁岩
- ▣ 黒色頁岩
- 黒曜石
- △ 流紋岩(礫)

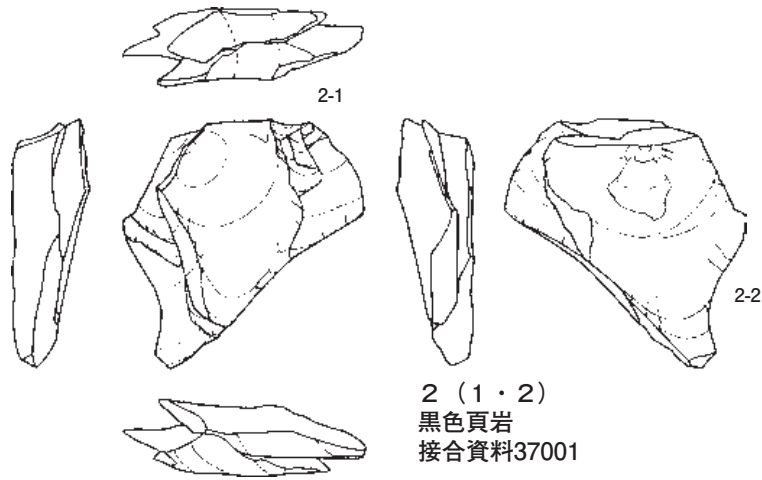


第120図 66CC-Cブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -

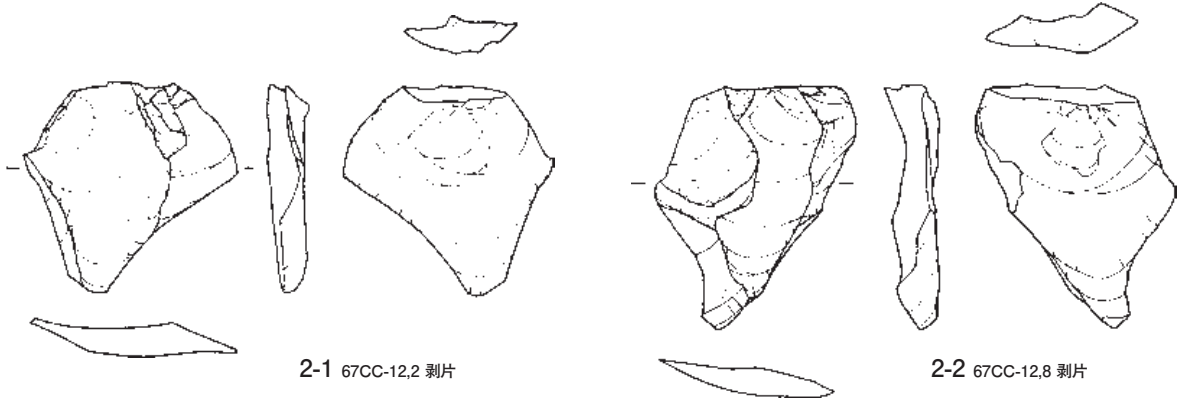


1 (a・b)
 ガラス質黒色安山岩
 接合資料37002

1 a 67CC-11.6 角錐状石器
 1 b 67CC-11.7 角錐状石器

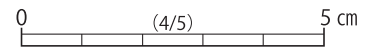


2 (1・2)
 黒色頁岩
 接合資料37001



2-1 67CC-12.2 剥片

2-2 67CC-12.8 剥片



第121図 66CC-Cブロック出土遺物

7 68Z- Aブロック (第122・123図、第39表、図版6・42)

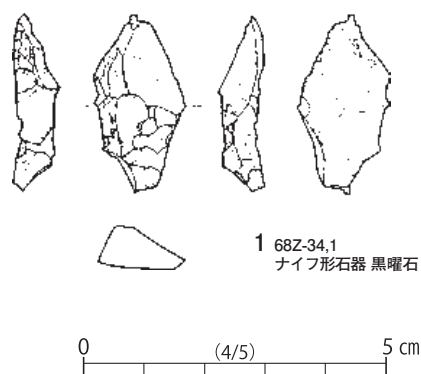
西側地区の中央南側、68Z-24・25・34～36グリッドに分布する。5.7 m×2.5 mの範囲から11点の石器が出土した。出土層位はV層～Ⅲ層である。0.32 mの高低差をもって包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・碎片・石核・敲石と礫・礫片で構成される。剥片が主体であるが、ナイフ形石器を伴う。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・砂岩・チャート・頁岩・黒曜石で構成され、頁岩・黒曜石が主体である。礫石材は、流紋岩・砂岩・ホルンフェルスで構成される。

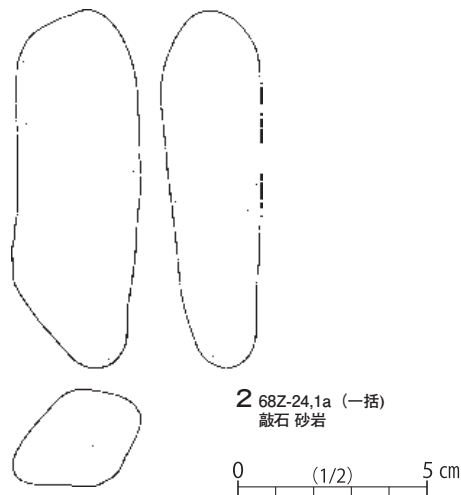
1は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石の一側縁加工あるいは二側縁加工のナイフ形石器である。不定形な剥片の打面側を先端部とし、左側縁上部は粗い鋸歯状の加工と微細な加工、同下部に粗い鋸歯状の調整加工を行っている。なお、両側縁基部はほぼ対称であることなどから意図的な折り取りだとすれば、二側縁加工のナイフ形石器の可能性もある。2は砂岩の敲石としたが、下端部の敲打痕は極めて弱いあるいはほとんど観察できないので、敲石等のための未使用の原石の可能性が高い。図版42-3はチャートの二次加工のある剥片である。不定形な横長剥片の末端に微細な剥離痕が見られる。図版42-4・5は同一母岩と考えられる黄灰褐色の珪化した頁岩の石器で、図版42-4は縦長剥片、図版42-5は石核である。円礫あるいは楕円礫を素材とし、不定形な剥片を剥離している。図版42-6は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石の不定形な剥片である。図版42-7はガラス質黒色安山岩の石核である。大型の円礫あるいは楕円礫を素材とし、打面と作業面を入れ替えながら不定形な剥片を剥離している。なお、図版42-3・5・6は、一括資料である。

第39表 68Z-Aブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形礫石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA															1						1	6.7%	97.86	25.2%
SA																	1				1	6.7%	116.26	30.0%
CH								1													1	6.7%	0.91	0.2%
SH													2		1						3	20.0%	35.28	9.1%
OB			1										3	1							5	33.3%	20.09	5.2%
RHR																				2	2	13.3%	61.83	15.9%
SAR																				1	1	6.7%	3.13	0.8%
HOR																				1	1	6.7%	52.82	13.6%
合計	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5	1	2	0	1	0	0	4	15	100.0%	388.18	100.0%



第122図 68Z-Aブロック出土遺物





68Z-24

68Z-25

68Z-26

< 器種別分布 >

- ★ ナイフ形石器
- 剥片
- 碎片
- ✕ 石核
- 人 礫片

※2、図版42-3・5・6は一括

図版42-7

人

68Z-34

68Z-35

68Z-36

○ 図版42-4

★ 1

人

21.0m

20.0m



< 石材別分布 >

- ◆ ガラス質黒色安山岩
- ☆ ホルンフェルス(礫)
- 黒曜石
- △ 流紋岩(礫)
- 砂岩(礫)
- 頁岩

68Z-25

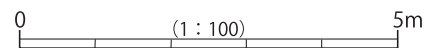
68Z-26

☆

68Z-34

68Z-35

68Z-36



第123図 68Z-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-

5 第5文化層

第5文化層の石器群は、377点の石器と4,276点の礫が出土し、IV層上部の石器群と推定される。西側地区の中央北側に分布する。III層を中心に出土しており、東内野型の有樋尖頭器と大規模な礫群を特徴とする。

1 63Z- Bブロック (第124～149図、第40・41表、図版6・43～50)

西側地区の中央北側、63AA-30・50・51・60・61・70、63Z-17・18・26～29・35～39・44～49・51～59・63～69・73・75～77・86グリッドに分布する。7.2 m×10.8 m、12.3 m×6.6 mの2か所の集中が見られ、全体で37.8 m×27.9 m範囲から377点の石器と4,276点の礫が出土した。出土層位はIX a層～III層である。1.44 mの高低差をもってIII層を中心に包含される。

石器器種は、尖頭器・彫器・搔器・楔形石器・二次加工のある剥片・削片・剥片・碎片・石核と礫・礫片で構成される。石器は剥片が主体であるが、有樋尖頭器・彫器・搔器などが伴う。また、大量の礫・礫片が顕著である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・流紋岩・砂岩・チャート・ホルンフェルス・頁岩・黒色頁岩・玉髓・凝灰岩・水晶で構成され、ホルンフェルス・頁岩が主体である。尖頭器・彫器・搔器などの利器は頁岩を主体としているが水晶の搔器が1点伴っている。また、ホルンフェルスと頁岩は剥片や碎片が主体であることから。石器の製作が行われたブロックと考えられる。礫石材は、流紋岩・砂岩・ホルンフェルスで構成される流紋岩が主体で70%近くを占め、砂岩と合わせて両方で90%を超える。焼礫が多く、破碎礫が大半である。尖頭器・彫器・搔器などの利器は頁岩を主体としているが、水晶の搔器が1点伴っている。

1～3は有樋尖頭器である。1は灰白色・灰オリーブ色が混じった珪化度の高い頁岩あるいは流紋岩で、剥片の打面側を基部とし、先端右側に樋状の剥離を行っている。この樋状の剥離後の右側面上部の微細な剥離痕は使用痕の可能性はある。全体的に器体中央に及ぶような平坦な調整加工が行われており、特に裏面基部の調整は顕著である。また、これらの平坦な調整加工の後に、表面左側縁、裏面の右側縁下半部と同左側縁の一部に細かい調整加工を行っている。2は灰褐色の珪化した頁岩あるいは流紋岩で、剥片の打面側を基部とし、先端左側に樋状の剥離を行っている。全体的には表面の左側縁に細かい調整加工、同右側は、裏面の右側縁の一部に器体中央に及ぶような浅い平坦な調整加工が行われている。3は灰褐色の珪化度のある流紋岩で、剥片の打面側を先端部とし、先端左側に樋状の剥離を行っている。下部の大半を欠損しているが、残存している先端部の右側は器体中央に及ぶような平坦な調整加工を行っており、その後もナイフ形石器の刃潰し加工状の細かい調整加工を行っている。

4・5は彫器である。4は1と同一母岩と考えられる石材で、剥片の先端部の両側縁に細かい調整加工を行い、左側に樋状の加工を行っている。5は灰オリーブ色の珪化度の高い頁岩あるいは流紋岩で1に類似した箇所があるので、同一母岩の可能性はある。折面の両端に樋状剥離が見られることから彫器としたが、衝撃剥離に伴う樋状剥離の可能性や裏面基部の平坦な調整加工などから、尖頭器の欠損品の可能性がある。

6～10は搔器である。6は褐色、7は灰褐色、9は褐色・灰白色の珪化した頁岩で、石刃あるいは石刃状の縦長剥片の末端に急角度の調整加工を行っている。なお、6は左側縁の全周に細かい調整加工、右

側縁の一部に微細な剥離痕が見られることから、削器として使われた複合石器の可能性がある。8は黒色頁岩あるいは泥岩質のホルンフェルスで、石刃あるいは石刃状の縦長剥片の末端に急角度の調整加工を行っている。10はほぼ透明な水晶で、石刃あるいは石刃状の縦長剥片のほぼ全周に急角度の調整加工を行っている。

11～16は二次加工のある剥片で、石材は11が砂質のホルンフェルス、12～15はそれぞれに濃淡の違いはあるが浅黄色で珪化度の高い頁岩、16が灰色のチャートである。12～14は石刃あるいは石刃状の縦長剥片を素材としている。12は下半部を欠損するが、左側縁上部に鋸歯状の細かい調整加工、同下部と右側縁に細かい調整加工を行っている。打面側を基部としたナイフ形石器の可能性もある。13は末端に細かい剥離痕が見られる。14は裏面の左側縁上部に細かい調整加工を行っており、表面の右側縁下部に微細な剥離痕が見られる。15は縦長剥片の左側縁に細かい調整加工を行っている。裏面の下半部を裏面の右方向からの衝撃で欠損しているが、この剥離が正面左側縁の調整加工を切っていることから、調整時に発生した事故によるものと考えられる。本資料も打面側を基部とした一側縁加工のナイフ形石器の製作途中の石器であった可能性がある。16は不定形な剥片の両面の両側縁に細かい調整加工を行っている。裏面側の調整の後に表面側の調整を行って、加工は浅いが尖頭器など何らかの石器の製作途中のものと思われる

17は透明な水晶の楔形石器で、剥片の両側縁と両端に対向する剥離痕が見られる。

18～29は削片で、有樋尖頭器製作の際に生じたものと考えられる。石材は18が灰白色で干菓子のような流紋岩、29が黒色頁岩あるいはホルンフェルス、19～28が珪化度の高い頁岩で、19・22・23は浅黄色、20は灰黄色、21は灰褐色、24は灰白色、25はチョコレート色、26は黄灰色、27はにぶい黄橙・黒褐色が縞状に混じり、28は淡黄色である。なお、類似した形状の20・22の右側縁の上部には微細な剥離痕が見られ、使用等によるとしたが、偶発的な剥離の可能性もある。

30は灰白色の比較的珪化度の高い頁岩の剥片であるが、削片の可能性もある。

31（接合資料05215）はトロトロ石に似たガラス質安山岩の石核1点・剥片2点の接合資料である。細長い楕円礫を素材とし、31-3の正面図の器体半分の左側は自然面を打面として、左方向から、同右側は始めに正面側から、さらにその剥離面を打面として右方向から小型で不定形な剥片を剥離し、その後、打面を上面に移動して、左方向→右方向の順に31-1・31-2などの剥片を剥離している。32（接合資料05214）は珪化度の高い頁岩の搔器2点（1個体）の接合資料である。32 aは浅黄色の地に暗灰色・黄灰色が混じり、32 bは黄灰色である。色調の違いは被熱による可能性が高い。石刃あるいは石刃状の縦長剥片の末端と右側縁に急角度の調整加工を行っている。33（接合資料05009）は珪化度の高いチョコレート頁岩の石刃あるいは石刃状の縦長剥片3点の接合資料である。34（接合資料05004）は泥岩質で硬質なホルンフェルスの石核1点・剥片13点（11個体）の接合資料である。大型の礫を素材として、表面側の上方から34-1～34-3→裏面側の手前から34-4・34-5→表面側の下方から34-6・34-7→裏面側の手前方向から34-8→同右方向から34-9・34-10→同上方向から34-11などの剥片を両面で求心的な剥離を行っている。35（接合資料05012）は泥岩質のホルンフェルスの石核1点・剥片12点（8個体）の接合資料である。やや扁平な楕円礫を分割した大型の剥片を素材とし、35の上面図で、上方向から35-1→35-2→35-3を剥離し、打点を下方に移動して上方向に35-4→35-5などの剥片を剥離した後、再び打点を下方に移動して上方向に35-6→○→○→○→35-7などの剥片を剥離している。さらに打点を左方向に移動して

35-8 を剥離している。35-1 ～ 34-7 は自然面、35-8 は節理を打面として不定形な剥片を剥離している。その後も 35-9 は周縁を移動して求心的な剥離を行っており、結果的に礫器状を呈している。なお、石材の関係から生産された剥片の多くは板状に剥離し、末端や側面の欠損が激しいものが多い。また、35-3 b と 35-5 は被熱と考えられる影響で茶褐色に変色しており、特に 35-3 b は顕著である。36（接合資料 050006）は泥岩質で硬質なホルンフェルスの石核 1 点・剥片 3 点の接合資料である。細長い楕円礫を素材とし、両面の両側縁に加工して打製石斧状に仕上げた石核に横から大きなファシット状の加撃を行って、36-1 ～ 36-3 を剥離している。37（接合資料 05013）は砂岩の剥片 4 点（2 個体）の接合資料である。38（接合資料 05208）は若干粗粒の細粒凝灰岩の剥片 2 点の接合資料である。39（接合資料 05013）は砂岩の剥片 3 点の接合資料である。図版 50-40 ～ 42 は二次加工のある剥片である。石材は図版 50-40 が灰色・灰褐色で珪化度の高い頁岩、図版 50-41・42 は泥質なホルンフェルスである。図版 50-40 は両端が折断された剥片の右側縁に上部に細かい調整加工が施されている。上部の折断面と調整加工の新旧関係は折断が新しい。図版 50-41・42 は大型剥片のそれぞれ左側縁と右側縁に粗い鋸歯状の調整加工を行っており、石核の可能性もある。図版 50-43 は灰色・灰褐色で珪化度の高い頁岩の削片である。図版 50-40 と同一母岩の可能性が高い。

図版 50-44 ～ 48 は剥片である。石材は概ね珪化度の高い頁岩で、図版 50-44 が暗褐色の地に黒褐色が混じる資料、図版 50-45・46 が浅黄色、図版 50-47 がにぶい赤褐色、図版 50-48 は淡黄色の地に黒褐色が混じり、外面は干菓子のような資料で、いわゆる八丁層のノジュールに類似する。図版 50-44 ～ 46 は石刃あるいは石刃状の縦長剥片、図版 50-47 は末端が欠損している縦長剥片、図版 50-48 は不定形な横長剥片である。

図版 50-49 ～ 52 は石核で、図版 50-49・50 は明黄褐色で珪化度の高い頁岩、図版 50-51 はトロトロ石、図版 50-52 は泥質のホルンフェルスである。図版 50-49 は求心的な剥離により亀甲状、図版 50-50 は打面と作業面を入れ替えながらサイコロ状を呈しており、小型で不定形な剥片を剥離している。図版 50-51 は打面と作業面を入れ替えながら長方体を呈しており、不定形な剥片を剥離し、図版 50-52 は素材の主要剥離面に加撃して小型で不定形な剥片を剥離している。

図版 50-53（接合資料 05001）は泥岩質で硬質なホルンフェルスの剥片 7 点（2 個体）の接合資料である。

第40表 63Z-Bブロック石器組成

石材 / 器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)			
GA													5		1						-	6	1.6%	76.96	3.5%
TO													12		1						-	13	3.4%	138.5	6.3%
RH	1									1			9	1							-	12	3.2%	32.57	1.5%
SA													12	1							-	13	3.4%	93.88	4.3%
CH								1					2	1							-	4	1.1%	5.15	13.7%
HO								3					114	27	4						-	148	39.3%	1290.52	59.1%
SH	2				2	5		6		11			72	36	2						-	136	36.1%	298.81	13.7%
BS						1				1			13	8	1						-	24	6.4%	185.45	8.5%
CC													1								-	1	0.3%	3.4	0.2%
TU													2								-	2	0.5%	7.67	0.4%
CY						1	1						9	7							-	18	4.8%	49	2.2%
合計	3	0	0	0	2	7	1	10	0	13	0	0	251	81	9	0	0	0	0	0	-	377	100.0%	2181.91	100.0%

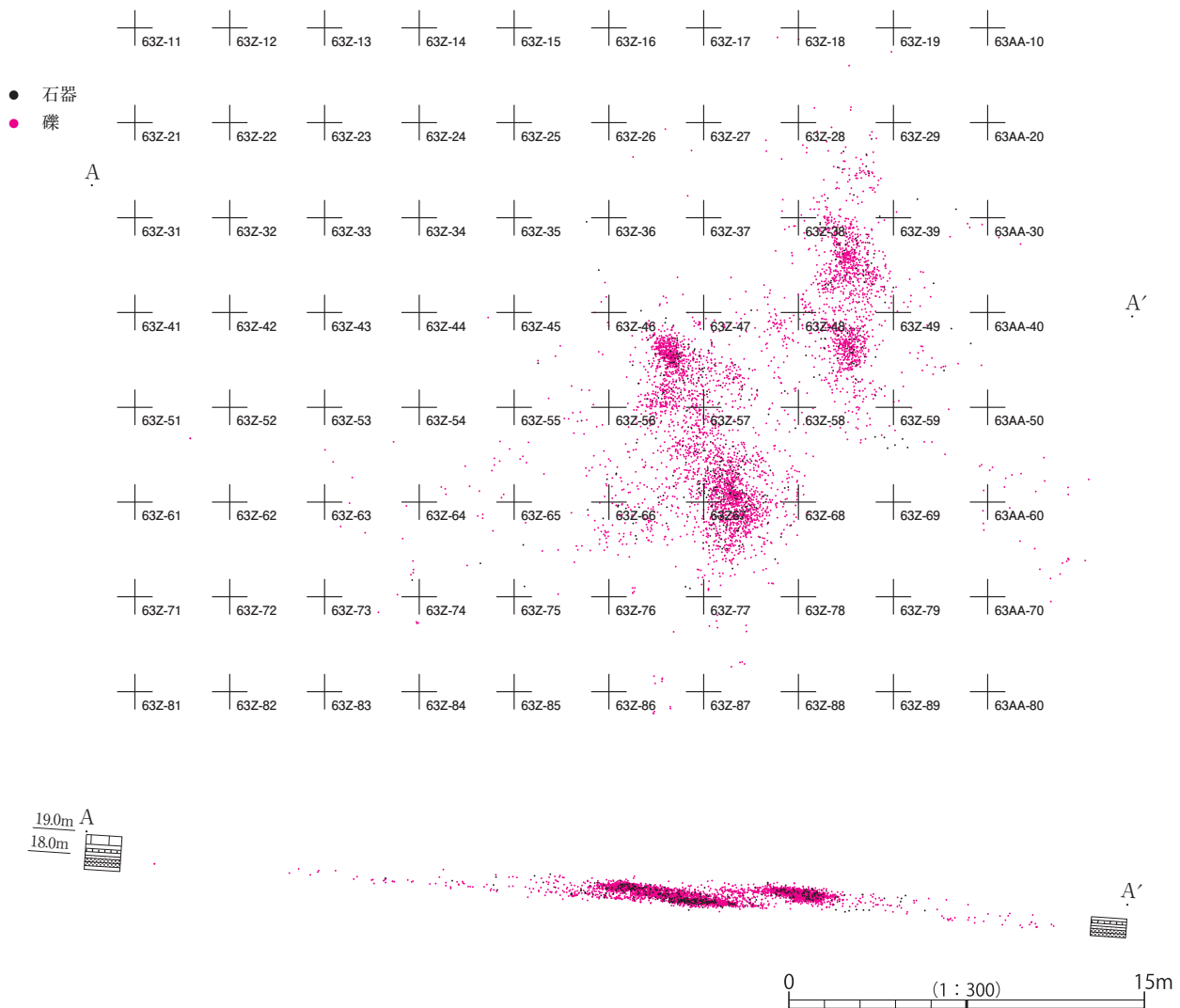
第41表 63Z-Bブロック礫組成

石材 / 器種	礫		点数合計	重量合計 (g)	
	礫片	片			
RHR	3001	3001	70.2%	24559.38	67.0%
SAR	979	979	22.9%	9046.18	24.7%
CHR	233	233	5.4%	2438.54	6.7%
HOR	63	63	1.5%	613.14	1.7%
合計	4276	4276	100.0%	36657.24	100.0%

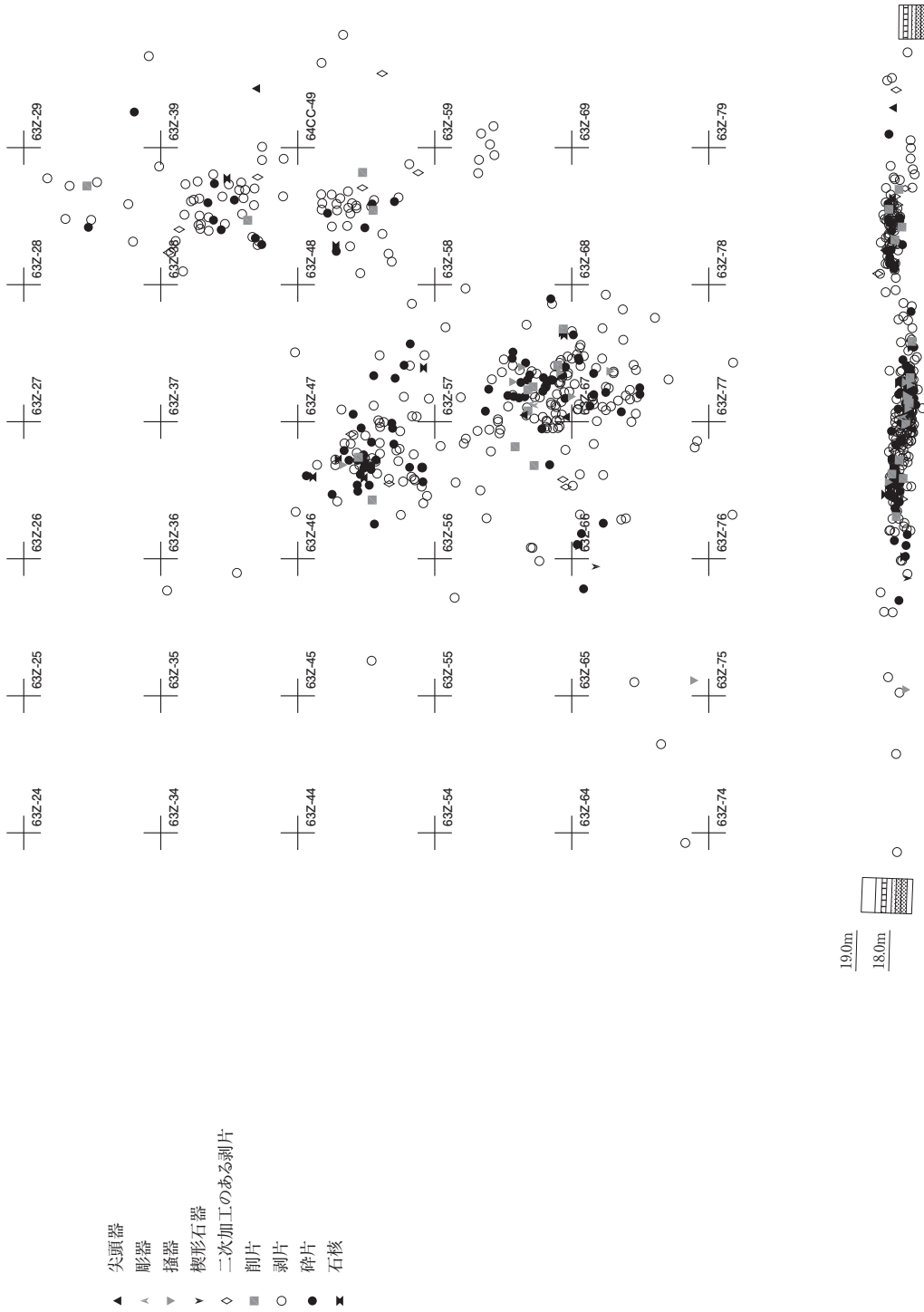
大型の楕円礫あるいは円礫の打面側を剥離して平坦な打面を作出し、図版 50-53-1 や図版 50-53-2 など中～大型で不定形な剥片を剥離している。

1、2a、2b～d、2e・fには石材の色調に違いがあり、被熱による変色の可能性がある。図版 50-54（接合資料 05011）は黒色頁岩の石核 1 点・剥片 2 点の接合資料である。比較的薄手の板状の剥片を素材とし、両面

の両端に加撃して、小型で不定形な剥片を剥離している。石材の関係から、生産された剥片は薄い板状のものである。図版 50-55（接合資料 05090）はトトロ石の剥片 2 点の接合資料である。楕円礫あるいは円礫を素材とし、図版 50-55-1 を剥離した後、上下に打点を移動しながら、図版 50-55-2 など不定形な縦長剥片を剥離している。



第124図 63Z-Bブロック出土遺物分布（1）

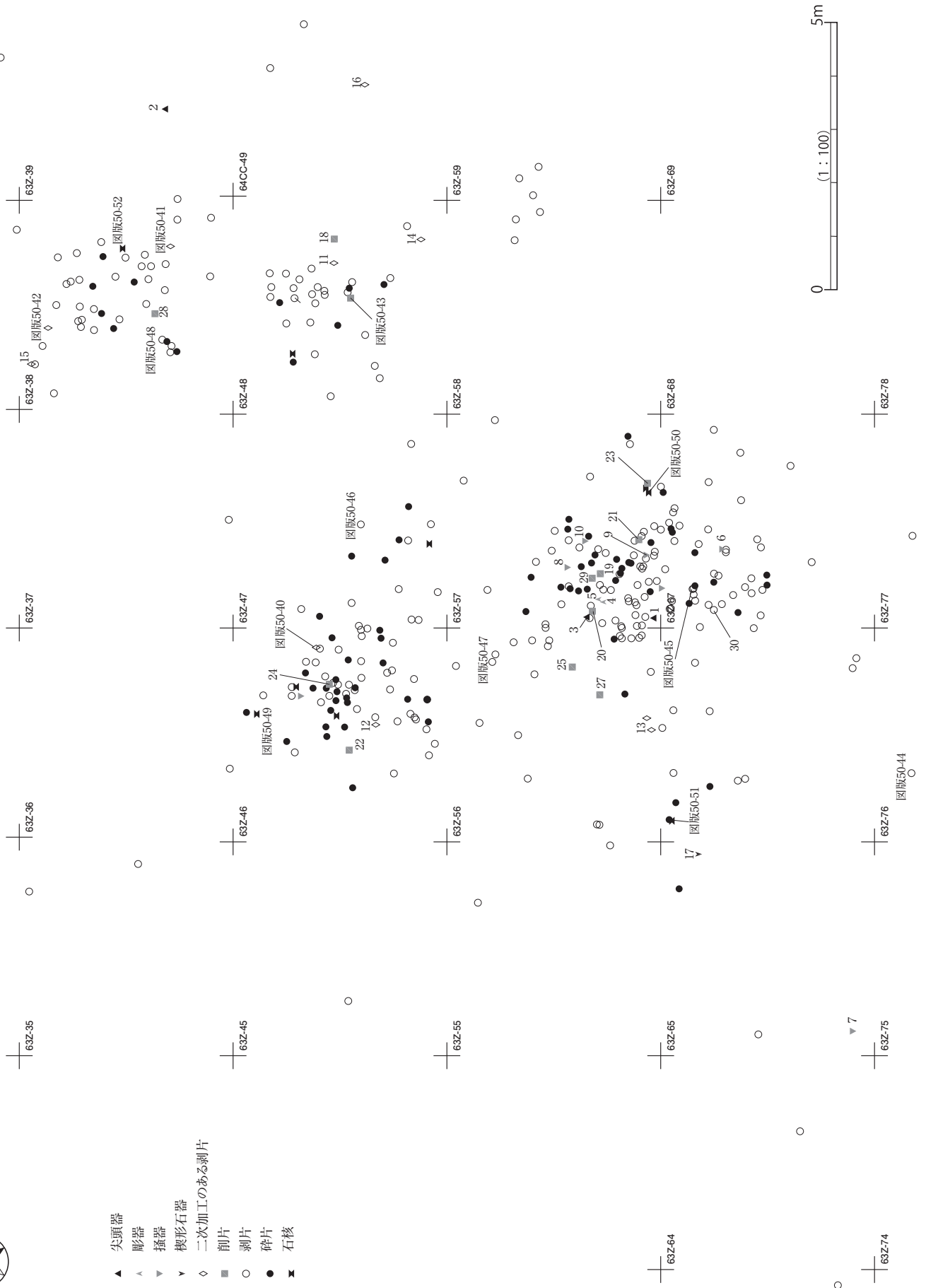


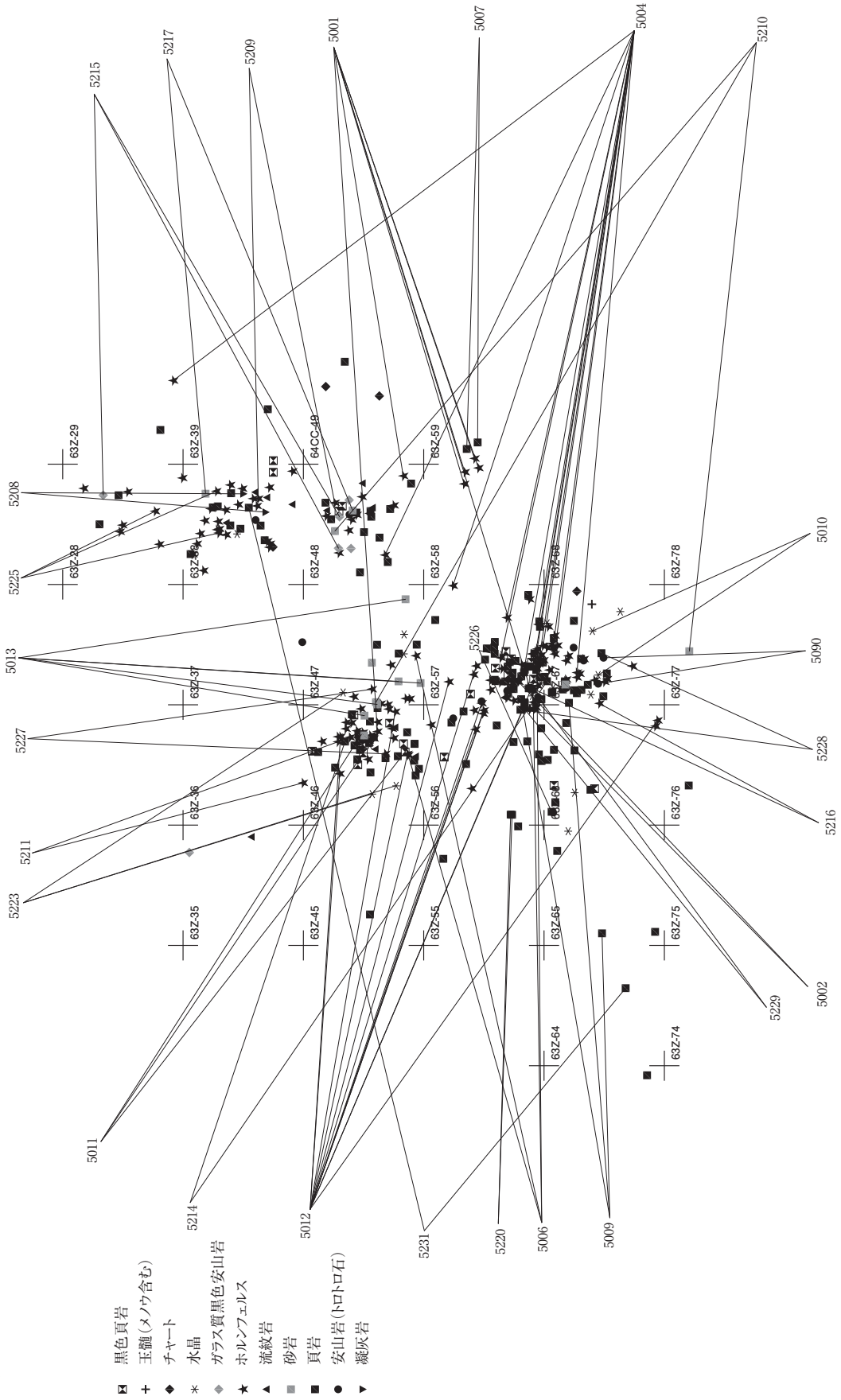
第125図 63Z-Bブロック出土遺物分布(2) - 器種別(1) -



- ▲ 尖頭器
- △ 彫器
- ▽ 搔器
- ◇ 楔形石器
- ◊ 二次加工のある剥片
- 削片
- 剥片
- 碎片
- ✕ 石核

第126図 63Z-Bブロック出土遺物分布(3) - 器種別(2) -





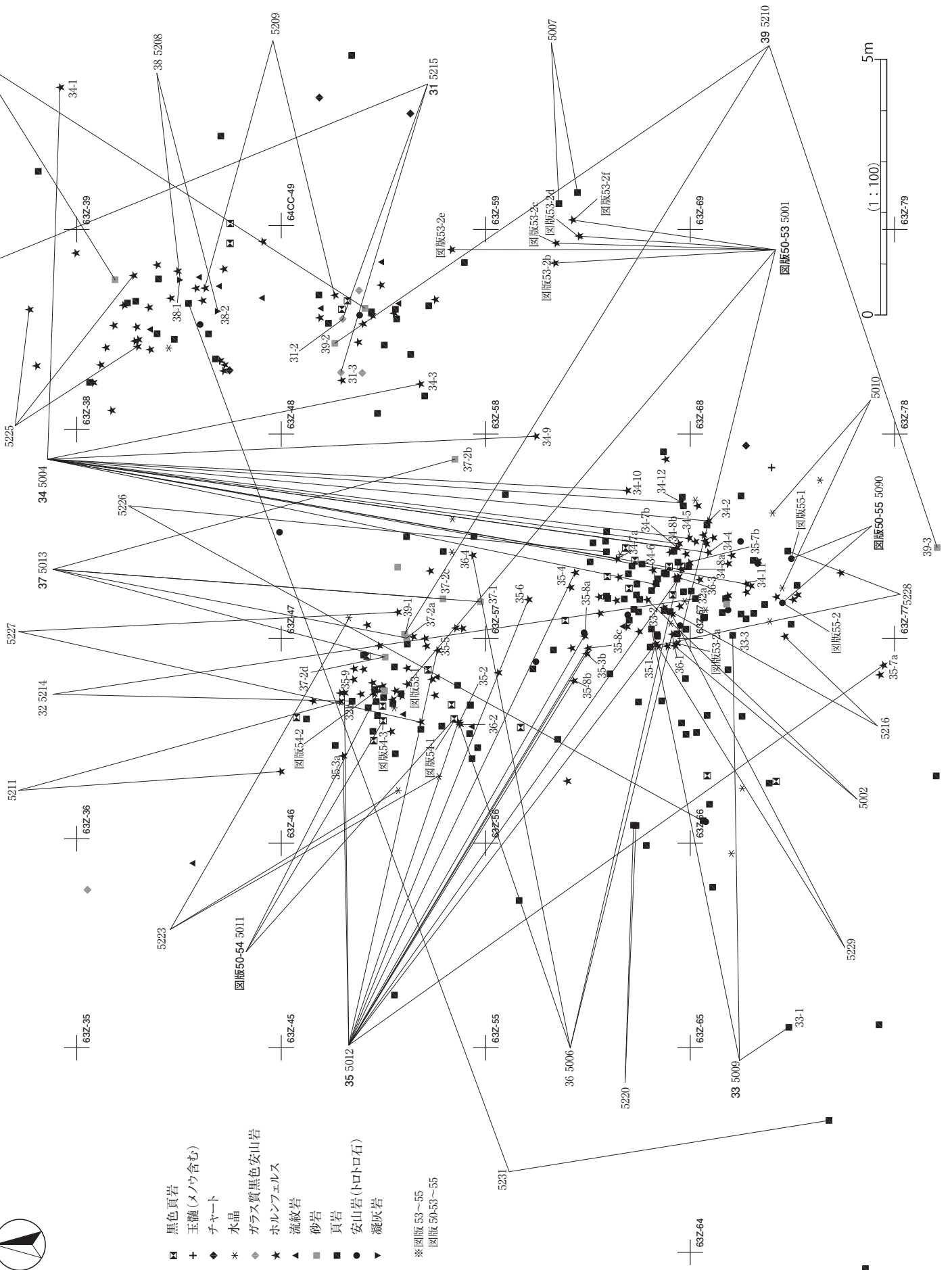
第127図 63Z-Bブロック出土遺物分布(4) - 石材別(1) -



- 黒色頁岩
- + 玉髄(メノウ含む)
- ◆ チャート
- * 水晶
- ◆ ガラス質黒色安山岩
- ★ ホルンフェルス
- ▲ 流紋岩
- 砂岩
- 頁岩
- 安山岩(トロトロ石)
- ▼ 凝灰岩

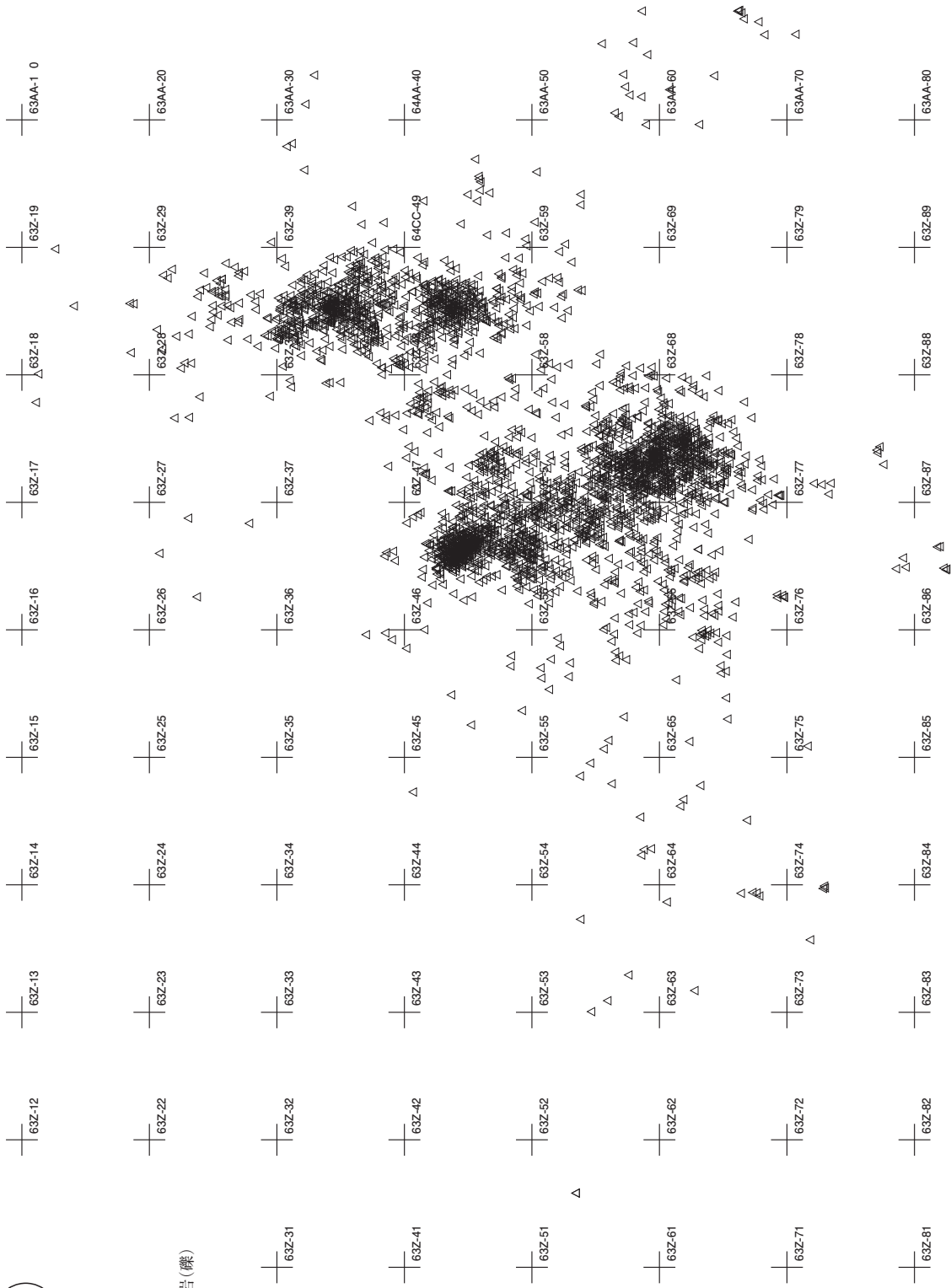
※図版 53～55
図版 50-53～55

第128図 63Z-Bブロック出土遺物分布(5) - 石材別(2) -





△ 流紋岩(礫)

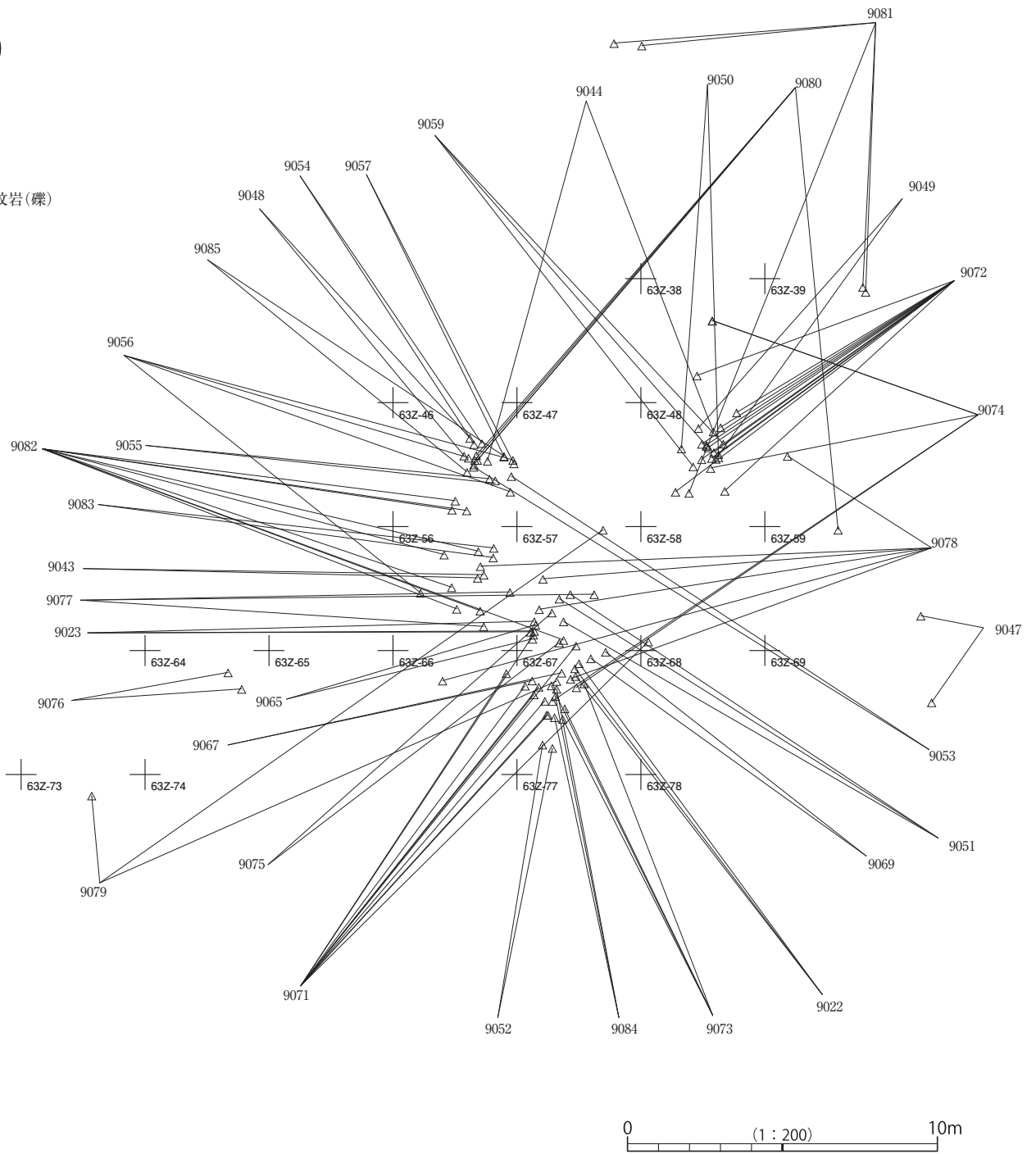


第129図 63Z-Bブロック出土遺物分布(6) - 礫石材別・流紋岩 -





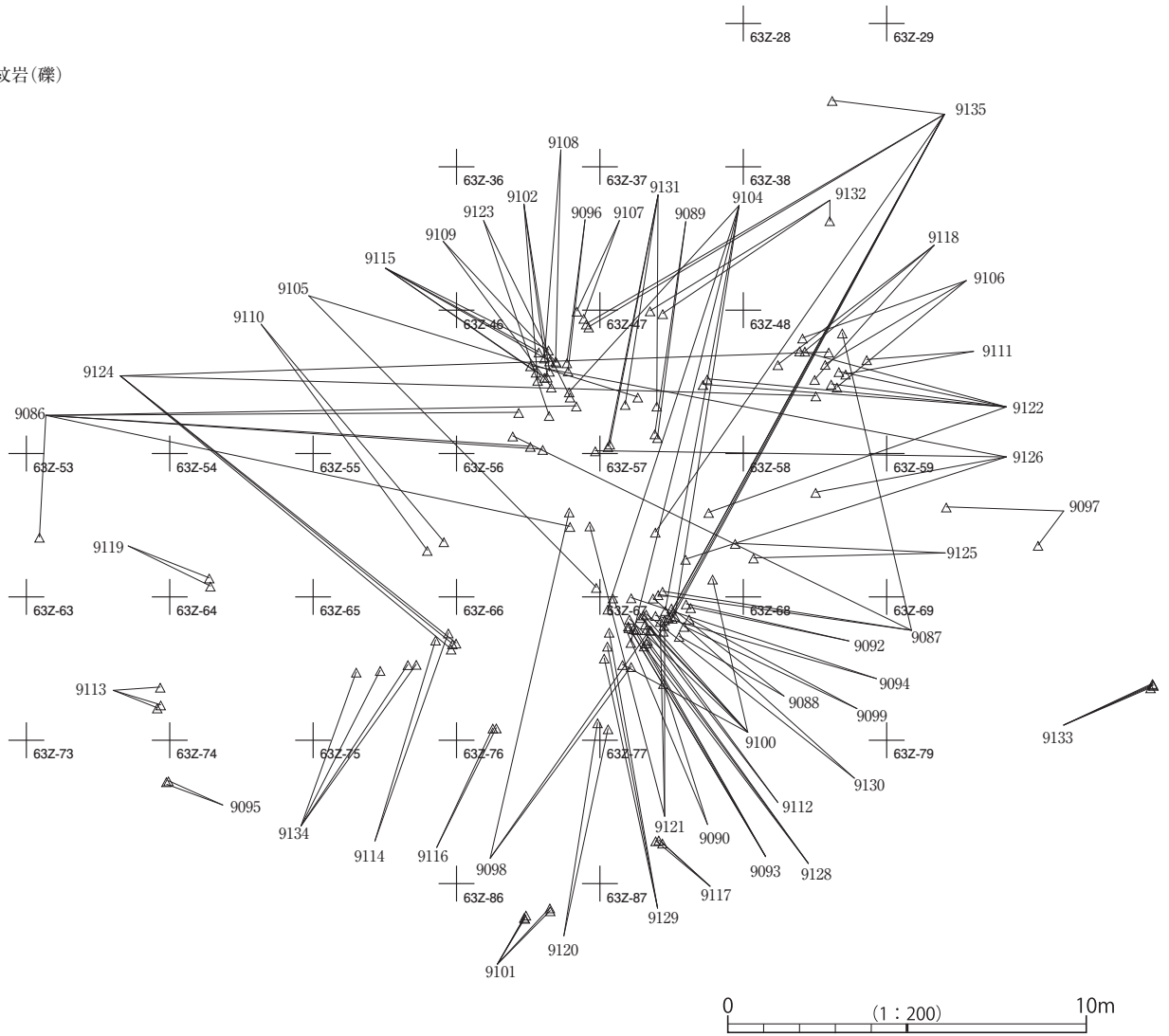
△ 流紋岩(礫)



第130図 63Z-Bブロック出土遺物分布(7) - 礫石材別・流紋岩・接合資料9022～9085 -



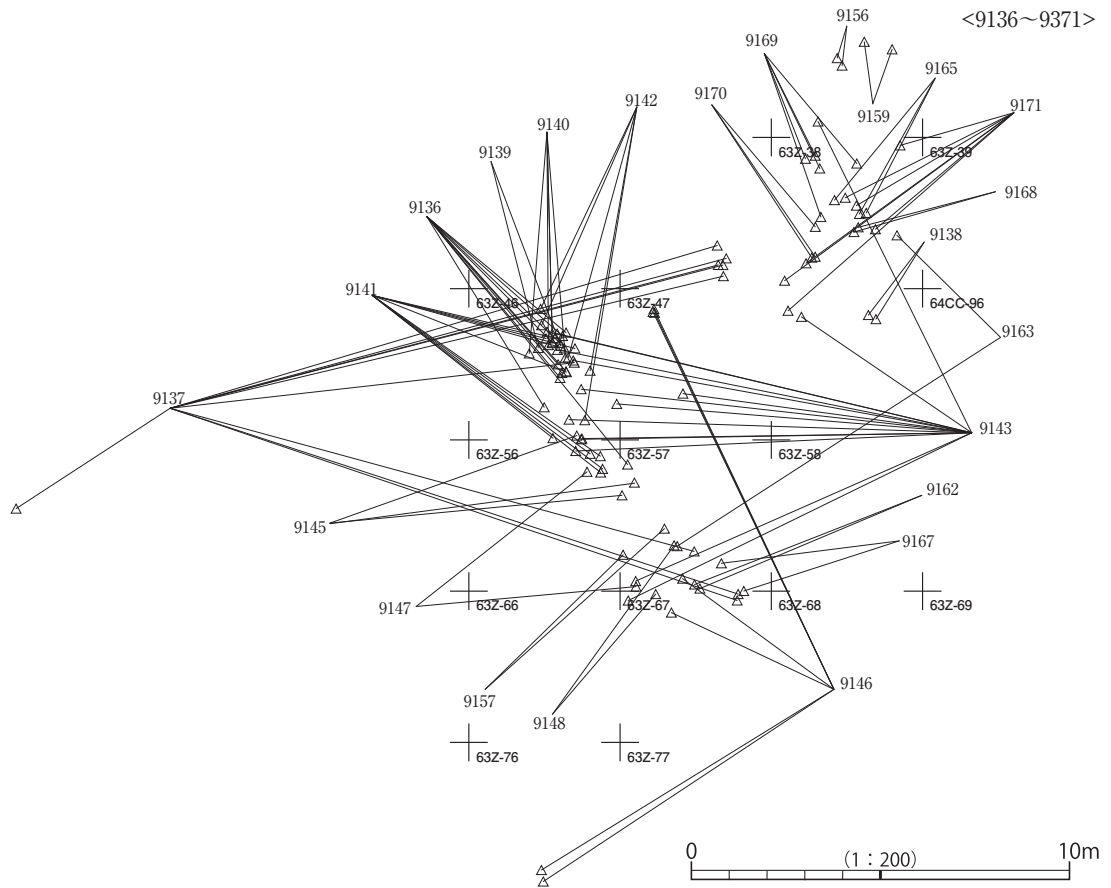
△ 流紋岩(礫)



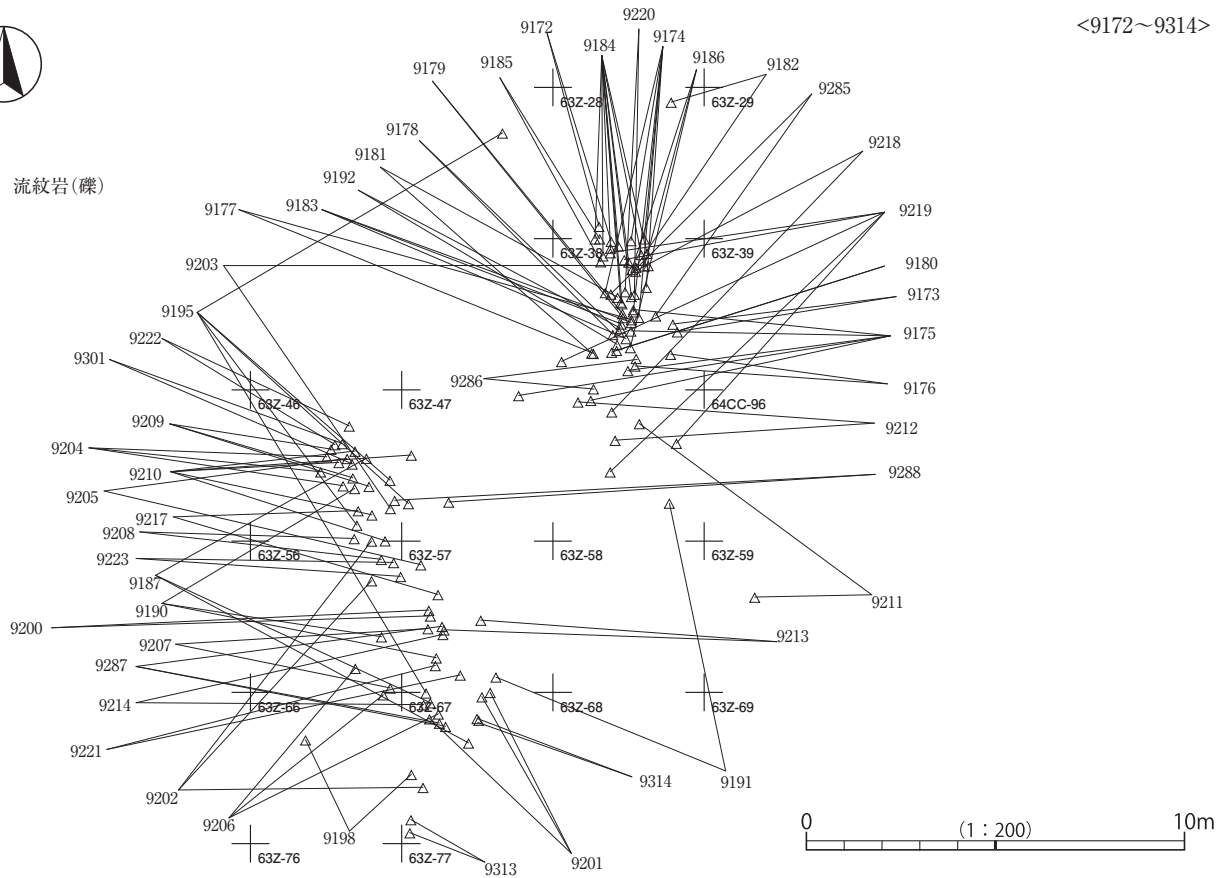
第131図 63Z-Bブロック出土遺物分布(8) - 礫石材別・流紋岩・接合資料9086～9135 -



△ 流紋岩(礫)



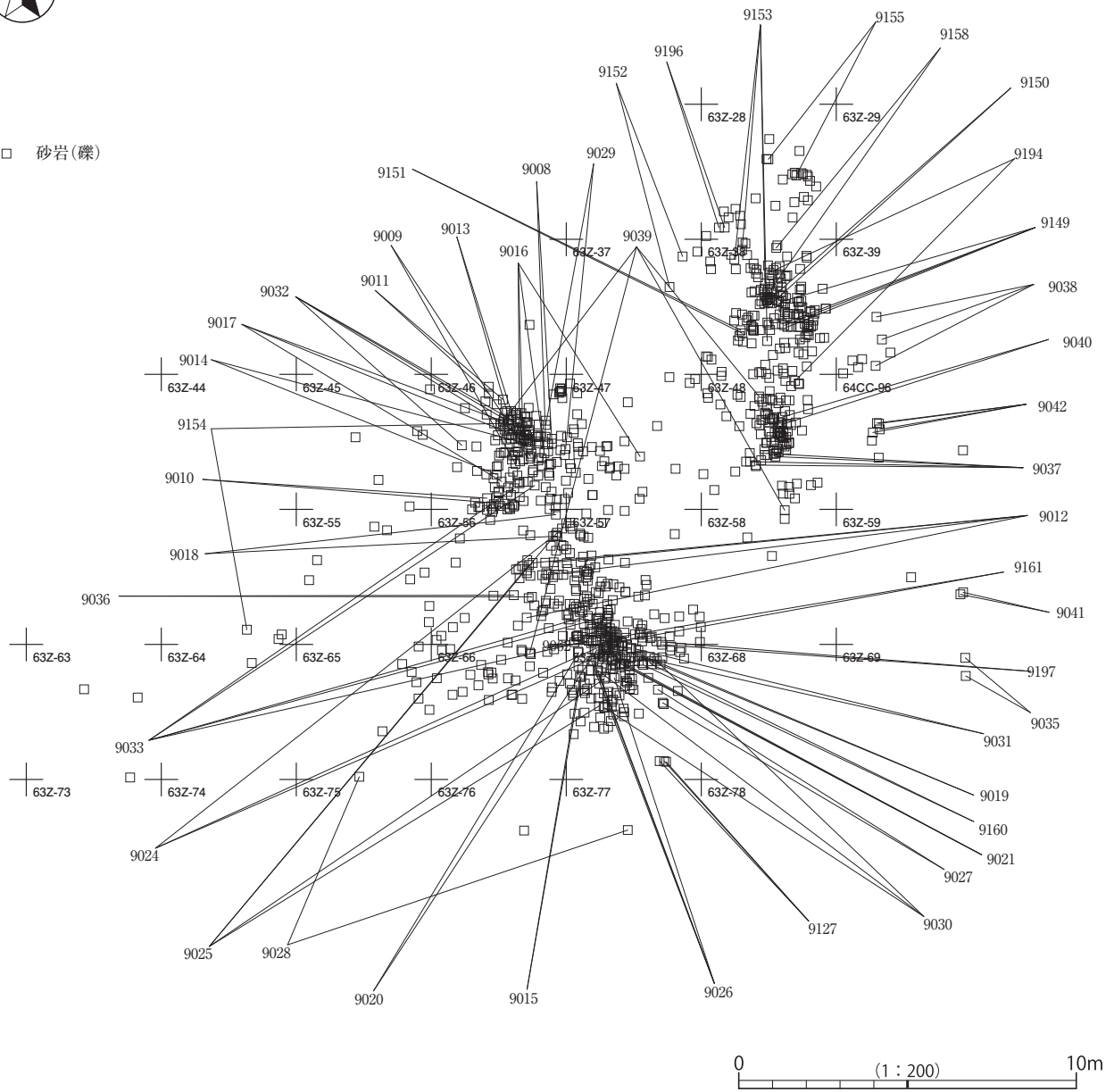
△ 流紋岩(礫)



第132図 63Z-Bブロック出土遺物分布(9) - 礫石材別・流紋岩・接合資料9136 ~ 9314 -



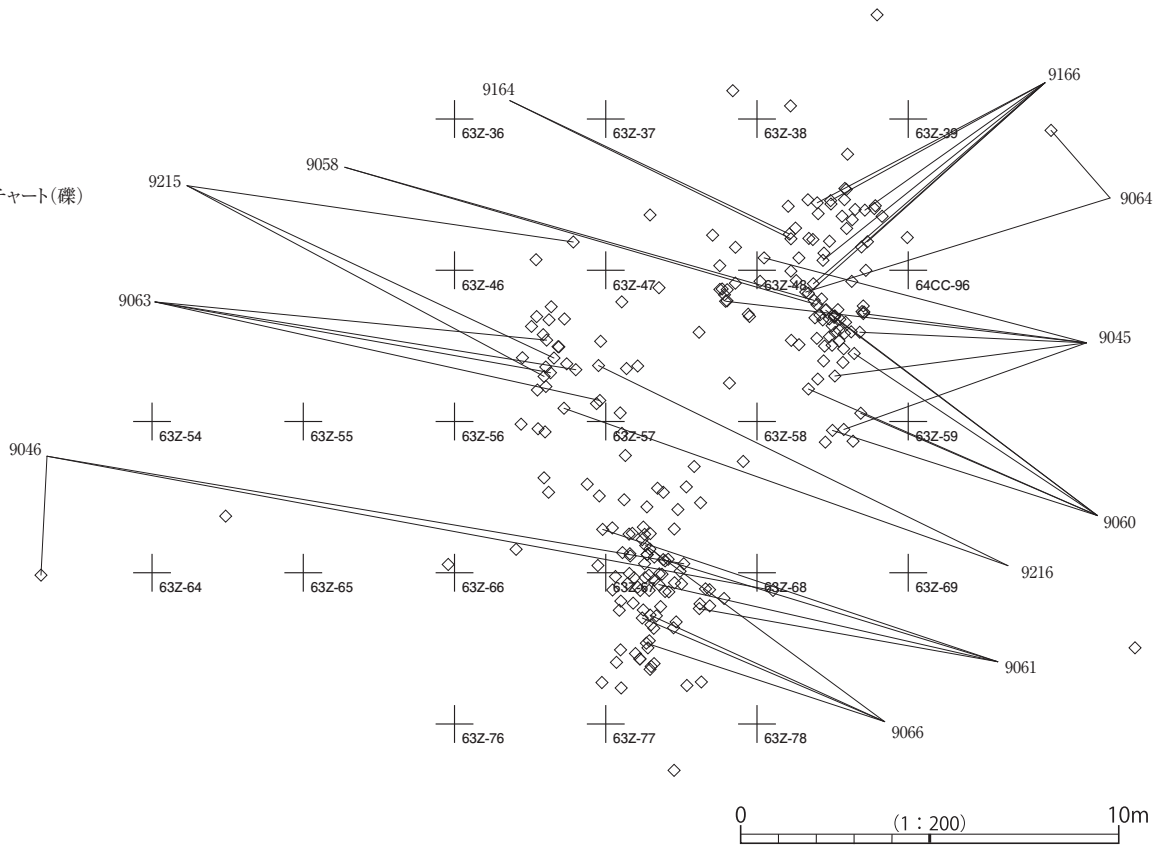
□ 砂岩(礫)



第133図 63Z-Bブロック出土遺物分布(10) - 礫石材別・砂岩 -



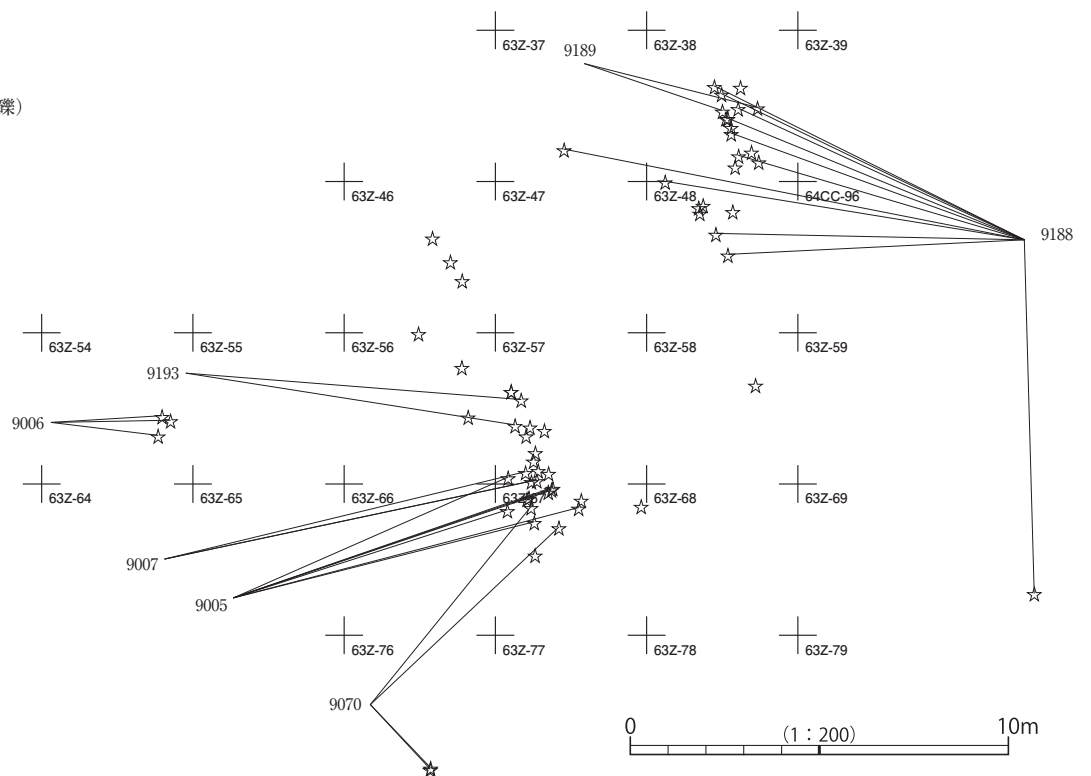
◇ チャート(礫)



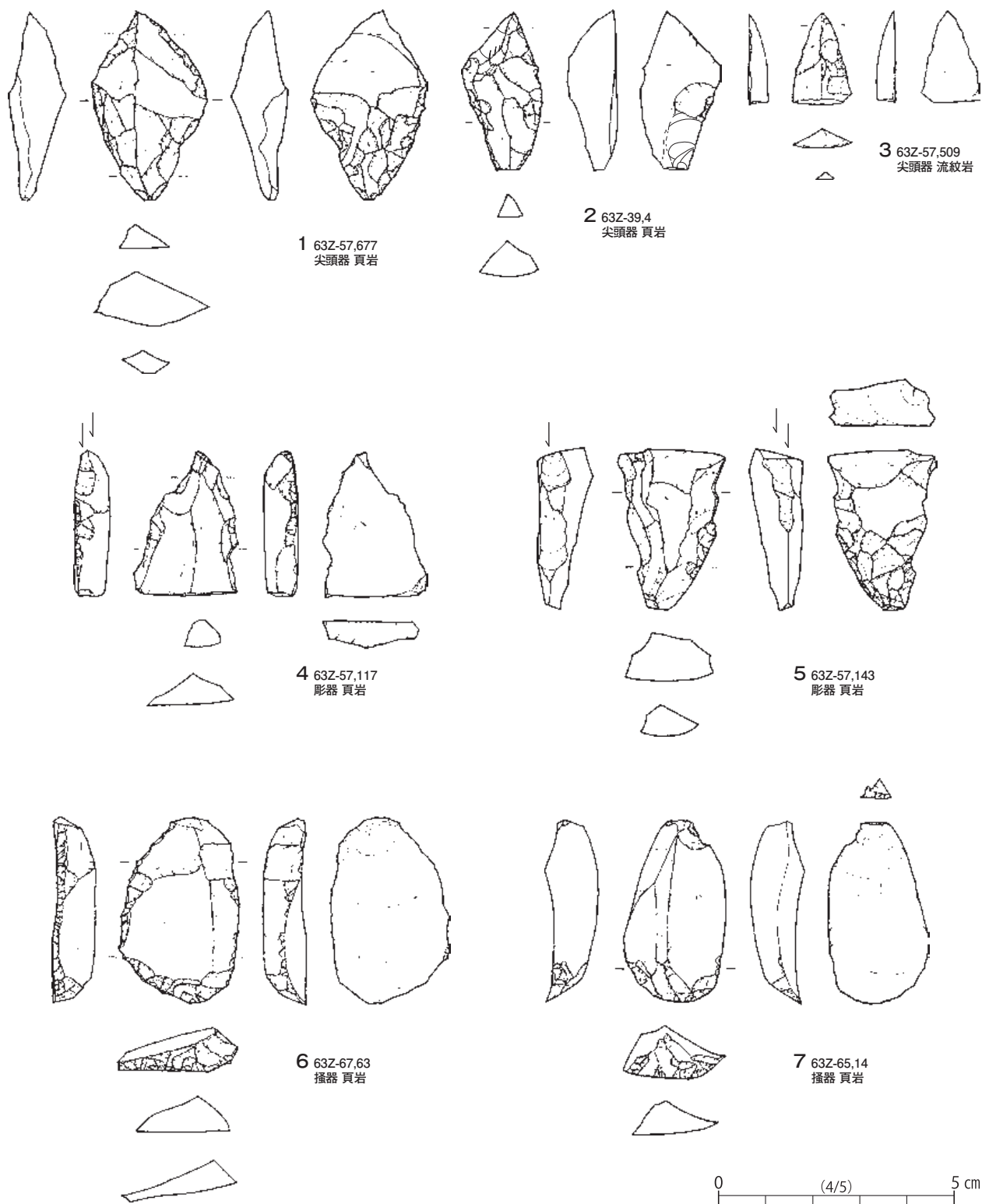
第134図 63Z-Bブロック出土遺物分布 (11) - 礫石材別・チャート -



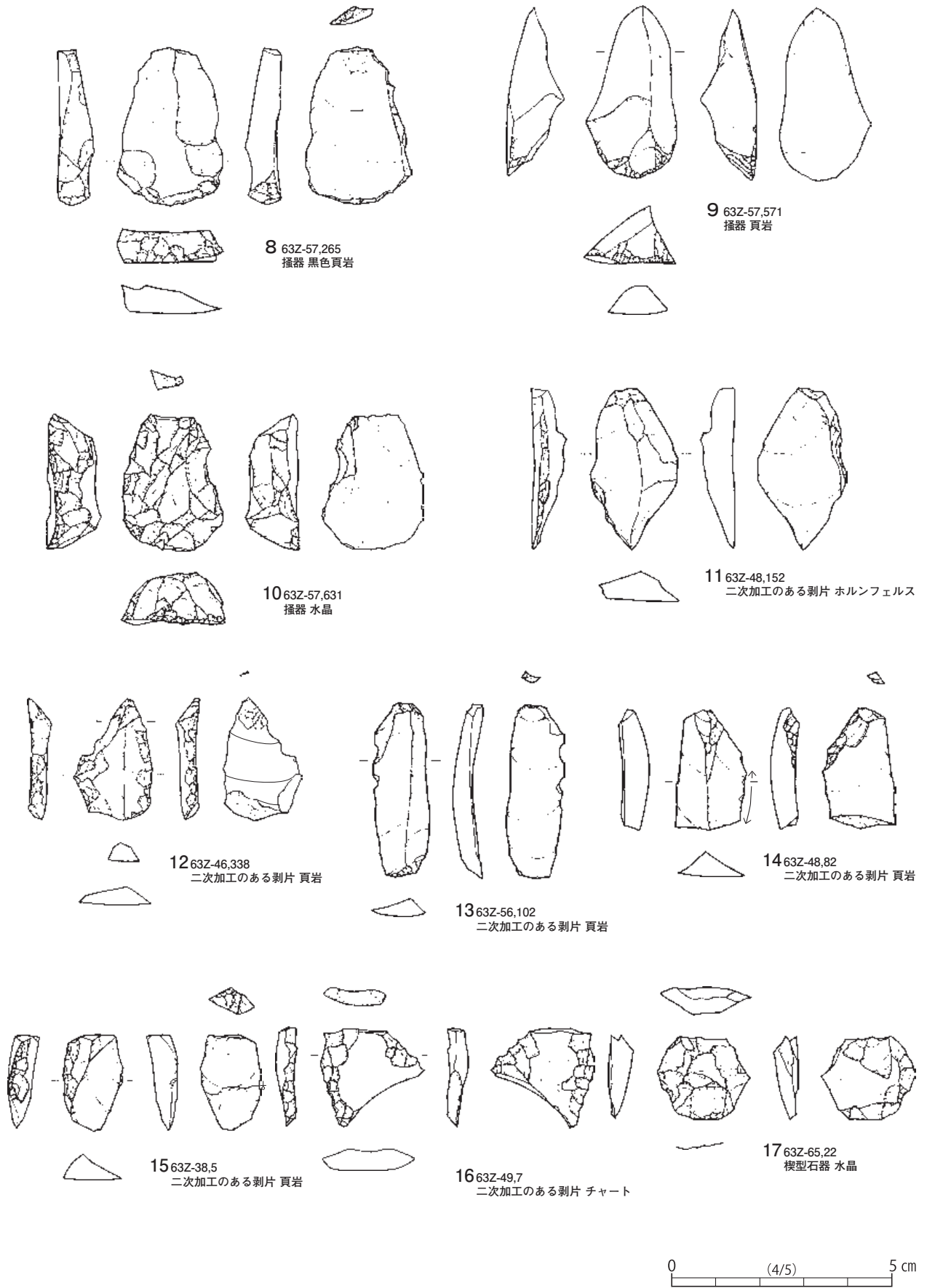
☆ ホルンフェルス(礫)



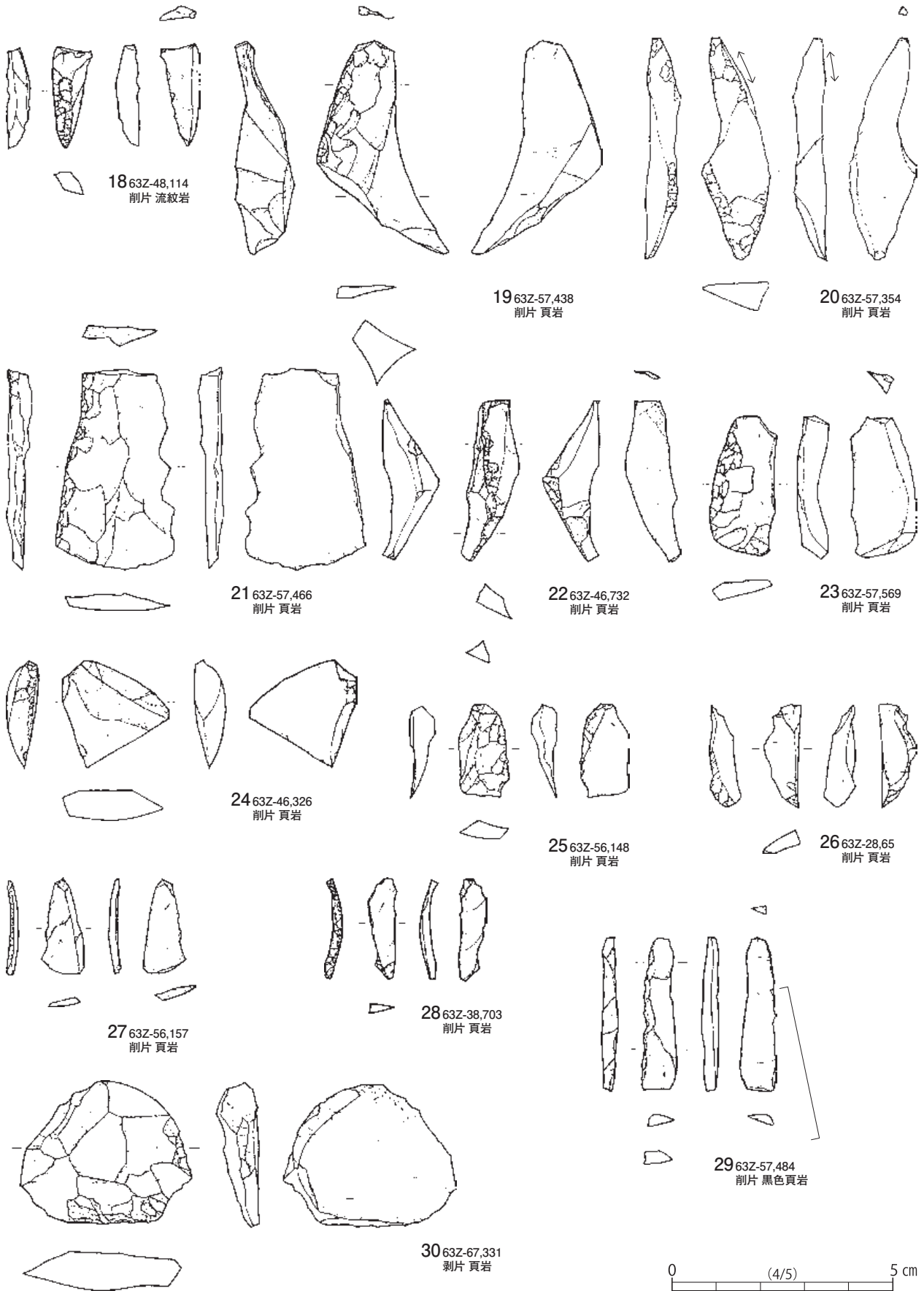
第135図 63Z-Bブロック出土遺物分布 (12) - 礫石材別・ホルンフェルス -



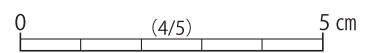
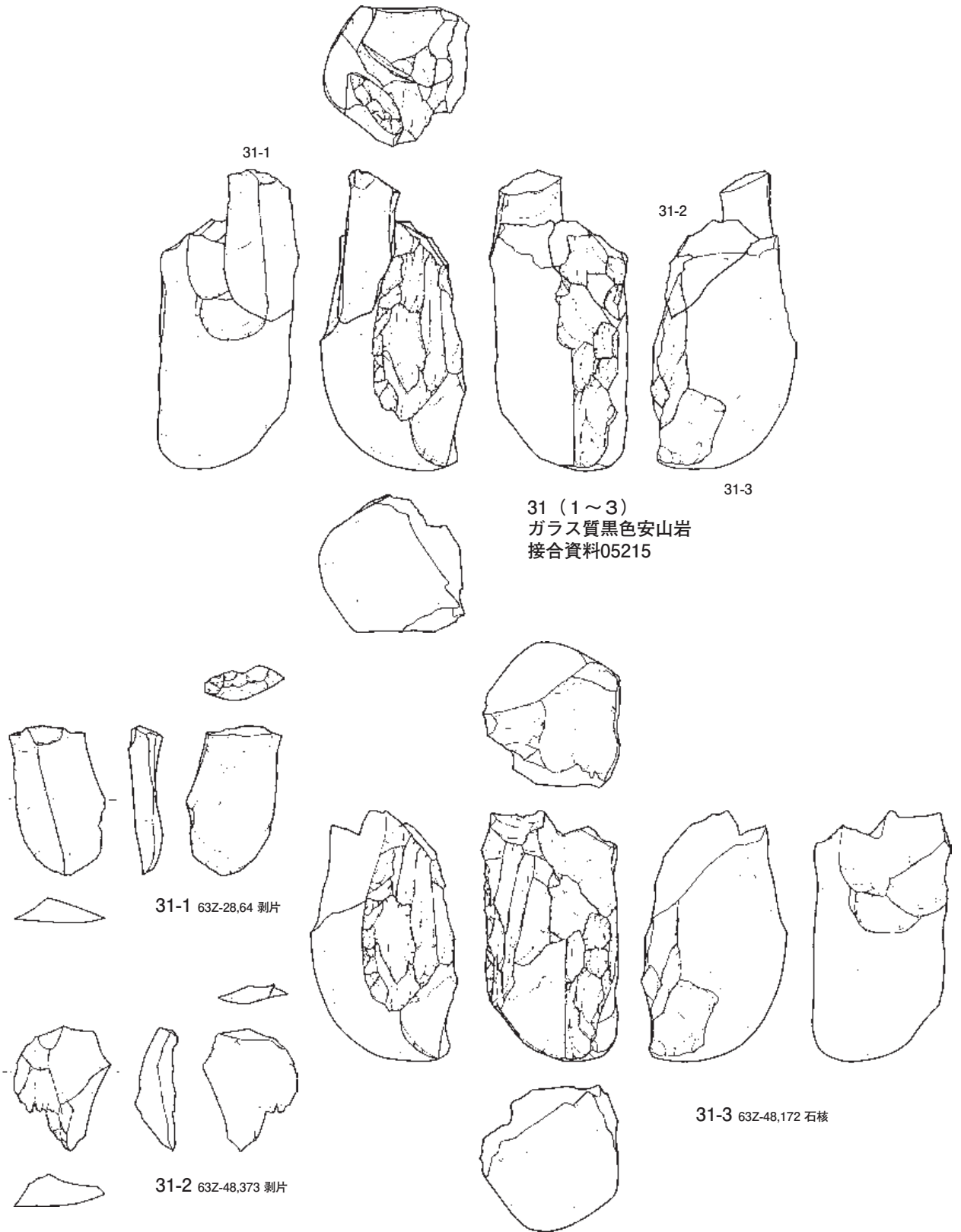
第136図 63Z-Bブロック出土遺物(1)



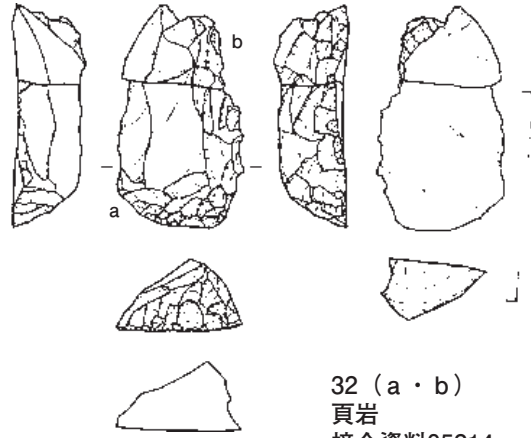
第137図 63Z-Bブロック出土遺物(2)



第138図 63Z-Bブロック出土遺物(3)

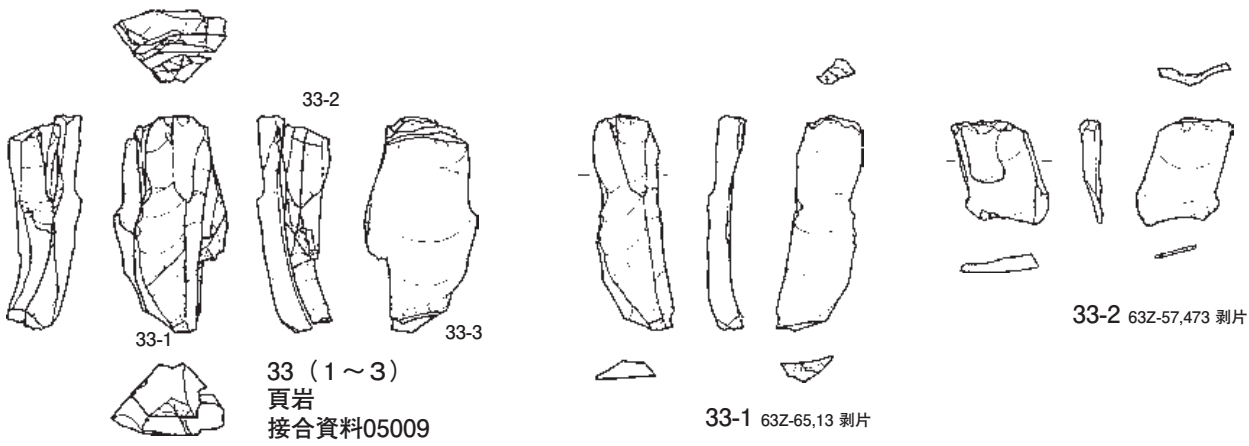


第139図 63Z-Bブロック出土遺物(4)



32 (a・b)
頁岩
接合資料05214

32a 63Z-67,399 搔器
32b 63Z-46, 36 搔器



33 (1~3)
頁岩
接合資料05009

33-1 63Z-65,13 剥片

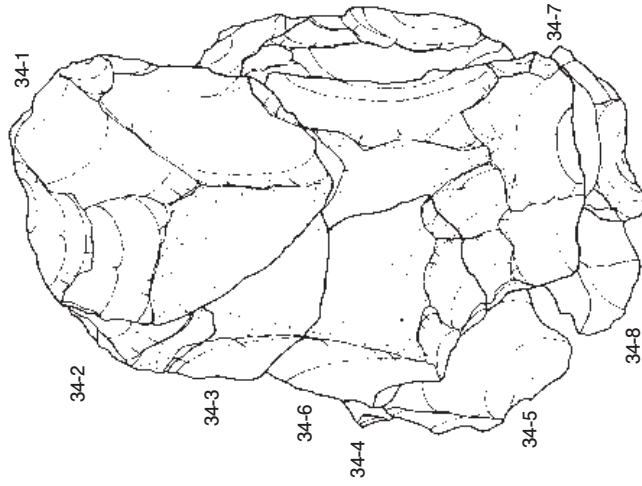
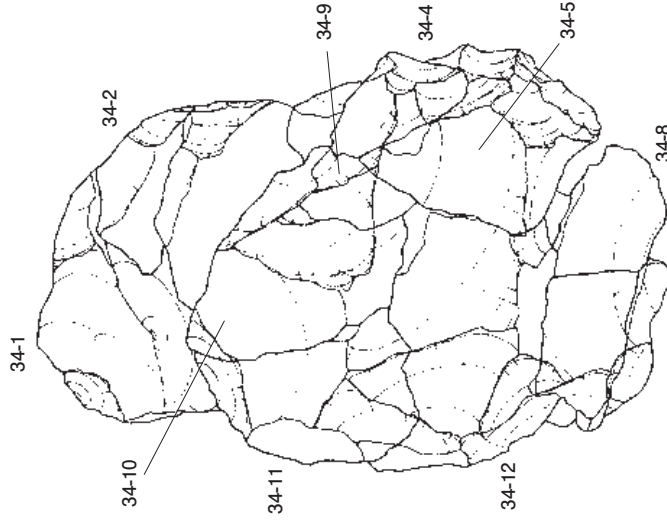
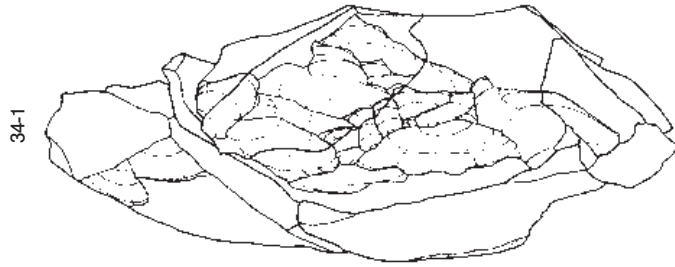
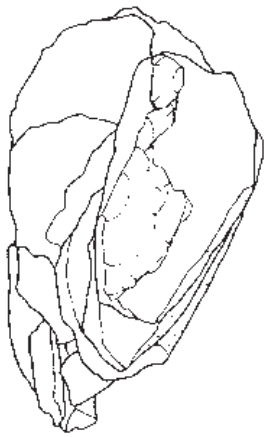
33-2 63Z-57,473 剥片



33-3 63Z-67,400 剥片

0 (4/5) 5 cm

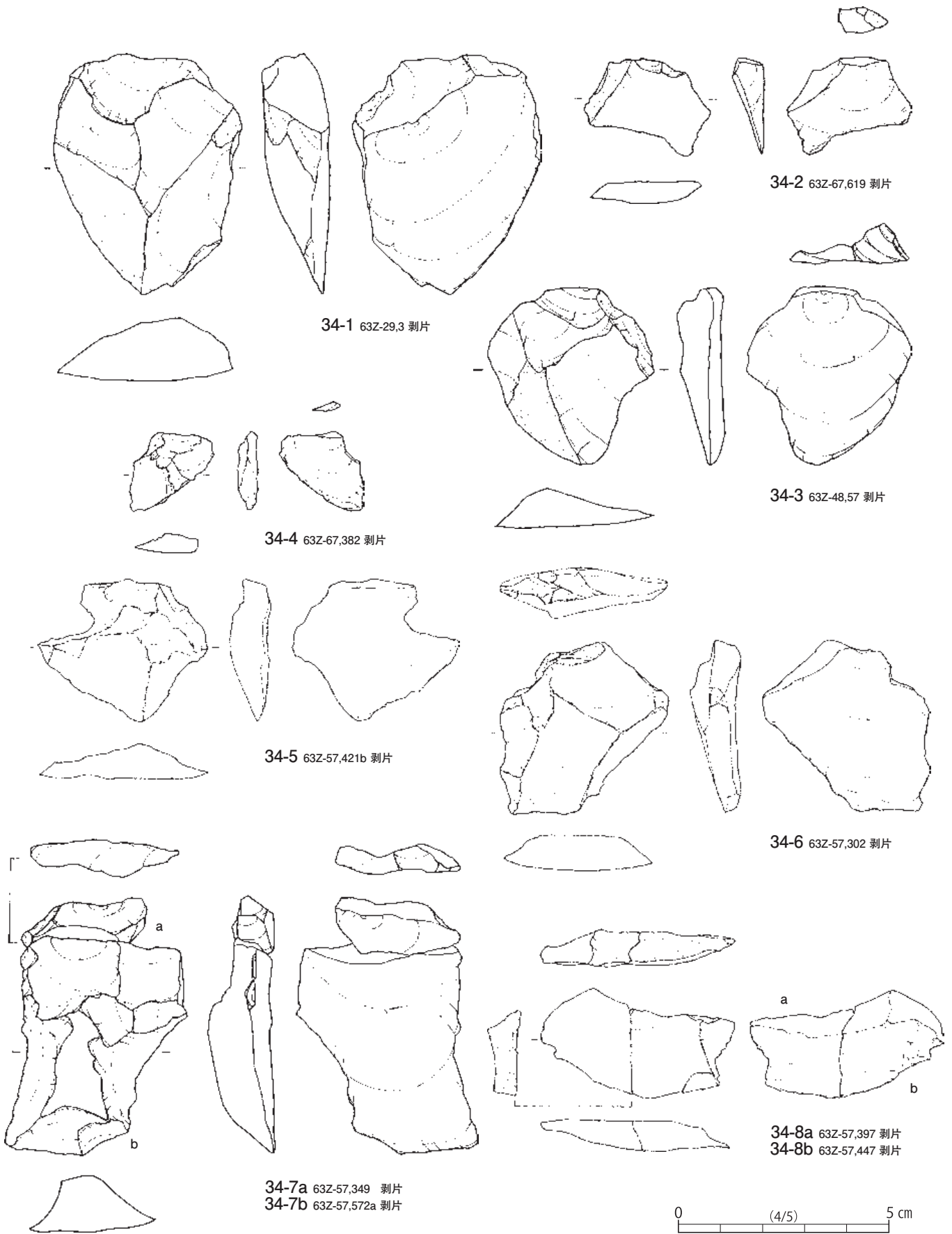
第140図 63Z-Bブロック出土遺物(5)



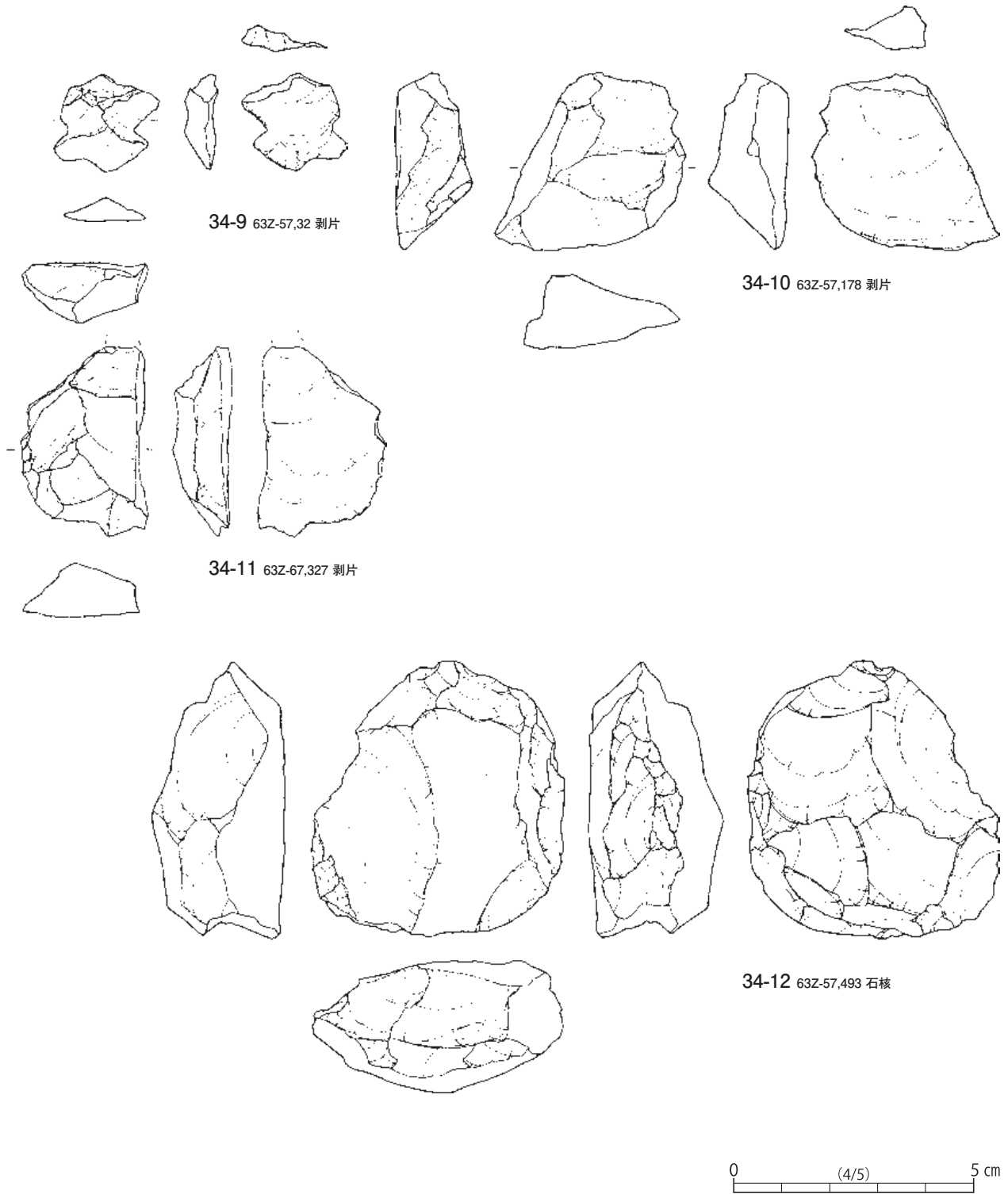
34 (1~12)
ホルンフェルス
接合資料05004

第141図 63Z-Bブロック出土遺物(6)



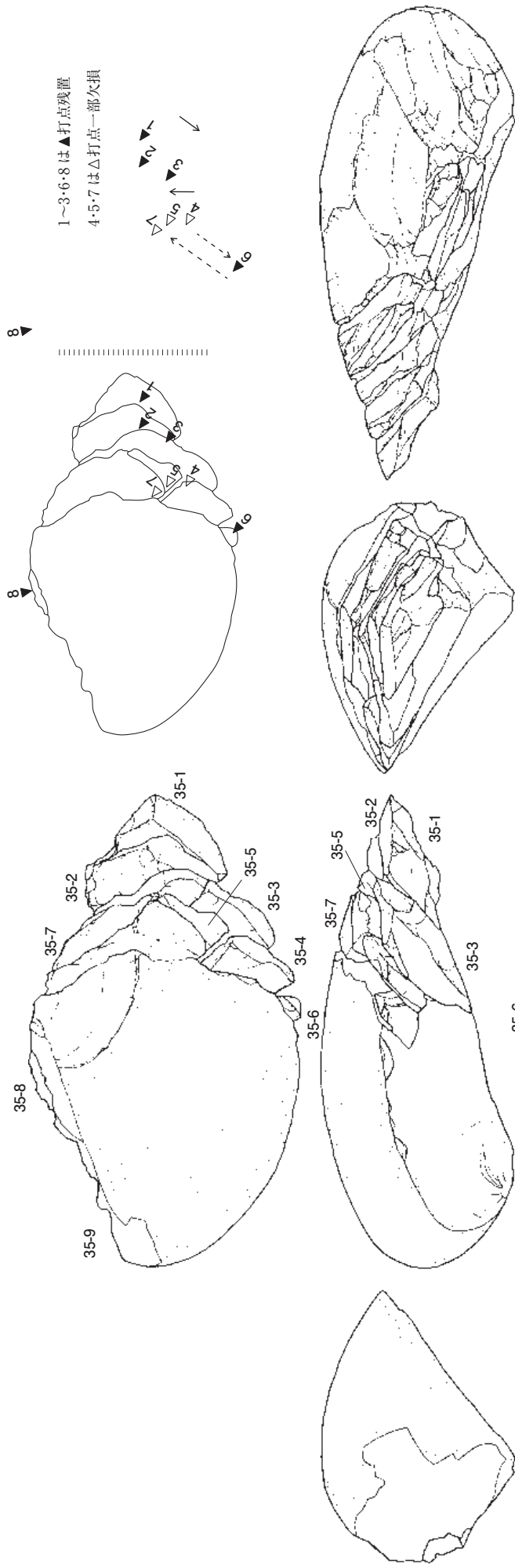


第142図 63Z-Bブロック出土遺物(7)



第143図 63Z-Bブロック出土遺物(8)

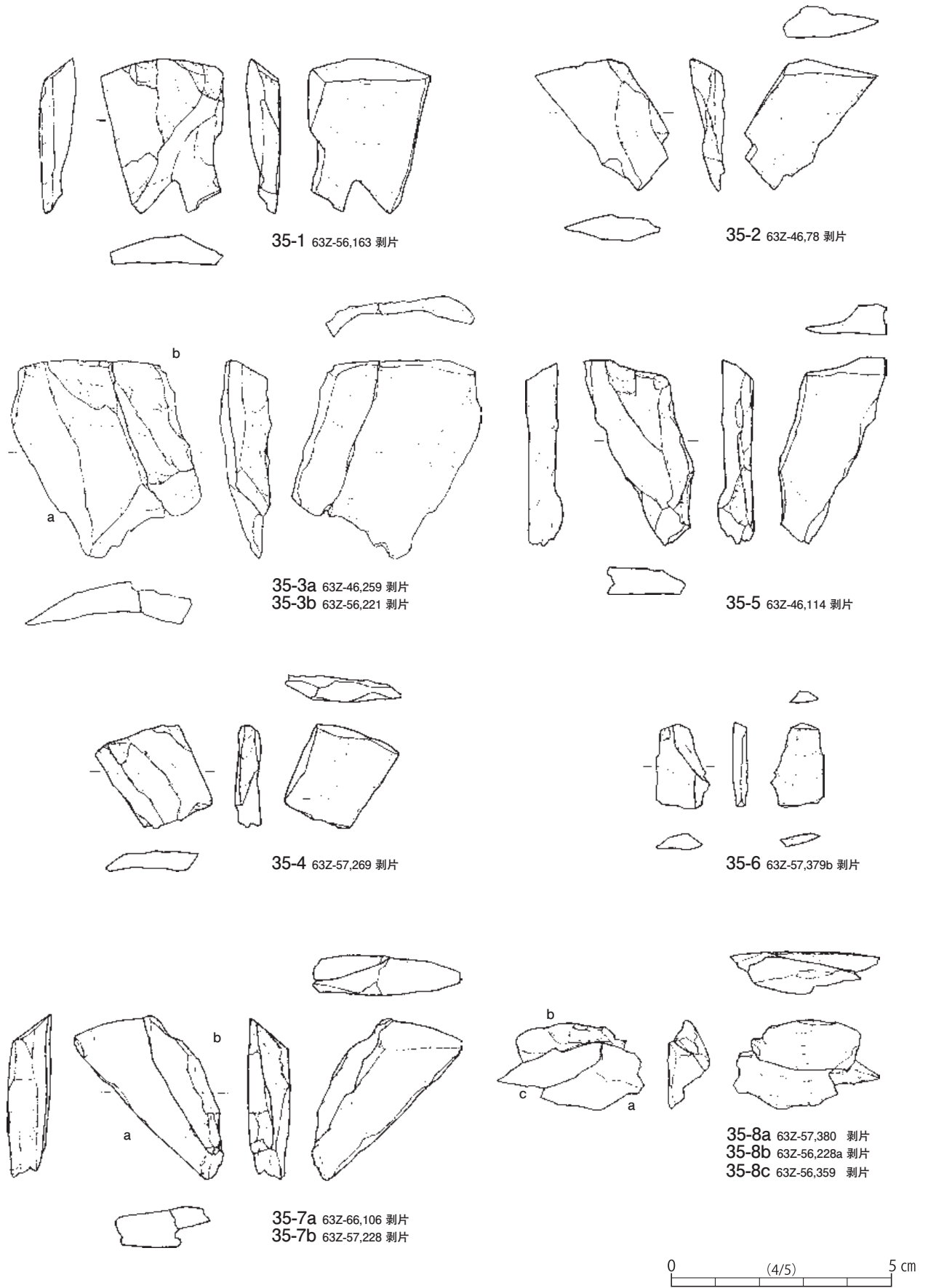
打点の移動



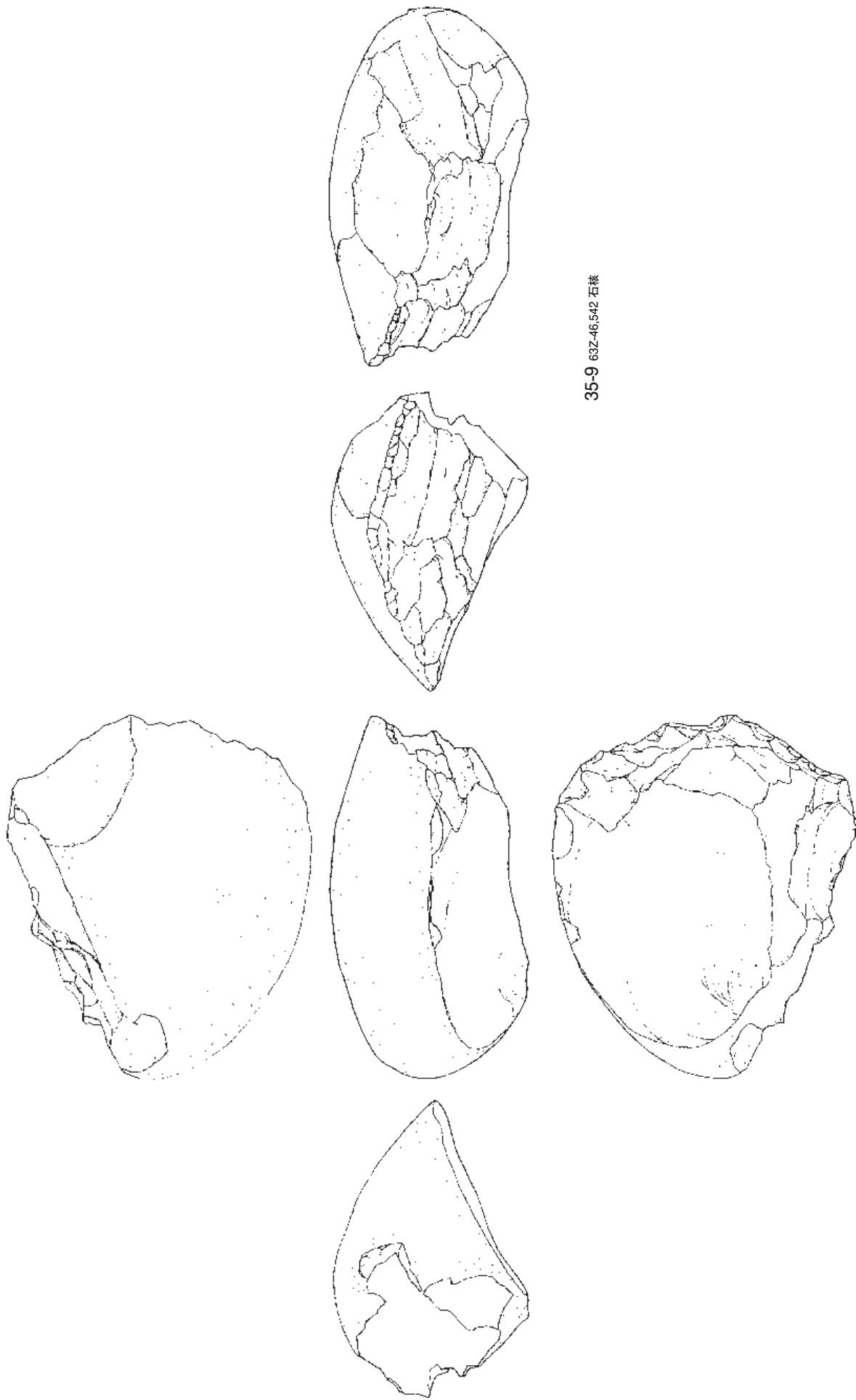
35 (1~9)
ホルンフェルス
接合資料05012



第144図 63Z-Bブロック出土遺物(9)



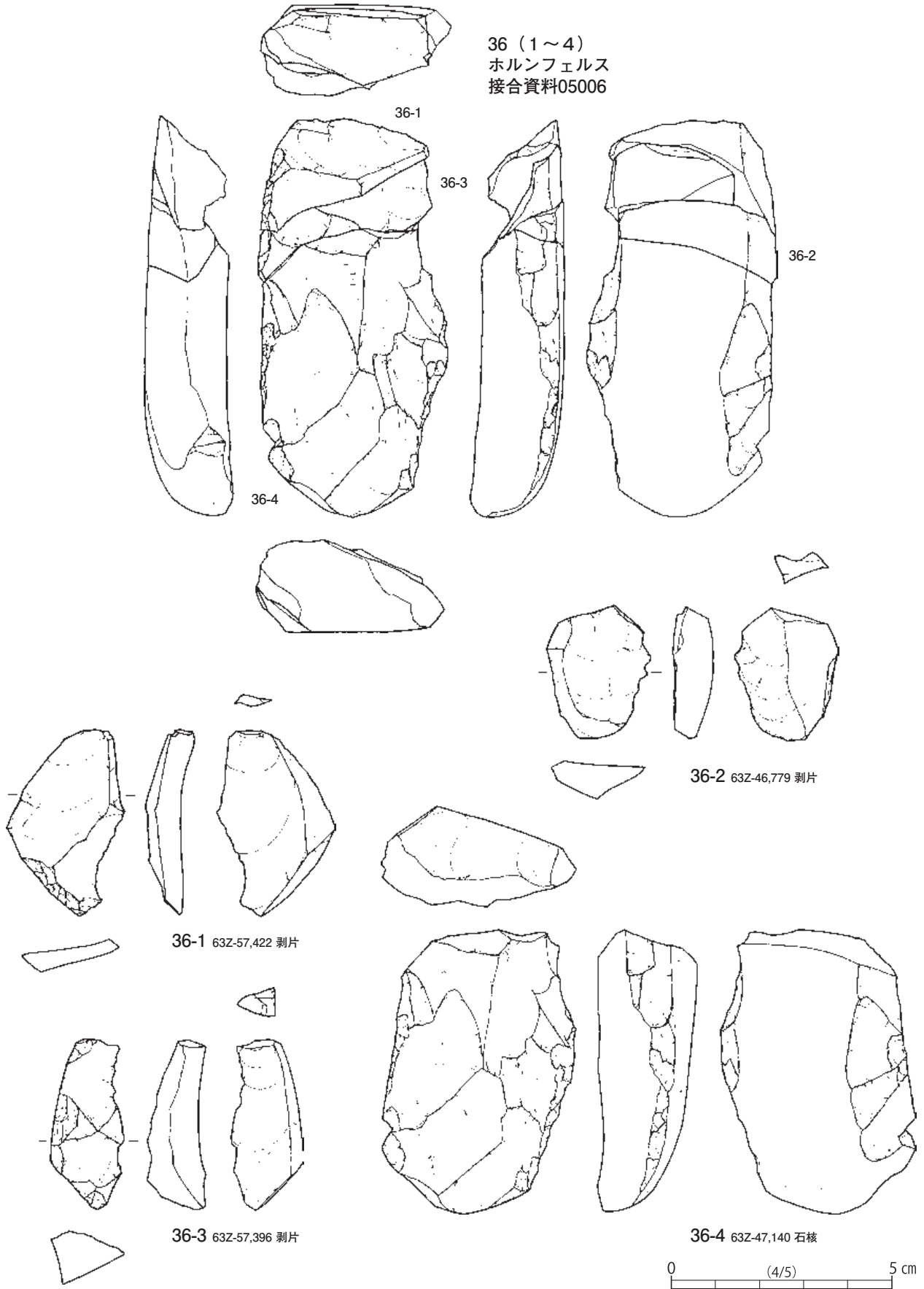
第145図 63Z-Bブロック出土遺物 (10)



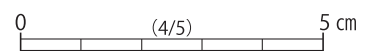
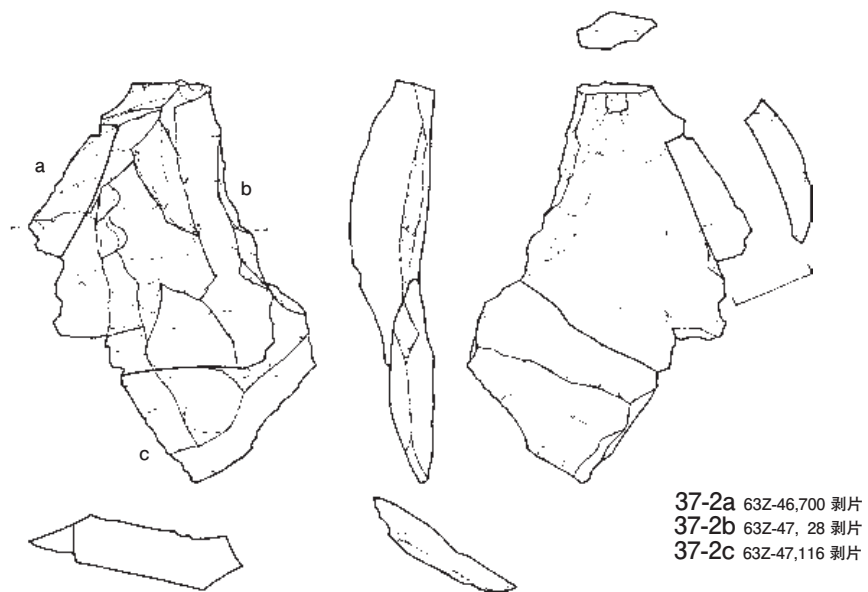
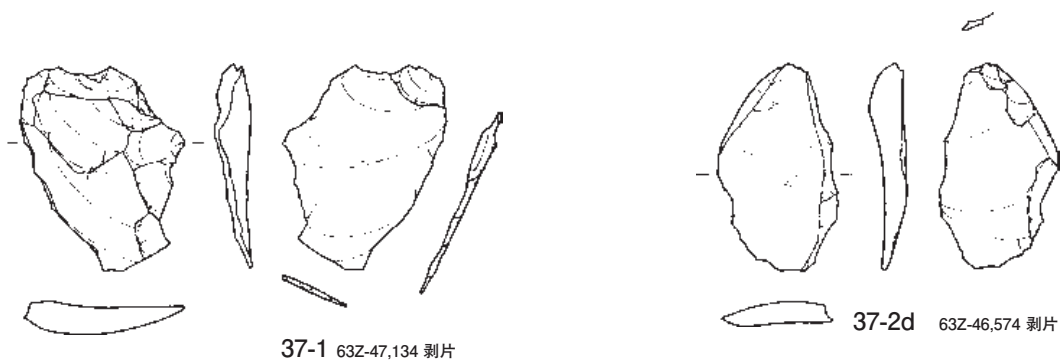
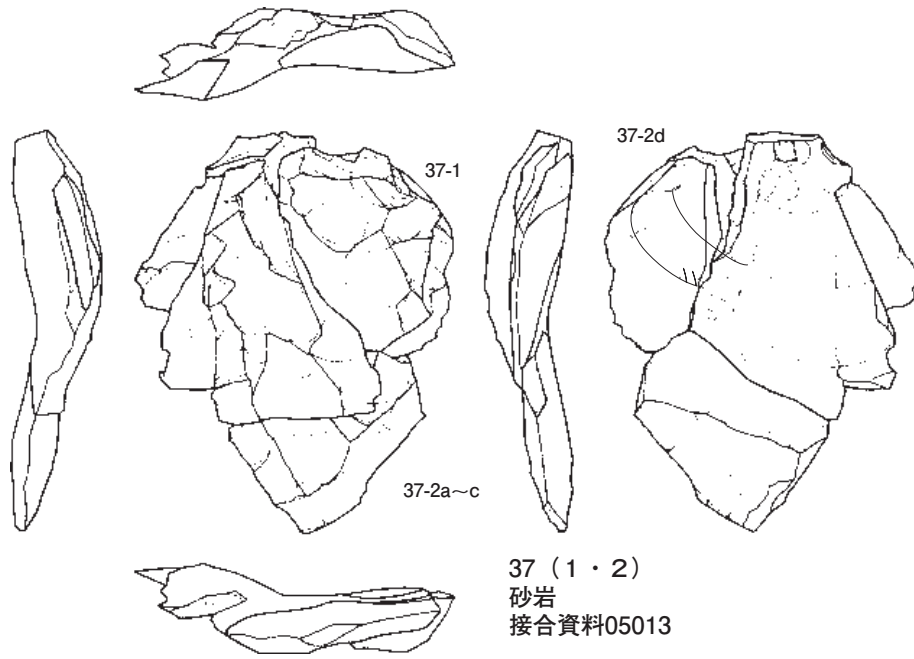
35-9 63Z-46.542 石核

第146図 63Z-Bブロック出土遺物 (11)

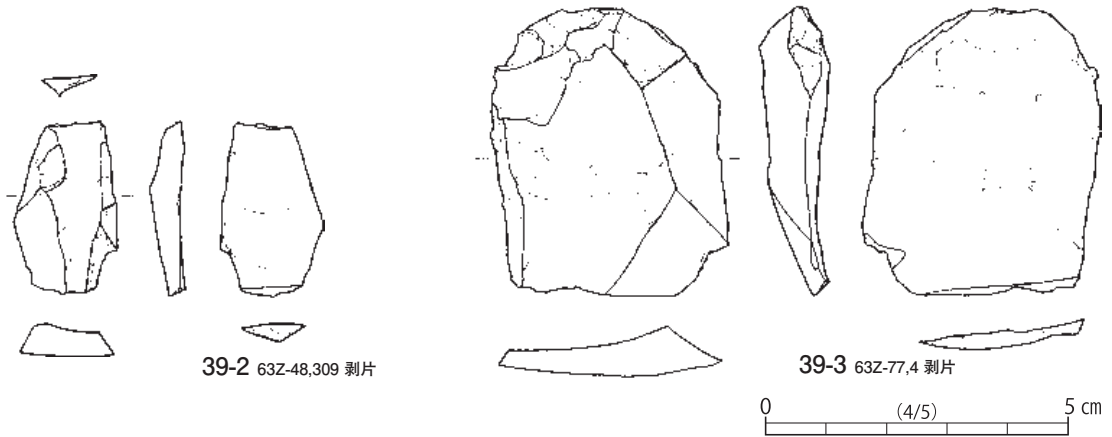
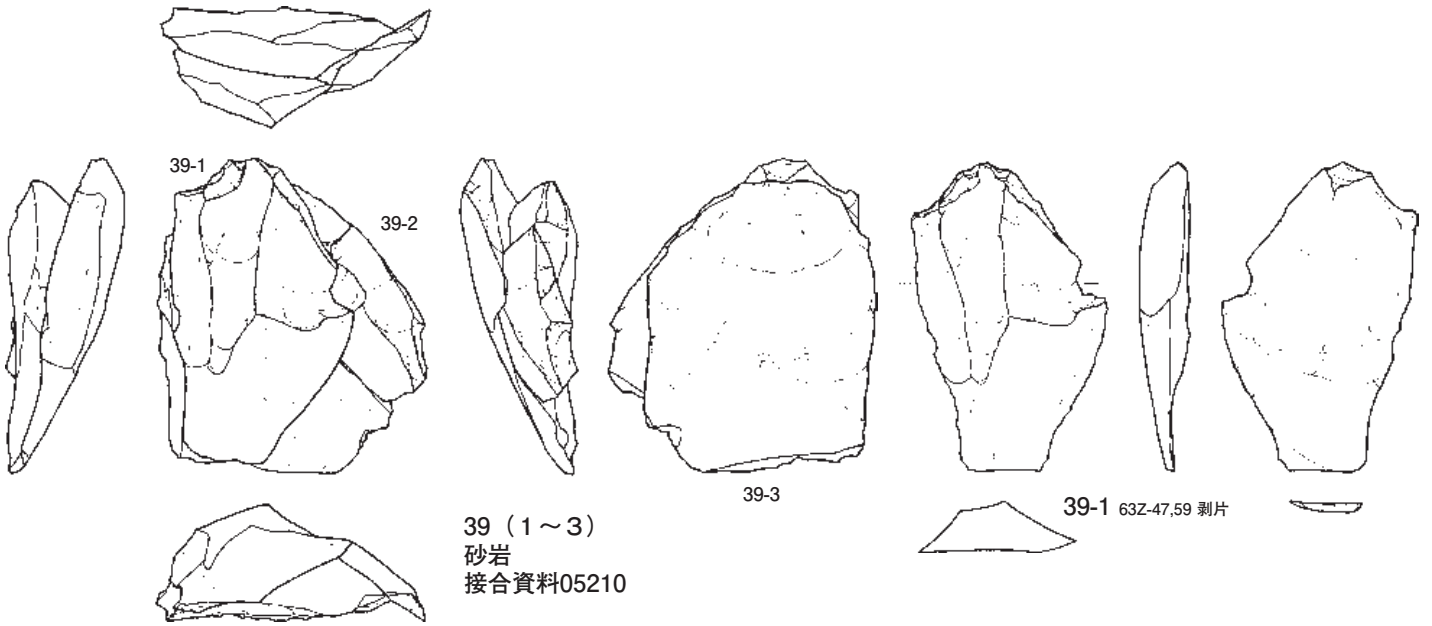
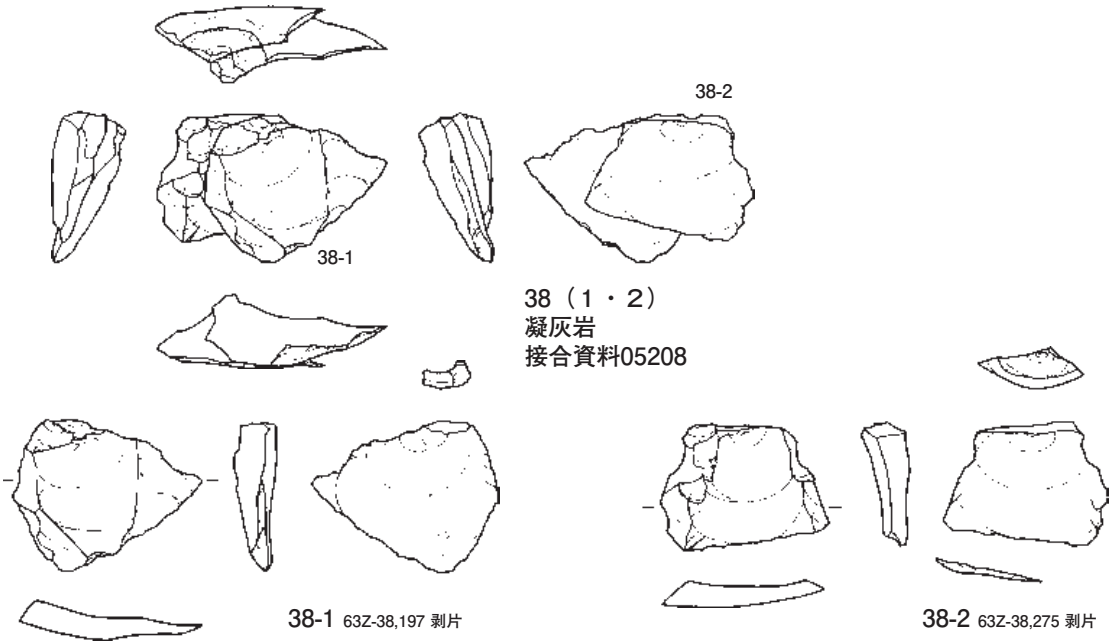
36 (1~4)
ホルンフェルス
接合資料05006



第147図 63Z-Bブロック出土遺物 (12)



第148図 63Z-Bブロック出土遺物 (13)



第149図 63Z-Bブロック出土遺物 (14)

6 第6文化層

第6文化層の石器群は、107点の石器と18点の礫が出土し、2か所の石器集中で構成される。Ⅲ層の石器群と推定される。西側地区の中央南側に分布する。旧石器時代終末期の石器群で尖頭器を特徴とする。

1 67Z-Cブロック（第150～151図、第42表、図版7・51）

西側地区の中央南側、67Z-95～97、68Z-06・07・15・16グリッドに分布する。8.1m×8.5mの範囲から9点の石器と2点の礫が出土した。出土層位はV層～IIc層である。0.30mの高低差をもってV層～III層を中心に包含される。

石器器種は、尖頭器・二次加工のある剥片・剥片と礫・礫片で構成される。主体は剥片であるが尖頭器や二次加工のある剥片など製品が顕著である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・チャート・頁岩・黒曜石・凝灰岩で各石材は均等である。礫石材は、ホルンフェルスである。

1は多少緑がかかった暗青灰色のチャートの尖頭器である。両面に器体中央に及ぶ平坦な調整加工を施した後、表面の右側縁と裏面の両側縁に細かい調整加工を施している。両者の新旧関係は裏面の方が新しい。先端部を欠損する。なお、表面左側縁の末端に近い一面について、周辺の剥離面と比べると光沢や表面の磨耗の状態が異なることから自然面と考えた。2は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石の尖頭器である。裏面の上部に素材の主要剥離面を残しており、横長剥片を横位に用いたと考えられる。表裏とも右側縁の細かい調整加工の方が新しい。また、裏面先端に折断面から末端が階段状の周縁の調整加工とは異なる剥離痕が見られるが、製作時あるいは使用時の衝撃に伴う可能性が高く、裏面左側縁最上部の微細な調整痕が折断面よりも古いことから欠損品と思われる。さらに、裏面末端に素材の折断面から浅い縦溝状の剥離痕が見られるが、衝撃剥離か調整加工か不明であるが、欠損と考えた。図版51-3は細粒の緑色の凝灰岩の二次加工のある剥片で、末端に自然面を残す不定形な縦長剥片を素材とし、右側に器体中央部に及ぶ急角度の調整を行っている。その加工のあり方から尖頭器の未成品の可能性もある。図版51-4～6は剥片である。石材は図版51-4が灰色のチャート、図版51-5（接合資料47001）はガラス質黒色安山岩で2点（1個体）の資料である。器体の右側も同時に剥離（落）したと思われる。図版51-6は暗緑灰色で珪化した頁岩で、図版51-4・5は縦長、図版51-6は不定形な剥片である。

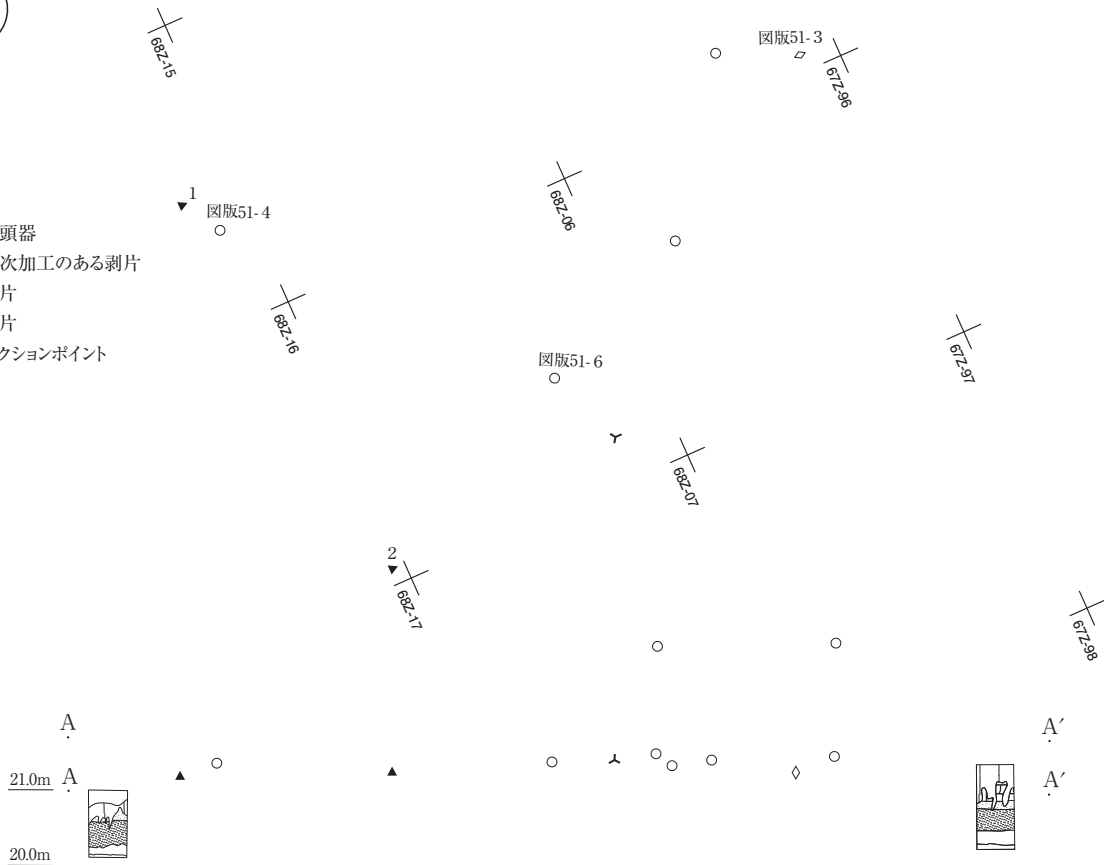
第42表 67Z-Cブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形棒石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA													2								2	18.2%	29.78	30.4%
CH	1												1								2	18.2%	20.78	21.2%
SH													2								2	18.2%	5.79	5.9%
OB	1												1								2	18.2%	2.1	2.1%
TU								1													1	9.1%	9.96	10.2%
HOR																				2	2	18.2%	29.55	30.2%
合計	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	2	11	100.0%	97.96	100.0%



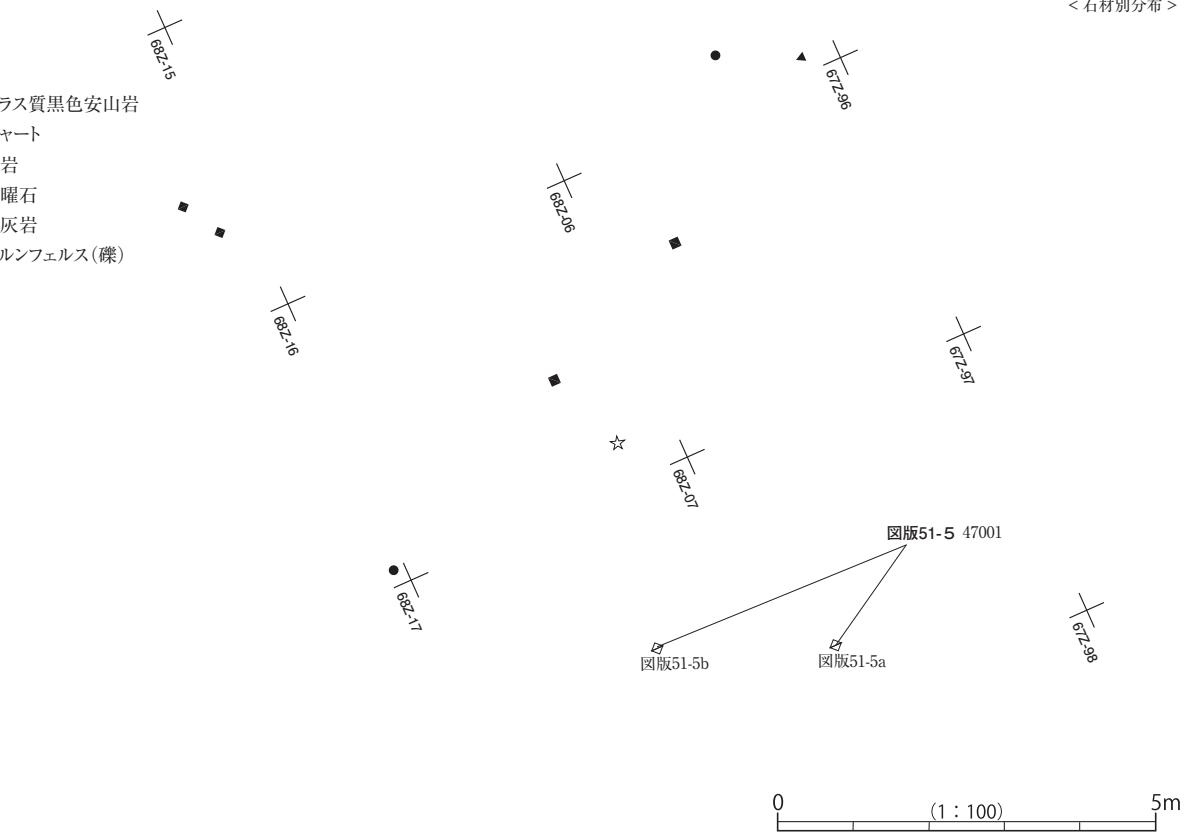
< 器種別分布 >

- ▲ 尖頭器
- ◇ 二次加工のある剥片
- 剥片
- 人 礫片
- ・ セクションポイント

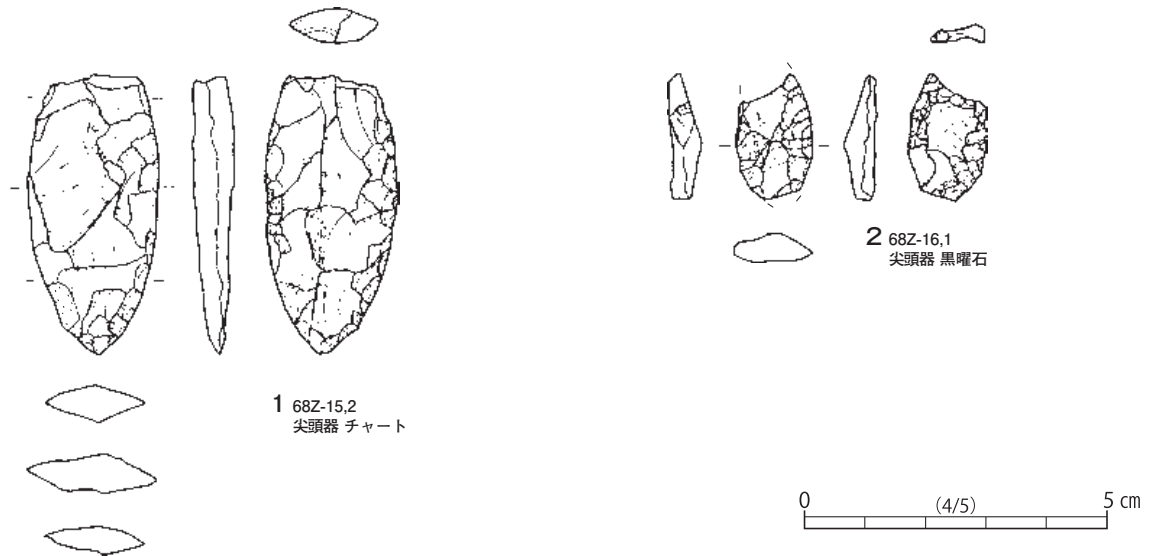


< 石材別分布 >

- ◇ ガラス質黒色安山岩
- ◆ チャート
- 頁岩
- 黒曜石
- ▼ 凝灰岩
- ☆ ホルンフェルス(礫)



第150図 67Z-Cブロック出土遺物分布 - 器種別・石材別 -



第151図 67Z-Cブロック出土遺物

2 67BB- Dブロック (第152～154図、第43表、図版7・51)

西側地区の中央南側、67BB-99、67CC-82・90～92、68CC-00～02・11グリッドに分布する。13.2 m × 13.5 mの範囲から98点の石器と1点の礫が出土した。出土層位はⅢ下層～Ⅱc層である。0.39 mの高低差をもってⅢ層を中心に包含される。

石器器種は、尖頭器・剥片・碎片と礫・礫片で構成される。特に碎片を主体としており、67Z-Cブロックとは対照的である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・ホルンフェルス・黒色頁岩・黒曜石で構成され黒曜石が主体である。礫石材は、流紋岩・砂岩で構成され流紋岩が主体である。

1 (接合資料41013)は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を含む透明感のある黒色の黒曜石の尖頭器2点(1個体)の接合資料である。表面先端部と裏面器体中央の欠損面には衝撃剥離によく見られる発生部が折り曲げで縦溝状剥離を複合する剥離痕が見られ、また末端の両面にも欠損時の衝撃に伴うと考えられる剥離痕が見られる。なお、両面の縦長の剥離痕は調整加工の可能性もあるが、欠損時の剥離痕と考えた。2 (接合資料41012)は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を多く含む黒色の黒曜石の剥片4点(1個体)の接合資料である。不純物を大量に含むことから剥離時に複数の個体に欠損(分割)したものと考えられる。図版51-3～7は剥片である。石材は図版51-3・4が黒色頁岩、図版51-5が泥岩質のホルンフェルス、図版51-6・7は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を含む黒色の黒曜石で、図版51-3は石刃あるいは石刃状の縦長剥片、図版51-4～7は不定形な剥片である。

第43表 67BB-Dブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形棒石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
GA													2	1							3	2.6%	1.61	0.2%
HO													1								1	0.9%	4.39	0.5%
BS													2								2	1.8%	15.56	1.6%
OB	2												28	62							92	80.7%	104.52	10.9%
RHR																				15	15	13.2%	819.22	85.6%
SAR																				1	1	0.9%	11.98	1.3%
合計	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	63	0	0	0	0	0	16	114	100.0%	957.28	100.0%



- ▲ 尖頭器
- 剥片
- 碎片
- ◇ 礫
- 人 礫片

67CC-80

67CC-81

67CC-82

67CC-90

67CC-91

67CC-92

68BB-09

68CC-00

68CC-01

68CC-02

68BB-19

68CC-10

68CC-11

68CC-12

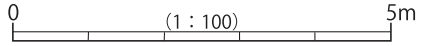
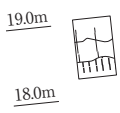
図版51-5

図版51-7

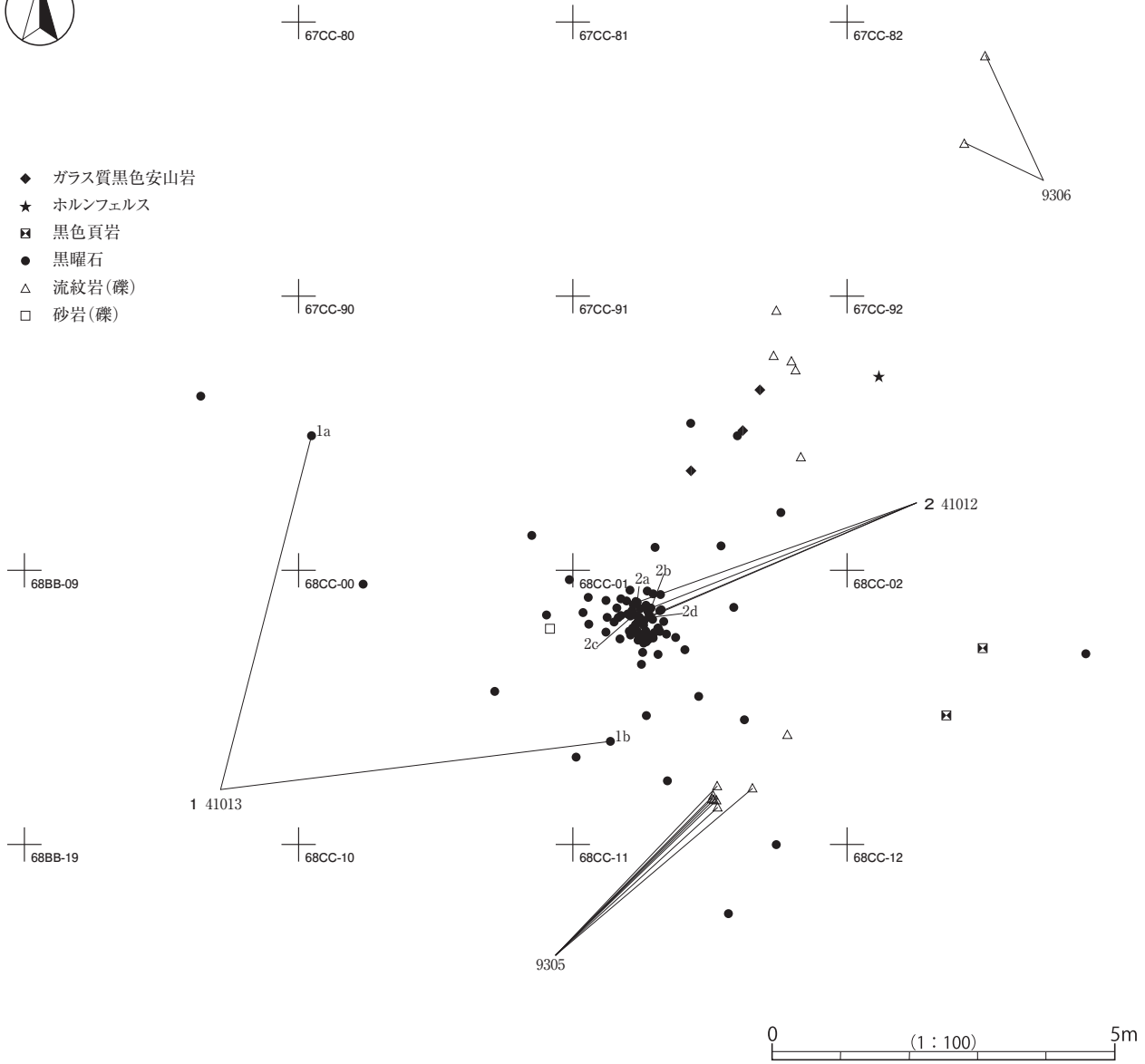
図版51-4

図版51-3

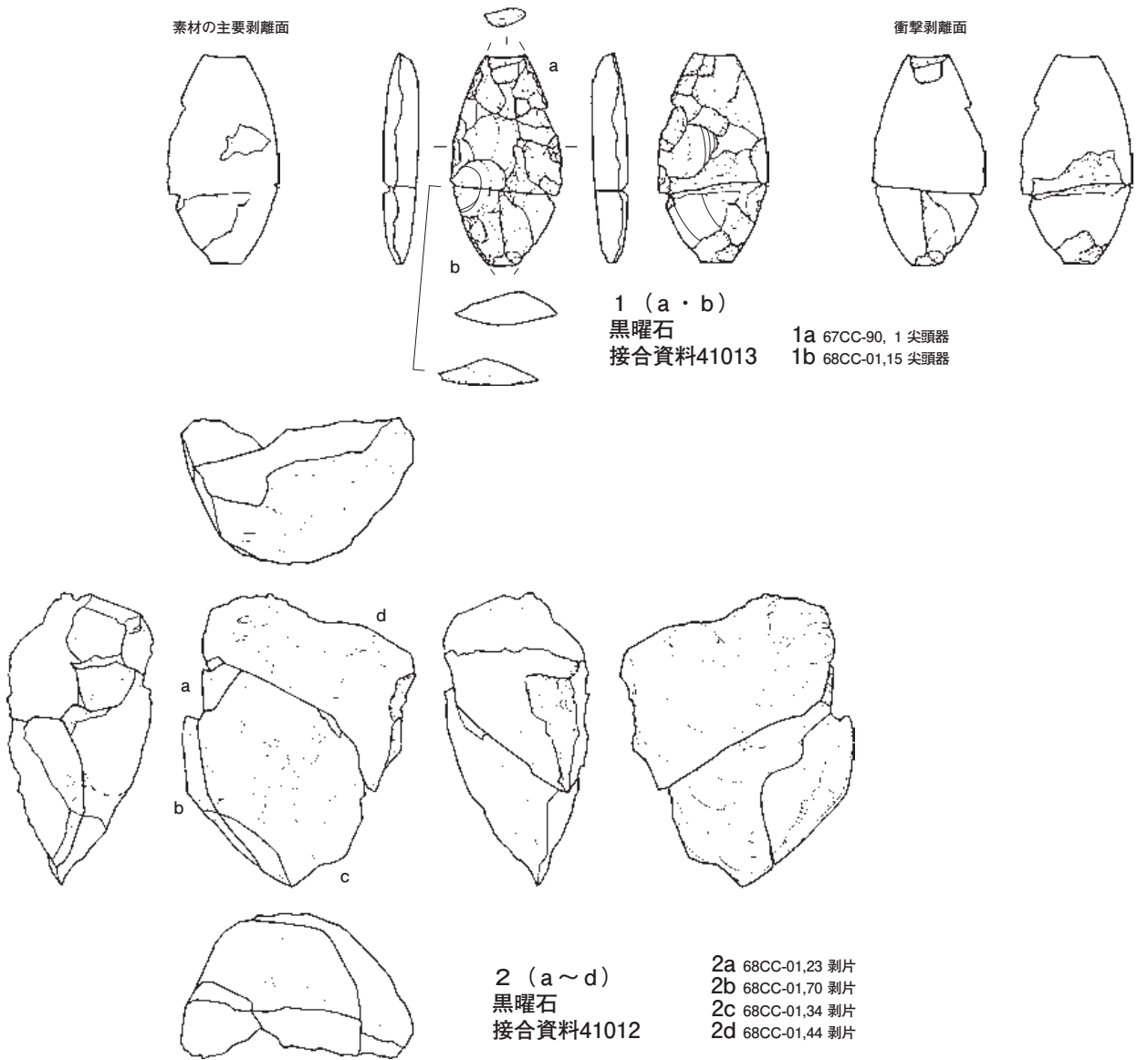
図版51-6



第152図 67BB-Dブロック出土遺物分布(1) - 器種別 -



第153図 67BB-Dブロック出土遺物分布(2) - 石材別 -



第154図 67BB-Dブロック出土遺物

7 時期不明

ここでは、定型的な石器や出土層位が不明など帰属文化層の判断が出来なかった石器を取り扱うこととする。ブロックを形成するものが6か所、単独ブロックが11か所である。

1 67HH-A ブロック (第155～158図、第44表、図版7・52)

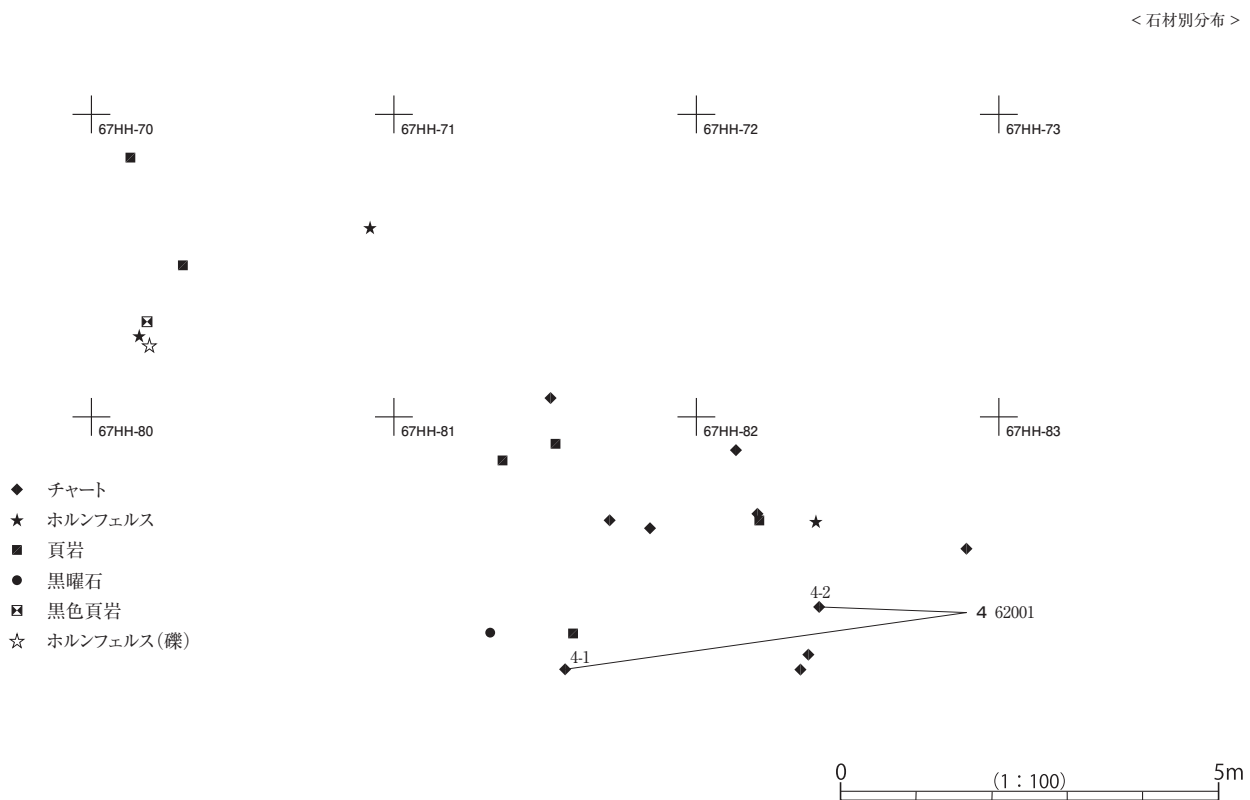
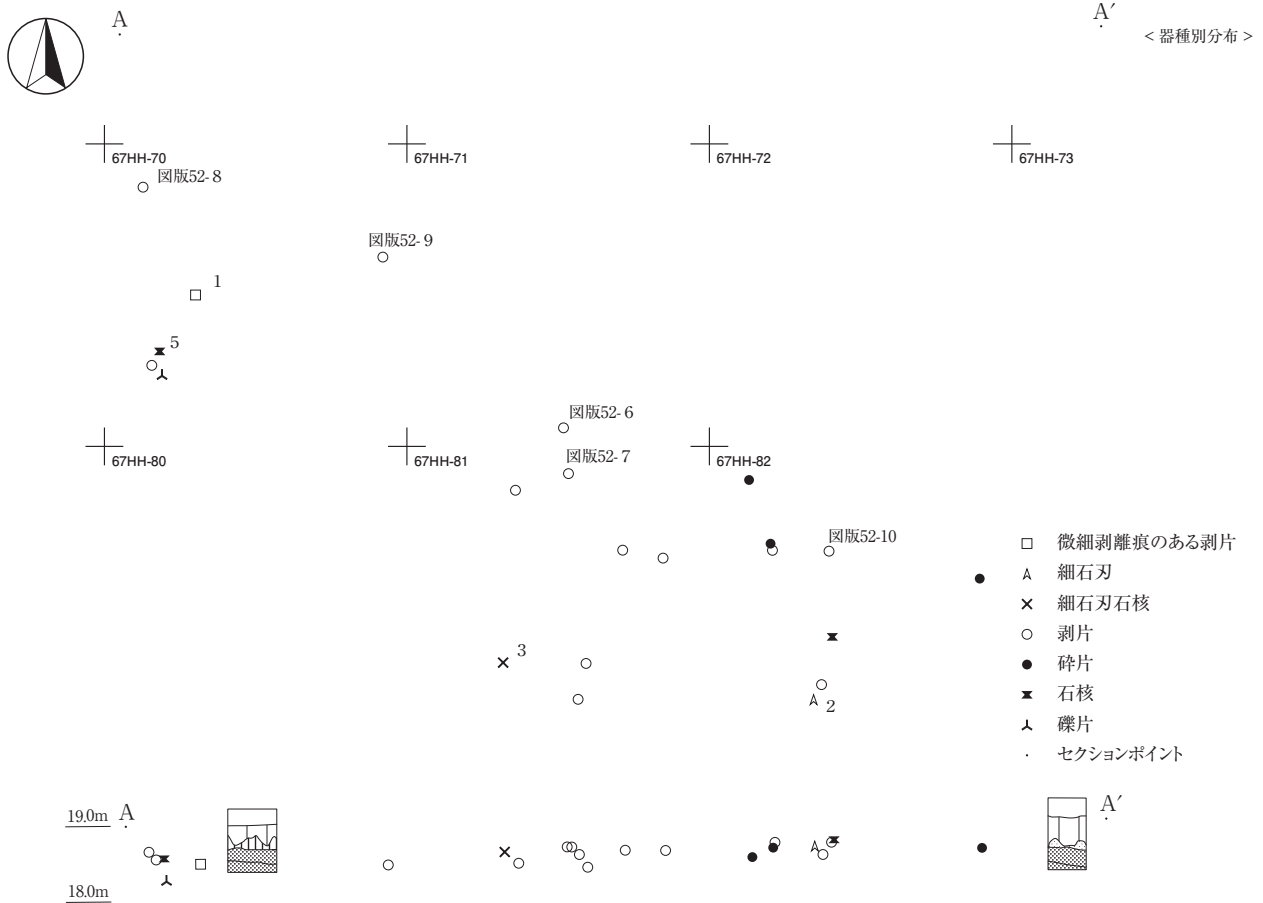
西側地区の東側、67HH-70・71、81・82グリッドに分布する。12.3 m × 3.8 m の範囲から21点の石器と1点の礫が出土した。0.45m の高低差をもって包含される。

石器器種は、微細剥離痕のある剥片・細石刃・細石核・剥片・碎片・石核と礫片で構成される。石器石材は、チャート・ホルンフェルス・頁岩・黒色頁岩・黒曜石で構成され、チャートと頁岩が主体である。礫石材は、ホルンフェルスである。

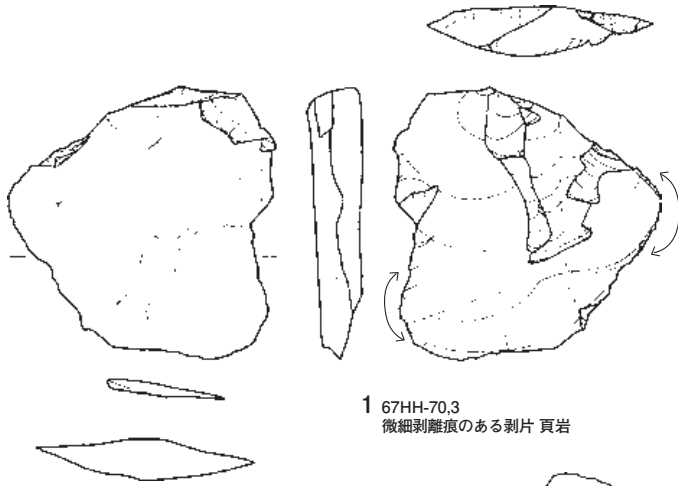
1は灰白色の珪化度のある頁岩の微細剥離痕のある剥片である。裏面の両側縁の一部に微細な剥離痕が見られるが、偶発的な剥離の可能性が高い。2は暗青灰色・オリーブ灰色のチャートの細石刃としたが、別な器種の可能性もある。3は灰白色の不純物を含む暗緑灰色の黒曜石で、右側面に複数の細長い剥離痕が見られることから船底型の細石刃石核としたが、この資料も2同様、別器種の可能性がある。4(接合資料62001)はオリーブ灰色の地にオリーブ黒色のモヤや線が入るチャートの石核1点・剥片1点の接合資料である。正面図の右半分には素材の主要剥離面を残していることから、比較的厚めの剥片を素材として、打面を90度転回しながら不定形な縦長剥片を剥離している。5は黒色頁岩の石核で、裏面側が全て自然面の比較的厚めの剥片を素材としている。素材の平坦な主要剥離面を打面とし、素材の打面側を作業面として小型で不定形な剥片を剥離している。図版52-6～8は剥片である。石材は図版52-6が緑黒色のチャート、図版52-7・8は珪化度のある頁岩で、色調は図版52-7がオリーブ灰色、図版52-6が灰白色である。図版52-7・8は浅黄橙色のホルンフェルスとしたが、黒色頁岩の可能性もある。図版52-6は横長、図版52-7・10は不定形で図版52-7は左側面を欠損する。図版52-8・9は不定形な縦長剥片である。図版52-8は稜上調整が見られることから、稜付石刃の可能性もある。

第44表 67HH-Aブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	碎片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計		重量合計 (g)	
																					点数	割合	重量	割合
CH											1		5	3	1						10	45.5%	65.45	19.4%
HO													3								3	13.6%	38.1	11.3%
SH									1				5								6	27.3%	100.12	29.6%
BS															1						1	4.5%	106.57	31.5%
OB												1									1	4.5%	25.04	7.4%
HOR																				1	1	4.5%	2.7	0.8%
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	13	3	2	0	0	0	0	1	22	100.0%	337.98	100.0%



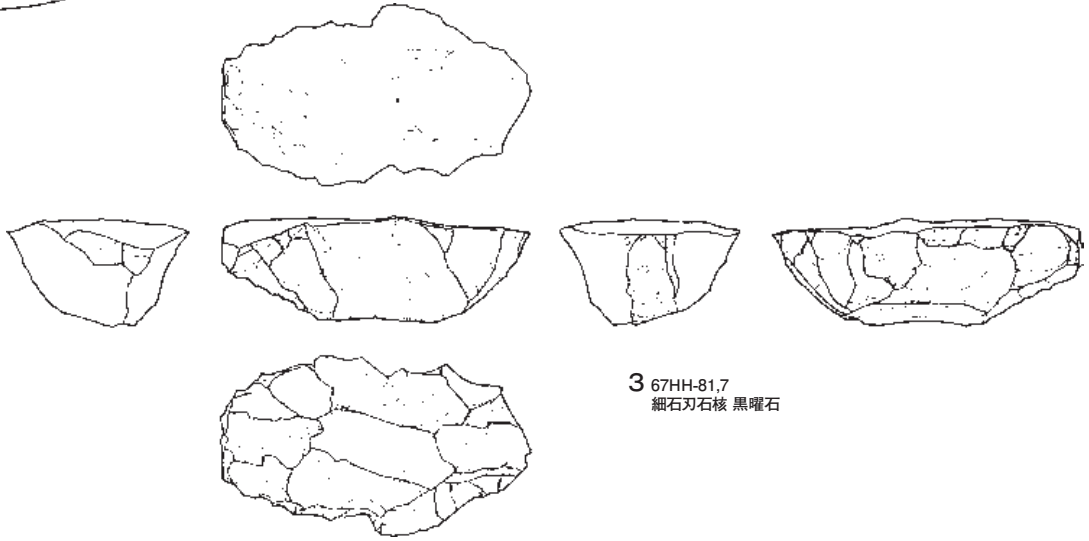
第155図 67HH-Aブロック出土遺物分布-器種別・石材別-



1 67HH-70.3
微細剥離痕のある剥片 頁岩



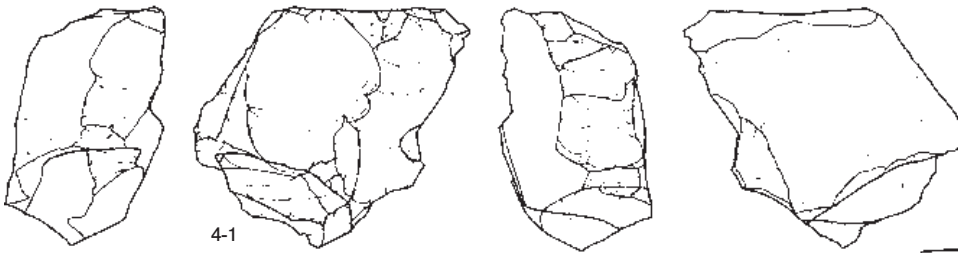
2 67HH-82.7
細石刃 チャート



3 67HH-81.7
細石刃石核 黒曜石

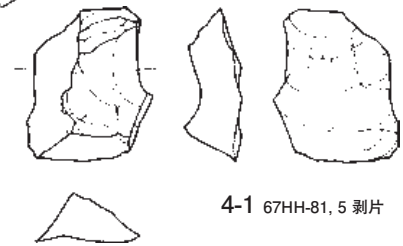


4-2

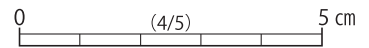


4-1

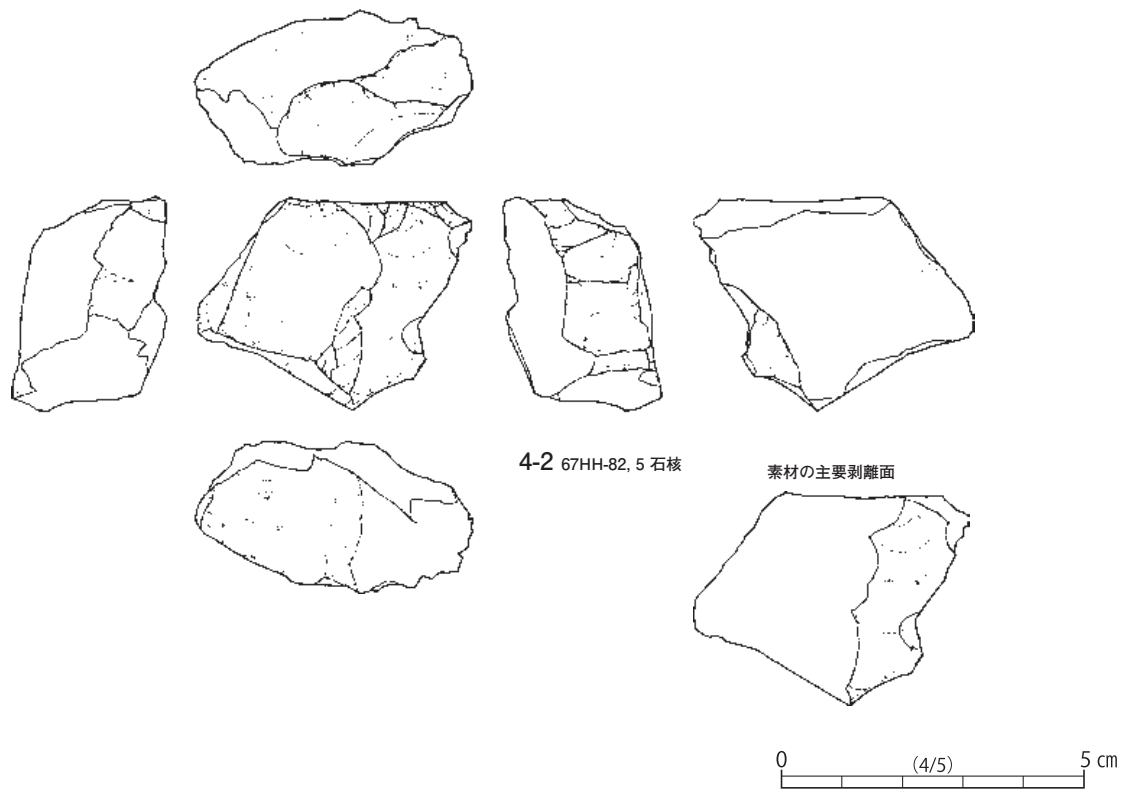
4 (1・2)
チャート
接合資料62001



4-1 67HH-81.5 剥片



第156図 67HH-Aブロック出土遺物分布(1)



第157図 67HH-Aブロック出土遺物分布(2)

2 67HH-Bブロック(第159～160図、第45表、図版7・51・52)

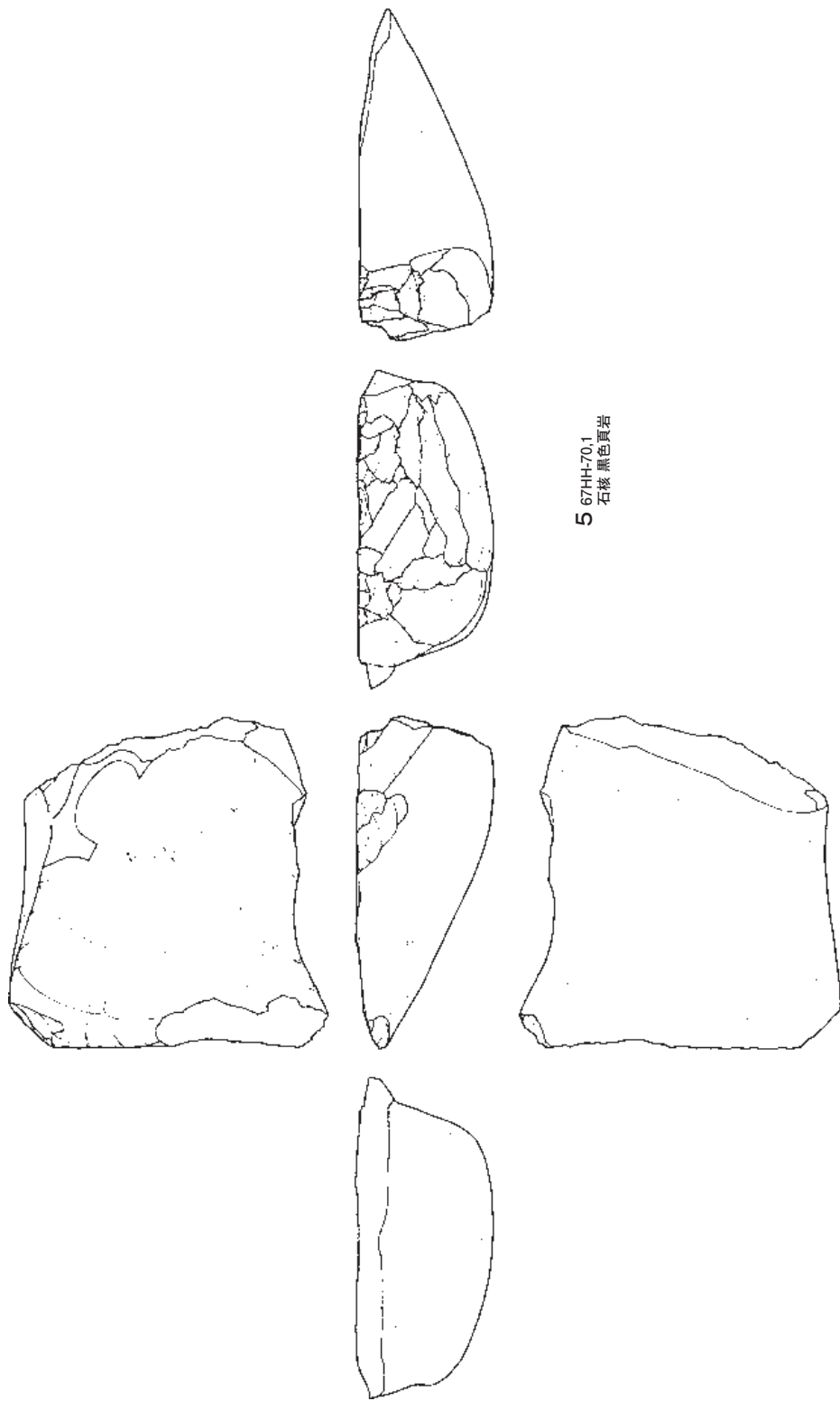
西側地区の東側、67HH-18、27～29グリッドに分布する。6.0 m × 4.5 mの範囲から3点の石器と4点の礫が出土した。0.09mの高低差をもって包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・微細離剥離痕のある剥片・剥片と礫・礫片で構成される。石器石材は、頁岩のみで、礫石材は、流紋岩・チャートで構成される。

1はにぶい黄橙色の珩化度の高い頁岩のナイフ形石器である。打面側を基部とし、左側縁に細かい調整加工、右側縁に微細な調整加工を行っている。これらの調整加工の差は両側縁の厚みの差によるものと思われる。形状については全周に調整加工が見られることから一側縁加工か二側縁加工か不明である。ナイフ形石器としたが、形状(態)が不明であることから、むしろ旧石器時代終末期の周縁加工の尖頭器とした方が良いかもしれない。また、本資料の両面には赤褐色化した多数の線状の痕跡が見られる。発見時以前に耕作など鉄製農機具での新規欠損に伴う金属の付着により生じたサビの可能性のあることから、出土層位については現表土での表採ではないが、攪乱の影響を受けているかもしれない。2は浅黄色・灰色・灰オリーブ色が混じった珩化度の高い頁岩の不定形な剥片である。

第45表 67HH-Bブロック石器組成

石材/器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	砕片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計(g)		
SH			1										2								3	42.9%	42.86	42.0%
RHR																				3	3	42.9%	46	45.1%
CHR																				1	1	14.3%	13.09	12.8%
合計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4	7	100.0%	101.95	100.0%



5 67HH-70.1
石核 黒色頁岩



第158図 67HH-Aブロック出土遺物分布(3)



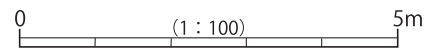
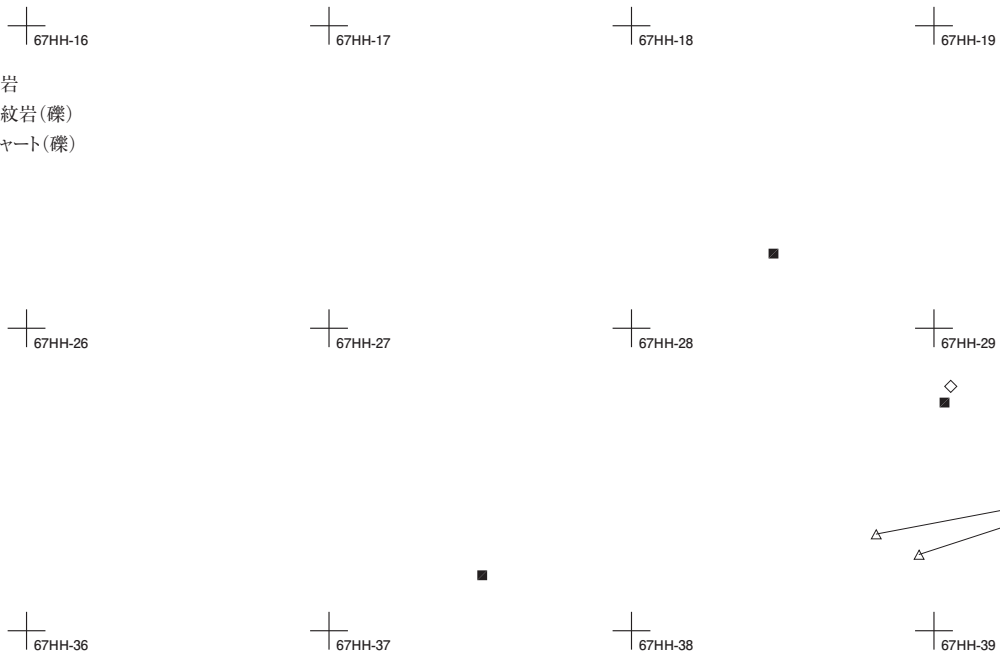
- ★ ナイフ形石器
- 剥片
- 人 礫片

< 器種別分布 >

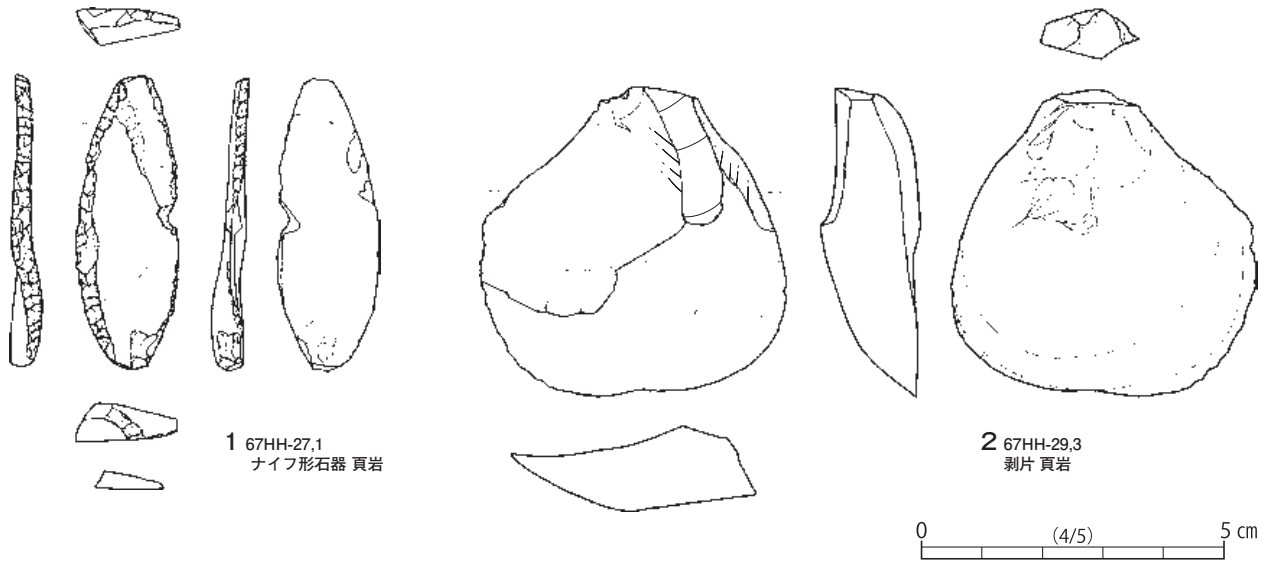


- 頁岩
- △ 流紋岩(礫)
- ◇ チャート(礫)

< 石材別分布 >



第159図 67HH-Bブロック出土遺物分布-器種別・石材別-



第160図 67HH-Bブロック出土遺物

3 63Y-A ブロック (第 161・162 図、第 46 表、図版 7・53)

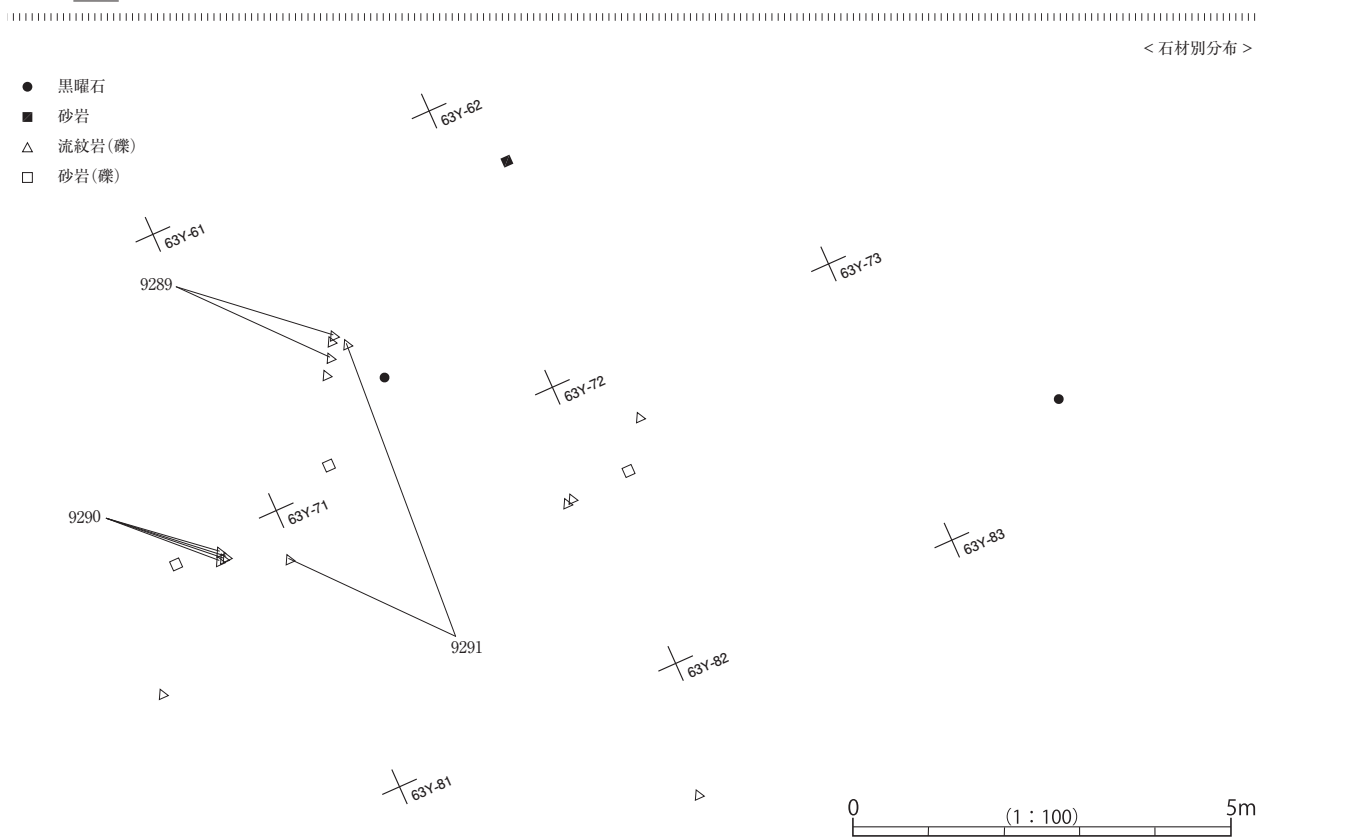
西側地区の西側、66Y-61・62、70～73、81 グリッドに分布する。12.5 m × 5.1 m の範囲から 3 点の石器と 18 点の礫が出土した。0.40m の高低差をもって包含される。

石器器種は、剥片と礫・礫片で構成され、礫が主体である。石器石材は、砂岩・黒曜石で構成される。礫石材は、流紋岩・砂岩で構成され、流紋岩が主体である。

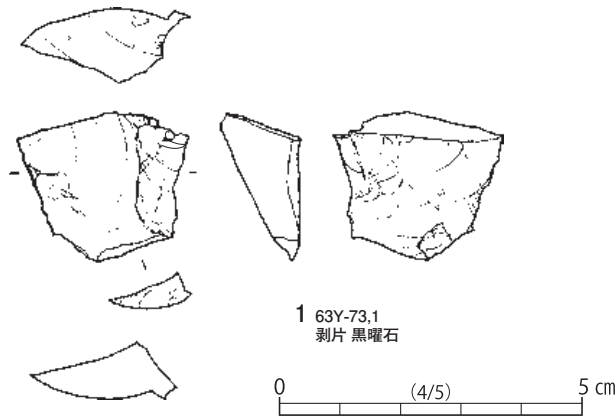
1 は信州産と考えられる灰白色の不純物を含む透明感のある黒灰色の黒曜石の不定形な剥片である。

第46表 63Y-Aブロック石器組成

石材 / 器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形礫石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	砕片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫礫片	重量合計 (g)			
																					点数合計	重量合計 (g)		
SA													1								1	4.8%	3.92	0.3%
OB													2								2	9.5%	9.06	0.7%
RHR																					15	71.4%	1099.28	87.4%
SAR																					3	14.3%	145.98	11.6%
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	18	21	100.0%	1258.24	100.0%



第161図 63Y-Aブロック出土遺物分布 - 器種別・石材別 -



第162図 63Y-Aブロック出土遺物

4 64V-B ブロック (第 163・164 図、第 47 表、図版 7・53・54)

西側地区の西側、64V-89、64W-80・91 グリッドに分布する。10.2 m × 2.7 m の範囲から 8 点の石器と 9 点の礫が出土した。0.24m の高低差をもって包含される。

石器器種は、剥片・石核・敲石と礫・礫片で構成される。石器石材は、チャート・頁岩・玉髄で構成される。礫石材は、流紋岩・砂岩・チャートで構成される。

1 は緑灰色のチャートの石核で、小型の円礫を素材として、平坦な打面を作出して、正面図の左から右方向に打点を移動しながら、不定形な縦長剥片を剥離している。2 は玉髄の石核で、角礫に近い小型の楕円礫を素材として、1 同様、平坦な打面を作出して、不定形な剥片を剥離している。なお、下底面にも剥離面が複数見られる。3 は浅黄色のチャートあるいは珪化した頁岩の敲石である。小型の楕円礫の両端に浅い敲打痕が見られる。

図版 54-4 ～ 7 は剥片で、図版 54-4・6・7 は珪化度の高い頁岩である。図版 54-4 は黄褐色、図版 54-6 は灰オリーブ色、図版 54-7 はにぶい黄橙色の地に褐灰色が混じる。図版 54-6・7 は嶺岡産頁岩に類似する。図版 54-5 は玉髄である。図版 54-4・7 は縦長剥片、図版 54-5・6 は不定形な剥片である。

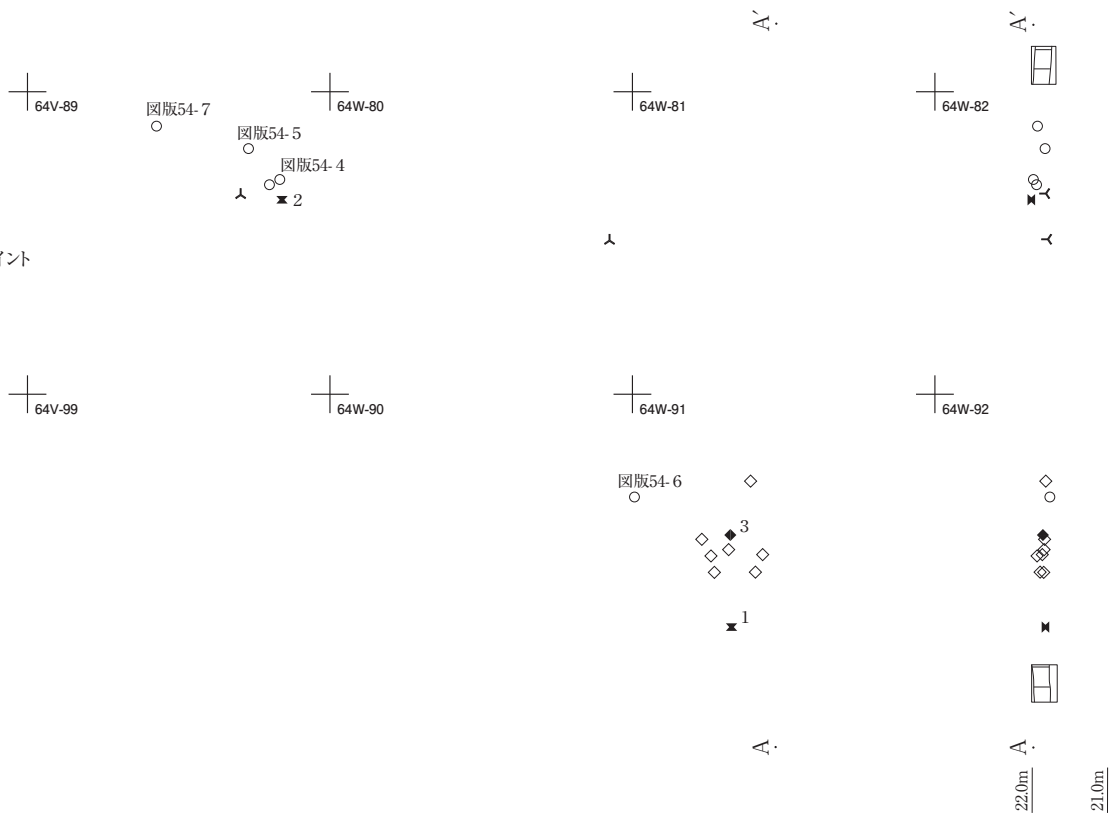
第47表 64V-Bブロック石器組成

石材 / 器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形楕円石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	砕片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫片	点数合計	重量合計 (g)		
CH															1		1				2	11.8%	108.83	22.0%
SH													4								4	23.5%	48.65	9.9%
CC													1	1							2	11.8%	36.4	7.4%
RHR																				5	5	29.4%	157.52	31.9%
SAR																				1	1	5.9%	48.84	9.9%
CHR																				3	3	17.6%	93.35	18.9%
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	2	0	1	0	0	9	17	100.0%	493.59	100.0%



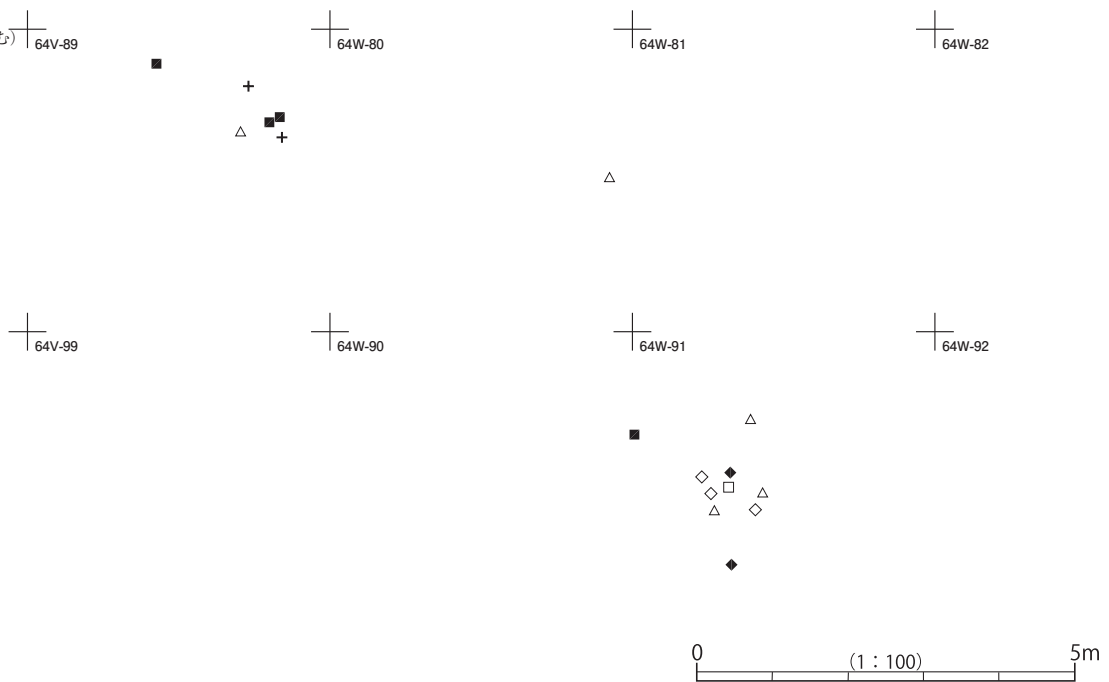
< 器種別分布 >

- 剥片
- ✕ 石核
- ◆ 敲石
- ◇ 礫
- 人 礫片
- ・ セクションポイント

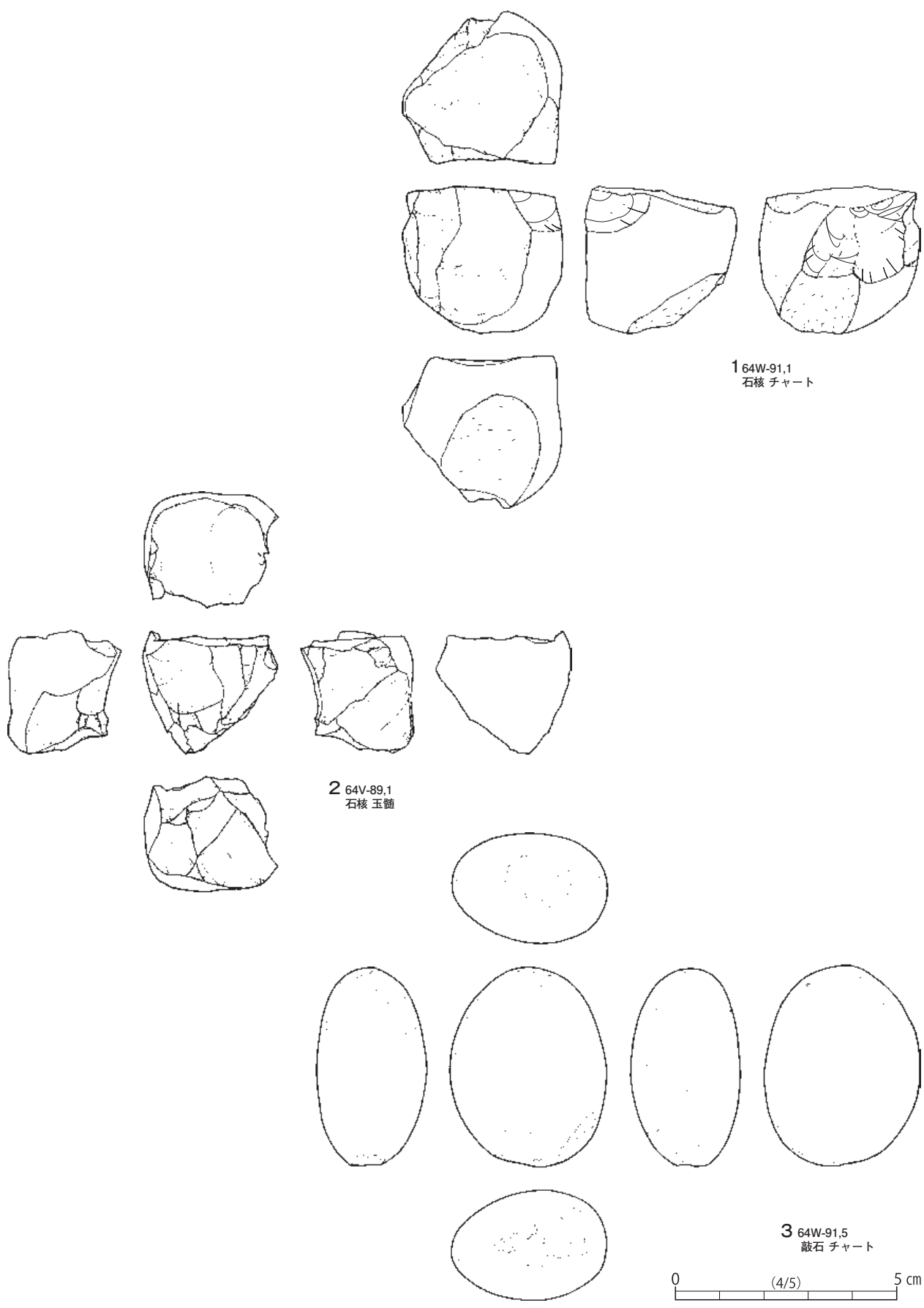


< 石材別分布 >

- ◆ チャート
- 頁岩
- + 玉髄(メノウ含む)
- △ 流紋岩(礫)
- 砂岩(礫)
- ◇ チャート(礫)



第163図 64V-Bブロック出土遺物分布 - 器種別・石材別 -



1 64W-91.1
石核 チャート

2 64V-89.1
石核 玉髄

3 64W-91.5
敲石 チャート

0 (4/5) 5 cm

第164図 64V-Bブロック出土遺物

5 64V-A ブロック (第 165・166 図、第 48 表、図版 7・54)

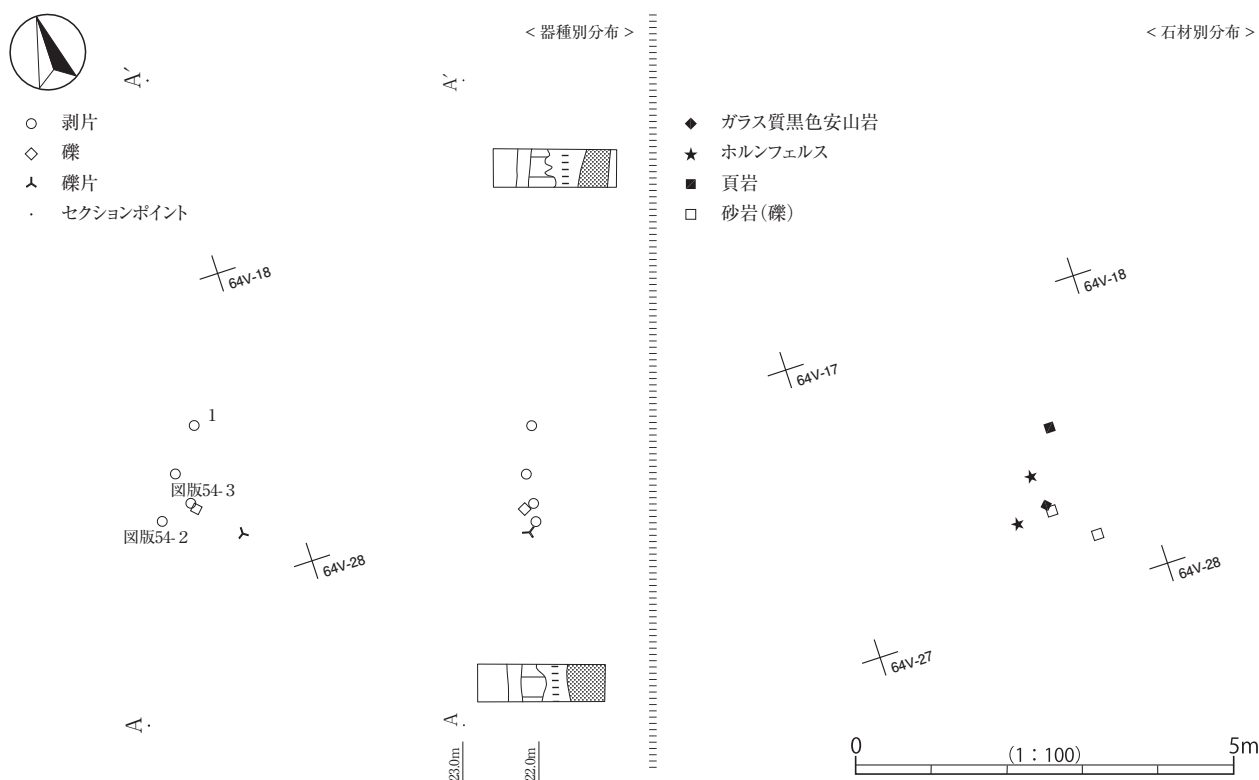
西側地区の西側、64V-17 グリッドに分布する。1.5 m × 1.2 m の範囲から 4 点の石器と 2 点の礫が出土した。0.14m の高低差をもって包含される。

石器器種は、剥片と礫・礫片で構成される。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・ホルンフェルス・頁岩で構成される。礫石材は、砂岩である。

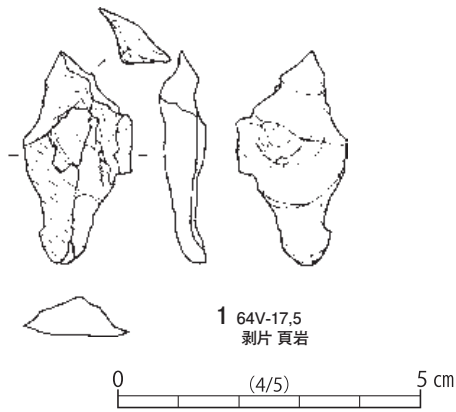
1 は灰オリーブ色の地にオリーブ黒の縞が入る珪化度の高い頁岩の不定形な剥片である。多少、嶺岡産頁岩に類似する。図版 54-2・3 は不定形な剥片で、石材は図版 54-2 が泥岩質のホルンフェルス、図版 54-3 がガラス質黒色頁岩である。

第48表 64V-Aブロック石器組成

石材 / 器種	尖頭器	角錐状石器	ナイフ形石器	台形様石器	彫器	搔器	楔形石器	二次加工	微細剥離	削片	細石刃	細石核	剥片	砕片	石核	石斧	敲石	台石	原石	礫・礫片	点数合計		重量合計 (g)	
																					点数	割合 (%)	重量	割合 (%)
GA													1								1	16.7%	2.03	1.1%
HO													2								2	33.3%	13.04	7.4%
SH													1								1	16.7%	2.83	1.6%
SAR																					2	33.3%	158.78	89.9%
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	2	6	100.0%	176.68	100.0%



第165図 64V-Aブロック出土遺物分布 - 器種別・石材別 -



第166図 64V-Aブロック出土遺物

6 68EE-A ブロック (第 167 図、第 49 表、図版 7)

西側地区の東側、68EE-05 から 2 点の礫が出土した。0.002m の高低差をもって包含される。
石器器種は、礫・礫片で、礫石材は、流紋岩である。

第49表 68EE-Aブロック礫組成

石材 / 器種	礫		点数合計	重量合計 (g)	
	礫	礫片			
RHR	2	2	100.0%	661.08	100.0%
合計	2	2	100.0%	661.08	100.0%



67EE-95

67EE-96

A.

A.

- ◇ 礫 (流紋岩)
- ・ セクションポイント

68EE-05

68EE-06



A.

A.

190m

180m

68EE-15

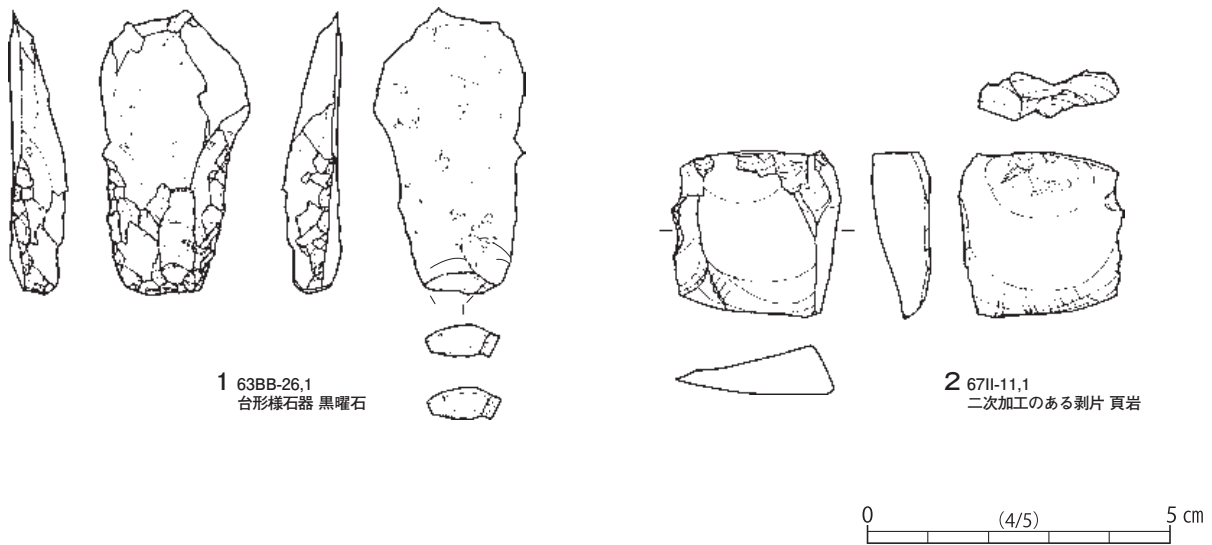
68EE-16

0 (1:100) 5m

第167図 68EE-Aブロック出土遺物分布 - 器種別・石材別 -

7 単独ブロック

1は高原山産と考えられる黄灰色の不純物を含む透明感のある黒色の黒曜石の台形様石器である。打面側を基部とし、両側縁の下半部に急角度の調整加工を行っている。なお、裏面の下面図の一部に素材の打面の一部を残しているが、折断面から背面に向けて頭部調整のような細かい調整加工を行っている。庇状の突起を取るための加工と思われる。第1文化層の可能性もあることから、時期不明としたが、第2文化層に帰属する可能性が高い。2は灰白色～浅黄色の珪化度の高い頁岩の二次加工のある剥片である。表面左側縁と裏面右側縁のそれぞれ一部に細かい剥離痕が見られることから二次加工のある剥片としたが、これらの剥離痕は偶発的な剥離の可能性が高い。



第168図 単独出土遺物

第3章 総括

第2章において、翁原遺跡（西側旧石器時代）の調査成果を詳述した。翁原遺跡は、現在、整理作業中の東側旧石器時代及び縄文時代以降、今後調査が予定されている未調査の地点などが残っているが、これまで旧石器時代、縄文時代、奈良・平安時代、中・近世などの遺構・遺物が検出されている。

縄文時代は、前期の竪穴住居跡4軒、早期と思われる陥穴23基、土坑7基が検出されており、土坑の内1基は前期黒浜期のものである。奈良・平安時代は、竪穴住居跡2軒が検出されている。中・近世は、江戸時代の牧関係の野馬土手3条、中世～近世の溝9条が検出されている。

翁原遺跡における成果のうち、注目されるのは旧石器時代であるが、東側旧石器時代が整理中であるので、ここでは、西側旧石器時代の総括を記すこととする。

旧石器時代 中央に埋没谷が走るほぼ南北の台地に分かれ、今回の西側の地点はその南側の南西部にあたり、多数のブロックが分布している。各文化層の概要は以下のとおりである。

第1文化層 第1文化層の石器群は、総計14点の石器が出土している。1点離れて出土した遺物があるが、それ以外は1か所の集中地点で構成される。Ⅹ層～Ⅶ層から出土しているが、Ⅹ層を主体としていることから、立川ローム層の最下層であるⅩ層の石器群と推定される。西側旧石器時代では最古の文化層である。西側地区の東側に分布している。

第1文化層の石器石材は、ガラス質黒色安山岩・チャート・ホルンフェルス・砂岩の4種類で、局部磨製石斧と局部磨製石斧に関係すると思われる剥片出土しているが、他に特徴的な石器は出土していない。なお、チャートの一部に、いわゆる海沢産*のチャートの特徴を持つものがある。

第2文化層 Ⅸ層を中心に出土しており、石器794点、礫34点の総計828点が出土し、本遺跡では最も多い19か所の集中地点で構成される。石刃や横長剥片あるいは不定形な剥片を素材としたナイフ形石器、台形様石器、局部磨製や打製の石斧を特徴とする石器群である。

第2文化層の石器石材は、信州産黒曜石が半数以上を占め、残りは頁岩・ガラス質黒色安山岩・チャートでほぼ90%である。信州産の黒曜石による石刃生産を示す良好な接合資料がある。

第3文化層 Ⅶ層～Ⅵ層から出土した石器群である。石器257点、礫25点の総計282点が出土し、8か所の集中地点で構成される。一部、第2文化層のブロックが含まれているかもしれない。

第3文化層の石器石材は、ガラス質黒色安山岩・黒曜石・黒色頁岩で80%以上を占め、残りは頁岩・チャートでほぼ95%である。

第4文化層 Ⅴ層～Ⅲ層下部から出土しており、角錐状石器などを特徴とする、いわゆるⅣ層下部の石器群である。石器256点、礫59点の総計315点が出土し、7か所の集中地点で構成される。

第4文化層の石器石材は、高原山産黒曜石が90%以上を占め、残りガラス質黒色安山岩、頁岩でほぼ97%である。

第5文化層 Ⅲ層から出土しており、東内野型の有樋尖頭器と大規模な礫群を特徴とする。石器377点、礫4,276点の総計4,653点が出土し、集中地点は1か所である。比較的大型の剥片を素材とした石核から不定形あるいは横長の剥片を連続的に剥離する特異な工程を示す接合資料がある。

第5文化層の石器石材は、ホルンフェルスと頁岩でほぼ80%である。また、頁岩には尖頭器・彫器・搔器といった製品を含まれるが、両者は剥片や碎片が主体であることから、本ブロックで石器の製作が行われていたことが推測される。

第6文化層 Ⅲ層上部から出土しており、尖頭器を特徴とする旧石器時代終末期の石器群である。石器107点、礫18点の総計125点が出土し、2か所の集中地点で構成される。第6文化層の石器石材は、黒曜石が80%以上を占めるブロックとガラス質黒色安山岩・チャート・頁岩・黒曜石・ホルンフェルスの5種類が均等に使用されたブロックがある。

時期不明 定型的な石器や出土層位が明確でないことなどから帰属時期を決定できなかった石器群で、総計75点が出土し、ブロックを形成するものが6か所、単独ブロックが11か所である。細石刃や細石刃核の可能性のある資料が出土しているが、後者について仮に細石刃核とした場合は、稜柱型ではなく、非削片系の船底型の細石刃核の可能性はある。

これまでに報告された屋敷内遺跡、内山遺跡の各文化層との対応関係をまとめて、総括の最後としたい。

①翁原遺跡第1文化層 局部磨製石斧

②屋敷内遺跡Ⅸ層文化層 台形様石器、ナイフ形石器

内山遺跡第1文化層の一部 ナイフ形石器、石刃あるいは縦長剥片

翁原遺跡第2文化層の一部 台形様石器、ナイフ形石器、一部に局部磨製石斧

③屋敷内遺跡Ⅶ層～Ⅸ層文化層 石刃あるいは縦長剥片

内山遺跡第1文化層の一部 石刃あるいは縦長剥片

翁原遺跡第2文化層の一部 石刃あるいは縦長剥片

④屋敷内遺跡Ⅶ層文化層 石刃素材の二側縁加工のナイフ形石器

内山遺跡第2文化層 石刃あるいは縦長剥片

翁原遺跡第3文化層 石刃あるいは縦長剥片

⑤屋敷内遺跡Ⅳ層～Ⅴ層文化層 角錐状石器、切出形のナイフ形石器、Ⅳ層下部の石器群

内山遺跡第3文化層 角錐状石器、切出形のナイフ形石器、Ⅳ層下部の石器群

翁原遺跡第4文化層 角錐状石器、切出形のナイフ形石器、Ⅳ層下部の石器群

⑥内山遺跡第4文化層 石刃素材の二側縁加工のナイフ形石器、砂川期の石器群

⑦屋敷内遺跡Ⅲ層～Ⅳ層文化層 有樋尖頭器

内山遺跡第5文化層の一部 有樋尖頭器

翁原遺跡第5文化層 大量の礫群や有樋尖頭器、

⑧屋敷内遺跡Ⅲ層文化層 尖頭器、ナイフ形石器

内山遺跡第5文化層の一部 尖頭器、ナイフ形石器

翁原遺跡第6文化層 尖頭器

⑨屋敷内遺跡Ⅱ層～Ⅲ層上部文化層 細石器

内山遺跡第5文化層 細石器

翁原遺跡第時期不明 細石刃や細石刃核の可能性のある資料が出土しているが、後者について仮に細石刃核とした場合は、稜柱型ではなく、非削片系の船底型の細石刃核の可能性はある。

各遺跡によって、一部文化層の識別（細別）の差等から複数の文化層に分かれるものもあるが、概ね以上のとおりである。

柏北部中央地区では、Ⅹ層からⅢ層までほぼ満遍なく石器が出土しているが、A T下位の後旧石器時代前半期石器群としては、②で翁原遺跡第2文化層の一部に信州産の良質な黒曜石の石刃あるいは縦長剥片の剥離工程を示す良好な接合資料があり、A T上位の後期旧石器時代後半期石器群としては、⑥では内山遺跡第4文化層の石刃素材の二側縁加工のナイフ形石器を含む砂川期の石器群があり、頁岩やガラス質黒色安山岩の石刃あるいは縦長剥片の剥離工程を示す良好な接合資料、⑦では翁原遺跡第5文化層に大量の礫群や有樋尖頭器を伴う大規模なブロックの資料があり、不定形あるいは横長の剥片を剥離する特異な工程を示す接合資料、⑨では内山遺跡第5文化層で信州産の良質な黒曜石の稜柱型の細石刃核が、多数出土しており、これらのことが特筆される。

また、翁原遺跡第1文化層と内山遺跡第4文化層は他の遺跡にはない単独の文化層で、前者は柏北部中央地区3遺跡の中では最古の文化層にあたり、後者は石刃素材の二側縁加工のナイフ形石器を主体とする砂川期の石器群で、県内では珍しい石刃の製作工程を示す良好な接合資料がある。

※海沢産のチャートは、「光沢が強く、緑色・青色・紫色等の濃い色調の縞模様をなすことで共通している（略）。また節理が縞模様に沿って一定方向に走ることも特徴である」¹⁾、「青緑色や青灰色で、部分的に縞模様をなす玻璃質のもの」²⁾で奥多摩町海沢を中心に分布している。

1) 田村 隆・国武貞克 2006 「下総・北総回廊外縁部の石器石材（第3報）」『千葉県史研究』第14号 千葉県

2) 山岡磨由子 2011 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅩⅢ一印西市泉北側第3遺跡（下層）一』（財）千葉県教育振興財団

写 真 图 版



溜井台遺跡

原山遺跡

翁原遺跡

十餘字下大塚地先野馬除土手

十餘字翁原地先野馬除土手

十餘字大塚地先野馬除土手

十餘字大塚地先野馬除土手

翁原遺跡周辺航空写真(国土地理院 CKT792-C9-49_昭和54年10月撮影)

図版2 土層断面、第1文化層遺物出土状況、第2文化層遺物出土状況（1）



63Y-99 北壁セクション



66CC-80 北壁セクション



68Z-24 南壁セクション



68AA-54 北壁セクション



第1文化層 65FF-A ブロック (西から)



第2文化層 63Z-A ブロック (西から)



第2文化層 62CC-A ブロック (南西から)



第2文化層 63CC-A ブロック (北西から)



第2文化層 64CC-A ブロック (南から)



第2文化層 63V-A ブロック (北から)



第2文化層 64W-A ブロック (西から)



第2文化層 64CC-B ブロック



第2文化層 64CC-C、65CC-A・B、
66CC-A・B ブロック (東から)



第2文化層 64CC-C、65CC-A・B、
66CC-A・B ブロック (南西から)



第2文化層 64CC-C、65CC-A・B、
66CC-A・B ブロック (南から)



第2文化層 64CC-C、65CC-A・B、66CC-A・B ブロック



第2文化層 64CC-C、65CC-A・B、
66CC-A・B ブロック (北東から)



第2文化層 65Y-A・B、66Y-A ブロック

図版4 第2文化層遺物出土状況(3)、第3文化層遺物出土状況(1)





図版6 第4文化層遺物出土状況(2)、第5文化層遺物出土状況(1)





第6文化層 67Z-C ブロック (東から)



第6文化層 67BB-D ブロック (南から)



時期不明 67HH-A ブロック (南から)



時期不明 67HH-B ブロック (北から)



時期不明 63Y-A ブロック



時期不明 64V-B ブロック (北から)

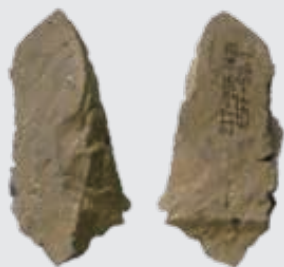


第2文化層 64V-A ブロック (北から)



時期不明 68EE-A ブロック (西から)

65-FF-A ブロック出土石器



1 65FF-53,1
剥片 ガラス質黒色安山岩

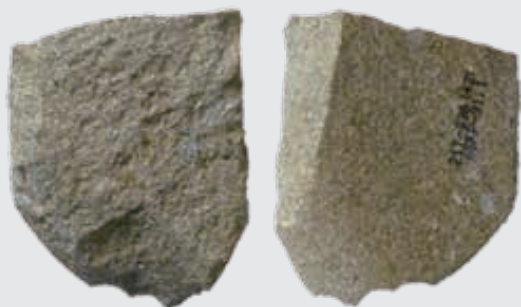


b



a

3 (a・b)
砂岩
接合資料42001
3a 65FF-90,1 剥片
3b 65FF-90,6 剥片



2 65FF-91,1
局部磨製石斧 砂岩

63-Z-A ブロック出土石器



1 63Z-18,9
楔形石器 頁岩

62-CC-A ブロック出土石器 (1)



1 62CC-95,1
ナイフ形石器 黒曜石



2 62CC-92,4
微細剥離痕のある剥片 黒曜石



3 62CC-94,4
微細剥離痕のある剥片 黒曜石

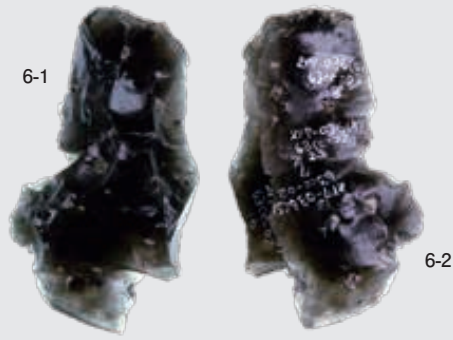


4 62CC-92,2a
微細剥離痕のある剥片 黒曜石

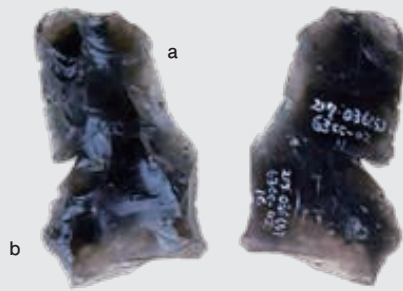


5 62CC-94,1
微細剥離痕のある剥片 黒曜石

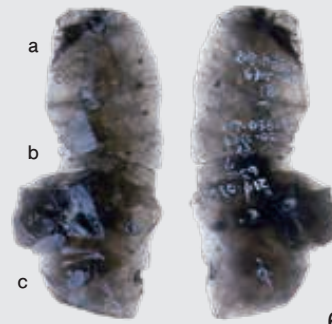
62-CC-A ブロック出土石器(2)



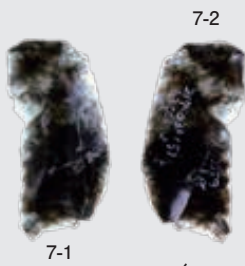
6 (1・2)
黒曜石
接合資料05161



6-1a 63CC-02,11 剥片
6-1b 63CC-02,16 剥片



6-2a 63CC-02,18 剥片
6-2b 63CC-02,23 剥片
6-2c 63CC-02, 7 剥片



7 (1・2)
黒曜石
接合資料05162



7-1 63CC-02,4 剥片



7-2 63CC-02,15 剥片



8 62CC-93,1
敲石 安山岩

63-CC-A ブロック出土石器



64-CC-A ブロック出土石器



63-V-A ブロック出土石器 (1)



63-V-A ブロック出土石器 (2)



4 64V-19,2
石核 ガラス黒色安山岩



5 64V-19,3
ナイフ形石器 頁岩



6 64V-18,4
剥片 ガラス黒色安山岩



7 63V-99,4
剥片 頁岩



8 64V-19,5
剥片 流紋岩



9 64V-08,5
剥片 粘板岩



10 64V-07,2
剥片 チャート

64-W-A ブロック出土石器



1 64W-76,1
ナイフ形石器 黒曜石



3 64W-69,7
剥片 ホルンフェルス



2 64W-68,1
剥片 ガラス黒色安山岩



64-CC-B ブロック出土石器 (1)



1 65CC-01,2
ナイフ形石器 黒曜石



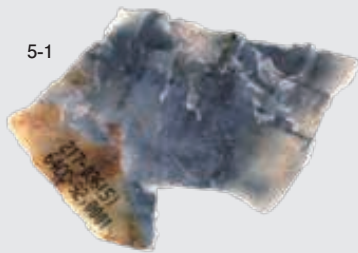
2 65CC-04,5
ナイフ形石器 頁岩



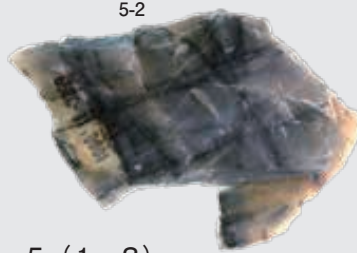
3 64CC-91,1
台形様石器 チャート



4 64CC-93,2
石核 ホルンフェルス



5-1

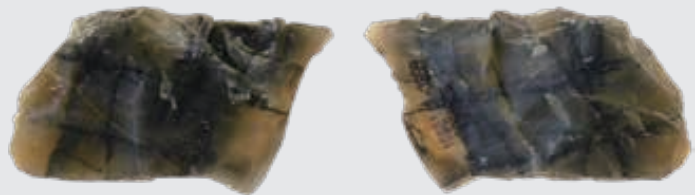


5-2

5 (1・2)
チャート
接合資料05165



5-1 64CC-92,1 剥片

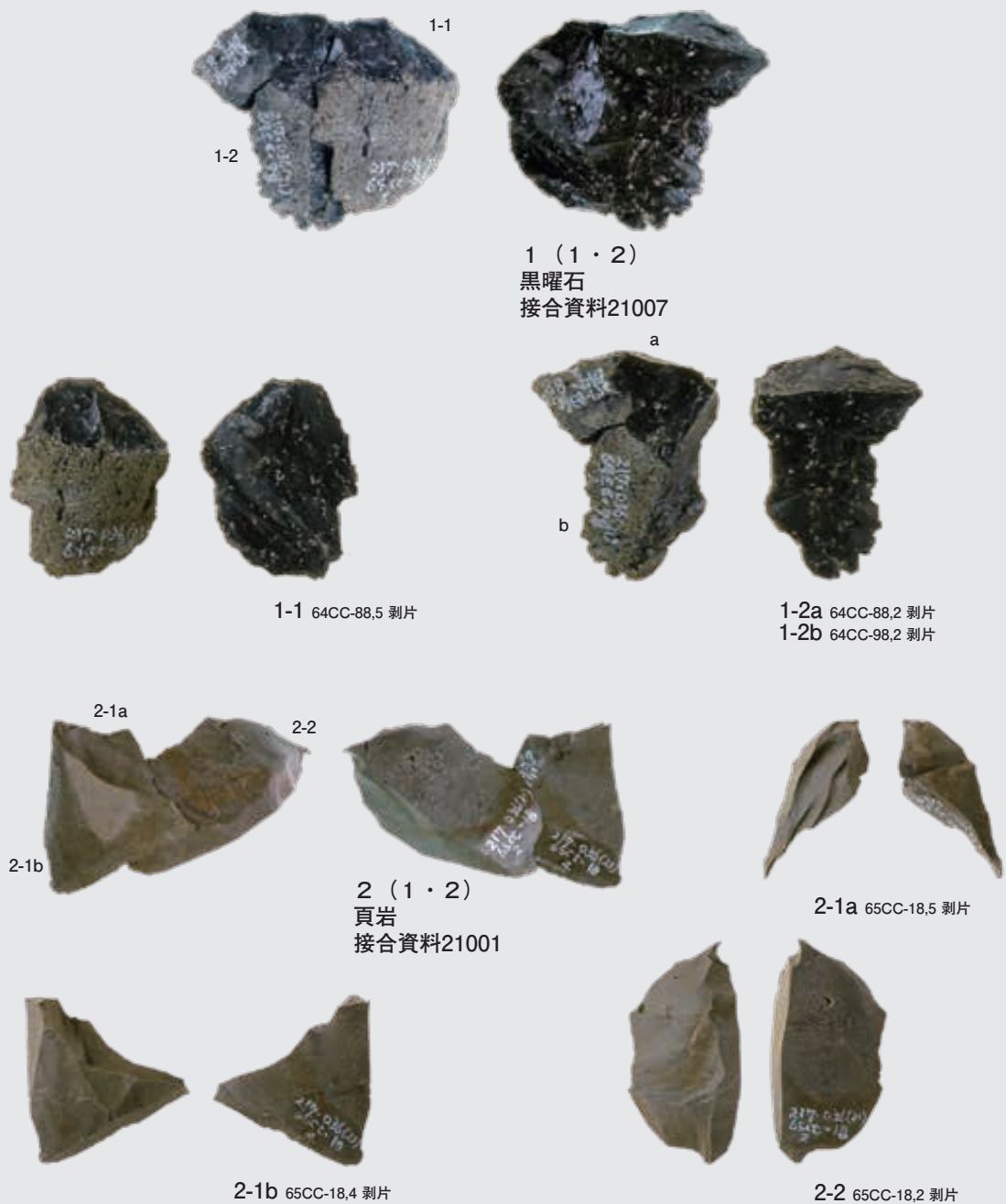


5-2 65CC-01,1 剥片

64-CC-B ブロック出土石器 (2)



64-CC-C ブロック出土石器



65-CC-A ブロック出土石器(1)



1 65CC-26.2
ナイフ形石器 頁岩



2 65CC-46.1
ナイフ形石器 頁岩



3 65CC-25.1
石核 チャート



4-1

4-2



4 (1・2)
ガラス質黒色安山岩
接合資料21012



4-1 65CC-37.3 石核



4-2 65CC-86.3 石核
(65CC-Bブロック)

65-CC-A ブロック出土石器 (2)



5 65CC-83,1
剥片 頁岩

6 65CC-54,2
剥片 頁岩

65-CC-B ブロック出土石器 (1)



1 66CC-07,1
楔形石器 頁岩

2 66CC-07,13
二次加工のある剥片 ホルンフェルス

3 65CC-87,5
石核 ガラス質黒色安山岩



4 (1~4)
頁岩
接合資料21005

65-CC-B ブロック出土石器(2)



4-1 66CC-07,4 石核



4-2 66CC-07,6 剥片



4-3 66CC-07,14 剥片



4-4 66CC-07,2 剥片



5 65CC-96,4
剥片 頁岩



6 66CC-07,9
剥片 トロトロ石



7 66CC-06,2
石核 トロトロ石



8 66CC-07,16
石核 ガラス質黒色安山岩



9 65CC-86,6
石核 ガラス質黒色安山岩

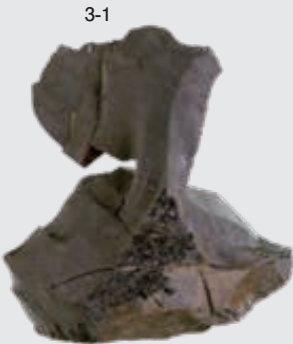
66-CC-A ブロック出土石器



1 66CC-00,1
ナイフ形石器 黒色頁岩



2 66CC-01,2
二次加工のある剥片 頁岩



3-1



3-2

3 (1・2)
黒色頁岩
接合資料21009



3-1 66CC-01,1 剥片



3-2 66CC-00,2 石核



4 66CC-01,4
剥片 黒曜石

66-CC-B ブロック出土石器



1 (1・2)
流紋岩
接合資料21004

1-1 66CC-26,5 二次加工のある剥片
1-2 66CC-26,4 二次加工のある剥片



1-1

1-2



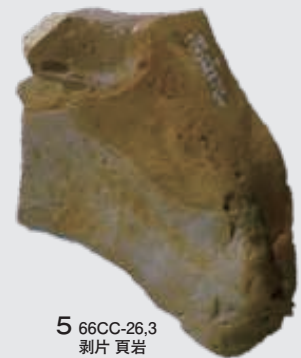
2 66CC-25,1
二次加工のある剥片 頁岩



3 66CC-26,2
剥片 頁岩



4 66CC-16,2
剥片 ガラス質黒色安山岩



5 66CC-26,3
剥片 頁岩

65-Y-A ブロック出土石器 (1)



1 65Y-86,22
ナイフ形石器 黒曜石



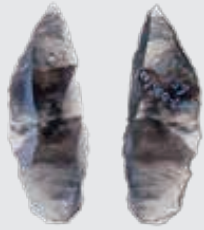
2 65Y-97,16
ナイフ形石器 黒曜石



3 65Y-86,2
ナイフ形石器 黒曜石



4 65Y-97,5
ナイフ形石器 黒曜石



5 65Y-77,1
ナイフ形石器 黒曜石



6 65Y-86,11
ナイフ形石器 黒曜石



7 65Y-97,35
ナイフ形石器 黒曜石



8 65Y-77,3
ナイフ形石器 黒曜石



9 65Y-86,9
ナイフ形石器 頁岩



10 65Y-86,12
形器 黒曜石



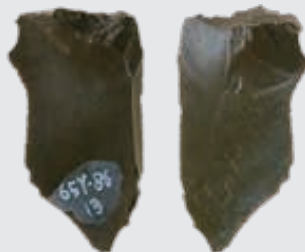
11 65Y-86,6
微細剥離痕のある剥片 黒曜石



12-2



12 (1・2)
頁岩
接合資料22005



12-1 65Y-86,13 二次加工のある剥片



12-2 65Y-97,7 剥片

65-Y-A ブロック出土石器 (2)

13-1



13-2

a



b



13 (1・2)
黒曜石
接合資料22025

13-1a 65Y-97,11 剥片
13-1b 65Y-98,19 剥片

13-2 65Y-86,1 剥片

14B



14A



14C

14 (A~C)
黒曜石
接合資料22036

14A (1~4)
黒曜石
接合資料22036

a



14A-1a 65Y-97,25 剥片
14A-1b 65Y-97,42 剥片

14A-2 65Y-87,10 剥片

a



b



c

14A-3a 65Y-87, 8 剥片
14A-3b 65Y-97,43 剥片
14A-3c 65Y-98,27 剥片



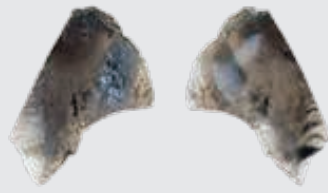
14A-4 65Y-98,25 石核

65-Y-A ブロック出土石器 (3)

14B (1~10)
黒曜石
接合資料22036



14B-1 65Y-97,27 剥片



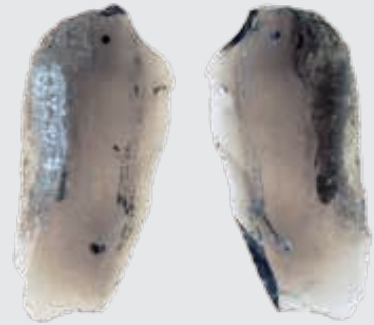
14B-2 65Y-98,22 剥片



14B-3 65Y-97,2 剥片



14B-4 65Y-77,2 剥片



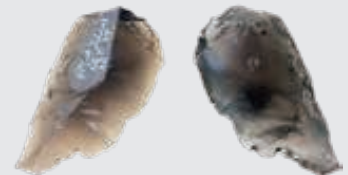
14B-5 65Y-97,4 剥片



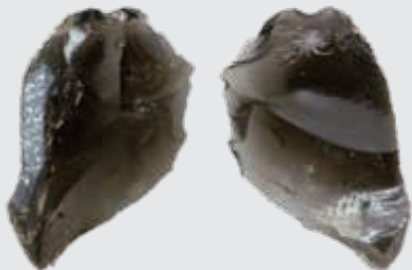
14B-6 65Y-97,39a 剥片



14B-7 65Y-97,12a 剥片



14B-8 65Y-97,36 剥片

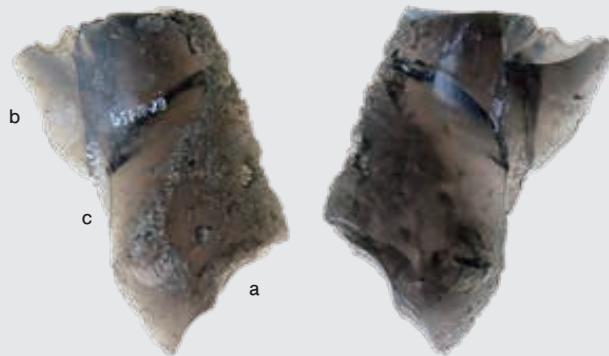


14B-9 65Y-98,17 剥片



14B-10 65Y-97,38 石核

14C (1~15)
黒曜石
接合資料22036



14C-1a 65Y-98,28 剥片
14C-1b 65Y-87, 7 剥片
14C-1c 65Y-97,26 剥片

65-Y-A ブロック出土石器 (4)



14C-2 65Y-97,24 剥片



14C-3 65Y-86,24 剥片



14C-4 65Y-97,31 剥片



14C-5 65Y-87, 1 剥片



14C-6 65Y-97,32 剥片



14C-7 65Y-98,21 剥片



14C-8 65Y-87,13 剥片



14C-9 65Y-97,28 剥片

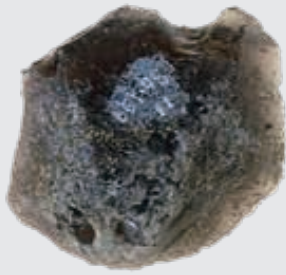


14C-10a 65Y-86,23 剥片
14C-10b 65Y-97, 3 剥片



14C-11 65Y-97,45 石核

65-Y-A ブロック出土石器(5)



14C-12 65Y-98,11 剥片



14C-13a 65Y-97,37 剥片
14C-13b 65Y-98,26 剥片



14C-14 65Y-98,23 剥片



14C-15 65Y-97,15 石核



15-1

15 (1・2)
黒曜石
接合資料22037



15-1 65Y-86, 4 剥片



15-2 65Y-87, 6 剥片



16 65Y-86,25
二次加工のある剥片 黒曜石



17 65Y-97,6
剥片 頁岩



18 65Y-86,21
剥片 黒曜石



19 65Y-76,1
剥片 黒曜石



20 65Y-86,7
剥片 黒曜石

65-Y-A ブロック出土石器 (6)



21 65Y-87,14
剥片 黒曜石



22 65Y-97,8
剥片 黒曜石



23 66Y-07,1
石核 黒曜石



24 65Y-98,24
石核 黒曜石

65-Y-B ブロック出土石器 (1)



1 66Y-34,2
ナイフ形石器 黒曜石



2 66Y-41,5
ナイフ形石器 黒曜石



3 66Y-31,5
ナイフ形石器 黒曜石



4 66Y-32,22
ナイフ形石器 黒曜石



5 66Y-13,1a
ナイフ形石器 黒曜石



6 66Y-23,4
ナイフ形石器 黒色頁岩



7 66Y-32,1
二次加工のある剥片 黒曜石



8 66Y-32,28
二次加工のある剥片 黒曜石



9 66Y-41,9
二次加工のある剥片 頁岩



65-Y-B ブロック出土石器 (2)



10 66Y-23,24
微細剥離痕のある剥片 黒曜石



11 66Y-13,2
微細剥離痕のある剥片 頁岩



12 66Y-32,32
剥片 黒曜石



13 66Y-31,1
剥片 黒曜石



14 66Y-15,1
剥片 頁岩



15 66Y-23,26
剥片 黒色頁岩



16 66Y-42,9
剥片 黒色頁岩

65-Y-B ブロック出土石器 (3)



17 66Y-33.6
剥片 黒色頁岩



18 66Y-23.8
剥片 ガラス質黒色安山岩



19 66Y-33.16
楔形石器 黒曜石



20 66Y-42.5
敲石 チャート



21 (a・b)
ガラス質黒色安山岩
接合資料22015

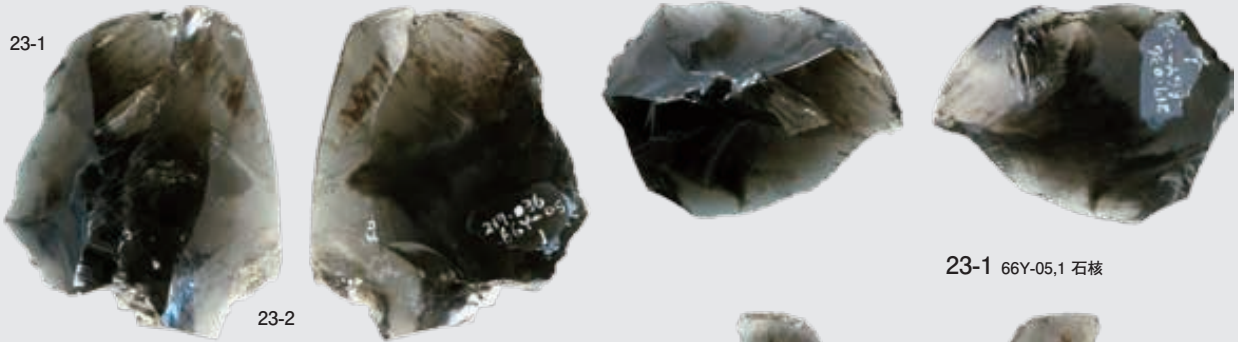
21a 66Y-33.2 微細剥離痕のある剥片
21b 66Y-42.3 微細剥離痕のある剥片



22 (a・b)
ガラス質黒色安山岩
接合資料22016

22-a 66Y-24.26 剥片
22-b 66Y-24. 1 剥片

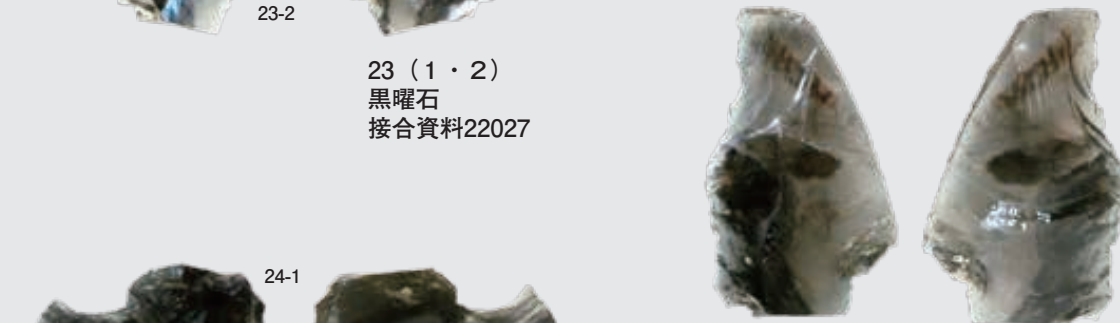
65-Y-B ブロック出土石器(4)



23-1 66Y-05,1 石核

23 (1・2)
黒曜石
接合資料22027

23-2 66Y-04,1 剥片



24-1

24-2

24 (1・2)
黒曜石
接合資料22033

24-1 66Y-34,6 剥片



24-2 66Y-25,3 剥片



25-2

25-3

25-1

26 66Y-41,12
剥片 頁岩

27 66Y-23,18
石核 黒曜石

25 (1~3)
頁岩
接合資料22002

25-1 66Y-41,15 石核
25-2 66Y-41,16 剥片
25-3 66Y-32,31 剥片

66-Y-A ブロック出土石器 (1)



1 66Y-47,8
ナイフ形石器 黒曜石



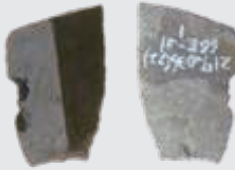
2 66Y-37,3
ナイフ形石器 黒曜石



3 66Y-28,1
ナイフ形石器 黒曜石



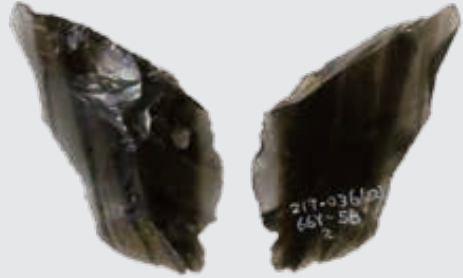
4 66Y-36,1
ナイフ形石器 トロトロ石



5 66Z-31,1
ナイフ形石器 黒色頁岩



8 66Y-37,5
剥片 黒曜石



7 66Y-58,2
二次加工のある剥片 黒曜石



6 66Y-36,136
ナイフ形石器 黒曜石



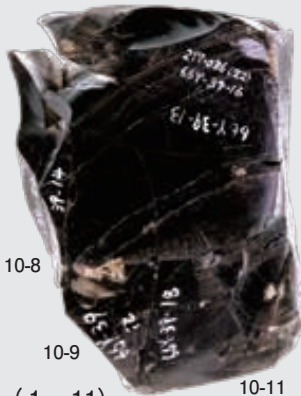
9 66Y-47,1
剥片 黒曜石



10-1 66Y-39,16 剥片



10-4
10-5
10-7



10-2
10-8

10 (1~11)
黒曜石
接合資料22030

※10-10は内側



10-2 66Y-39,20 剥片



10-3 66Y-39,13 剥片

66-Y-A ブロック出土石器(2)



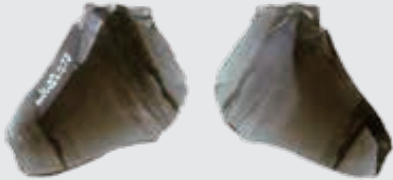
10-4 66Y-39,10 剥片



10-5 66Y-39,19 剥片



10-6 66Y-39,3 剥片



10-7 66Y-39,7 剥片



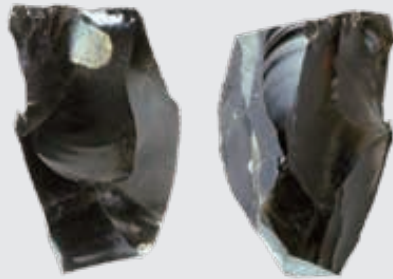
10-8 66Y-39,14 剥片



10-9 66Y-39,12 剥片



10-10 66Y-39,15a 剥片



10-11 66Y-39,18 石核



11-1

11 (1・2)
頁岩
接合資料22003



11-1 66Y-41,13 剥片
(65-Y-Bブロック)



11-2 66Y-19,1 剥片



12 66Y-37,4
剥片 黒曜石



13 66Y-47,22
剥片 頁岩



14 66Y-47,3
剥片 頁岩



15 66Y-47,6
剥片 頁岩

66-Y-A ブロック出土石器 (3)



16 66Y-38,1
剥片 頁岩



17 66Y-27,6
剥片 黒曜石



18 66Y-47,14
剥片 頁岩



21-1



19 66Y-48,11
石核 黒曜石



20 66Y-47,4
石核 頁岩

21 (1・2)
黒曜石
接合資料22024

21-1 66Y-38,6 剥片
21-2 66Y-48,6 石核

66-X-A ブロック出土石器



1 66X-71,2
台形様石器 黒曜石



2 66X-61,2
打製石斧 ホルンフェルス

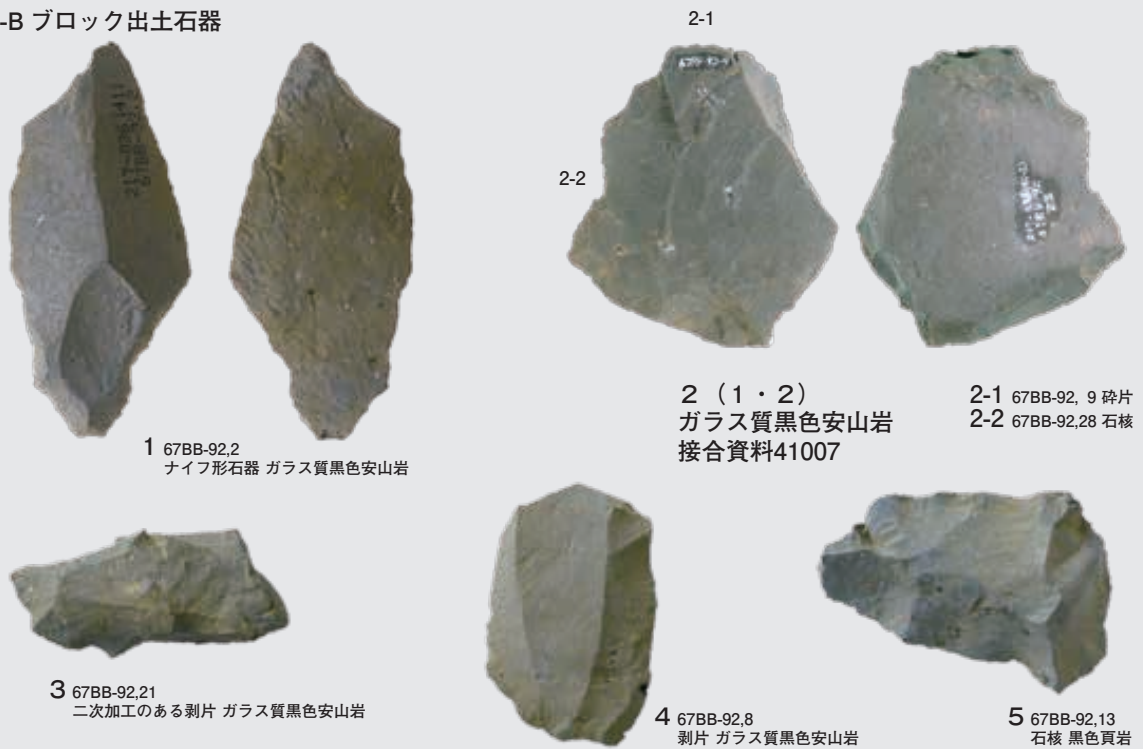


3 66X-81,1
石核 黒色頁岩

67-BB-A ブロック出土石器



67-BB-B ブロック出土石器



66-GG-A ブロック出土石器



67-Z-A ブロック出土石器



1 67Z-75.20
ナイフ形石器 ガラス質黒色安山岩



2 67Z-75.21
ナイフ形石器 黒曜石



3 67Z-75.6
微細剥離痕のある剥片 黒曜石



4 67Z-74.2
微細剥離痕のある剥片 黒曜石



5 67Z-75.1
剥片 チャート



6-1

6-2



6-1 67Z-75.10 剥片



6-2 67Z-75.25 剥片

6 (1・2)
チャート
接合資料47005



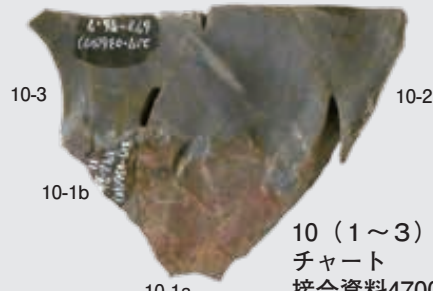
7 67Z-76.10
剥片 ホルンフェルス



8 67Z-85.1
剥片 ガラス質黒色安山岩



9 67Z-75.14
石核 黒曜石



10-3

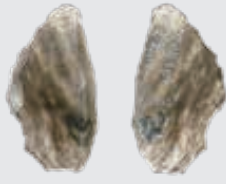
10-2

10-1b

10-1a

10 (1~3)
チャート
接合資料47003
10-1a 67Z-76, 4 剥片
10-1b 67Z-76, 11 剥片
10-2 67Z-76, 1 剥片
10-3 67Z-76, 7 石核

67-Z-B ブロック出土石器



1 67Z-86,14
ナイフ形石器 黒曜石



2-1 2 (1~3) 2-3
黒曜石
接合資料47002



2-1 67Z-75,9 剥片
(67-Z-Aブロック)



2-2 67Z-86,25 剥片



2-3 67Z-87,2 剥片



3 67Z-86,21
剥片 黒曜石



4 67Z-86,23
剥片 黒曜石



5 67Z-86,18
剥片 チャート



6 67Z-86,9
剥片 頁岩



7 67Z-86,15
剥片 ガラス質黒色安山岩

68-AA-A ブロック出土石器



1 68AA-31,1
剥片 黒曜石



2 68AA-30,2a
剥片 黒曜石



3 68AA-30,3
剥片 チャート

68-AA-B ブロック出土石器 (1)



1 68AA-65,2
ナイフ形石器 頁岩



2 68AA-64,17
二次加工のある剥片 頁岩

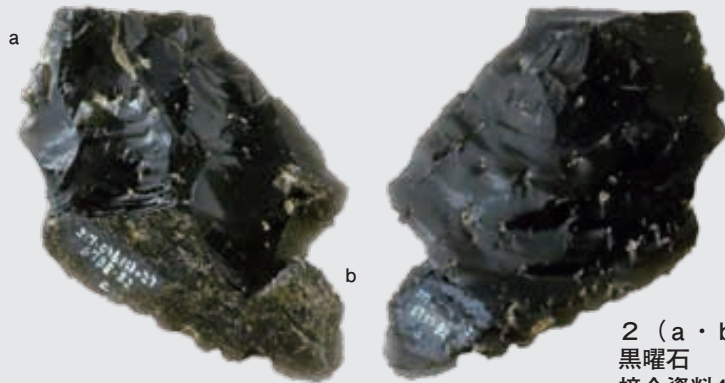
68-AA-B ブロック出土石器 (2)



67-BB-C ブロック出土石器



1 67BB-91,1
敲石 ホルンフェルス



2 (a・b)
黒曜石
接合資料41014 2 a 67BB-82,2 剥片
2 b 67BB-82,3 剥片



3 67BB-81,5
剥片 ガラス質黒色安山岩



4 67BB-81,4
剥片 ガラス質黒色安山岩

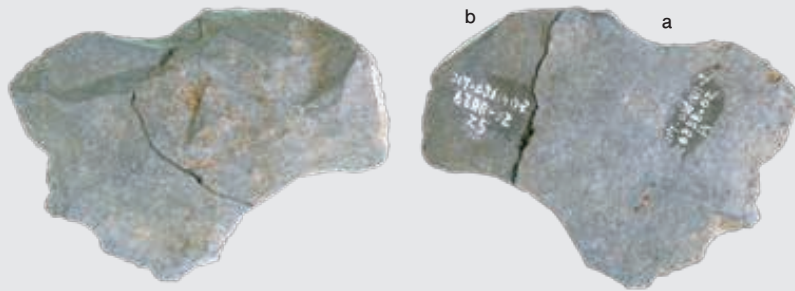


5 67BB-81,2
剥片 ガラス質黒色安山岩

68-BB-A ブロック出土石器



1 68BB-02,16
石核 黑色頁岩



2 (a・b)
黑色頁岩
接合資料41004

2a 68BB-02,14 二次加工のある剥片
2b 68BB-02,25 二次加工のある剥片



3 68BB-02,8
石核 黑色頁岩



4 68BB-12,23
石核 黑色頁岩



5 68BB-02,26
石核 黑色頁岩



6 68BB-12,25
石核 ガラス質黑色安山岩



7 (1~5)
ガラス質黑色安山岩
接合資料41009

7-1 68BB-02, 3 剥片
7-2 68BB-12,54 剥片
7-3 68BB-12,11 剥片
7-4 68BB-12,16 剥片
7-5 68BB-12,13 石核

68-BB-B ブロック出土石器



1-3

1-2

1-1

1-1 68BB-13,12 剥片

1-2 68BB-13,17 剥片

1 (1~3)
ガラス質黒色安山岩
接合資料41003



2-2

2-1

2 (1・2)
黒曜石
接合資料41008



2-1 68BB-13,2 剥片



1-3 68BB-13,18 二次加工のある剥片



2-2 68BB-13,4 剥片



3 68BB-13,9
剥片 黒色頁岩



4 68BB-14,10
剥片 ガラス質黒色安山岩



5 68BB-14,7
剥片 ガラス質黒色安山岩

68-BB-C ブロック出土石器



1 68BB-15,14
二次加工のある剥片 黒色頁岩



2 68BB-15,24
二次加工のある剥片 トロトロ石



3 68BB-15,21
二次加工のある剥片 黒色頁岩



4 68BB-15,10
石核 頁岩



5 68BB-15,18
剥片 黒色頁岩



6 68BB-15,4
二次加工のある剥片 ガラス質黒色安山岩



7 68BB-15,34
二次加工のある剥片 ガラス質黒色安山岩



8 68BB-15,12
石核 ガラス質黒色安山岩



9 68BB-15,9
石核 黒色頁岩



10-2

10-1

10-3

10 (1~3)
ホルンフェルス
接合資料41011

10-1 68BB-15, 8 剥片
10-2 68BB-25, 1 剥片
10-3 68BB-15,11 石核

64-X-A ブロック出土石器



1 64X-75,1
ナイフ形石器 黒曜石

2 64X-98,3
石核 凝灰岩

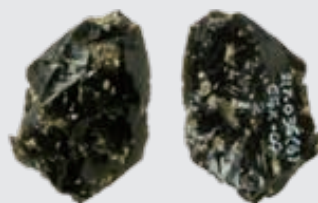
3 64X-98,1
石核 頁岩

64-X-B ブロック出土石器



1 64X-95,2
剥片 ガラス質黒色安山岩

65-X-A ブロック出土石器



1 65X-09,2
剥片 黒曜石

66-Y-B ブロック出土石器 (1)



1 66Y-36,137
ナイフ形石器 黒曜石



2 66Y-36,95
二次加工のある剥片 黒曜石



3-1

3-2



3-2 66Y-36,130 剥片



a

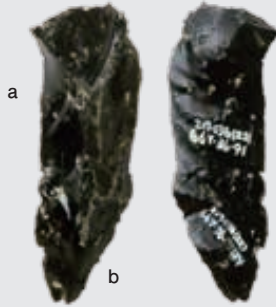
b

c

3 (1・2)
黒曜石
接合資料22007

3-1a 66Y-36, 93 剥片
3-1b 66Y-36,106 剥片
3-1c 66Y-36, 55 剥片

66-Y-B ブロック出土石器 (2)



4 (a・b)
黒曜石
接合資料22013

4a 66Y-36, 91 二次加工のある剥片
4b 66Y-36,124 二次加工のある剥片



5 (1~3)
黒曜石
接合資料22017



5-1 66Y-36,25 剥片

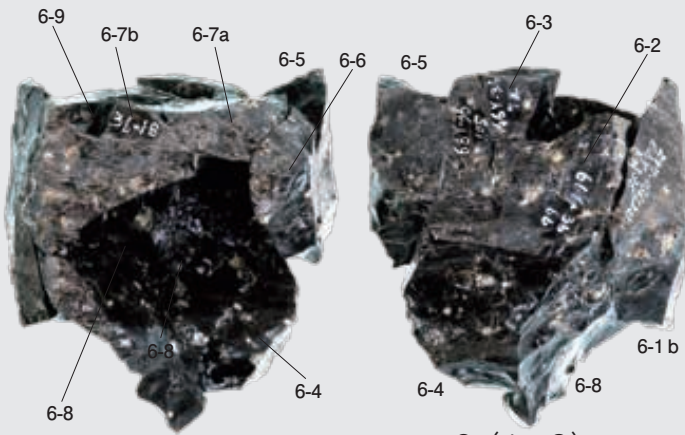
5-2 66Y-36,13 剥片



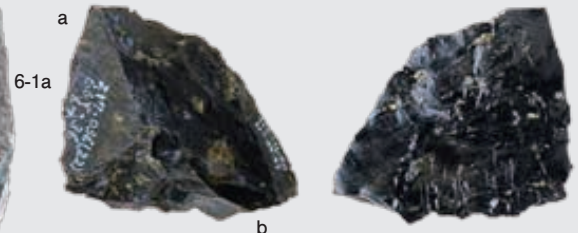
5-4 66Y-36,23 剥片
非接合同一母岩資料



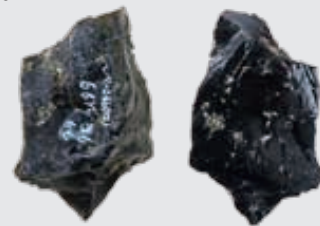
5-3 66Y-36,88 石核



6 (1~9)
黒曜石
接合資料22008



6-1a 66Y-36,67 剥片
6-1b 66Y-36,29 剥片



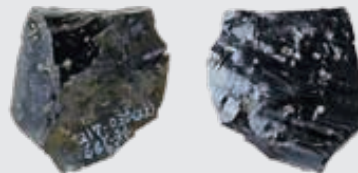
6-2 66Y-36,66 剥片



6-3 66Y-36,72 剥片



6-4 66Y-36,105 剥片



6-5 66Y-36,92 剥片



6-6 66Y-36,36 二次加工のある剥片

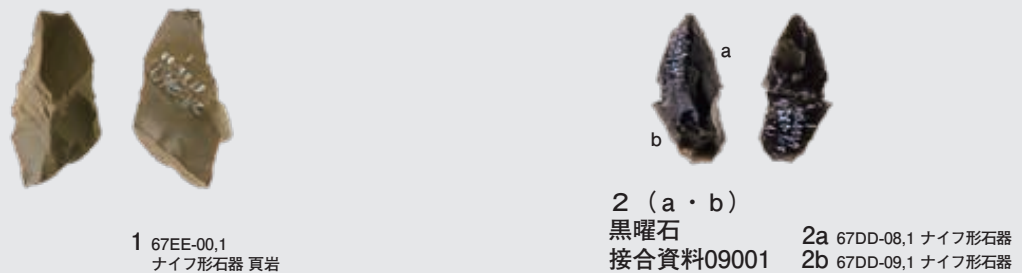


6-7a 66Y-36,11 剥片
6-7b 66Y-36,18 剥片

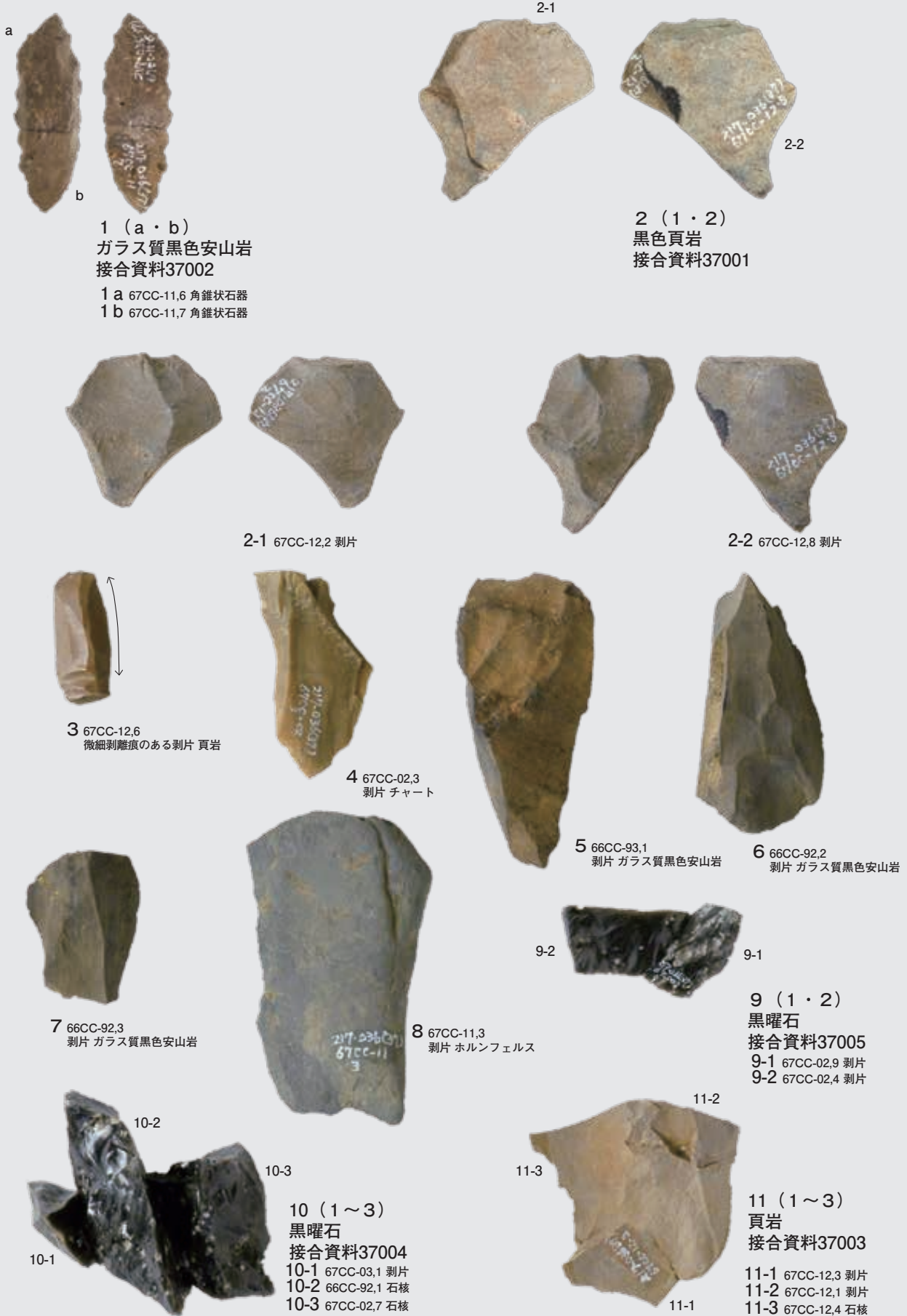
66-Y-B ブロック出土石器(3)



67-DD-A ブロック出土石器



66-CC-C ブロック出土石器



68-Z-A ブロック出土石器



1 68Z-34,1
ナイフ形石器 黒曜石



3 68Z-25,1 (一括)
二次加工のある剥片 チャート



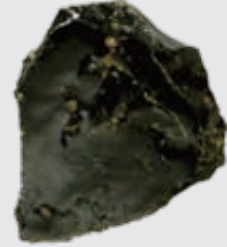
4 68Z-35,1
剥片 頁岩



2 68Z-24,1a (一括)
敲石 砂岩



5 68Z-36,1 (一括)
石核 頁岩



6 68Z-24,1c (一括)
剥片 黒曜石



7 68Z-24,2
石核 ガラス質黒色安山岩

63-Z-B ブロック出土石器 (1)



1 63Z-57,677
尖頭器 頁岩



2 63Z-39,4
尖頭器 頁岩



3 63Z-57,509
尖頭器 流紋岩



4 63Z-57,117
彫器 頁岩



5 63Z-57,143
彫器 頁岩



6 63Z-67,63
搔器 頁岩



7 63Z-65,14
搔器 頁岩

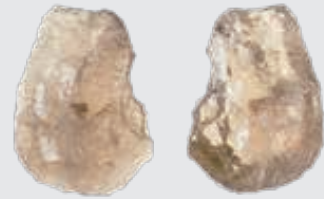
63-Z-B ブロック出土石器(2)



8 63Z-57,265
搔器 黒色頁岩



9 63Z-57,571
搔器 頁岩



10 63Z-57,631
搔器 水晶



11 63Z-48,152
二次加工のある剥片 ホルンフェルス



12 63Z-46,338
二次加工のある剥片 頁岩



13 63Z-56,102
二次加工のある剥片 頁岩



14 63Z-48,82
二次加工のある剥片 頁岩



15 63Z-38,5
二次加工のある剥片 頁岩



16 63Z-49,7
二次加工のある剥片 チャート



17 63Z-65,22
楔形石器 水晶



18 63Z-48,114
削片 流紋岩



19 63Z-57,438
削片 頁岩



20 63Z-57,354
削片 頁岩



21 63Z-57,466
削片 頁岩



22 63Z-46,732
削片 頁岩



23 63Z-57,569
削片 頁岩



24 63Z-46,326
削片 頁岩

63-Z-Bブロック出土石器(3)



25 63Z-56,148
削片 頁岩



26 63Z-28,65
削片 頁岩



27 63Z-56,157
削片 頁岩



28 63Z-38,703
削片 頁岩



29 63Z-57,484
削片 黒色頁岩



30 63Z-67,331
削片 頁岩



31-1 63Z-28,64 削片

31-1



31-3

31-2

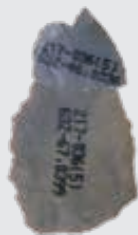


31-2 63Z-48,373 削片

31 (1~3)
ガラス質黒色安山岩
接合資料05215



31-3 63Z-48,172 石核



32 (a・b)
頁岩
接合資料05214

32a 63Z-67,399 搔器
32b 63Z-46, 36 搔器



33-1

33-3

33 (1~3)
頁岩
接合資料05009



33-1 63Z-65,13 削片

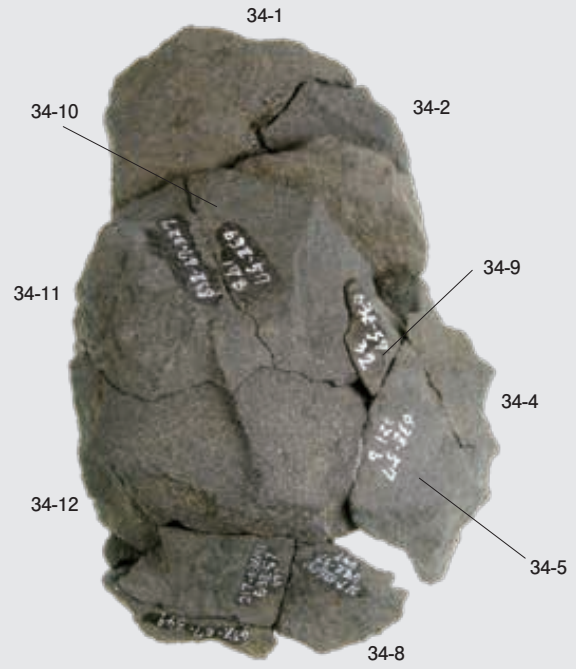
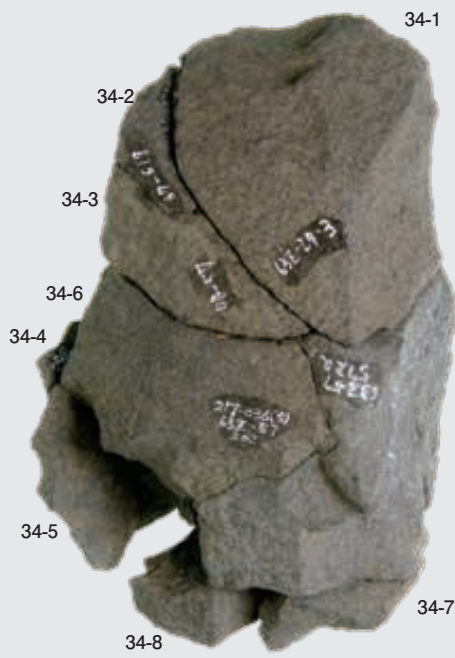


33-2 63Z-57,473 削片



33-3 63Z-67,400 削片

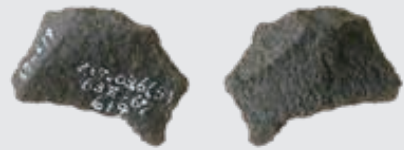
63-Z-B ブロック出土石器 (4)



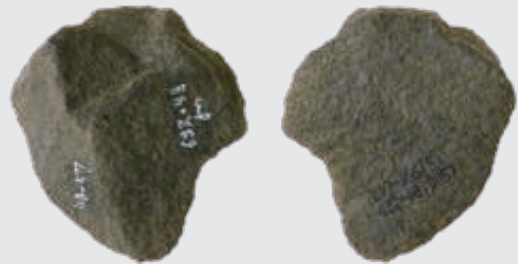
34 (1~12)
ホルンフェルス
接合資料05004



34-1 63Z-29,3 剥片



34-2 63Z-67,619 剥片



34-3 63Z-48,57 剥片



34-4 63Z-67,382 剥片

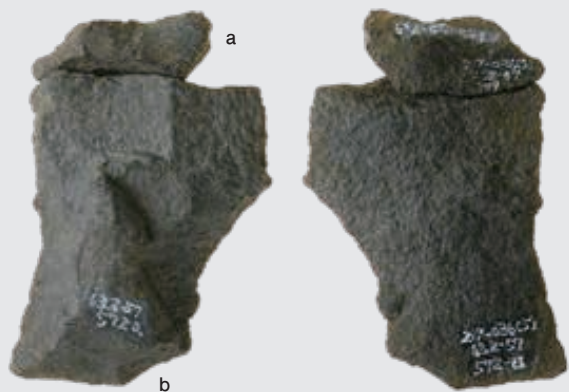


34-5 63Z-57,421b 剥片



34-6 63Z-57,302 剥片

63-Z-Bブロック出土石器(5)



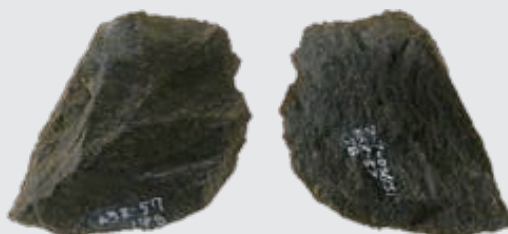
34-7a 63Z-57,349 剥片
34-7b 63Z-57,572a 剥片



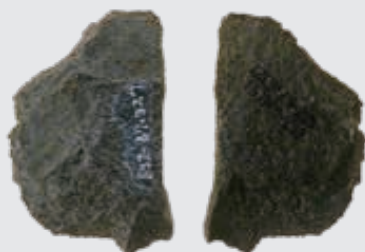
34-8a 63Z-57,397 剥片
34-8b 63Z-57,447 剥片



34-9 63Z-57,32 剥片



34-10 63Z-57,178 剥片

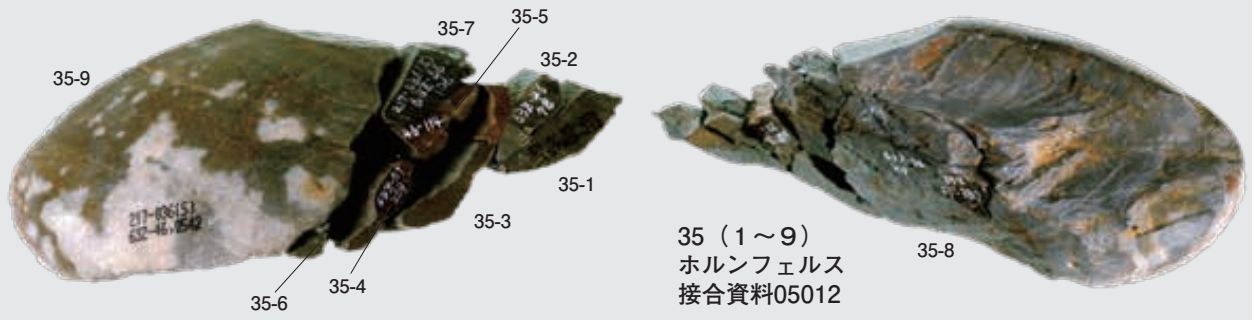


34-11 63Z-67,327 剥片



34-12 63Z-57,493 石核

63-Z-B ブロック出土石器(6)



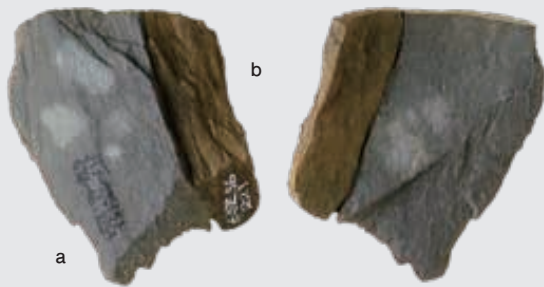
35 (1~9)
ホルンフェルス
接合資料05012



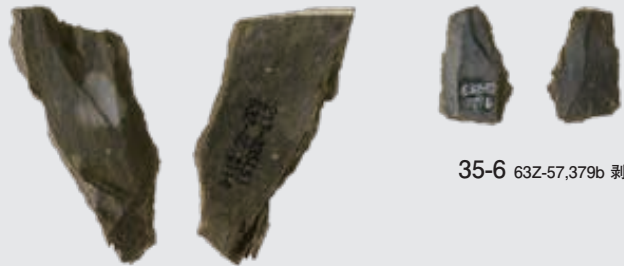
35-1 63Z-56,163 剥片

35-2 63Z-46,78 剥片

35-4 63Z-57,269 剥片



35-3a 63Z-46,259 剥片
35-3b 63Z-56,221 剥片



35-5 63Z-46,114 剥片

35-6 63Z-57,379b 剥片



35-7a 63Z-66,106 剥片
35-7b 63Z-57,228 剥片



35-8a 63Z-57,380 剥片
35-8b 63Z-56,228a 剥片
35-8c 63Z-56,359 剥片



35-9 63Z-46,542 石核

63-Z-Bブロック出土石器(7)



63-Z-B ブロック出土石器 (8)

38-2



38-1



38 (1・2)
凝灰岩
接合資料05208



38-1



38-1 63Z-38,197 剥片



38-2 63Z-38,275 剥片

39-1



39-2



39-3

39 (1~3)
砂岩
接合資料05210



39-1 63Z-47,59 剥片



39-2 63Z-48,309 剥片



39-3 63Z-77,4 剥片

63-Z-Bブロック出土石器(9)



40 63Z-46,437
二次加工のある剥片 頁岩



41 63Z-38,655
二次加工のある剥片 ホルンフェルス



42 63Z-38,132
二次加工のある剥片 ホルンフェルス



43 63Z-48,510
剥片 頁岩



44 63Z-76,1
剥片 頁岩



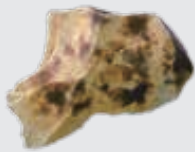
45 63Z-67,303
剥片 頁岩



46 63Z-47,166
剥片 頁岩



47 63Z-56,283
剥片 頁岩



48 63Z-38,118
剥片 頁岩



49 63Z-46,32
石核 頁岩



50 63Z-57,564
石核 頁岩



51 63Z-66,17
石核 トロトロ石



52 63Z-38,289
石核 ホルンフェルス

53-1

53-2a



53-2f

53-2e

53-2d

53 (1~5)
ホルンフェルス
接合資料05001

* 53-2b・2cは内側

53-1 63Z-46,444 剥片
53-2a 63Z-56,331 剥片
53-2b 63Z-58, 4 剥片
53-2c 63Z-58, 2 剥片
53-2d 63Z-58, 3 剥片
53-2e 63Z-48, 73 剥片
53-2f 63Z-59, 5 剥片

54-2



54-3

54 (1~3)
黒色頁岩
接合資料05011

* 54-1は裏面側

54-1 63Z-46,166 剥片
54-2 63Z-46,327 剥片
54-3 63Z-46,205 石核

55-1



55-2

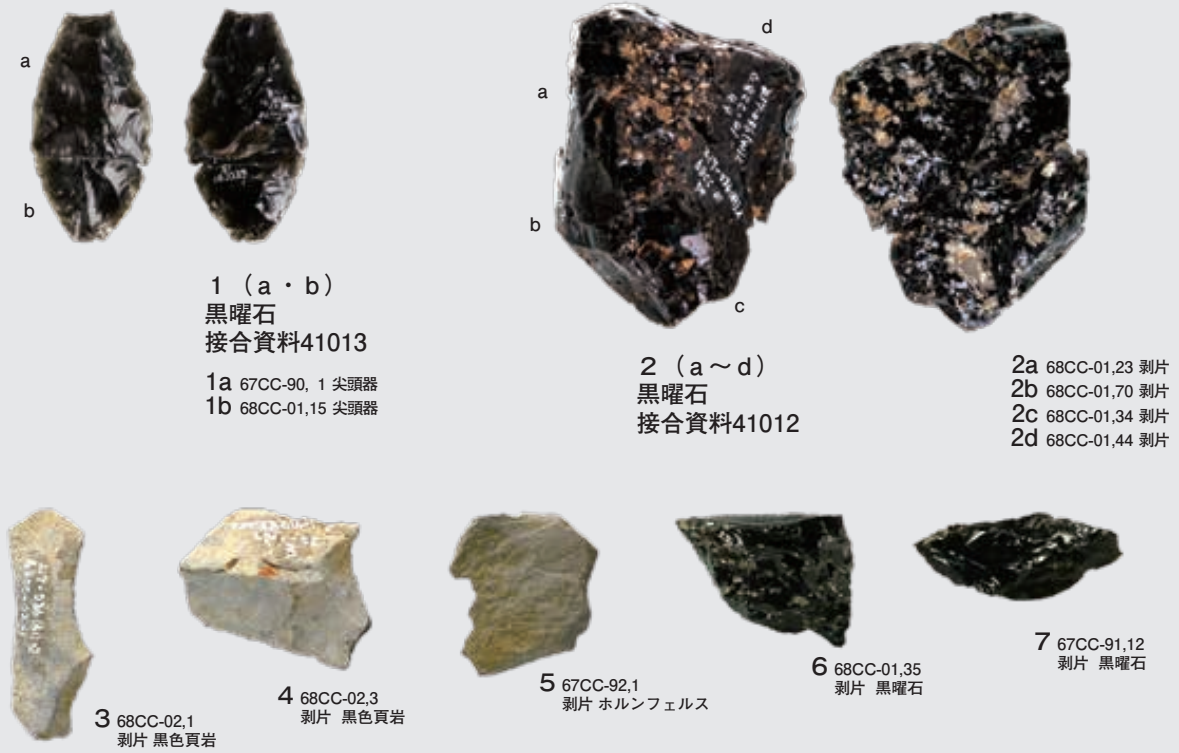
55 (1・2)
トロトロ石
接合資料05090

55-1 63Z-67,155 剥片
55-2 63Z-67,193 剥片

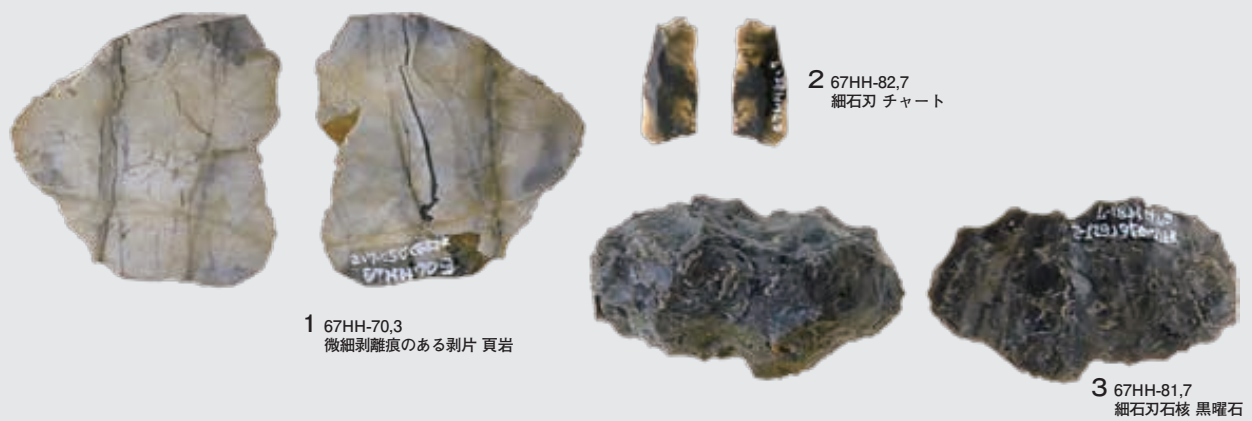
67-Z-C ブロック出土石器



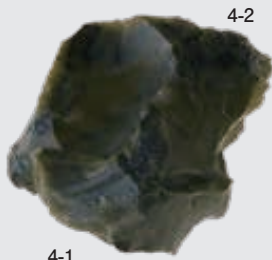
67-BB-D ブロック出土石器



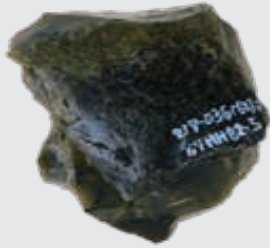
67-HH-A ブロック出土石器 (1)



67-HH-A ブロック出土石器(2)

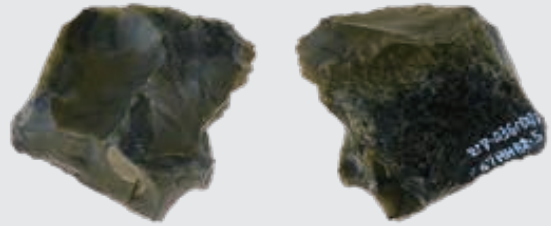


4-2



4-1 67HH-81, 5 剥片

4 (1・2)
チャート
接合資料62001



4-2 67HH-82, 5 石核



5 67HH-70.1
石核 黒色頁岩



6 67HH-71.1
剥片 チャート



7 67HH-81.2
剥片 頁岩



8 67HH-70.4
剥片 頁岩



9 67HH-70.5
剥片 ホルンフェルス



10 67HH-82.3
剥片 ホルンフェルス

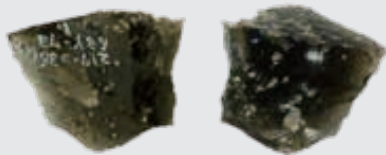
67-HH-B ブロック出土石器



1 67HH-27.1
ナイフ形石器 頁岩

2 67HH-29.3
剥片 頁岩

63-Y-A ブロック出土石器



1 63Y-73.1
剥片 黒曜石

64-V-B ブロック出土石器 (1)



1 64W-91.1
石核 チャート

2 64V-89.1
石核 玉髄



3 64W-91.5
敲石 チャート

図版54 時期不明出土遺物(4)、単独ブロック

64-V-B ブロック出土石器 (2)



4 64V-89,2
剥片 頁岩



5 64V-89,4
剥片 玉髄



6 64W-91,7
剥片 頁岩



7 64V-89,5
剥片 頁岩

64-V-A ブロック出土石器



1 64V-17,5
剥片 頁岩



2 64V-17,3
剥片 ホルンフェルス

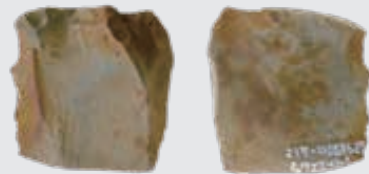


3 64V-17,6
剥片 ガラス質黒色安山岩

単独ブロック出土石器



1 63BB-26,1
台形様石器 黒曜石



2 67II-11,1
二次加工のある剥片 頁岩

報告書抄録

ふりがな	かしわほくぶちゅうおうちくまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ 10							
書名	柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書10							
副書名	柏市翁原遺跡(西側旧石器時代)							
席次	10							
シリーズ名	千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第53集							
編著者名	田島 新							
編集機関	千葉県教育委員会							
所在地	〒260-8662 千葉県千葉市中央区市場町1-1 TEL043-223-4129							
発行年月日	西暦2024年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おきなほらいせき 翁原遺跡	かしわしとよふたあざ 柏市十余二字 おきなほらいせき 翁原348-50	12217	036	35度 53分 17秒	139度 57分 12秒	20030217~ 20221118	223,524.8㎡	土地区画整理
				世界測地系				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
翁原遺跡 (西側旧石器時代)	包蔵地	旧石器時代	遺物集中地点	44か所	尖頭器、角錐状石器、ナイフ形石器、台形様石器、彫器、搔器、楔型石器、二次加工のある剥片、微細剥離痕のある剥片、削片、細石刃、細石刃核、剥片、碎片、石核、石斧、敲石、台石、礫	AT降灰前の石刃生産を示す石器群、AT降灰後の尖頭器等の石器群が出土した。		
要約	<p>本遺跡は、地金堀及び大堀川とその支流により解析された標高17m～22mの台地上にある。Ⅹ層～Ⅲ層で遺物集中地点が44か所検出され、旧石器時代の6枚の文化層などを確認した。第2文化層(Ⅸ層)から、信州産黒曜石を用いた石刃生産を示す良好な接合資料や第5文化層(Ⅲ層上部)から、4,000点を越す大規模な礫群を伴う有樋尖頭器などの石器群が出土した。</p>							

千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第53集

柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書10

— 柏市翁原遺跡（西側旧石器時代） —

令和6年3月19日発行

編集・発行

千葉県教育委員会

千葉県中央区市場町1-1

印刷

株式会社 弘文社

市川市市川南2-7-2
